千葉東南部ニュータウン 20

－ 千葉市有吉北貝塚2（古墳時代以降）－

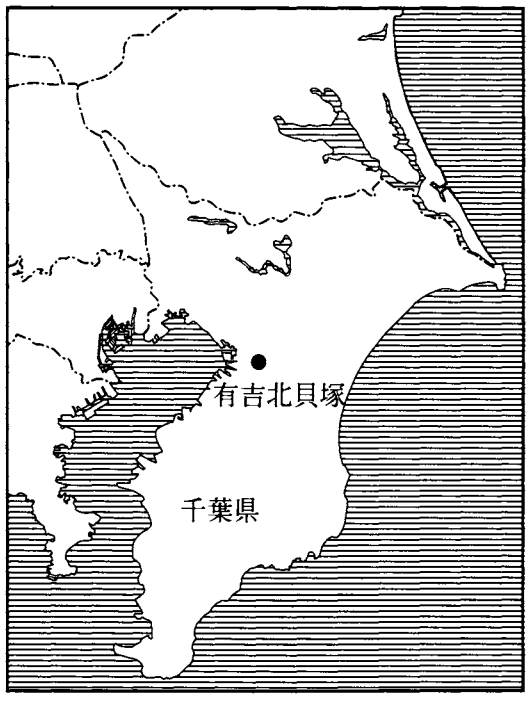
平成10年3月

住宅・都市整備公団

財団法人　千葉県文化財センター

千葉東南部ニュータウン　20

－千葉市有吉北貝塚２（古墳時代以降）－



序　文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第325集として、住宅・都市整備公団千葉地域支社（旧首都圏都市開発本部）の千葉市東南部土地区画整理事業に伴って実施した千葉市有吉北貝塚（古墳時代以降）の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、古墳時代から奈良・平安時代にかけて、また中・近世の遺構や遺物が発見され、この地域の古代及び中・近世の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護と理解のための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成10年3月31日

財団法人千葉県文化財センター

理事長　中村　好成

凡　例

1　本書は、住宅・都市整備公団千葉地域支社（旧首都圏都市開発本部）による千葉東南部土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書に所録した遺跡は、千葉県千葉市緑区有吉町730ほかに所在する有吉北貝塚（遺跡コード201-044）である。なお、報告書刊行に当たっては、遺構・遺物ともに膨大な量に及んだため、旧石器・縄文時代（有吉北貝塚1）及び、古墳時代以降（有吉北貝塚2）に時代区分をし、報告書を刊行することとした。本書は、有吉北貝塚2である。

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は、住宅・都市整備公団千葉地域支社の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。

4　発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は本文中に記載した。

5　本書の執筆は、研究員　岸本雅人が行った。

6　炭化種子同定に当たっては、パリノ・サーヴェイ株式会社に依頼し、その成果を付章に掲載した。

7　発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化課、住宅都市整備公団、千葉市教育委員会の御指導、御協力を得た。

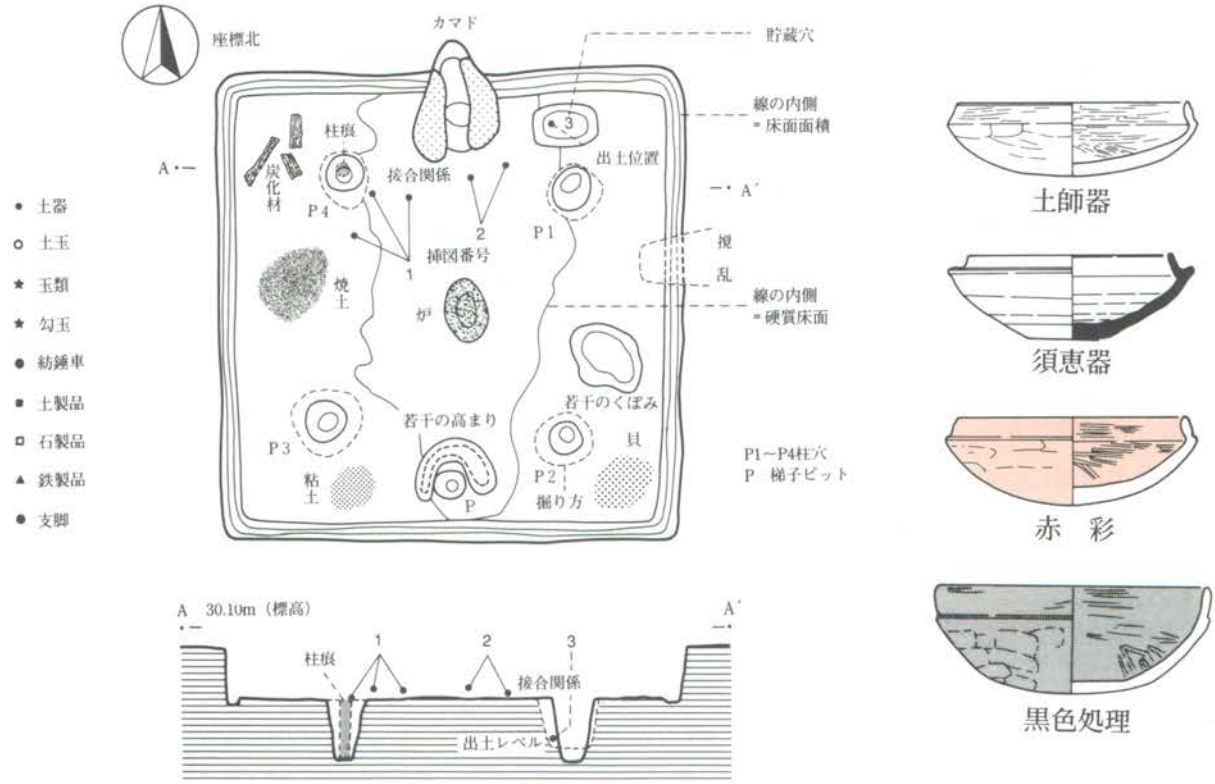
8　本書で使用した地形図は、下記のとおりである。

第3図　国土地理院発行　1/25,000地形図「蘇我」（N1-54-19-15-2）

9　周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。

10　本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。

11　挿図に使用したスクリーントーン及び記号の用例は、次のとおりである。



本文目次

第1章　はじめに …… 1
　第1節　調査の概要 …… 1
　　1　調査の経緯と経過 …… 1
　　2　調査の方法 …… 3
　　3　整理作業の方法 …… 4
　第2節　遺跡の位置と環境 …… 4
　　1　遺跡の位置 …… 4
　　2　遺跡の環境 …… 4
第2章　古墳時代から奈良・平安時代の遺構と遺物 …… 9
　第1節　検出遺構の概要 …… 9
　　1　竪穴住居跡 …… 11
　　2　小鍛冶遺構 …… 44
　　3　その他の遺構 …… 62
　第2節　出土遺物の概要 …… 68
　　1　竪穴住居跡遺物出土状況 …… 68
　　2　遺構内出土土器 …… 113
　　3　遺構外出土土器 …… 145
　　4　その他の遺物 …… 178
第3章　中・近世の遺構と遺物 …… 210
　第1節　検出遺構の概要 …… 210
　　1　土壙墓 …… 213
　　2　火葬墓 …… 214
　　3　地下式壙 …… 219
　　4　その他の遺構 …… 220
　第2節　出土遺物の概要 …… 228
　　1　陶器・磁器・かわらけ …… 228
　　2　金属製品 …… 228
第4章　まとめ …… 236
　第1節　古墳時代から奈良・平安時代 …… 236
　　1　検出遺構について …… 236
　　2　出土土器について …… 242
　第2節　中世以降 …… 247
付章 …… 251
　炭化種子同定 …… 251
　報告書抄録 …… 巻末

挿図目次

第1図　年度別調査区域図 …… 1
第2図　グリッド配置図 …… 3
第3図　有吉北貝塚の位置と周辺の遺跡…… 5
第4図　有吉北貝塚遺構配置図（全景） …… 9
第5図　有吉北貝塚遺構配置図
（古墳時代以降） …… 10
第6図　古墳時代～奈良・平安時代
遺構配置図 …… 12
第7図　竪穴住居跡ブロック別全体図 …… 13
第8図　竪穴住居跡ブロック別図1 …… 14
第9図　竪穴住居跡ブロック別図2 …… 15
第10図　竪穴住居跡ブロック別図3 …… 16
第11図　竪穴住居跡ブロック別図4 …… 17
第12図　竪穴住居跡ブロック別図5 …… 18
第13図　竪穴住居跡ブロック別図6 …… 19
第14図　竪穴住居跡ブロック別図7 …… 20
第15図　竪穴住居跡ブロック別図8 …… 21
第16図　竪穴住居跡ブロック別図9 …… 22
第17図　竪穴住居跡ブロック別図10 …… 23
第18図　竪穴住居跡ブロック別図11 …… 24
第19図　竪穴住居跡ブロック別図12 …… 25
第20図　竪穴住居跡ブロック別図13 …… 26
第21図　竪穴住居跡ブロック別図14 …… 27
第22図　竪穴住居跡ブロック別図15 …… 28
第23図　竪穴住居跡ブロック別図16 …… 29
第24図　竪穴住居跡ブロック別図17 …… 30
第25図　竪穴住居跡ブロック別図18 …… 31
第26図　竪穴住居跡ブロック別図19 …… 32
第27図　竪穴住居跡ブロック別図20 …… 33
第28図　竪穴住居跡ブロック別図21 …… 34
第29図　ＳＫ609　スラグ等分布状況図 …… 44
第30図　ＳＤ006・007
スラグ等分布状況図 …… 45
第31図　ＳＫ609　土層サンプル取り上げ
メッシュ図 …… 46
第32図　ＳＫ609　炉内遺物出土状況図 …… 47
第33図　ＳＸ013　小鍛冶遺構実測図 …… 55
第34図　ＳＸ013　スラグ等分布状況図 …… 56
第35図　ＳＸ013　炉実測図 …… 57
第36図　竪穴住居跡及びグリッド出土
スラグ等分布状況図 …… 57
第37図　ＳＤ003　溝状遺構及び出土
遺物実測図 …… 63
第38図　ＳＸ010　屋外炉跡実測図 …… 64
第39図　ＳＸ011　屋外炉跡実測図 …… 64
第40図　ＳＫ866　屋外炉跡実測図 …… 64
第41図　ＳＫ644　土坑実測図 …… 65
第42図　ＳＫ870　土坑実測図 …… 65
第43図　ＳＫ871　竪穴遺構実測図 …… 65
第44図　粘土採掘坑及びＳＢ219
竪穴住居跡実測図 …… 66
第45図　ＳＢ008　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 70
第46図　ＳＢ016　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 71
第47図　ＳＢ020　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 73
第48図　ＳＢ023Ａ・023Ｂ・023Ｃ・023Ｄ
竪穴住居跡遺物出土状況図① …… 74
第49図　ＳＢ023Ａ・023Ｂ・023Ｃ・023Ｄ
竪穴住居跡遺物出土状況図② …… 75
第50図　ＳＢ024　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 77
第51図　ＳＢ027　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 78
第52図　ＳＢ029　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 79

第53図　ＳＢ030　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 81
第54図　ＳＢ032　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 82
第55図　ＳＢ033　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 84
第56図　骨臓器出土状況図 …… 84
第57図　ＳＢ039　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 85
第58図　ＳＢ046　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 86
第59図　ＳＢ050　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 87
第60図　ＳＢ102Ａ・102Ｂ　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 89
第61図　ＳＢ105　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 90
第62図　ＳＢ108　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 91
第63図　ＳＢ148　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 93
第64図　ＳＢ150　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 94
第65図　ＳＢ154　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 96
第66図　ＳＢ163　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 97
第67図　ＳＢ168　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 98
第68図　ＳＢ169　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 99
第69図　ＳＢ171　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 101
第70図　ＳＢ188・189・198・206
竪穴住居跡遺物出土状況図 …… 103
第71図　ＳＢ217　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 104
第72図　ＳＢ223　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 105
第73図　ＳＢ229　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 107
第74図　ＳＢ230　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 109
第75図　ＳＢ232　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 110
第76図　ＳＢ237　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 111
第77図　ＳＢ242　竪穴住居跡
遺物出土状況図 …… 112
第78図　ＳＢ003　土器実測図 …… 113
第79図　ＳＢ005　土器実測図 …… 113
第80図　ＳＢ006　土器実測図 …… 113
第81図　ＳＢ007　土器実測図 …… 114
第82図　ＳＢ008　土器実測図① …… 114
第83図　ＳＢ008　土器実測図② …… 115
第84図　ＳＢ016　土器実測図① …… 115
第85図　ＳＢ016　土器実測図② …… 116
第86図　ＳＢ020　土器実測図 …… 116
第87図　ＳＢ021Ｂ　土器実測図 …… 116
第88図　ＳＢ022　土器実測図 …… 116
第89図　ＳＢ023Ａ　土器実測図 …… 117
第90図　ＳＢ023Ｂ　土器実測図 …… 117
第91図　ＳＢ023Ｃ　土器実測図 …… 117
第92図　ＳＢ023Ｄ　土器実測図 …… 118
第93図　ＳＢ024　土器実測図 …… 118
第94図　ＳＢ025　土器実測図 …… 118
第95図　ＳＢ026　土器実測図 …… 118
第96図　ＳＢ027　土器実測図 …… 118
第97図　ＳＢ028　土器実測図 …… 119
第98図　ＳＢ029　土器実測図 …… 119
第99図　ＳＢ030　土器実測図① …… 119
第100図　ＳＢ030　土器実測図② …… 120
第101図　ＳＢ031　土器実測図 …… 121
第102図　ＳＢ032　土器実測図 …… 121

第103図　ＳＢ033　土器実測図 …… 121
第104図　ＳＢ034　土器実測図 …… 122
第105図　ＳＢ035　土器実測図 …… 122
第106図　ＳＢ037　土器実測図 …… 122
第107図　ＳＢ038　土器実測図 …… 122
第108図　ＳＢ039　土器実測図① …… 123
第109図　ＳＢ039　土器実測図② …… 124
第110図　ＳＢ040　土器実測図 …… 124
第111図　ＳＢ042　土器実測図 …… 124
第112図　ＳＢ043　土器実測図 …… 124
第113図　ＳＢ044　土器実測図① …… 124
第114図　ＳＢ044　土器実測図② …… 125
第115図　ＳＢ045　土器実測図 …… 125
第116図　ＳＢ046　土器実測図① …… 125
第117図　ＳＢ046　土器実測図② …… 126
第118図　ＳＢ050　土器実測図① …… 126
第119図　ＳＢ050　土器実測図② …… 127
第120図　ＳＢ050　土器実測図③ …… 128
第121図　ＳＢ075　土器実測図 …… 128
第122図　ＳＢ101　土器実測図 …… 129
第123図　ＳＢ102Ａ　土器実測図 …… 129
第124図　ＳＢ103　土器実測図 …… 129
第125図　ＳＢ104　土器実測図 …… 129
第126図　ＳＢ105　土器実測図 …… 129
第127図　ＳＢ106　土器実測図 …… 130
第128図　ＳＢ108　土器実測図 …… 130
第129図　ＳＢ110　土器実測図 …… 130
第130図　ＳＢ111　土器実測図 …… 130
第131図　ＳＢ129　土器実測図 …… 130
第132図　ＳＢ134　土器実測図 …… 131
第133図　ＳＢ138　土器実測図 …… 131
第134図　ＳＢ143　土器実測図 …… 131
第135図　ＳＢ144　土器実測図 …… 131
第136図　ＳＢ146　土器実測図 …… 131
第137図　ＳＢ148　土器実測図① …… 131
第138図　ＳＢ148　土器実測図② …… 132
第139図　ＳＢ150　土器実測図 …… 132
第140図　ＳＢ151　土器実測図 …… 132
第141図　ＳＢ152　土器実測図 …… 133
第142図　ＳＢ153　土器実測図 …… 133
第143図　ＳＢ154　土器実測図 …… 133
第144図　ＳＢ155　土器実測図 …… 133
第145図　ＳＢ157　土器実測図 …… 133
第146図　ＳＢ158　土器実測図 …… 133
第147図　ＳＢ159　土器実測図① …… 133
第148図　ＳＢ159　土器実測図② …… 134
第149図　ＳＢ161　土器実測図 …… 134
第150図　ＳＢ162　土器実測図 …… 134
第151図　ＳＢ163　土器実測図① …… 134
第152図　ＳＢ163　土器実測図② …… 135
第153図　ＳＢ164　土器実測図 …… 135
第154図　ＳＢ165　土器実測図 …… 135
第155図　ＳＢ166　土器実測図 …… 135
第156図　ＳＢ168　土器実測図 …… 136
第157図　ＳＢ169　土器実測図 …… 136
第158図　ＳＢ170　土器実測図 …… 137
第159図　ＳＢ171　土器実測図① …… 137
第160図　ＳＢ171　土器実測図② …… 138
第161図　ＳＢ183　土器実測図 …… 138
第162図　ＳＢ188　土器実測図 …… 138
第163図　ＳＢ189　土器実測図 …… 138
第164図　ＳＢ198　土器実測図 …… 138
第165図　ＳＢ201　土器実測図 …… 139
第166図　ＳＢ202　土器実測図 …… 139
第167図　ＳＢ206　土器実測図 …… 139
第168図　ＳＢ214　土器実測図 …… 139
第169図　ＳＢ215　土器実測図 …… 139
第170図　ＳＢ217　土器実測図① …… 139
第171図　ＳＢ217　土器実測図② …… 140
第172図　ＳＢ218　土器実測図 …… 140
第173図　ＳＢ219　土器実測図 …… 140
第174図　ＳＢ220　土器実測図 …… 141
第175図　ＳＢ221　土器実測図 …… 141
第176図　ＳＢ222　土器実測図 …… 141

第177図 ＳＢ223 土器実測図 …… 142
第178図 ＳＢ224 土器実測図 …… 142
第179図 ＳＢ227 土器実測図 …… 142
第180図 ＳＢ228 土器実測図 …… 143
第181図 ＳＢ229 土器実測図 …… 143
第182図 ＳＢ230 土器実測図 …… 143
第183図 ＳＢ232 土器実測図 …… 144
第184図 ＳＢ234 土器実測図 …… 144
第185図 ＳＢ235 土器実測図 …… 144
第186図 ＳＢ237 土器実測図① …… 144
第187図 ＳＢ237 土器実測図② …… 145
第188図 ＳＢ240 土器実測図 …… 145
第189図 ＳＢ242 土器実測図 …… 145
第190図 ＳＸ013 土器実測図 …… 145
第191図 ＳＤ003 土器実測図 …… 145
第192図 遺構外出土土器実測図① …… 145
第193図 遺構外出土土器実測図② …… 146
第194図 遺構外出土土器実測図③ …… 147
第195図 手捏土器実測図 …… 181
第196図 羽口実測図 …… 183
第197図 土製品実測図 …… 184
第198図 紡錘車実測図 …… 185
第199図 玉類実測図 …… 186
第200図 勾玉実測図 …… 186
第201図 土玉実測図① …… 188
第202図 土玉実測図② …… 189
第203図 土玉実測図③ …… 190
第204図 土玉実測図④ …… 191
第205図 支脚実測図① …… 197
第206図 支脚実測図② …… 198
第207図 支脚実測図③ …… 199
第208図 刀子実測図 …… 201
第209図 鎌実測図 …… 201
第210図 手鎌実測図 …… 201
第211図 小札実測図 …… 201
第212図 鉄鏃実測図 …… 203
第213図 耳環実測図 …… 203
第214図 砥石実測図① …… 205
第215図 砥石実測図② …… 206
第216図 砥石実測図③ …… 207
第217図 その他の遺物実測図 …… 209
第218図 中・近世遺構配置図 …… 211
第219図 中世土壙群・ピット群 …… 212
第220図 ＳＫ181 土壙墓遺物出土状況及び遺物実測図 …… 215
第221図 ＳＫ604 火葬墓実測図 …… 216
第222図 ＳＫ613 火葬墓実測図 …… 216
第223図 ＳＫ622 火葬墓実測図 …… 217
第224図 ＳＫ619 地下式壙実測図 …… 217
第225図 ＳＫ621 地下式壙実測図 …… 218
第226図 ＳＫ638 地下式壙実測図 …… 218
第227図 ＳＩ001 掘立柱建物跡実測図 …… 221
第228図 ＳＩ002 掘立柱建物跡実測図 …… 221
第229図 ＳＩ003 柵列遺構実測図 …… 222
第230図 ＳＫ126 土壙実測図 …… 222
第231図 ＳＫ597 土壙実測図 …… 222
第232図 ＳＫ598 土壙実測図 …… 222
第233図 ＳＫ614・615・616 土壙実測図 …… 222
第234図 ＳＫ618 土壙実測図 …… 223
第235図 ＳＫ620 土壙実測図 …… 223
第236図 ＳＫ623 土壙実測図 …… 223
第237図 ＳＫ624 土壙実測図 …… 223
第238図 ＳＫ625 土壙実測図 …… 224
第239図 ＳＫ627 土壙実測図 …… 224
第240図 ＳＫ628 土壙実測図 …… 224
第241図 ＳＫ629・630 土壙遺物出土状況実測図 …… 224
第242図 ＳＫ631 土壙実測図 …… 224
第243図 ＳＫ632 土壙実測図 …… 225
第244図 ＳＫ633 土壙実測図 …… 225
第245図 ＳＫ634・635 土壙実測図 …… 225
第246図 ＳＫ636 土壙実測図 …… 225
第247図 ＳＫ637 土壙実測図 …… 225
第248図 ＳＫ650 土壙実測図 …… 225

第249図 ＳＫ649・652・665・820
826・839・843・854・868
近世陥穴状遺構実測図 …… 227
第250図 ＳＫ181 土壙墓出土遺物
実測図 …… 230
第251図 ＳＫ621 地下式壙出土
遺物実測図 …… 230
第252図 ＳＤ010 溝状遺構出土
遺物実測図① …… 230
第253図 ＳＤ010 溝状遺構出土
遺物実測図② …… 230
第254図 ＳＤ010 溝状遺構出土
遺物実測図③ …… 231
第255図 ＳＫ640 竪穴遺構出土遺物
実測図 …… 231
第256図 ＳＸ007 出土遺物実測図 …… 231
第257図 ＳＸ009 出土遺物実測図 …… 231
第258図 遺構外出土遺物実測図① …… 231
第259図 遺構外出土遺物実測図② …… 231
第260図 銅製品実測図 …… 231
第261図 鉄製品実測図 …… 233
第262図 銭貨拓影図 …… 234
第263図 竪穴住居跡時期区分図 …… 236
第264図 6世紀前葉竪穴住居跡
主軸方位図 …… 237
第265図 6世紀中葉竪穴住居跡
主軸方位図 …… 237
第266図 6世紀後葉竪穴住居跡
主軸方位図 …… 238
第267図 7世紀前葉竪穴住居跡
主軸方位図 …… 238
第268図 7世紀中葉竪穴住居跡
主軸方位図 …… 239
第269図 7世紀後葉竪穴住居跡
主軸方位図 …… 240
第270図 8世紀代竪穴住居跡
主軸方位図 …… 240
第271図 竪穴住居跡時期別軒数
及び床面積図 …… 241
第272図 掲載実測個体数に基づく
土器組成図 …… 242
第273図 時期区分による器種構成図 …… 242
第274図 体部外面下位に稜を有する
土師器杯実測図 …… 244
第275図 中世土壙群・ピット群配置図 …… 248

表目次

第1表　周辺遺跡一覧表 …… 6
第2表　竪穴住居跡一覧表 ……35
第3表　ＳＫ609小鍛冶遺構出土
スラグ等計測表 ……48
第4表　ＳＤ006・ＳＤ007溝状遺構出土
スラグ等計測表 ……50
第5表　ＳＫ609鍛造剥片等分類表 ……52
第6表　ＳＸ013小鍛冶遺構出土
スラグ等計測表 ……58
第7表　住居跡出土スラグ等計測表 ……60
第8表　グリッド出土スラグ等計測表 ……60
第9表　古墳時代～奈良・平安時代の
その他の遺構一覧表 ……67
第10表　出土土器内訳表 ……68
第11表　遺構内出土土器計測表 ……148
第12表　遺構外出土土器計測表 ……176
第13表　手捏土器計測表 ……182
第14表　羽口計測表 ……183
第15表　土製品計測表 ……184
第16表　紡錘車計測表 ……185
第17表　玉類計測表 ……187
第18表　勾玉計測表 ……187
第19表　土玉計測表 ……192
第20表　支脚計測表 ……200
第21表　刀子計測表 ……202
第22表　鎌計測表 ……202
第23表　手鎌計測表 ……202
第24表　小札計測表 ……202
第25表　鉄鏃計測表 ……204
第26表　耳環計測表 ……204
第27表　砥石計測表 ……208
第28表　その他の遺物計測表 ……209
第29表　墓壙一覧表 ……219
第30表　その他の遺構一覧表 ……226
第31表　近世陥穴状遺構計測表 ……227
第32表　中世遺物計測表 ……232
第33表　銅製品計測表 ……233
第34表　鉄製品計測表 ……233
第35表　銭貨計測表 ……235

図版目次

図版1　周辺地形航空写真

図版2　1．有吉北貝塚空撮（1）昭和60年
　　2．有吉北貝塚空撮（2）昭和61年

図版3　1．ＳＢ002完掘（南東→）
　　2．ＳＢ003完掘（東→）
　　3．ＳＢ005遺物出土状況（南東→）

図版4　1．ＳＢ006完掘（南東→）
　　2．ＳＢ007完掘（南東→）
　　3．ＳＢ008遺物出土状況（東→）

図版5　1．ＳＢ008完掘（東→）
　　2．ＳＢ016遺物出土状況（南東→）
　　3．ＳＢ016完掘（南東→）

図版6　1．ＳＢ020遺物出土状況（南東→）
　　2．ＳＢ020完掘（南東→）
　　3．ＳＢ022完掘（南→）

図版7　1．ＳＢ023Ａ遺物出土状況（南東→）
　　2．ＳＢ023Ａ完掘（南東→）
　　3．ＳＢ023Ｂ遺物出土状況（南東→）

図版8　1．ＳＢ023Ｂ完掘（南東→）
　　2．ＳＢ023Ｃ遺物出土状況（東→）
　　3．ＳＢ023Ｃ完掘（南東→）

図版9　1．ＳＢ023Ｄ完掘（南→）
　　2．ＳＢ024完掘（南→）
　　3．ＳＢ025完掘（南東→）

図版10　1．ＳＢ026完掘（南東→）
　　2．ＳＢ027遺物出土状況（南→）
　　3．ＳＢ027完掘（南→）

図版11　1．ＳＢ028完掘（南西→）
　　2．ＳＢ029遺物出土状況（1）
　　（北西→）
　　3．ＳＢ029遺物出土状況（2）
　　（北西→）

図版12　1．ＳＢ030遺物出土状況（北→）
　　2．ＳＢ030完掘（南→）
　　3．ＳＢ031・032完掘（南東→）

図版13　1．ＳＢ033覆土内骨蔵器出土状況（東→）
　　2．ＳＢ033完掘（南東→）
　　3．ＳＢ034完掘（南東→）

図版14　1．ＳＢ035完掘（南東→）
　　2．ＳＢ036完掘（南東→）
　　3．ＳＢ037完掘（東→）

図版15　1．ＳＢ038完掘（南東→）
　　2．ＳＢ039遺物出土状況（南→）
　　3．ＳＢ039完掘（南→）

図版16　1．ＳＢ040完掘（南東→）
　　2．ＳＢ041完掘（南→）
　　3．ＳＢ042完掘（南東→）

図版17　1．ＳＢ043完掘（南東→）
　　2．ＳＢ044貯蔵穴内遺物出土状況
　　（北西→）
　　3．ＳＢ044完掘（南東→）

図版18　1．ＳＢ045完掘（南西→）
　　2．ＳＢ046遺物出土状況（南東→）
　　3．ＳＢ046完掘（南東→）

図版19　1．ＳＢ050遺物出土状況（南東→）
　　2．ＳＢ050完掘（南東→）
　　3．ＳＢ072完掘（南東→）

図版20　1．ＳＢ075完掘（西→）
　　2．ＳＢ101完掘（南東→）
　　3．ＳＢ102Ａ・102Ｂ完掘（南東→）

図版21　1．ＳＢ103完掘（東→）
　　2．ＳＢ104完掘（南→）
　　3．ＳＢ105遺物出土状況（南東→）

図版22　1．ＳＢ106完掘（南東→）
　　2．ＳＢ108完掘（南東→）
　　3．ＳＢ108遺物出土状況（南東→）

図版23　1．ＳＢ110完掘（南東→）
　　2．ＳＢ111完掘（南東→）

3. ＳＢ129完掘（南東→）
図版24　1. ＳＢ134完掘（北→）
2. ＳＢ138完掘（南→）
3. ＳＢ143完掘（南→）
図版25　1. ＳＢ144完掘（北西→）
2. ＳＢ146完掘（西→）
3. ＳＢ148完掘（南東→）
図版26　1. ＳＢ149完掘（西→）
2. ＳＢ150遺物出土状況（南→）
3. ＳＢ150完掘（南東→）
図版27　1. ＳＢ151完掘（南東→）
2. ＳＢ152完掘（南東→）
3. ＳＢ153完掘（南東→）
図版28　1. ＳＢ154完掘（南東→）
2. ＳＢ155完掘（南東→）
3. ＳＢ157完掘（南東→）
図版29　1. ＳＢ158完掘（南東→）
2. ＳＢ159完掘（南→）
3. ＳＢ160完掘（南東→）
図版30　1. ＳＢ161完掘（南東→）
2. ＳＢ162完掘（南東→）
3. ＳＢ163完掘（南東→）
図版31　1. ＳＢ164完掘（南東→）
2. ＳＢ165完掘（南東→）
図版32　1. ＳＢ166遺物出土状況（南東→）
2. ＳＢ168完掘（南東→）
3. ＳＢ168遺物出土状況（南東→）
図版33　1. ＳＢ169完掘（南東→）
2. ＳＢ170完掘（南東→）
3. ＳＢ171完掘（南東→）
図版34　1. ＳＢ183遺物出土状況（北東→）
2. ＳＢ188完掘（南東→）
3. ＳＢ189完掘（西→）
図版35　1. ＳＢ201完掘（南東→）
2. ＳＢ202完掘（東→）
3. ＳＢ214完掘（南→）
図版36　1. ＳＢ215完掘（南→）
2. ＳＢ217完掘（東→）
3. ＳＢ217遺物出土状況（東→）
図版37　1. ＳＢ218完掘（南東→）
2. ＳＢ219完掘（東→）
粘土採掘坑全景（東→）
3. ＳＢ220遺物出土状況（東→）
図版38　1. ＳＢ220完掘（南→）
2. ＳＢ221遺物出土状況（南→）
3. ＳＢ221完掘（南東→）
図版39　1. ＳＢ222完掘（南西→）
2. ＳＢ223遺物出土状況（東→）
3. ＳＢ224完掘（南東→）
図版40　1. ＳＢ227完掘（南東→）
2. ＳＢ228完掘（南東→）
3. ＳＢ229遺物出土状況（南西→）
図版41　1. ＳＢ229完掘（南東→）
2. ＳＢ230遺物出土状況（北→）
3. ＳＢ230完掘（東→）
図版42　1. ＳＢ232完掘（南東→）
2. ＳＢ233完掘（北東→）
3. ＳＢ234完掘（南東→）
図版43　1. ＳＢ235完掘（南東→）
2. ＳＢ237遺物出土状況（南東→）
3. ＳＢ237完掘（南東→）
図版44　1. ＳＢ240完掘（北西→）
2. ＳＢ242完掘（西→）
3. ＳＫ609遺物出土状況（西→）
図版45　1. ＳＫ609完掘（西→）
2. ＳＫ609炉内羽口出土状況（北→）
3. ＳＸ013完掘（南→）
図版46　1. ＳＸ013炉（南→）
2. ＳＸ010完掘（東→）
3. ＳＸ011完掘（南→）
4. ＳＸ014完掘（南→）
5. ＳＫ870完掘（北→）
6. ＳＫ871完掘（南→）
図版47　1. ＳＫ181土壙墓遺物出土状況

（南東→）
2. ＳＫ604火葬墓人骨検出状況
（東→）
3. ＳＫ613火葬墓人骨検出状況
（南→）
図版48 1. 中世西側整地面（南西→）
2. 中世中央整地面（西→）
3. 中世東側整地面（南西→）
図版49 1. ＳＫ622火葬墓完掘（北→）
2. ＳＫ619地下式壙完掘（北→）
3. ＳＫ621地下式壙完掘（西→）
4. 中世ピット群全景（東→）
5. ＳＩ001掘立柱建物跡完掘（東→）
図版50 1. ＳＩ002掘立柱建物跡完掘（北→）
2. ＳＩ003柵列遺構完掘（北→）
3. ＳＫ614・615完掘（南西→）
4. ＳＫ616完掘（南西→）
5. ＳＫ620完掘（北→）
6. ＳＫ624完掘（北西→）
図版51 1. ＳＫ625完掘（南東→）
2. ＳＫ629・630完掘（北→）
3. ＳＫ633完掘（北→）
4. ＳＫ634・635完掘（東→）
5. ＳＫ636完掘（西→）
6. ＳＫ637完掘（東→）
図版52 1. ＳＫ650完掘（北東→）
2. ＳＸ008完掘（東→）
3. ＳＸ009完掘（北→）
4. ＳＸ012完掘（北→）
5. 近世陥穴状遺構完掘（北西→）
図版53 ＳＢ003～ＳＢ008出土遺物
図版54 ＳＢ008～ＳＢ016出土遺物
図版55 ＳＢ016～ＳＢ020出土遺物
図版56 ＳＢ020～ＳＢ023Ｃ出土遺物
図版57 ＳＢ023Ｄ～ＳＢ029出土遺物
図版58 ＳＢ029～ＳＢ030出土遺物
図版59 ＳＢ030～ＳＢ035出土遺物
図版60 ＳＢ038～ＳＢ040出土遺物
図版61 ＳＢ039～ＳＢ046出土遺物
図版62 ＳＢ046出土遺物
図版63 ＳＢ046～ＳＢ050出土遺物
図版64 ＳＢ050～ＳＢ105出土遺物
図版65 ＳＢ105～ＳＢ146出土遺物
図版66 ＳＢ148～ＳＢ150出土遺物
図版67 ＳＢ150～ＳＢ159出土遺物
図版68 ＳＢ161～ＳＢ171出土遺物
図版69 ＳＢ171～ＳＢ217出土遺物
図版70 ＳＢ217～ＳＢ222出土遺物
図版71 ＳＢ223～ＳＢ230出土遺物
図版72 ＳＢ230～ＳＢ235出土遺物
図版73 ＳＢ234～遺構外出土遺物
図版74 遺構外出土遺物～手捏土器①
図版75 手捏土器②・羽口・その他の遺物①
図版76 その他の遺物②・土製品・紡錘車
図版77 玉類・勾玉
図版78 土玉①
図版79 土玉②
図版80 支脚①
図版81 支脚②・刀子・鎌①
図版82 鎌②・手鎌・小札・耳環
・鉄製品・銅製品①
図版83 鉄鏃
図版84 砥石①
図版85 砥石②・銅製品②
図版86 和鏡・中世出土遺物①
図版87 中世出土遺物②
図版88 古銭

第1章　はじめに

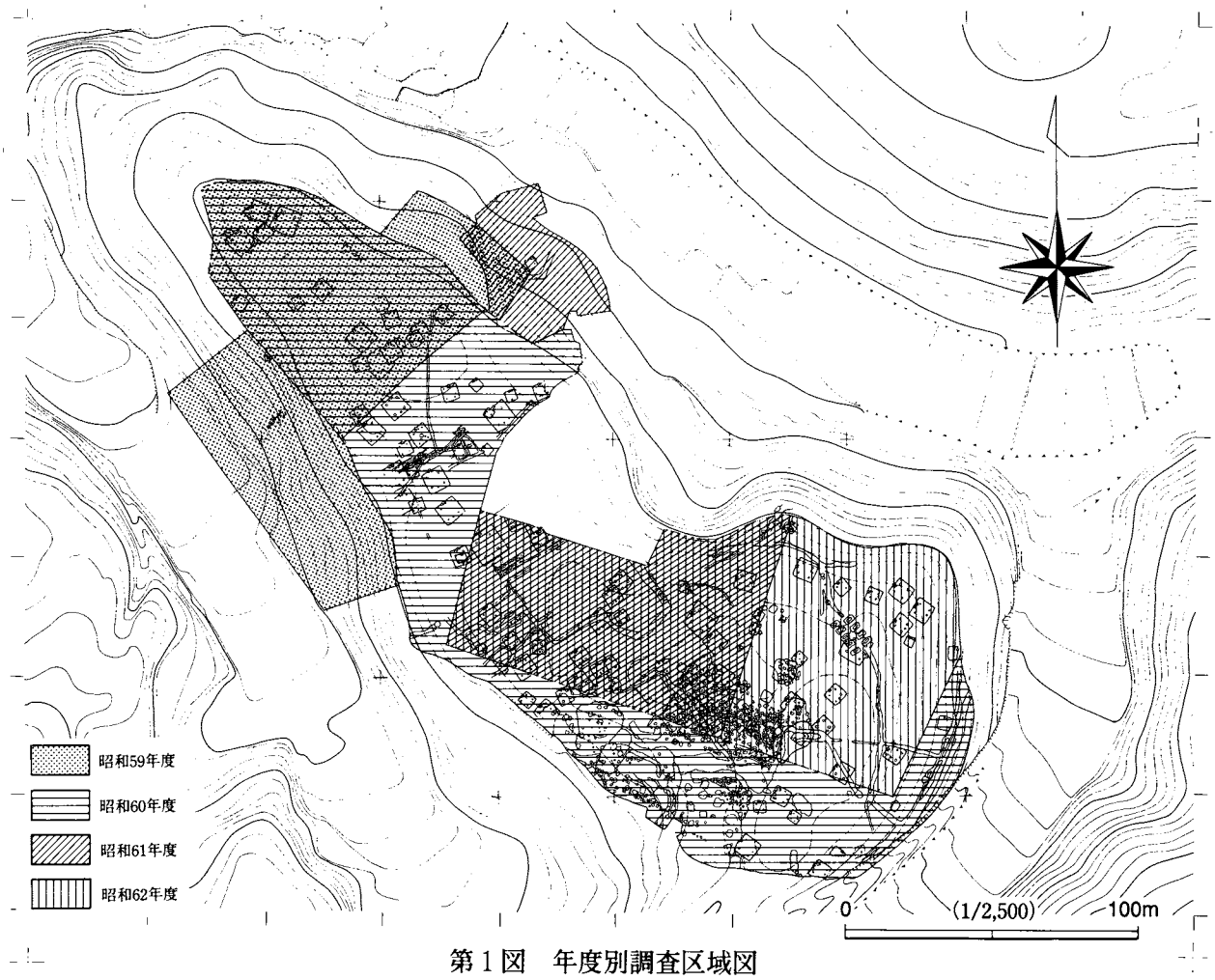
第1節　調査の概要

1　調査の経緯と経過（第１図）

住宅・都市整備公団によって、約600haに及ぶ千葉県東南部地区土地区画整理事業が計画された。このため、千葉県教育委員会では昭和46年度に事業地内の埋蔵文化財の所在について分布調査を実施した。その結果、対象区域内に所在する多数の遺跡が確認された。これらの遺跡の取扱いについては、千葉県教育庁生涯学習部文化課と協議の結果、できるだけ公園、緑地として現状保存に努める一方で、現状保存の困難な部分についてはやむを得ず事前の発掘調査を十分に行い、記録保存の措置を講ずることとなり、当文化財センターが委託を受けた。

有吉北貝塚もこうした経緯のもとで調査された遺跡の一つである。昭和58年7月1日から7月20日まで2,1000㎡の貝層分布範囲確認調査を実施し、平坦部縁辺から斜面に分布する大規模な貝塚2か所と、平坦部及び斜面に点在する小規模な貝層15か所を確認した。この結果を受けて、昭和59年4月1日から昭和62年11月16日まで約4年間にわたり本調査を行った。また、年度別調査区域は第1図に示した。

4年間にわたる発掘調査の対象面積、組織及び担当職員は、下記のとおりである。



第１図　年度別調査区域図

(1) 昭和59年度

期　　間：昭和59年4月1日から昭和60年3月30日

組　　織：調査部長　鈴木道之助、調査部長補佐　岡川宏道・根本　弘、班長　清藤一順

担当職員：調査研究員　西口　徹、上守秀明、大野康男

内　　容：本調査10,120㎡のうち4,620㎡（上層）5,500㎡（貝層）

(2) 昭和60年度

期　　間：昭和60年4月1日から昭和61年3月31日

組　　織：調査部長　鈴木道之助、調査部長補佐　岡川宏道・古内　茂、班長　阪田正一

担当職員：主任調査研究員　小宮　孟、調査研究員　上守秀明・宮城孝之・岡田光広・笹生　衛

内　　容：確認調査13,100㎡のうち524㎡（下層）、本調査8,480㎡（上層）

(3) 昭和61年度

期　　間：昭和61年4月1日から昭和62年3月31日

組　　織：調査部長　鈴木道之助、調査部長補佐　岡川宏道・古内　茂、班長　阪田正一

担当職員：調査研究員　小高春雄・上守秀明・宮城孝之・山田貴久

内　　容：本調査5,430㎡のうち5,000㎡（上層）430㎡（貝層）

(4) 昭和62年度

期　　間：昭和62年4月1日から昭和62年11月16日

組　　織：調査部長　堀部昭夫、調査部長補佐　岡川宏道・古内　茂、班長　阪田正一

担当職員：主任調査研究員　西口　徹、調査研究員　小高春雄・出口雅人

内　　容：確認調査10,000㎡のうち520㎡（下層）、本調査5,000㎡（上層）

また、整理作業及び報告書作成作業については、発掘調査と併行して昭和61年度から遺物の水洗・注記を行い、下記の組織及び担当職員で、平成元年度から本格的に開始し、平成9年度に成果を刊行した。

(1) 平成元年度

組　　織：調査部長　堀部昭夫、調査部長補佐　西山太郎・阪田正一、班長　大原正義

担当職員：技師　出口雅人

内　　容：水洗・注記、復元の各一部

(2) 平成2年度

組　　織：調査部長　堀部昭夫、調査部長補佐　阪田正一・佐久間豊、班長　三浦和信

担当職員：技師　出口雅人・大石理子

内　　容：水洗・注記、記録整理、復元・分類の一部

(3) 平成3年度

組　　織：調査部長　天野　努、調査部長補佐　阪田正一・佐久間豊、班長　三浦和信

担当職員：主任技師　上守秀明、技師　出口雅人

内　　容：復元の一部

(4) 平成4年度

組　　織：調査部長　天野　努、調査部長補佐　佐久間豊・深澤克友、班長　矢戸三男

担当職員：主任技師　上守秀明・田島　新、技師　西野雅人

内　　容：復元の一部

(5) 平成5年度

組　　織：調査研究部長　高木博彦、千葉調査事務所長　深澤克友

担当職員：主任技師　上守秀明・田島　新、技師　西野雅人・田井知二

内　　容：復元の一部

(6) 平成6年度

組　　織：調査研究部長　西山太郎、千葉調査事務所長　田坂　浩

担当職員：主任技師　山田貴久・田島　新・西野雅人

内　　容：復元の一部

(7) 平成7年度

組　　織：調査研究部長　西山太郎、千葉調査事務所長　矢戸三男

担当職員：主任技師　倉内郁子・田島　新

内　　容：復元

(8) 平成8年度

組　　織：調査部長　西山太郎、資料部長　築比地正治、中央調査事務所長　藤崎芳樹

担当職員：研究員　岸本雅人、技師　四柳　隆・小笠原永隆

内　　容：記録整理、実測トレース（資料部整理課で実施）、図面作成、及び、レイアウト、原稿執筆の一部

(9) 平成9年度

組　　織：調査部長　西山太郎、中央調査事務所長　藤崎芳樹

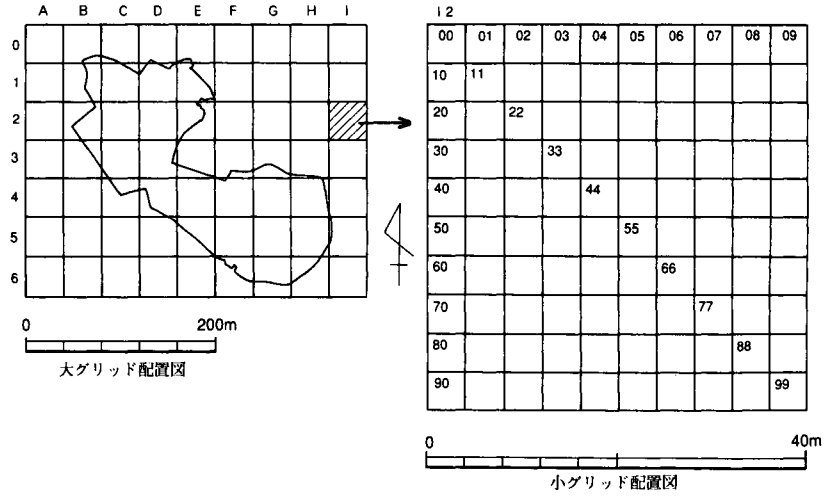
担当職員：研究員　岸本雅人、技師　小笠原永隆

内　　容：記録整理、写真撮影、レイアウト、原稿執筆、刊行

2　調査の方法（第2図）

発掘区の設定は、国土地理院国家座標を基準とし、40m×40m方眼の大グリッドを西から東に向かってA～I、北から南に向かって0～6に区画し、A0区～I6区の63区の大グリッドを設定した。さらに、大グリッド内を4m×4m方眼の小グリッドに分割し、西から東へ00～09、北から南に向かって00～90とした。

したがって、各々の小グリッドはC2-56・E3-90のようになる。各遺



第2図　グリッド配置図

構の位置や遺構に伴わない遺物については小グリッドで示した。また、遺構の番号は、遺構の種別ごとに略号を設け、通し番号を付した。略号は次のとおりである。

ＳＢ竪穴住居跡・ＳＫ土坑及び土壙・ＳＩ掘立柱建物跡・ＳＤ溝状遺構・ＳＸ特殊遺構

3　整理作業の方法

本遺跡では、遺構数が多いため、竪穴住居跡の挿図は1軒1軒掲載せず、竪穴住居跡を第7図のようにブロック状に区画し、挿図1枚により多くの竪穴住居跡が入るようにした。竪穴住居跡の縮尺は150分の1に統一し、各竪穴住居跡の説明は一覧表で表した。特徴的な竪穴住居跡等は、第2章第2節で遺物の出土状況と兼ねて掲載した。これらの竪穴住居跡は、ブロック掲載した竪穴住居跡の挿図中で住居番号を線で四角く囲うことで区別した。

第2節　遺跡の位置と環境

1　遺跡の位置（第3図・第1表・図版1）

有吉北貝塚は東南部ニュータウン造成地域内の北東部、千葉市有吉町730ほかに所在する。現在はＪＲ外房線鎌取駅から南西約300ｍに位置し、千葉市の政令指定都市移行に伴って、緑区おゆみ野に含まれており、ニュータウンは「おゆみ野」と称されている。千葉市は東京湾に面し、湾岸沿いは沖積低地が形成され、内陸には下総台地が展開している。台地は、東京湾に流入する村田川・都川などに注ぐ大小の谷によって樹枝状に開析され、谷津田が細長く台地の奥まで続いている。東南部ニュータウン付近の台地は谷の密度が大きく、平坦面より斜面の面積の方が広いという特徴を有している。このような台地上には多くの遺跡が存在するが、有吉北貝塚もその一つの遺跡である。

遺跡は、村田川右岸域に形成された支谷のうち赤塚支谷に突出した標高38ｍの台地上に立地する。また、台地はさらに枝分かれした小支谷によって周囲を深く刻まれ、半ば独立丘陵状を呈す。なお、細尾根によって続く台地上には、有吉南貝塚が所在する。周辺にはすでに発掘調査がなされ、報告書が刊行されている遺跡も多く、この地域の古代のあり方を解明するのに貴重な資料が蓄積されてきている。

2　遺跡の環境（第3図・第1表・図版1）

千葉東南部地区の遺跡は、ほとんどが複合遺跡であり、各時代の遺構が重複して検出されることが多いが、周辺の遺跡の縄文時代については有吉北貝塚1（旧石器・縄文時代編）で詳細に記載しており、本報告書では割愛した。

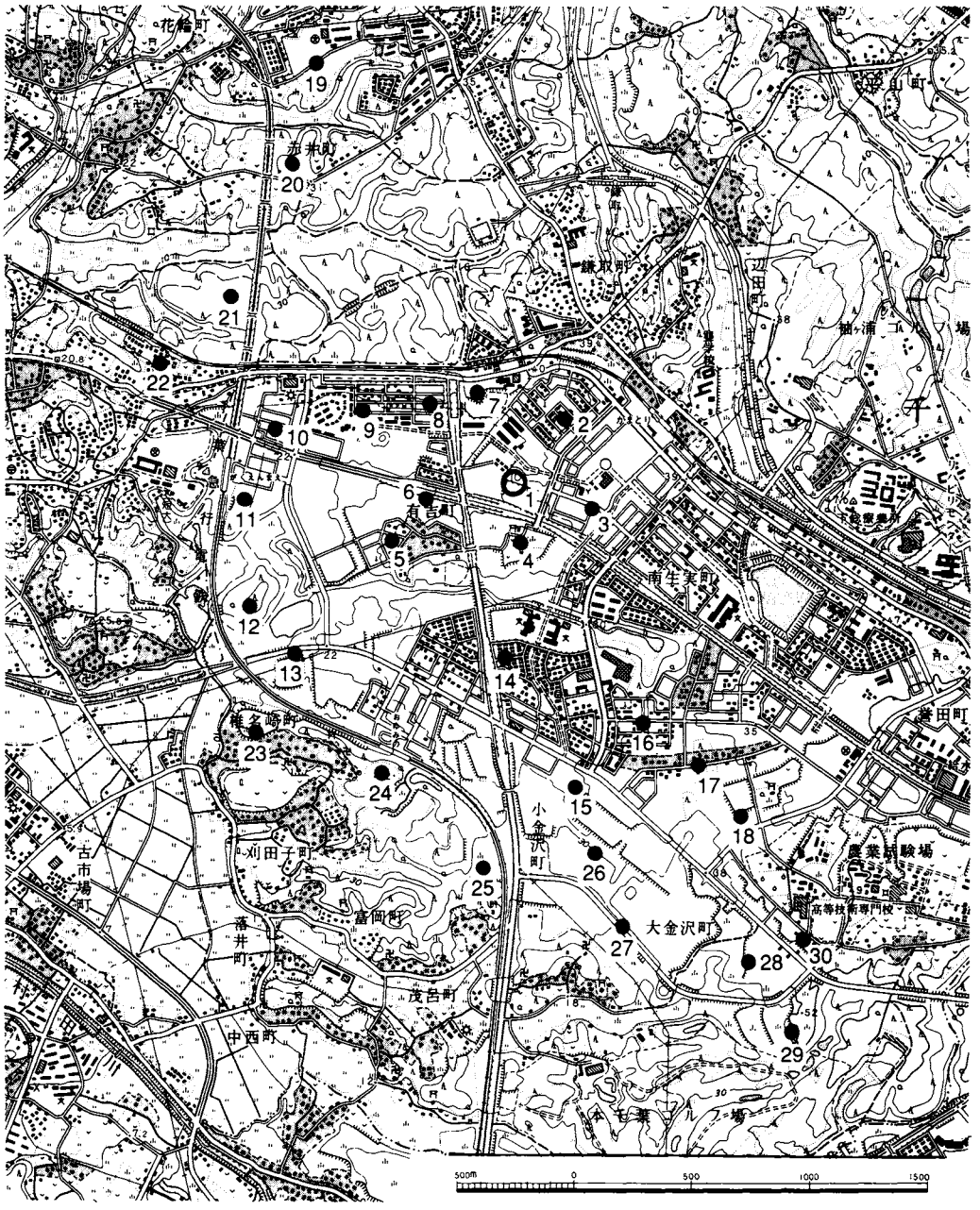
有吉北貝塚が面している赤塚支谷の最奥部の台地上に鎌取遺跡が占地しており、最奥部から順に有吉北貝塚・有吉南遺跡・有吉城跡・城ノ台遺跡が隣接している。また、赤塚支谷を挟んだ対岸には、最奥部から順に鎌取場台遺跡・南二重堀遺跡・高沢遺跡・有吉遺跡・上赤塚1号墳が占地している。

本遺跡から小支谷を挟んで北東にある鎌取遺跡では、古墳時代の住居跡29軒のうち中期27軒、後期2軒が検出されている。また、本遺跡の南に100ｍほどいった同一台地上に位置する有吉南貝塚では、平成8年4月1日から平成9年7月31日にかけて発掘調査が行われ、古墳時代・歴史時代の住居跡が数軒検出されている。本遺跡から南東には有吉城跡がある。有吉城跡は昭和57年から発掘調査が開始され、各年度ごとに継続して行われている。昭和59年には第1、2、3地点の調査報告書が刊行されている。

東南部地区で調査された古墳時代前・中期の遺跡は、鎌取遺跡・馬ノ口遺跡・鎌取場台遺跡・南二

重堀遺跡などがあげられるが、全体的には遺跡数の稀薄な時期である。古墳では石枕などを出土した上赤塚1号墳のような、この時期としては重要な位置を占める古墳も存在する。後期になると赤塚支谷沿いに有吉南遺跡・有吉遺跡・城ノ台遺跡をはじめ、周辺には木戸作遺跡・榎作遺跡・種ヶ谷津遺跡など遺跡数は大幅に増加する。この時期には古墳も増加しており、周辺に展開する集落との関連性も指摘できる。

奈良・平安時代の遺跡は古墳時代後期から継続し、大規模な集落を構成する。この時期の遺跡としては高沢遺跡・椎名崎遺跡・ムコアラク遺跡・太田法師遺跡などがあげられる。



1.有吉北貝塚　2.鎌取遺跡　3.馬ノ口遺跡　4.有吉南貝塚　5.有吉城跡　6.有吉南遺跡　7.鎌取場台遺跡　8.南二重堀遺跡
9.高沢遺跡　10.有吉遺跡　11.上赤塚1号墳　12.城ノ台遺跡　13.椎名崎遺跡　14.木戸作遺跡　15.小金沢古墳群　16.六通遺跡
17.六通貝塚　18.六通金山遺跡　19.仁戸名遺跡　20.榎作遺跡　21.種ケ谷津遺跡　22.大道遺跡　23.伯父名台遺跡　24.今台遺跡
25.神明社裏遺跡　26.御塚台遺跡　27.ムコアラク遺跡　28.太田法師遺跡　29.バクチ穴遺跡　30.大膳野北遺跡

第3図　有吉北貝塚の位置と周辺の遺跡

第1表　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地（調査・刊行）	概要（現在整理中の遺跡もあり、数の変更の可能性もある）
1	有吉北貝塚	千葉市有吉町730ほか 発掘調査　S59, 4, 1～S62,11,16 報告書刊行　H10, 3,31	住居跡108軒（古墳時代97軒・歴史時代5軒・不明6軒）、小鍛冶遺構2基、屋外炉6基、土坑2基、粘土採掘坑1か所、竪穴遺構1基、溝状遺構1条、火葬墓1基、　中世　土壙群、竪穴遺構5基、ピット群、土壙墓1基、火葬墓3基、地下式壙3基、掘立柱建物跡2棟、柵列遺構1か所、溝状遺構2条、近世　陥穴状遺構9基、溝状遺構14条 土師器、須恵器、土製品、石製品、鉄製品、銅製品、炭化種子、羽口、鉄滓
2	鎌取遺跡[1]	千葉市鎌取町716-2ほか 発掘調査　S58, 9, 1～S59, 3,31 S60, 6,10～S60, 8, 1 報告書刊行　H 4, 3,31	古墳時代　住居跡29軒（中期27軒・後期2軒）、歴史時代　方形周溝状遺構2基、溝状遺構3条、土坑1基、土壙1基、地下式壙7基 土師器、須恵器、土製品（板状土製品・紡錘車）、石製品（紡錘車・石製模造品・勾玉・臼玉・砥石・磨石・台石・軽石）、鉄製品（鎌・刀子・錐・針・鑿・小札状鉄製品・馬具状鉄製品）、鉄滓、転用羽口、古銭（寛永通寶）
3	馬ノ口遺跡[2]	千葉市有吉町302ほか 発掘調査　S55, 4, 1～S56, 8,31 報告書刊行　S59, 3,30	古墳時代　方墳3基（前期）、円墳6基（後期）、住居跡19軒（前期～中期）、土坑78基（古墳時代2基・不明76基）、歴史時代　溝状遺構20条 土師器、須恵器、石製品（石製模造品・勾玉・管玉・琥珀玉・臼玉）、鉄製品（轡・鐙・直刀・小刀・刀子・鏃・飾り金具・鋲・釘・鋤先）、銅製品（飾り金具・耳環）、ガラス玉
4	有吉南貝塚	千葉市有吉町309-1ほか	縄文時代中期　※本文中に記載
5	有吉城跡[3]	千葉市有吉町559ほか ※本文中に記載	古墳時代　古墳7基、住居跡36軒、土坑2基、歴史時代　住居跡33軒、掘立柱建物跡2棟、土壙28基、方形周溝条遺構2基、円形周溝状遺構1基、地下式壙1基、溝状遺構21基
6	有吉南遺跡[4]	千葉市有吉町481ほか 発掘調査　S56, 4, 1～S56, 9,30 報告書刊行　S58,11,30	古墳時代　住居跡8軒（後期）、歴史時代　住居跡4軒、土坑1基 土師器、須恵器、土製品（土玉・支脚）、鉄製品（鏃・刀子・鎌）
7	鎌取場台遺跡[5]	千葉市鎌取町2853-9ほか 発掘調査　H 2,11, 1～H 3, 3,30	古墳時代　住居跡8軒（中期）、歴史時代　方形周溝状遺構4基、円形周溝状遺構2基、地下式壙1基 土師器、須恵器、石製品（石製模造品・管玉）
8	南二重堀遺跡[6]	千葉市生実町2857-1ほか 発掘調査　S54, 8,15～S55, 6,30 報告書刊行　S58, 3,31	古墳時代　円墳8基、住居跡47軒（前期～中期）、土壙墓3基、歴史時代　住居跡1軒、小竪穴6基、方形周溝状遺構10基、土壙7基、溝状遺構2条 土師器、須恵器、土製品（水鳥・土玉・土錘）、石製品（紡錘車・勾玉・石製模造品・砥石）、鉄製品（直刀・鎌・鑿・鏃・刀子）、銅製品（耳環）
9	高沢遺跡[7]	千葉市生実町1871-1ほか 発掘調査　S56, 4, 1～S58, 3,31 報告書刊行　H 2, 3,31	古墳時代　住居跡88軒、歴史時代　住居跡260軒、掘立柱建物跡15棟、土壙6基、周溝状遺構2基、溝状遺構6条、製鉄跡2基、塚1基 土師器、須恵器、灰釉陶器、墨書土器、鉄製品（土掘り具・煙鉄・手斧・鎌・紡錘車・刀子）、銅製品（鋺・帯金具・巡方・丸鞆・指輪）、羽口、鉄滓、炭化種子
10	有吉遺跡[8] （1次） （2次） （3次）	千葉市有吉町628～643ほか 発掘調査　S49, 6,27～S50, 1,17 報告書刊行　S50, 8,31 発掘調査　S50,12,24～S51, 3, 3 報告書刊行　S53, 3,31 発掘調査　S55, 4, 1～S55, 9,30 報告書刊行　S58,11,30	古墳時代　円墳2基、住居跡62軒（中期1軒・後期61軒）、歴史時代　住居跡130軒（不明25軒）、方形周溝状遺構3基、周溝状遺構6基、土坑7基、溝状遺構9条、ピット6基 土師器、須恵器、土製品（紡錘車・土玉・支脚）、石製品（環状石斧・臼玉・紡錘車・砥石）、鉄製品（直刀・刀子・鏃・鎌・手斧）、耳環（金環・鉛環・鉄環）、ガラス小玉
11	上赤塚1号墳[9]	千葉市南生実町1523ほか 発掘調査　S55,10, 1～S55,11,30 報告書刊行　S57,12,25	古墳時代　円墳1基（主体部2）、歴史時代　住居跡1軒 土師器、須恵器、石枕、立花、銅釧、石製模造品（鎌・斧頭・刀子）、鉄製品（直刀・剣・刀子・鎌・鏃先・斧頭）、玉類（勾玉・管玉・ガラス玉）
12	城ノ台遺跡[10]	千葉市緑区南生実町1678ほか 発掘調査　H 2,11, 1～H 3, 3,22 H 3,12, 2～H 4, 3,31 H 4, 6, 1～H 5, 2,15	古墳時代　住居跡61軒、歴史時代　住居跡45軒（不明2軒）、掘立柱建物跡4棟、塚1基、土坑34基、粘土採掘坑11基、溝状遺構35条、土器焼成遺構5基、 中世　掘立柱建物跡4棟、塚1基、土坑34基、火葬土壙2基、ピット列2列 土師器、須恵器、陶磁器、石製模造品、鉄製品
13	椎名崎遺跡[11]	千葉市椎名崎町420ほか 発掘調査　S51,10,18～S52, 3,31 報告書刊行　S54, 3,31	古墳時代　古墳4基、住居跡46軒（後期）、歴史時代　住居跡100軒（不明50軒） 土師器、須恵器、土製品（紡錘車・土玉・土錘・支脚）、石製品（紡錘車・砥石） 鉄製品（刀子・鎌・鏃・釘・斧）、古銭、キセル

番号	遺跡名	所在地 (調査・刊行)	概要
14	木戸作遺跡[12]	千葉市椎名崎町895ほか	古墳時代　住居跡27軒(後期)、土壙28基(不明26基)、歴史時代　ピット群1、溝状遺構1条
	(1次)	発掘調査　S49, 9, 1～S50, 3,31 報告書刊行　S50, 8,31	土師器、須恵器、土製品(手捏土器・勾玉・土玉・支脚)、石製品(丸玉・砥石)、鉄製品(刀子・鏃)
	(2次)	発掘調査　S50, 6, 1～S51, 3,31 報告書刊行　S54, 3,31	
15	小金沢古墳群[13]	千葉市小金沢町299ほか	古墳時代　古墳6基(後期) 土師器、須恵器、直刀、刀子、金環、耳環、瓔玉、丸玉、ガラス玉、
		発掘調査　S51, 7, 1～S51, 9,30 S52, 9, 1～S51,10,15 報告書刊行　S54, 3,31	
	小金沢貝塚[14]	千葉市小金沢町292-4ほか	古墳時代　古墳11基(前方後円墳3基・円墳7基・不明1基)、住居跡1軒、方形周溝状遺構1基、溝状遺構3条 土師器、須恵器、金銅製剣、金銅製耳環、直刀、刀子、鉄鏃、瓔玉、ガラス玉、古銭
		発掘調査　S52, 4, 1～S53, 3,30 報告書刊行　S57, 3,31	
16	六通遺跡[15]	千葉市大金沢町902-3ほか	歴史時代　住居跡3軒、溝状遺構5条、柵列 土師器、須恵器、刀子、支脚
		発掘調査　S53, 1, 5～S53, 5,31 報告書刊行　S55, 9,30	
17	六通貝塚[16]	千葉市緑区大金沢町968-2ほか	歴史時代　住居跡3軒、製鉄跡1か所、中世　溝状遺構15条 土師器、須恵器
		発掘調査　H 7, 4, 3～H 8, 3,27	
18	六通金山遺跡[17]	千葉市大金沢町480ほか	古墳時代　古墳5基(円墳2基・方墳3基)、住居跡2軒(後期)、歴史時代　住居跡2軒、土師器、須恵器、石製模造品、直刀、刀子、鉄鏃、勾玉、管玉、瓔玉、臼玉、耳環、釘、切子玉
		発掘調査　S53, 5, 1～S53,11,25 S54, 4, 1～S54, 9,19 報告書刊行　S56, 9,30	
19	仁戸名遺跡[18]	千葉市仁戸名町	古墳時代　古墳6基、住居跡44軒(歴史時代も含む)
		発掘調査　S47, 3, 4～S47, 4,20 報告書刊行　S47,10,27	
20	榎作遺跡[19]	千葉市赤井町619ほか	住居跡237軒(古墳時代136軒・歴史時代40軒・不明61軒)、竪穴状遺構3基、掘立柱建物跡19棟、柱穴列2か所、土坑39基、溝状遺構16条、ピット列1か所 土師器、須恵器、鉄製品(刀子・鏃・鎌・燧鉄・釣針・紡錘具・銙釘・弓筈金具・両頭金具・棒状品)、土製品(紡錘車・土玉・支脚・管状土錘・勾玉・管玉・丸玉・臼玉)、石製品(紡錘車・管玉・勾玉・丸玉・臼玉・石製模造品)
		発掘調査　S60, 4, 1～S62, 5,15 報告書刊行　H 4, 3,31	
21	種ヶ谷津遺跡[20]	千葉市生実町2668-3ほか	古墳時代　住居跡18軒(中期1軒・後期11軒・不明5軒)、土坑2基、溝状遺構3条 土師器、須恵器、土製品(土玉・支脚)、石製品(砥石・紡錘車)
		発掘調査　S56,10, 1～S57, 2,17 報告書刊行　H元, 9,30	
	種ヶ谷津遺跡[21]	千葉市生実町2652ほか	古墳時代　住居跡9軒(後期)、土坑2基 土師器、須恵器、土製品(土玉・紡錘車)、鉄製品(刀子)、三彩陶器、皇朝十二銭(神功開宝)
		発掘調査　S58,10, 1～S59, 3,31 報告書刊行　S60, 3,30	
22	大道遺跡[22]	千葉市生実町2425ほか	住居跡70軒(古墳時代後期15軒・歴史時代36軒・不明19軒) 土師器、須恵器、墨書土器、土製品(埴輪片・人形・土玉・支脚)、石製品(紡錘車・砥石・勾玉・管玉)、鉄製品(銙帯具・燧鉄・釘・刀子・鎌)、鉄滓、古銭
		発掘調査　S56,10, 1～S57, 6,30 報告書刊行　S58, 3,31	
23	伯父名台遺跡[23]	千葉市緑区椎名崎町312-1ほか	古墳3基(円墳)、住居跡75軒(古墳時代～歴史時代)、土坑222基、溝状遺構38条 地下式壙5基、竪穴区画遺構10基、円形周溝状遺構1基、堀2条 土師器、須恵器、玉類、鉄製品(鋤先・刀・刀子・鎌・釘)、中世陶器(瀬戸・常滑)、輸入磁器、鉄滓
		発掘調査　H 5, 4, 6～H 6, 3,29 H 6, 4, 1～H 6, 8,12	
24	今台遺跡[24]	千葉市椎名崎町686ほか	古墳時代　古墳1基、住居跡9軒、歴史時代　住居跡42軒、掘立柱建物跡25棟、小鍛冶遺構1基、土坑11基、溝状遺構7基 土師器、須恵器、土製勾玉、鉄鏃、鉄鎌、鉄滓、羽口
		発掘調査　H 3, 4, 1～H 4, 3, 6	

番号	遺跡名	所在地 (調査・刊行)	概要
25	神明社裏遺跡[25]	千葉市小金沢町259ほか 発掘調査 S58,12, 1～S60,12,10	古墳時代 古墳11基(前方後円墳3基・方墳1基・円墳6基・石室のみ1基)、住居跡10軒(後期)、歴史時代 住居跡23軒、掘立柱建物跡30棟、大形土壙1基、溝状遺構8条 土師器、須恵器、鉄製品(直刀・刀子・鏃・弓金具)、金銅製大刀、玉類、古銭
26	御塚台遺跡[26]	千葉市小金沢町93ほか 発掘調査 S53,11,19～S54, 2,25 報告書刊行 S54, 3,31	古墳時代 住居跡9軒、歴史時代 住居跡1軒、方形周溝条遺構4基 土師器、須恵器、土製品、鉄製品
27	ムコアラク遺跡[27]	千葉市大金沢町888ほか 発掘調査 S51,11,12～S52,12,29 報告書刊行 S54, 3,31	古墳時代 古墳9基、住居跡8軒(後期)、歴史時代 住居跡39軒(不明4軒)、方形周溝状遺構6基 土師器、須恵器、墨書土器、玉類、石製品(紡錘車・砥石)、鉄製品(直刀・刀子・鎌・鏃)、耳環
28	太田法師遺跡[28]	千葉市大金沢町518ほか 発掘調査 S63, 4, 1～H 2, 9,12	古墳時代 方墳7基、住居跡8軒(後期)、歴史時代 住居跡69軒、掘立柱建物跡4棟、方形周溝状遺構3基、土壙22基、製鉄関連遺構 土師器、須恵器、緑釉陶器、瓦、六鈴鏡釧、鉄製品、鉄滓、羽口
29	ハクチ穴遺跡[29] (1次) (2次)	千葉市大金沢町135ほか 発掘調査 S55, 1, 4～S55, 2,29 発掘調査 S56, 8, 1～S56,12, 5 報告書刊行 S58,11,30	歴史時代 住居跡8軒、土坑28基、溝状遺構5条 土師器、須恵器
30	大膳野北遺跡[30] (1次) (2次)	千葉市大金沢町543-2ほか 発掘調査 S55,12, 1～S56, 2,15 発掘調査 S57,11, 1～S58, 3,31 報告書刊行 S60, 3,30	古墳時代 方墳2基、歴史時代 住居跡29軒、土坑29基 土師器、須恵器、墨書土器、支脚、鉄鏃

注 1 財団法人千葉県文化財センター 1993『千葉東南部ニュータウン18－鎌取遺跡－』
2,3 財団法人千葉県文化財センター 1984『千葉東南部ニュータウン15－馬ノ口遺跡・有吉城跡・白鳥台遺跡－』
4,29 財団法人千葉県文化財センター 1983『千葉東南部ニュータウン14－バクチ穴遺跡・有吉遺跡(第3次)・有吉南遺跡－』
5 財団法人千葉県文化財センター 1991「千葉県文化財センター年報NO.16－平成2年度－」
6 千葉県文化財センター 1983『千葉東南部ニュータウン12－南二重堀遺跡－』
7 財団法人千葉県文化財センター 1990『千葉東南部ニュータウン17－高沢遺跡－』
8 房総考古資料刊行会 1975『千葉東南部ニュータウン3－有吉遺跡(第1次)－』
財団法人千葉県文化財センター 1978『千葉東南部ニュータウン5－有吉遺跡(第2次)－』
9 財団法人千葉県文化財センター 1982『千葉東南部ニュータウン13－上赤塚1号墳・狐塚古墳群－』
10 財団法人千葉県文化財センター 1990「千葉県文化財センター年報NO.16－平成2年度－」
財団法人千葉県文化財センター 1991「千葉県文化財センター年報NO.17－平成3年度－」
財団法人千葉県文化財センター 1992「千葉県文化財センター年報NO.18－平成4年度－」
11 財団法人千葉県文化財センター 1979『千葉東南部ニュータウン6－椎名崎遺跡－』
12 財団法人千葉県都市公社 1975『千葉東南部ニュータウン2－木戸作遺跡(第1次)－』
財団法人千葉県文化財センター 1979『千葉東南部ニュータウン7－木戸作遺跡(第2次)－』
13,27 財団法人千葉県文化財センター 1979『千葉東南部ニュータウン8－ムコアラク遺跡・小金沢古墳群－』
14 財団法人千葉県文化財センター 1982『千葉東南部ニュータウン10－小金沢貝塚－』
15,26 財団法人千葉県文化財センター 1980『千葉東南部ニュータウン9－六通遺跡・御塚台遺跡－』
16 財団法人千葉県文化財センター 1995「千葉県文化財センター年報NO.21－平成7年度－」
17 財団法人千葉県文化財センター 1981『千葉東南部ニュータウン11－六通金山遺跡－』
18 本郷高等学校歴史研究部 1972『にとな』
19 財団法人千葉県文化財センター 1992『千葉市榎作遺跡－千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ－』
20 財団法人千葉県文化財センター 1989『千葉市種ヶ谷津遺跡－千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－』
21 財団法人千葉県文化財センター 1985『千葉市種ヶ谷津遺跡－県道生実本納線道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』
22 財団法人千葉県文化財センター 1983『千葉市大道遺跡・生実城跡発掘調査報告書』
23 財団法人千葉県文化財センター 1993「千葉県文化財センター年報NO.19－平成5年度－」
財団法人千葉県文化財センター 1994「千葉県文化財センター年報NO.20－平成6年度－」
24 財団法人千葉県文化財センター 1991「千葉県文化財センター年報NO.17－平成3年度－」
25 財団法人千葉県文化財センター 1983「千葉県文化財センター年報NO.9－昭和58年度－」
財団法人千葉県文化財センター 1984「千葉県文化財センター年報NO.10－昭和59年度－」
財団法人千葉県文化財センター 1985「千葉県文化財センター年報NO.11－昭和60年度－」
28 財団法人千葉県文化財センター 1988「千葉県文化財センター年報NO.14－昭和63年度－」
財団法人千葉県文化財センター 1988「千葉県文化財センター年報NO.15－平成元年度－」
財団法人千葉県文化財センター 1989「千葉県文化財センター年報NO.16－平成2年度－」
30 財団法人千葉県文化財センター 1985『千葉東南部ニュータウン16－大膳野北遺跡－』

第2章　古墳時代から奈良・平安時代の遺構と遺物

第1節　検出遺構の概要（第4図・第5図）

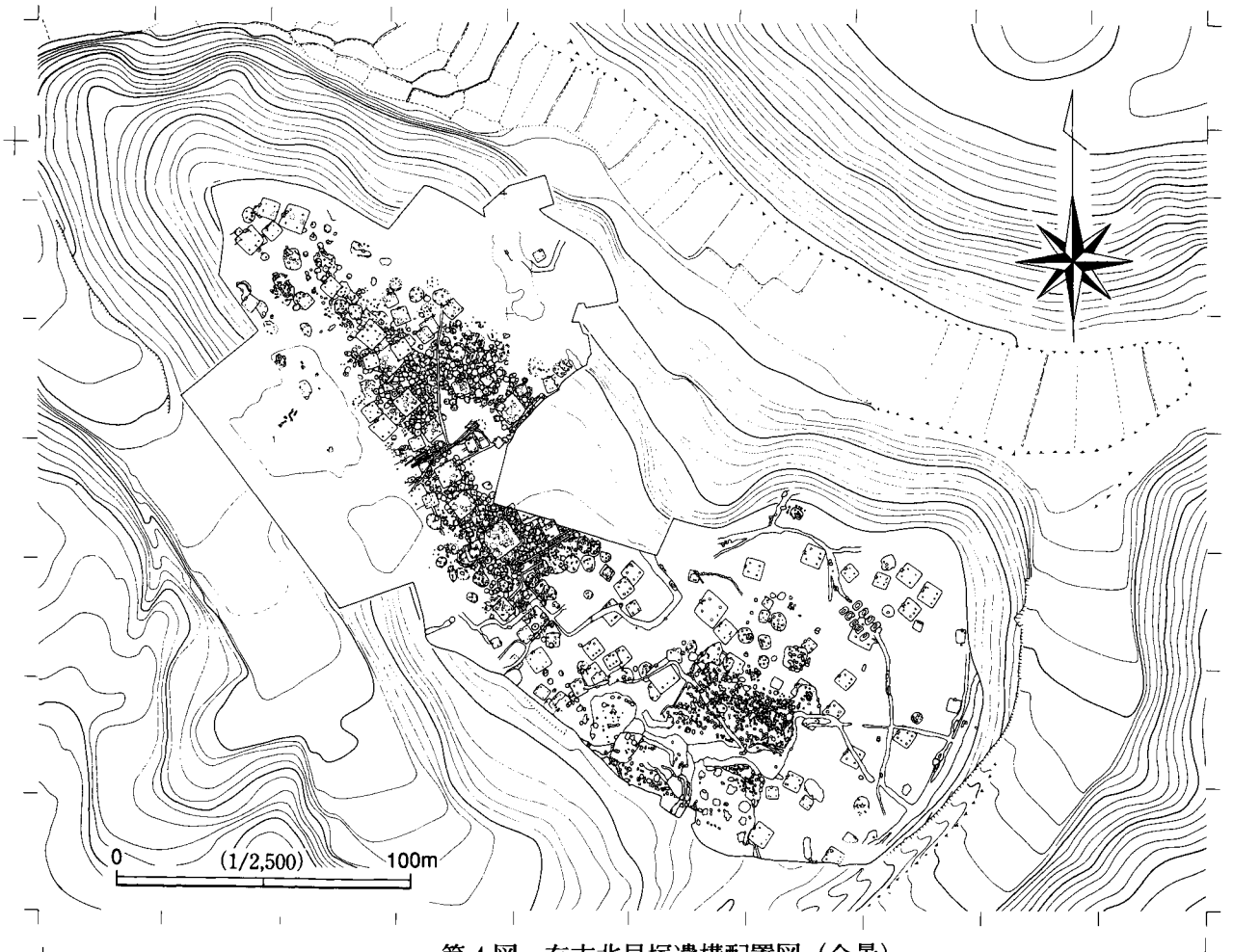
有吉北貝塚は縄文時代中期の大規模貝塚として周知されており、縄文時代の貴重な資料が多数提示されている。しかし、有吉北貝塚は古墳時代から中世・近世の遺構・遺物も検出されている複合遺跡である。

ここでは、古墳時代以降の遺構の概要をみていくこととする。

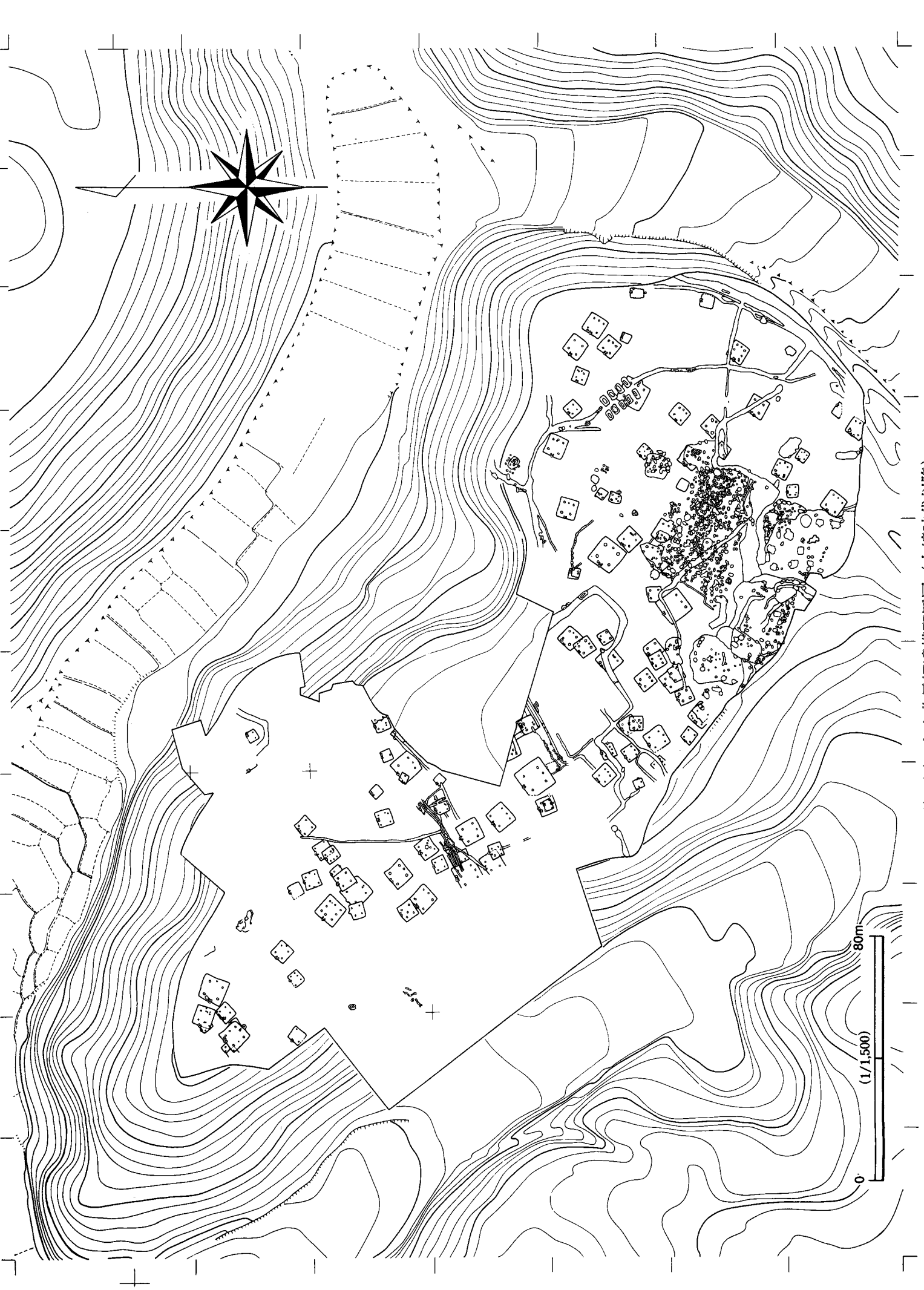
遺構は、台地上のほぼ全域に認められるが、他遺構との重複が多く、後世の遺構に破壊された遺構もある。竪穴住居跡は合計108軒検出され、時期を確定できたものは99軒である。時期を確定できる遺物が皆無であった竪穴住居跡9軒のうち、住居の形態から古墳時代に属すると思われるものが4軒である。竪穴住居跡の大部分は古墳時代後期のものである。この時期に含まれるそのほかの遺構としては、小鍛冶遺構2基、屋外炉跡6基、土坑2基、粘土採掘坑1か所、竪穴遺構1基、溝状遺構1条にとどまっており、ほとんど竪穴住居跡主体の集落遺跡である。奈良・平安時代の遺構は極めて少なく、竪穴住居跡5軒と火葬墓1基を数えるのみで、中世・近世へと連続している。

中世の遺構としては、台地を整地した中に土壙群、竪穴遺構、溝状遺構、特殊遺構が検出された。また、中世の墓壙として、土壙墓が1基、地下式壙が3基、火葬墓が3基検出された。土壙群の北東には、方形に区画される形でピット群があり、掘立柱建物跡2棟、柵列遺構1基が確認された。

近世の遺構は溝状遺構、陥穴状遺構、性格不明遺構、竪穴遺構、土壙があげられる。



第4図　有吉北貝塚遺構配置図（全景）


80m
(1/1,500)
0

1　竪穴住居跡（第6図～第28図・第2表・図版3～図版44）

本遺跡では6世紀から11世紀に至る竪穴住居跡108軒（6世紀49軒・7世紀45軒・8世紀4軒・11世紀1軒・不明9軒）が検出された。竪穴住居跡は北西にのびる舌状台地上に構築されており、竪穴住居跡の主軸方位も北西方向にとるものが多い。未発掘やほかの遺構に破壊され、主軸方向が不明のもの以外で、明らかに主軸方向を北西にとらない竪穴住居跡は、ＳＢ029（南西）・ＳＢ104（北）・ＳＢ138（北東）・ＳＢ143（北東）・ＳＢ149（北東）・ＳＢ183（南西）・ＳＢ214（北）・ＳＢ215（北東）・ＳＢ219（北）・ＳＢ220（北西）の10軒のみである。古墳時代以降の竪穴住居の構築は6世紀前葉に始まり、6世紀後葉から7世紀前葉にかけて全盛を迎え、その後竪穴住居の数は減少していく。この間の約3世紀にわたり竪穴住居構築に際し、何らかの規制があったと思われるが、ここではこの程度におさえておく。各時期ごとの竪穴住居跡数の増減はあるものの、各時期ごとに台地の一定部分等に集中することはなく、台地全面に万遍なく構築されている。

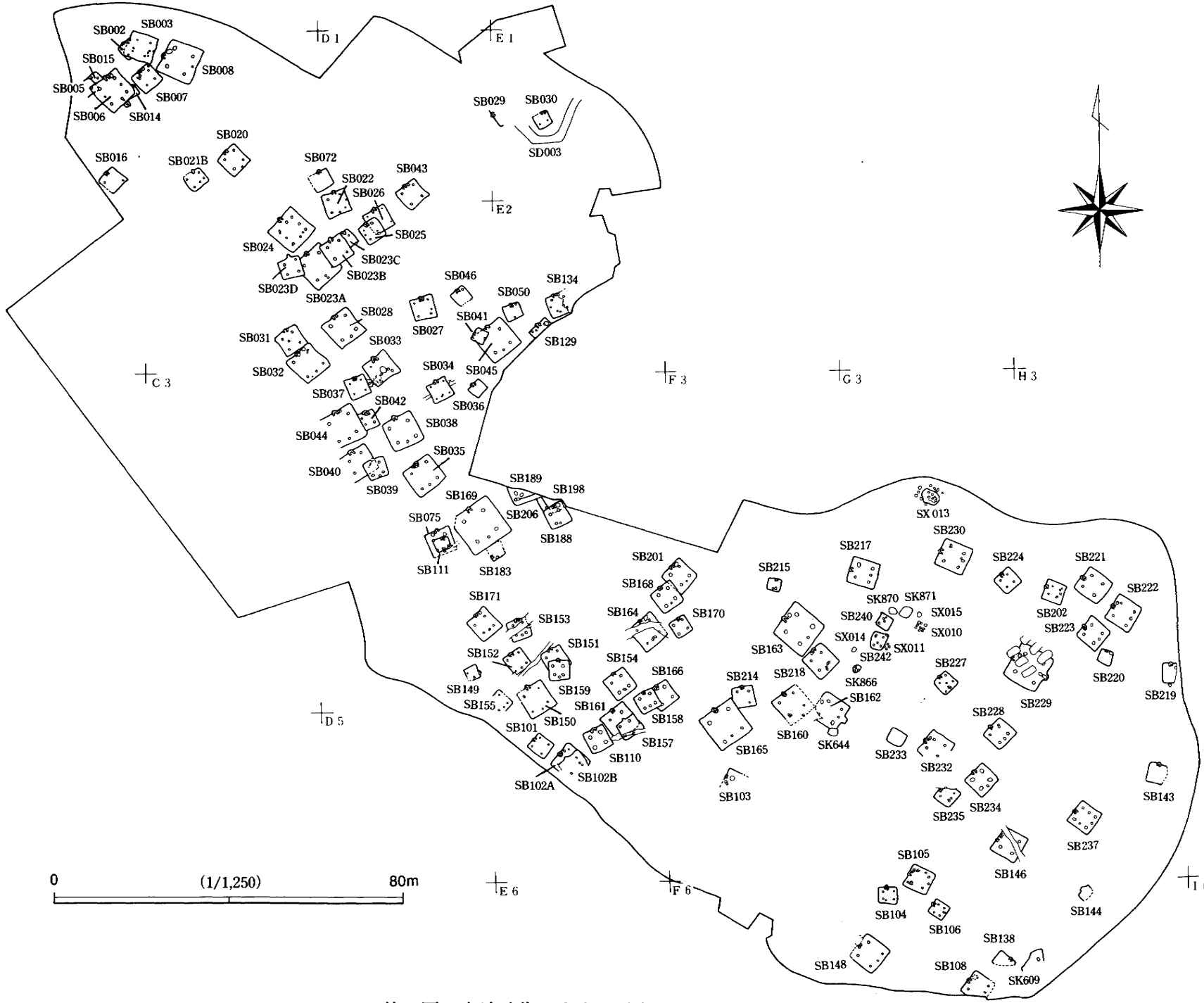
竪穴住居跡の構造を全般的にみると、未発掘や他の遺構に破壊されたりして確認できないものを除くと、カマド・4本柱を基本とし、カマドと対面する壁際に梯子ピットを設けるものが主体的である。カマドを持たない竪穴住居跡はＳＢ233・ＳＢ240・ＳＢ242の3軒のみであるが、ＳＢ240・ＳＢ242の2軒は炉を使用している。また、ＳＢ163はカマドと炉を併用している。

竪穴住居跡の柱は4本を基本としているが、ＳＢ006・ＳＢ022・ＳＢ024・ＳＢ025・ＳＢ026・ＳＢ237の6軒は、主柱穴間にさらに支柱穴を配置している。また、4本柱を伴わない竪穴住居跡は、ＳＢ016・ＳＢ023Ｃ・ＳＢ030・ＳＢ036・ＳＢ041・ＳＢ046・ＳＢ050・ＳＢ072・ＳＢ111・ＳＢ138・ＳＢ149・ＳＢ215・ＳＢ220・ＳＢ233・ＳＢ240の15軒で、そのうちＳＢ036・ＳＢ041・ＳＢ072・ＳＢ233の4軒には柱穴が検出されなかった。このように4本柱を伴わなかったり、柱穴がない竪穴住居跡は、比較的小規模なものが多い。

梯子ピットを有する竪穴住居跡の中には、梯子ピットの周辺に半円形またはコの字状に土の高まりが認められるものもある。また、ＳＢ006・ＳＢ162・ＳＢ229の3軒には、カマドと対面する壁の中央部を床面まで方形に掘り込んだ梯子施設が設けられている。

検出された竪穴住居跡108軒のうち、焼失住居跡は14軒である。内訳は、ＳＢ003・ＳＢ016・ＳＢ023Ｂ・ＳＢ023Ｃ・ＳＢ023Ｄ・ＳＢ034・ＳＢ035・ＳＢ040・ＳＢ041・ＳＢ105・ＳＢ108・ＳＢ134・ＳＢ143・ＳＢ148である。

竪穴住居跡の平面プランはほとんどが方形で、一辺が10ｍを超える大型のものから一辺が3.1ｍの小型のものまであり、バラエティーに富んでいる。また、竪穴住居跡の規模を床面積でみると、計測可能なもの82軒の平均は29.2㎡である。本遺跡で床面積が50㎡を超える竪穴住居跡は、ＳＢ169の91.3㎡が最も大きく、ＳＢ163の70.0㎡・ＳＢ165の67.9㎡・ＳＢ229の66.6㎡・ＳＢ045の57.4㎡・ＳＢ023Ａの（57.3㎡）・ＳＢ024の55.8㎡・ＳＢ008の55.0㎡である。これらの大型住居跡は出土遺物からみると、いずれも6世紀中葉から7世紀前葉の時期に比定できる。竪穴住居跡の規模は6世紀後葉から7世紀前葉にかけて大型化の傾向がみられ、以後小型で画一化されたものへと移行する。この傾向はこの時期の遺跡にみられる傾向と同様である。本遺跡で特徴的な竪穴住居跡としてはＳＢ030があげられる。この竪穴住居跡は一辺が4ｍ前後で、北斜面に構築され、三方をコの字状にＳＤ003の溝が巡っている。この溝は底面から6点の図示可能な遺物が出土しており、6世紀後葉から7世紀前葉に比定され、ＳＢ030竪穴住居跡と同一時期のものとみなされる。



第６図　古墳時代～奈良・平安時代遺構配置図

ＳＢ033竪穴住居跡廃棄後の覆土中からは、後世に使用された骨臓器が出土した。

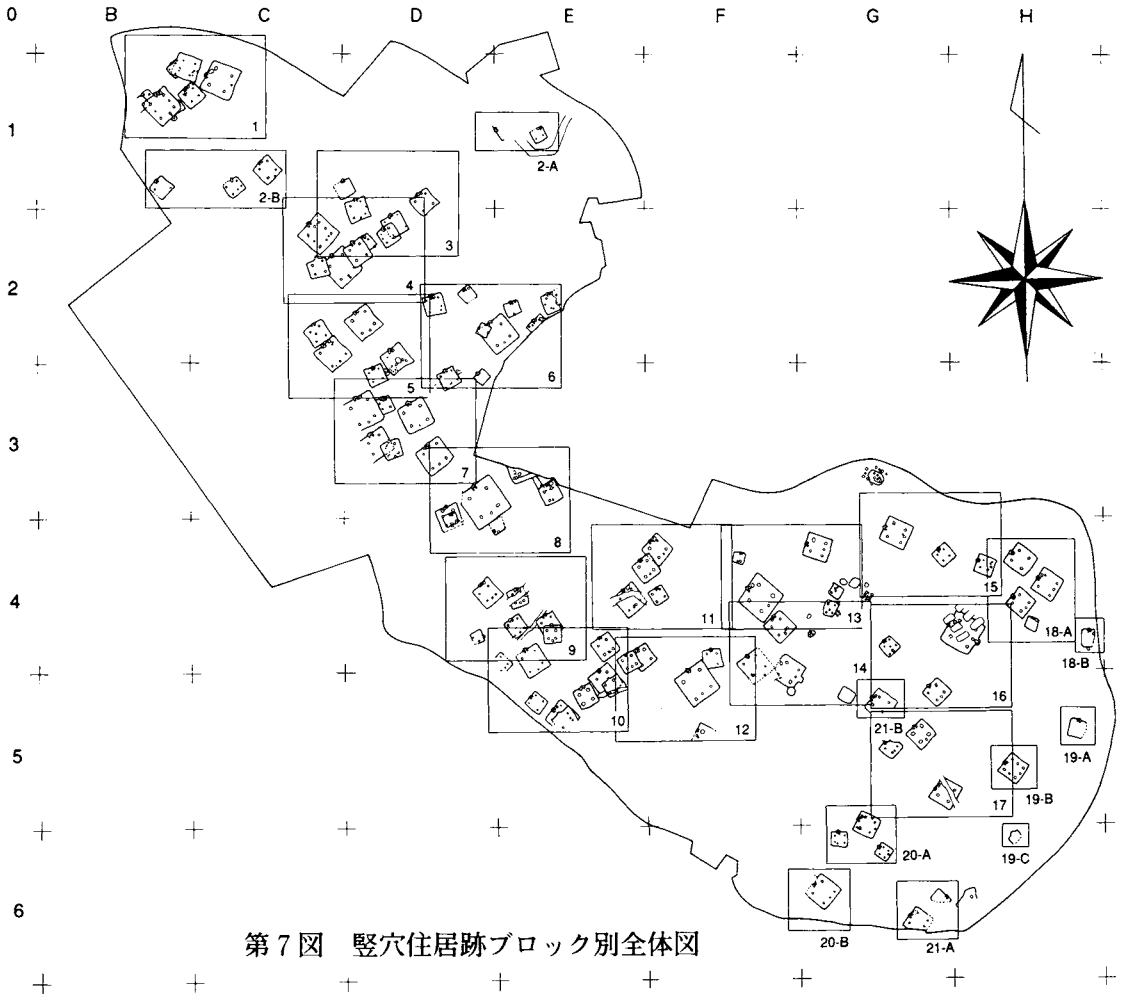
ＳＢ163竪穴住居跡では、土壌サンプルを取り上げ、精密に検査した結果、多量の炭化した種子を検出した。

ＳＢ219竪穴住居跡は、台地東端斜面上から3m程下った急斜面上に立地する粘土採掘坑の跡地を利用して構築されていた。

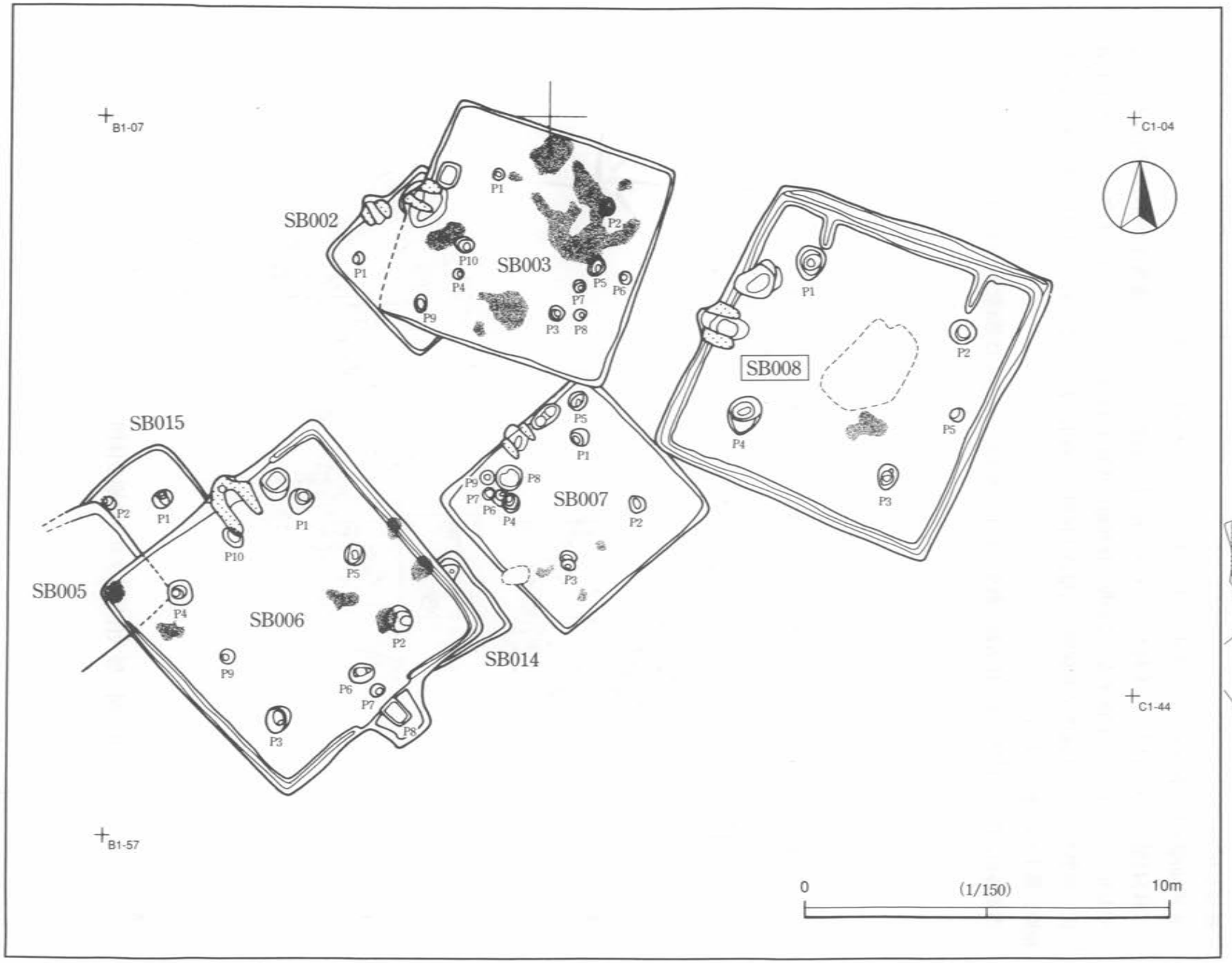
ＳＢ240竪穴住居跡床面からは大小3か所の貝層ブロックが検出された。

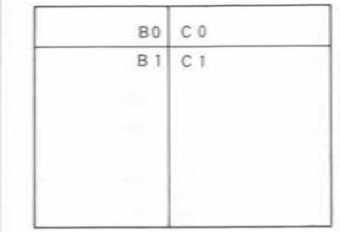
ＳＢ242竪穴住居跡はカマドを持たず、床面中央に炉が設置されていた。遺物はかわらけが1点だけ出土しており、その遺物から判断するとこの竪穴住居跡の時期は11世紀であるが、すぐ北側にこの竪穴住居跡と同一形態をとるＳＢ240竪穴住居跡（古墳時代後期）が検出されているため、ＳＢ242の時期も古墳時代後期に属する可能性もある。

本遺跡の古墳時代以降の竪穴住居跡の概要は以上であるが、詳しくは第4章まとめで述べることとする。

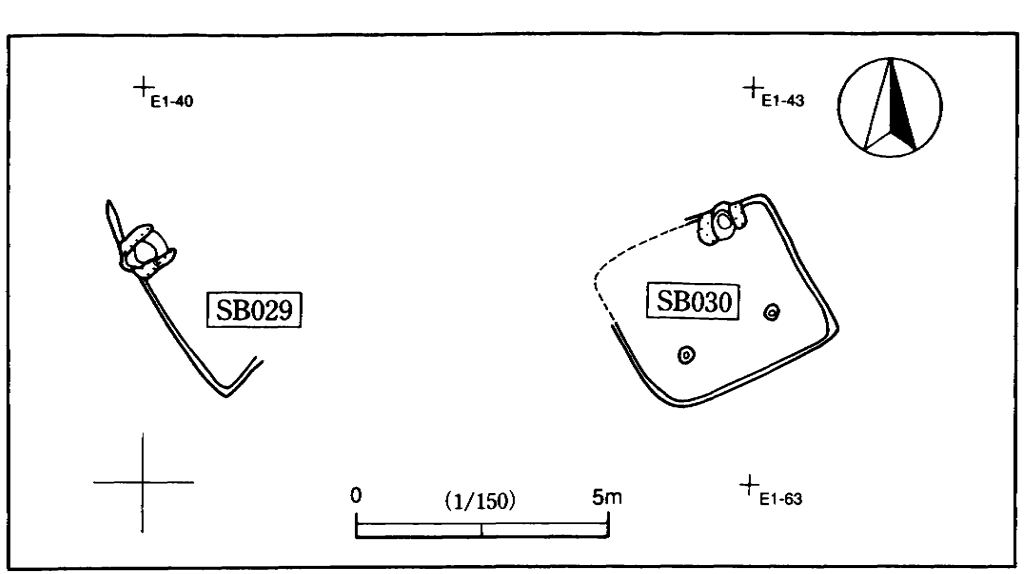


第７図　竪穴住居跡ブロック別全体図

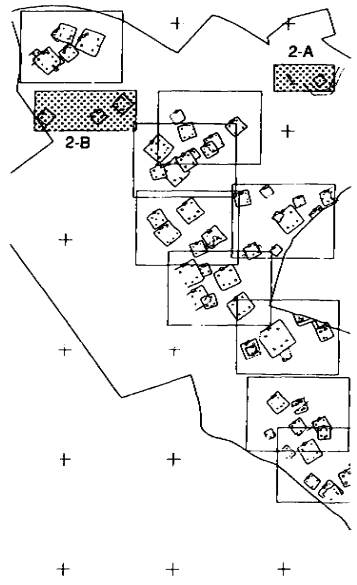


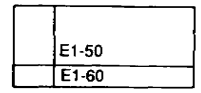


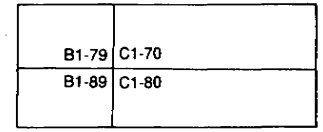
第8図　竪穴住居跡ブロック別図1

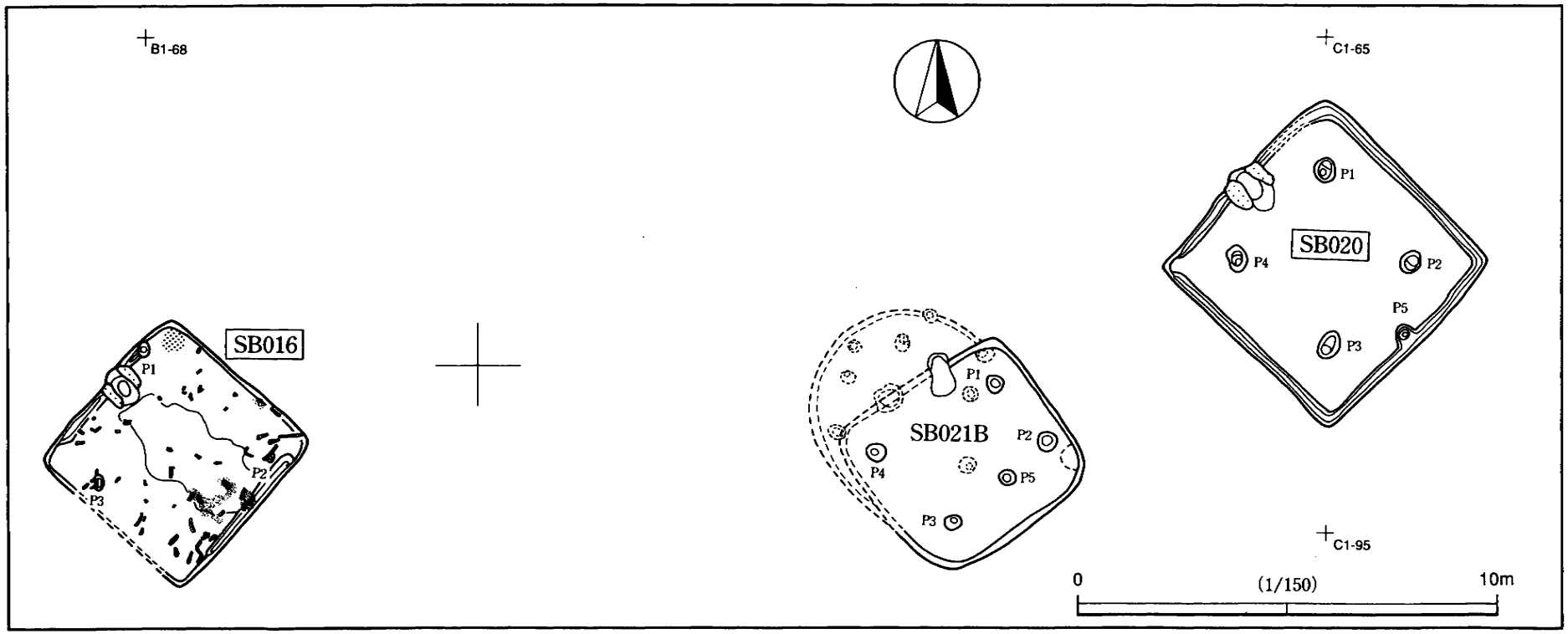


2-A



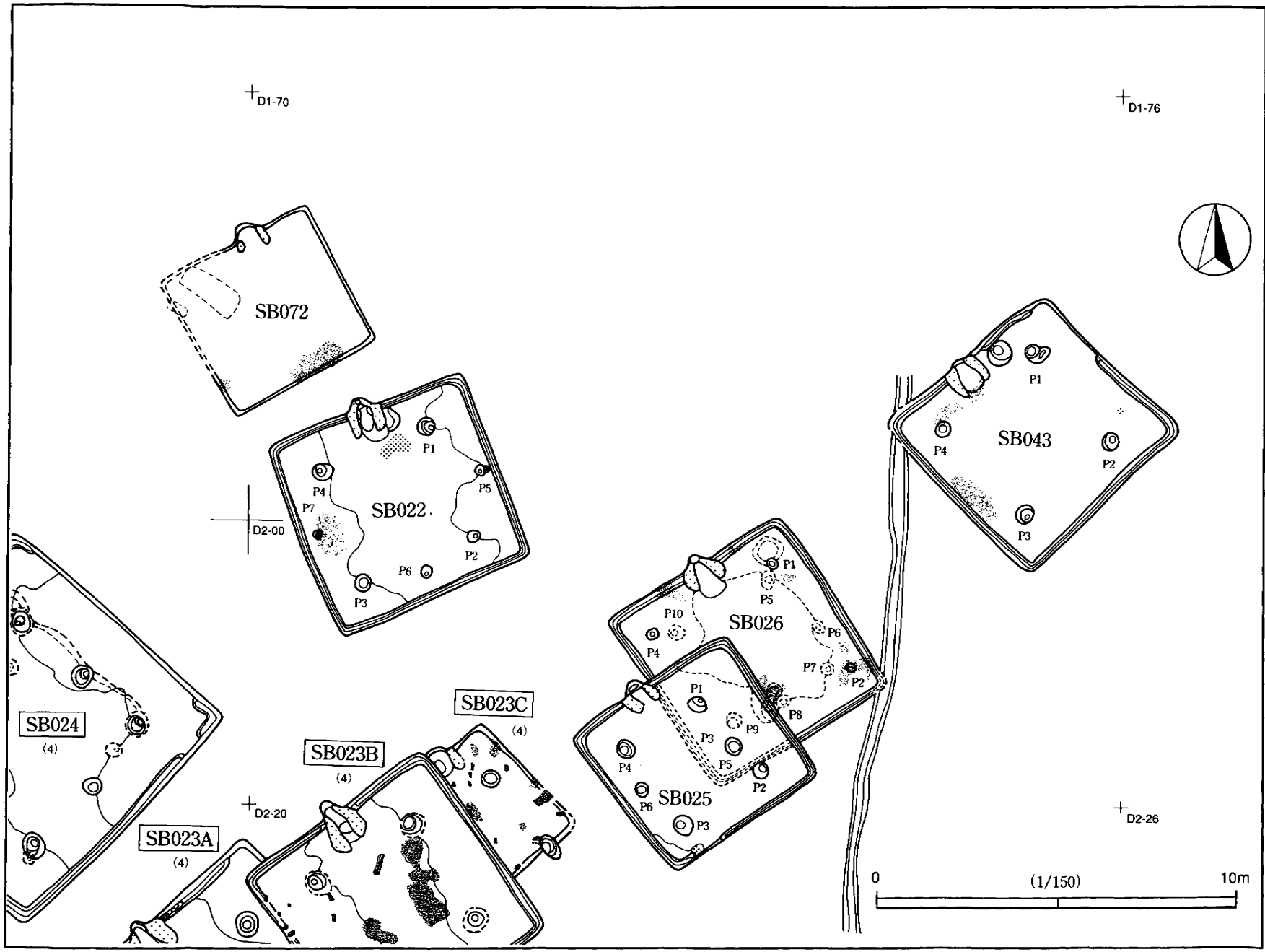


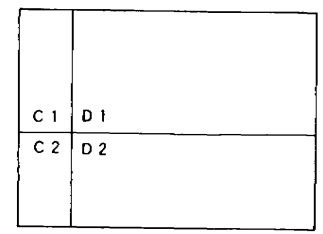


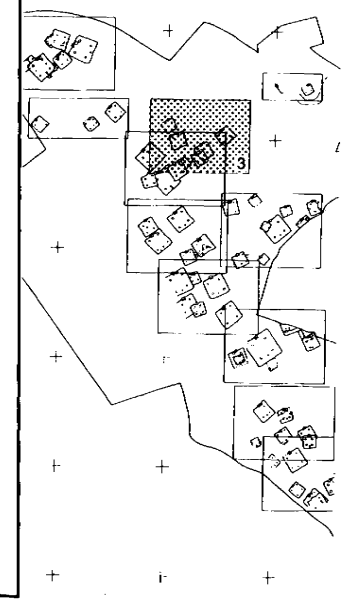


2-B

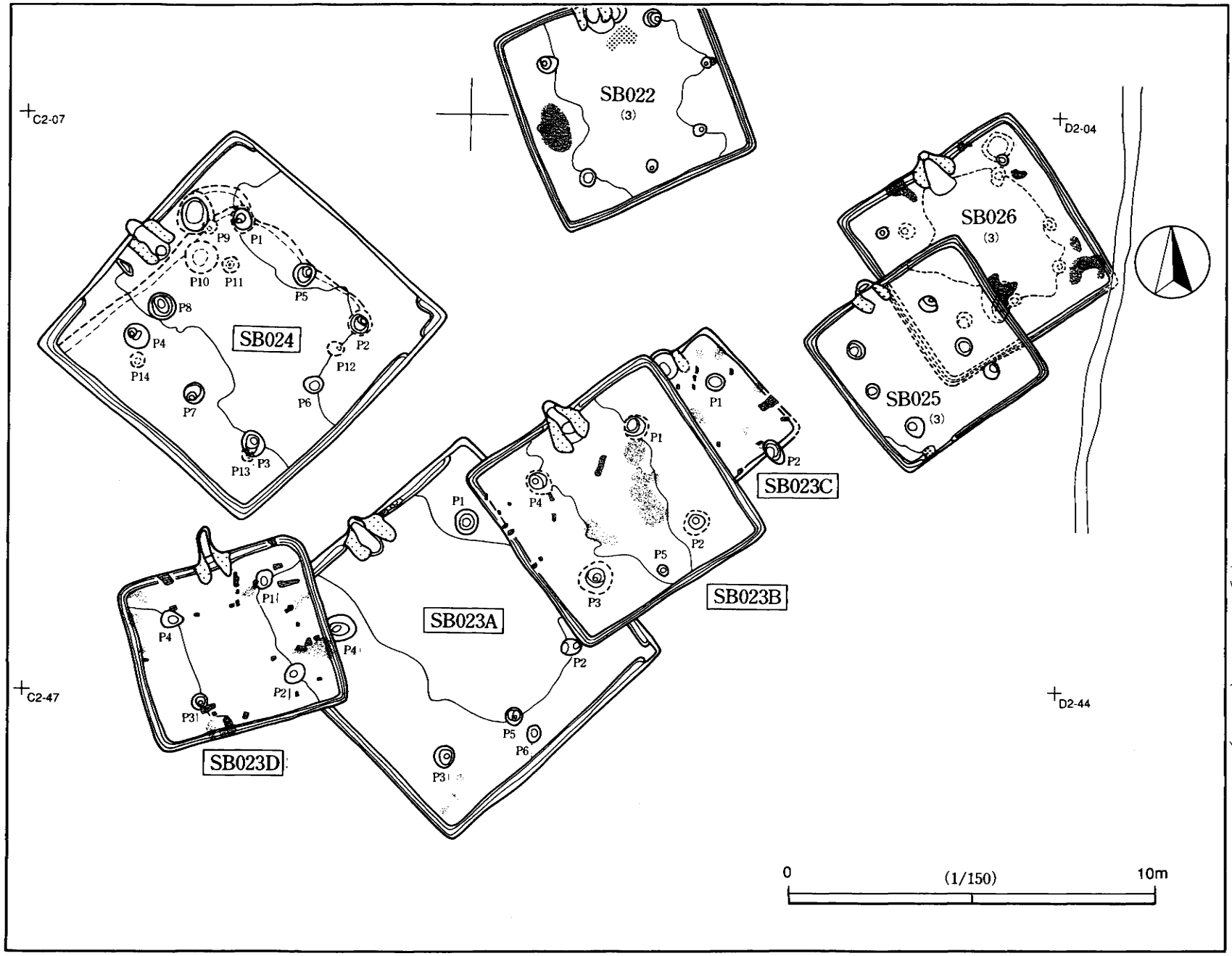
第9図　竪穴住居跡ブロック別図2



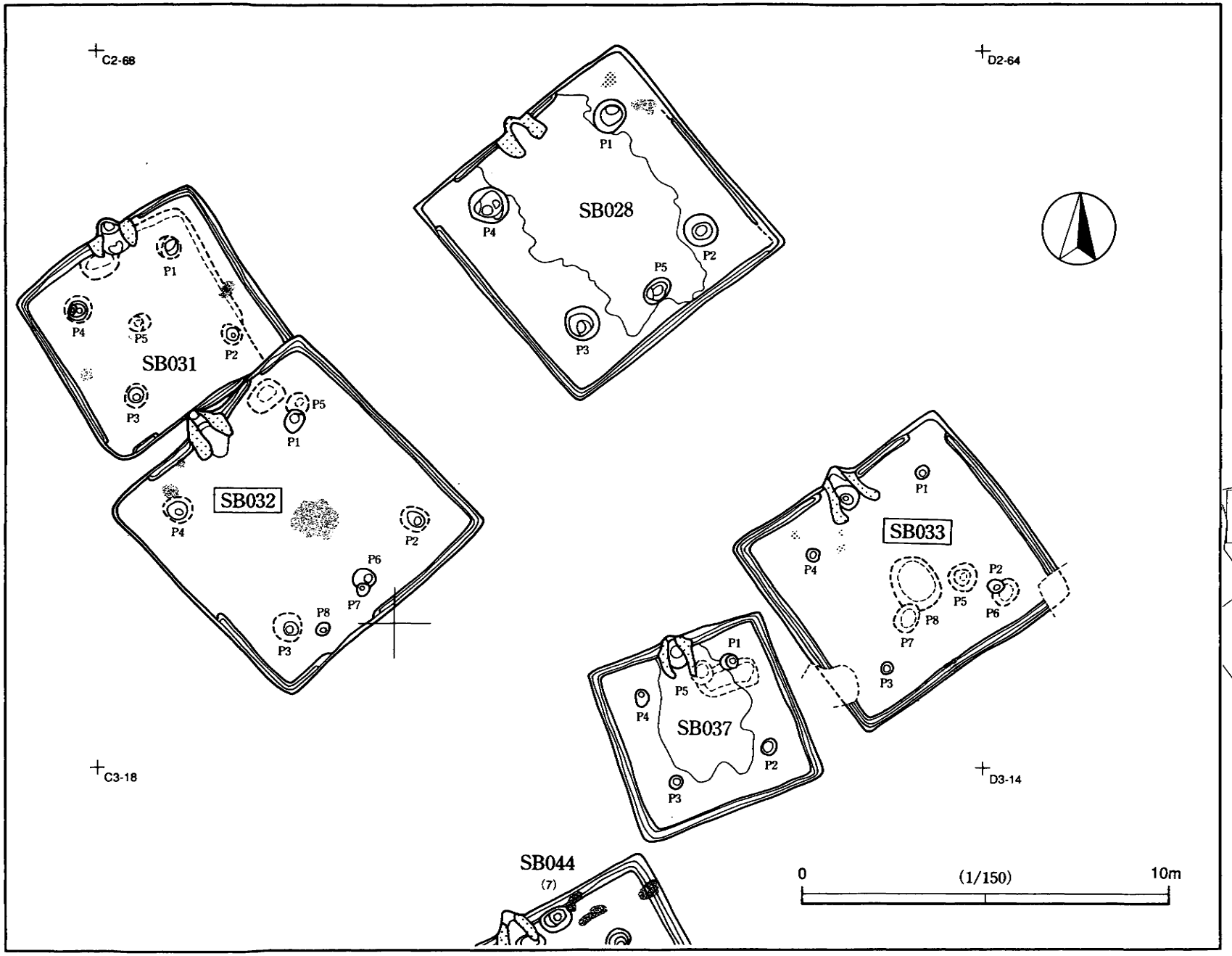


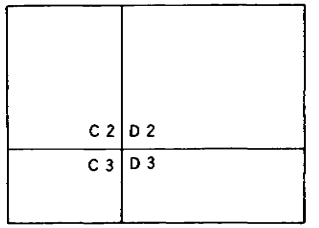


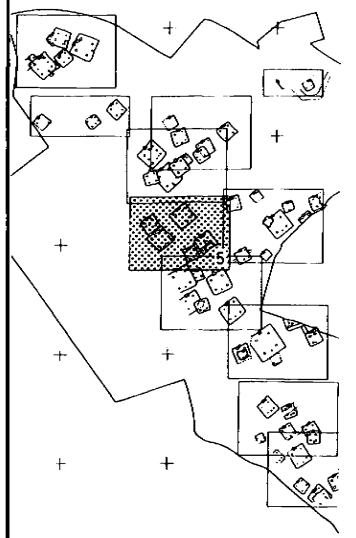
第10図　竪穴住居跡ブロック別図３



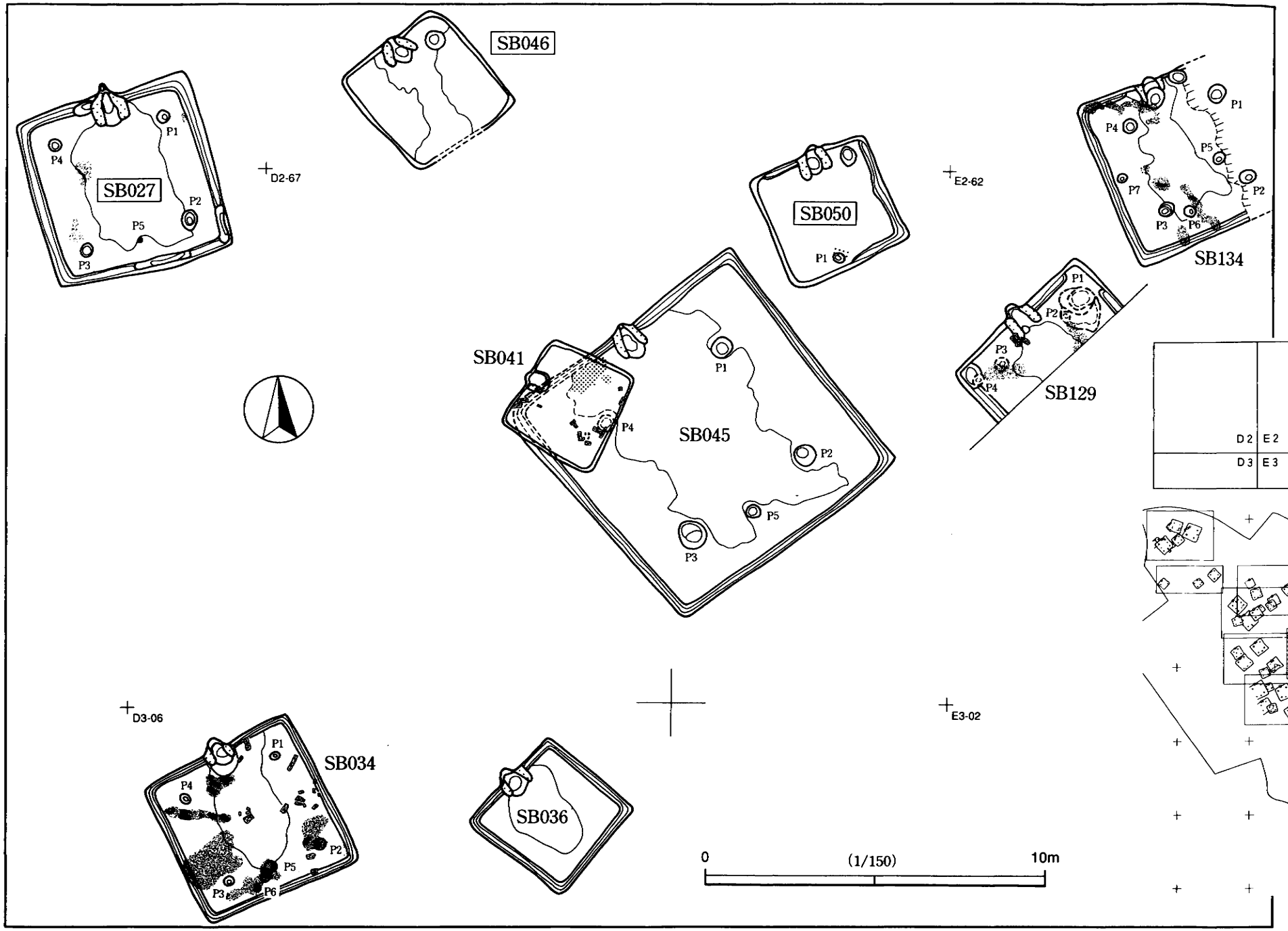
第11図　竪穴住居跡ブロック別図 4



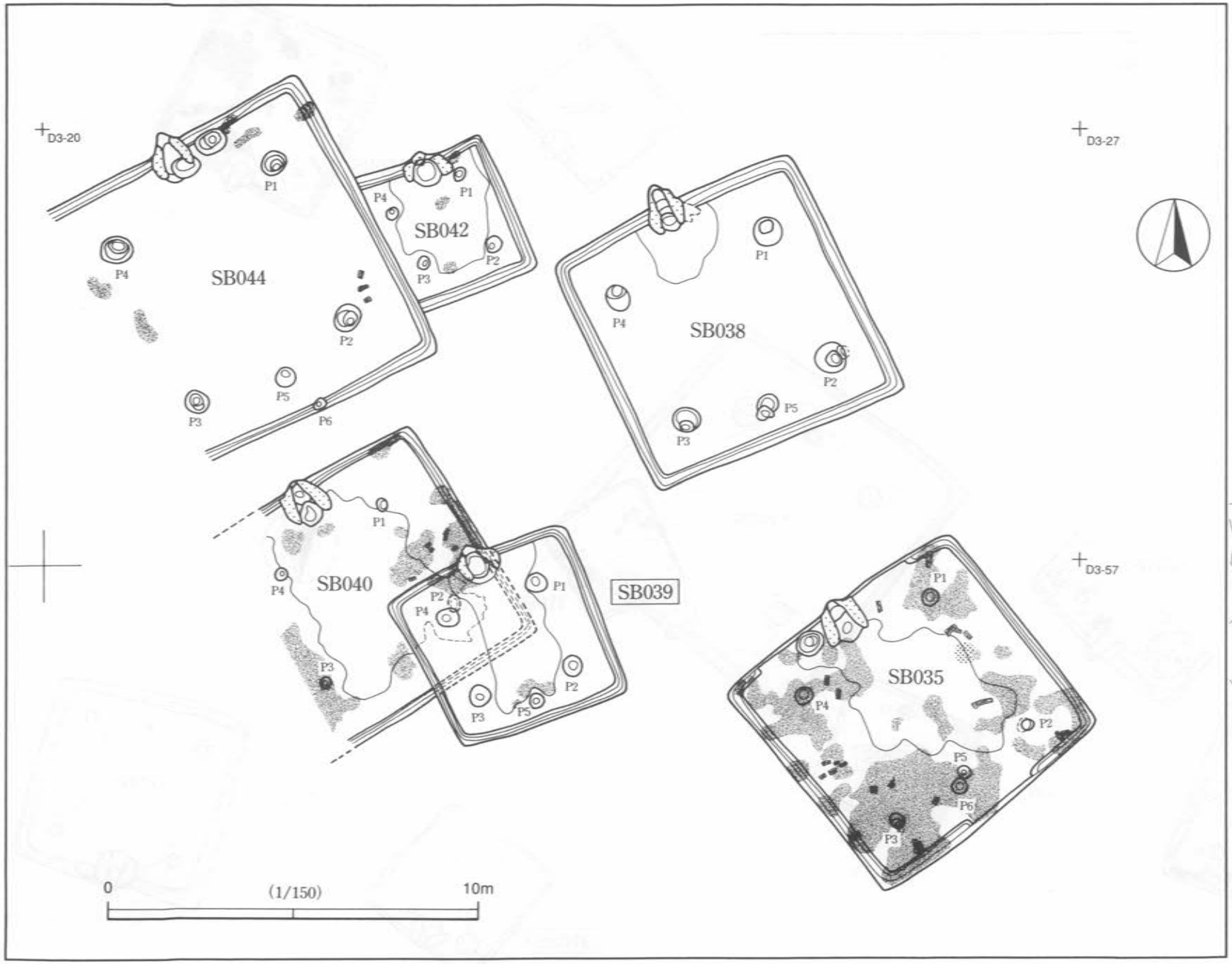


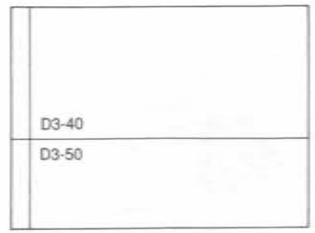


第12図　竪穴住居跡ブロック別図5

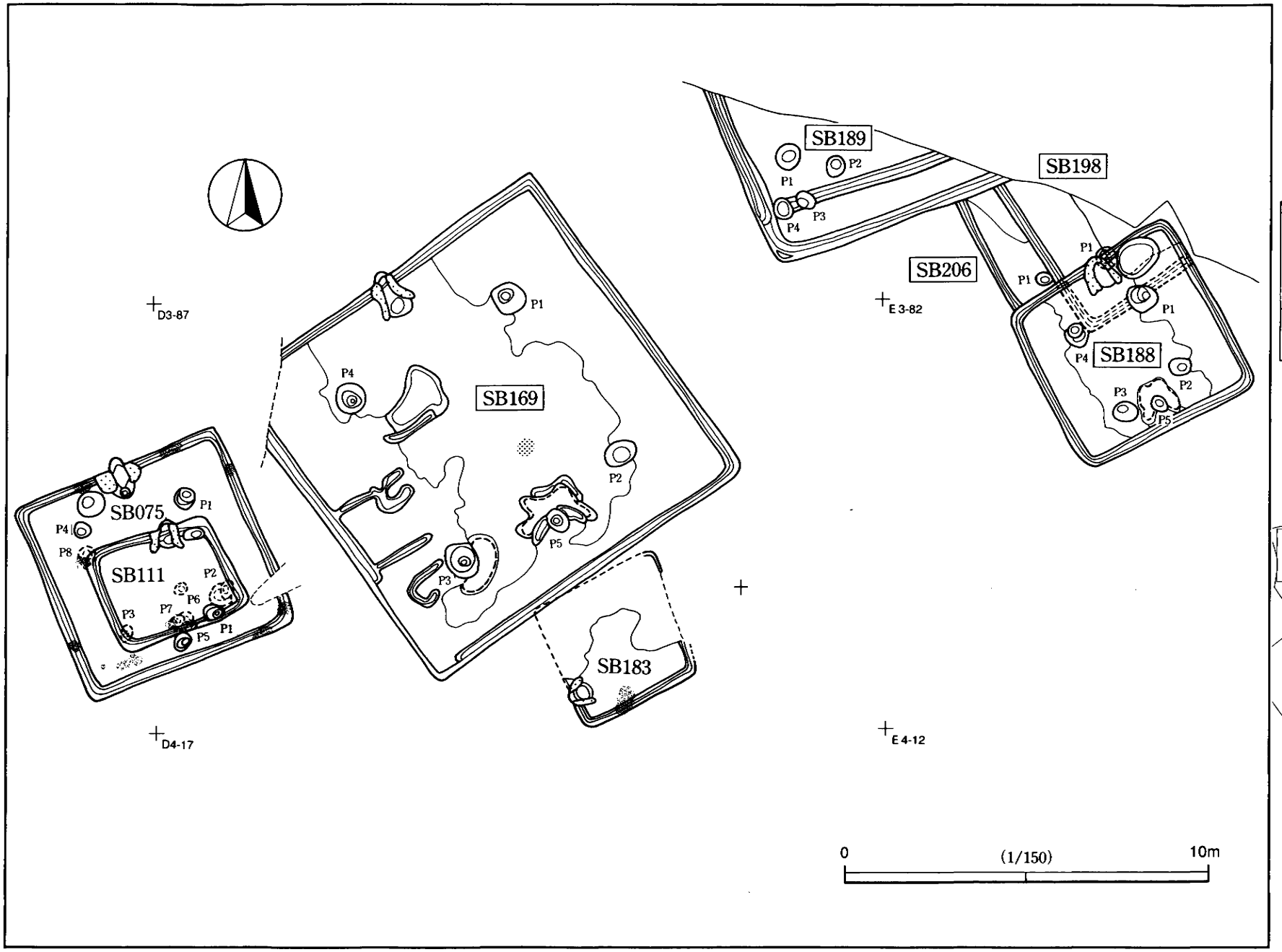


第13図　竪穴住居跡ブロック別図6

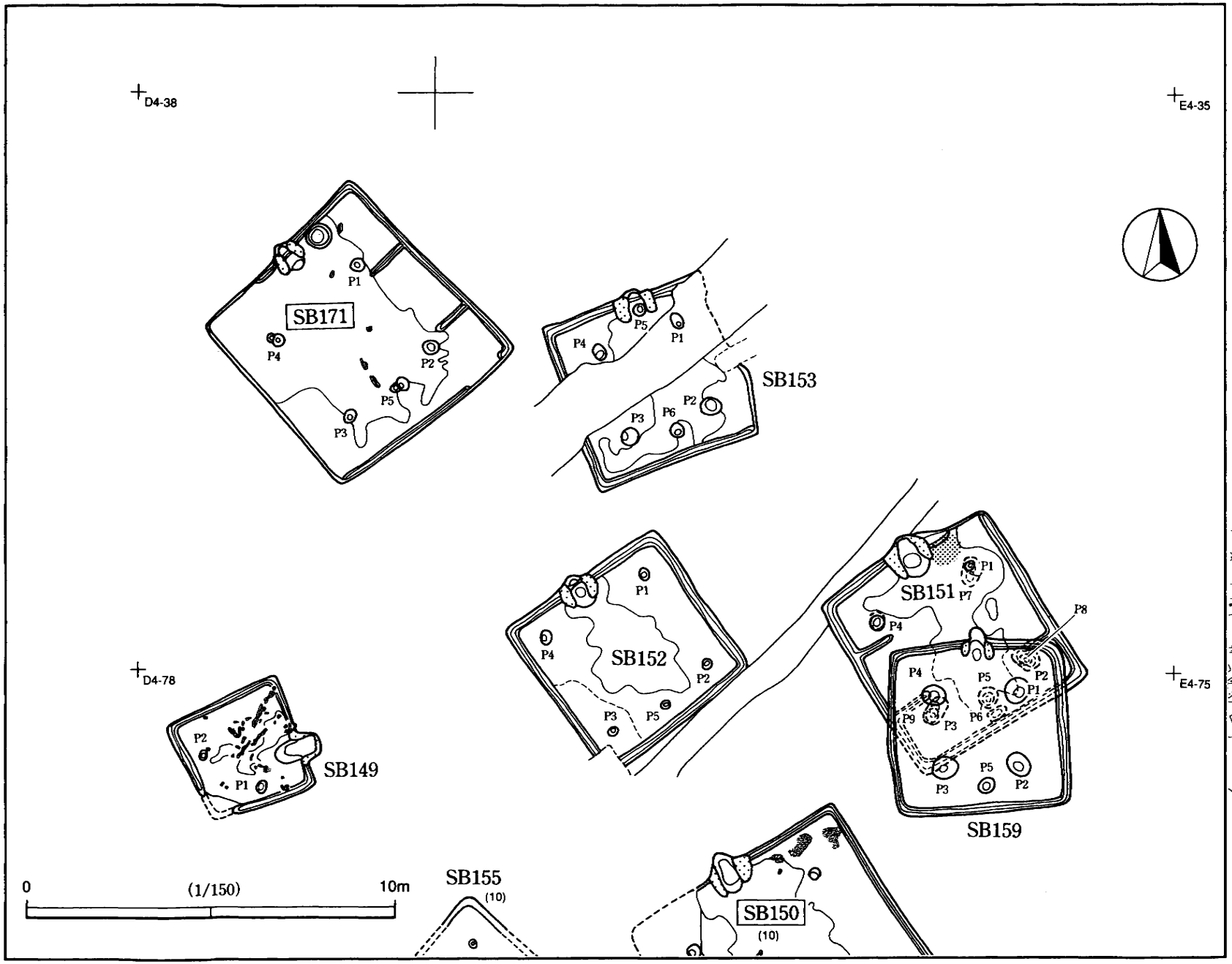


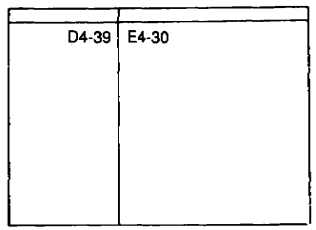


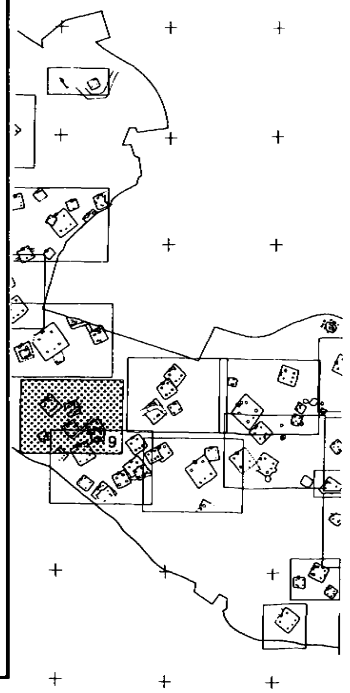
第14図　竪穴住居跡ブロック別図7



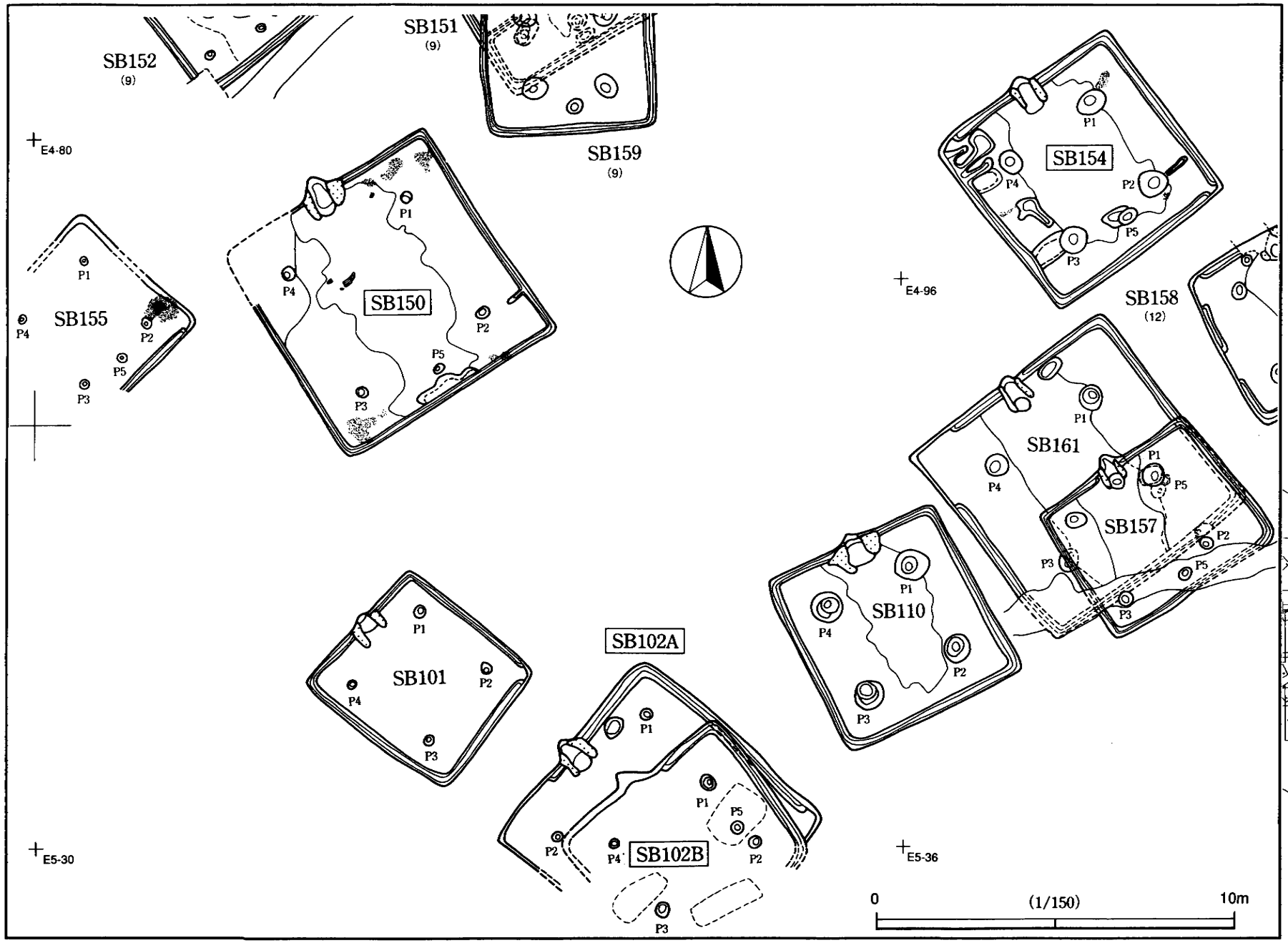
第15図　竪穴住居跡ブロック別図8



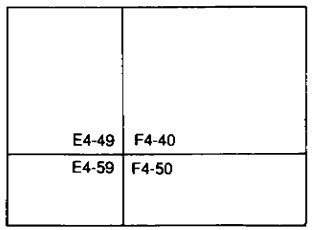


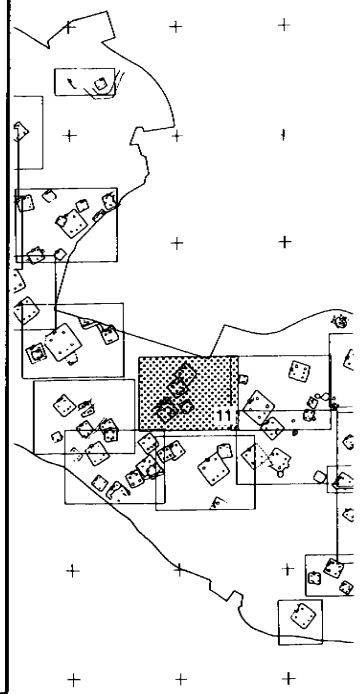


第16図　竪穴住居跡ブロック別図9

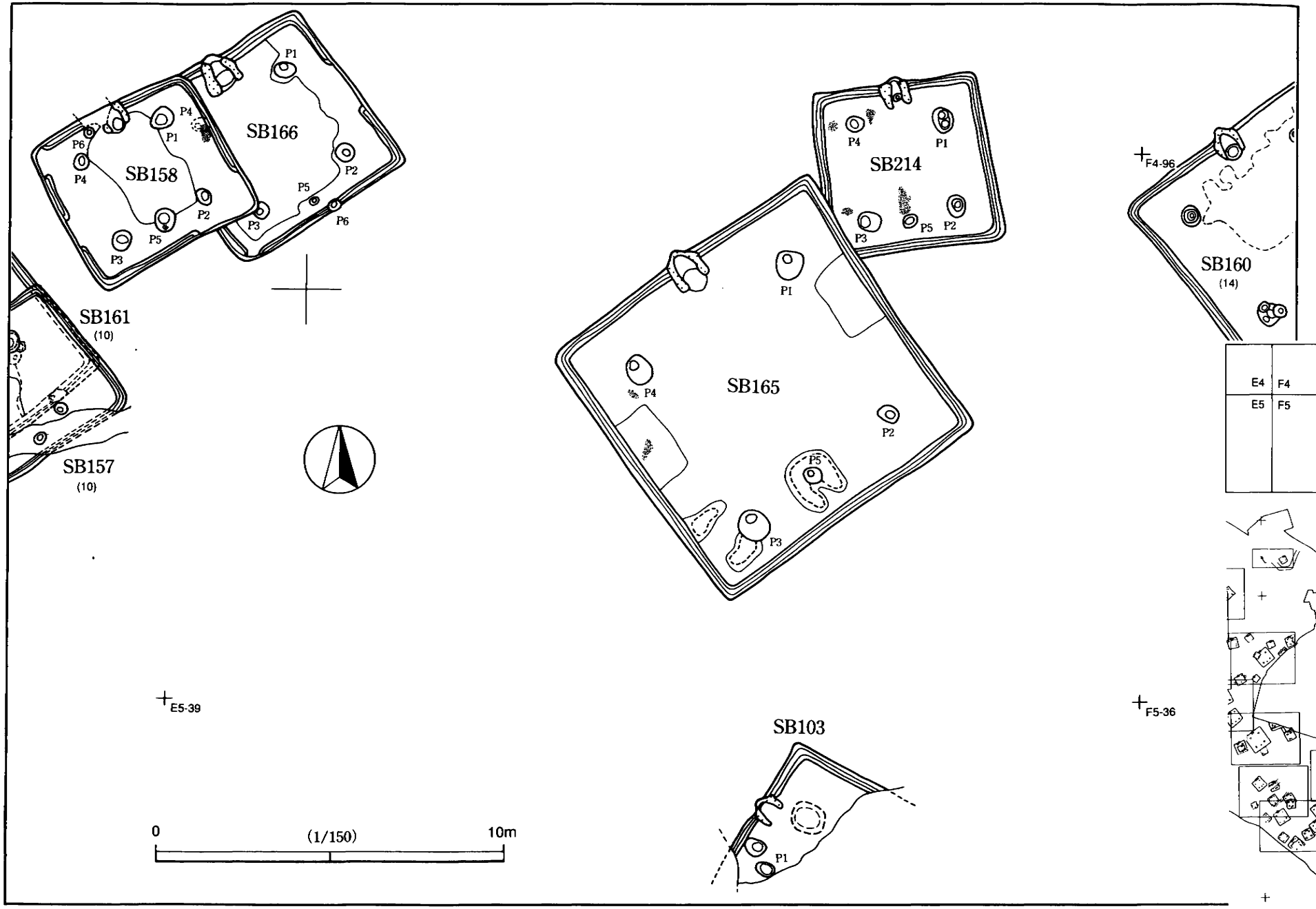


第17図　竪穴住居跡ブロック別図10

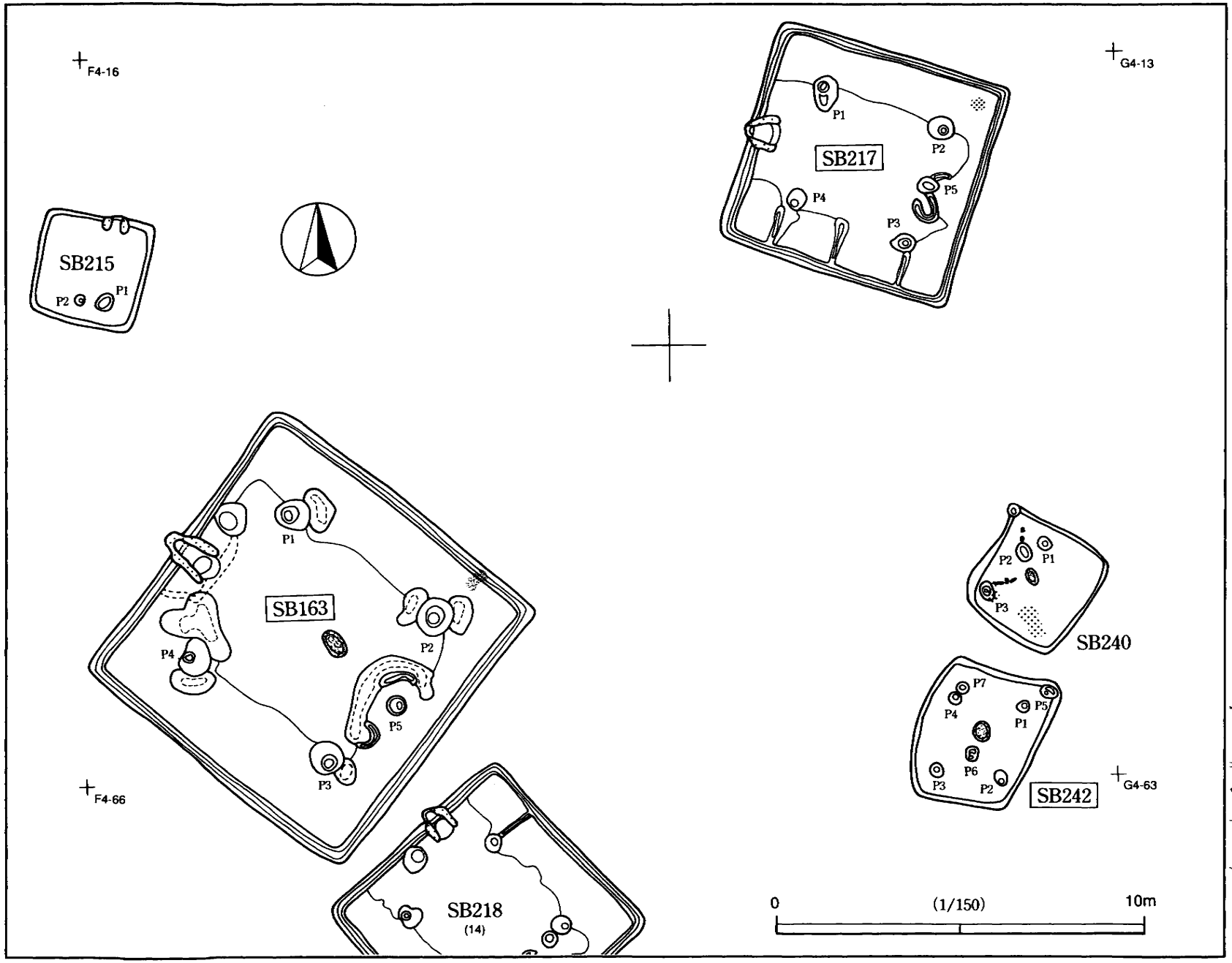




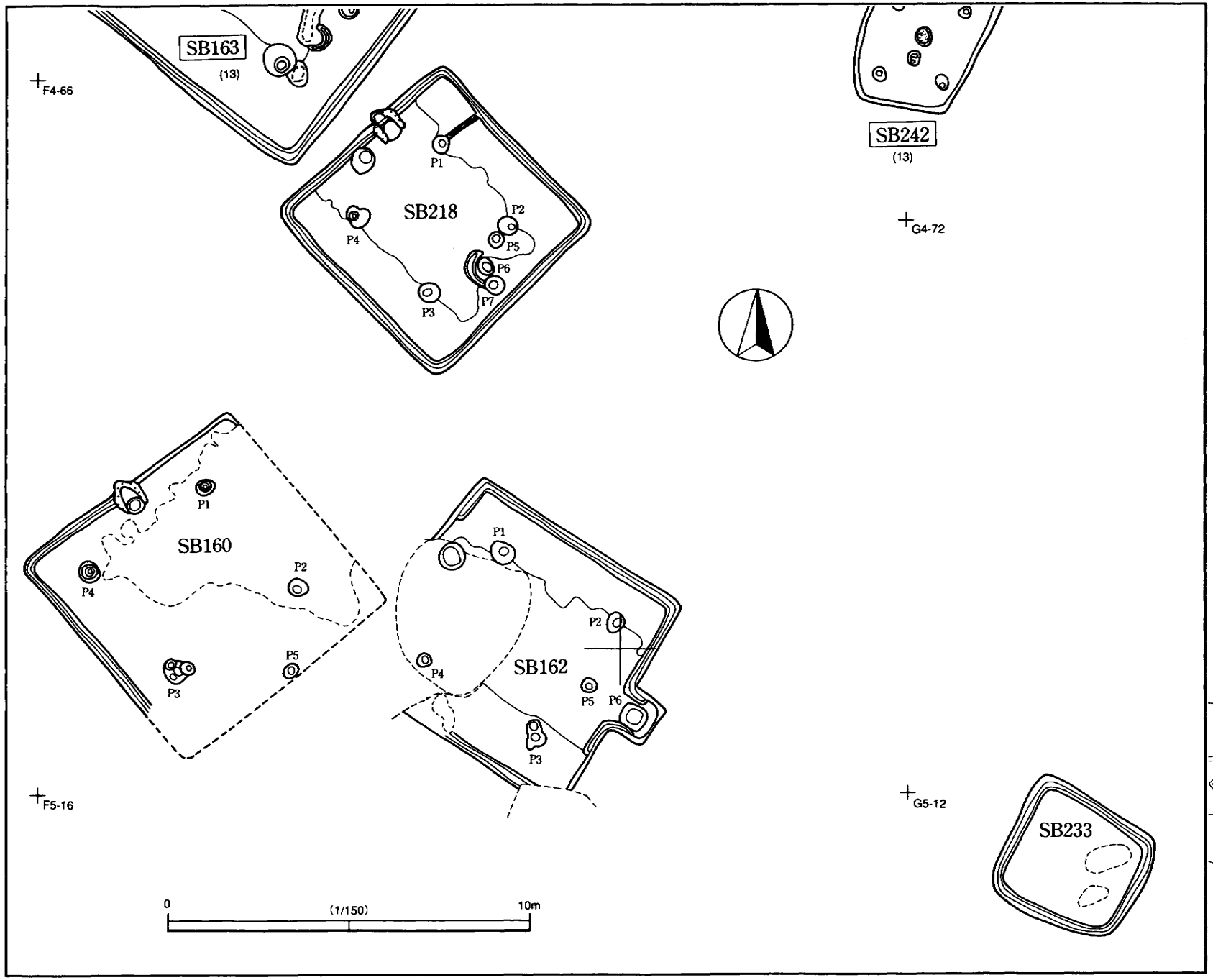
第18図　竪穴住居跡ブロック別図11



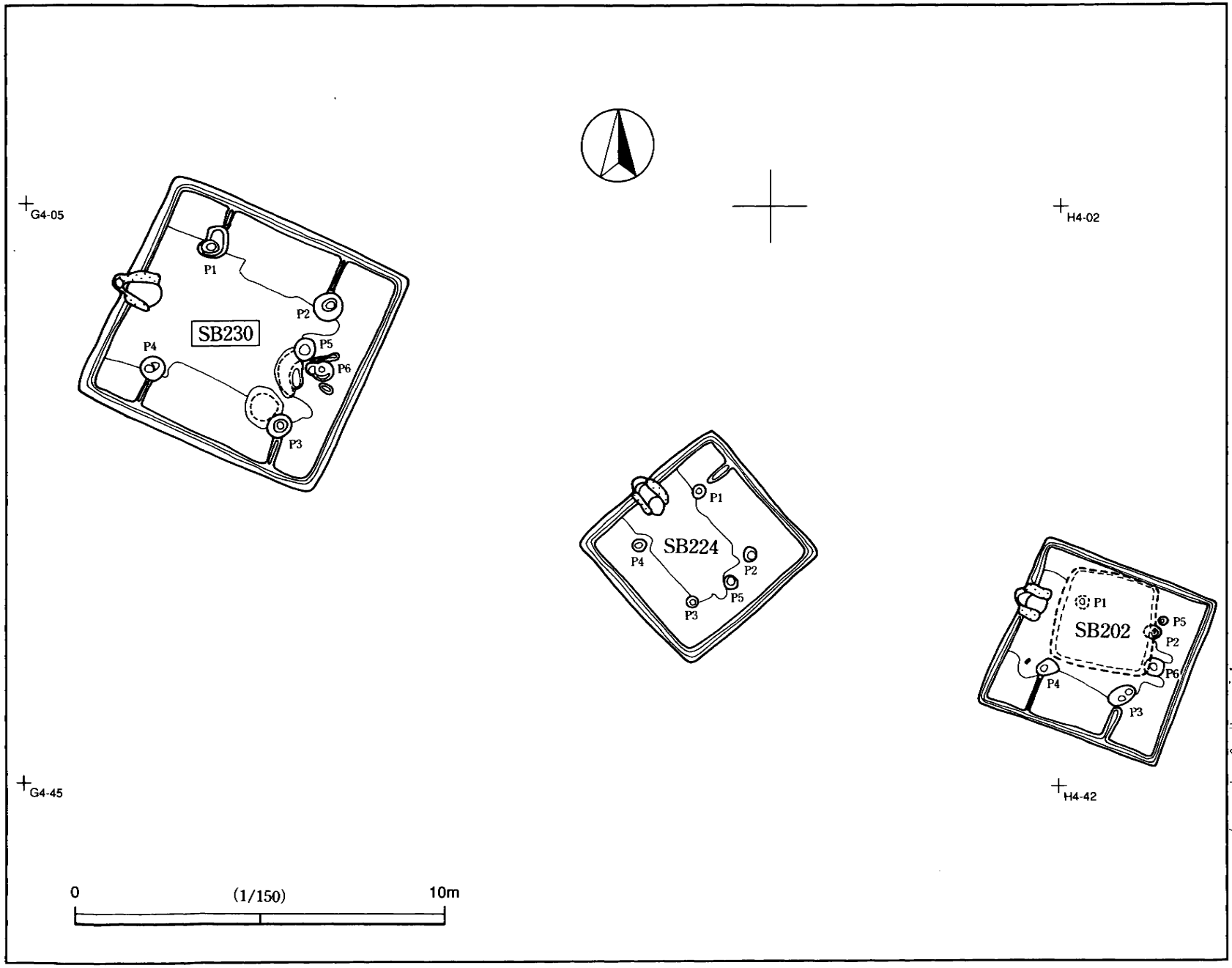
第19図　竪穴住居跡ブロック別図12

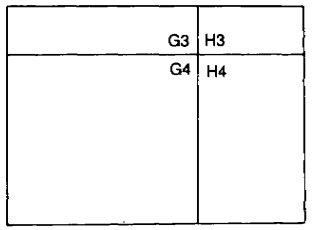


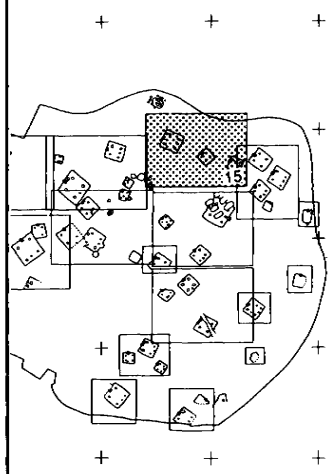
第20図　竪穴住居跡ブロック別図13



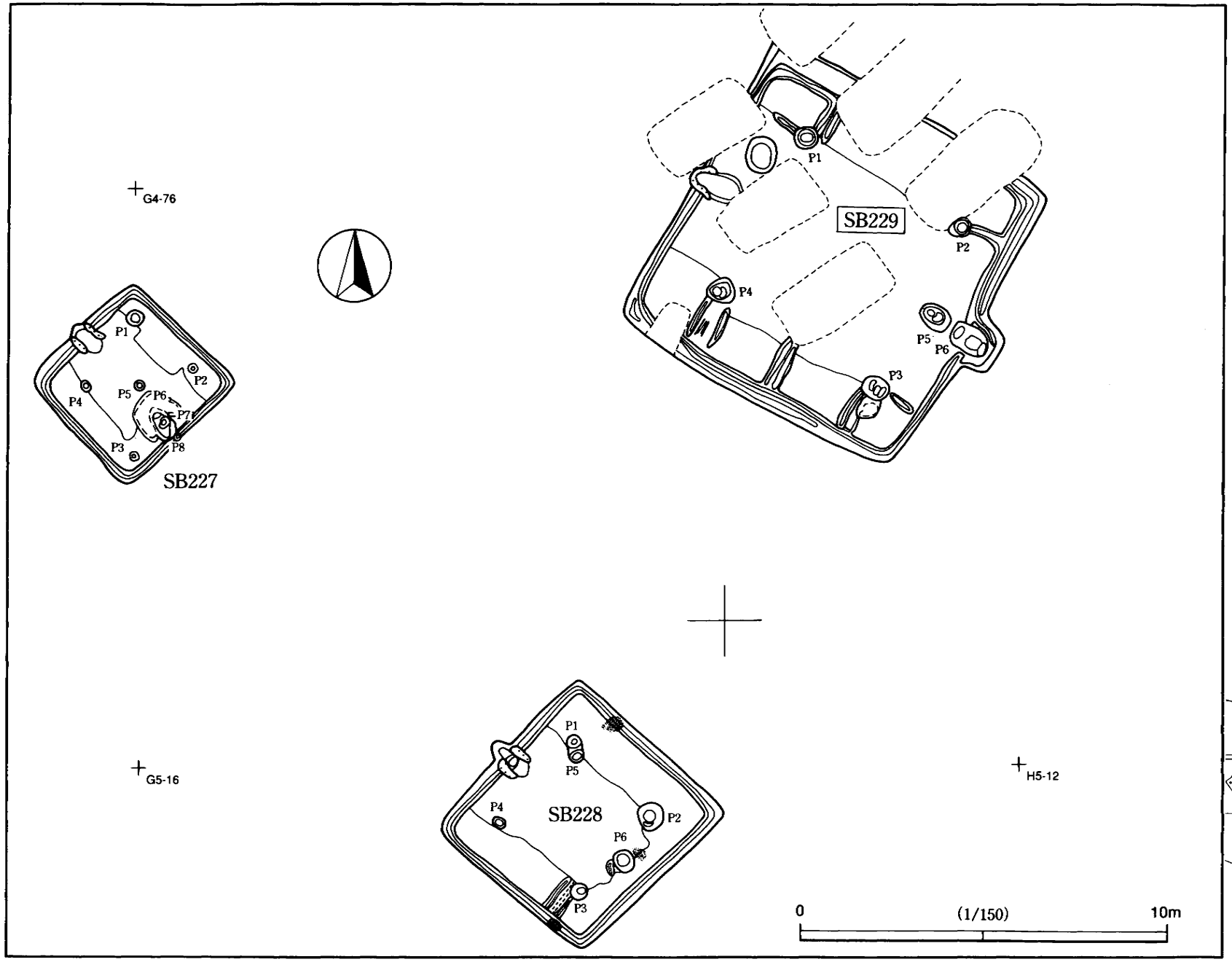
第21図　竪穴住居跡ブロック別図14



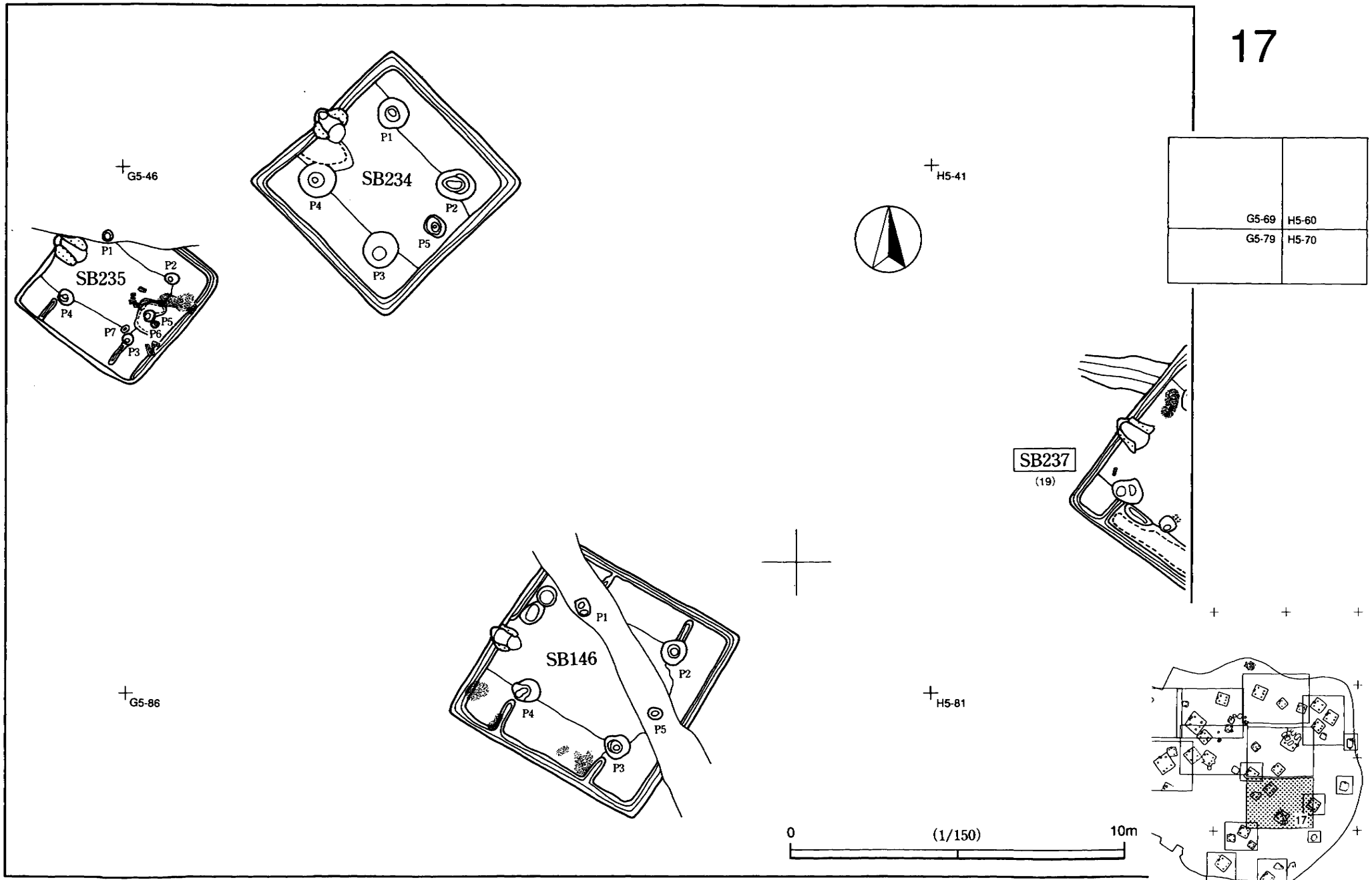




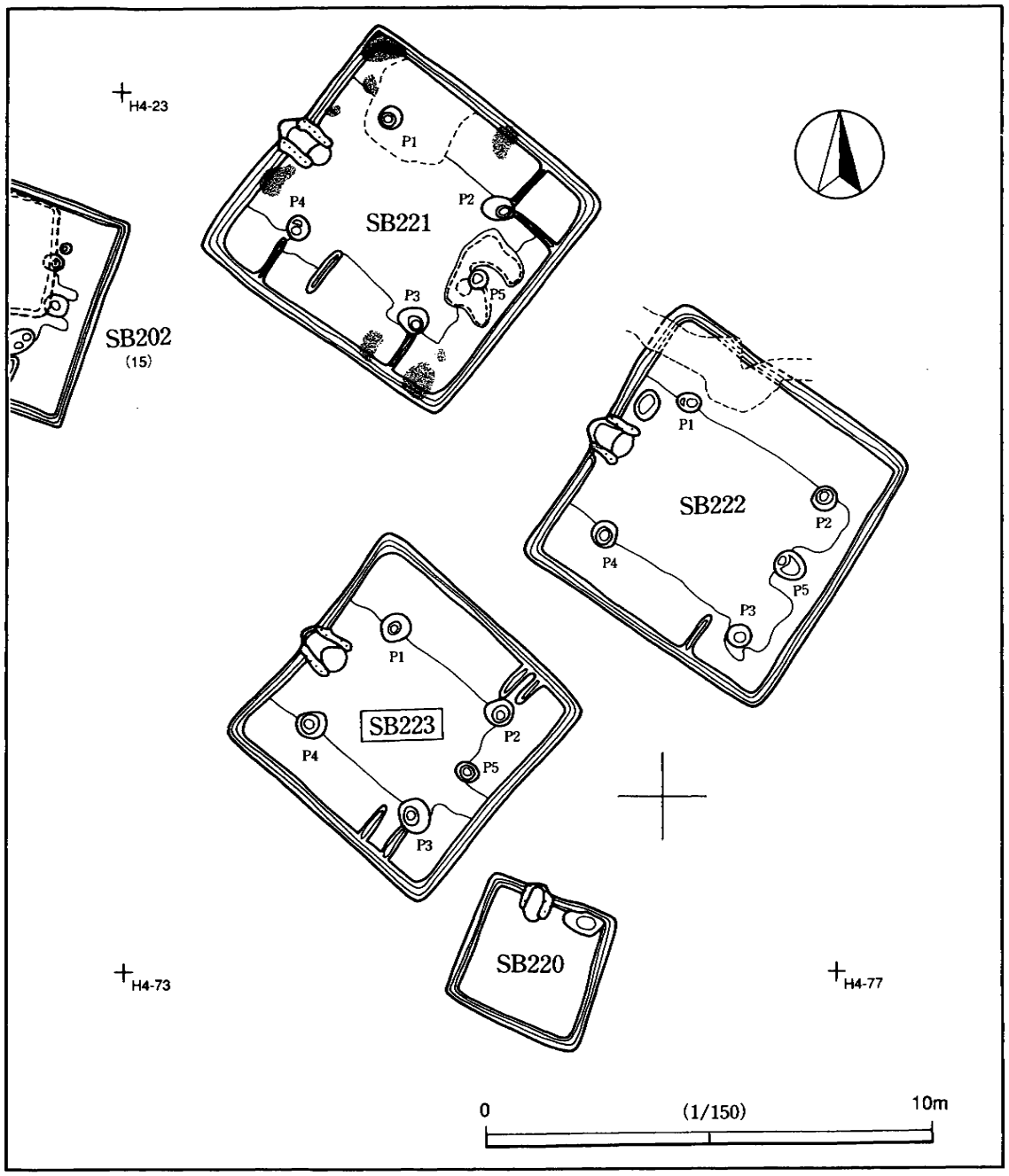
第22図　竪穴住居跡ブロック別図15

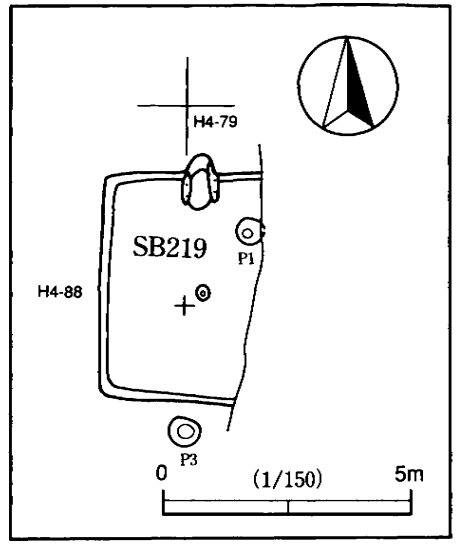


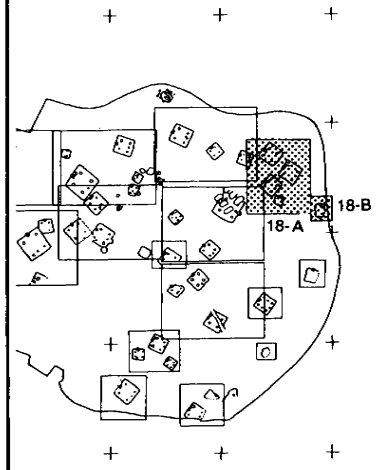
第23図　竪穴住居跡ブロック別図16

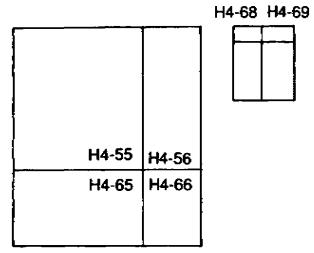


第24図　竪穴住居跡ブロック別図17

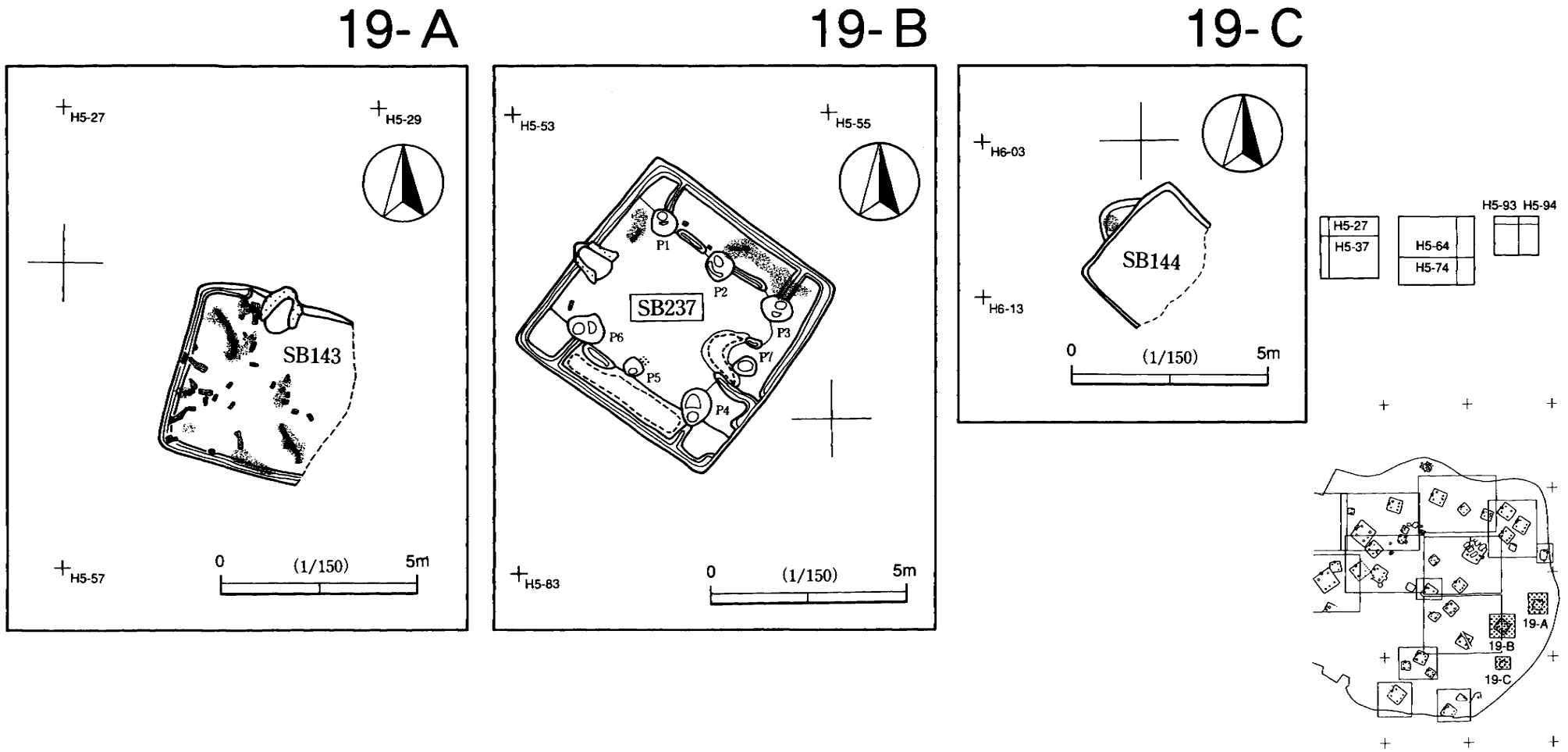




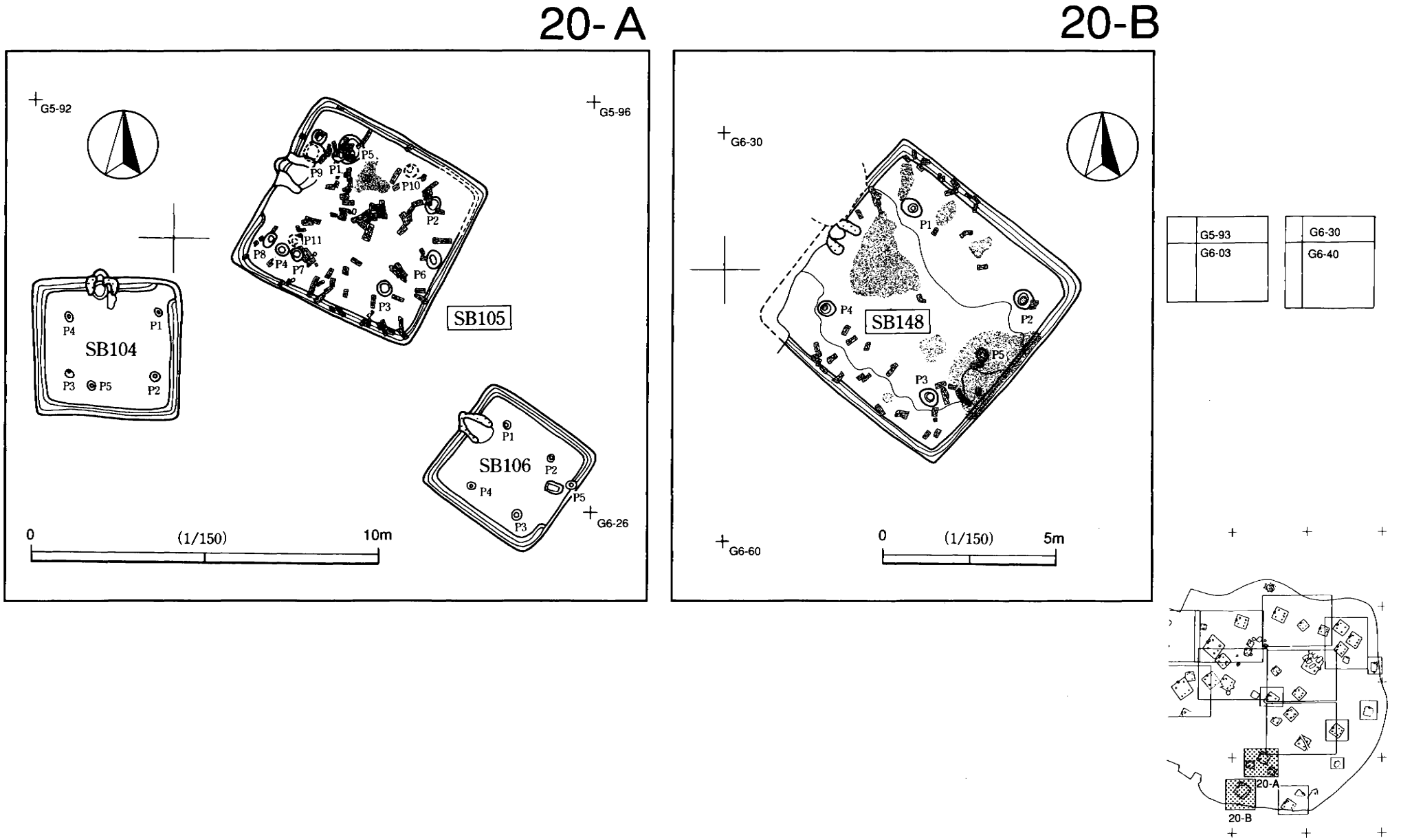




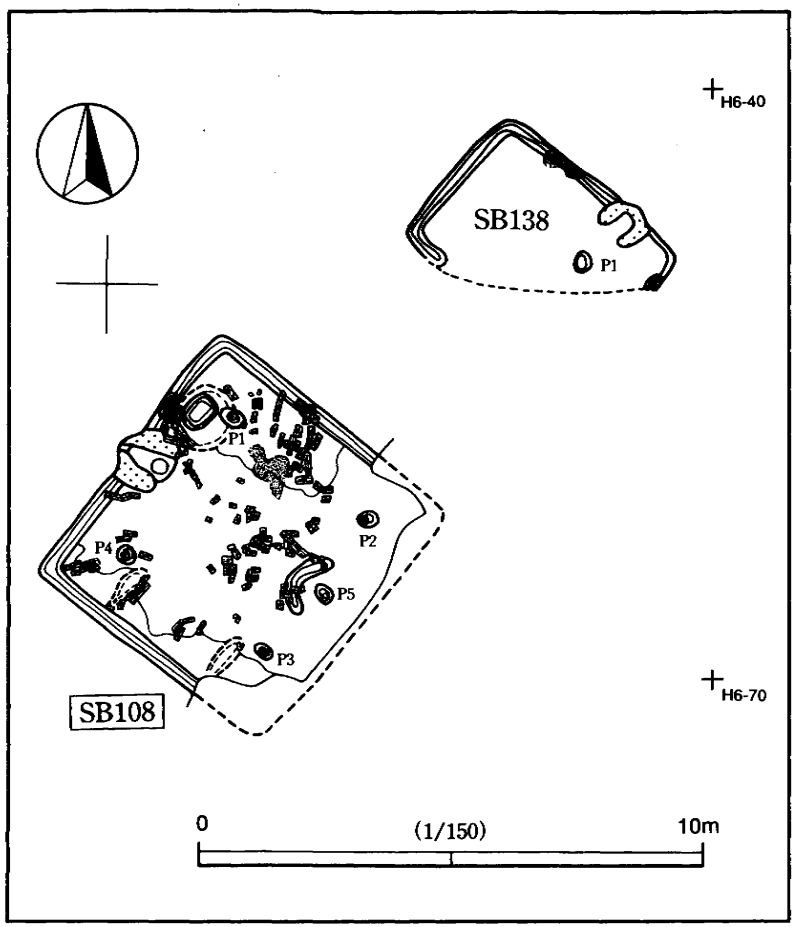
第25図　竪穴住居跡ブロック別図18

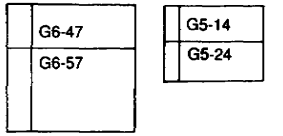


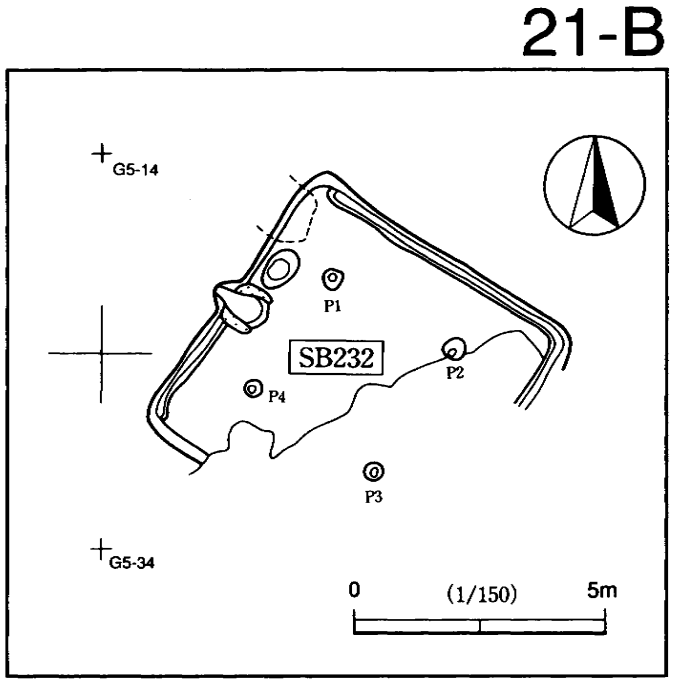
第26図　竪穴住居跡ブロック別図19

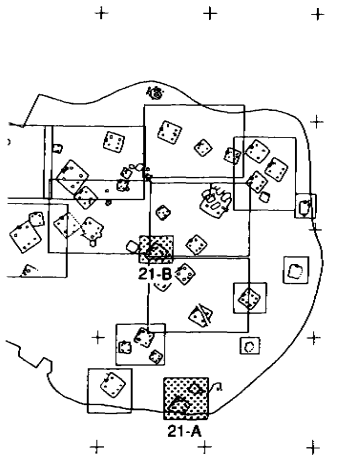


第27図　竪穴住居跡ブロック別図20









第28図　竪穴住居跡ブロック別図21

第2表　竪穴住居跡一覧表

（）復元計測値

遺構番号	位置	時期	重複	主軸方向	規模(m) 長軸×短軸	床面積 (㎡)	壁高(cm) 最大～最小	壁溝(cm) 最大～最小	柱穴深 (cm)	貯蔵穴(cm) 長軸×短軸×深さ	梯子ピット	カマド 方位	遺物 ()須恵器	遺構挿図 No.	遺物挿図 No.	図版 No.	備考
SB002	B1-19	不明	SB003に切られている	N-43°-W	－×－	－	50.8～35.9	なし	P1-32.3	不明	不明	N-35°-W	鉄鏃 1	8	212	3-1	大部分をSB003に破壊される 実測土器なし
SB003	C1-00	6C後～7C前	SB002・007を切っている	N-71°-W	6.6×6.5	39.6	51.8～2.4	なし	P1-46.5 P2-80.7 P3-71.0 P4-55.0 P5-39.9 P6-16.7 P7-48.7 P8-68.2 P9-18.7 P10-76.0	1 右袖、長方形 69×62×29	有	N-60°-W	杯 2 鉢 1 甕 3 土玉 4 支脚 1	8	78 － － 201 205	3-2	焼失住居
SB005	B1-37	6C前	SB015を切りSB006に切られている	－	－×－	－	55.7～8.4	なし	なし	不明	不明	不明	甕 1	8	79	3-3	床面に焼土(若干)
SB006	B1-38	6C後	SB005・014・015を切っている	N-42°-W	7.7×7.6	49.5	94.0～0.4	一部検出されず 8.3～0.2	P1-94.7 P2-69.0 P3-50.8 P4-76.5 P5-22.5 P6-31.0 P7-38.5 P8-75.5 P9-26.8 P10-7.7	1 右袖、長方形 84×75×45.4	有	N-35°-W	杯 2 壺 1 椀 1 甕 4 甑 1 土玉 1 手捏 1 鉄鏃 1	8	80 － － － － 201 195 212	4-1	南東壁中央に張り出しを持つ 炉底滓112.80g出土
SB007	C1-20	6C前	SB003に切られている	N-43°-W	6.0×5.2	25.8	47.2～21.1	なし	P1-49.6 P2-46.9 P3-46.8 P4-63.5 P5-53.5 P6-17.6 P7-95.7 P8-19.1 P9-44.3	1 右袖、楕円形 106×61×33.8	なし	N-43°-W	杯 3 甑 1	8	81	4-2	床面に焼土(若干)
SB008	C1-12	6C後～7C前	－	N-68°-W	8.7×8.2	55.0	71.9～24.7	全周 18.2～3.7	P1-69.7 P2-74.6 P3-65.3 P4-70.1 P5-22.4	1 右袖、楕円形 137×87×48.2	有	N-64°-W	蓋 (1) 杯 (2)11 高杯 7 壺 1 鉢 3 甕 9 甑 3 土玉 3 勾玉 1 玉類 2 土製品 1 手捏 2 支脚 1 砥石 1	8 45	82 83 － － － － － 201 200 199 197 195 205 214	4-3 5-1	間仕切り溝2 床面に焼土(若干) 炉底滓44.40g出土
SB014	B1-39	不明	SB006に切られている	－	－×－	－	22.7～0.1	なし	P1-15.54	不明	不明	不明	なし	8	－	－	大部分をSB006に破壊される 実測土器なし
SB015	B1-27	古墳時代	SB005・006に切られている	－	－×－	－	34.1～0.14	なし	P1-65.8 P2-65.8	不明	不明	不明	なし	8	－	－	実測土器なし
SB016	B1-88	6C後～7C前	－	N-47°-W	4.7×(4.7)	(19.1)	77.1～12.4	全周せず 10.8～3.9	P1-12.5 P2-26.6 P3-14.9	なし	なし	N-47°-W	蓋 (1) 杯 (4)4 鉢 1 椀 1 甕 3 甑 1 土玉 5 支脚 1 砥石 1	9 46	84 85 － － － － 201 205 214	5-2 5-3	焼失住居
SB020	C1-75	6C中～6C後	－	N-46°-W	5.9×5.7	27.2	64.0～24.1	北西コーナーで一部かける 14.3～0.7	P1-59.6 P2-56.8 P3-62.5 P4-42.0 P5-34.5	なし	有	N-49°-W	杯 9 甕 4 皿 1 玉類 1 鉄鏃 1	9 47	86 － － 199 212	6-1 6-2	

遺構番号	位置	時期	重複	主軸方向	規模(m) 長軸×短軸	床面積 (㎡)	壁高(cm) 最大～最小	壁構(cm) 最大～最小	柱穴深 (cm)	貯蔵穴(cm) 長軸×短軸×深さ	梯子ピット	カマド 方位	遺物 ( )須恵器	遺構挿図 No.	遺物挿図 No.	図版 No.	備考
SB021B	C1-82	6C後～7C前	SB021A(縄文住)を切っている	N-35°-W	(4.8)×(4.5)	(17.8)	47.7～4.0	なし	P1-32.4 P2-39.9 P3-31.8 P4-85.6 P5-27.8	なし	有	N-22°-W	鉢 1	9	87	-	
SB022	D2-01	6C前～6C中	-	N-22°-W	5.9×5.8	28.7	50.3～19.4	全周 17.2～1.0	P1-65.7 P2-102.7 P3-71.2 P4-91.0 P5-40.5 P6-39.9 P7-17.0	なし	有	N-23°-W	蓋 (1) 杯 1 高杯 1 甕 1	10	88	6-3	床面に焼土(若干) カマド前面に山砂 貼床
SB023A	C2-39	6C後	SB023B・023Dに切られている	N-44°-W	8.4×(8.1)	(57.3)	60.3～26.8	北と東のコーナーで一部かける 14.6～2.7	P1-70.2 P2-79.2 P3-76.2 P4-80.3 P5-46.1 P6-41.6	なし	有	N-38°-W	杯 3 高杯 1 甕 1 支脚 1	11 48 49	89 - - 205	7-1 7-2	床面に焼土(若干)
SB023B	D2-21	7C後	SB023A・023Cを切っている	N-34°-W	6.2×6.0	30.0	73.5～2.9	全周 12.0～0	P1-69.7 P2-71.3 P3-88.7 P4-64.6 P5-14.8	なし	有	N-42°-W	杯 (1)2 鉢 1 甕 3 甑 1 支脚 1	11 48 49	90 - - 205	7-3 8-1	焼失住居 貼床
SB023C	D2-21	6C後～7C前	SB023Bに切られている	N-40°-W	-×-	-	35.0～14.2	なし	P1-74.5 P2-42.3	不明	なし	N-38°-W	蓋 (1) 杯 4 高杯 1 甕 3 甑 1 支脚 1	11 48 49	91 - - - - 205	8-2 8-3	焼失住居
SB023D	C2-38	8C	SB023Aを切っている	N-16°-W	5.4×4.9	21.7	57.5～22.4	全周 14.8～2.0	P1-57.9 P2-55.9 P3-33.3 P4-67.2	なし	なし	N-12°-W	蓋 (1) 杯 (1) 高杯 1 鉄鏃 1	11 48 49	92 - - 212	9-1	焼失住居
SB024	C2-18	6C中～6C後	-	N-48°-W	8.1×8.0	55.8	58.7～3.8	一部検出されず 10.3～0.1	P1-66.3 P2-76.5 P3-79.7 P4-49.0 P5-38.9 P6-34.9 P7-53.7 P8-22.3 P9-65.2 (床下) P10-61.6 (床下) P11-72.9 (床下) P12-55.5 (床下) P13-59.6 (床下) P14-43.0 (床下)	1 右袖,楕円形 11×10.5×35 P10は貼床以前の貯蔵穴	有	N-48°-W	杯 (1)10 高杯 1 長頸壺 (1) 鉢 1 甕 2 土玉 1 紡錘車 2 手捏 1 支脚 1 土製円板1	11 50	93 - - - 201 198 195 205 217	9-2	建替住居 貼床
SB025	D2-12	7C前	SB026を切っている	N-36°-W	(5.0)×4.8	20.8	27.1～0.2	南南東で一部かける 10.0～1.2	P1-77.8 P2-82.3 P3-62.6 P4-81.4 P5-48.8 P6-20.8	なし	なし	N-45°-W	高杯 1 支脚 2	10 11	94 205	9-3	炉底滓+小鉄塊 91.20g出土
SB026	D2-03	6C後	SB025・SD001に切られている	N-30°-W	5.8×5.6	(27.2)	41.9～1.5	全周 13.0～0.1	P1-26.2 P2-44.9 P3-42.5 P4-24.8 P5-56.7 (床下) P6-31.4 (床下) P7-44.9 (床下) P8-34.8 (床下) P9-61.3 (床下) P10-60.4 (床下)	1北東コーナー,長方形(貼床前) 79×64×32.7	有(貼床前)	N-34°-W	鉢 1	10 11	95	10-1	建替・焼失住居 貼床
SB027	D2-55	6C後～7C前	-	N-16°-W	5.6×5.4	21.7	72.0～56.9	全周 12.7～4.2	P1-79.0 P2-65.0 P3-80.9 P4-74.2 P5-20.2	なし	有	N-16°-W	高杯 1 鉢 1 甕 3 土玉 3 手捏 1 支脚 2	13 51	96 - - 201 195 205	10-2 10-3	床面に焼土
SB028	D2-71	7C中	-	N-41°-W	7.3×7.2	45.7	61.2～18.3	北・東・西コーナーで一部かける 10.7～0.2	P1-70.2 P2-67.0 P3-83.2 P4-62.1 P5-60.8	なし	有	N-41°-W	蓋 (1) 杯 (1)4 甕 3 土玉 3 支脚 1	12	97 - - 201 205	11-1	床面に焼土(若干) 北コーナーに山砂(若干)

遺構番号	位置	時期	重複	主軸方向	規模(m) 長軸×短軸	床面積 (㎡)	壁高(cm) 最大～最小	壁構(cm) 最大～最小	柱穴深 (cm)	貯蔵穴(cm) 長軸×短軸×深さ	梯子ピット	カマド 方位	遺物 ()須恵器	遺構挿図 No.	遺物挿図 No.	図版 No.	備考
SB029	E1-50	6C後～7C前	－	－	－×－	－	38.5～10.3	なし	不明	不明	不明	W-34°-S	杯 (1)5 高杯 1 甕 4 支脚 1	9 52	98 － － 205	11-2 11-3	大部分を削平されている
SB030	E1-52	6C後～7C前	－	N-26°-W	4.0×(3.5)	11.9	61.0～15.7	なし	P1-22.0 P2-32.5	なし	なし	N-20°-W	杯 (1)7 高杯 8 甕 5 甑 2	9 53	99 100	12-1 12-2	SD003(溝)に三方を囲われる
SB031	C2-78	6C後～7C前	SB032に切られている	N-33°-W	5.9×5.7	28.3	41.4～6.7	カマド両側及東南・南の一部かける 0.8～16.3	P1-46.0 P2-53.4 P3-56.5 P4-43.6 P5-31.7 (床下)	1 左袖,楕円形 (貼床前) 11.5×7.0×15.5	なし	N-29°-W	杯 (1)1 甕 3 支脚 1	12	101 － 205	12-3	床面に焼土(若干) 建替住居 貼床
SB032	C2-99	7C前	SB031を切っている	N-43°-W	7.4×7.3	47.3	61.0～12.0	全周せず 12.2～0.7	P1-33.0 P2-54.5 P3-52.5 P4-68.3 P5－－ (床下) P6-45.0 P7-42.5 P8-45.8	1 右袖,長方形 (貼床前) 10.2×7.0×66.1	有	N-38°-W	杯 5 椀 2 甕 5 土玉 1 手捏 1 支脚 2 砥石 1	12 54	102 － － 201 195 205 214	12-3	床面中央に焼土 建替住居 貼床 炉底滓 13.98g出土 炭化種子2(スモモ)出土
SB033	D2-93	古墳時代以降	－	N-35°-W	7.0×6.3	(36.6)	141.8～12.3	北コーナー・カマド左でかける 8.1～0.4	P1-72.3 P2-69.7 P3-27.3 P4-60.9 P5-70.2 (床下) P6-61.4 (床下) P7-65.8 (床下) P8-8.3 (床下)	なし	なし	N-23°-W	杯 1 椀 2 甕 2	12 55 56	103	13-1 13-2	本住居廃棄後のくぼみを火葬墓(平安時代)として利用している 床面に山砂(若干) 貼床 実測土器は10C後～11C
SB034	D3-06	7C後	SD002Aに切られている	N-27°-W	4.8×4.7	19.2	45.5～30.0	全周 12.6～3.0	P1-53.6 P2-51.0 P3-40.0 P4-45.3 P5-11.8 P6-12.6	なし	有	N-25°-W	杯 1 鉢 1 甕 2	13	104	13-3	焼失住居
SB035	D3-55	7C前	－	N-38°-W	7.5×7.2	45.8	56.8～21.9	北西・東南をかく 9.0～2.2	P1-96.3 P2-89.4 P3-59.8 P4-94.4 P5-8.6 P6-19.4	1 左袖,楕円形 83×57×31.8	有	N-34°-W	蓋 (1) 杯 (2)5 高杯 1 鉢 1 甕 3 土玉 3 玉類 2 手捏 3 刀子 1	14	105 － － － － 201 199 195 208	14-1	焼失住居 スラグ 1.12g出土
SB036	D3-09	不明	－	N-52°-W	3.5×3.4	8.7	38.3～27.5	全周 9.3～2.8	なし	なし	なし	N-46°-W	石製模造品1	13	217	14-2	実測土器なし 炭化種子2(スモモ)出土
SB037	D3-02	6C中	－	N-20°-W	5.2×5.1	20.6	54.8～24.4	全周 17.3～0.3	P1-54.2 P2-56.1 P3-56.2 P4-67.4 P5-60.5 (床下)	なし	なし	N-22°-W	甕 1 土玉 2 玉類 2	12	106 201 199	14-3	貼床 床下に土壙あり
SB038	D3-34	7C中～7C後	－	N-26°-W	7.4×7.2	42.6	61.8～30.5	全周 16.1～5.7	P1-67.7 P2-85.0 P3-62.4 P4-77.4 P5-37.8	なし	有	N-35°-W	蓋 (2) 杯 (2)1 甕 3 甑 1 土玉 2 玉類 1 土製品 1 支脚 3 鉄鏃 3	14	107 － － － 201 199 197 205 212	15-1	
SB039	D3-53	7C中～7C後	SB040を切っている	N-2°-W	5.2×5.0	20.2	39.7～27.7	全周 9.7～1.7	P1-59.5 P2-55.9 P3-58.0 P4-57.7 P5-33.8	なし	有	N-29°-W	蓋 (1) 杯 (2)4 高杯 1 椀 1 甕 8 甑 2 土玉 2 小札 1	14 57	108 109 － － － － 201 211	15-2 15-3	梯子ピット周辺に焼土 炉底滓 43.92g出土

遺構番号	位置	時期	重複	主軸方向	規模(m) 長軸×短軸	床面積 (㎡)	壁高(cm) 最大～最小	壁溝(cm) 最大～最小	柱穴深 (cm)	貯蔵穴(cm) 長軸×短軸×深さ	梯子ピット	カマド 方位	遺物 ()須恵器	遺構挿図 No.	遺物挿図 No.	図版 No.	備考
SB040	D3-42	6C後	SB039に切られている	N-32°-W	7.0×－	－	58.5～18.3	北西～南なし 7.2～0.5	P1-56.1 P2-55.1 P3-52.0 P4-48.3	なし	なし	N-28°-W	杯 (1)2 高杯 2 鎌 1	14	110 － 209	16-1	焼失住居
SB041	D3-79	不明	SB045を切っている	N-63°-W	3.2×2.8	8.2	14.0～3.2	なし	なし	なし	なし	N-66°-W	土玉 1	13	201	16-2	焼失住居 実測土器なし
SB042	D3-22	6C後～7C前	SB044に切られている	N-21°-W	4.1×－	－	8.7～0.1	北西～南西は不明 15.4～3.7	P1-43.3 P2-44.1 P3-51.8 P4-34.9	なし	なし	N-22°-W	蓋 (1) 杯 1	14	111	16-3	炭化種子2(不明)出土
SB043	D1-95	6C後～7C前	SD001に切られている	N-44°-W	5.7×5.7	27.7	40.8～1.0	カマド右袖側・北東の一部かける 10.2～0.9	P1-80.5 P2-63.9 P3-65.0 P4-53.2	1 右袖、円形 76×67×34.3	なし	N-40°-W	杯 (2)3 高杯 3 鉢 2 椀 1 甕 2 土玉 8 鉄鏃 2 耳環 1	10	112 － － － － 201 212 213	17-1	床面に焼土 貼床
SB044	D3-21	7C中～7C後	SB042を切っている	N-22°-W	8.4×－	－	57.4～12.1	北西～南西なし 15.8～3.0	P1-58.5 P2-51.6 P3-57.1 P4-66.1 P5-24.9 P6-48.3	1 右袖、長方形 83×63×48.9	有	N-29°-W	杯 (1)3 高杯 3 甕 3 玉類 3 手捏 1 土製品 2 支脚 1	14	113 114 － 199 195 197 205	17-2 17-3	床面に焼土 炭化種子4(スモモ)出土
SB045	D2-79	6C後～7C前	SB041に切られている	N-38°-W	8.2×8.1	57.4	52.5～23.3	全周 8.9～1.1	P1-87.5 P2-109.3 P3-97.4 P4-115.8 P5-39.1	なし	有	N-27°-W	甑 1 土玉 4 支脚 2 金環 1	13	115 201 205 206 213	18-1	カマド左袖周辺に山砂
SB046	D2-58	6C後～7C前	－	N-40°-W	(3.8)×3.8	(12.0)	3.4～1.2	なし	なし	1 右袖、円形 50×44×21.5	なし	N-45°-W	蓋 (3) 杯 13 高杯 1 鉢 1 椀 2 甕 6 甑 2 土玉 2 紡錘車 1 支脚 1	13 58	116 117 － － － － － 201 198 206	18-2 18-3	
SB050	E2-61	6C中～6C後	－	N-24°-W	3.7×3.6	10.3	50.8～24.5	1/2なし 4.8～1.1	P1-22.5	1 右袖、楕円形 58×42×34.5	有	N-18°-W	杯 3 高杯 4 壺 1 鉢 1 甕 13 甑 5 支脚 1	13 59	118 119 120 － － － 206	19-1 19-2	炉底滓 34.36g出土
SB072	D1-80	不明	－	N-29°-W	(4.5)×4.3	(17.7)	14.5～3.8	なし	なし	なし	なし	N-25°-W	なし	10	－	19-3	床面に焼土 実測土器なし
SB075	D3-97	6C後	SB111に切られている	N-21°-W	6.1×5.9	29.5	64.8～0	全周 8.4～0.4	P1-20.6 P2-25.0 P3-45.0 P4-51.8 P5-56.2 P6－－ P7－－ P8－－	1 左袖、円形 70×69×68.5	有	N-21°-W	甕 3	15	121	20-1	床面に焼土(点在) 建替住居
SB101	E5-12	7C後	－	N-52°-W	4.8×4.5	16.9	60.4～14.2	東コーナーでかける 7.1～1.6	P1-23.6 P2-59.4 P3-48.7 P4-62.8	なし	なし	N-45°-W	杯 1	17	122	20-2	
SB102A	E5-24	7C前	SB102Bを切っている	N-52°-W	－×－	－	55.7～5.3	北西～東コーナーまでなし 7.4～1.0	P1-10.2 P2-20.2	1 右袖、楕円形 63×50×64.3	なし	N-44°-W	杯 3 甕 1 甑 2	17 60	123	20-3	建替住居 102Bから102Aへ建替 貼床
SB102B	E5-24	7C前	SB102Aに切られている	N-40°-W	－×－	－	10.2～9.0	削平のため消失部分あり 5.0～0.2	P1-53.0 P2-39.2 P3-53.0 P4-48.6 P5-33.6	なし	不明	N-43°-W	なし	17 60	－	20-3	実測土器なし 102Bから102Aへ建替
SB103	F5-33	8C	－	N-60°-W	－×－	－	25.9～5.5	3.1～1.2	P1-26.4	1 左袖、楕円形 60×45×34.6	不明	N-50°-W	長頸壺 (1) 甕 1	19	124	21-1	貼床 床下に土壙あり
SB104	G6-02	6C後	－	N-0°	4.2×4.0	12.3	41.5～10.3	北東コーナーで一部かける 8.2～0.2	P1-39.2 P2-29.9 P3-35.9 P4-19.8 P5-16.0	なし	有	N-0°	甑 1	27	125	21-2	カマドを補強している

遺構番号	位置	時期	重複	主軸方向	規模(m) 長軸×短軸	床面積 (㎡)	壁高(cm) 最大～最小	壁溝(cm) 最大～最小	柱穴深 (cm)	貯蔵穴(cm) 長軸×短軸×深さ	梯子ピット	カマド 方位	遺物 ()須恵器	遺構挿図 No.	遺物挿図 No.	図版 No.	備考
SB105	G5-94	6C後	—	N-63°-W	5.7×5.5	25.5	37.9～8.0	カマド左袖側一部かける 7.8～1.6	P1-49.7 P2-60.9 P3-47.0 P4-45.6 P5-28.6 P6-23.2 P7-30.7 P8-96.3 P9-37.7 (床下) P10-127.5 (床下) P11-49.7 (床下)	1 右袖、楕円形 50×38×60.6 P9は貼床以前の貯蔵穴	有	N-61°-W	杯 2 鉢 2 甕 3 甑 1 玉類 1 土製品 1 支脚 1 鎌 1	27 61	126 - - - 199 197 206 209	21-3	焼失住居 貼床
SB106	G6-15	7C後	—	N-52°-W	3.8×3.7	10.4	38.4～2.9	東南の方向一部かける 5.3～0.9	P1-7.5 P2-7.0 P3-9.0 P4-5.6 P5-9.2 P6-15.6	なし	有	N-52°-W	杯 1 高杯 1 甕 1	27	127	22-1	
SB108	G6-67	6C後	—	N-52°-W	6.1×(5.9)	(31.0)	35.9～5.5	削平により南西～北東なし 10.5～0.7	P1-53.1 P2-57.5 P3-74.9 P4-43.4 P5-22.1	1 右袖、長方形 76×63×34.1	有	N-52°-W	杯 2 高杯 1 甕 3 支脚 1	28 62	128 - - 206	22-2 22-3	柱痕あり 焼失住居 貼床 貼床以前に貯蔵穴・間仕切り溝2
SB110	E5-15	6C後～7C前	—	N-27°-W	5.5×5.3	23.7	51.4～6.0	全周 13.4～2.2	P1-85.8 P2-64.1 P3-54.3 P4-69.6	なし	なし	N-25°-W	甕 1 支脚 1	17	129 206	23-1	
SB111	D3-97	7C前	SB075を切っている	N-23°-W	3.7×3.1	7.7	24.5～3.9	全周 10.0～0.3	P1-41.4	1 (コーナー北東) 楕円形 53×33×11	なし	N-0°	杯 1 甕 1	15	130	23-2	
SB129	E2-72	7C前～7C中	—	N-43°-W	—×—	—	54.5～38.0	4.5～2.5	P1-47.2 (床下) P2-52.5 (床下) P3-59.5 (床下) P4-6.9 (床下)	なし	不明	N-46°-W	杯 1 高杯 1 甑 2 土玉 1 手捏 1 支脚 2 砥石 1	13	131 - - 201 195 206 214	23-3	建替住居 貼床
SB134	E2-53	7C前	—	N-24°-W	6.1×—	—	48.5～1.2	北～東なし 4.8～1.3	P1-95.4 P2-60.5 P3-65.9 P4-61.5 P5-43.4 P6-25.0 P7-34.7	1 右袖、円形 57×43×8.5	有	N-22°-W	杯 1 甕 1	13	132	24-1	北東側壁は全く遺存しない 焼失住居
SB138	G6-49	6C後	—	N-39°-E	—×—	—	35.0～7.8	6.8～2.1	P1-36.3	なし	不明	N-52°-E	甕 1	28	133	24-2	削平のため平面プラン確認できず
SB143	H5-38	6C後	—	N-14°-E	4.7×—	—	98.5～3.6	1/2検出出来ず 14.9～1.8	なし	なし	なし	N-32°-E	甕 3	26	134	24-3	焼失住居 炉底滓 34.36g出土
SB144	H6-04	7C前	—	N-49°-W	3.3×—	—	51.1～7.3	なし	不明	なし	不明	N-49°-W	高杯 1 手捏 1 板状土製品	26	135 195 217	25-1	1/2を削平
SB146	G5-79	7C前～7C中	SD008に切られている	N-60°-W	6.4×6.3	33.1	35.1～11.2	ほぼ全周 10.6～3.1	P1-67.6 P2-47.6 P3-70.0 P4-55.0 P5-16.1	2 右袖、楕円形 72×62×44.4 円形 57×56×50.9	有	N-58°-W	杯 4 甕 3 土玉 1 勾玉 1 玉類 1 支脚 1	24	136 - 201 200 199 206	25-2	床面に焼土(若干) 間仕切り溝4
SB148	G6-41	7C前	SK637に切られている	N-50°-W	(7.1)×7.0	(41.6)	42.4～0.2	カマド左側から西コーナーまでなし 10.5～1.1	P1-60.3 P2-67.1 P3-67.0 P4-55.4 P5-33.3	なし	有	N-53°-W	杯 7 高杯 2 鉢 2 椀 4 甕 1 甑 1 手捏 2 支脚 2	27 63	137 138 - - - 195 206	25-3	柱痕あり 焼失住居
SB149	D4-78	7C中～7C後	—	N-65°-E	3.1×3.1	7.3	21.4～1.8	南コーナーでかける 7.4～2.2	P1-15.6 P2-9.2	なし	なし	N-75°-W	支脚 1	16	206	26-1	実測土器なし
SB150	E4-82	7C中～7C後	—	N-32°-W	6.9×6.7	41.2	37.8～2.0	カマド左袖側～西コーナーまで未検出 11.4～1.6	P1-62.8 P2-74.6 P3-88.8 P4-53.4 P5-10.2	なし	有	N-28°-W	杯 (3)5 高杯 1 鉢 2	17 64	139	26-2 26-3	梯子ピットと壁の間に若干の高まりがある 床面壁近くに焼土 間仕切り溝1

遺構番号	位置	時期	重複	主軸方向	規模(m) 長軸×短軸	床面積 (㎡)	壁高(cm) 最大～最小	壁溝(cm) 最大～最小	柱穴深 (cm)	貯蔵穴(cm) 長軸×短軸×深さ	梯子ピット	カマド方位	遺物 ( )須恵器	遺構挿図 No.	遺物挿図 No.	図版 No.	備考
SB151	E4-63	7C後	SB159・SD021に切られている	N-31°-W	(5.8)×5.3	(24.1)	57.4～12.1	北側一部かける 11.1～2.5	P1-61.9 P2-63.2 P3-63.7 P4-54.9 P5-36.8 P6-15.1 (床下) P7-61.8 (床下) P8-50.9 (床下) P9-67.3 (床下)	なし	有	N-27°-W	盤 (3) 杯 (2)1 椀 1 甕 3 甑 1 土玉 1 玉類 1 刀子 1	16	140 - - - - 201 199 208	27-1	炭化種子3(スモモ)出土 間仕切り溝3 建替住居貼床
SB152	E4-61	7C後	—	N-36°-W	5.0×4.9	19.3	24.8～2.3	南コーナーでかける 11.5～2.5	P1-72.7 P2-52.8 P3-95.0 P4-74.4 P5-23.8	なし	有	N-36°-W	杯 (1)3 甕 1 手捏 1	16	141 - 195	27-2	
SB153	E4-51	6C中	SD020に切られている	N-19°-W	4.8×(4.8)	(19.0)	32.3～10.3	北東～東はなし 8.9～1.4	P1-67.1 P2-74.2 P3-81.5 P4-74.0 P5-40.0 P6-28.2	不明	有	N-19°-W	甕 1 土玉 1 紡錘車 1 支脚 1	16	142 201 198 206	27-3	
SB154	E4-87	7C後	—	N-38°-W	5.9×5.8	27.4	45.5～17.6	東・西各コーナーで一部かける 8.5～1.7	P1-59.0 P2-55.0 P3- — P4-75.0 P5-30.3	なし	有	N-39°-W	盤 (3) 杯 (1)1 高杯 (1)3 甕 2 鉄鏃? 1	17 65	143 - - - 212	28-1	床面は高まり浅い 掘り込みがある
SB155	E4-90	6C中	—	N-46°-W	—×—	—	22.4～10.6	一部あり	P1-45.0 P2-75.0 P3-70.5 P4-121.1 P5-15.7	なし	有	破壊	椀 1	17	144	28-2	削平がはげしい 床面に焼土・炭化材(若干)
SB157	E5-07	7C後	SB161を切りSD022に切られている	N-35°-W	(5.3)×(4.4)	(18.9)	42.5～10.0	全周 3.7～0.5	P1-75.1 P2-20.5 P3-58.5 P4-57.1 P5-10.8	なし	有	N-32°-W	杯 (1)	17	145	28-3	
SB158	E4-98	7C後	SB166を切っている	N-29°-W	5.2×4.7	20.2	57.8～30.5	全周せず掘り方不良 29.2～1.3	P1-58.3 P2-52.0 P3-57.1 P4-57.3 P5-31.6 P6-12.9	なし	有	破壊	盤 (1) 杯 (2) 甕 1 土玉 1 土製品 1 支脚 1	19	146 - - 201 197 206	29-1	床面に焼土(若干) 小鉄魂 9.28g出土
SB159	E4-73	8C前	SB151を切っている	N-3°-W	4.8×4.8	18.7	56.9～49.5	全周 9.4～1.8	P1-60.2 P2-70.0 P3-50.5 P4-80.0 P5-28.0	なし	有	N-0°	杯 (1)1 甕 3 甑 1 鉄鏃 1	16	147 148 - 212	29-2	炭化種子1(スモモ)出土
SB160	F4-97	古墳時代	—	N-40°-W	(7.2)×(7.1)	(48.4)	29.2～3.4	8.9～1.1	P1-47.0 P2- — P3-60.0 P4-87.0 P5- —	なし	有	N-38°-W	支脚 1	21	206	29-3	削平がはげしい
SB161	E5-06	6C後	SB157・SD022に切られている	N-38°-W	(6.8)×6.7	(39.0)	49.8～2.6	西コーナーでかける 17.4～1.4	P1-69.0 P2-61.0 P3-52.0 P4-70.0 P5- —	1右袖,楕円形 75×40×50.1	なし	N-40°-W	杯 2 高杯 1 甕 1 玉類 2 砥石 2 鉄鏃 1 刀子 1	17	149 - - 199 214 212 208	30-1	
SB162	F4-99	6C後	—	N-55-W	6.8×—	—	45.3～4.9	11.0～2.1	P1-62.1 P2-55.6 P3-56.9 P4-38.7 P5-21.8 P6-54.5	1右袖,円形 79×67×23	有	破壊	杯 2 椀 1	21	150	30-2	炭化種子1(スモモ)出土 南東壁中央に張り出しを持つスラグ 1.85g出土

遺構番号	位置	時期	重複	主軸方向	規模(m) 長軸×短軸	床面積 (㎡)	壁高(cm) 最大～最小	壁溝(cm) 最大～最小	柱穴深 (cm)	貯蔵穴(cm) 長軸×短軸×深さ	梯子ピット	カマド 方位	遺物 ( )須恵器	遺構挿図 No.	遺物挿図 No.	図版 No.	備考
SB163	F4-47	6C後	－	N-53°-W	9.1×8.9	70.0	57.2～27.5	全周 11.0～4.0	P1-68.0 P2-70.0 P3-77.0 P4-67.0 P5-12.0	1 右袖、円形 96×85×40	有	N-53°-W	蓋 (2) 杯 (1) 高杯 2 鉢 1 椀 1 坩 1 甕 8 甑 1 土玉 36 勾玉 2 玉類 1 手捏 1 土製品 1 鉄鏃 3 刀子 1	20 66	151 152 － － － － － 201 202 200 199 195 197 212 208	30-3	柱穴周辺に高まり有り 床面中央に炉有り 炭化種子(多量)
SB164	E4-58	6C前	SD021に切られている	N-40°-W	6.9×(6.8)	(39.6)	43.2～12.7	全周せず 8.7～3.1	P1-31.7 P2-64.4 P3-60.0 P4-43.7 P5-44.3	1 右袖、楕円形 97×76×30	有	N-36°-W	杯 2 土玉 1	18	153 202	31-1	床面に焼土・炭化材(若干)
SB165	F4-93	6C中	SB214を切っている	N-35°-W	9.0×8.9	67.9	46.9～15.9	全周 2.4～11.4	P1-85.5 P2-82.2 P3-81.8 P4-87.0 P5-51.1	なし	有	N-40°-W	蓋 (1) 杯 (1)2 甕 3 土玉 5 手捏 1 刀子 1	19	154 － － 202 195 208	31-2	床面に焼土(若干) 小鉄魂 11.68g出土 炭化種子6(モモ・スモモ)出土 梯子ピット周辺に高まり
SB166	E4-89	7C前～7C中	SB158に切られている	N-34°-W	5.7×－	－	48.9～34.2	全周せず 8.2～3.3	P1-56.1 P2-40.8 P3-62.0 P4-64.6 P5-7.0 P6-58.2	不明	有	N-32°-W	杯 5 高杯 3 長頸壺 (1) 甕 2 玉類 5 支脚 1	19	155 － － － 199 206	32-1	炉底滓 71.40g出土 炭化種子2(モモ)出土
SB168	E4-39	7C中	SB201を切っている	N-35°-W	5.9×5.8	28.0	22.5～4.6	全周せず 掘り方不良 10.1～1.5	P1-77.2 P2-92.9 P3-60.9 P4-90.7 P5-12.9	なし	有	N-39°-W	鉢 1 甕 1 土玉 1 支脚 4 鉄鏃 1	18 67	156 － 202 206 207 212	32-2 32-3	床面に焼土(若干)
SB169	D3-89	7C前～7C中	SB183に切られている	N-36°-W	10.3×10.2	91.3	62.0～38.0	南コーナーでかける 10.5～0.1	P1-46.8 P2-62.1 P3-52.9 P4-57.9 P5-29.0	なし	有	N-33°-W	蓋 (1) 杯 (1)7 高杯 3 壺 (1) 鉢 1 椀 1 甕 6 甑 1 土玉 3 紡錘車 1 玉類 2 手捏 1 支脚 1 土製品 1 鉄鏃 2	15 68	157 － － － － － 202 198 199 195 207 217 212	33-1	床面中央に山砂 炭化種子1(不明)出土 間仕切り溝4?
SB170	F4-40	7C中	－	N-32°-W	4.3×4.2	13.2	28.0～15.0	全周 14.5～2.7	P1-79.1 P2-63.4 P3-73.6 P4-67.0 P5-0.9	なし	有	N-35°-W	鉢 1 甕 2 土玉 1 鎌 1	18	158 － 202 209	33-2	梯子ピット周辺に高まり 柱痕あり
SB171	D4-49	7C前～7C中	－	N-41°-W	6.3×5.9	32.9	28.2～1.2	全周せず 6.4～1.0	P1-53.2 P2-35.4 P3-44.4 P4-63.0 P5-36.8	1 右袖、円形 66×64×56	有	N-48°-W	杯 4 鉢 2 甕 6 甑 1	16 69	159 160	33-3	床面に炭化材(若干) 間仕切り溝2
SB183	E4-00	7C中	SB169を切っている	W-30°-S	(3.8)×(3.5)	(12.1)	28.3～1.6	3.9～1.1	不明	不明	不明	W-24°-S	蓋 (1) 高杯 1 甕 3	15	161	34-1	床面に焼土(若干) 2/3を削平されている
SB188	E3-83	7C後～8C前	SB198・206を切っている	N-28°-W	5.4×5.2	22.0	48.8～24.7	全周 16.9～4.4	P1-56.0 P2-61.6 P3-64.0 P4-59.5 P5-22.1	1 右袖、円形 129×84×19.5	有	N-30°-W	蓋 (3) 杯 (1) 土玉 5 土製品(ミニチュア)1 砥石 1	15 70	162 － 202 203 － 197 214	34-2	梯子ピット周辺に高まり

遺構番号	位置	時期	重複	主軸方向	規模(m) 長軸×短軸	床面積 (㎡)	壁高(cm) 最大～最小	壁溝(cm) 最大～最小	柱穴深 (cm)	貯蔵穴(cm) 長軸×短軸×深さ	梯子ピット	カマド 方位	遺物 ()須恵器	遺構挿図 No.	遺物挿図 No.	図版 No.	備考
SB189	E3-71	8C前	SB198・206を切っている	－	－×－	－	69.2～58.5	12.7～4.3	P1-66.3 P2-37.3 P3-66.1 P4-67.8	不明	不明	未発掘	蓋 (2) 杯 1 甕 1 土玉 4 手捏 1 鉄鏃 2	15 70	163 － － 203 195 212	34-3	炭化種子1 (不明)出土 未発掘区域あり
SB198	E3-73	7C後	SB206を切りSB188・189に切られている	－	－×－	－	51.2～15.0	54.0～5.2	P1-82.0	不明	不明	未発掘	杯 2 鉢 1 紡錘車 1 玉類 1 鉄鏃 1	15 70	164 － 198 199 212	－	未発掘区域あり
SB201	F4-10	7C前	SB168に切られている	N-46°-W	6.3×6.2	32.6	25.0～0.9	西コーナーでかける 9.7～0.6	P1-62.0 P2-35.0 P3-37.0 P4-43.0 P5-18.0	1 右袖、長方形 124×88×40.0	有	N-55°-W	杯 1 甕 1	18	165	35-1	間仕切り溝1 梯子ピット周辺にくぼみ
SB202	H4-32	7C中	－	N-68°-W	5.0×4.9	20.6	61.6～31.8	全周 12.3～1.9	P1-31.7 P2-44.2 P3-48.1 P4-46.5 P5-72.2 P6-52.2	なし	有	N-60°-W	杯 2 椀 1 甕 1 勾玉 1 支脚 1	22	166 － － 200 207	35-2	スラグ31.20g出土 間仕切り溝2 床面に炭化材(若干)
SB206	E3-72	7C前	SB188・189・198に切られている	－	－×－	－	14.9～4.6	7.0～4.7	P1-51.6	不明	不明	未発掘	杯 1 甕 1	15 70	167	－	未発掘区域あり
SB214	F4-84	6C前	SB165に切られている	N- 8°-W	4.9×4.9	19.5	49.0～8.8	全周 9.6～0	P1-57.0 P2-58.9 P3-48.6 P4-62.5 P5-24.1	なし	有	N-9°-W	甕 1 支脚 1 砥石 1	19	168 207 214	35-3	床面に焼土
SB215	F4-25	6C後	－	N-15°-E	3.1×3.0	7.7	35.4～18.1	なし	P1-8.5 P2-7.9	なし	－	N-17°-E	杯 2 甕 2	20	169	36-1	
SB217	G4-11	7C中	－	N-73°-W	6.4×6.4	34.3	66.1～19.5	全周 19.9～4.2	P1-62.0 P2-55.0 P3-50.0 P4－－ P5-23.0	なし	有	N-77°-W	蓋 (1) 杯 3 鉢 1 椀 1 甕 6 土玉 19 紡錘車 1 玉類 1 手捏 1 支脚 1 鉄鏃 1 刀子 1	20 71	170 171 － － － 203 198 199 195 207 212 208	36-2 36-3	間仕切り溝3
SB218	F4-68	6C中	－	N-43°-W	6.4×6.2	33.0	42.5～33.9	全周 6.4～1.7	P1-57.4 P2-53.1 P3-53.0 P4-59.9 P5-20.8 P6-32.8 P7-86.2	1 左袖、円形 77×63×27.6	有	N-43°-W	杯 2 鉢 1 甕 4 土製品 1 砥石 1	21	172 － － 197 214	37-1	間仕切り溝1 梯子ピット周辺にくぼみ
SB219	H4-78	7C後	－	N- 0°	－×－	－	96.1～13.3	なし	P1-23.0 P2-35.0 P3-36.4	なし	なし	N-0°	杯 2 甕 5 土玉 2	25	173 － 203	37-2	東側1/3削平 粘土採掘坑跡地を利用
SB220	H4-65	6C中	－	N-21°-E	3.1×3.1	7.1	39.3～26.0	全周 7.1～2.5	なし	1 右袖、楕円形 89×54×13.4	なし	N-27°-E	杯 1 甕 3 玉類 1	25	174 － 199	37-3 38-1	
SB221	H4-24	6C後	－	N-52°-W	6.6×6.5	35.1	63.1～16.3	全周 47.5～3.0	P1-64.5 P2-41.0 P3-70.0 P4-50.0 P5-40.0	なし	有	N-52°-W	蓋 (1) 杯 7 椀 1 甕 1 勾玉 1 支脚 2	25	175 － － － 200 207	38-2 38-3	床面に焼土 小鉄魂28.43g出土 間仕切り溝5 梯子ピット周辺ふみ固め
SB222	H4-46	6C中	－	N-57°-W	6.4×6.3	37.2	41.4～1.1	全周 14.7～2.5	P1-80.4 P2-82.0 P3-77.0 P4-82.2 P5-60.4	1 右袖、楕円形 66×50×52.1	有	N-57°-W	杯 2 鉢 2 甕 2 土玉 3 勾玉 1 支脚 1 鉄鏃 1	25	176 － － 203 200 207 212	39-1	間仕切り溝1
SB223	H4-54	7C前	－	N-50°-W	6.0×5.8	28.5	47.7～12.2	全周 57.4～2.2	P1-56.6 P2-52.4 P3-88.8 P4-65.2 P5-34.9	なし	有	N-50°-W	杯 6 高杯 3 鉢 1 甕 4 支脚 1	25 72	177 － － － 207	39-2	間仕切り溝4

遺構番号	位置	時期	重複	主軸方向	規模(m) 長軸×短軸	床面積 (㎡)	壁高(cm) 最大～最小	壁溝(cm) 最大～最小	柱穴深 (cm)	貯蔵穴(cm) 長軸×短軸×深さ	梯子ピット	カマド 方位	遺物 ()須恵器	遺構挿図No.	遺物挿図No.	図版No.	備考
SB224	G4-29	7C後	—	N-41°-W	4.8×4.7	17.6	79.9～36.1	全周 87.2～2.6	P1-41.2 P2-43.0 P3-42.0 P4-40.0 P5-26.2	なし	有	N-41°-W	杯 1 高杯 1 鉢 1 甕 1 土玉 1 支脚 2	22	178 - - - 203 207	39-3	間仕切り溝1
SB227	G4-85	7C後	—	N-41°-W	4.2×4.2	12.7	33.0～19.8	全周 8.0～3.0	P1-19.7 P2-16.5 P3-22.1 P4-17.9 P5-28.7 P6-24.2 P7-31.7 P8-12.3	なし	有	N-46°-W	椀 1 支脚 1	23	179 207	40-1	梯子ピット周辺に高まり
SB228	G5-18	7C後～8C前	—	N-48°-W	5.7×5.5	24.1	94.9～39.0	全周 —	P1-65.0 P2-61.0 P3-68.0 P4-152.0 P5-50.6 P6-25.1	なし	有	N-45°-W	杯 7 椀 1 甕 2 土玉 9 玉類 1 手捏 1 支脚 2	23	180 - - 203 199 195 207	40-2	床面に焼土(若干) スラグ6.48g出土 間仕切り溝2
SB229	H4-71	6C後	—	N-59°-W	9.2×8.8	66.6	56.6～11.6	7.5～1.2	P1-60.9 P2-73.0 P3-85.0 P4-65.8 P5-33.0 P6-44.9 (張り出し)	1 右袖、円形 96×82×44.1	有	N-70°-W	杯 7 高杯 2 甕 1 紡錘車 1 勾玉 1 手捏 2 手鎌 1	23 73	181 - - 198 200 195 210	40-3 41-1	南東壁中央に張り出しを持つ 間仕切り溝10
SB230	G4-16	7C前	—	N-65°-W	7.1×6.7	38.1	88.3～15.3	全周 17.0～2.3	P1-64.6 P2-74.0 P3-53.4 P4-60.2 P5-30.5 P6-25.2	なし	有	N-70°-W	蓋 (2) 杯 (1)4 高杯 1 鉢 3 椀 1 甕 2 土玉 2 勾玉 1 手捏 2 支脚 1	22 74	182 - - - - 203 200 195 207	41-2 41-3	スラグ8.33g出土 間仕切り溝4 梯子ピット周辺に高まり
SB232	G5-15	6C後	—	N-55°-W	—×—	—	25.0～17.0	11.5～2.5	P1-41.8 P2-50.5 P3-36.8 P4-55.1	1 右袖、楕円形 87×64×41.4	不明	N-53°-W	杯 2 甕 2 支脚 1	28 75	183 - 207	42-1	1/3削平
SB233	G5-13	不明	—	不明	3.9×3.7	9.8	21.1～6.3	全周 6.6～1.6	なし	なし	なし	なし	鎌 1	21	209	42-2	実測土器なし
SB234	G4-47	7C前	—	N-47°-W	5.9×5.6	25.1	50.4～0.9	全周 10.1～4.6	P1-58.5 P2-55.4 P3-51.7 P4-57.6 P5-30.2	なし	有	N-47°-W	高杯 1 鉢 2 甕 4 甑 1 土玉 3 手捏 1	24	184 - - - 203 195	42-3	カマド左袖付近に高まり
SB235	G5-45	6C前	SD027に切られている	N-54°-W	4.5×—	—	35.3～8.2	全周せず 6.4～1.7	P1-58.8 P2-61.9 P3-59.6 P4-66.7 P5-32.2 P6-15.0 P7-26.3	不明	有	N-54°-W	杯 1 手捏 2	24	185 195	43-1	床面に焼土(若干) 間仕切り溝2 梯子ピット周辺に高まり
SB237	H5-63	6C後	SD028を切っている	N-53°-W	6.1×6.0	29.7	49.8～6.8	一部かける 8.9～0.5	P1-53.9 P2-42.0 P3-53.5 P4-73.4 P5-34.5 P6-100.4 P7-22.6	なし	有	N-46°-W	杯 3 壺 (1) 甕 7 支脚 2	26 76	186 187 - 207	43-2 43-3	南側壁にベッド状の高まり 床面に焼土 間仕切り溝8 梯子ピット周辺に高まり
SB240	G4-42	6C後	—	—	3.3×3.1	8.0	20.3～2.5	なし	P1-39.5 P2-24.5 P3-17.3 P4-19.3	なし	なし	なし	杯 1	20	188	44-1	貝層あり 床面中央に炉1 床面に炭化材
SB242	G4-51	11C?	—	—	3.8×3.3	10.2	11.8～6.4	なし	P1-57.4 P2-57.9 P3-71.0 P4-60.2 P5-52.0 P6-51.0 P7-18.3	なし	なし	なし	かわらけ1	20 77	189	44-2	床面中央に炉1 実測土器は11Cだが遺構は古墳時代?

2　小鍛冶遺構（第29図～第36図・第3表～第8表・図版44-3～図版46-1）

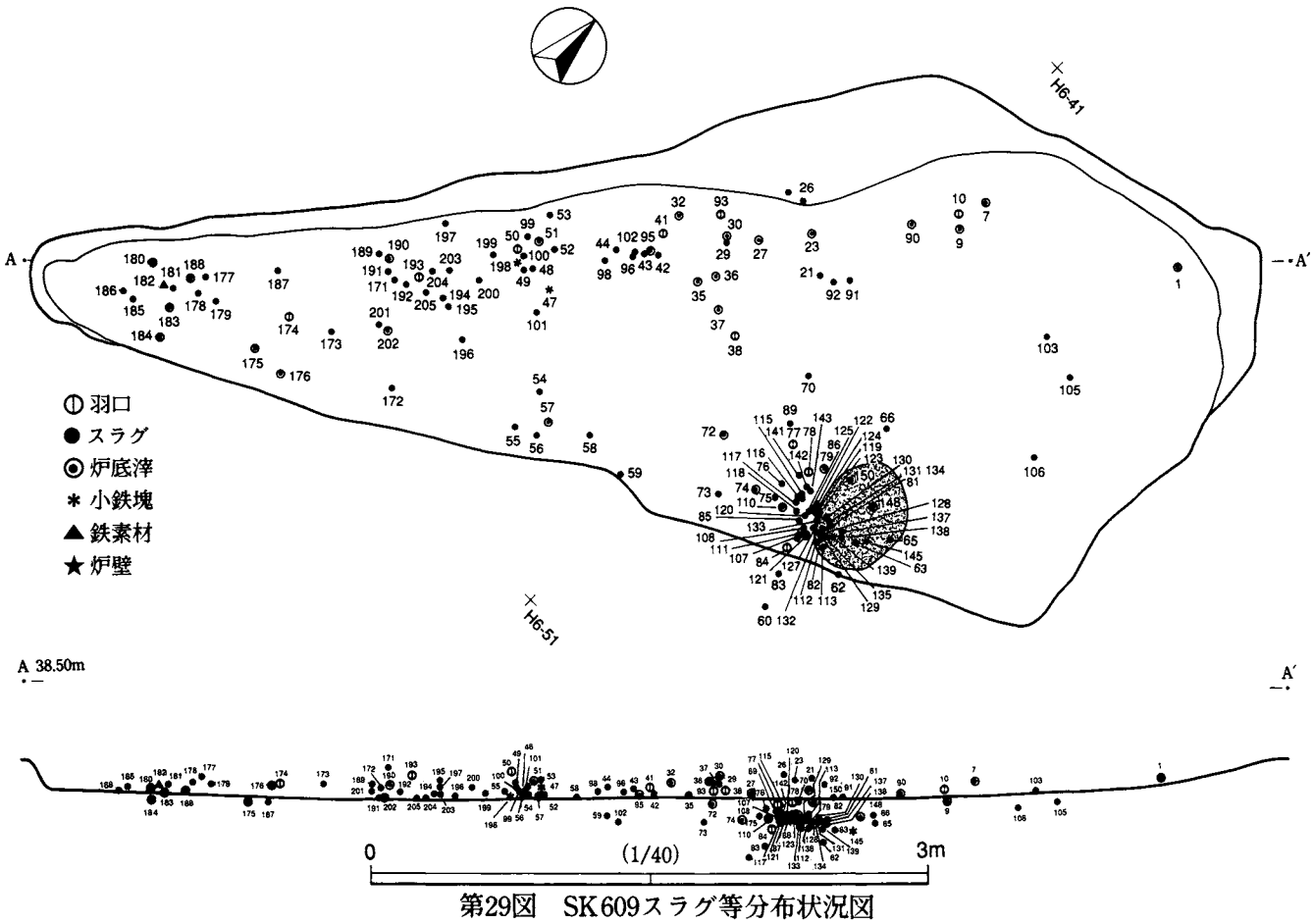
本遺跡では小鍛冶遺構が2基（ＳＫ609・ＳＸ013）検出された。両遺構とも台地東部の平坦面から谷津に移行する急斜面上に構築されている。ＳＫ609は南側急斜面上に、ＳＸ013は北側急斜面上にそれぞれ台地の北端と南端に分けられるように位置する。

ＳＫ609（第29図～第32図・第3表～第5表・図版44-3～図版45-1，2）

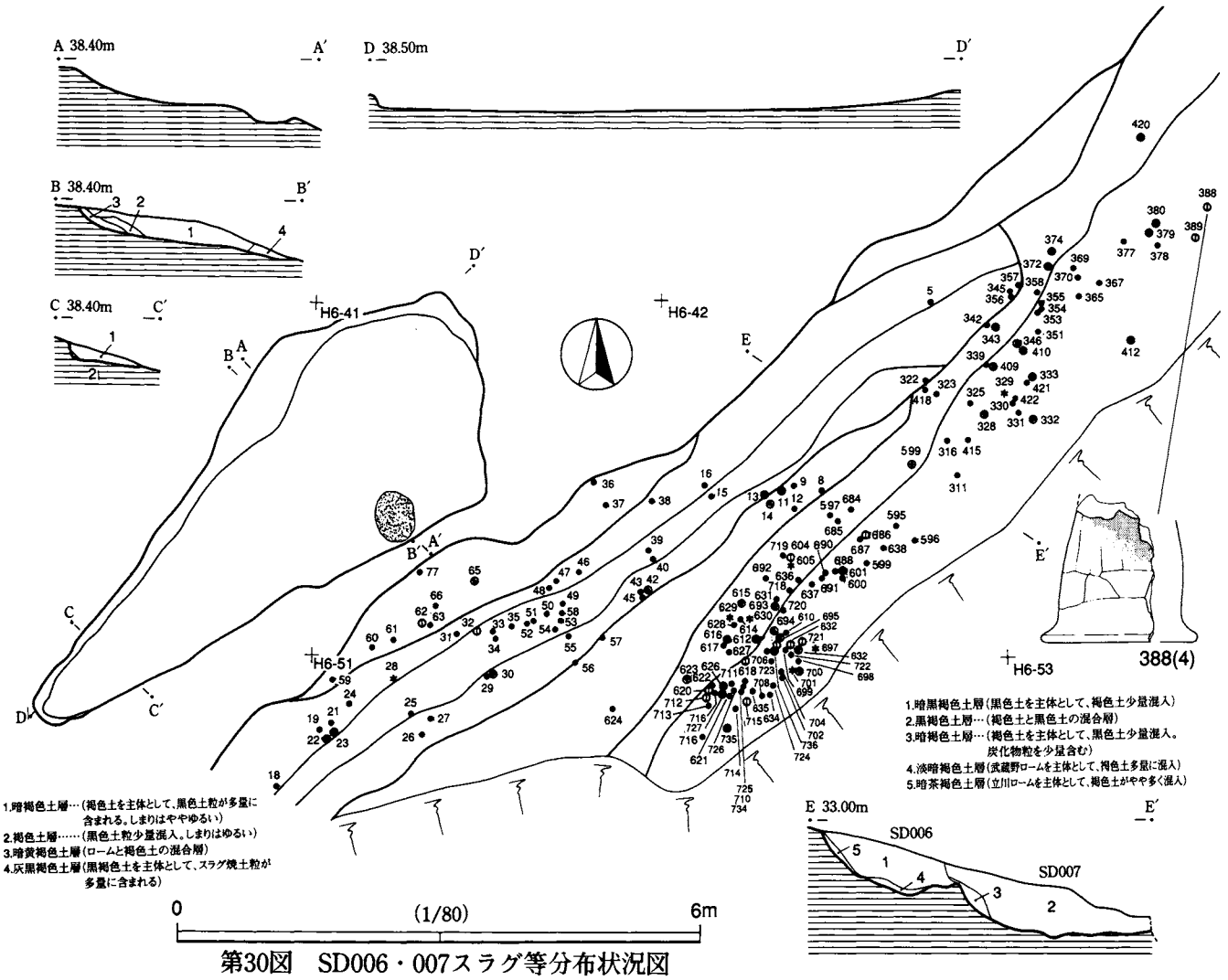
遺跡の東側台地上で南に急傾斜する斜面上（H6-40～H6-41グリッドにかけて）に位置する。

本遺構は、プラン検出の段階では土坑（ＳＫ605・ＳＫ609）2基として確認され、発掘調査が進められた。よって、遺物はＳＫ605とＳＫ609の2遺構に分けて取り上げた。しかし、完掘の結果2基の土坑ではなく、1基の小鍛冶遺構であることが判明した。本来この遺構の略号はＳＸであるが、混乱を避けるためＳＫの遺構略号を継承することとした。その際、遺構番号は遺物量の少ないＳＫ605を欠番とし、ＳＫ605として取り上げた遺物を、ＳＫ609出土遺物の最後の番号以降に変更追加した。なお、第3表ＳＫ609小鍛冶遺構出土スラグ等計測表の備考欄に、ＳＫ605として取り上げた時の遺物番号をカッコ書きで併記した。

本遺構の東側及び南側は、ＳＤ006の近世の溝状遺構によって切断されており、平面プランは不整形を呈している。覆土内及び床面からは多量のスラグ等が出土している。しかし、炉内及び炉周辺に集中する以外は、床面での集中箇所は特に認められなかった。床面はほぼ平坦で、ピットもなく竪穴住居跡のように踏み固められた部分は確認できなかった（第29図）。遺構内に残存していたスラグ等は第3表に表した。



第29図　SK609スラグ等分布状況図

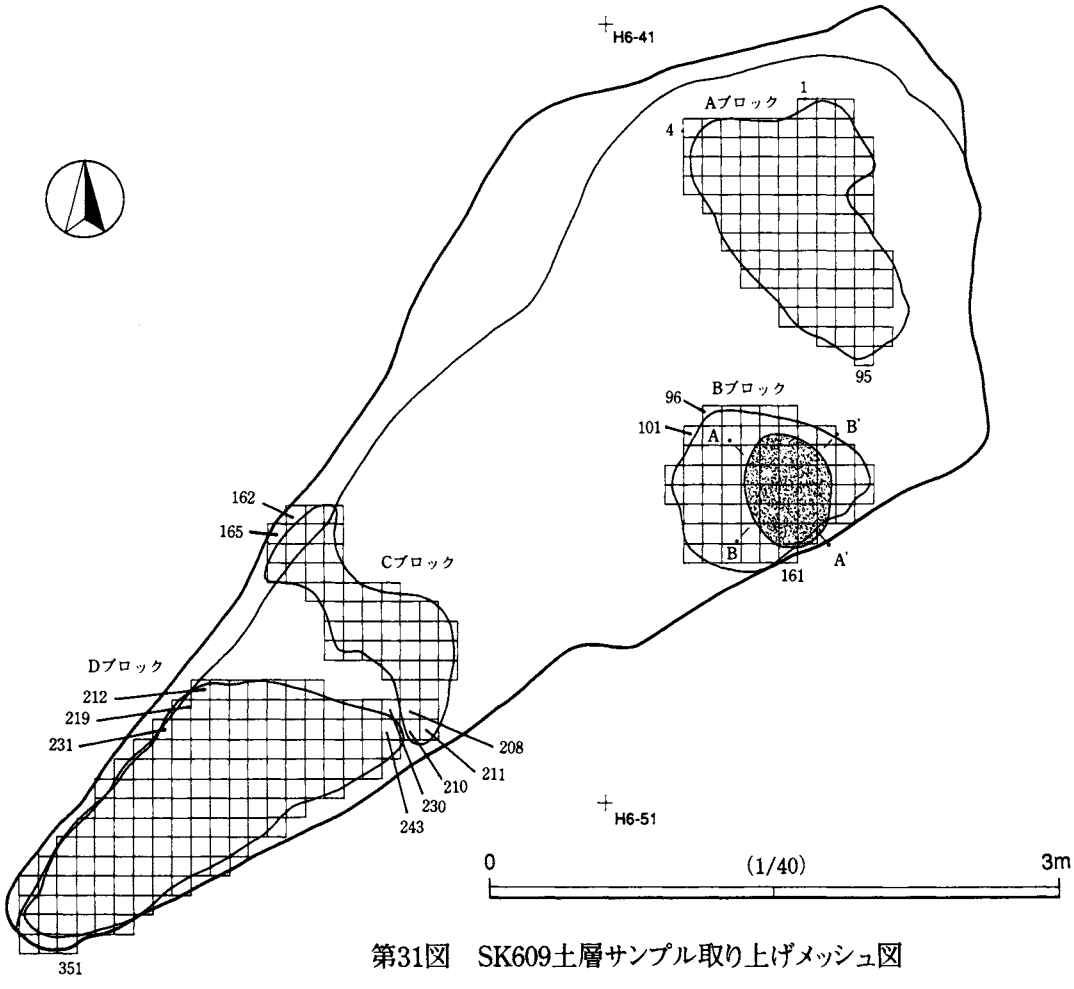


第30図　SD006・007スラグ等分布状況図

遺構内出土遺物ではスラグが156点で一番多く、次いで炉底滓33点、羽口片18点、小鉄塊7点、鉄素材1点と続く。各遺物の総重量は、羽口片669.72ｇ、炉底滓552.70ｇ、スラグ517.69ｇ、小鉄塊18.24ｇ及び、鉄素材1.08ｇを量る。

近世溝状遺構ＳＤ006・ＳＤ007の底面には多量のスラグ等が出土している（第4表）。このことはＳＫ609が切断される際に生じたと思われ、この溝状遺構から出土するスラグ等のほとんどはＳＫ609に関連するものと思われる（第30図）。したがって、遺構内出土スラグ等に、ＳＤ006・ＳＤ007で出土したスラグ等を加えると、総点数・総重量は次のようになる。スラグ288点・1158.64ｇ、炉底滓73点・1475.62ｇ、羽口片31点・929.62ｇ、小鉄塊14点・52.49ｇ及び、鉄素材1点・1.08ｇである。羽口片の中に実測可能なものが1点出土している（第30図）。出土地点はH6-33グリッドで、ＳＫ609小鍛冶遺構より直線距離で約10m離れている。先端部を欠損しているためアメ状溶着は認められないが、還元被熱と酸化被熱は認められるので、実際に使用されたことがわかる。

調査にあたっては、鍛冶工房内の作業空間配置の手がかりと鍛錬鍛冶段階を確認することを目的に、4ブロックに分け、10cmのメッシュを組み、土層サンプルを取り上げた。しかし、本遺構は発掘当初2遺構として捉えていたため、10cmメッシュに付した番号に統一性がなく煩雑になった。よって、本報告書では各メッ



第31図　SK609土層サンプル取り上げメッシュ図

シュ番号を改めて付し直した。メッシュを組んだ4か所をそれぞれ北からA・B・C・Dブロックと呼称し、いずれのブロックも左上から右へ通し番号を付した。Aブロックは1から95、Bブロックは96から161、Cブロックは162から211、Dブロックは212から351となる（第31図）。なお、第5表SK609鍛造剥片等分類表の備考欄に、旧番号を記載した。

前述のように、計351か所から土層サンプルを取り上げ、滓の分類・計量を行った。その結果、鍛造剥片・湯玉・砂鉄に分類することができた（第5表）。鍛造剥片については、①両面ともツルツルするもの、②どちらか一方がツルツルするもの、③両面ともツルツルしないもの、の三つに分類した。この分類は仕上がり工程を示すもので、③→②→①の順に仕上がっていく。

計測結果を述べる前に第5表の見方を簡単に説明しておく。まず、遺物番号の欄でAブロックに001がないのはメッシュは切ったものの遺物がみつからなかったので削除した。同じく、Bブロックの149から154にA・Bと記されているのは、遺物袋が二つあったことを示している。計測数値については、重さ（g）で表し、計測数値が記載されているものが検出されたことを示している。×印は未検出、計測数値に△がつくものは検出されたものの、0.01g未満で計測不能を表している。

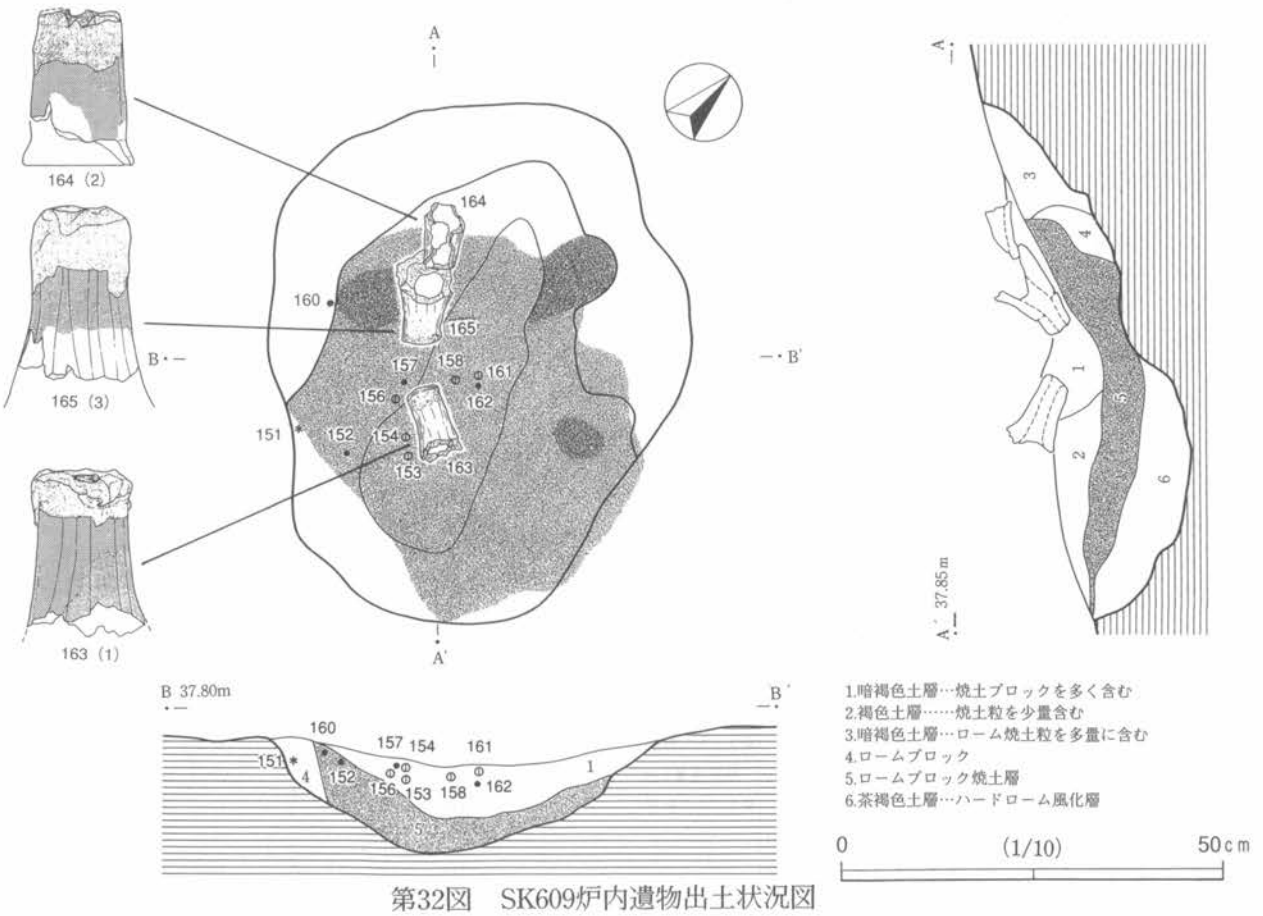
計測結果を各ブロックごとにみていくと、検出された総重量は、Aブロック＝①0.86g②0.56g③0.53g・湯玉0.25g・砂鉄124.00g、Bブロック＝①86.28g②19.32g③13.74g・湯玉3.00g・砂鉄273.03g、Cブ

ロック＝①1.34ｇ②0.24ｇ③0.01ｇ・湯玉0.07ｇ・砂鉄107.97ｇ、Ｄブロック＝①2.14ｇ②0.24ｇ③0.03ｇ・湯玉0.12ｇ・砂鉄174.97ｇ、となる。このように炉があるＢブロックでは、鍛造剥片・湯玉・砂鉄ともに検出量が、ほかの三つのブロックの検出量をはるかに凌いでいることがわかる。Ｂブロックの中でも、①の両面ともツルツルしているものが特に多く検出された箇所は、154で7.98ｇ・152で6.59ｇ・153で6.49ｇの3か所である。また、次に①が多く検出された箇所は、121・133・134・143・145・151・160の7か所であり、特に多く検出された3か所の周辺である。この10か所は平面楕円形を呈す炉の南西側に位置する。このことは鍛錬鍛冶最終段階の作業空間が、炉の南西側周辺に存在していたと考えられる。

炉は東南部に1か所検出され、平面プラン楕円形を呈している。この炉は、いわゆる地床炉と同様の構造で、炉底部に粘土等を貼り付けた形跡はみられなかった。炉内はほぼ全域が5cm～8cmの厚さでロームが焼土化し、赤燈色に変化していた。この焼土化範囲内には、明黄褐色に変色した箇所が3か所みられた。これは、かなりの高温でロームが焼土化し、変色した結果だと思われる。また、炉内では羽口が3点出土している（第32図）。これらの羽口はいずれも専用羽口で、比較的脆く、被熱変色している。先端部の内径は3点とも2cm前後であり、鍛錬鍛冶炉には一般的である。角度は炉面に対し、1が21°、2が5°、3が25°である。

本来、羽口は鍛冶には欠かせない道具であり、高温で被熱するためサイクルの早い消耗品である。本遺構内や溝状遺構で出土した30点の羽口片は、使用後の廃棄物であろう。しかし、炉内で出土した3点の羽口は、使用直後の状態を保っており、貴重な資料といえる。

なお、図示できた4点の羽口実測図は、第2章第2節4その他の遺物（P183）で羽口計測表とともに掲載した。



第32図　SK609炉内遺物出土状況図

第3表　SK609小鍛冶遺構出土スラグ等計測表

遺構	遺物	種類	M.C.	大きさ(mm) 最大	最少	厚さ	重さ (g)	備考
SK609	001	炉底滓		58.1	52.4	7.4	22.45	
	007	炉底滓		41.9	29.1	24.6	31.96	
	009-①	炉底滓		55.0	39.1	7.6	16.77	
	009-②	炉底滓		24.2	22.8	8.4	2.53	
	021	スラグ		27.5	25.8	12.3	6.46	
	023	炉底滓		44.6	37.0	12.4	18.45	
	024	スラグ		19.2	18.8	7.9	1.91	
	026	スラグ		34.7	26.5	12.0	8.53	
	027	炉底滓		39.1	30.7	16.5	23.63	
	029	スラグ		15.3	11.2	6.2	0.74	
	030	炉底滓		31.0	23.1	19.4	19.29	
	032	炉底滓？		34.0	14.9	15.0	8.17	
	035	炉底滓		40.8	27.8	16.8	17.13	
	036	炉底滓		32.8	28.6	7.3	8.42	
	037	炉底滓		36.2	25.7	7.0	7.26	
	041	羽口					10.07	
	041-①	スラグ		15.2	8.0	4.2	0.31	
	041-②	スラグ		12.0	5.7	6.5	0.31	
	042	スラグ		43.7	32.5	8.6	11.48	
	043-①	スラグ		19.7	15.8	8.0	1.47	
	043-②	スラグ		21.5	13.0	6.0	2.34	
	044	スラグ		25.6	18.8	14.4	8.11	
	047	小鉄塊		20.1	12.5	10.1	3.35	
	048	スラグ		31.4	22.2	9.3	5.83	
	049	スラグ		20.4	15.6	11.1	5.28	
	050	羽口？					1.88	
	051	炉底滓？		57.7	45.1	12.9	28.10	
	052	スラグ		37.3	27.8	6.1	4.67	
	053	スラグ		25.8	20.8	11.6	10.49	
	054	スラグ		14.6	14.4	12.8	3.14	
	055	スラグ		16.3	11.4	7.4	1.32	
	056	スラグ		20.0	12.4	8.7	2.72	
	057	炉底滓		19.7	17.5	13.4	4.40	
	058	スラグ		30.4	25.3	13.8	7.16	
	059	スラグ		28.4	20.5	11.4	3.69	
	060	スラグ		15.7	9.6	10.2	1.21	
	062	スラグ		24.0	18.2	9.3	2.83	
	063	スラグ		32.3	28.1	7.4	9.85	
	065	スラグ		17.6	14.4	12.9	3.85	
	066	スラグ		10.0	8.2	7.4	0.59	一括総重量2.21 最大のもの計測
	070	スラグ		21.6	14.4	13.9	3.51	
	072	炉底滓？		38.4	27.9	18.4	15.66	
	073	スラグ		20.1	13.1	7.2	1.82	
	074	炉底滓		37.2	33.6	18.6	30.04	
	075	スラグ		24.0	16.4	12.3	3.33	
	076	スラグ		36.3	23.3	13.5	8.68	一括総重量9.27 最大のもの計測
	077	羽口					15.84	
	079	炉底滓		30.4	25.8	11.5	10.44	
	081	スラグ		21.5	17.0	17.2	4.06	
	082	スラグ		24.1	14.4	8.6	1.35	
	083	スラグ		13.0	9.8	13.1	2.03	一括総重量3.46 最大のもの計測
	084	羽口					5.86	
	085	スラグ		32.2	24.5	18.2	5.55	
	086	スラグ		20.3	12.5	7.7	2.02	一括総重量4.76 最大のもの計測
	087	スラグ		22.3	16.4	6.7	1.79	一括総重量3.04 最大のもの計測
	089	スラグ		14.5	9.6	10.2	1.84	
	090	炉底滓		50.6	34.7	12.4	18.46	
	091	スラグ		17.3	12.1	10.7	2.52	
	092	スラグ		22.9	15.0	8.1	1.56	
	093	羽口					6.55	
	095	炉底滓		28.3	22.7	25.5	20.87	一括総重量21.47 最大のもの計測
	096	スラグ		10.1	4.9	6.4	0.29	一括総重量0.38 最大のもの計測
	098	スラグ		26.7	21.3	17.9	4.63	
	099	スラグ		10.2	8.3	3.7	0.24	
	100	スラグ		10.5	9.2	9.6	1.28	
	101	スラグ		9.8	8.5	6.9	0.76	
	102	スラグ		10.0	8.9	8.4	0.61	一括総重量1.22 最大のもの計測
	103	スラグ		26.8	21.8	7.4	4.80	
	105	スラグ		37.4	26.1	18.1	9.84	
	106	スラグ		32.5	26.7	8.2	7.48	
	107	スラグ		15.2	14.4	12.5	1.82	
	108	スラグ		10.4	5.5	5.4	0.25	総重量0.73(2コ) 最大のもの計測
	110	炉底滓		25.8	24.2	16.9	8.67	
	111-①	スラグ		12.4	10.2	4.8	0.94	
	111-②	スラグ		7.9	6.3	4.3	0.18	
	111-①	小鉄塊		9.9	8.1	5.6	0.42	
	111-②	小鉄塊		7.4	5.7	4.1	0.14	
	112-①	スラグ		45.7	32.5	7.4	9.91	
	112-②	スラグ		19.5	18.5	6.2	2.04	
	112-③	スラグ		19.5	13.9	13.6	2.93	一括総重量15.59
	113	スラグ		18.0	15.1	10.9	1.98	一括総重量2.81
	115	スラグ		14.0	12.3	10.1	1.15	一括総重量2.48
	116	スラグ		22.5	14.3	6.2	1.84	一括総重量3.14
	117	スラグ		20.2	20.1	8.2	2.98	
	118	スラグ		17.2	15.9	9.5	2.66	一括総重量3.21
	119	スラグ		26.6	16.9	13.0	4.83	
	120	スラグ		25.9	19.6	19.0	8.07	
	121	炉底滓		17.8	14.9	14.1	6.47	
	122	スラグ		23.4	15.6	14.0	1.29	
	123	スラグ		14.5	11.7	6.9	1.45	
	124	羽口？					3.31	
	125	炉底滓＋小鉄塊		30.1	17.2	15.3	14.36	
	127	スラグ		20.0	18.4	10.3	1.58	一括総重量1.89
	128	羽口					9.30	
	129-①	スラグ		22.2	17.8	8.7	1.91	
	129-②	スラグ		22.3	16.8	7.0	2.41	
	130	スラグ		25.7	24.6	8.7	8.23	
	131	スラグ		22.1	19.6	10.1	5.90	総重量6.23(2コ) 最大のもの計測
	132	スラグ		20.0	18.1	10.9	2.50	
	133	スラグ		22.7	13.7	10.4	2.89	
	134	スラグ		37.9	23.6	8.8	7.58	
	135-①	スラグ		18.9	16.8	16.8	7.01	
	135-②	スラグ		19.1	14.0	7.1	1.75	
	135-③	スラグ		16.4	14.7	7.8	1.65	
	135-④	スラグ		12.1	10.2	2.9	0.38	
	135-⑤	スラグ		11.6	10.9	4.9	0.46	総重量11.46
	136-①	スラグ		11.3	11.6	8.7	0.66	
	136-②	スラグ		16.3	14.5	8.7	1.48	
	136-③	スラグ		18.6	14.4	11.3	1.63	
	136-④	スラグ		21.4	12.5	10.1	1.23	
	137	スラグ		21.5	15.6	8.4	2.59	一括総重量5.69
	138	スラグ		11.0	8.9	6.1	0.47	
	139	スラグ		23.4	16.8	13.7	6.81	総重量7.27(2コ)
	141	スラグ		43.9	28.7	9.5	9.62	
	142	スラグ		23.3	25.3	16.2	11.06	一括総重量16.24
	143	スラグ		24.1	15.0	17.9	4.63	
	145	小鉄塊		24.1	20.0	15.2	7.08	一括総重量10.66
	148	炉底滓		42.0	33.1	17.6	16.14	

遺構	遺物	種類	M.C.	大きさ(mm)			重さ	備考
				最大	最少	厚さ	(g)	
	150-①	スラグ		39.4	33.1	15.6	13.05	
	150-②	スラグ		29.3	24.6	8.6	6.24	
炉内	151	小鉄塊		19.9	18.4	18.4	3.50	総重量7.01(2コ)
炉内	152	スラグ		15.0	12.4	6.9	0.39	
炉内	153	羽口					5.47	
炉内	154	羽口?					0.87	
炉内	156	羽口					3.01	
炉内	157	スラグ		20.0	15.2	9.5	1.68	
炉内	158	羽口					4.21	
炉内	160	スラグ		24.6	18.0	13.5	6.86	
炉内	161	羽口					6.80	
炉内	162	スラグ		33.2	31.3	14.6	9.61	一括総重量10.87
炉内	163	羽口					224.20	
炉内	164	羽口					120.20	
炉内	165	羽口					243.00	
炉内一括	166	小鉄塊		21.8	10.7	9.4	1.82	
炉内一括	166-①	スラグ		22.8	15.7	9.6	3.28	計測不可能分1.29g
炉内一括	166-②	スラグ		24.6	18.2	9.7	3.13	
炉内一括	166-③	スラグ		21.5	19.5	6.8	1.85	
炉内一括	166-④	スラグ		22.1	16.8	7.3	2.53	
炉内一括	166-⑤	スラグ		18.0	16.5	8.6	3.66	
炉内一括	166-⑥	スラグ		18.8	17.5	6.2	2.35	
炉内一括	166-⑦	スラグ		23.8	14.7	6.3	2.15	
炉内一括	166-⑧	スラグ		21.7	12.2	5.6	1.66	
炉内一括	166-⑨	スラグ		16.0	13.1	6.7	1.76	
炉内一括	166-⑩	スラグ		18.1	14.9	11.5	2.37	
炉内一括	166-⑪	スラグ		15.3	13.7	11.1	4.45	
炉内一括	166-⑫	スラグ		16.4	11.4	6.6	1.30	
炉内一括	166-⑬	スラグ		17.4	11.6	7.7	1.99	
炉内一括	166-⑭	スラグ		17.2	11.1	11.4	3.02	
炉内一括	166-⑮	スラグ		16.9	14.6	8.3	3.08	
炉内一括	166-⑯	スラグ		15.2	10.2	10.8	2.01	
炉内一括	166-⑰	スラグ		13.0	15.3	8.3	2.03	
炉内一括	166-⑱	スラグ		17.5	10.4	6.6	0.88	
炉内一括	166-⑲	スラグ		12.5	11.5	11.9	1.29	
炉内一括	166-⑳	スラグ		14.1	11.4	6.7	1.08	
炉内一括	166-㉑	スラグ		13.4	11.4	8.7	1.42	
炉内一括	166-㉒	スラグ		14.7	10.8	7.4	1.75	
炉内一括	166-㉓	スラグ		14.4	11.4	9.3	0.81	
炉内一括	166-㉔	スラグ		15.0	10.1	8.1	1.06	
炉内一括	166-㉕	スラグ		13.6	10.0	8.2	0.99	
炉内一括	166-㉖	スラグ		15.7	9.3	5.5	0.92	
炉内一括	166-㉗	スラグ		10.4	12.7	6.2	1.46	
炉内一括	166-㉘	スラグ		12.0	7.9	7.3	0.48	
炉内一括	166-㉙	スラグ		11.2	9.6	8.9	0.98	
炉内一括	166-㉚	スラグ		9.2	8.0	8.0	0.94	
炉内一括	166-㉛	スラグ		11.7	7.3	7.9	0.50	
炉内一括	166-㉜	スラグ		11.1	9.3	4.1	0.55	
炉内一括	166-㉝	スラグ		11.4	7.7	6.9	0.47	
炉内一括	166-㉞	スラグ		9.4	6.4	5.5	0.35	
	170	羽口					3.95	
	171	スラグ		14.4	9.6	6.5	1.27	(002)
	172	スラグ		15.1	6.7	6.1	0.60	総重量1.56(4コ) 一番大きい物計測 (004)
	173	スラグ		19.0	16.0	13.0	3.97	一括総重量5.47 (005)
	174	羽口					1.27	(006)
	175	炉底滓		22.7	19.1	14.7	6.65	(007)
	176	炉底滓		9.5	7.6	3.3	0.37	(008)
	177	スラグ		21.4	17.9	12.4	3.01	(010)
	178	スラグ		15.9	9.6	12.0	1.31	(011)
	179	スラグ		32.2	25.7	20.9	14.48	(012)
	180	炉底滓		56.2	42.8	28.5	86.20	(013)
	181	スラグ		5.9	6.2	5.8	0.13	(014)
	182	鉄素材		29.7	8.1	7.3	1.08	(014)
	183	炉底滓		24.8	21.7	15.0	9.41	(015)
	184	炉底滓		32.4	23.2	11.6	6.38	(016)
	185	スラグ		13.3	11.8	6.8	0.86	(017)
	186	スラグ		11.2	8.1	4.3	0.43	一括総重量1.84 (018)
	187	スラグ		10.0	7.5	4.9	0.35	(019)
	188	炉底滓		30.2	22.4	13.7	10.03	(020)
	189	スラグ		18.4	17.3	15.8	1.87	(022)
	190	炉底滓		34.8	25.2	20.9	16.79	(022)
	191	スラグ		10.4	9.4	8.1	0.74	(023)
	192-①	スラグ		42.4	30.3	15.5	20.32	(025)
	192-②	スラグ		20.8	18.2	14.4	5.01	一括総重量33.54 (2コ)計測 (031)
	193	羽口					3.93	(025)
	194	スラグ		30.9	26.5	6.8	4.74	(027)
	195	スラグ		20.7	14.6	10.7	1.45	(028)
	196	スラグ		19.6	16.3	15.6	2.27	(029)
	197	スラグ		16.2	11.6	8.4	1.54	(030)
	198	小鉄塊		20.3	13.4	7.6	1.93	総重量7.38 (内最大を計測) (031)
	199	スラグ		8.7	8.9	7.3	0.42	(031)
	200	スラグ		36.8	32.2	5.2	8.32	(032)
	201	スラグ		27.4	16.6	8.5	7.06	(033)
	202	炉底滓		46.3	24.7	15.4	32.24	(033)
	203-①	スラグ		47.2	23.9	10.5	20.84	(034)
	203-②	スラグ		13.2	8.9	4.9	3.65	(034)
	204	スラグ		12.2	9.3	3.1	0.28	(035)
	205	スラグ		14.6	10.9	8.1	1.08	(036)
覆土内一括	206-①	スラグ		24.9	23.7	9.3	4.20	(037)
覆土内一括	206-②	スラグ		23.3	14.4	10.9	4.36	(037)
覆土内一括	206-③	スラグ		25.2	13.6	7.5	2.37	(037)
覆土内一括	206-④	スラグ		15.3	11.7	9.3	0.92	(037)
覆土内一括	206-⑤	スラグ		10.9	6.6	2.6	0.23	(037)
覆土内一括	206-⑥	スラグ		10.7	6.0	3.5	0.20	一括総重量12.30 (037)
覆土内一括	206-①	炉底滓		36.7	28.7	15.9	17.49	(037)
覆土内一括	206-②	炉底滓		31.6	26.1	12.9	9.93	(037)
覆土内一括	206-③	炉底滓		23.7	21.0	12.8	7.54	(037)

第4表　SD006・SD007溝状遺構出土スラグ等計測表

遺構	遺物	種類	M.C.	大きさ(mm)			重さ	備考
				最大	最少	厚さ	(g)	
SD006	005	スラグ		27.4	20.3	13.9	6.90	
	008	スラグ		23.7	16.9	10.8	6.02	
	009	スラグ		15.5	10.1	8.8	2.27	
	011	炉底滓？		23.8	16.5	13.5	9.58	
	012	スラグ		15.1	11.7	6.0	0.90	
	013	炉底滓？		26.8	20.1	17.7	11.93	
	014	炉底滓？		32.6	28.0	16.0	13.36	
	015	スラグ		27.2	20.4	13.2	3.32	
	016	スラグ		25.1	19.6	11.3	3.83	
	018	スラグ		36.2	25.5	20.8	10.33	
	019	スラグ		33.1	26.5	16.4	6.56	
	021	スラグ		15.1	13.1	8.9	1.77	
	022	炉底滓？		23.4	21.1	19.1	7.55	
	023	炉底滓		39.2	22.3	21.7	18.34	
	024	スラグ		23.3	14.6	14.4	5.77	
	025	スラグ		18.5	16.3	9.6	3.17	
	026	スラグ		24.8	17.6	15.9	5.52	
	027	スラグ		15.8	11.4	7.5	1.20	
	028	小鉄塊		23.9	20.5	13.5	8.47	
	029	スラグ		24.8	16.7	12.1	2.81	
	030	炉底滓		35.5	34.1	17.7	28.15	
	031-①	スラグ		23.3	19.7	14.3	3.43	
	031-②	スラグ		16.7	14.7	7.9	1.48	
	032	羽口小片					3.25	
	033	スラグ		16.0	13.6	10.3	1.78	
	034	スラグ		16.8	11.8	7.6	1.68	
	035	スラグ		12.1	9.6	5.5	0.60	
	036	スラグ		32.8	23.2	17.4	7.85	
	037	スラグ		29.2	17.6	13.1	4.23	
	038	スラグ		23.2	23.2	11.5	5.46	
	039	スラグ		17.2	13.5	8.6	1.55	
	040	不明土製品		20.2	14.7	10.2	2.26	
	042	炉底滓		16.8	10.7	8.0	2.35	
	043	スラグ		26.6	19.4	12.2	4.18	
	045-①	スラグ		25.1	18.3	18.3	6.31	
	045-②	スラグ		21.1	16.2	12.7	1.53	
	046-①	スラグ		18.1	15.7	7.2	1.35	
	046-②	スラグ		14.1	8.5	6.7	1.05	
	047	スラグ		17.5	11.9	6.7	1.51	
	048	スラグ		17.0	16.5	12.2	5.65	
	049	スラグ		12.9	10.8	7.4	1.24	
	050	スラグ		13.4	8.0	6.4	1.24	
	051	スラグ		17.2	16.7	9.6	1.62	
	052	スラグ		29.8	20.9	13.2	5.56	
	053	スラグ		14.0	11.5	9.4	1.94	
	054	スラグ		23.7	20.3	7.1	2.40	
	055	スラグ		10.9	6.9	5.6	0.45	
	056	スラグ		19.4	16.1	10.0	4.21	
	057	スラグ		16.2	13.8	11.9	1.47	
	058	スラグ		19.4	13.3	9.5	2.20	
	059	スラグ		14.1	11.4	10.3	2.38	
	060	スラグ		26.9	16.3	12.9	4.21	
	061	スラグ		19.1	15.6	11.1	4.55	
	062	羽口小片					1.59	
	063-①	スラグ		12.5	11.1	9.0	0.81	
	063-②	スラグ		11.9	7.5	8.0	0.27	
	065	炉底滓？		20.8	13.6	13.0	5.30	
	066	スラグ		15.7	13.0	6.8	1.15	
	077	スラグ		34.1	27.1	18.8	14.01	
	080	スラグ		26.9	20.8	15.2	8.06	
	081	炉底滓		45.5	31.4	16.0	23.57	
	082	スラグ		32.7	26.9	22.3	20.19	
	087	炉底滓破片		38.9	32.3	18.1	16.69	
	087	羽口					24.26	

遺構	遺物	種類	M.C.	大きさ(mm)			重さ	備考
				最大	最少	厚さ	(g)	
SD007	311	スラグ		29.2	25.9	14.1	9.27	
	316	スラグ		14.4	12.5	8.0	0.82	
	322	スラグ		21.4	13.0	12.1	3.00	
	323	スラグ		25.9	16.8	8.4	4.55	
	325	スラグ		21.4	16.1	5.9	1.77	
	328	炉底滓		33.8	29.7	20.5	18.67	
	329	小鉄塊		25.3	18.9	10.4	6.32	
	330	スラグ		23.5	14.9	7.7	2.60	
	331	スラグ		21.1	18.5	10.3	2.11	
	332	炉底滓		20.6	14.1	28.3	18.00	
	333	炉底滓		50.6	32.1	31.8	28.76	
	334	土？		17.4	11.9	7.5	1.62	
	334	スラグ		23.2	15.2	15.1	2.92	
	339	スラグ		24.1	21.3	8.7	6.77	
	342	スラグ		17.8	15.0	11.0	4.66	
	343	炉底滓		52.4	37.8	29.0	92.40	
	345	スラグ		19.3	17.1	11.3	2.15	
	346	炉底滓？		33.6	22.2	17.1	18.02	
	351	スラグ		32.0	22.8	15.8	12.15	
	353	スラグ		39.7	18.4	13.2	6.02	
	354	スラグ		34.6	24.5	18.9	14.83	(2ｺ)総重量16.88 大きい方計測
	355	スラグ		39.4	31.9	19.2	19.40	
	356-①	スラグ		20.4	19.9	9.9	3.76	
	356-②	スラグ		12.3	10.8	9.3	1.70	
	357	スラグ		22.1	16.4	16.2	4.52	
	358-①	スラグ		33.4	22.7	19.8	10.65	
	358-②	スラグ		24.3	19.4	18.3	8.74	
	365	スラグ		31.5	22.5	11.9	5.88	
	367	スラグ		25.3	19.8	19.5	3.67	
	369	スラグ		34.0	18.1	10.5	8.07	
	370	スラグ		20.5	18.1	8.9	5.77	
	372	炉底滓		33.1	26.6	17.1	18.43	
	374	炉底滓		31.6	27.1	18.6	15.82	
	376	土？		22.1	17.5	8.4	4.40	
	377	スラグ		44.9	37.6	12.8	13.55	
	378-①	スラグ		17.0	14.1	4.9	0.95	
	378-②	スラグ		10.1	10.1	5.3	0.32	
	379	炉底滓		34.8	28.5	15.7	27.39	
	380	炉底滓		33.2	20.9	19.6	17.22	
	388	羽口					160.50	No.389と接合
	389	羽口						No.388と接合
	394	炉底滓		43.3	27.6	24.9	30.71	
	409	炉底滓		23.0	18.1	23.7	11.63	
	410	炉底滓		44.9	42.1	16.6	37.89	
	412	炉底滓		36.5	23.9	19.4	16.21	
	415	スラグ		19.4	17.8	12.5	4.85	
	418	スラグ		17.8	14.9	11.4	2.45	
	420	炉底滓		30.9	26.3	28.1	25.85	
	421	スラグ		20.6	14.6	12.2	2.42	
	422	スラグ		24.8	17.6	13.0	6.50	
	595	スラグ		44.5	32.7	11.5	11.84	
	596	スラグ		24.2	21.4	15.3	7.30	
	597	スラグ		28.9	24.0	15.0	5.39	
	599	炉底滓		49.2	42.1	17.5	51.13	
	600	スラグ		25.2	21.7	7.8	1.68	
	601	炉底滓		45.0	19.9	20.2	29.09	
	604	羽口					5.67	
	605	小鉄塊		21.1	15.4	8.9	4.40	
	610	スラグ		22.7	21.4	7.9	2.16	
	612	炉底滓		34.5	33.3	12.1	10.55	
	614	スラグ		16.5	12.9	8.7	1.21	
	615	炉底滓		26.1	23.5	24.5	23.50	
	616	炉底滓		46.2	31.6	20.6	39.56	
	617	スラグ		18.7	6.7	5.9	1.28	

遺構	遺物	種類	M.C.	大きさ(mm)			重さ	備考
				最大	最少	厚さ	(g)	
	618	羽口					12.94	
	620	羽口					6.78	
	621	炉底滓		36.4	26.3	17.1	22.61	
	622	スラグ		30.1	20.1	7.1	2.22	
	623	炉底滓？		38.6	22.5	5.3	8.15	
	624	スラグ		24.2	17.5	14.2	6.27	
	626	炉底滓？		24.4	20.0	17.2	7.25	
	627	スラグ		20.2	10.6	14.4	1.65	(2ヨ)総重量2.48 大きい方計測
	628	スラグ		27.0	21.5	13.6	4.46	
	629	小鉄塊		36.7	26.2	9.5	8.18	
	630	小鉄塊		28.9	17.1	9.0	3.89	
	631	スラグ		12.6	10.7	7.2	1.03	
	632	羽口？					15.68	
	633	羽口					3.51	
	634	スラグ		14.1	9.4	5.4	0.58	
	635	スラグ		48.4	40.4	16.9	18.73	
	636	スラグ		19.1	13.8	10.7	3.80	
	637	スラグ		18.2	13.1	12.9	2.88	
	638	スラグ		22.9	17.3	9.5	5.06	
	684	スラグ		22.6	20.6	13.0	2.09	
	685	スラグ		13.8	8.5	8.4	0.58	一括総重量0.84
	686	羽口					6.39	
	687	スラグ		32.7	18.5	8.6	4.00	
	688	スラグ		27.4	21.1	15.5	7.58	
	690	スラグ		20.8	12.9	4.3	1.55	
	691	土？		50.8	39.3	28.0	43.84	
	692	スラグ		14.2	11.3	6.5	0.86	
	693	炉底滓		52.0	16.7	14.6	13.79	
	694	炉底滓		30.6	26.7	22.0	28.78	
	695	炉底滓		64.9	60.5	42.7	125.10	
	696	炉底滓		12.9	11.1	10.1	5.03	
	697	スラグ		10.5	9.1	8.1	0.52	
	697	小鉄塊		9.4	8.1	7.8	1.00	一括総重量2.71
	698	スラグ		19.4	13.2	10.6	1.08	
	699	スラグ		14.4	13.6	6.4	0.42	
	700	炉底滓？		24.4	16.2	14.4	4.92	
	701	小鉄塊		16.2	10.1	10.9	1.99	
	702-①	スラグ		39.7	30.3	22.6	19.08	
	702-②	スラグ		38.0	23.3	20.2	16.41	
	703	土？		30.4	22.1	14.0	8.30	
	704-①	スラグ		25.0	16.6	14.2	5.28	
	704-②	スラグ		20.2	15.4	13.8	6.18	
	706	スラグ		26.4	16.7	9.6	3.62	
	707	土？		19.9	12.9	8.4	1.37	
	708-①	スラグ		49.4	32.7	20.0	21.30	
	708-②	スラグ		22.6	14.7	17.6	3.18	
	710-①	スラグ		15.6	13.9	11.5	1.99	
	710-②	スラグ		4.9	2.1	1.2	1.04	
	711	スラグ		25.8	15.2	4.6	9.42	
	712	羽口					9.63	
	713	スラグ		12.5	7.4	7.8	0.43	
	714	スラグ		16.0	15.3	12.0	1.35	
	715	羽口					7.53	
	716	スラグ		40.8	33.2	14.6	14.12	
	718	スラグ		19.0	13.0	7.6	1.33	
	719	スラグ		17.2	13.2	10.1	3.11	
	720	スラグ		14.4	11.8	8.9	0.96	
	721	羽口？					2.17	
	722	スラグ		33.0	24.3	12.8	8.63	一括総重量15.98
	723	スラグ		18.9	16.1	15.2	4.36	
	724	スラグ		13.7	8.1	8.8	1.92	
	725	スラグ		26.3	22.2	11.1	4.56	
	726	スラグ		46.3	31.6	20.0	19.09	一括総重量25.46
	728	スラグ＋小鉄塊？		36.2	24.8	19.6	6.78	
	734-①	スラグ		25.1	22.0	13.3	9.50	
	734-②	スラグ		17.8	13.7	12.9	2.04	
	734-③	スラグ		16.4	11.2	8.4	1.24	
	735	炉底滓		29.9	25.9	22.3	16.87	
	736	炉底滓		35.1	22.8	17.8	17.32	
	780	スラグ		26.0	19.3	21.8	13.02	
	780	炉底滓		37.6	26.9	8.7	5.45	

第5表　SK609鍛造剥片等分類表

単位 g

遺物番号		①両面ともツルツル	②どちらか一方がツルツル	③両面ともツルツルしない	湯玉	砂鉄	備考
Aブロック	002	0.01	0.01	△0.01	×	2.57	
	003	0.01	0.01	△0.01	×	0.59	
	004	0.02	0.01	0.01	×	1.00	
	005	×	×	×	×	1.42	
	007	△0.01	×	△0.01	×	1.03	
	008	×	0.01	×	×	2.20	
	009	△0.01	△0.01	△0.01	×	3.65	
	012	△0.01	△0.01	△0.01	×	1.05	
	014	×	×	0.01	0.01	4.13	
	015	×	×	×	×	2.88	
	017	0.01	△0.01	△0.01	×	2.13	
	018	0.01	△0.01	△0.01	△0.01	2.53	
	020	×	×	×	×	2.12	
	021	△0.01	△0.01	△0.01	△0.01	4.02	
	022	×	×	×	×	3.90	
	023	×	×	△0.01	×	0.74	
	024	△0.01	△0.01	△0.01	△0.01	1.56	
	025	△0.01	×	△0.01	△0.01	4.53	
	026	0.02	0.05	△0.01	×	2.32	
	028	0.01	△0.01	△0.01	×	1.77	
	029	△0.01	△0.01	0.01	×	4.31	
	030	×	×	×	×	2.30	
	031	△0.01	0.02	△0.01	△0.01	1.84	
	032	0.01	△0.01	0.01	△0.01	1.44	
	033	△0.01	△0.01	0.03	×	7.24	
	035	0.01	△0.01	0.01	△0.01	2.36	
	036	0.01	0.05	0.05	△0.01	1.56	
	037	×	×	×	×	1.40	
	038	0.01	△0.01	0.01	×	1.51	
	039	△0.01	△0.01	0.01	×	4.12	
	040	×	×	×	×	3.20	
	041	0.01	△0.01	△0.01	△0.01	0.97	
	042	△0.01	△0.01	△0.01	△0.01	1.96	
	044	0.01	△0.01	0.01	×	2.70	
	046	0.01	△0.01	△0.01	△0.01	1.92	
	047	×	×	×	×	2.24	
	048	0.02	0.01	△0.01	×	6.11	
	052	×	×	×	×	2.67	
	053	0.03	0.04	0.07	0.01	×	
	055	0.02	0.01	△0.01	0.02	1.70	
	058	0.01	0.03	0.02	×	0.40	
	059	0.04	0.06	0.03	0.01	2.23	
	060	0.02	0.01	0.02	0.01	2.67	
	062	0.03	×	×	×	1.64	
	063	0.02	0.01	0.04	△0.01	1.28	
	068	0.03	×	×	△0.01	2.09	
	070	△0.01	×	×	△0.01	1.30	
	071	0.01	0.01	×	×	1.37	
	075	0.06	×	×	×	1.92	
	076	0.04	0.01	×	×	1.17	
	080	0.02	×	×	×	0.79	
	081	0.10	0.01	×	0.01	0.95	
	082	0.02	×	×	△0.01	1.86	
	084	0.02	△0.01	−	△0.01	2.19	
	085	0.02	△0.01	×	×	1.20	
	086	0.02	×	×	×	0.88	
	087	0.01	×	×	×	0.33	
	088	0.02	×	×	0.01	1.07	
	093	×	×	×	×	0.43	
	094	0.01	×	×	△0.01	0.29	
	095	0.01	0.01	×	×	0.25	
Bブロック	096	0.09	×	0.02	0.01	2.75	157(SK-605)
	097	0.14	0.02	△0.01	0.01	0.86	158(SK-605)
	098	0.30	0.06	0.10	△0.01	1.96	159(SK-605)
	099	0.20	0.11	△0.01	×	1.69	160(SK-605)
	100	0.14	0.06	0.01	0.02	0.71	161(SK-605)
	101	0.27	0.01	△0.01	△0.01	3.43	149(SK-605)
	102	0.40	0.25	0.17	0.03	6.26	150(SK-605)
	103	0.20	0.11	0.04	0.02	2.66	151(SK-605)
	104	0.94	0.28	0.14	0.07	3.54	152(SK-605)
	105	0.62	0.21	0.09	0.03	3.29	153(SK-605)
	106	0.31	0.06	0.06	△0.01	1.63	154(SK-605)
	107	0.29	0.07	0.33	△0.01	2.39	155(SK-605)
	108	0.06	0.02	0.01	×	0.35	156(SK-605)
	109	0.55	0.09	0.07	△0.01	2.09	140(SK-605)
	111	1.51	0.20	0.16	0.01	5.89	142(SK-605)
	112	0.94	0.12	0.12	△0.01	3.89	143(SK-605)
	113	0.90	0.15	0.26	0.01	4.26	144(SK-605)
	114	0.76	0.14	0.11	0.01	4.55	145(SK-605)
	115	0.78	0.07	0.09	△0.01	3.56	146(SK-605)
	116	0.36	0.07	0.12	0.06	2.36	147(SK-605)
	117	0.02	△0.01	△0.01	×	0.16	148(SK-605)
	118	0.27	0.03	△0.01	0.01	0.60	129(SK-605)
	119	0.58	0.26	0.13	0.19	3.23	130(SK-605)
	120	1.48	0.33	0.24	0.03	4.99	131(SK-605)
	121	2.56	0.56	0.50	0.03	7.19	132(SK-605)
	122	1.50	0.34	0.26	0.02	4.92	133(SK-605)
	123	1.02	0.38	0.40	0.03	3.62	134(SK-605)
	124	1.52	0.27	0.18	0.07	4.76	135(SK-605)
	125	0.89	0.16	0.07	0.01	4.36	136(SK-605)
	126	0.94	0.15	0.08	△0.01	2.89	137(SK-605)
	127	0.09	0.01	0.03	△0.01	1.05	138(SK-605)
	128	0.03	×	×	×	0.17	139(SK-605)
	129	0.20	0.07	0.04	0.22	0.75	118(SK-605)
	130	×	0.94	0.16	0.08	3.44	119(SK-605)
	131	1.35	0.42	0.09	0.06	5.76	120(SK-605)
	132	1.69	1.19	1.13	0.05	5.61	121(SK-605)
	133	3.71	1.34	1.65	0.14	10.11	122(SK-605)
	134	4.51	0.78	0.90	0.06	8.43	123(SK-605)
	135	1.24	0.24	0.13	0.01	3.74	124(SK-605)
	136	1.64	0.51	0.48	0.02	7.55	125(SK-605)
	137	1.12	0.12	0.35	0.02	3.24	126(SK-605)
	138	0.70	0.14	0.04	△0.01	2.81	127(SK-605)
	139	0.03	0.01	△0.01	×	0.29	128(SK-605)
	140A	0.52	0.17	0.11	0.01	2.03	109A(SK-605)
	140B	0.24	0.01	×	0.08	0.86	109B(SK-605)
	141A	0.37	0.02	0.02	△0.01	0.83	110A(SK-605)
	141B	0.70	0.17	0.16	△0.01	2.36	110B(SK-605)
	142A	0.90	0.34	0.06	0.01	1.96	111A(SK-605)
	142B	1.45	0.09	0.37	0.11	4.44	111B(SK-605)
	143A	0.19	△0.01	0.01	△0.01	0.70	112A(SK-605)
	143B	2.83	0.83	0.20	0.27	6.91	112B(SK-605)
	144A	0.63	0.12	0.14	0.05	1.67	113A(SK-605)
	144B	4.15	0.50	0.44	0.14	9.55	113B(SK-605)
	145	2.68	0.43	0.05	0.03	7.06	114(SK-605)
	146	1.57	0.27	0.20	0.08	6.59	115(SK-605)
	147	0.21	0.03	×	△0.01	1.48	116(SK-605)
	148	0.37	0.01	0.10	0.01	1.48	117(SK-605)
	149A	0.22	△0.01	×	0.01	0.63	102A(SK-605)
	149B	0.56	0.01	0.02	0.01	5.93	102B(SK-605)
	150A	0.24	△0.01	0.02	×	1.01	103A(SK-605)
	150B	0.53	×	×	0.01	1.12	103B(SK-605)
	151A	0.76	0.14	×	△0.01	1.79	104A(SK-605)
	151B	2.96	0.31	0.26	0.01	6.58	104B(SK-605)
	152A	6.01	1.07	0.20	0.21	11.14	105A(SK-605)
	152B	0.58	0.17	×	0.06	2.01	105B(SK-605)
	153A	0.58	0.09	0.54	0.01	1.99	106A(SK-605)
	153B	5.91	1.37	0.04	0.17	13.21	106B(SK-605)
	154A	7.05	1.44	1.31	0.06	16.93	107A(SK-605)
	154B	0.93	0.16	0.04	0.01	2.59	107B(SK-605)
	155	1.52	0.49	0.38	0.07	3.31	108(SK-605)
	156	0.02	×	×	△0.01	0.08	096(SK-605)
	157	0.17	0.01	×	0.02	0.37	097(SK-605)
	158	0.24	0.07	×	×	0.48	098(SK-605)
	159	1.89	0.27	0.10	0.02	3.46	099(SK-605)
	160	2.23	0.31	0.11	0.05	4.15	100(SK-605)
	161	0.22	0.03	0.04	×	0.54	101(SK-605)
Cブロック	162	×	×	×	×	1.73	141(SK-609)
	163	△0.01	×	×	×	1.28	142(SK-609)
	164	△0.01	×	×	×	0.34	143(SK-609)
	165	×	×	×	×	0.87	144(SK-609)
	166	△0.01	×	×	×	1.19	145(SK-609)
	167	△0.01	×	×	×	0.95	146(SK-609)
	168	△0.01	×	×	×	0.74	147(SK-609)
	169	△0.01	×	×	×	0.93	148(SK-609)
	170	△0.01	×	0.01	×	3.33	149(SK-609)
	171	△0.01	×	×	×	6.75	150(SK-609)
	172	△0.01	×	×	×	3.56	151(SK-609)
	173	△0.01	×	×	×	3.69	152(SK-609)
	174	△0.01	×	×	×	5.01	153(SK-609)
	175	△0.01	×	×	×	3.02	154(SK-609)
	176	△0.01	×	×	×	1.25	155(SK-609)
	177	△0.01	×	×	×	1.08	156(SK-609)
	178	△0.01	×	×	0.01	0.92	157(SK-609)
	179	0.02	0.02	×	×	2.29	158(SK-609)
	180	0.02	0.02	×	×	1.40	159(SK-609)
	181	0.01	△0.01	×	×	2.32	160(SK-609)
	182	0.02	×	×	△0.01	×	161(SK-609)
	183	0.03	0.02	×	×	2.32	162(SK-609)
	184	0.07	△0.01	×	×	3.98	163(SK-609)
	185	0.02	0.02	×	×	2.20	164(SK-609)
	186	0.03	0.03	×	×	2.41	165(SK-609)
	187	0.03	0.02	×	×	2.25	166(SK-609
	188	0.01	×	×	×	1.63	167(SK-609)

遺物番号	①両面ともツルツル	②どちらか一方がツルツル	③両面ともツルツルしない	湯玉	砂鉄	備考
189	0.03	×	×	×	2.30	168(SK-609)
190	0.04	0.01	×	×	5.15	169(SK-609)
191	0.03	0.03	×	×	2.24	170(SK-609)
192	0.02	×	×	×	1.33	171(SK-609)
193	0.03	×	×	×	2.95	172(SK-609)
194	0.03	×	×	×	0.49	173(SK-609)
195	0.01	×	×	×	1.56	174(SK-609)
196	0.01	×	×	×	1.90	175(SK-609)
197	0.03	0.01	×	×	2.14	176(SK-609)
198	0.06	0.04	×	×	1.95	177(SK-609)
199	0.04	×	×	0.01	2.33	178(SK-609)
200	0.06	×	×	×	4.58	179(SK-609)
201	0.04	×	×	0.02	1.61	180(SK-609)
202	0.02	×	×	×	1.43	181(SK-609)
203	0.03	×	×	×	1.01	182(SK-609)
204	0.09	×	×	0.02	4.47	183(SK-609)
205	0.01	×	×	×	0.89	184(SK-609)
206	0.05	×	×	×	3.01	185(SK-609)
207	0.05	×	×	×	2.54	186(SK-609)
208	0.05	×	×	×	1.77	187(SK-609)
209	0.12	×	×	×	2.67	188(SK-609)
210	0.03	×	×	×	0.66	189(SK-609)
211	0.05	×	×	×	1.55	190(SK-609)
Dブロック 212	×	×	×	×	0.98	001(SK-609)
213	0.01	0.01	×	×	0.34	002(SK-609)
214	△0.01	0.01	0.01	×	1.02	003(SK-609)
215	0.01	0.01	0.01	×	0.26	004(SK-609)
216	0.01	×	×	×	0.47	005(SK-609)
217	0.02	×	×	×	1.81	006(SK-609)
218	0.01	×	×	×	×	007(SK-609)
219	0.01	×	×	×	×	008(SK-609)
220	0.01	×	×	×	0.40	009(SK-609)
221	0.01	×	×	×	1.40	010(SK-609)
222	△0.01	×	×	×	1.84	011(SK-609)
223	0.01	×	×	×	2.91	012(SK-609)
224	0.01	×	×	×	1.32	013(SK-609)
225	0.05	0.01	×	×	1.38	014(SK-609)
226	0.04	×	×	0.02	0.66	015(SK-609)
227	0.04	0.03	×	×	1.73	016(SK-609)
229	0.04	×	×	×	0.89	018(SK-609)
230	0.01	0.01	×	×	0.23	019(SK-609)
231	0.01	×	×	×	×	020(SK-609)
232	0.01	×	×	×	×	021(SK-609)
233	0.01	×	×	×	0.47	022(SK-609)
234	×	×	×	×	×	023(SK-609)
235	0.01	×	×	×	1.95	024(SK-609)
236	0.03	×	×	×	0.53	025(SK-609)
237	0.03	×	×	×	2.62	026(SK-609)
238	0.04	0.01	×	×	1.75	027(SK-609)
239	0.03	△0.01	×	×	1.82	028(SK-609)
240	0.06	0.01	×	×	×	029(SK-609)
241	0.05	△0.01	×	×	0.23	030(SK-609)
242	0.04	0.02	×	×	2.10	031(SK-609)
243	0.03	0.01	×	×	×	032(SK-609)
244	0.04	×	×	×	0.74	033(SK-609)
245	△0.01	×	×	×	3.56	034(SK-609)
246	△0.01	×	×	×	2.17	035(SK-609)
247	△0.01	×	×	×	1.40	036(SK-609)
248	0.09	×	×	×	0.67	037(SK-609)
249	0.11	×	×	×	1.30	038(SK-609)
250	0.09	×	×	△0.01	×	039(SK-609)
251	0.03	0.01	×	×	×	040(SK-609)
252	0.03	×	×	×	1.40	041(SK-609)
253	0.01	×	×	×	0.16	042(SK-609)
254	0.05	△0.01	×	×	0.72	043(SK-609)
255	0.02	△0.01	×	×	0.35	044(SK-609)
256	△0.01	△0.01	×	×	0.36	045(SK-609)
257	0.03	×	×	×	0.40	046(SK-609)
258	0.01	×	×	×	0.95	047(SK-609)
259	0.01	×	×	×	3.43	048(SK-609)
260	0.01	×	×	×	4.92	049(SK-609)
261	△0.01	×	×	×	4.09	050(SK-609)
262	△0.01	×	×	×	2.46	051(SK-609)
263	△0.01	×	×	×	1.54	052(SK-609)
264	△0.01	×	×	×	1.37	053(SK-609)
265	△0.01	×	×	0.01	0.72	054(SK-609)
266	×	×	×	×	0.32	055(SK-609)
267	0.01	×	×	×	0.99	056(SK-609)
268	0.01	×	×	×	0.49	057(SK-609)
269	0.02	×	×	×	0.98	058(SK-609)

遺物番号	①両面ともツルツル	②どちらか一方がツルツル	③両面ともツルツルしない	湯玉	砂鉄	備考
270	0.02	×	×	×	0.62	059(SK-609)
271	×	×	×	×	0.22	060(SK-609)
272	×	×	×	△0.01	0.46	061(SK-609)
273	0.01	×	×	×	1.58	062(SK-609)
274	△0.01	×	×	×	1.70	063(SK-609)
275	△0.01	×	×	△0.01	×	064(SK-609)
276	0.02	×	×	×	3.14	065(SK-609)
277	△0.01	×	×	×	2.93	066(SK-609)
278	△0.01	×	×	×	2.58	067(SK-609)
279	×	×	×	×	×	068(SK-609)
280	△0.01	×	×	×	0.83	069(SK-609)
281	0.01	×	×	△0.01	0.77	070(SK-609)
283	0.01	△0.01	×	×	0.55	072(SK-609)
285	0.01	×	×	×	1.63	074(SK-609)
286	△0.01	×	×	×	2.15	075(SK-609)
287	△0.01	×	×	×	3.05	076(SK-609)
288	0.01	×	×	×	2.09	077(SK-609)
289	0.01	×	×	△0.01	2.75	078(SK-609)
290	0.02	△0.01	×	×	4.39	079(SK-609)
291	0.02	×	×	×	3.92	080(SK-609)
292	0.01	×	×	×	1.92	081(SK-609)
293	△0.01	×	×	×	0.04	082(SK-609)
294	△0.01	×	×	×	0.61	083(SK-609)
295	×	×	×	×	0.08	084(SK-609)
296	△0.01	×	×	×	2.50	085(SK-609)
297	△0.01	×	×	×	1.66	086(SK-609)
298	△0.01	×	×	×	1.49	087(SK-609)
299	△0.01	×	×	×	3.11	088(SK-609)
300	△0.01	△0.01	×	×	2.50	089(SK-609)
301	△0.01	×	×	×	2.76	090(SK-609)
302	0.06	×	×	×	1.42	091(SK-609)
303	△0.01	×	×	×	2.35	092(SK-609)
304	0.02	×	×	×	1.06	093(SK-609)
305	0.01	×	×	×	1.31	094(SK-609)
306	0.01	×	×	×	1.46	095(SK-609)
307	△0.01	×	×	×	0.54	096(SK-609)
308	×	×	×	×	2.61	097(SK-609)
309	0.02	×	×	△0.01	2.23	098(SK-609)
310	0.02	×	×	×	2.76	099(SK-609)
311	0.02	×	×	×	1.37	100(SK-609)
312	0.01	△0.01	×	×	0.66	101(SK-609)
313	×	×	×	0.01	0.48	102(SK-609)
314	0.03	×	×	×	0.64	103(SK-609)
315	×	×	×	×	0.75	104(SK-609)
316	0.02	×	×	×	2.16	105(SK-609)
317	×	×	×	×	0.60	106(SK-609)
318	×	×	×	×	2.13	107(SK-609)
319	0.01	×	×	×	3.13	108(SK-609)
320	△0.01	×	×	×	2.81	109(SK-609)
321	0.01	×	×	×	2.14	110(SK-609)
322	0.01	×	×	×	1.43	111(SK-609)
323	△0.01	×	×	×	×	112(SK-609)
324	0.01	×	×	×	0.58	113(SK-609)
325	△0.01	×	×	△0.01	0.58	114(SK-609)
326	△0.01	×	×	×	0.38	115(SK-609)
327	△0.01	△0.01	×	×	0.23	116(SK-609)
328	0.01	×	×	×	0.91	117(SK-609)
329	△0.01	×	×	△0.01	1.35	118(SK-609)
330	×	×	×	×	2.72	119(SK-609)
331	0.01	×	×	×	1.67	120(SK-609)
332	0.01	×	×	×	1.16	121(SK-609)
333	△0.01	×	×	×	0.43	122(SK-609)
334	0.01	×	×	×	0.78	123(SK-609)
335	△0.01	×	×	×	0.41	124(SK-609)
336	△0.01	×	×	×	0.68	125(SK-609)
337	△0.01	×	×	×	0.58	126(SK-609)
338	△0.01	×	×	×	1.55	127(SK-609)
339	△0.01	×	×	×	1.96	128(SK-609)
340	0.01	×	×	×	1.23	129(SK-609)
341	×	×	×	×	0.30	130(SK-609)
342	×	×	×	×	0.27	131(SK-609)
343	0.01	×	×	×	0.73	132(SK-609)
344	0.01	×	×	×	1.45	133(SK-609)
345	×	×	0.01	×	1.46	134(SK-609)
346	△0.01	×	×	×	0.86	135(SK-609)
347	△0.01	×	×	×	0.26	136(SK-609)
348	△0.01	×	×	×	0.33	137(SK-609)
349	×	×	×	×	0.17	138(SK-609)
350	△0.01	×	×	×	0.83	139(SK-609)
351	△0.01	×	×	×	0.44	140(SK-609)

ＳＸ013（第33図～第35図・第6表・図版45-3～図版46-1）

遺跡の東側台地上で北に急傾斜する斜面上（G3-75グリッド）に位置する。

本遺構は、ＳＫ609小鍛冶遺構とは対照的に、遺構の内外に多くのピットを持ち、炉は2基構築されている。平面プランは楕円形を呈し、2基の炉を円形に取り囲むようにピットが設けられている。床面は炉の周辺だけが平坦で、北西斜面側に若干傾斜している。遺構内ピットは計12基で、南東側の凹凸の激しい床面内に確認された。また、遺構外ピットは計11基で、合計23基確認された。すべてのピットが本遺構に伴うものかどうかは判断し難いが、各ピットの深さは下記のとおりである。

Ｐ1＝52.7cm・Ｐ2＝30.7cm・Ｐ3＝18.7cm・Ｐ4＝12.6cm・Ｐ5＝12.9cm・Ｐ6＝23.1cm・

Ｐ7＝17.1cm・Ｐ8＝45.2cm・Ｐ9＝41.0cm・Ｐ10＝41.7cm・Ｐ11＝83.5cm・Ｐ12＝26.5cm・

Ｐ13＝18.4cm・Ｐ14＝18.5cm・Ｐ15＝20.9cm・Ｐ16＝20.0cm・Ｐ17＝32.6cm・Ｐ18＝44.1cm・

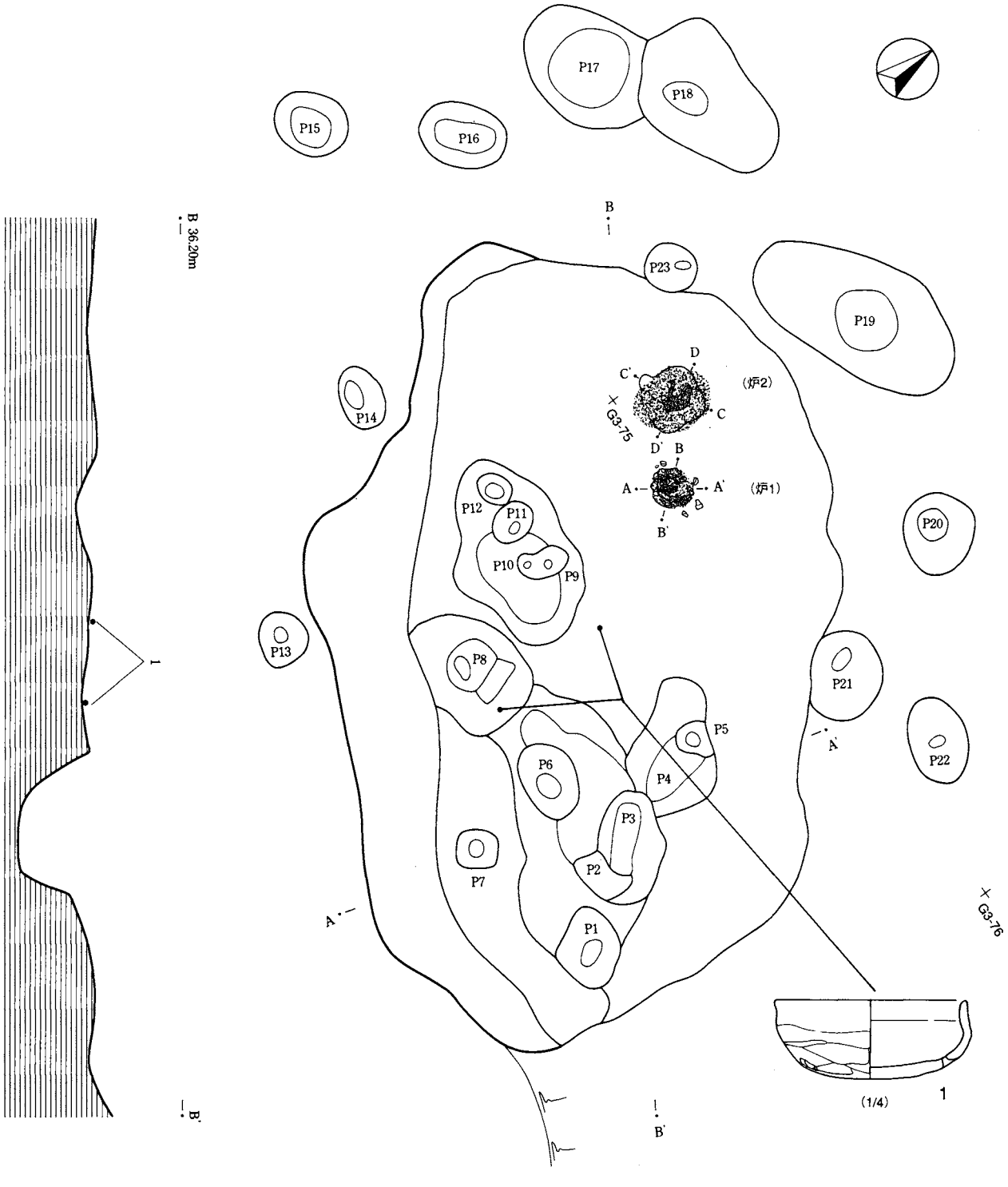
Ｐ19＝40.1cm・Ｐ20＝15.5cm・Ｐ21＝18.7cm・Ｐ22＝12.5cm・Ｐ23＝24.6cm

本遺構は、ＳＫ609のような破壊は免れており、多量に出土したスラグ等の遺物はほとんどが遺構内覆土中か床面で確認された。スラグ等の集中箇所は、炉から南東側1.5ｍと南南東2.5ｍの2か所に認められる。前者は床面が比較的平坦な場所で、後者は起伏が激しい。スラグ等の出土遺物は、スラグが224点で505.30ｇ、炉底滓が17点で279.93ｇ、羽口片が27点で313.87ｇである（第34図）。また、覆土中や床面から土器片も多く出土している。そのほとんどが摩耗が激しく接合不能のもので、かろうじて接合・図示できたものは床面から出土した椀1点のみである（第33図-1）。この椀は底部周縁に1か所穿孔があるが、器面の摩耗が激しいため、焼成前のものか後のものか判断し難い。

炉は、遺構内北側に構築され、台地斜面に面するように並列する形で2基検出された。炉1は平面プラン円形を呈し、掘り込みのほとんどない地床炉であるが、山砂を多量に混入した粘土で炉を囲って炉壁としている。この炉壁は北側で若干破損しているが、炉全体を径25cmの円形に囲っている。この破損部分は故意に破損させているとすれば羽口の装着部分の可能性もあるが、現状では確証はない。炉底部分はロームが焼土化し固く締まり、赤褐色を呈している。また、炉内ではブロック状のスラグが出土した。

炉2は炉1の北西側に約60cm隔たった位置にあり、平面プラン楕円形を呈している。炉1とは構造が異なり、床面を10cm程度レンズ状に掘り込み、底面に山砂を多量に混入した粘土を厚さ5cm～10cm貼って炉底としている。この炉壁は焼土化して固く締まっている。炉内中央にはスラグが固まった状態で出土した。炉2は、南側が木の根による若干の撹乱を受けているものの、炉1同様遺存状態は良好である。このことからも二つの炉は、本鍛冶工房が廃棄される直前まで同時使用されていたと思われる。また、炉2基が同時使用されていたとすると、スラグ等が集中している炉1の東側平坦面と、スラグ等の出土はほとんどないものの、炉2南側平坦部の安定した2か所が作業空間としての可能性が高い。

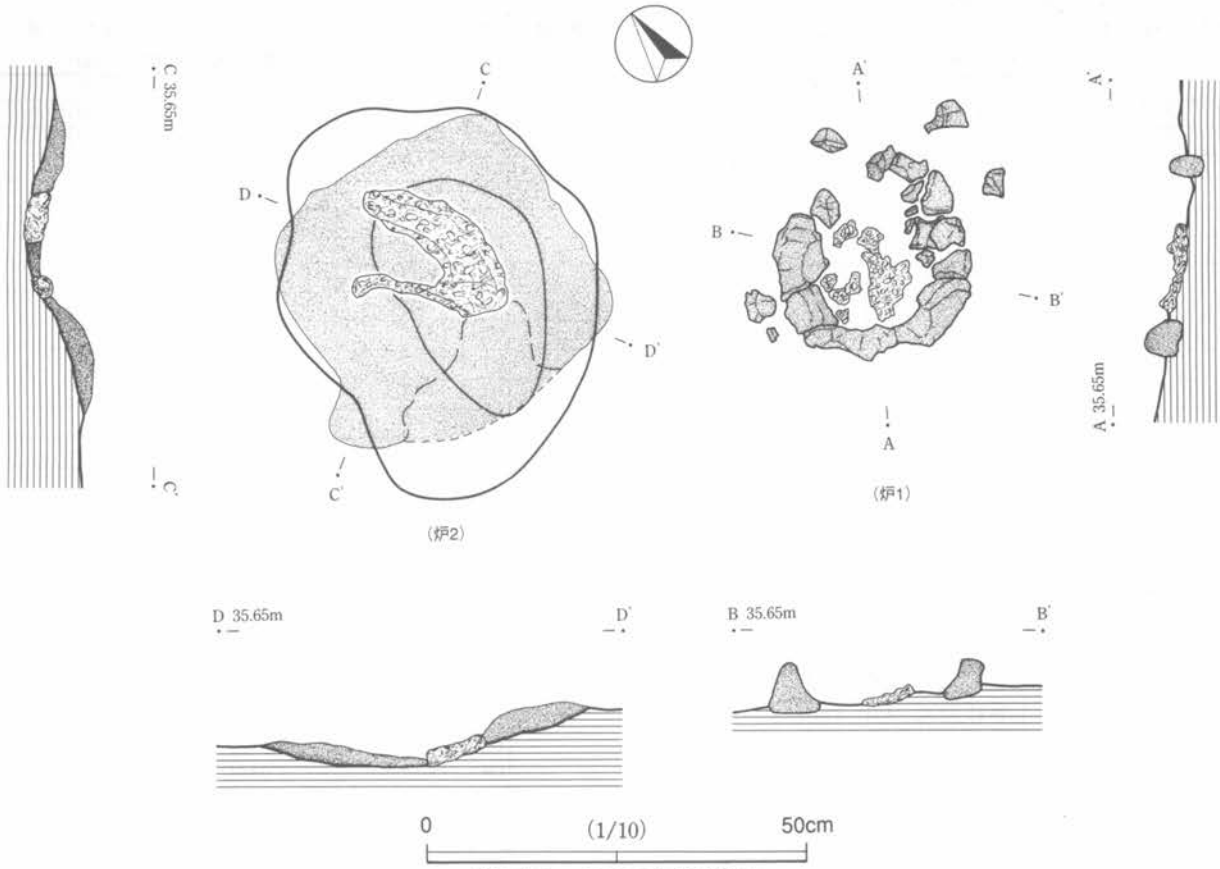
第36図・第7表・第8表は、ＳＫ609・ＳＸ013小鍛冶遺構以外の遺跡全体でのスラグ等の出土状況を表したものである。鍛冶関連遺物を出土した竪穴住居跡は計16軒で、遺跡の北東端から南西端の範囲に散在し、そのほとんどが覆土中からの出土である。また、竪穴住居跡出土の鍛冶関連遺物は合計すると、炉底滓427.45ｇ・スラグ48.98ｇ・小鉄塊45.77ｇ・羽口片42.87ｇである。一方、グリッド出土のスラグ等の状況をみてみると、南斜面貝層の部分に集中する箇所がみられるほかは、特徴的な状況はみいだせない。グリッド出土の鍛冶関連遺物はスラグ1087.44ｇ・炉底滓1909.07ｇ・小鉄塊302.57ｇ・羽口65.67ｇである。ＳＫ609・ＳＸ013小鍛冶遺構内出土の鍛冶関連遺物の総重量は2872.09ｇ。遺構外出土の総重量は5906.29ｇである。



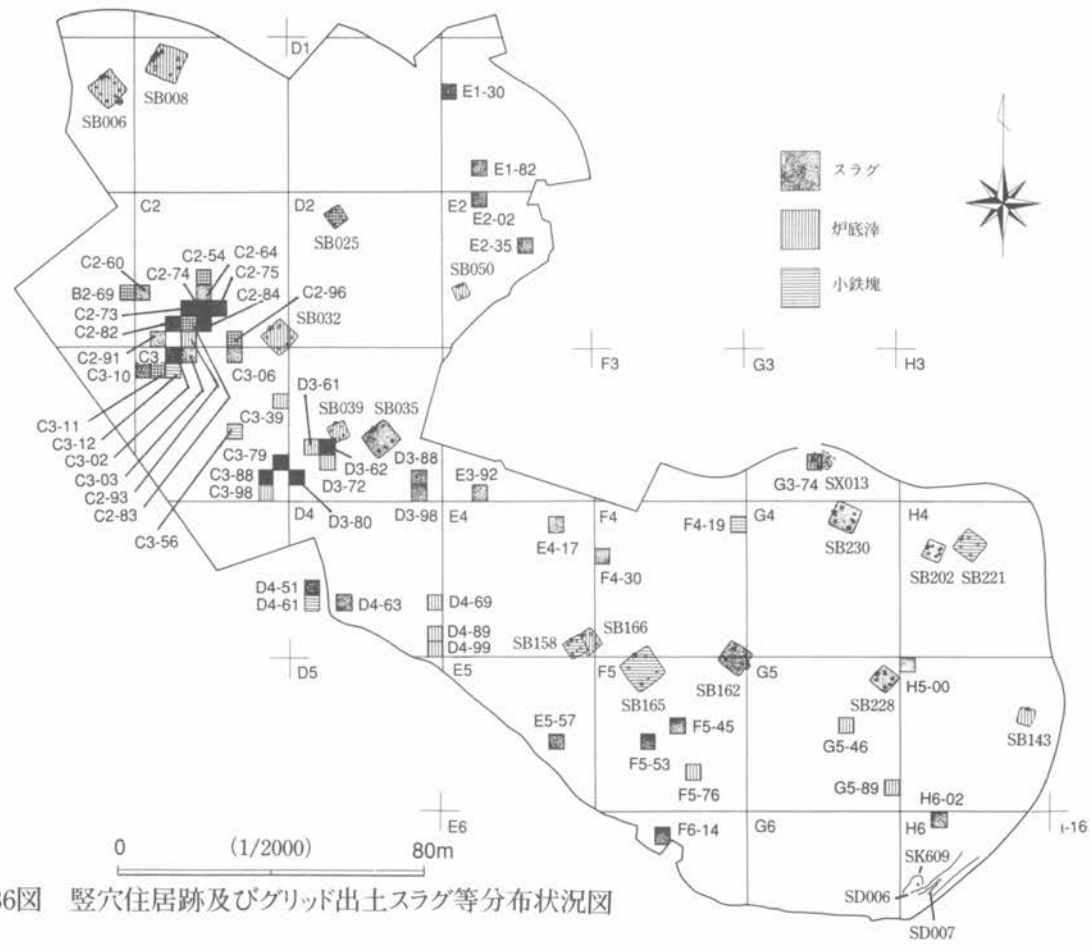
1.黒色土層……(腐植土層)
2.黒褐色土層…(ローム粒・ロームブロックまじりの腐植土層)
3.黄褐色土層…(若干の腐植土まじりのローム粒・ロームブロック土層)

第33図　SX013小鍛冶遺溝実測図

第34図　SX013スラグ等分布状況図



第35図　SX013炉実測図



第36図　竪穴住居跡及びグリッド出土スラグ等分布状況図

第6表　SX013小鍛冶遺構出土スラグ等計測表

遺構	遺物	種類	M.C.	大きさ(mm) 最大	最少	厚さ	重さ (g)	備考
SX013	008	スラグ		29.1	26.6	12.9	6.68	
	009	スラグ		16.9	12.5	10.3	0.61	
	010	羽口小片					16.01	
	013	スラグ		17.3	13.3	10.5	2.84	(2ヨ)総重量3.03 大きい方計測
	017	炉底滓		36.6	29.5	22.3	21.31	
	019	スラグ		20.9	17.3	6.4	1.43	
	021	スラグ		32.9	24.9	23.5	20.25	
	024	スラグ		19.2	11.8	10.0	1.90	
	028	スラグ		37.6	23.0	13.6	11.18	
	031	スラグ		20.7	16.5	8.6	2.50	
	032	スラグ		21.8	19.9	11.4	1.88	
	033	スラグ		14.3	13.0	5.5	0.78	
	034	スラグ		18.9	15.0	8.1	1.56	
	039	羽口小片					2.45	
	042	スラグ		18.5	13.6	11.0	0.99	
	043	スラグ		23.2	19.5	17.0	3.29	
	044	羽口小片					7.47	
	046	炉底滓		22.9	19.4	13.6	5.06	
	047	スラグ(含鉄)		23.5	17.6	12.2	4.92	
	048	スラグ		14.7	13.5	9.3	1.17	
	049-①	スラグ		10.2	7.9	6.3	0.15	
	049-②	スラグ		10.0	7.5	5.1	0.51	
	050-①	スラグ		17.8	14.5	10.3	1.85	
	050-②	スラグ		13.2	9.1	6.9	0.75	
	051	スラグ		12.3	9.3	7.9	0.34	
	052	スラグ		22.0	18.5	12.8	3.45	
	053	スラグ		11.8	10.5	9.3	1.12	
	055	スラグ		28.5	18.2	14.5	5.93	
	057	羽口？					4.22	
	058	スラグ		12.8	10.0	9.9	1.10	
	059-①	スラグ		19.5	17.7	10.9	2.42	
	059-②	スラグ		14.2	9.8	8.8	0.48	
	060	スラグ		20.7	15.9	10.0	2.28	
	061	スラグ		15.3	12.0	7.9	0.89	
	062	スラグ		18.8	16.2	10.0	2.42	
	063	スラグ		12.5	10.5	8.3	1.47	
	065	炉底滓		53.5	37.5	30.9	67.10	
	066	スラグ		25.0	15.4	12.2	2.59	
	067	炉底滓		21.2	12.9	10.6	3.66	(2ヨ)総重量6.12 大きい方計測
	068	羽口小片					3.86	
	069	スラグ		23.2	14.4	13.4	2.79	
	070	炉底滓		30.5	19.5	19.1	8.12	
	071	羽口？					7.65	
	072	スラグ		16.1	10.7	13.4	1.50	
	073	スラグ		15.7	8.9	7.4	0.94	
	074	スラグ		13.8	11.9	8.6	1.17	
	078	炉底滓小片		16.9	14.8	13.7	3.61	
	079	スラグ		11.5	6.6	5.1	0.25	
	085	スラグ		36.4	27.6	13.6	9.72	
	103	スラグ		10.7	8.0	6.9	0.25	
	104	スラグ		25.2	21.4	14.2	4.04	
	107	スラグ		27.1	20.1	18.8	2.15	
	108	羽口小片					9.14	
	109	炉底滓		34.7	18.2	17.9	21.65	
	110	スラグ		11.2	7.2	6.0	0.55	一括総重量0.67
	111	スラグ		15.0	10.4	8.6	0.86	
	112	スラグ		21.8	16.6	8.8	5.18	一括総重量9.24
	113-①	スラグ		15.0	12.6	8.1	2.68	
	113-②	スラグ		16.3	13.5	7.9	0.80	
	113-③	スラグ		14.9	13.1	6.0	0.62	
	113-④	スラグ		14.1	8.3	8.1	0.47	
	113-⑤	スラグ		10.0	8.8	7.3	0.35	
	116	羽口小片					6.54	
	119	羽口					51.20	No.120と接合
	120	羽口						No.119と接合
	123-①	スラグ		16.0	11.7	7.8	1.23	
	123-②	スラグ		11.1	6.7	5.6	0.41	
	124	スラグ		14.2	8.7	9.0	0.58	
	127	羽口？					2.32	
	129	スラグ		19.7	11.7	10.0	0.92	
	134	スラグ		19.2	15.1	12.0	2.58	
	135	スラグ		18.0	17.3	9.7	2.71	
	136	スラグ		24.2	18.3	9.6	3.25	
	137	炉底滓？		21.8	19.0	14.5	6.59	
	138	炉底滓		46.6	32.7	15.9	18.45	
	140	スラグ		13.9	11.8	10.1	0.51	
	141-①	スラグ		12.7	8.0	7.4	0.37	
	141-②	スラグ		12.0	6.6	5.8	0.24	
	144	スラグ		15.5	12.8	10.2	1.97	
	145	スラグ		16.9	14.2	7.9	1.15	
	148	スラグ		14.2	8.3	5.8	0.36	
	151	スラグ		17.6	15.0	12.3	1.95	
	152	スラグ		15.0	14.6	8.6	1.66	
	153	スラグ		13.3	9.3	7.2	0.68	
	154	スラグ		27.8	21.3	15.2	8.16	
	155	スラグ		15.5	8.7	6.1	0.52	
	156	スラグ		11.4	7.0	7.6	0.56	
	157-①	スラグ		37.6	31.3	18.4	10.02	
	157-②	スラグ		27.7	14.1	11.3	3.18	
	157-③	スラグ		11.6	7.9	2.7	0.21	
	158	スラグ		14.1	13.1	6.1	0.89	
	159	炉底滓		46.9	36.6	32.5	55.52	
	160	スラグ		14.2	8.4	7.9	0.92	
	161	スラグ		16.7	15.1	10.5	2.05	
	162	スラグ		7.9	6.9	5.7	0.08	
	163	スラグ		21.8	19.2	10.7	1.65	
	164	スラグ		12.9	10.8	6.7	0.47	
	167	スラグ		11.1	10.6	7.2	0.58	(2ヨ)総重量0.89 大きい方計測
	168	スラグ		6.1	5.3	4.2	0.09	
	169	スラグ		15.5	11.6	10.3	0.98	
	170	スラグ		5.8	4.8	3.1	0.05	
	171	スラグ		12.2	6.5	2.5	0.25	
	172	スラグ		12.8	11.4	7.3	0.65	
	174	スラグ		9.7	7.4	5.6	0.42	
	175	スラグ		12.6	9.0	5.4	0.38	
	176	スラグ		14.7	12.9	6.6	0.65	
	177	スラグ		14.2	12.8	8.7	0.84	
	178	スラグ		10.8	9.2	6.3	0.76	
	179	スラグ		11.4	9.5	6.7	0.59	
	180	スラグ		24.9	14.8	13.1	2.83	
	182	スラグ		8.9	5.5	4.1	0.13	
	184	スラグ		17.9	11.2	7.2	1.24	
	185	不明土製品		22.1	14.8	14.4	3.32	
	186	羽口					24.28	
	187	スラグ		10.4	9.7	6.5	0.22	
	189	スラグ		19.8	15.5	13.7	3.72	
	190	スラグ		6.6	4.3	3.6	0.08	
	191	スラグ		18.8	11.5	6.9	1.04	
	192	スラグ		28.8	21.2	14.7	1.63	
	193	スラグ		17.4	13.2	11.3	3.15	
	194-①	スラグ		8.2	6.1	4.2	0.21	
	194-②	スラグ		6.6	6.1	4.5	0.11	
	194-③	スラグ		5.3	4.3	3.2	0.03	(8ヨ)総重量0.36 計測可能3ヶ
	195	スラグ		16.6	11.2	14.3	2.41	
	196	スラグ		13.8	11.2	10.6	1.56	
	197	炉底滓		30.3	25.0	16.5	3.69	
	198	スラグ		8.3	5.4	4.4	0.14	
	199	スラグ		7.8	6.2	4.2	0.14	
	200	スラグ		11.9	9.5	8.0	0.65	
	201	スラグ		7.0	5.6	4.9	0.11	
	202	不明土製品		13.4	11.8	5.5	0.70	
	203	スラグ		20.5	16.0	8.8	1.43	

遺構	遺物	種類	M.C.	大きさ(mm)			重さ	備考
				最大	最少	厚さ	(g)	
	204	スラグ		19.6	12.4	4.2	1.03	
	205-①	スラグ		21.4	15.1	15.6	2.78	
	205-②	スラグ		15.5	8.5	6.6	0.76	
	205-③	スラグ		10.3	6.5	5.1	0.22	
	206	不明		23.3	16.2	8.8	3.47	(3コ)総重量4.77 一番大きいもの計測
	207	スラグ		8.9	5.3	5.5	0.33	
	210	スラグ		9.9	9.4	8.6	1.20	(3コ)総重量1.47 一番大きいもの計測
	211	スラグ		16.3	9.9	8.8	1.16	
	212	スラグ		13.0	7.0	7.0	0.65	
	215	炉壁?		21.7	16.8	9.6	2.28	
	221	スラグ		17.2	13.0	11.2	2.76	
	224	スラグ		12.4	10.0	6.8	0.46	
	225	スラグ		8.1	5.7	5.0	0.15	
	226	スラグ		10.8	6.1	3.6	0.21	
	227	スラグ		18.3	12.4	8.9	1.09	
	228	スラグ		10.2	9.9	5.8	0.31	
	229	スラグ		18.9	14.0	6.0	0.66	
	230	スラグ		18.1	12.0	6.4	1.06	
	232	スラグ		25.8	19.7	15.0	4.86	
	233	スラグ		16.6	13.3	7.6	1.12	
	235	スラグ		30.5	25.3	12.1	4.86	
	236-①	スラグ		13.4	9.4	6.0	0.55	
	236-②	スラグ		11.2	8.6	7.0	0.32	
	237	スラグ		12.1	11.0	7.2	1.53	
	238	スラグ		22.9	19.3	13.7	4.16	
	239	炉底滓小片		29.7	18.4	9.4	3.44	
	240	スラグ		23.9	14.8	4.9	1.23	
	242	スラグ		20.3	10.6	6.4	2.46	
	244-①	スラグ		10.4	10.1	7.0	0.57	
	244-②	スラグ		8.5	7.1	5.7	0.27	
	248	スラグ		18.6	13.7	13.9	5.36	
	249	スラグ		39.1	24.8	15.9	8.90	
	250	炉壁片?		16.3	11.2	8.6	1.92	
	251	スラグ		17.0	14.4	7.3	0.92	
	254	スラグ		10.1	7.5	5.3	0.44	
	255	スラグ		6.8	5.5	3.7	0.21	
	256	スラグ		14.5	8.6	5.2	0.50	
	259	スラグ		11.2	10.9	9.3	0.96	
	260	スラグ		7.5	6.7	4.9	0.17	
	261-①	スラグ		14.0	10.8	11.4	2.61	
	261-②	スラグ		6.0	5.0	5.6	0.10	
	262	スラグ		8.1	6.8	6.1	0.14	
	263	スラグ		12.8	10.7	8.3	0.81	
	264	スラグ		12.1	10.1	6.5	0.41	
	265	スラグ		13.1	11.3	3.0	0.74	
	266	スラグ		18.1	13.9	8.2	1.91	
	267	スラグ		12.2	7.7	1.2	0.14	
	268	スラグ		13.8	12.2	10.2	0.62	
	269	スラグ		19.0	10.5	6.4	0.83	
	270	スラグ		11.3	7.8	5.4	0.34	
	271	スラグ		10.5	6.6	2.3	0.22	
	272	スラグ		7.3	5.0	2.9	0.08	
	273	スラグ		10.5	8.7	3.8	0.18	
	274	スラグ		15.0	11.9	6.8	0.82	
	275	スラグ		19.7	12.4	12.2	3.20	
	276	スラグ		13.4	9.4	6.5	0.30	
	277	スラグ		16.2	14.4	10.4	3.21	
	278	スラグ		25.3	16.4	10.3	2.74	
	280	炉底滓小片		18.3	12.1	10.9	3.12	
	298	スラグ		25.4	16.5	8.6	3.56	
	301	スラグ		10.9	9.4	5.7	0.71	一括総重量0.94
	302	炉底滓		33.4	26.0	13.8	10.49	一括総重量11.87
	304	スラグ		7.9	5.7	2.6	0.11	
	305	スラグ		11.1	10.0	5.1	0.38	
	306	スラグ		21.0	16.3	8.5	2.01	
	307	スラグ・土		14.0	11.0	7.8	0.82	
	308	スラグ		15.1	9.5	6.9	1.61	
	309	スラグ		11.3	8.0	4.5	0.23	

遺構	遺物	種類	M.C.	大きさ(mm)			重さ	備考
				最大	最少	厚さ	(g)	
	310	羽口小片					7.28	
	311	羽口					6.83	
	312	スラグ		22.6	19.9	8.8	3.62	
	314	羽口小片					1.46	
	315	スラグ		16.6	13.3	9.0	1.61	
	316	スラグ		14.3	10.6	6.8	0.75	
	317	スラグ		11.9	9.9	9.4	0.82	
	319	羽口					25.30	
	320	スラグ		16.8	11.1	6.9	1.47	
	321	スラグ		25.5	17.8	15.7	7.67	
	326	炉底滓		32.9	30.8	15.1	12.27	
	327	スラグ		13.4	8.5	6.3	0.47	
	328	スラグ		7.7	5.7	4.9	0.28	
	329	炉底滓		22.3	19.5	12.2	6.40	
	330	スラグ		9.6	7.5	4.4	0.31	
	331	スラグ		10.3	8.6	7.7	0.33	
	333	スラグ		13.1	12.1	6.9	1.40	
	334	スラグ		23.9	17.8	8.7	2.77	
	335	スラグ		22.8	16.3	12.5	4.09	
	336	羽口小片					1.46	
	362	スラグ		41.6	23.7	16.4	13.03	
	363	スラグ		15.0	13.0	9.1	1.16	
	364-①	スラグ		16.3	13.4	7.4	1.86	
	364-②	スラグ		14.5	10.9	9.9	1.56	
	364-③	スラグ		14.5	13.1	8.5	1.25	
	364-④	スラグ		12.0	9.2	5.7	0.98	
	364-⑤	スラグ		5.9	6.1	3.1	0.15	
	383	スラグ		69.1	49.0	18.8	30.48	
	384	スラグ		17.9	12.0	10.1	2.84	
	385	羽口小片					19.34	
	387	スラグ		20.2	13.1	12.9	3.45	
	388	スラグ		28.1	24.3	13.0	9.41	
	389	スラグ		18.9	15.7	10.0	4.19	
	397	スラグ		56.3	16.0	19.4	9.45	
	398	スラグ		27.9	18.5	12.4	5.49	
	399	スラグ		13.6	9.3	11.3	1.01	一括総重量1.86 一番大きい物計測
	401	スラグ		29.7	14.1	16.0	9.02	
	402-①	スラグ		39.9	28.3	10.0	7.70	
	402-②	スラグ		20.4	14.0	12.6	3.07	(3コ)総重量11.02 大きい方2コ計測
	403	スラグ		18.0	14.4	11.7	3.13	
	404	スラグ		13.0	10.0	9.3	0.77	
	405	スラグ		12.5	1.7	5.7	0.22	
	406	羽口?					4.63	
	408	スラグ		46.2	29.1	11.2	11.47	
	409	スラグ		17.1	10.6	10.0	1.32	
	410	スラグ		16.5	9.7	4.2	0.59	
	411	鉄素材?		32.4	9.0	3.4	1.87	
	412-①	スラグ		16.8	9.4	7.5	0.70	
	412-②	スラグ		11.0	11.0	4.8	0.41	
	413	スラグ		17.9	13.7	11.3	0.48	
	414	羽口					9.04	
	415	スラグ		16.9	15.5	4.5	0.93	一括総重量1.69 一番大きい物計測
	420	スラグ		9.9	9.3	9.6	1.43	
	422	羽口					9.61	
	423	羽口破片					8.36	
	423	炉底滓		39.0	30.2	15.3	29.45	
	426-①	羽口破片					43.17	
	426-②	羽口破片					10.14	
	426-③	羽口破片					8.38	
	429	スラグ		37.4	22.8	15.2	7.98	
	429	羽口					3.45	
	430-①	スラグ		34.3	22.9	18.5	16.90	
	430-②	スラグ		25.2	21.0	12.4	5.83	
	430-③	スラグ		20.5	17.3	13.5	4.77	
	430-④	スラグ		24.5	16.8	11.9	3.31	
	430-⑤	スラグ		18.1	13.4	9.2	3.99	
	430-⑥	スラグ		19.1	12.2	9.3	1.81	

遺構	遺物	種類	M.C.	大きさ(mm)			重さ	備考
				最大	最少	厚さ	(g)	
	430-⑦	スラグ		16.2	14.5	7.7	1.31	
	430-⑧	スラグ		15.9	13.3	7.4	1.80	
	430-⑨	スラグ		25.7	18.3	0.7	0.84	総重量48.70(9コ計測)(26片)
	430	羽口					14.19	
	436	羽口					6.09	
	437	スラグ		38.2	29.3	12.6	9.57	

第7表 住居跡出土スラグ等計測表

遺構	遺物	種類	M.C.	大きさ(mm)			重さ	備考
				最大	最少	厚さ	(g)	
SB006	038	炉底滓		51.0	38.2	33.8	112.80	
SB008	064	炉底滓		41.8	30.2	24.2	41.17	一括総重量44.40
SB025	044	炉底滓＋小鉄塊	○	50.7	37.2	30.3	91.20	
SB032	170	炉底滓		44.2	31.8	14.3	13.98	
SB035	023	スラグ		16.5	14.0	5.7	1.12	総重量14.95 最大の物計測
SB039	80	炉底滓		42.8	27.2	24.6	43.92	
SB050	163	炉底滓		38.3	29.6	15.6	34.36	
SB143	48	炉底滓		39.3	29.6	20.6	18.62	
SB158	165	小鉄塊	○	25.2	18.2	12.6	9.28	
SB162	048	スラグ		22.3	14.4	7.7	1.85	
SB165	1293	小鉄塊	○	23.6	16.9	10.7	8.06	総重量11.68 最大の物計測
SB166	598	炉底滓		68.8	50.7	28.3	71.40	
SB202	068	羽口					26.49	№655・№760と接合
	183	羽口					4.06	
	344	羽口					7.04	
	538	スラグ		18.9	16.8	14.4	1.76	
	565	スラグ		25.2	19.0	9.9	1.48	
	570	スラグ		28.2	24.7	18.3	14.92	
	587	スラグ		31.4	29.9	7.4	5.93	
	600	羽口？					5.28	
	637	スラグ		15.5	13.6	9.9	1.13	総重量1.57(2コ) 大きい方計測
	655	羽口						№068・№760と接合
	734	スラグ		20.1	14.4	9.8	1.52	
	738	スラグ		15.9	12.7	9.4	0.35	
	753	スラグ		22.7	19.8	10.0	2.44	
	760	羽口						№068・№655と接合
	789	スラグ		19.3	13.0	10.6	1.67	
SB221	194	小鉄塊	○	51.0	22.3	24.8	28.43	
SB228	365	スラグ		28.7	26.7	10.7	6.48	
SB230	454	スラグ		34.7	27.8	11.9	8.33	

第8表 グリッド出土スラグ等計測表

遺構	遺物	種類	M.C.	大きさ(mm)			重さ	備考
				最大	最少	厚さ	(g)	
B2-69	006	炉底滓＋小鉄塊	○	65.1	44.0	15.5	68.40	南斜面貝層(ホ-16)
C2-54	001	炉底滓？		37.6	32.3	18.1	26.71	南斜面貝層(ト-20)
C2-54	002	小鉄塊	○	42.6	20.4	12.5	19.03	南斜面貝層(ト-20)
C2-60	008	スラグ		38.8	24.0	14.3	16.52	南斜面貝層(ホ-07)
C2-64	016	スラグ		35.3	33.9	16.3	17.72	南斜面貝層(ト-32)
C2-64	132	石？		53.4	36.2	16.9	31.61	南斜面貝層(ト-21)
C2-73	001	炉底滓		43.1	27.9	22.9	39.70	南斜面貝層(ト-52)
C2-73	001	炉底滓		42.7	31.1	17.1	33.76	南斜面貝層(ト-61)
C2-73	002	スラグ		32.3	30.8	25.5	21.61	
C2-73	002	スラグ		24.7	23.3	13.6	8.69	南斜面貝層(ト-62)
C2-73	017	炉底滓＋小鉄塊	○	65.1	42.8	25.5	104.40	
C2-74	001-①	炉底滓		59.2	42.2	17.8	48.61	
C2-74	001-①	スラグ		43.4	31.5	11.4	16.49	
C2-74	001-②	炉底滓		38.0	29.6	11.2	20.24	
C2-74	001-②	スラグ		40.4	29.7	15.0	13.34	
C2-74	001-③	炉底滓		32.8	25.1	9.9	10.63	
C2-74	001-③	スラグ		27.4	18.7	9.4	4.89	
C2-74	001-④	スラグ		22.4	23.2	12.5	9.30	
C2-74	001-⑤	スラグ		30.0	22.1	12.1	5.70	
C2-74	001-⑥	スラグ		27.7	19.4	7.0	3.39	
C2-74	001	炉底滓＋小鉄塊		58.1	34.9	21.6	60.40	南斜面貝層(ト-43)
C2-74	001	小鉄塊		37.3	27.4	16.6	35.65	
C2-74	001	炉底滓		49.5	33.7	11.8	36.61	南斜面貝層(ト-44)
C2-74	002	炉底滓？		49.5	34.7	19.5	24.22	
C2-74	005	スラグ		30.2	11.3	8.9	4.52	
C2-74	015	小鉄塊？		46.4	43.3	10.2	27.67	南斜面貝層(ト-33)
C2-74	031	スラグ		29.7	21.5	11.2	5.47	
C2-74	039	炉底滓		53.0	41.2	15.2	48.61	
C2-74	050	スラグ		32.4	26.7	17.0	16.91	
C2-74	表土	炉底滓		55.0	29.9	22.1	30.24	南斜面貝層(ト-53)
C2-75	001-①	スラグ		24.0	19.1	14.5	9.89	南斜面貝層(ト-34)
C2-75	001-②	スラグ		29.9	23.3	21.5	7.74	
C2-75	001	羽口					9.94	
C2-75	001	スラグ		23.6	24.0	16.9	10.40	
C2-75	001	炉底滓		42.5	34.3	25.2	63.80	
C2-75	004	スラグ		21.8	20.8	15.7	7.24	
C2-82	001	スラグ		31.7	32.6	16.1	15.73	南斜面貝層(ト-83)
C2-83	002	炉底滓＋小鉄塊		40.6	27.4	26.5	44.81	南斜面貝層(ト-63)
C2-82	002	炉底滓		49.5	38.8	19.5	41.28	南斜面貝層(ト-92)
C2-83	006	炉底滓		36.2	21.5	23.0	24.64	
C2-84	001-①	スラグ		27.4	20.0	16.9	14.00	
C2-84	001-②	スラグ		22.4	20.8	8.3	6.14	
C2-84	001	炉底滓		51.5	23.9	18.2	27.71	南斜面貝層(ト-54)
C2-84	002	炉底滓＋小鉄塊	○	32.8	26.8	20.3	24.01	
C2-84	002	スラグ		29.0	20.0	9.3	8.84	
C2-91	001	スラグ		30.9	21.5	15.0	16.23	南斜面貝層(チ-13)
C2-93	001	炉底滓		30.6	19.4	14.4	15.81	南斜面貝層(ト-84)
C2-96	055	炉底滓＋小鉄塊	○	70.9	56.5	31.0	133.30	南斜面貝層(ト-48)
C3-02	001-①	スラグ		23.1	19.0	9.3	8.19	南斜面貝層(チ-06)
C3-02	001-②	スラグ		23.1	21.5	13.9	7.35	
C3-02	005	小鉄塊	○	52.0	35.3	10.2	21.62	南斜面貝層(チ-16)
C3-02	005	炉底滓		33.5	25.8	8.8	10.90	
C3-02	006	小鉄塊	○	27.6	16.7	14.0	10.20	
C3-03	018	スラグ		43.0	28.2	16.7	10.54	南斜面貝層(ト-96)
C3-05	020	石？		-	-	-	25.05	南斜面貝層(ト-59)
C3-06	001	スラグ		25.7	19.5	11.9	7.12	南斜面貝層(ヌ-40)
C3-10	002	スラグ		26.8	17.6	15.7	14.54	南斜面貝層(チ-54)
C3-11	001	炉底滓＋小鉄塊	○	61.6	50.7	17.7	76.80	南斜面貝層(チ-36)
C3-12	003	小鉄塊	○	25.4	17.9	11.1	7.83	南斜面貝層(チ-26)
C3-39	006	炉底滓？		56.3	43.5	32.4	100.00	南斜面貝層(ヌ-39)
C3-56	101	小鉄塊？		42.3	36.5	16.9	41.02	南斜面貝層(ル-09)
C3-79	001	小鉄塊	○	42.3	25.7	27.7	38.33	南斜面貝層(ワ-86)
C3-79	001	スラグ		35.8	24.8	23.1	22.33	
C3-79	101	炉底滓		42.5	25.8	15.0	20.52	南斜面貝層(ワ-75)
C3-79	158	小鉄塊		35.6	25.9	27.3	33.81	
C3-79	159-①	スラグ		23.9	13.9	10.4	5.20	
C3-79	159-②	スラグ		26.6	17.6	10.6	2.83	

遺構	遺物	種類	M.C.	大きさ(mm)			重さ	備考
				最大	最少	厚さ	(g)	
C3-88	105-①	スラグ		29.7	24.0	16.1	15.02	南斜面貝層(カ-15)
C3-88	105-②	スラグ		33.7	27.8	14.7	17.85	
C3-88	109	炉底滓＋小鉄塊	○	59.2	38.0	22.8	58.93	
C3-98	103-①	炉底滓		47.5	40.8	13.9	40.02	南斜面貝層(カ-28)
C3-98	103-②	炉底滓		32.1	20.0	11.6	10.09	
D3-61	267	炉底滓		22.2	11.8	10.4	6.54	南斜面貝層(ワ-46)
D3-62	004	スラグ？		34.6	30.4	15.6	29.01	南斜面貝層(ワ-37)
D3-62	138	炉底滓		56.0	56.2	18.5	88.60	
D3-72	004	炉底滓		38.7	19.4	14.6	18.41	南斜面貝層(ワ-39)
D3-80	102	炉底滓＋小鉄塊	○	27.7	22.5	19.5	12.77	南斜面貝層(ワ-77)
D3-80	143	炉底滓？		37.0	28.0	15.7	23.55	南斜面貝層(ワ-88)
D3-80	158	炉底滓		36.1	21.7	14.9	18.27	南斜面貝層(ワ-78)
D3-80	359	スラグ＋羽口片		28.5	26.4	11.2	10.39	南斜面貝層(ワ-77)
D3-88	001	スラグ？		44.2	42.3	26.1	35.74	
D3-98	001	スラグ		39.7	27.3	16.1	19.88	
D4-51	001	スラグ		49.5	41.0	26.9	46.49	南斜面貝層(ネ-31)
D4-51	002	炉底滓？		52.4	45.8	42.2	155.20	台帳はスラグ石一括の中 南斜面貝層(ネ-40)
D4-61	001	炉底滓？		39.0	37.6	16.1	40.22	南斜面貝層(ネ-42)
E1-30	177	スラグ？		29.7	25.6	4.2	3.80	北斜面貝層(Ⅲ-43)
E1-82	069	スラグ		40.8	20.8	12.2	5.45	北斜面貝層(Ⅱ-52)
E1-82	168	スラグ		39.4	19.5	9.2	5.72	
E2-02	250	スラグ		33.8	24.7	13.2	12.04	北斜面貝層(Ⅰ-58)
E2-35	391	スラグ		17.3	14.4	8.9	0.47	
E3-92	034	スラグ		20.6	18.1	11.1	1.89	一括総重量 SK-729
E4	不明	スラグ		25.8	23.2	11.8	10.03	
E4-17	不明	スラグ		26.2	18.2	14.4	5.67	
E5-57	001	スラグ		31.0	26.5	17.7	10.69	
F4-19	不明	小鉄塊	○	30.8	21.4	14.9	13.45	
F4-30	不明	スラグ		29.5	22.2	15.9	12.75	
F5-53	001	スラグ		28.2	20.9	10.1	6.17	
F6-14	003-①	スラグ		89.4	65.8	63.9	413.50	
F6-14	003-②	スラグ		66.5	50.9	23.0	47.59	
G3-74	不明①	スラグ		43.2	25.9	17.0	12.88	
G3-74	不明①	炉底滓		38.4	29.6	21.4	24.14	
G3-74	不明②	スラグ		26.3	18.6	11.3	5.72	
G3-74	不明②	炉底滓		44.8	20.2	15.8	19.45	
G3-74	不明③	スラグ		21.5	11.9	11.0	3.71	一括総重量24.07
G3-74	不明③	炉底滓		40.6	31.1	15.7	18.92	
G3-74	不明	羽口					55.73	
H5-00	001	スラグ		36.5	17.6	16.4	10.70	
不明-1	①	炉底滓		35.8	35.7	12.5	20.77	
不明-1	②	炉底滓		34.8	30.0	11.5	12.52	
不明-2		スラグ		13.6	9.5	6.4	0.21	
不明-3		炉底滓		60.3	55.3	26.0	71.10	
不明-4	①	炉底滓＋小鉄塊	○	39.3	32.3	30.0	52.76	
不明-4	②	炉底滓＋小鉄塊	○	39.0	29.7	12.6	20.97	
不明-5	①	小鉄塊	○	46.2	32.8	22.6	43.43	
不明-5	②	小鉄塊	○	27.0	20.3	14.0	10.53	
不明-6	①	スラグ		32.3	26.3	7.9	6.89	
不明-6	②	スラグ		25.6	22.8	14.4	13.38	
不明-7	①	炉底滓		52.2	29.7	24.6	41.26	
不明-7	②	炉底滓		29.0	18.3	18.0	12.41	
不明-7	③	炉底滓		21.8	17.0	10.6	6.06	一括総重量62.00 (3コ)大きいものだけ計測
不明-8	001	スラグ		24.5	18.5	11.2	4.94	

3　その他の遺構

古墳時代から奈良・平安時代にかけての遺構はほとんどが竪穴住居跡である。この時期で、竪穴住居跡以外の遺構は、溝状遺構1条（ＳＤ003）・屋外炉跡6基（ＳＸ010で2基・ＳＸ011・ＳＸ014・ＳＸ015・ＳＸ866）・土坑2基（ＳＫ644・ＳＫ870）・竪穴遺構1基（ＳＫ871）・火葬墓1基・粘土採掘坑1か所で、計12遺構を数えるにとどまっている。

ＳＤ003溝状遺構（第37図・第9表）

古墳時代後期の竪穴住居跡ＳＢ030の三方を区画するようにコの字状に、Ｅ1-51・Ｅ1-62・Ｅ1-63・Ｅ1-54・Ｅ1-44の各グリッドを巡る。溝の幅は上端で最大251cm・最小122cm、下端で最大143cm・最小51cm、深さは最大94cm・最小27cmである。深さは、斜面を下るにしたがって深くなり、登るにしたがって浅くなる。また、溝底面は標高が低い方が平坦で、高くなるにつれて若干の起伏が出てくる。北東部分は未調査であるが、溝は直線的に谷津に向かうものと思われる。この点からすると、谷津と台地を結ぶ道路状遺構とみる方が妥当かもしれない。なお、本遺構の覆土下層からは須恵器蓋1・須恵器杯1・杯1・椀1・高杯（脚部）2の計6点の図示可能土器が出土した。

ＳＸ010屋外炉跡（第38図・第9表・図版46-2）

Ｇ4-44グリッドに位置し、ＳＸ015やＳＫ870に隣接しており、炉は接するように2基検出された。平面プランは共に楕円形を呈し、規模もほぼ同一である。2基の炉下及び周辺には、それぞれ深さ8.9cm～23.8cmにおよぶ19基のピットが確認されたが、炉に伴うものかどうかは不明である。確認されたほとんどのピットの覆土中に焼土粒を多量に含んでいる。

ＳＸ011屋外炉跡（第39図・第9表・図版46-3）

平安時代の竪穴住居跡ＳＢ242の東側のＧ4-62グリッドに位置し、炉は1基検出された。炉の平面プランは楕円形で、炉に接するようにピットが3基確認されたが、炉に伴うものなのかは不明である。また、ＳＸ010同様3基のピットの覆土中には多量の焼土粒が混入している。

その他の屋外炉跡（第40図・第9表・図版46-4）

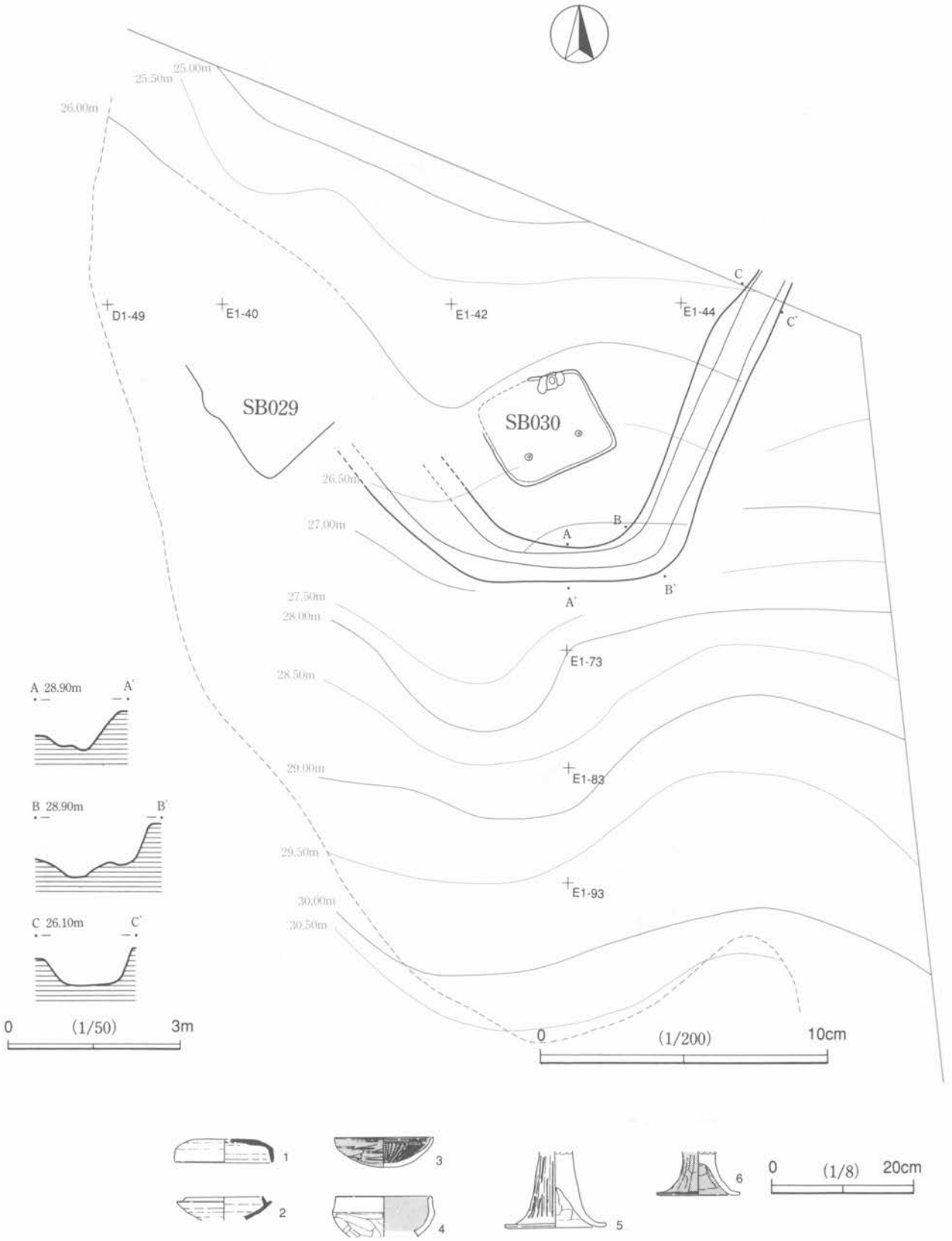
その他に屋外炉跡と思われる遺構は3基検出されている。ＳＸ014はＧ4-60グリッドに位置し、平面プラン楕円形の単独ピットである。深さは14cm程度で、覆土には多量の焼土粒が含まれていた。ＳＸ015はＧ4-44グリッドに位置し、平面プランは円に近い楕円形を呈した単独ピットである。覆土は全面焼土ブロックで固く締まり、深いところでは18cmを測る。この2基に関しては挿図を省略した。ＳＫ866はＧ4-60グリッドに位置し、ＳＸ014に隣接している。平面プランは径150cmの不正円形で、深さ17cmを測る。遺構内には焼土を多量に含む3基のピットがあり、遺構北半部に焼土が厚く堆積している。

ＳＫ644土坑（第41図・第9表）

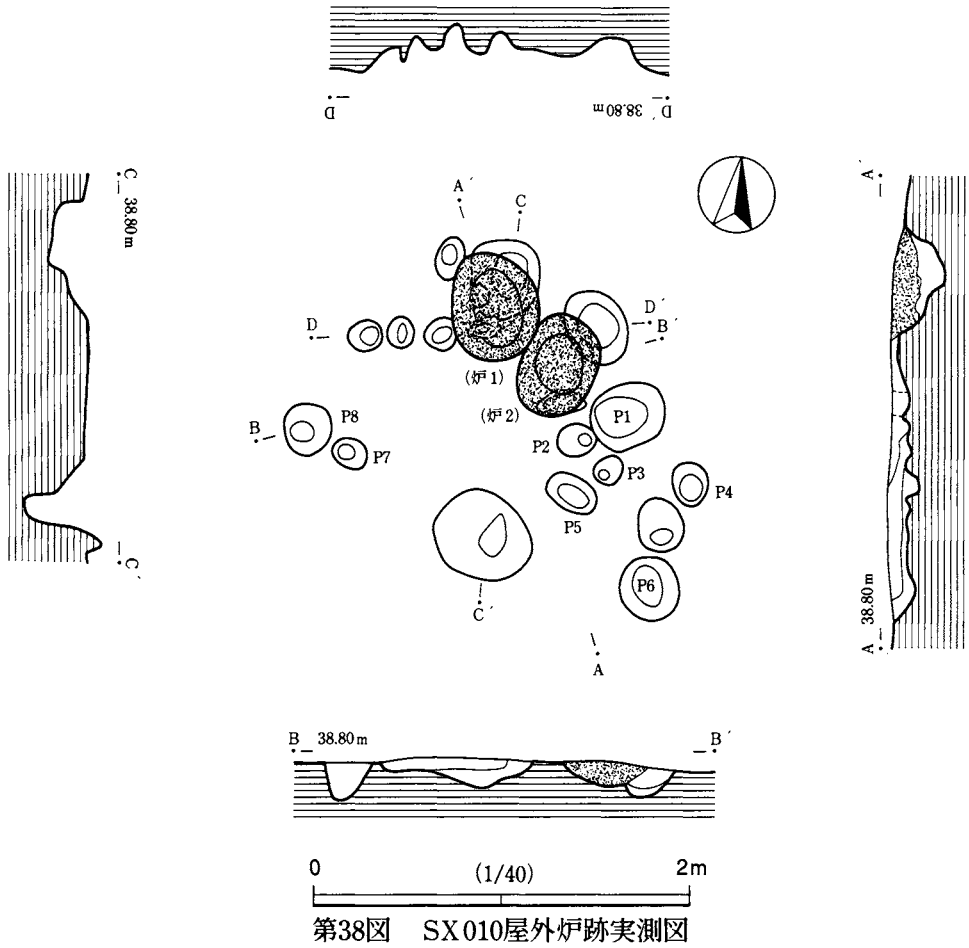
中世ピット群の北端に位置し、縄文時代の土坑と古墳時代後期の竪穴住居跡ＳＢ162を切り、Ｆ5-19グリッドに位置する。平面プランは長方形に近い方形土坑で、深さは75cmを測り、底面及び壁面は凹凸がなく丁寧に整形されている。遺物は古墳時代後期の土器片がまばらに出土しているが、性格は不明である。

ＳＫ870土坑（第42図・第9表・図版46-5）

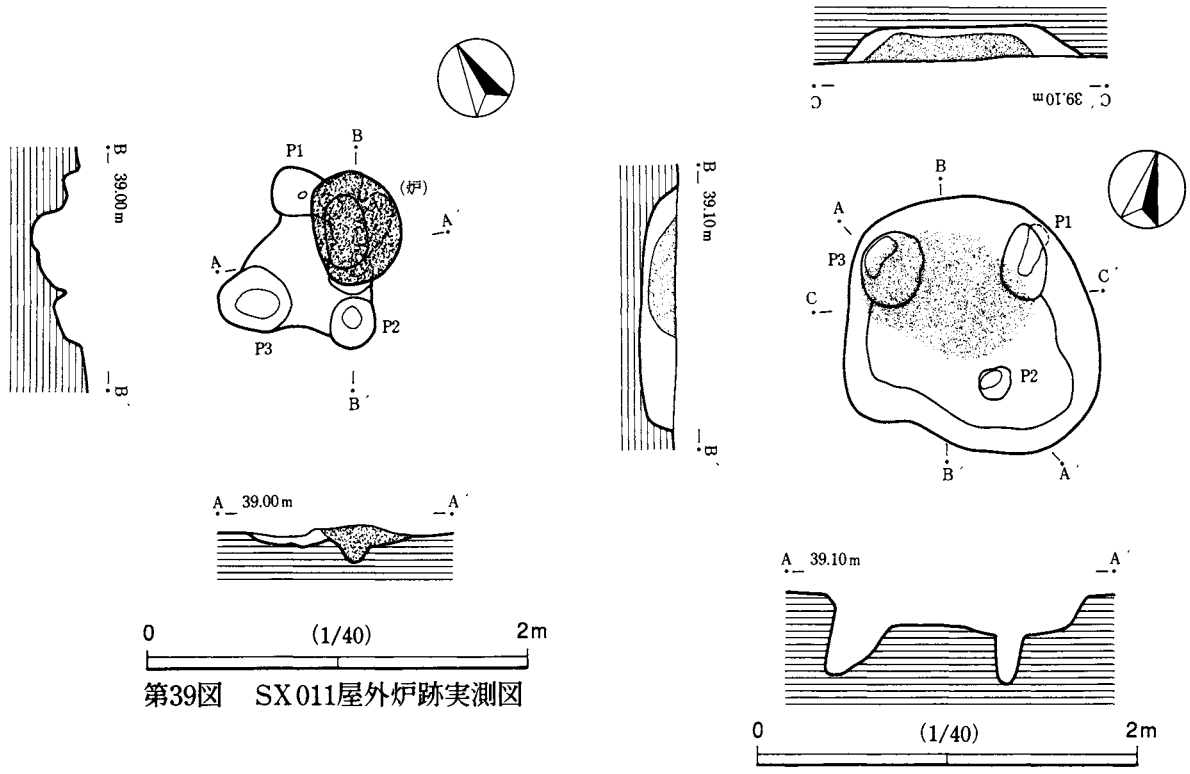
古墳時代後期の竪穴住居跡ＳＢ240と土坑ＳＫ871に隣接し、Ｇ4-43グリッドに位置する。平面プランは隅丸長方形で深さは22cm～25cmを測る。床面や壁面は若干の凹凸がある。遺物は古墳時代後期の土器片が数点出土しているが、性格は不明である。



第37図　SD003溝状遺構及び出土遺物実測図

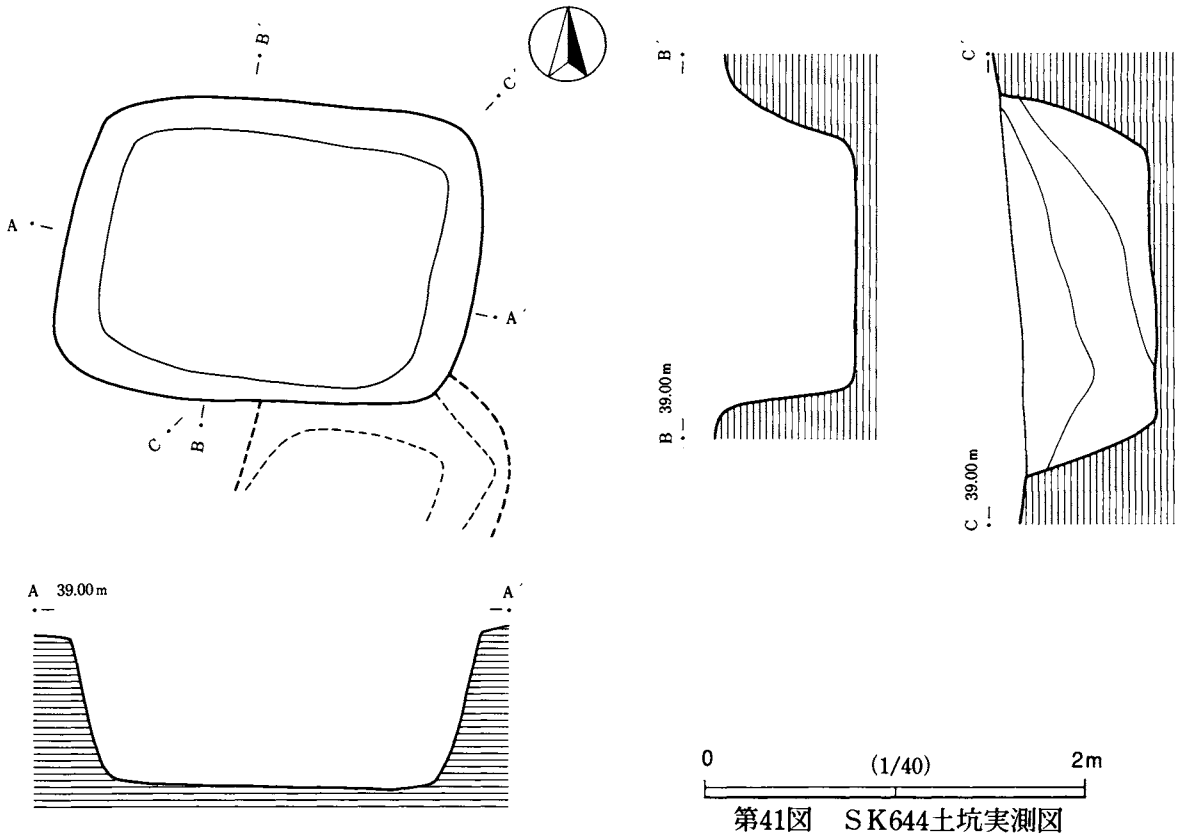


第38図　SX010屋外炉跡実測図

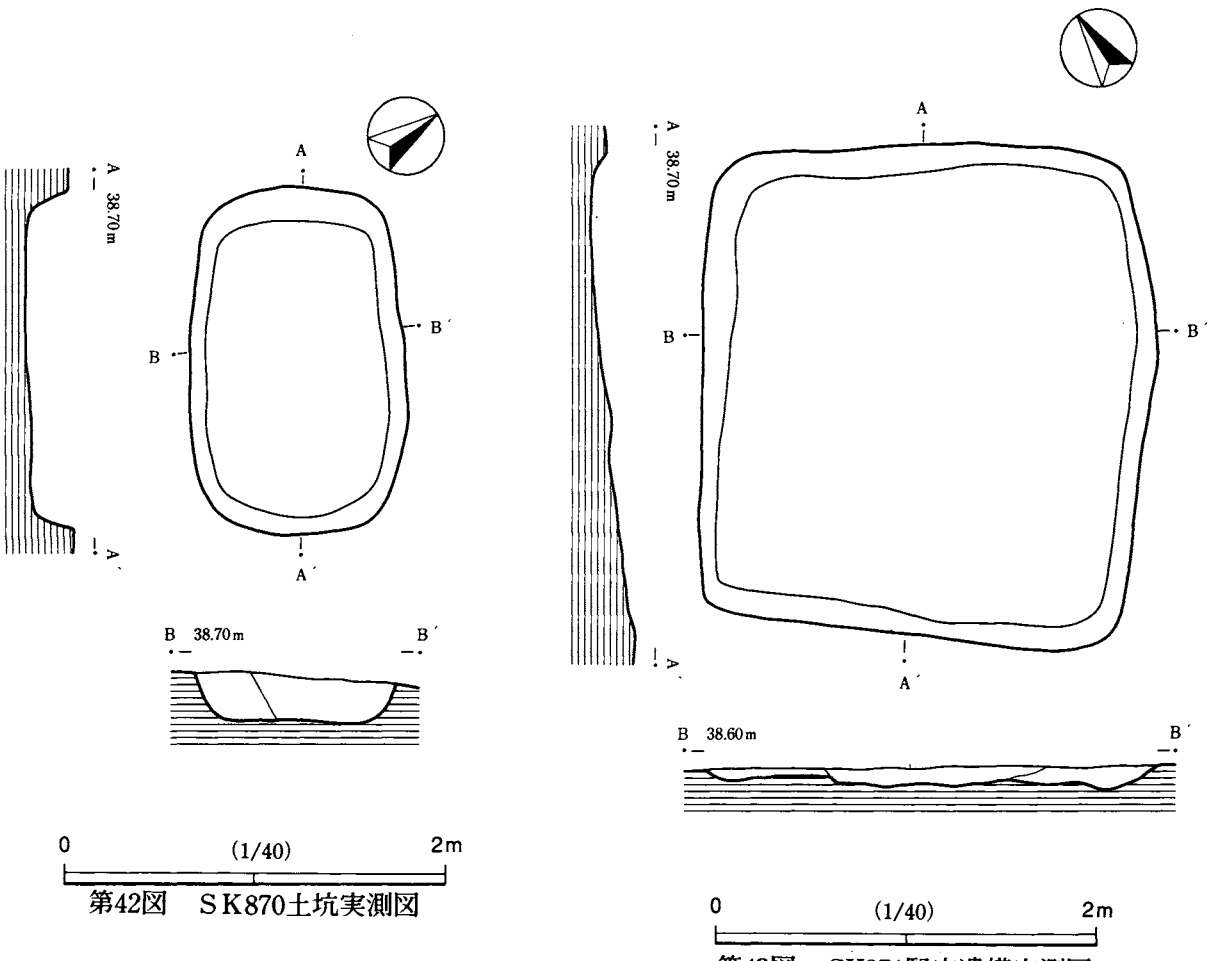


第39図　SX011屋外炉跡実測図

第40図　SK866屋外炉跡実測図

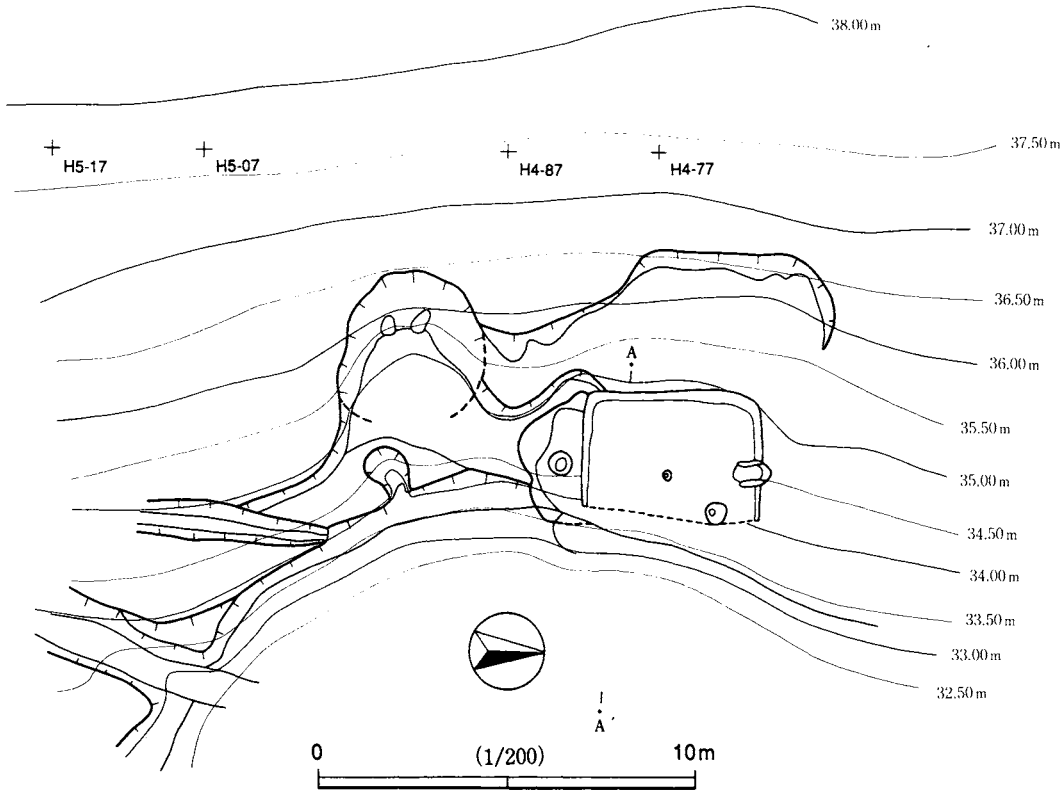


第41図　ＳＫ644土坑実測図

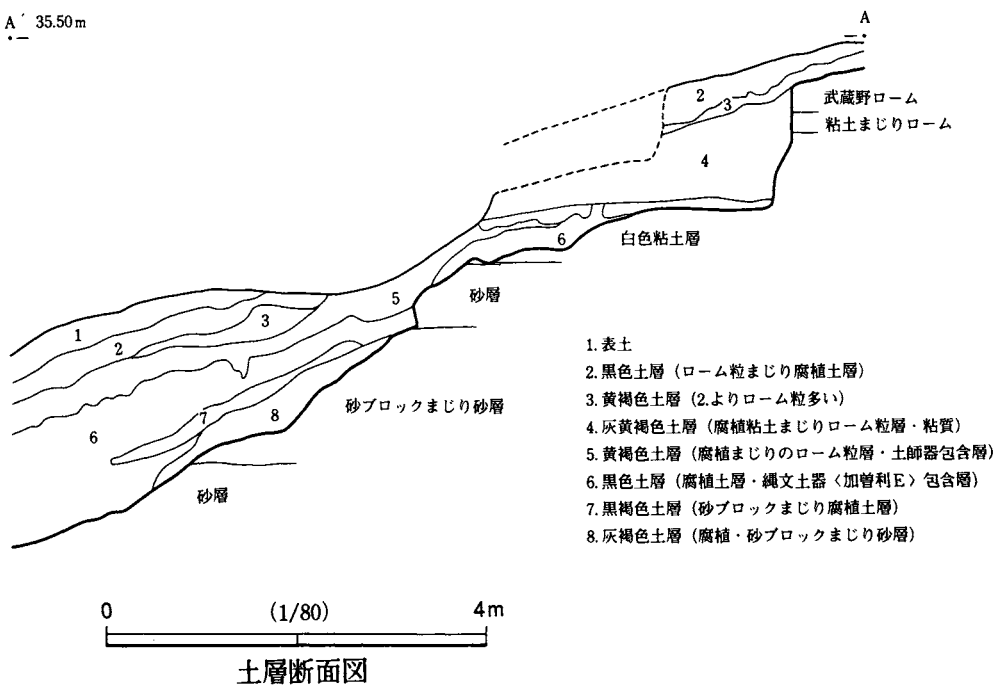


第42図　ＳＫ870土坑実測図

第43図　SK871竪穴遺構実測図



平面図



土層断面図

第44図　粘土採掘坑及びSB219竪穴住居跡実測図

ＳＫ871竪穴遺構（第43図・第9表・図版46-6）

本遺構の周辺にはＳＢ240・ＳＢ242の竪穴住居跡があり、この2軒の竪穴住居跡と類似しているが、掘り込みが浅く炉も認められなかったため、竪穴住居跡として処理はしなかった。遺物は古墳時代後期の土器片が数点出土したのみで、性格は不明である。

以上のように竪穴住居跡以外の遺構をみてきたが、ここで上げた遺構はすべて古墳時代後期に属すると思われる。そして、ＳＤ003溝状遺構とＳＫ644土坑を除くと、検出された位置が隣接していることがわかる。また、時期が古墳時代後期であることを考慮すれば、同時期の竪穴住居跡がこれらの遺構をほぼ円形に取り囲むように位置することがわかる。ようするに竪穴住居空白地域（広場）に集中しているということは、取り囲む竪穴住居跡と何らかの関連性があるのではないだろうか。

粘土採掘坑（第44図・図版37-2）

遺跡の東端急斜面中に位置し、粘土層が大きく露呈していた。また、粘土採掘後の平坦地を利用して竪穴住居跡ＳＢ219が構築されており、時期は竪穴住居跡構築前であることがわかる。

第9表　古墳時代～奈良・平安時代のその他の遺構一覧表　　単位cm

遺構番号 挿図番号	種　類	位　置	形　態	規模(長×短)	深　さ	図版番号	備　　考
SD003 37	溝状遺構	E1-63	断面U字	幅(上端)	27～94	－	6C後～7C前 覆土下層より実測可能土器6点出土
				251～122			
				(下端)			
				143～ 51			
SX010 38	屋外炉跡	G4-44	楕円形	(炉1)55×46	13～22	46-2	6C後～7C前?
	屋外炉跡	G4-44	楕円形	(炉2)53×39	12～21		
					(P1)11.2		焼土を含む
					(P2)14.7		焼土を含む
					(P3)13.3		焼土を含む
					(P4)10.6		焼土を含む
					(P5)23.8		焼土を含む
					(P6)14.3		焼土を含む
					(P7) 8.9		焼土を含む
					(P8)21.4		焼土を含む
SX011 39	屋外炉跡	G4-62	楕円形	(炉)58×47	20～26	46-3	6C後～7C前?
					(P1)24.2		焼土を含む
					(P2)26.3		焼土を含む
					(P3)15.3		焼土を含む
SX014 6	屋外炉跡?	G4-60	楕円形	(炉)102×71	14	46-4	6C後～7C前?
SX015 6	屋外炉跡?	G4-44	楕円形	(炉)78×57	－	－	6C後～7C前?
SK866 40	屋外炉跡?	G4-60	不正円形	(炉)径150	17	－	6C後～7C前?
					(P1)20.6		焼土を含む
					(P2)25.1		焼土を含む
					(P3)26.6		焼土を含む
SK644 41	土坑	F5-19	方形	213×146	75	－	7C前
SK870 42	土坑	G4-43	隅丸長方形	179×111	22～25	46-5	6C後～7C前?
SK871 43	竪穴遺構	G4-43	方形	255×232	3 ～11	46-6	6C後～7C前?
55 56	火葬墓	D2-93	不明			13-1	平安時代 SB-033の竪穴住居跡廃棄後のくぼみを火葬墓として利用しているため 遺構は不明P80を参照

第2節　出土遺物の概要（第10表）

古墳時代から奈良・平安時代にかけての出土遺物は、土器以外に土製品・石製品・金属製品等もあるが、量的には土器がはるかに多く出土している。そのうち図示できた土器は755点で、本報告書にはすべてを掲載した。755点中遺構内出土土器は701点、遺構外（グリッド）出土土器は54点である。出土土器の内訳は下記のとおりである。

第10表　出土土器内訳表

		蓋	杯	高杯	壷	鉢	椀	小型甕	甕	甑	長頸壷	皿	坩	瓶	計
遺構内	須恵器	36	40	1	2	−	−	−	−	−	3	−	−	−	82
	土師器	−	227	68	3	40	27	24	193	34	−	2	1	−	619
遺構外	須恵器	2	5	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	1	10
	土師器	−	11	12	−	−	−	2	17	2	−	−	−	−	44
計	須恵器	38	45	1	2	2	−	−	−	−	3	−	−	1	92
	土師器	−	238	80	3	40	27	26	210	36	−	2	1	−	663
合計		38	283	81	5	42	27	26	210	36	3	2	1	1	755

本遺跡で出土し、図示できた土器（古墳時代から奈良・平安時代）の内、87.8％が土師器、12.2％が須恵器である。出土遺物は、土器とその他の遺物とに区別し、種類別に一括掲載した。

また、出土土器の中では、以前から注目されている特徴的な土器のとして、体部外面下位に稜を有する土師器杯が5点認められている。この杯は基本的には内外面に黒色処理が施されている。

土器以外の出土遺物は、土玉164点・紡錘車13点・勾玉10点・玉類39点・手捏土器32点・支脚60点・土製品16点・鉄鏃25点・鎌6点・手鎌1点・小札1点・刀子9点・耳環3点・砥石55点・その他10点である。土玉の出土数が多いのが特徴的である。

1　竪穴住居跡遺物出土状況（第45図～第77図）

遺物出土状況を抜粋した竪穴住居跡は38軒である。各時期の特徴的な竪穴住居跡で、遺跡の一部に集中することなく全体から満遍なく抜粋した。6世紀代は、ＳＢ008・ＳＢ016・ＳＢ020・ＳＢ23Ａ・ＳＢ23Ｃ・ＳＢ024・ＳＢ027・ＳＢ029・ＳＢ030・ＳＢ046・ＳＢ050・ＳＢ105・ＳＢ108・ＳＢ229・ＳＢ232・ＳＢ237の16軒。7世紀代は、ＳＢ023Ｂ・ＳＢ032・ＳＢ039・ＳＢ102Ａ,102Ｂ・ＳＢ148・ＳＢ150・ＳＢ154・ＳＢ163・ＳＢ168・ＳＢ169・ＳＢ171・ＳＢ188・ＳＢ198・ＳＢ206・ＳＢ217・ＳＢ223・ＳＢ230の18軒。8世紀代は、ＳＢ023Ｄ・ＳＢ033・ＳＢ189の3軒。11世紀代は、ＳＢ242の1軒。以上の38軒を抜粋掲載した。

なお、竪穴住居跡の縮尺は規模の大きさに応じてその縮尺を変えている。また、覆土一括として取り上

げた遺物に関しては、竪穴住居跡実測図内にはドットできないので、それぞれの遺物実測図の下に（一括）と記載した。

図示できた土器及びその他の遺物の詳細については、第11表～第28表のそれぞれの計測表に明記してあるので、ここでは特徴的な遺物に関してのみ取り扱うこととする。

ＳＢ008（第45図・図版4-3，5-1）

舌状にのびる台地上の最先端部（Ｃ1-12グリッド）に位置する。床面積は55.0㎡を測る大型の竪穴住居跡である。床面は中央部分を木の根による撹乱を受け、若干の凹凸はあるものの全体的には平坦である。撹乱の南側には焼土の集中が1か所みられる。床面は硬質部と軟質部の区別はつかない。壁溝は全周し、間仕切り溝が2条検出された。カマド右袖脇には壁溝を切るように貯蔵穴があり、カマドと対面する壁に近接した床面中央には梯子ピットが検出された。柱穴は4か所でこのような竪穴住居跡の形態は、本遺跡では標準的である。

図示できた土器のほとんどは、床面及び覆土下層から出土しているが、先述のように床面中央部が木の根によって大きく撹乱を受けているためか、土器片は大きく移動し、接合関係は広範囲に及ぶものもある。しかし、図示できた土器だけでも37点あり、出土土器数としては、本遺跡で検出された竪穴住居跡の中でも多い方である。37点中須恵器が3点で、杯（1・3）2点、蓋（2）1点である。残りの34点は土師器で、杯（4～14）11点、高杯（18～24）7点、壺（28）1点、鉢（15～17）3点、甕（25～27・29～34）9点、甑（35～37）3点である。土器以外の出土遺物は、土玉（6～8）3点、勾玉（1）1点、玉類（1・2）2点、土製品（1）1点、手捏土器（2・3）2点、支脚（2）1点、砥石（1）1点、炉底滓41.17ｇ、炭化種子（不明）数片で、バラエティーに富んでいる。

遺物番号5は、内外面に黒色処理が施された、体部外面下位に稜を有する丸底の土師器杯で、床面から出土した。口縁部は若干内湾気味に立ち上がり、内外面にヘラによる細かなミガキが施されている。

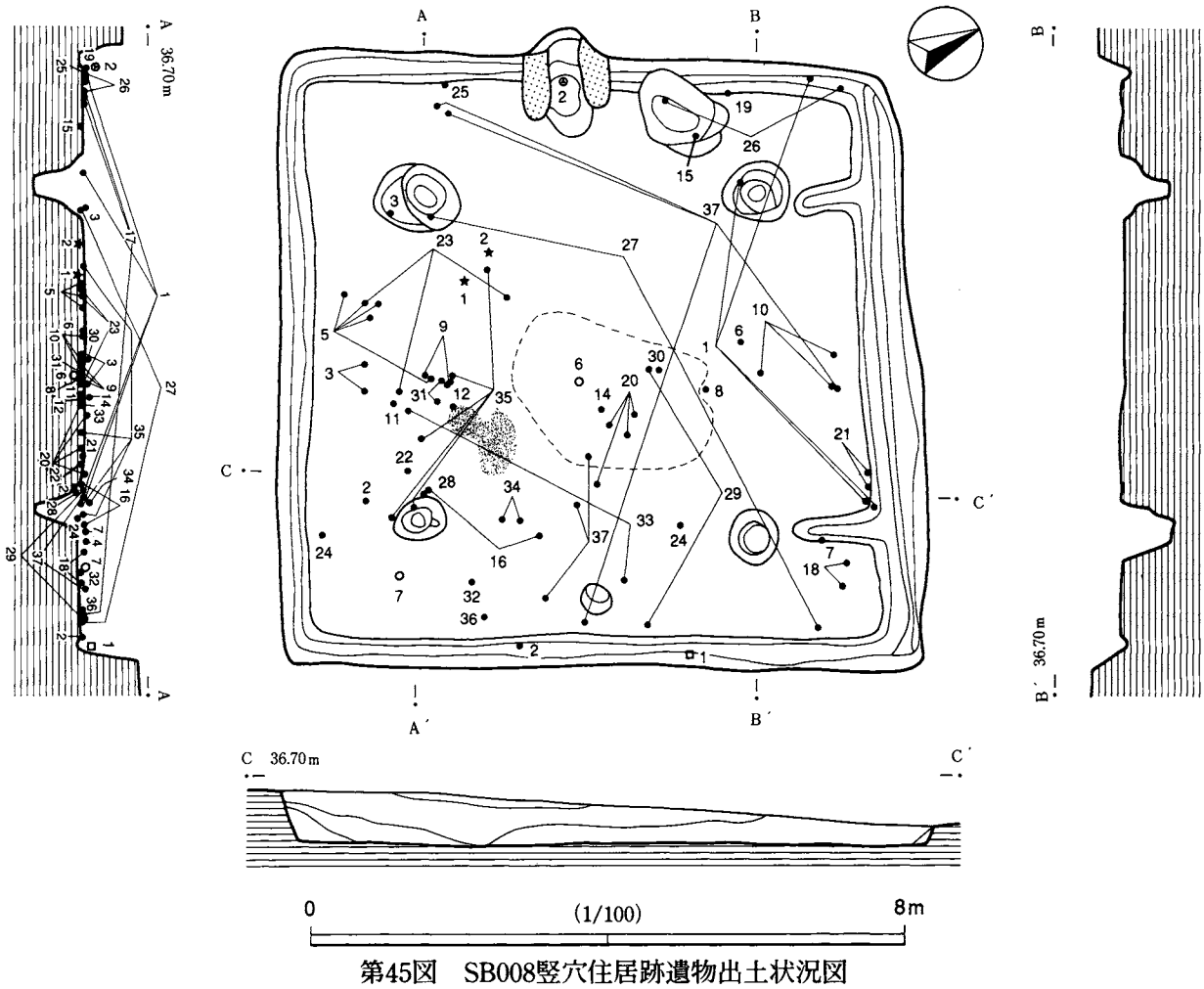
ＳＢ016（第46図・図版5-2，3）

台地先端部の南側斜面（Ｂ1-88グリッド）に位置する。床面積は19.1㎡（推定）を測るやや小型の竪穴住居跡であり、床面には炭化材・焼土が散在する焼失住居跡である。北側コーナー部分に粘土塊があり、カマドの補強用に使用するためのものと思われる。壁は南側で一部欠損している。壁溝は全周せず、カマドが構築されている側及びカマドと対面する壁側に一部認められるだけである。床面は若干の凹凸があり、硬質部と軟質部の区別は明瞭である。柱穴は3か所あるのみで、貯蔵穴はない。

図示できた土器は15点で、須恵器が5点含まれ、杯（1～4）4点、蓋（5）1点である。残りの10点は土師器で、杯（6～9）4点、鉢（11）1点、椀（10）1点、甕（12～14）3点、甑（15）1点である。土器以外の出土遺物は土玉（9～13）5点、支脚（3）1点、砥石（2）1点である。

特徴的なものは、カマド内からの出土土器に関してセット関係（甕2点，甑1点，鉢1点，須恵器蓋1点，須恵器杯1点）が窺える6点が出土したことである。甕12・14は正位に並行して置かれ、甑15は逆さの状態で、また、鉢11は正位で甑15の脇に、須恵器蓋5は鉢11の真下、須恵器杯2は甕14の真下からそれぞれ出土した。

一方、カマド左袖脇には6点の杯が正位の状態で出土した。カマド左袖脇から順にみていくと、土師器杯9の中には、須恵器杯3がすっぽりおさまる状態で出土した。また、土師器杯7、須恵器杯1、土師器杯6、土師器杯8の順に配置されていた。このようにセット関係が窺える土器を整然とカマド内に配置した例は、近



第45図　SB008竪穴住居跡遺物出土状況図

隣の遺跡でもあまりみられない貴重な資料といえる。

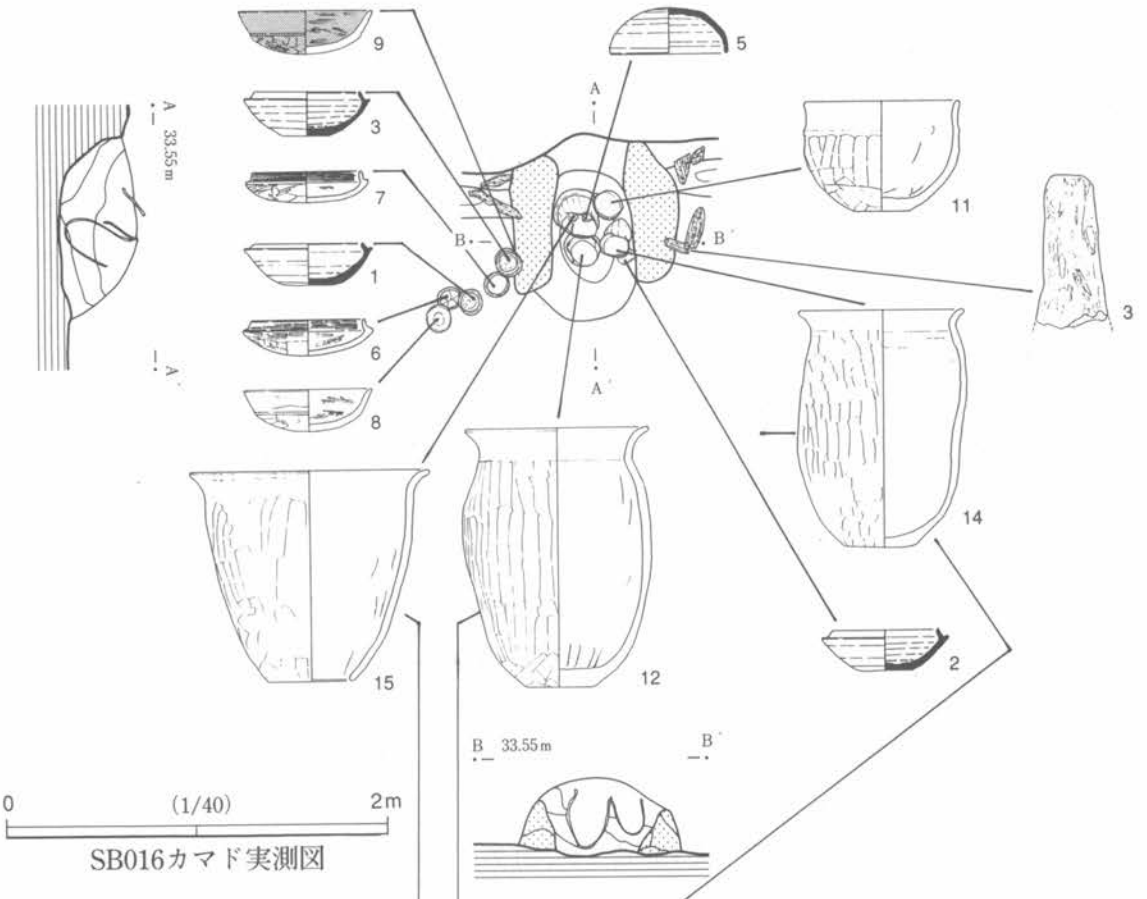
カマド左袖付近に配された杯6点の内、8・9の2点は体部外面に稜を有する丸底の杯である。9は内外面に黒色処理が施され、8は黒色処理を施されていない。この2点の杯はともに稜が体部外面中位に近い位置にみられ、内外面にヘラによる細かなミガキがみられる。

ＳＢ020（第47図・図版6-1，2）

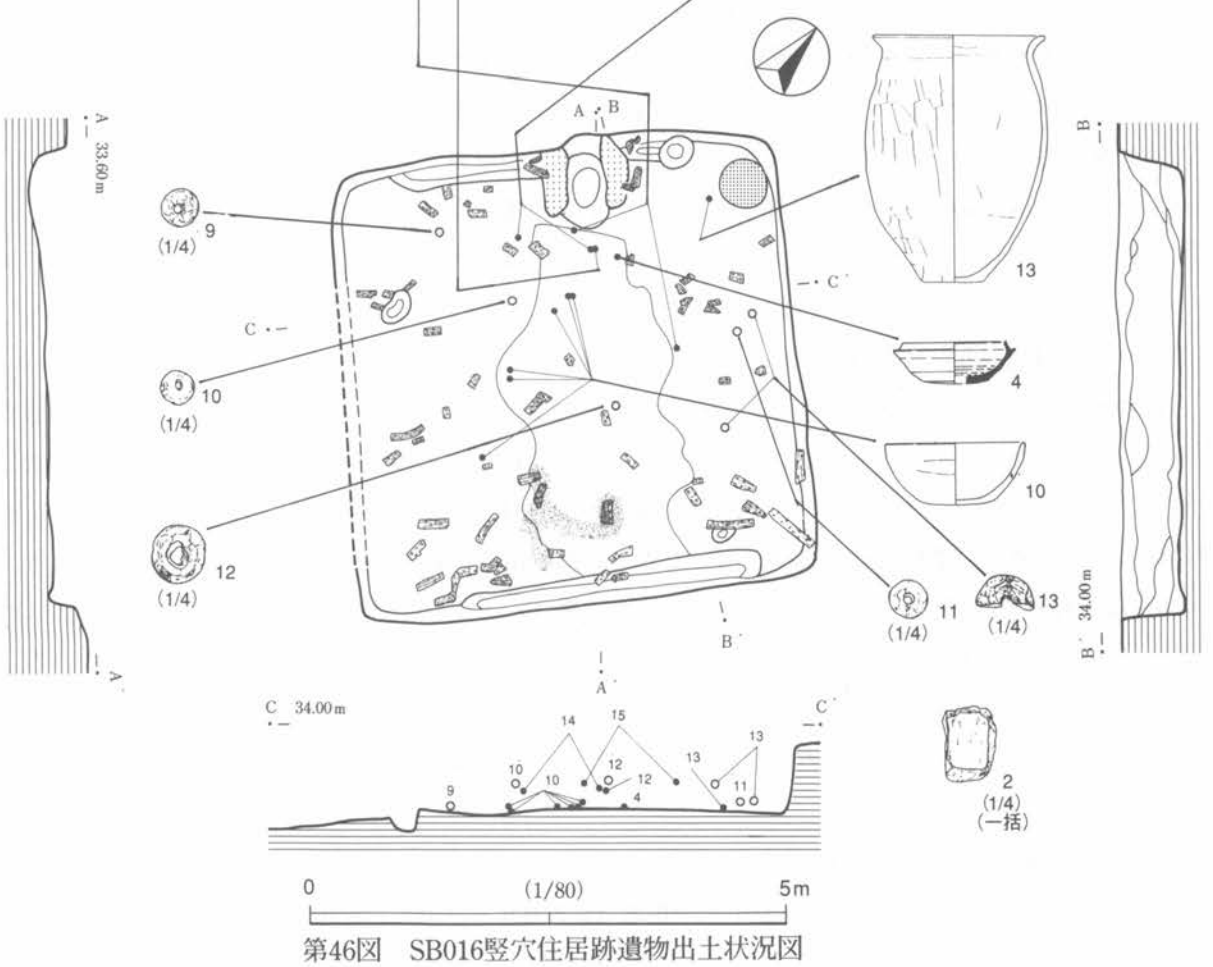
舌状にのびた台地上先端部の中央平坦地（Ｃ1-75グリッド）に位置する。床面積は27.2m²を測る中型の竪穴住居跡である。床面はカマド右袖脇の部分から壁溝にかけて撹乱を受けており、若干の凹凸はあるものの全体的には平坦である。床面は硬質部と軟質部の区別は確認できなかった。壁溝は西コーナーで一部欠け全周せず、カマドと対面する壁に近接した床面中央には壁溝を切るように梯子ピットが検出された。柱穴は4か所で、柱を抜き取ったような跡がみられる。

図示できた土器は14点、すべてが土師器で、杯（1～6・8～10）9点、甕（11～14）4点、皿（7）1点である。本遺構で出土した皿（7）は、本遺跡で出土し、図示できたすべての土器のうち1点のみである。土器以外の出土遺物は、玉類（3）1点、鉄鏃（3）1点である。鉄鏃（3）の身の形態は長三角形式である。

遺物はカマド周辺に集中し、カマド焚口部近くの床面からは、甕（12・14）が2点押し潰された状態で出土した。この部分だけ土器片が細かく上下に重なり合っていたので、出土状況図は上下二つに分けて掲載した。カマド実測図内の図が下部となる。甕14は胴部外面下位に二次的に被熱しており、器面が赤く、大きく剥落している。また、2点の甕のすぐ東側には内外面に黒色処理を施されている杯（2・6・10）が3点



SB016カマド実測図



第46図　SB016竪穴住居跡遺物出土状況図

正位の状態で出土した。杯10は内面の全面にミガキが施され、口縁部外面にはヨコナデ後ミガキが施され、体部外面にはヘラケズリ後全体にミガキが施されている。また、内外面には黒色処理が施されている。

北東壁の覆土上層から出土した土師器杯3は、体部外面中位に稜を有する内外面黒色土師器である。内面は全面丁寧なミガキが施されているが、一部ヘラ痕もみられるためミガキ以前にヘラナデを行った可能性がある。外面は口辺部ヨコナデを行った後体部にヘラケズリを行い、その後に丁寧なミガキが施されている。

ＳＢ023Ａ（第48，49図・図版7-1，2）

舌状台地の先端部からやや内部に入る中央平坦地（Ｃ2-39グリッド）に位置する。床面積は57.3㎡（推定）を測る大型の竪穴住居跡であり、ＳＢ023Ｂ・ＳＢ023Ｄに切られている。床面は平坦で、硬質部と軟質部の区別は明瞭で、南側コーナー部分に若干の焼土が認められた。壁溝は全周せず、北と東のコーナー部分で一部欠ける。柱穴は4か所で、カマドと対面する壁際には梯子ピットが2か所検出された。

出土した土器数は多いが、接合不可能な小片がほとんどで図示できた土器は土師器5点だけで、杯（1～3）3点、高杯（4）1点、甕（5）1点である。土器以外の出土遺物は、支脚（4）1点のみである。杯1は内面の全面にミガキが施され、口辺部外面にはヨコナデ後ミガキが施され、体部外面にはヘラケズリ後全体にミガキが施されている。また、内外面には黒色処理が施されている。

ＳＢ023Ｂ（第48，49図・図版7-3，8-1）

舌状台地の先端部からやや内部に入る中央平坦地（Ｄ2-21グリッド）に位置する。床面積は30.0㎡を測る中型の竪穴住居跡であり、ＳＢ023Ａ・ＳＢ023Ｃを切っている。焼失住居跡で床面には炭化材や焼土が認められた。床面は貼床され平坦で、硬質部と軟質部の区別が明瞭である。柱穴は4か所で、カマドと対面する壁際に梯子ピットが検出された。しかし、貼床除去後の旧床面には柱穴4か所は検出されたものの梯子ピットは検出されなかった。壁溝は深さは一定していないが全周する。

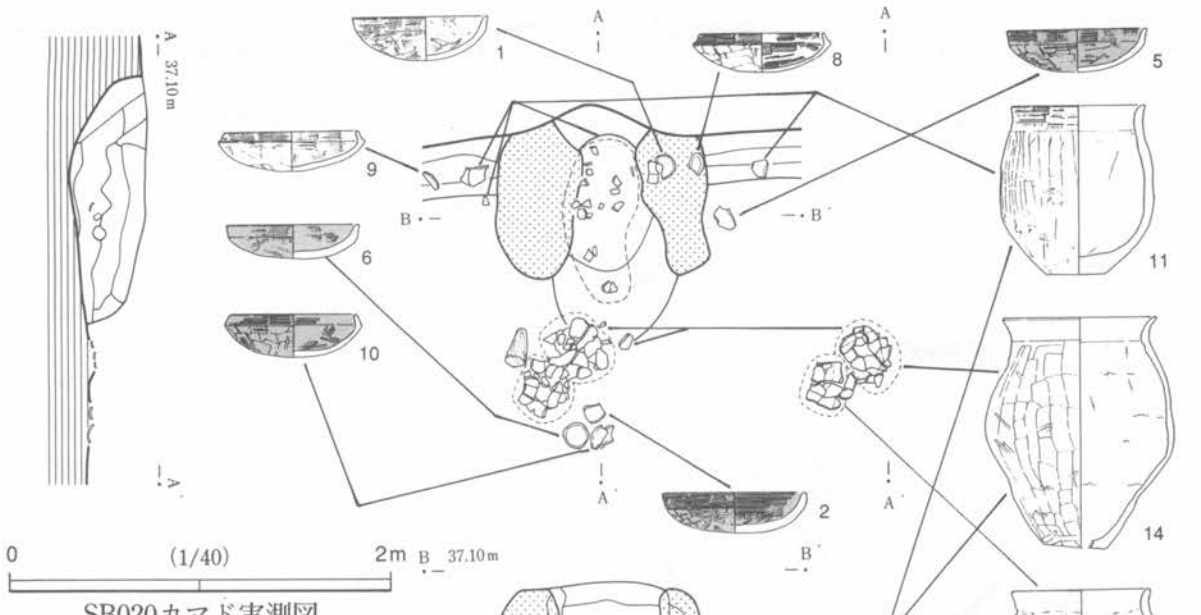
図示できた土器は8点で、須恵器は杯（1）が1点である。残りの7点は土師器で、杯（2・3）2点、鉢（4）1点、甕（5～7）3点、甑（8）1点である。土器以外の出土遺物は、支脚（5）1点のみである。カマド周辺から出土した土器は押し潰された状態であった。

ＳＢ023Ｃ（第48，49図・図版8-2，3）

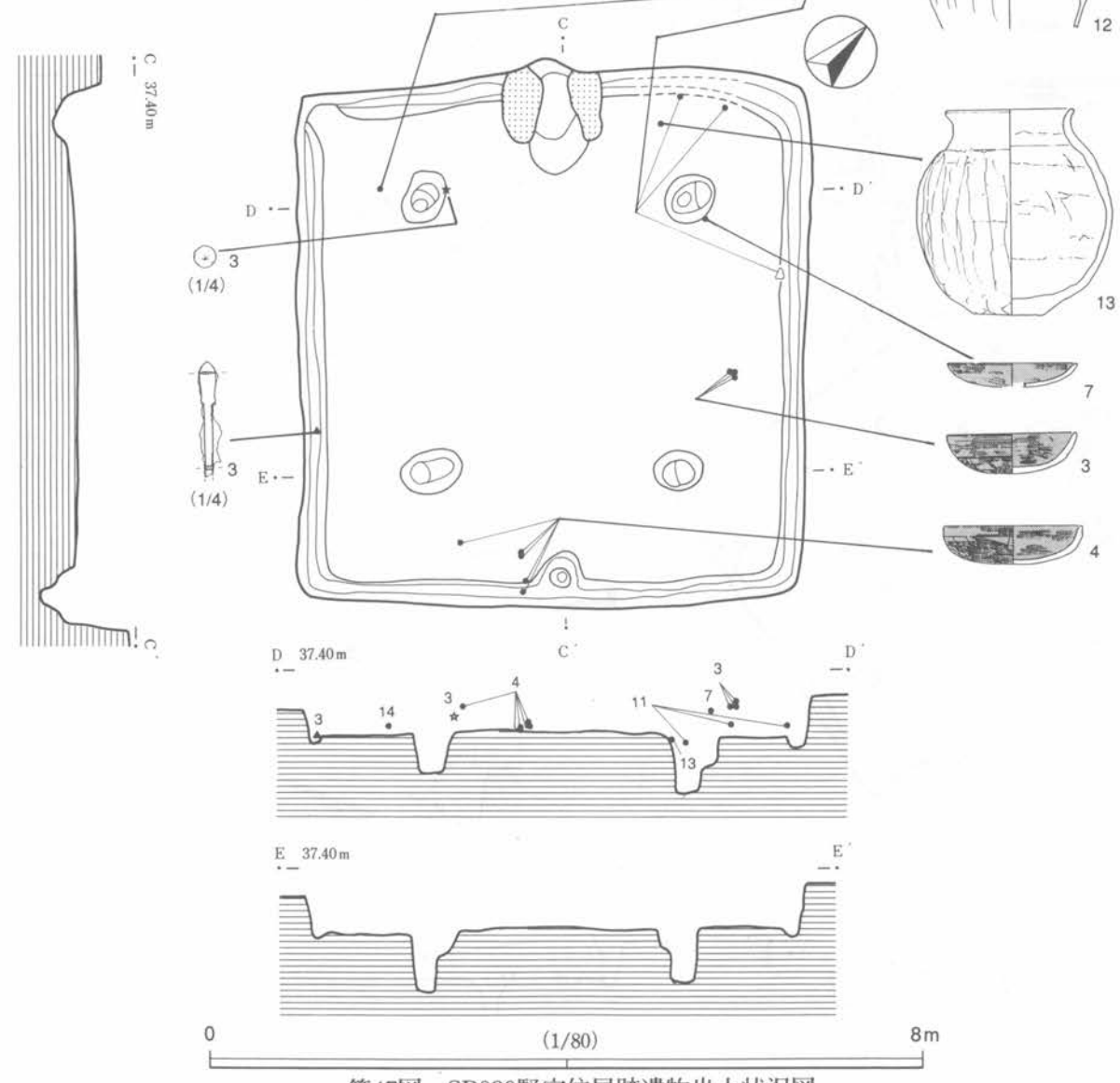
舌状台地の先端部からやや内部に入る中央平坦地（Ｄ2-21グリッド）に位置する。約1/2をＳＢ023Ｂに切られており、床面積は不明であるが、小型の竪穴住居跡である。確認面からの掘り込みは浅く、壁溝はなく柱穴は2か所しか検出されなかった。床面には焼土や炭化材が散在する焼失住居跡である。竪穴住居の破壊は激しいが、遺物の遺存状態は良く、図示できた土器は10点である。10点中須恵器は蓋（1）が1点、残りの9点は土師器で、杯（2～5）4点、高杯（6）1点、甕（7～9）3点、甑（10）1点である。土器以外の出土遺物は、支脚（6）1点である。杯5は体部外面に横方向のヘラケズリ後丁寧なミガキが施されている。内面にはミガキを行った時にできた、キズのように深い工具痕がみられる。甕9は外面ヘラケズリ後ミガキが施されているが、ヘラケズリが深めに行われたため器面がボコボコしている。内面頸部周辺には指ナデ痕が残っている。

ＳＢ023Ｄ（第48，49図・図版9-1）

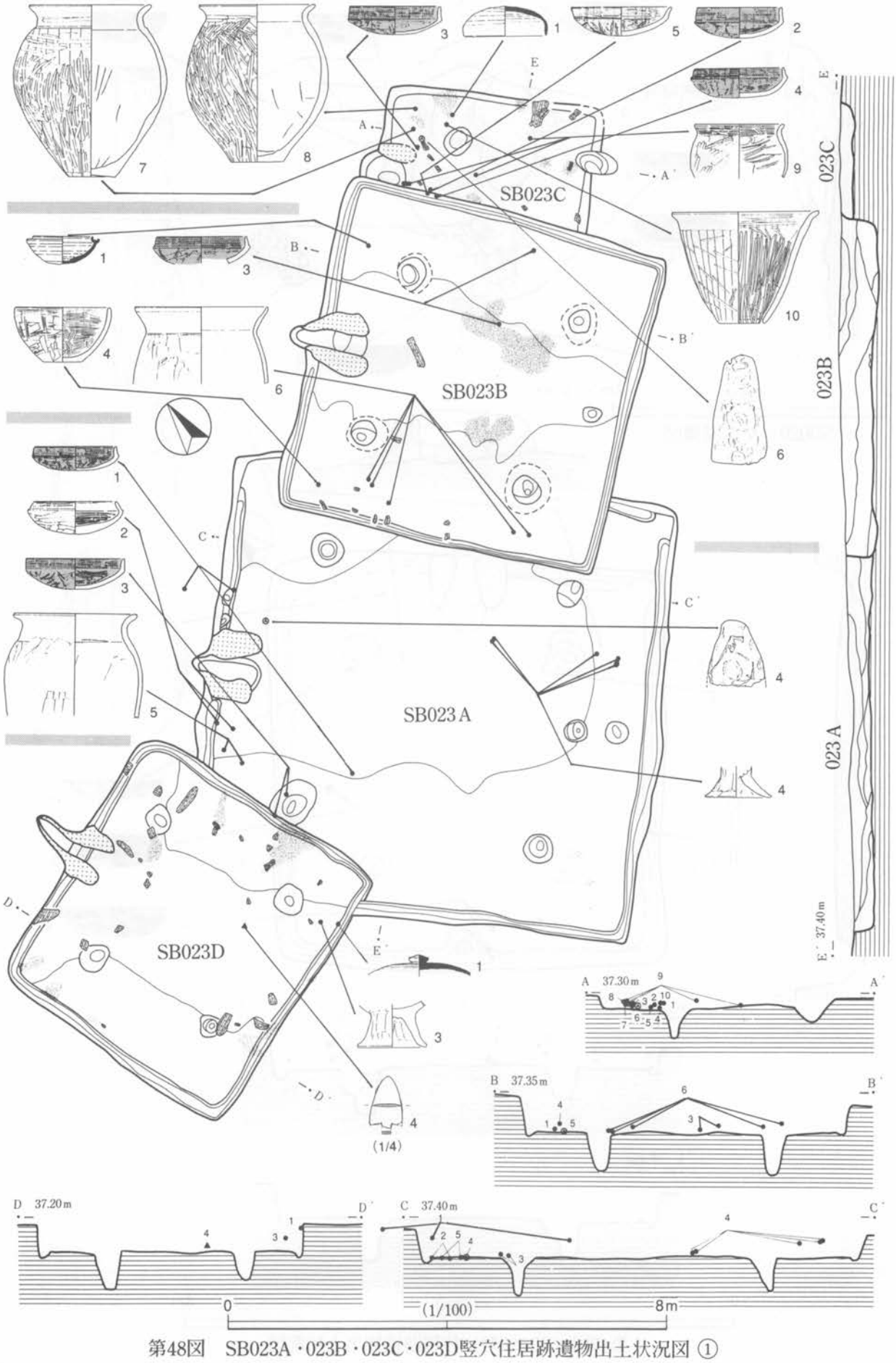
舌状台地の先端部からやや内部に入る中央平坦地（Ｃ2-38グリッド）に位置する。床面積は21.7㎡を測る小型の竪穴住居跡であり、ＳＢ023Ａを切る焼失住居跡である。壁溝は深さは一定していないが全周し、梯



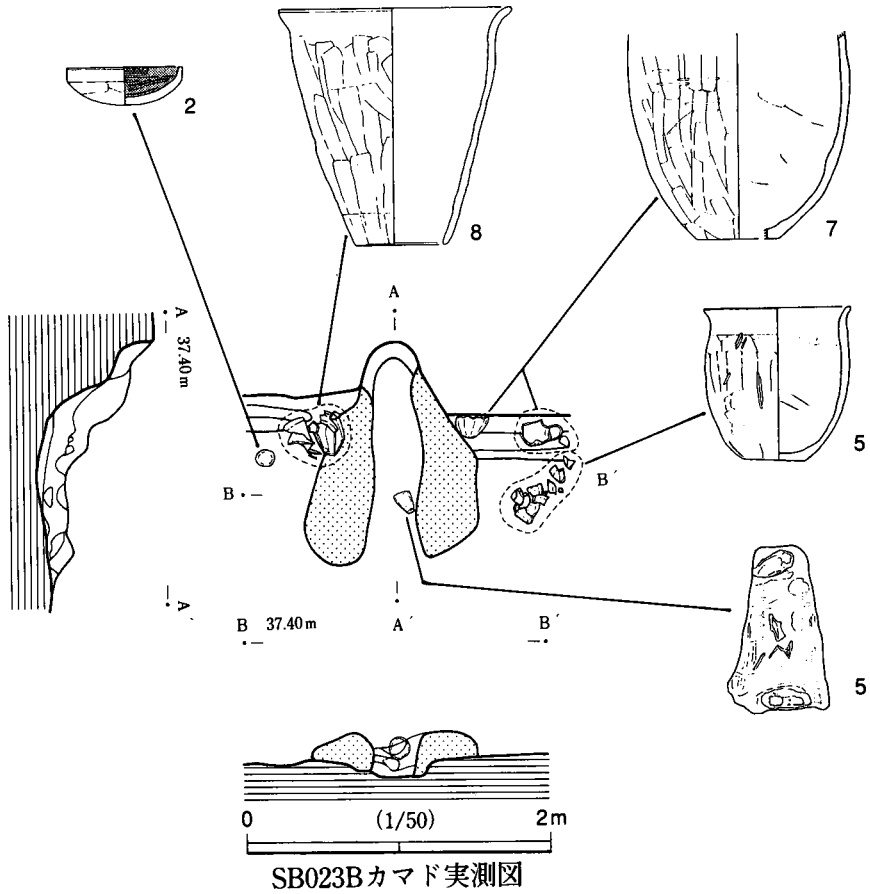
SB020カマド実測図



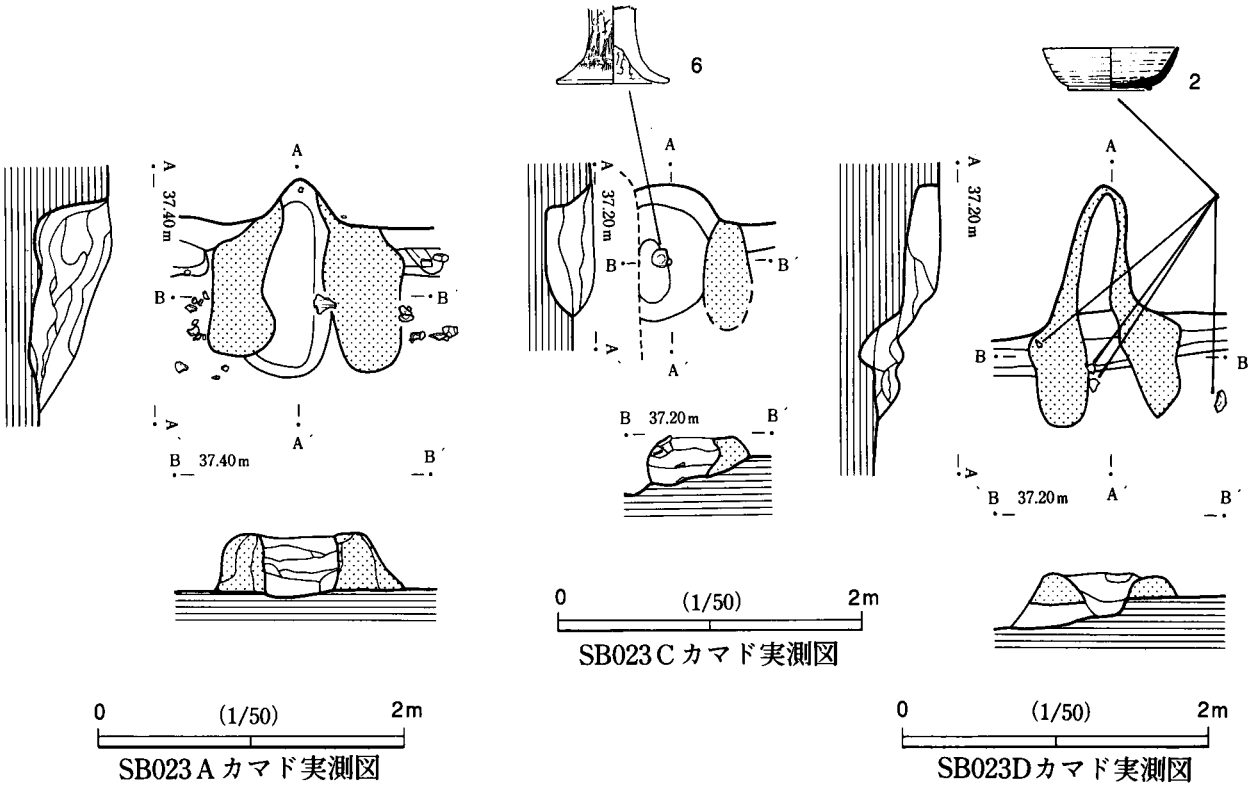
第47図　SB020竪穴住居跡遺物出土状況図



第48図　SB023A・023B・023C・023D竪穴住居跡遺物出土状況図 ①



SB023Bカマド実測図



SB023Cカマド実測図

SB023Aカマド実測図

SB023Dカマド実測図

第49図　SB023A・023B・023C・023D竪穴住居跡遺物出土状況図 ②

子ピットはない。カマドは煙道部が長く壁の外に突き出ている。床面は硬質部と軟質部の区別が明瞭である。

図示できた土器は3点のみであるが須恵器高台付の杯（2）と蓋（1）がセットで出土した。残りは土師器の高坏（3）の脚部である。土器以外の出土遺物は、鉄鏃（4）1点のみで、身の形態は腸抉三角形式である。

ＳＢ024（第50図・図版9-2）

ＳＢ023Ａ竪穴住居跡の北西2mを隔てた中央平坦地（Ｃ2-18グリッド）に位置する。床面積は55.8㎡を測る大型の竪穴住居跡である。貼床・建替え住居で、2回の建替えを行っている。建替え前は柱穴は4か所で、梯子ピットは検出されなかった。その後1回目の建替えで北東側の2か所の柱穴を外側に移動し、床面積を広げている。また、その後2回目の建替えで貼床を行い、柱穴4か所の間に支柱穴2か所を付け加え、カマドと対面する壁際に梯子ピットを持つ構造になったようである。なお、貯蔵穴は建替え前も後もあったようである。貼床は丁寧になされており平坦で、硬質部と軟質部の区別は明瞭である。

図示できた土器は全部で16点で、須恵器は杯（1）1点、長頸壺（2）1点の計2点である。残りの14点は土師器で、杯（3～12）10点、高杯（13）1点、鉢（14）1点、甕（15・16）2点である。杯が11点で最も多い。土器以外の遺物では、土玉（14）1点、紡錘車（1・2）2点、手捏土器（4）1点、支脚（7）1点、土製円板（1）1点がそれぞれ出土している。紡錘車1は土製で、2は滑石製である。

土器10・11の2点は、体部外面中位に稜を有する丸底気味の杯である。内外面には黒色処理が施され、丁寧で細かなヘラミガキが施されている。10・11ともに丸底の底部で、10は口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。床面からの出土で、底部は厚く重量感がある。11は覆土中層からの出土で、底部は薄い。

ＳＢ027（第51図・図版10-2，3）

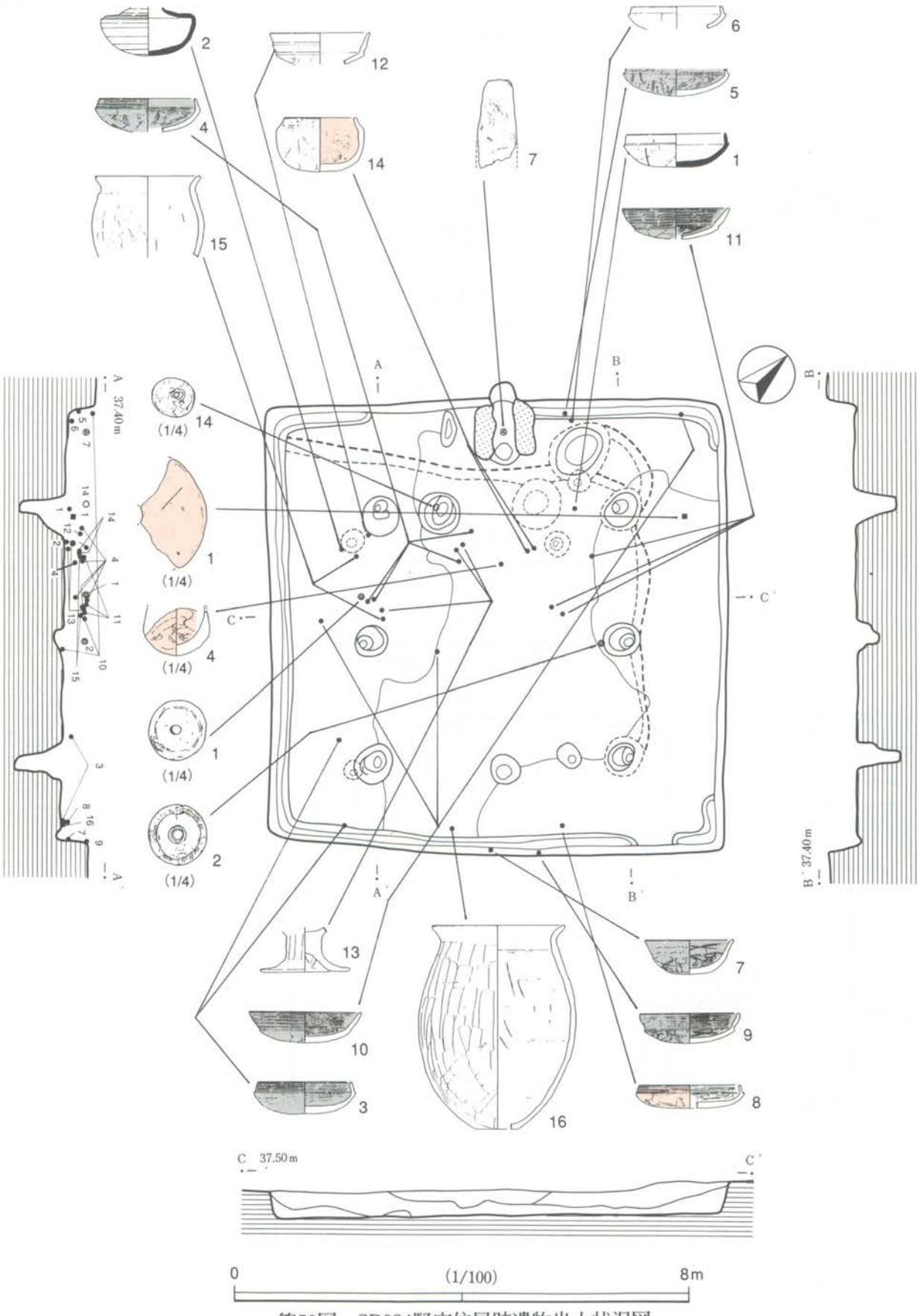
舌状にのびた台地上の先端部と中央部の中間（Ｄ2-55グリッド）地点に位置する。床面積は21.7㎡を測る中型の竪穴住居跡である。壁溝は全周するが、カマド左袖部分・梯子ピット部分・北東コーナー部分の3か所で一段と深くなる。床面はほぼ平坦で、硬質部と軟質部の区別は明瞭で、焼土が3か所に認められた。梯子ピットは検出されたが、貯蔵穴はない。

図示できた土器は5点のみである。遺物はカマド内及び周辺に集中して出土した。カマド内からは甕（4・5）2点、鉢（1）1点、支脚（10・11）2点で、カマド右袖周辺からは甕（3）1点・高杯（2）1点が出土した。4・5は長胴の甕で、それぞれ支脚で支えられるような状態で出土した。その他の遺物としては土玉（15～17）が3点覆土中から、また、手捏土器（5）1点（出土地点不明）が出土した。

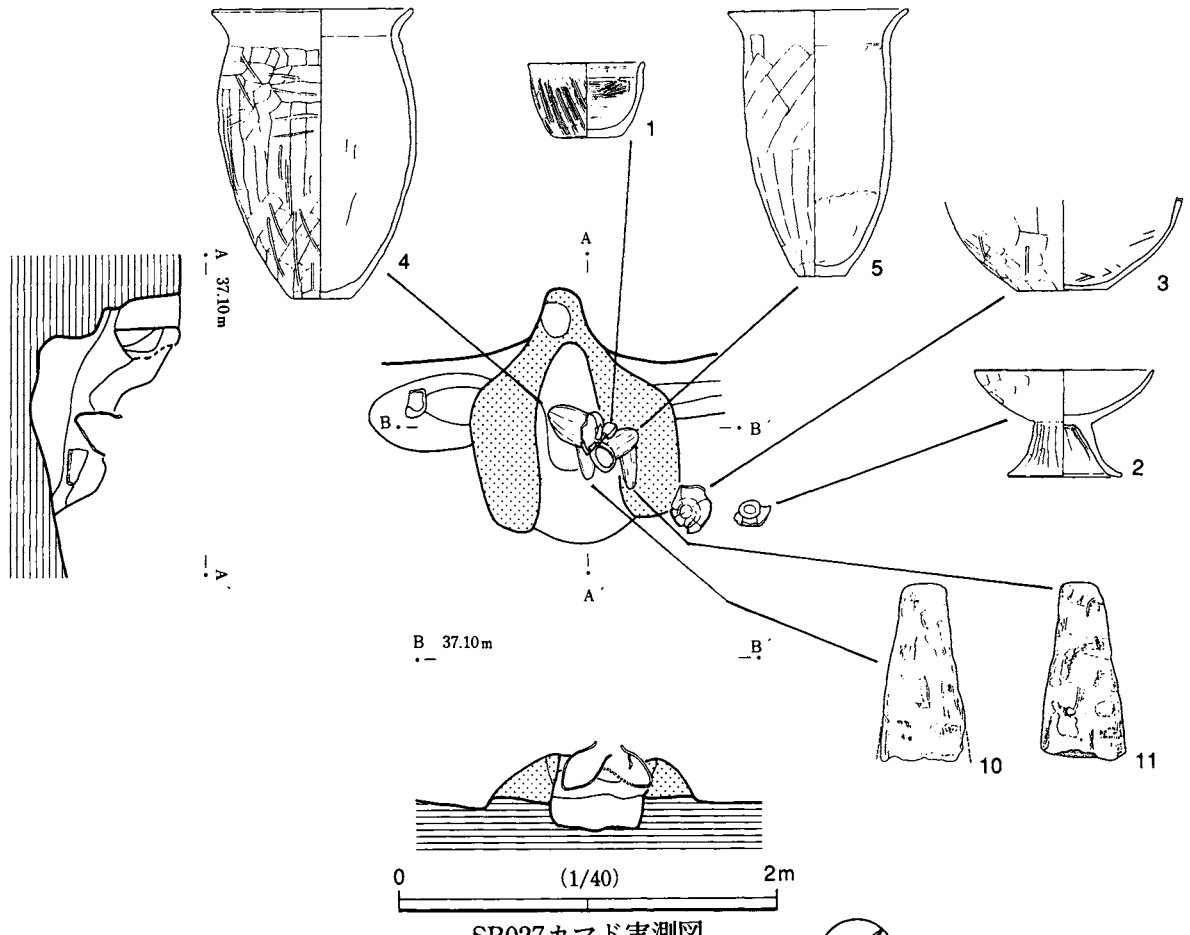
ＳＢ029（第52図・図版11-2，3）

北斜面貝層の急斜面中（Ｅ1-50グリッド）から検出された。遺存状態は非常に悪く、カマドとその周辺部の掘込みが確認されたのみで、柱穴やカマド周辺部以外の壁の大部分は削平され検出できなかった。しかし、わずかに残存するカマド周辺の出土遺物は密であった。

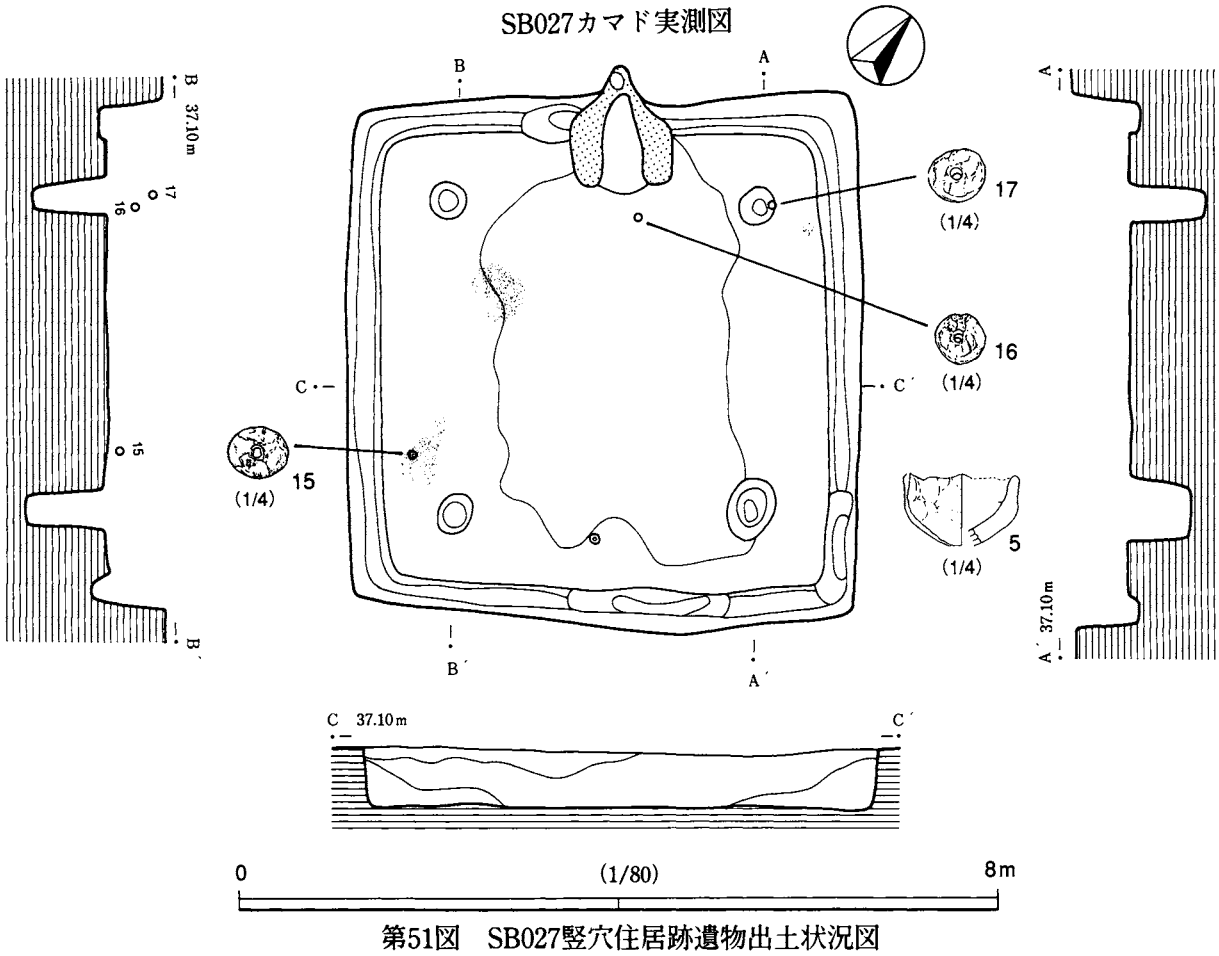
図示できた土器は11点で、須恵器は杯（1）の1点のみである。残りの10点は土師器で、杯（2～6）5点、高杯（7）1点、甕（8～11）4点である。土器以外の出土遺物は、支脚（13）1点のみである。1の須恵器杯は本遺構外から出土しており、本遺構に伴うものかどうかは不明である。2～6の土師器杯のうち、3は内外面に黒色処理が施された、体部外面中位に稜を有する丸底の土師器杯である。内面全体から外面口縁部にかけてヨコナデを行った後に外面口縁部から底部にヘラケズリを行い、その後内外面にミガキを施してい



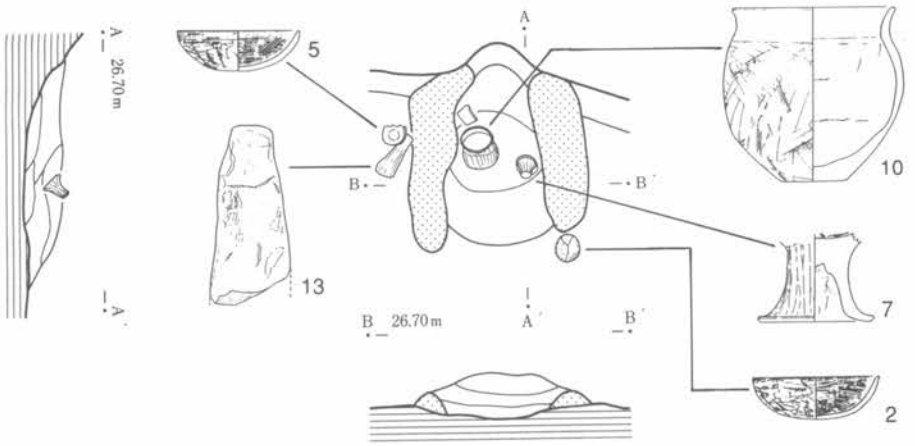
第50図　SB024竪穴住居跡遺物出土状況図



SB027カマド実測図

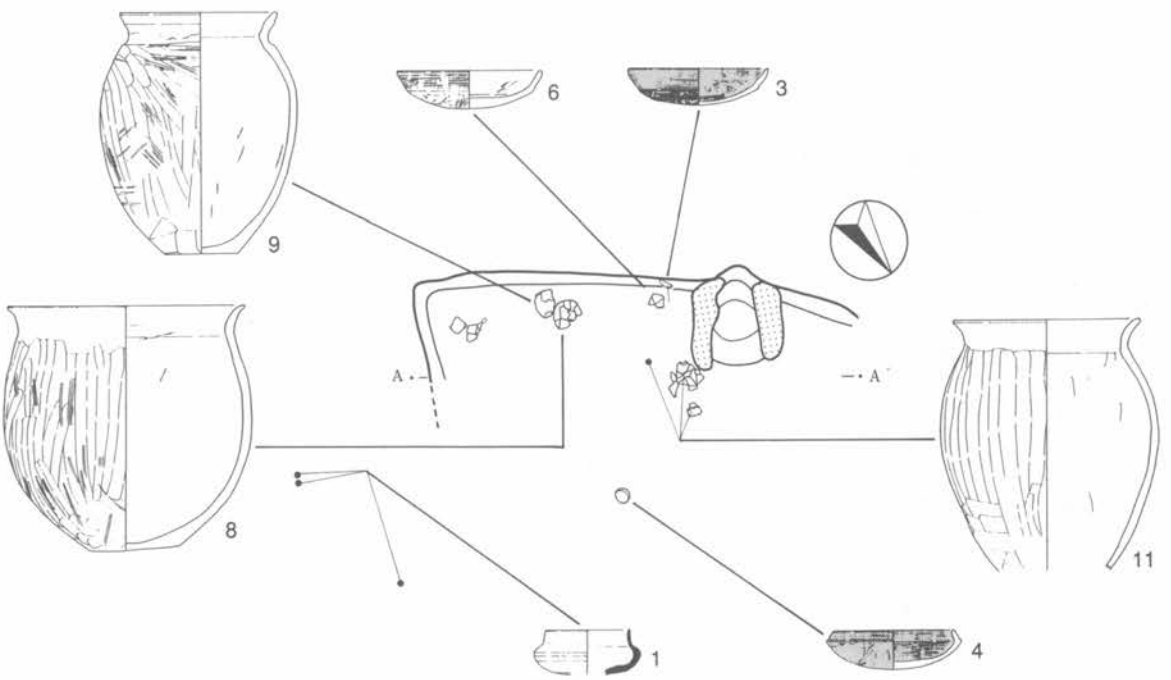


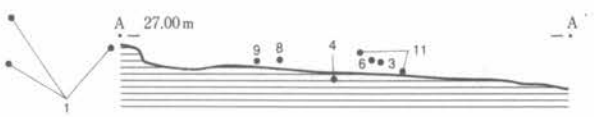
第51図　SB027竪穴住居跡遺物出土状況図



0 (1/40) 2m

SB029カマド実測図





0 (1/80) 6m

第52図　SB029竪穴住居跡遺物出土状況図

る。2はカマド右袖前に正位の状態で出土した。7は高杯の脚部でカマド右袖部分に突き刺さる状態で出土した。8～11は甕で4点とも胴部に最大径を持ち、若干の丸味を帯びる。また、カマド左袖脇からは支脚が出土した。

ＳＢ030（第53図・図版12-1，2）

ＳＢ029同様北斜面貝層の急斜面中（Ｅ1-52グリッド）に位置し、三方向にＳＤ003の溝状遺構が巡っている。カマドは北側コーナー近くに構築され、壁は削平のため、左袖部分から北西コーナーにかけて検出されなかった。壁溝はまったくなく、柱穴は2か所のみで、床面積は11.9㎡を測る小型の竪穴住居跡である。

出土した土器は多く、図示できたものだけでも23点にのぼり、出土状況はほとんどが床面か覆土下層である。23点中須恵器は杯（1）の1点のみである。残りの22点は土師器で、杯（2～8）7点、高杯（9～16）8点、甕（17～21）5点、甑（22・23）2点である。5は体部外面に稜を有する土師器杯であるが、底部は平底で器高が3.3㎝と低く偏平である。器面は内外面ともに摩耗が激しく黒色処理の有無は不明である。外面底部から口縁部にかけては炭素吸着が認められる。9～16は高杯で8点出土している。17～21は甕で5点出土している。5点の甕は最大径を胴部に持つが、17・20・21のように胴部が丸味を帯びるものと、18・19のように長胴のものとに大別できる。22・23は甑で、23は頸部の全周を三等分したところ3か所に耳状突起が認められる。

ＳＢ032（第54図・図版12-3）

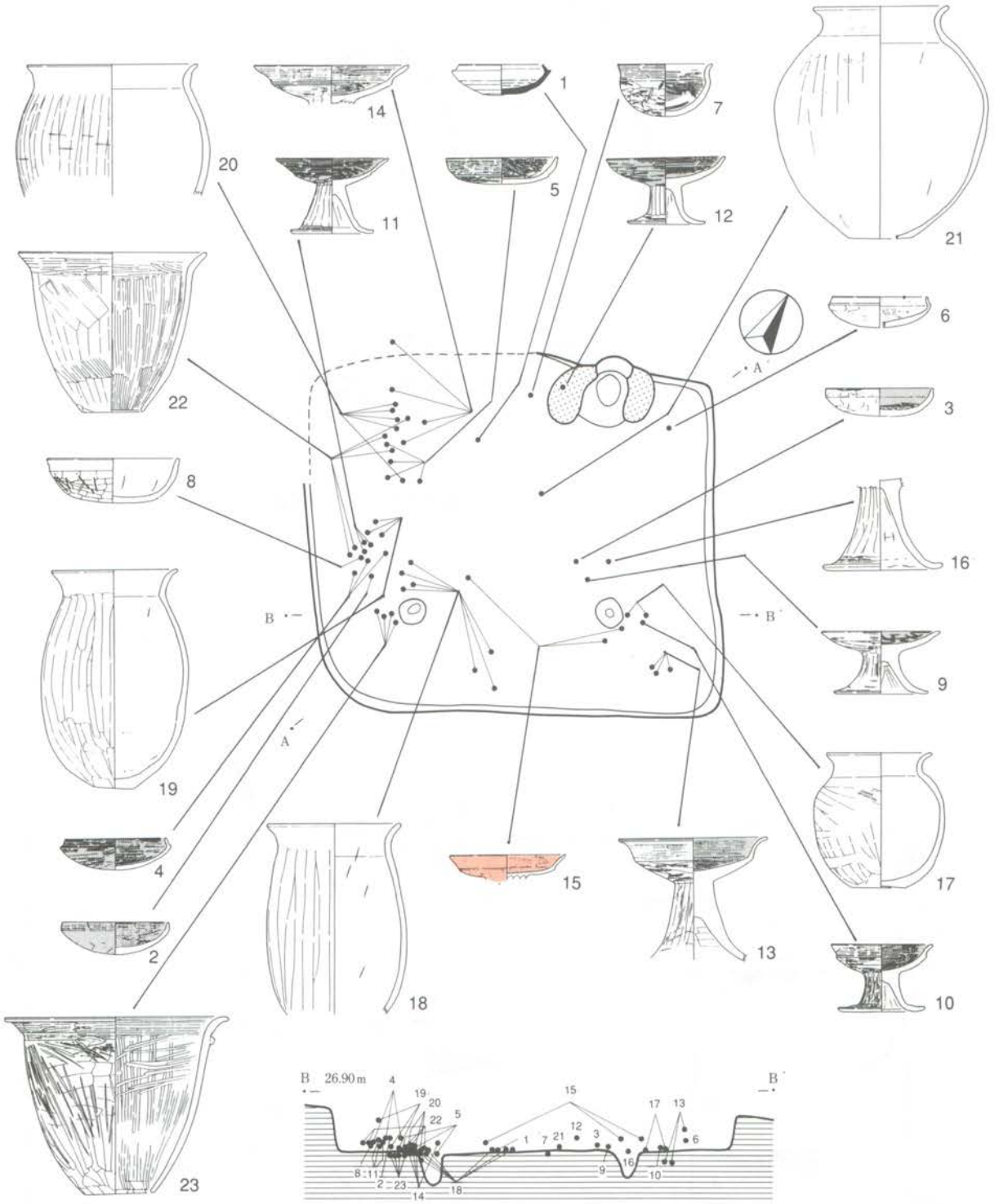
南斜面貝層に面した台地上（Ｃ2-99グリッド）に位置する。床面積は47.3㎡を測る大型の竪穴住居跡であり、ＳＢ031を切る貼床・建替え住居跡である。貼床前はカマド右袖脇に貯蔵穴を有していたが、貼床後はみられない。貼床後は、全周はしないが壁溝と梯子ピットが2か所新たに構築されている。貼床後の床面は平らであるが、踏みしめられたような固く締まった部分は認められなかった。また、床面中央には焼土が若干堆積していた。カマドの焚口部と煙道部にトーンで表している部分は、天井部が崩落したもので、山砂に白色粘土が混入し焼土ブロックが若干含まれる層である。

図示できた土器は12点で、ほとんどが床面及び覆土下層出土である。しかし、完形品は1の杯のみで、残り11点は遺存度がきわめて悪い。須恵器の出土は認められず、すべてが土師器で、杯（1～5）5点、椀（6・7）2点、甕（8～12）5点である。1は内外面に黒色処理が施された、体部外面中位に稜を有する土師器杯である。底部はやや平底気味である。内外面ともきめ細かなヘラナデが施されている。内面は黒色処理が明瞭に残り、真っ黒である。3は内面赤彩、5は底部にヘラによる圧痕が施されている。土器以外の出土遺物は手捏土器（6）1点、土玉（21）1点、支脚（15・16）2点、砥石（3）1点、スモモの炭化種子2点、炉底滓13.98ｇである。手捏土器6は内外面に赤彩が施され、外面に櫛状工具による3条の縦の沈線が7対認められる。

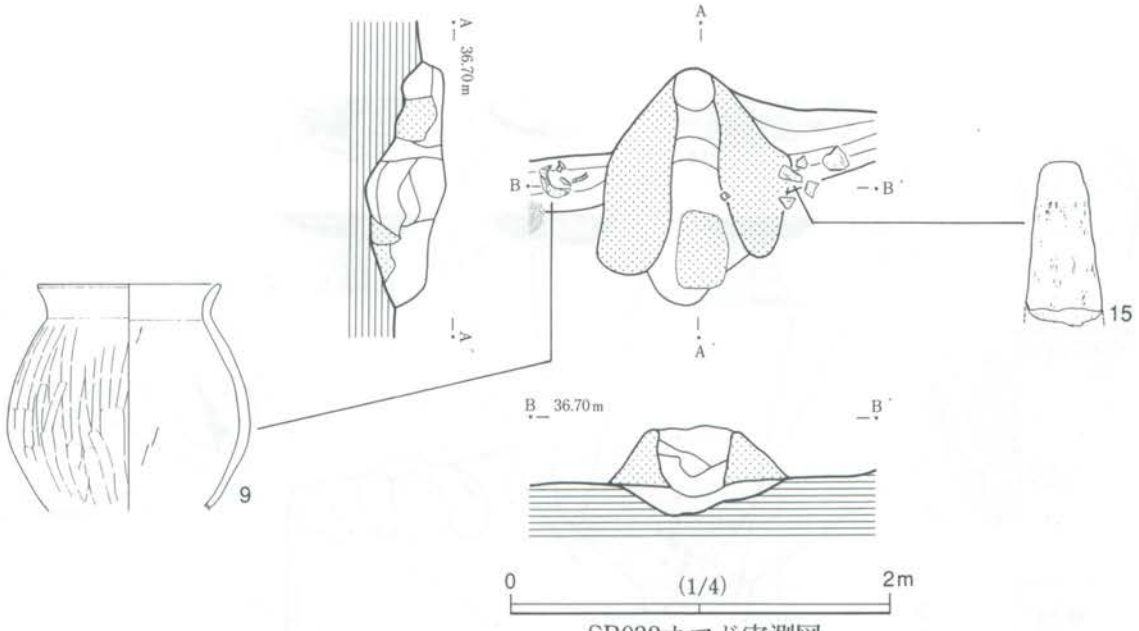
ＳＢ033（第55，56図・図版13-1，2）

ＳＢ032の東側に約8m隔たった台地平坦部（Ｄ2-93グリッド）に位置する。床面積は36.6㎡（推定）を測る比較的大型の竪穴住居跡といえる。貼床を施した竪穴住居跡で床除去後ピットが検出された。また、床面の保存状態は後世の溝や木の根による著しい撹乱のため非常に悪く、床面の硬軟部分の識別は不可能であった。本跡に伴う遺物は数点出土しているが、図示可能なものはなかった。

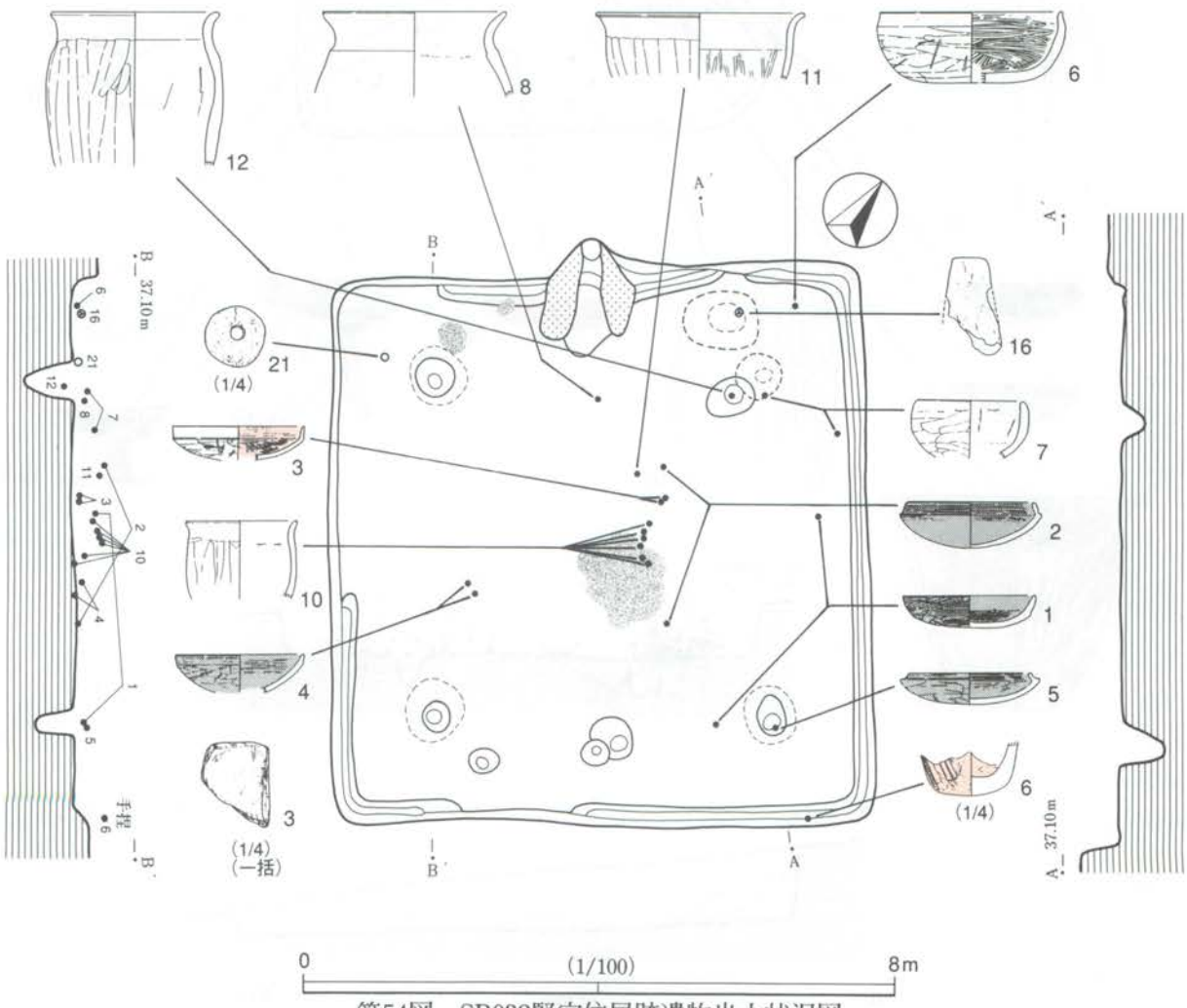
竪穴住居跡廃棄後の覆土中からは骨臓器が出土した。しかし、骨臓器周辺の残存土層のセクションには骨臓器に伴う遺構の掘り方は認められなかった。骨臓器周辺の土は、ほぼ本跡の覆土と同様であるところ



第53図　SB030竪穴住居跡遺物出土状況図



SB032カマド実測図



第54図　SB032竪穴住居跡遺物出土状況図

から、本跡埋没時の落込みをそのまま利用し埋葬した、遺構を伴わない火葬墓の可能性がある。骨を納めた甕は、カマド右袖付近の覆土中層から2点（4・5）出土した。2点は約1.2m隔たっており、4は南向きで、口縁部を底面に45°傾斜する状態で出土した。また、1の土師器高台付の杯（内外面黒色処理）と、2の土師器椀（内外面赤彩）が、4と接するように同一レベルで出土した。5は北向きで、4と同様に45°傾斜する状態で出土した。3は土師器高台付の椀で、骨臓器から東へ約2m隔たった覆土中層から出土した。

この火葬墓の時期は、伴う遺物から判断すると平安時代と考えられる。したがって本竪穴住居跡の時期は、平安時代以前とすることができる。

ＳＢ039（第57図・図版15-2，3）

舌状台地中央からやや先端部に向かった、南斜面貝層に面する台地上（D3-53グリッド）に位置する。ＳＢ040を切り、床面積20.2㎡を測る比較的小型の竪穴住居跡である。壁溝は全周し、床面は平坦で梯子ピット付近には焼土が検出された。また、硬質部と軟質部の区別は明瞭である。

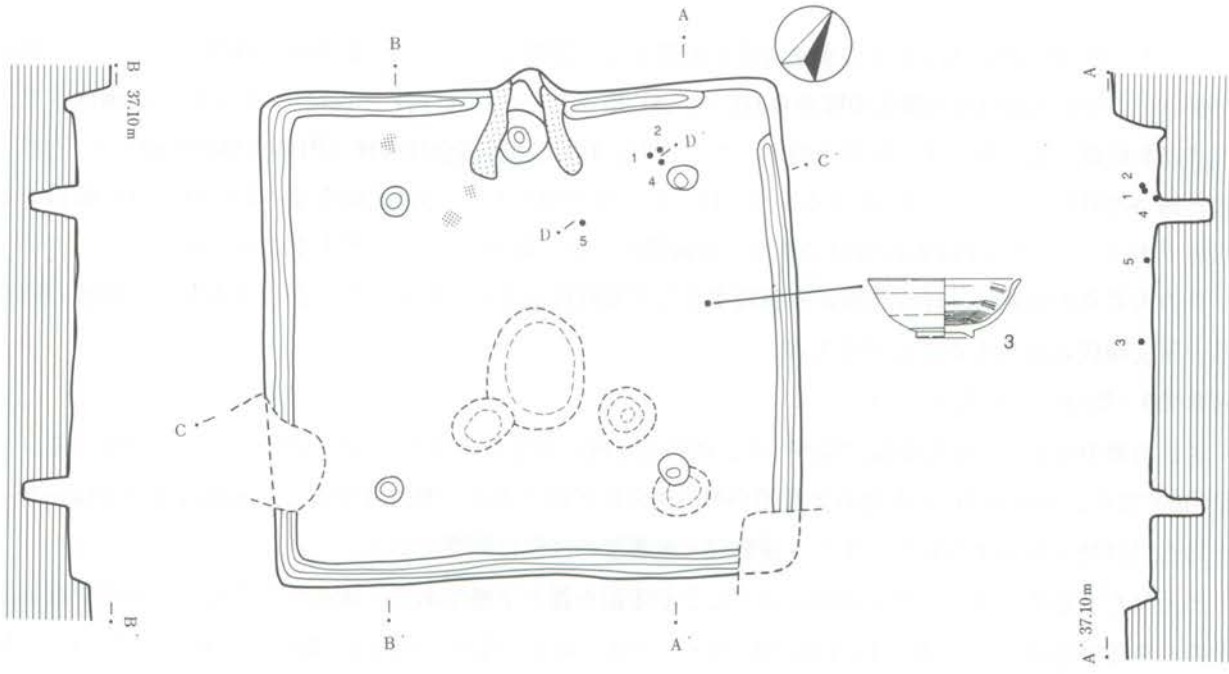
出土した土器片は多く、出土状況はほとんどが床面か覆土下層である。図示できたものは19点を数え、そのうち須恵器は3点で、蓋（1）1点、杯（2・3）2点である。残りの16点は土師器で、杯（4～7）4点、椀（8）1点、高杯（9）1点、甕（10～12，14～18）8点、甑（14・19）2点で、甕の出土が多いのが特徴的である。カマド内からは、10の最大径を口縁部に持ち長胴気味の甕と、胴部に最大径を持ちやや丸味を帯びる18の甕が2点と、5の杯が1点出土した。カマド右袖部から周辺にかけては、12・14・15・17の甕が4点、また、3の須恵器杯1点、8の椀1点、9の高杯1点、19の甑1点がそれぞれ出土した。カマド内及びカマド右袖周辺から出土した土器は、計11点を数える。

カマド周辺以外からは、1の須恵器蓋1点、2の須恵器杯1点、4・7の土師器杯2点、13の甑1点、16の甕1点が、いずれも床面及び覆土下層から出土している。6の土師器杯は覆土一括である。出土土器には器面の摩耗が激しいものが多い。土器以外の出土遺物は、土玉（29・30）2点、小札（1）1点、炉底滓43.92ｇである。1の小札は覆土一括である。

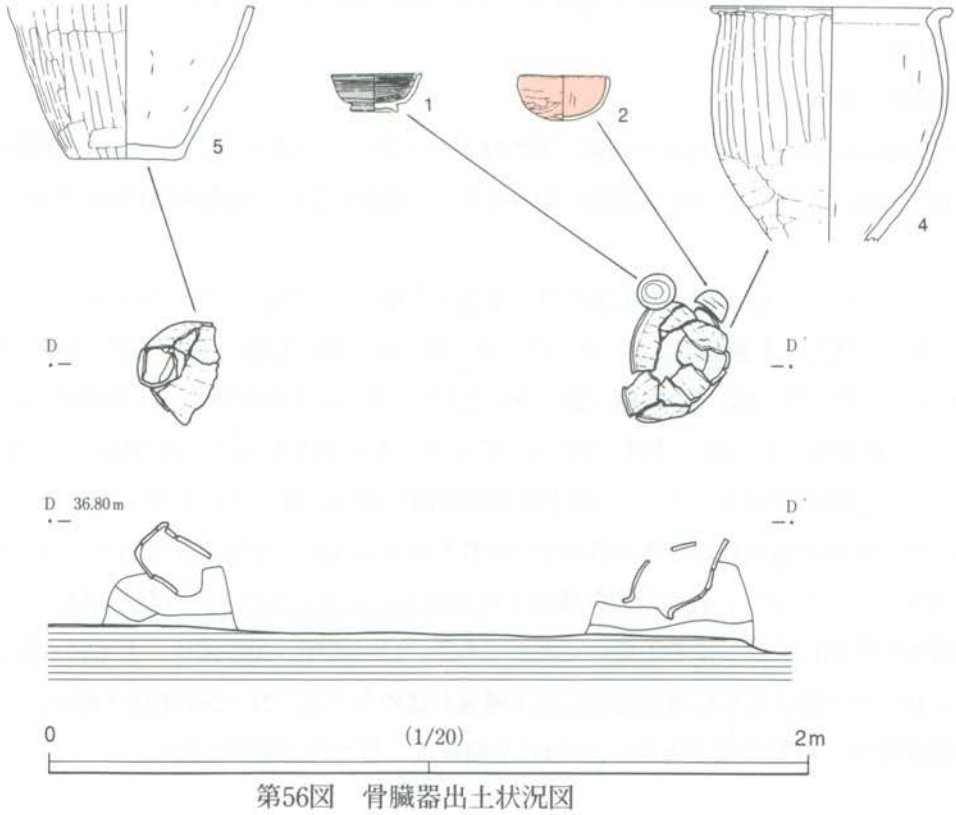
ＳＢ046（第58図・図版18-2，3）

ＳＢ027の西側約6m隔たった台地平坦部（D2-58グリッド）に位置する。カマドは北西側壁中央に配され、柱穴はなく貯蔵穴が北東コーナー部分にあるのみで、壁溝もない。床面積は12.0㎡を測る小型の竪穴住居跡である。

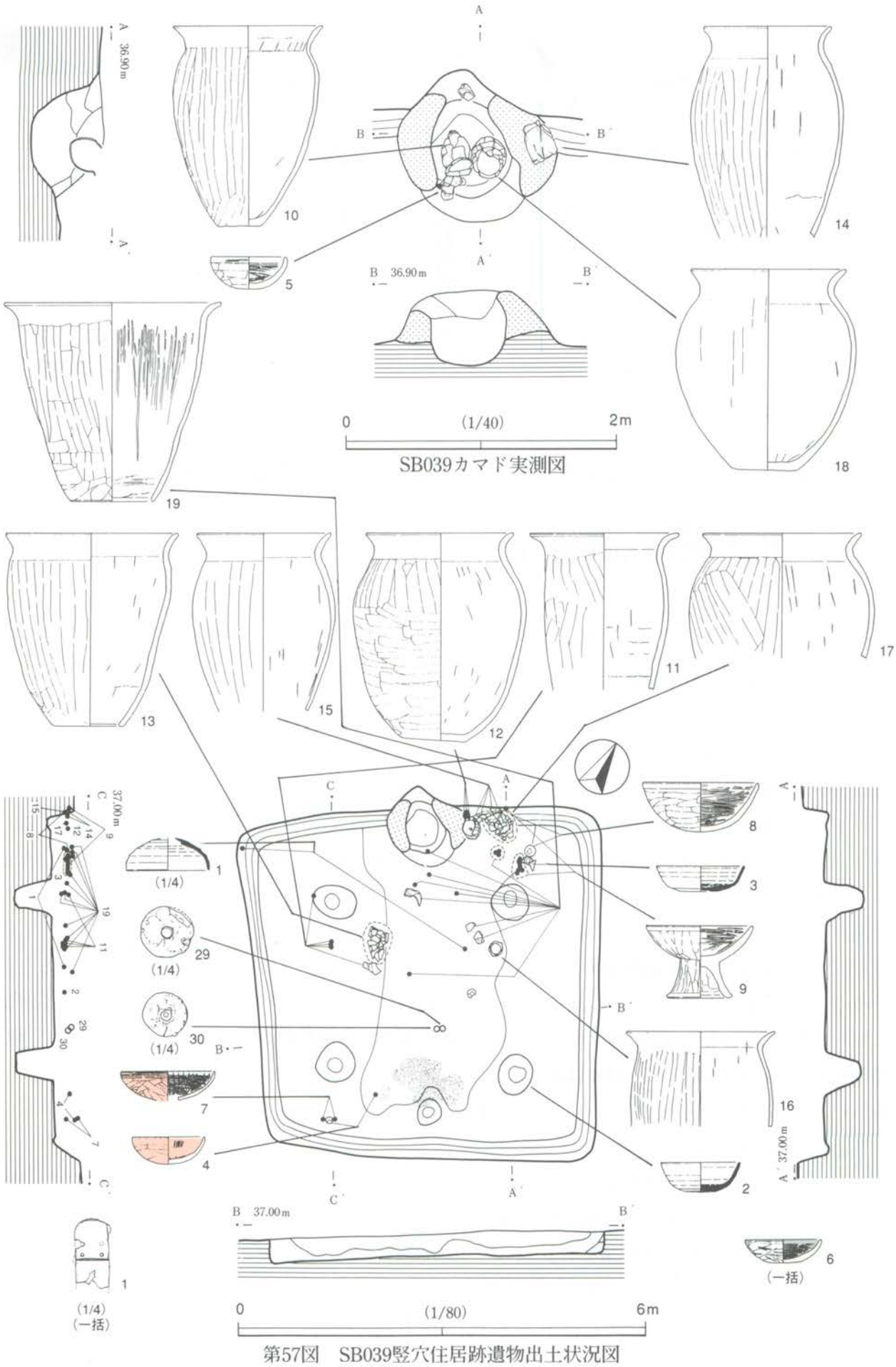
出土した土器片は多く、図示できた土器だけでも28点を数える。28点中須恵器は3点で、3点とも蓋（1～3）である。残りの25点は土師器で、杯（4～12・14・15・17・18）13点、高杯（13）1点、椀（16・19）2点、鉢（20）1点、甕（21～26）6点、甑（27・28）2点で、杯の出土数が多い。土器以外の出土遺物は土玉（44・45）2点、紡錘車（3）1点、支脚（23）1点である。カマド内からは、14の杯1点、20の鉢1点、21・24の甕2点、23の支脚1点が出土した。2の須恵器蓋の外面平坦部にはヘラによる圧痕が施されている。8・11は内外面に黒色処理が施された、体部外面中位に稜を有する丸底の土師器杯である。8は稜から口縁部にかけて外反気味に立ち上がり、11は内湾気味に立ち上がる。ともにヘラケズリ後丁寧なミガキが施されるが、外面の稜から底部にかけては若干荒いミガキである。13の高杯、20の鉢は、ともに本跡では1点のみの出土である。16・19の椀はともに底部外面に炭素吸着が認められる。21～26の6点は甕で、いずれも輪積の粘土紐接合痕が残り、調整は雑である。26の1点を除けば、最大径を胴部に持つ。



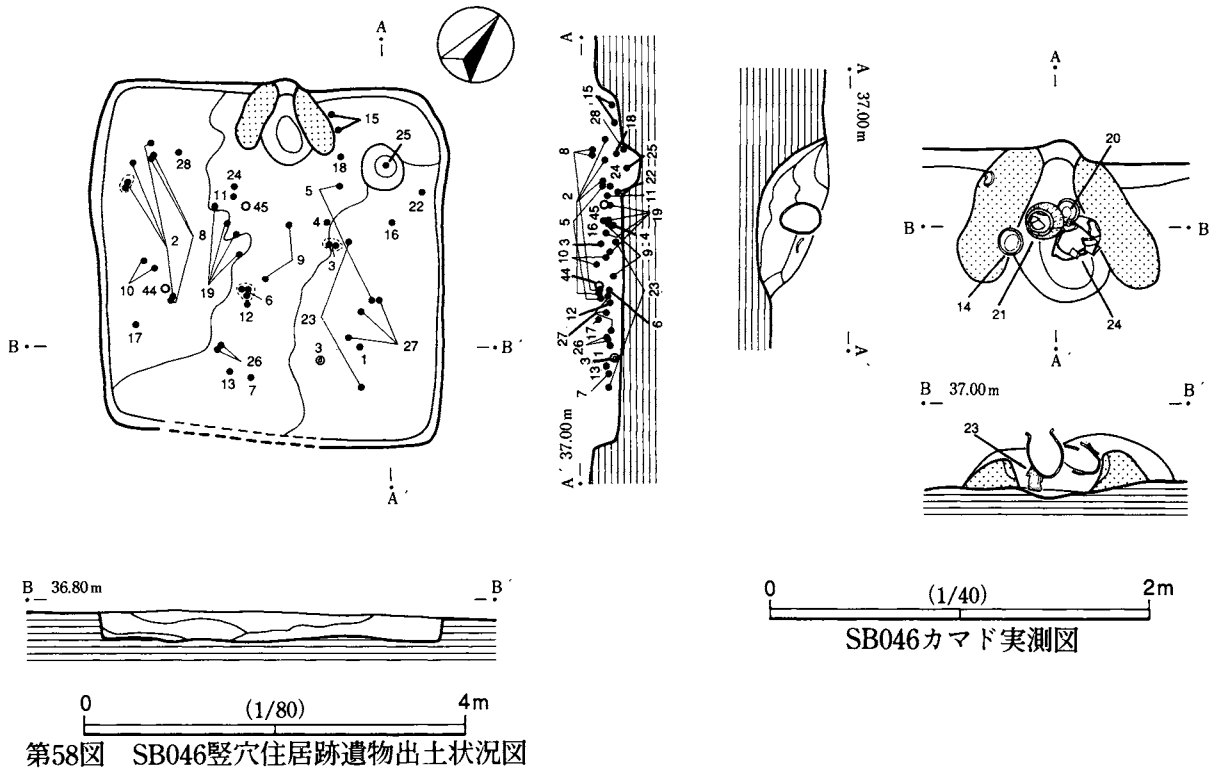
第55図　SB033竪穴住居跡遺物出土状況図



第56図　骨臓器出土状況図



第57図　SB039竪穴住居跡遺物出土状況図



第58図　SB046竪穴住居跡遺物出土状況図

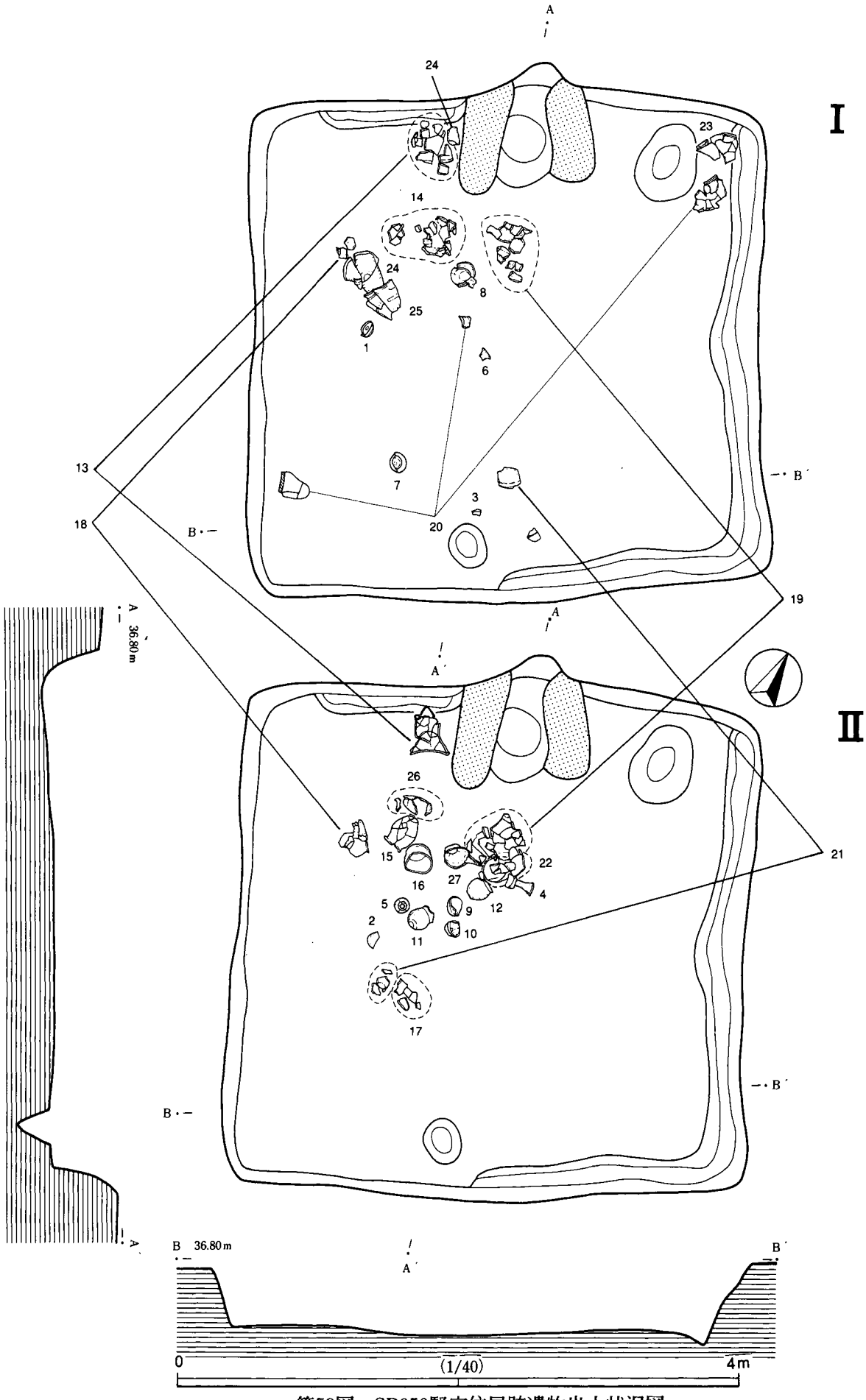
ＳＢ050（第59図・図版19-1，2）

貝層保存区域に近い北西側平坦部（Ｅ2-61グリッド）に位置する。柱穴は検出されず、カマド右袖部に貯蔵穴、カマドと対面する壁際に梯子ピットが1か所検出されただけで、壁溝は全周しない。床面積は10.3㎡を測る小型の竪穴住居跡である。

出土土器は多量で、図示できたものだけでも27点を数え、須恵器の出土はなく、すべて土師器である。杯（1～3）3点、高杯（4～7）4点、鉢（9）1点、壺（22）1点、甕（8，10～21）13点、甑（23～27）5点である。中でも甕は13点出土しており、竪穴住居跡出土点数中最多である。また、出土状況が押し潰された状態のものがほとんどであったので、第59図では遺物の出土状態をポイントではなく、図で示した。Ⅰは覆土内出土状況を、Ⅱは床面出土状況をそれぞれ表している。カマド内からの出土遺物は皆無であった。1～3の杯は内外面に丁寧なミガキが施されている。3の底部中央には十字の線刻が認められる。4は丁寧なミガキが施された、内外面黒色処理の高杯である。9は口縁部で口径が縮まる鉢である。11・15・18・19の甕は輪積の粘土紐接合痕が残り調整は雑である。22は大形の壺で底部は欠損するものの70％遺存する。土器以外の出土遺物は、支脚（24）1点、炉底滓34.36ｇである。

ＳＢ102Ａ・102Ｂ（第60図・図版20-3）

北西にのびた舌状台地の中央部からやや南東寄りの南側斜面（Ｅ5-24グリッド）に位置する。南側は斜面のため壁の確認はできなかった。床面積の正確な計測はできないが、中型の竪穴住居跡といえる。貼床・建替え住居跡で、ＳＢ102Ｂを廃棄後貼床を行い、102Ａに建替えている。そのためＳＢ102Ｂに伴う遺物はほとんど出土していない。また、建替え後にはカマド右袖部の近くに貯蔵穴を作っている。　遺構自体の破壊が激しいためか出土遺物は少なく、図示できた土器は6点で遺存状態も悪い。土器はすべて土師器で、杯（1～3）3点、甕（6）1点、甑（4・5）2点である。ＳＢ102Ａのカマド内からは、正位の状態で6の甕1点



第59図　SB050竪穴住居跡遺物出土状況図

と5の甑片が出土した。5の甑片はカマド右袖脇出土の甑片と接合関係にある。甑はもう1点貯蔵穴周辺から出土しており、計2点となる。1の杯は貯蔵穴内から出土した。土器以外の出土遺物はない。

本跡の建替えはＳＢ102Ｂ廃棄後すぐに行われ、時期差は認められない。

ＳＢ105（第61図・図版21-3）

台地南端部に近く、中世ピット群南東部（G5-94グリッド）に位置する。床面積は25.5㎡を測る中型の竪穴住居跡である。貼床が施された焼失住居跡で、多量の炭化材を検出した。また、貼床以前の貯蔵穴1か所と柱穴2か所が貼床除去後に検出された。床面は凹凸があり、硬質部と軟質部の区別はつかない。

図示できた土器は8点で、杯（1・2）2点、鉢（5・6）2点、甕（3・4・7）3点、甑（8）1点である。このうちカマド内から出土した土器は、4の甕、6の鉢、8の甑の3点であり、4の甕はカマド外出土の破片と接合関係にある。土器以外の出土遺物は、玉類（12）1点、土製品（5）1点、支脚（25）1点、鎌（2）1点である。このうち支脚25はカマド左袖部から、玉（土製品）12と鎌2は床面から、用途不明の土製品5は覆土一括でそれぞれ出土している。

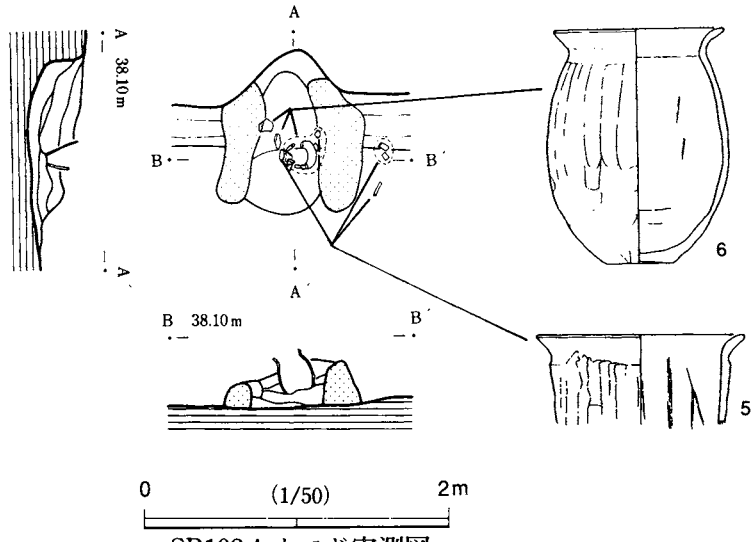
ＳＢ108（第62図・図版22-2，3）

台地南東端部で、支谷に面する緩斜面上（G6-67グリッド）に位置する。床面積は31.0㎡（推定）を測る中型の竪穴住居跡である。カマドと対面する壁はまったく遺存しておらず、この部分はわずかに遺存していた壁溝によってその位置を確認することができた。遺構そのほかの部分は他遺構との切り合いも認められず、全体的に遺存状況は良好である。本跡は焼失住居跡で、貼床された床面には多量の炭化材と焼土が検出された。床面は平坦で硬質部と軟質部の区別は明瞭である。柱穴は4か所で、カマドと対面する壁際に梯子ピットが検出され、それぞれに柱痕が明瞭に認められた。梯子ピットの周辺には、幅30㎝程度の若干の窪みがみられた。また、カマド右袖近くには貯蔵穴が検出された。貼床除去後には2条の間仕切り溝と貯蔵穴1基が検出された。

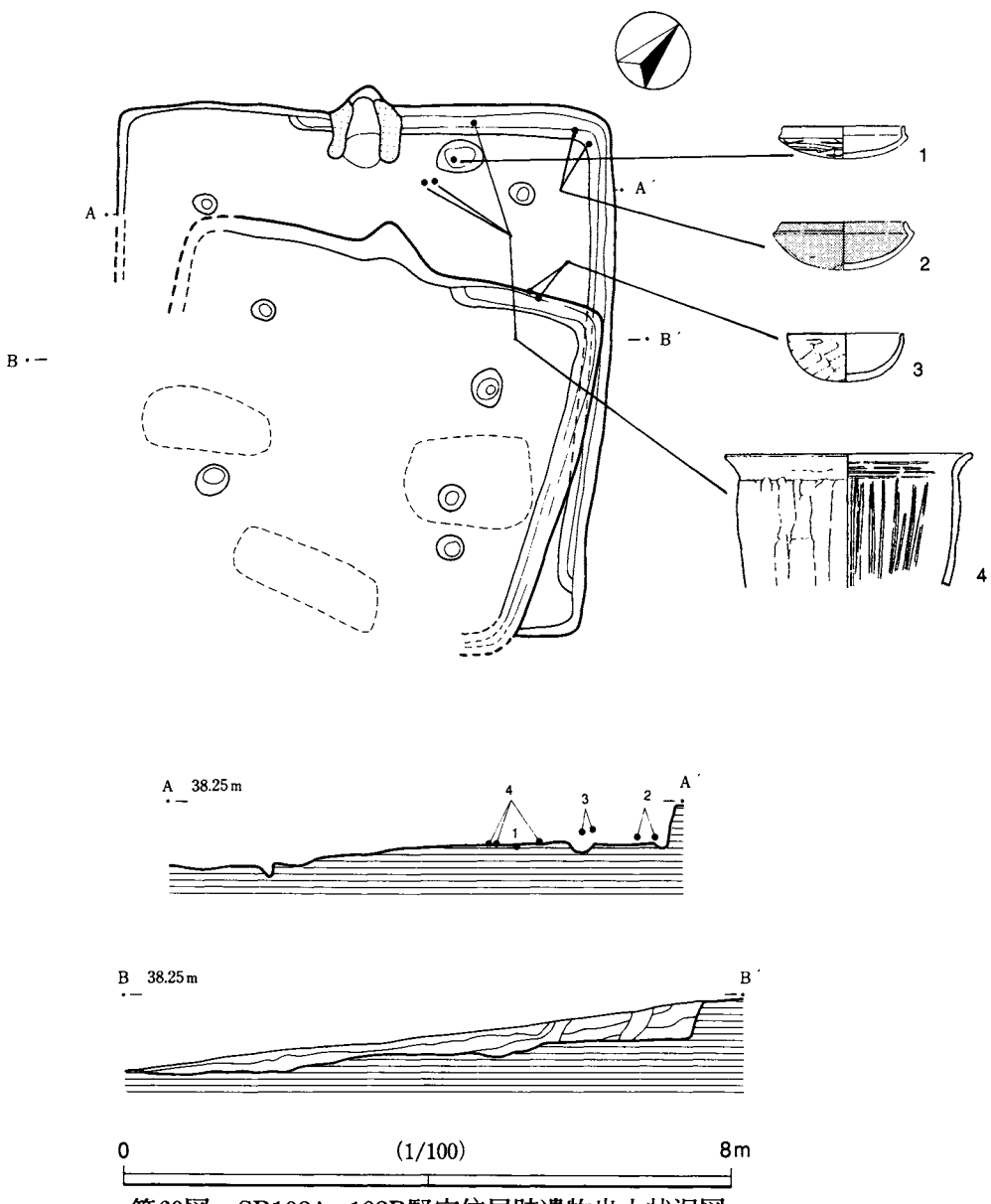
図示できた土器は6点で、すべて土師器である。杯（1・2）2点、高杯（3）1点、甕（4～6）3点である。土器以外の出土遺物は、支脚（26）1点のみである。出土遺物は3の高杯1点以外はカマド内に集中しており、4～6の甕3点、1・2の杯2点、支脚26の1点がカマド内から出土した。5・6の甕はカマド火床部分でお互いにもたれ掛かる状態で出土し、遺存度も完形に近い。また、5の甕の底部には、25の支脚が甕を支えるように直立した状態で出土した。4の甕は5・6の甕の下から細かな破片状になって出土した。1の杯は内外面黒色処理が施され、2の杯は内外面赤彩が施されている。3の高杯は貯蔵穴内から杯部のみ出土した。

ＳＢ148（第63図・図版25-3）

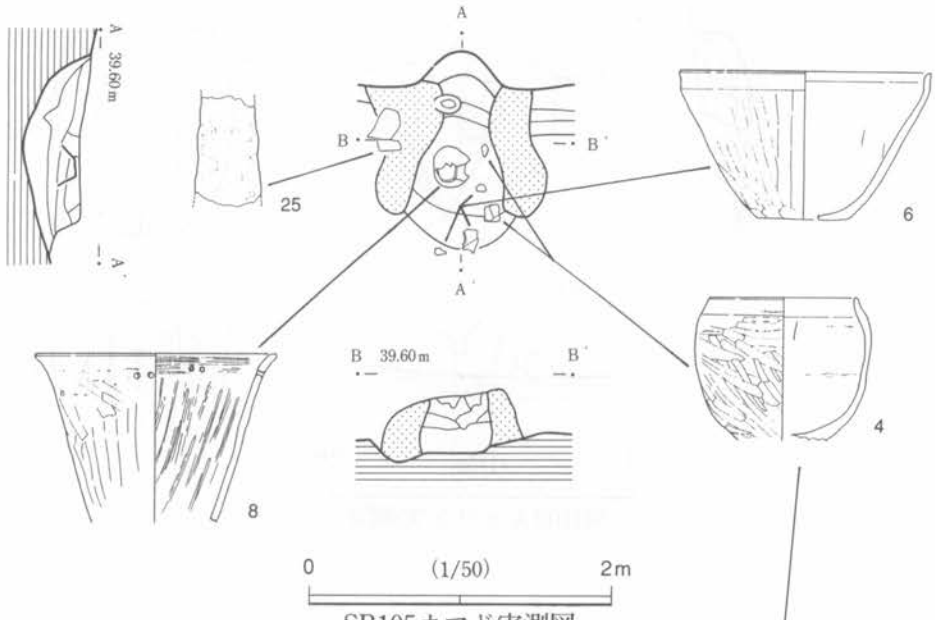
台地南端部で、支谷に面する緩斜面上（G6-41グリッド）に位置する。床面積は41.6㎡（推定）を測る比較的大型の竪穴住居跡といえる。本跡はカマド煙道部から南西コーナー部にかけて、中世に行われた整地（東側）のために削平されており、壁近くの床面までまったく遺存していなかった。本跡は焼失住居跡で、貼床された床面には多量の焼土と炭化材が検出された。床面は平坦で、硬質部と軟質部の区別が明瞭である。また、柱穴は4か所で、カマドと対面する壁際に梯子ピットが検出され、それぞれに柱痕が明瞭に認め



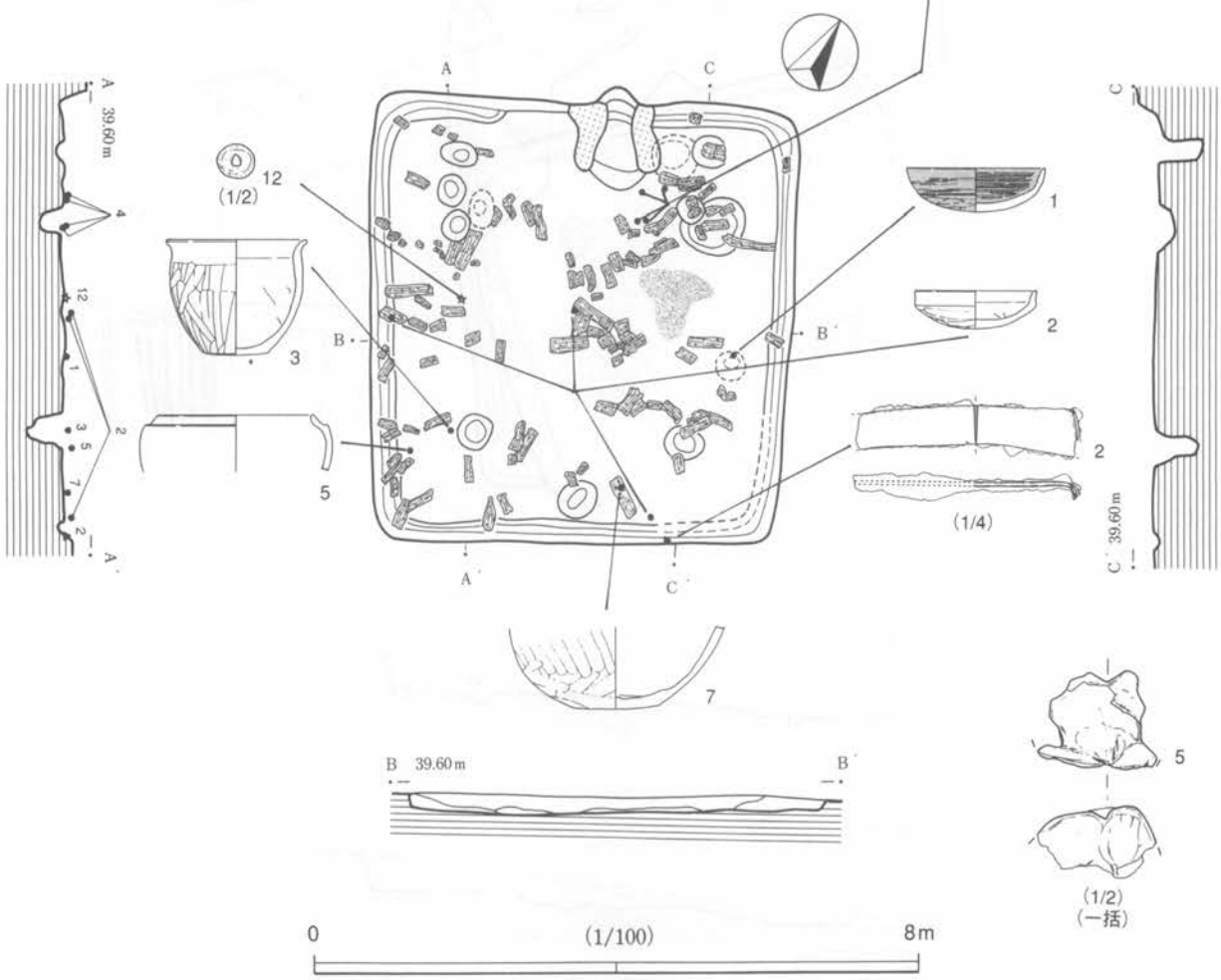
SB102Aカマド実測図



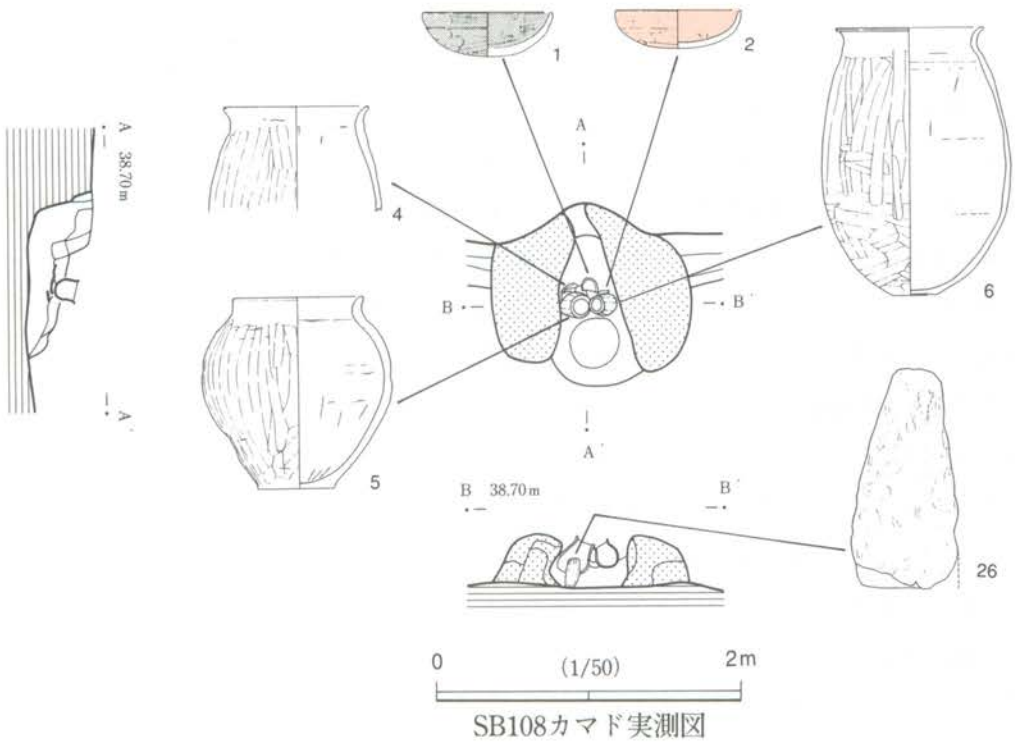
第60図　SB102A・102B竪穴住居跡遺物出土状況図



SB105カマド実測図



第61図　SB105竪穴住居跡遺物出土状況図



SB108カマド実測図

第62図　SB108竪穴住居跡遺物出土状況図

られた。

出土土器は多く、図示できたものは17点で、須恵器の出土はなく、すべて土師器である。17点の内訳は、杯（1～4・6・8・9）7点、椀（5・7・10・11）4点、鉢（12・13）2点、高杯（14・15）2点、甕（16）1点、甑（17）1点である。1・6は外面に稜を有する杯であるが、1は体部外面中位に稜を有し、内外面黒色処理が施されている。6は体部外面下位に稜を有し、稜から口縁部に緩やかに曲線を描きながら立ち上がる。内面には黒色処理が施されたような黒斑が一部で認められるが、全面摩耗が激しいため黒色処理の有無と調整方法も不明である。5の椀は口縁部が緩やかに外反し、底部にはヘラによる圧痕が認められる。7・10・11の椀はともに口縁部が内湾気味に立ち上がり、内外面に赤彩がそれぞれ施されている。12の鉢は雑な作りで、口縁部外面に輪積痕が明瞭に認められる。14・15の高杯はカマド左袖周辺から出土した。16の甕はカマド内火床部と焚口部にかけて出土した長胴気味の甕である。

その他の遺物としては、手捏土器（13・14）2点、カマド内からは支脚（31・32）2点が出土している。13は口辺部に2穴の穿孔が施されている。

ＳＢ150（第64図・図版26-2，3）

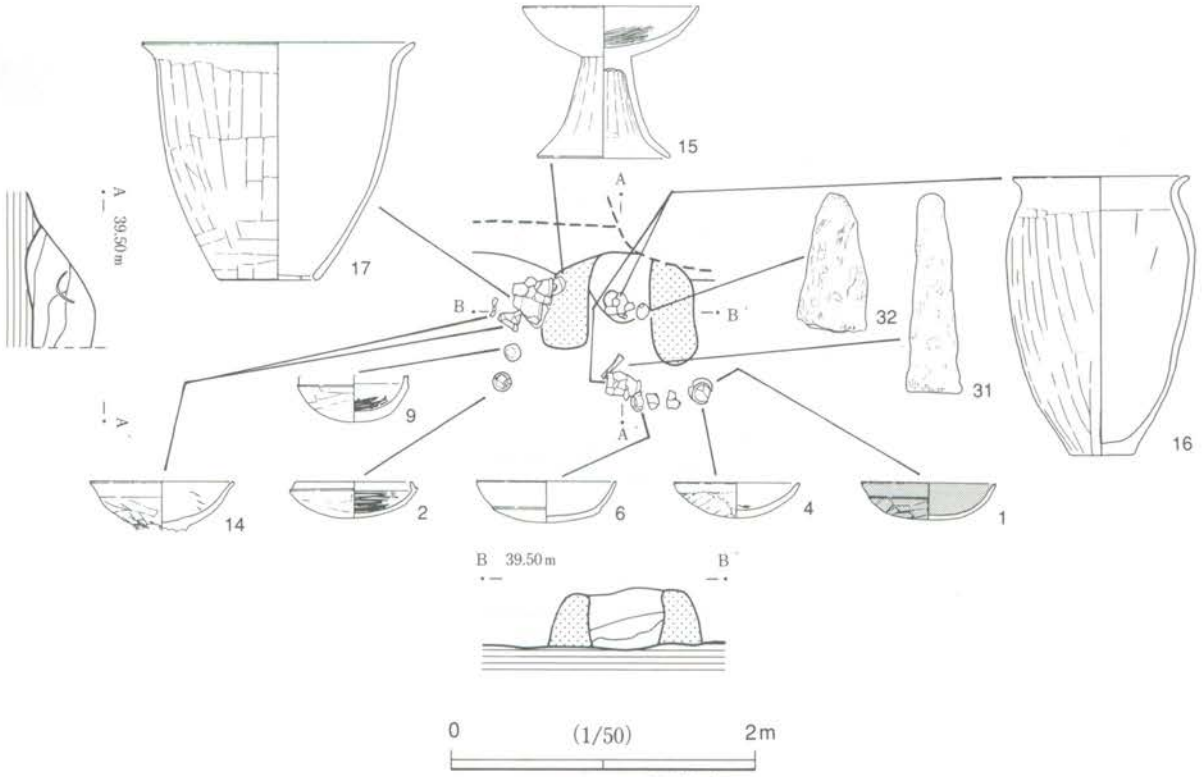
台地中央部の南側斜面に面した緩斜面上（Ｅ4-82グリッド）に位置する。カマド左袖部分から西側コーナーにかけては、壁・壁溝及び床面が削平されており、正確な床面積を計測することはできないが、復元してみると41.2㎡となり、比較的大型の竪穴住居跡といえる。柱穴は4か所で、カマドと対面する壁際に梯子ピットが検出されており、貯蔵穴はない。北側と南側の両コーナー部分で若干の焼土が認められた。また、梯子ピットと壁の間には若干のマウンドが認められた。床面は平坦で、硬質部と軟質部の区別が明瞭で、東側コーナー部分には間仕切り溝がある。

遺物の出土量はあまり多くないが、図示できた土器は11点で、須恵器を含めた完形の杯の出土が多い。11点中須恵器は3点で、杯（1～3）3点で、3点ともに完形である。残りの8点は土師器で、杯（4～8）5点、高杯（9）1点、鉢（10・11）2点で、甕・甑は出土していない。須恵器を含めた、1～8の杯は5と8を除けば完形品であり、すべてが床面からの出土である。1～3の須恵器はいずれもロクロ成形で底部は回転ヘラケズリ後にナデが施されている。4は内外面に黒色処理が施された、体部外面中位に稜を有する丸底の土師器杯であり、稜の部分からやや開き気味に口縁部に至る。内外面ともに丁寧なナデが施されている。8は摩耗が激しく、表面に若干の黒斑が残るのみで、黒色処理の有無は不明である。5～7の杯は3点ともに内外面黒色処理が施されている。本跡で図示できた土器はすべてが床面から出土したものである。土器以外の出土遺物はみられなかった。

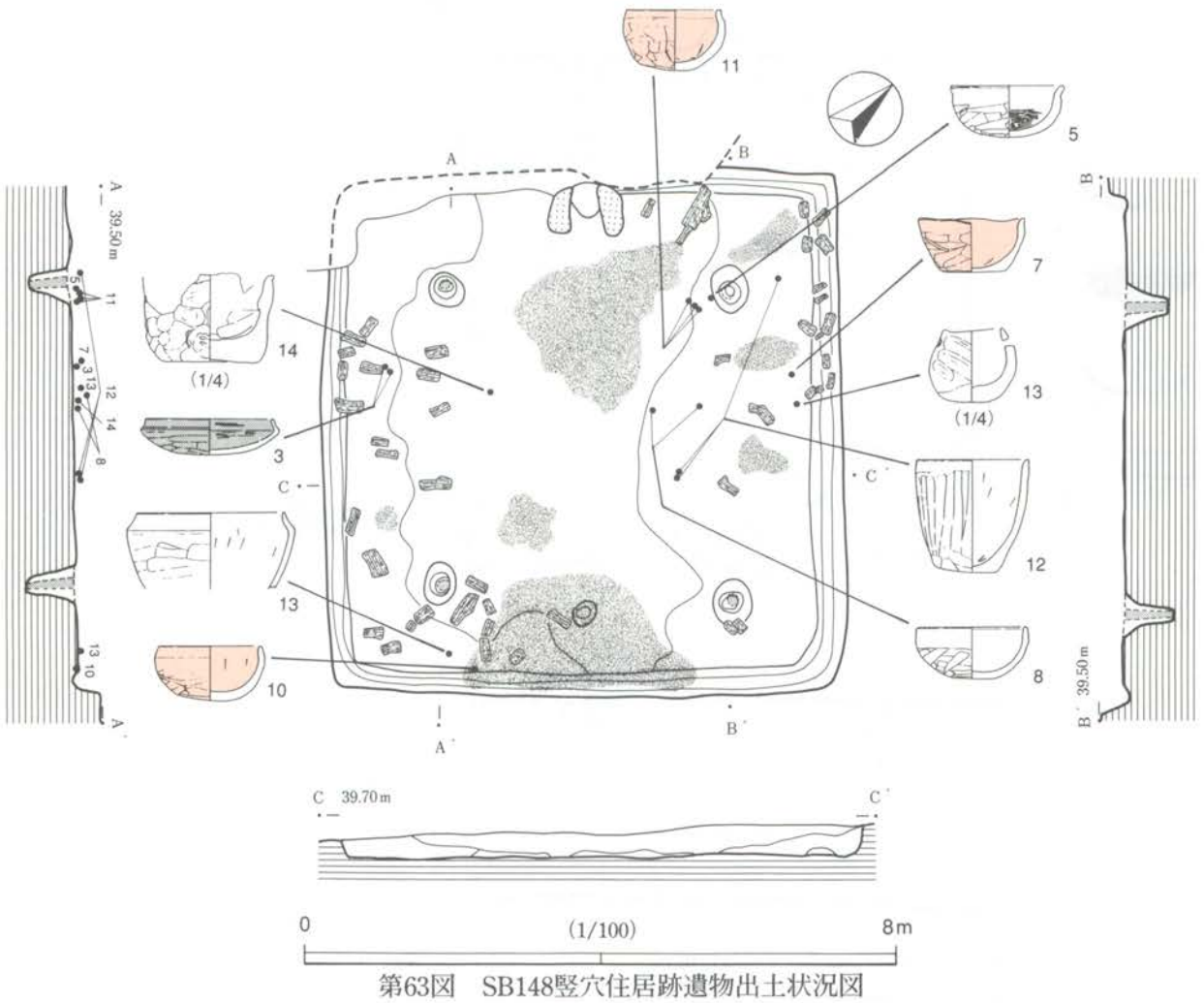
ＳＢ154（第65図・図版28-1）

台地中央平坦部（Ｅ4-87グリッド）に位置する。床面積は27.4㎡を測る中型の竪穴住居跡である。壁溝は東西の両コーナー部分で欠け、全周しない。柱穴が4か所で、カマドと対面する壁際に梯子ピットが検出された。床面は柱穴や梯子ピットの部分で、若干の高まりや浅い掘り込みがみられ凹凸があり、硬質部と軟質部の区別は明瞭である。

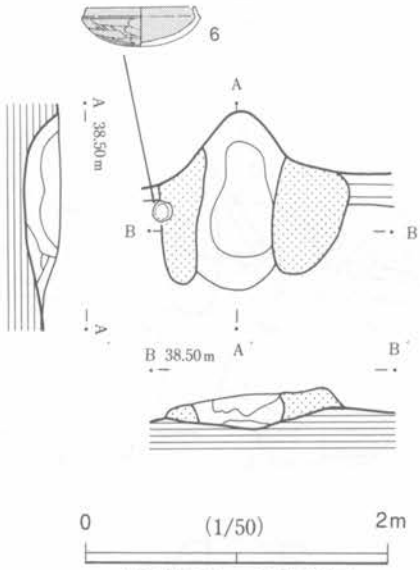
図示できた土器は11点で、11点中須恵器は5点で、蓋（1～3）3点、杯（4）1点、高杯（6）1点である。本遺跡で出土した須恵器の高杯は本跡出土の1点のみである。残りの6点は土師器で、杯（5）1点、高杯（7～9）3点、甕（10・11）2点である。1の須恵器蓋は断面三角形のつまみを有する。10・11の甕は、胴部か



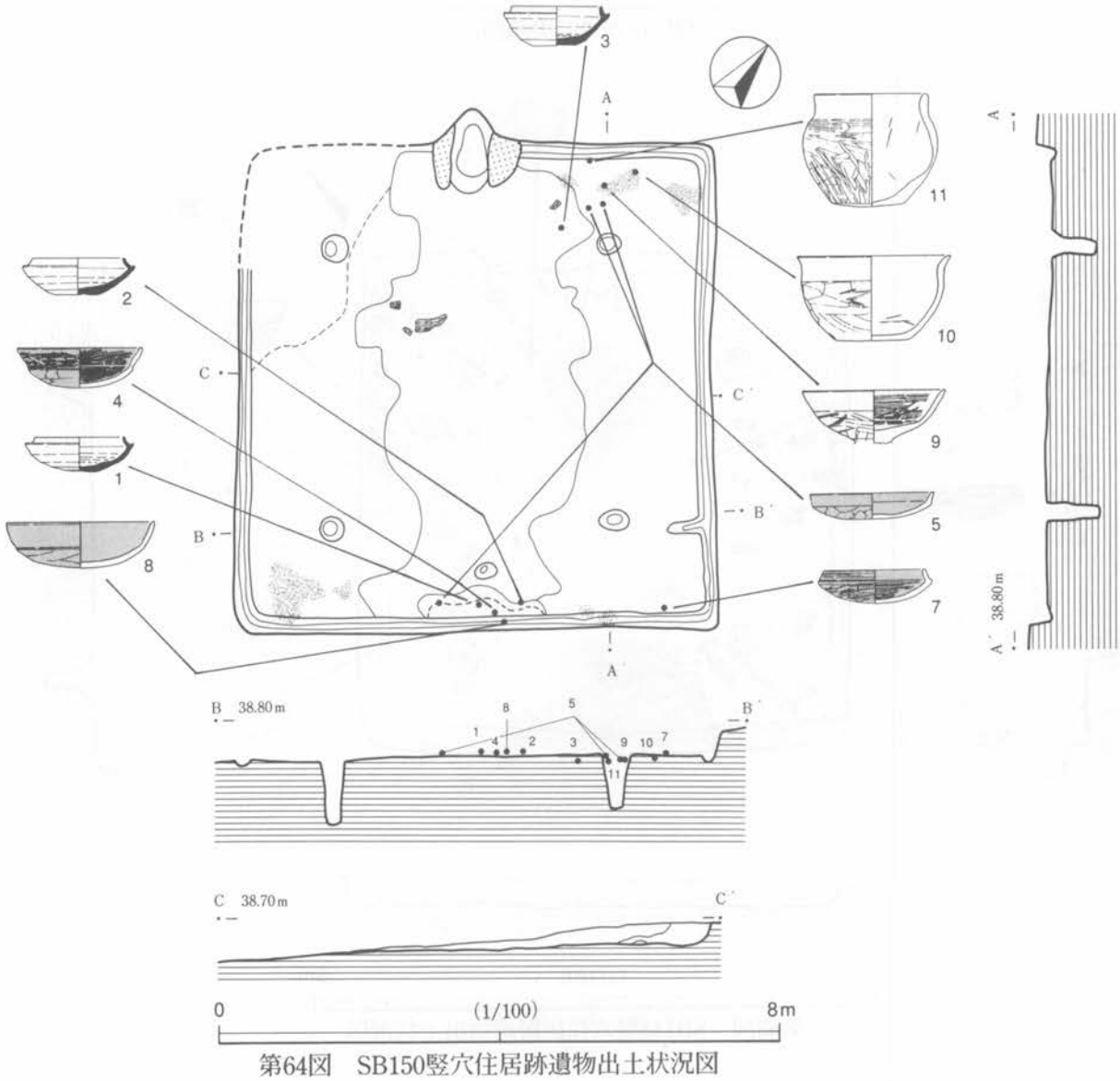
SB148カマド実測図



第63図　SB148竪穴住居跡遺物出土状況図



SB150カマド実測図



第64図　SB150竪穴住居跡遺物出土状況図

ら底部にかけてを欠損し、10は覆土一括である。

土器以外では棒状の用途不明の鉄製品25が1点、覆土上層から出土している。

ＳＢ163（第66図・図版30-3）

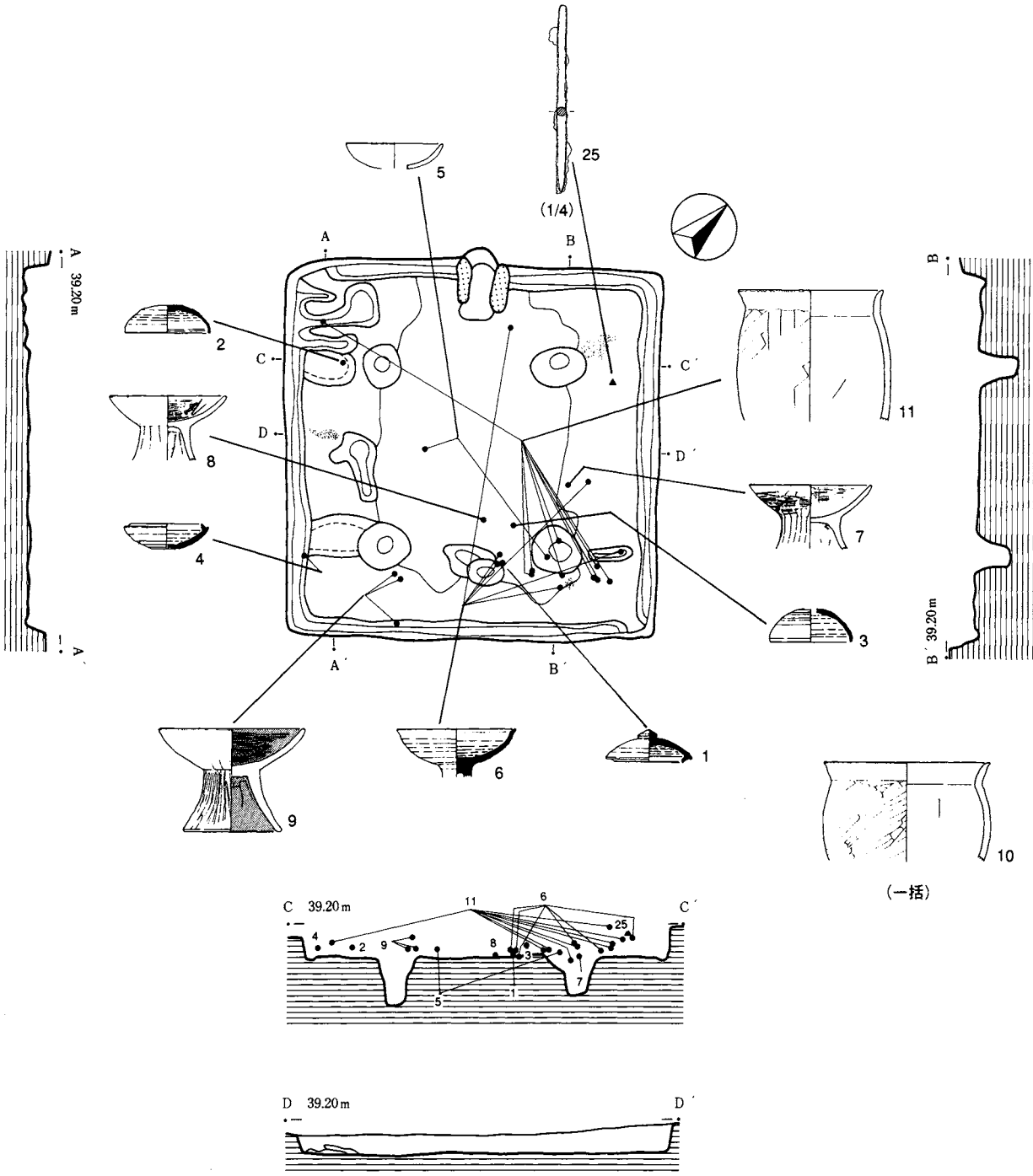
台地北東部やや北斜面寄りの平坦部（Ｆ4-47グリッド）に位置する。床面積は70.0㎡を測る大型の竪穴住居跡である。壁溝は全周し、カマド・炉・柱穴4か所・梯子ピット・貯蔵穴が検出された。貯蔵穴は竪穴住居構築時に掘り込んでいるが、覆土の状況からみると、すぐ埋め戻した痕跡が窺える。床面は柱穴や梯子ピットの周辺部分で若干の高まりが認められ、平坦ではない。また、東側コーナー部分には若干の焼土が確認された。本跡はカマドと炉を併用しており、カマドは一度破壊し、同一場所の壁下を15㎝程掘り込み、破壊したカマドの土を敷き詰めその上に再構築している。炉は竪穴住居跡のほぼ中央に構築しているが、焼土が少なく長期間にわたる使用は認められない。

出土遺物については土器以外の遺物も多彩で、特に土玉の出土数が多いのが特徴的である。また、土器の出土数も多く、図示できた土器は17点である。17点中須恵器は3点で、蓋（1・2）2点、杯（3）1点である。残りの14点は土師器で、椀（4）1点、鉢（5）1点、坩（6）1点、高杯（7・8）2点、甕（9～15・17）8点、甑（16）1点で、土師器の杯は出土しておらず、甕の点数が多い。1・2の須恵器蓋は、ともに天井部外面に、3の須恵器杯の底部には、回転ヘラケズリが施されている。4は椀の底部で、丸底の底部外面は横方向のヘラケズリが施されているが、ケズリの向きが右→左・左→右とバラバラになっている。6の坩は頸部の対角線上2か所に穿孔がある。7・8の高杯は脚部のみである。9～15・17の8点の甕は全体的に遺存状態はあまり良くない。土器以外の遺物としては、土玉（51～86）36点、勾玉（3・4）2点、手捏土器（16）1点、土製品（7）1点、玉類（17）1点、刀子（4）1点、鉄鏃（12～14）3点である。土玉の出土状況は平面図でみる限り、集中している箇所はなく、エレベーション図をみても覆土上層から床面まで満遍なく出土している。なお、土玉86は住居間接合で、本跡より南西へ約20m隔たっているＳＢ165の竪穴住居跡覆土下層出土の土玉と接合した。81は赤彩された土玉で、赤彩は全面（穿孔内部）に及んでいる。3の勾玉は外面に赤彩が施され、床面から、4の勾玉は覆土中層からそれぞれ出土している。16の手捏土器は覆土下層から、17の玉は土製で覆土中層から、7の用途不明の土製品は床面から、13の鉄鏃は腸抉長三角形式で床面から、また、4の刀子は刃先の部分で、覆土中層からそれぞれ出土している。

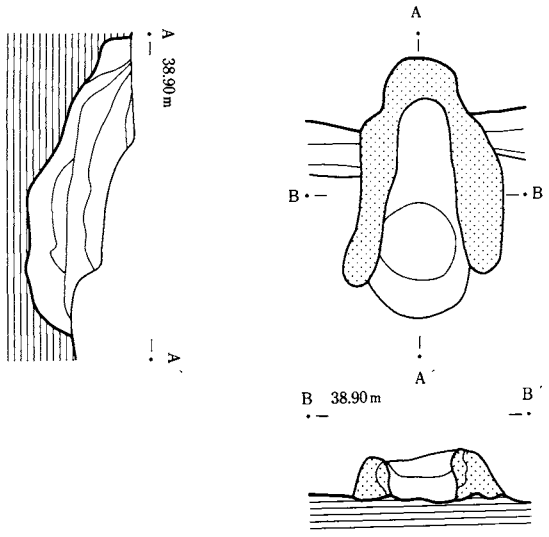
ＳＢ168（第67図・図版32-2，3）

台地中央部からやや南東寄り平坦部で北斜面貝層保存区域に面するよう（Ｅ4-39グリッド）に位置する。床面積は28.0㎡を測る中型の竪穴住居跡で、ＳＢ201を切っている。壁溝は全周せず掘り方も不良である。カマド・柱穴4か所・梯子ピットは検出されたが、貯蔵穴はない。カマドは深く削平されているために、床面から10㎝程度遺存するのみであった。床面は若干の凹凸があり平坦ではなく、硬質部と軟質部が明瞭に確認され、焼土も3か所に認められた。

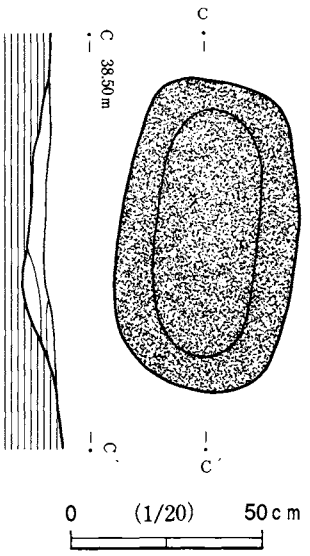
出土遺物は少なく、図示できた土器は2点のみで、カマド周辺に集中していた。1の鉢、2の甕がカマド左袖脇の床面から出土した。1は外面に二次的に火を受け、若干の剥離と炭素吸着が土器の断面部まで認められる。2は長胴で底部周辺は磨滅が激しく、ケズリの方向や単位は不明である。口縁部外面や胴部内面にはヘラ痕が数か所にみられる。また、胴部下半の欠損部断面には分割成形の接合痕とみられる擬口縁が確認できる。土器以外の遺物は、支脚（38～41）4点、土玉（93）1点、鉄鏃（15）1点が出土している。93の土玉は覆土一括、15の鉄鏃は柄の部分で身の形態は不明で、覆土上層から出土している。



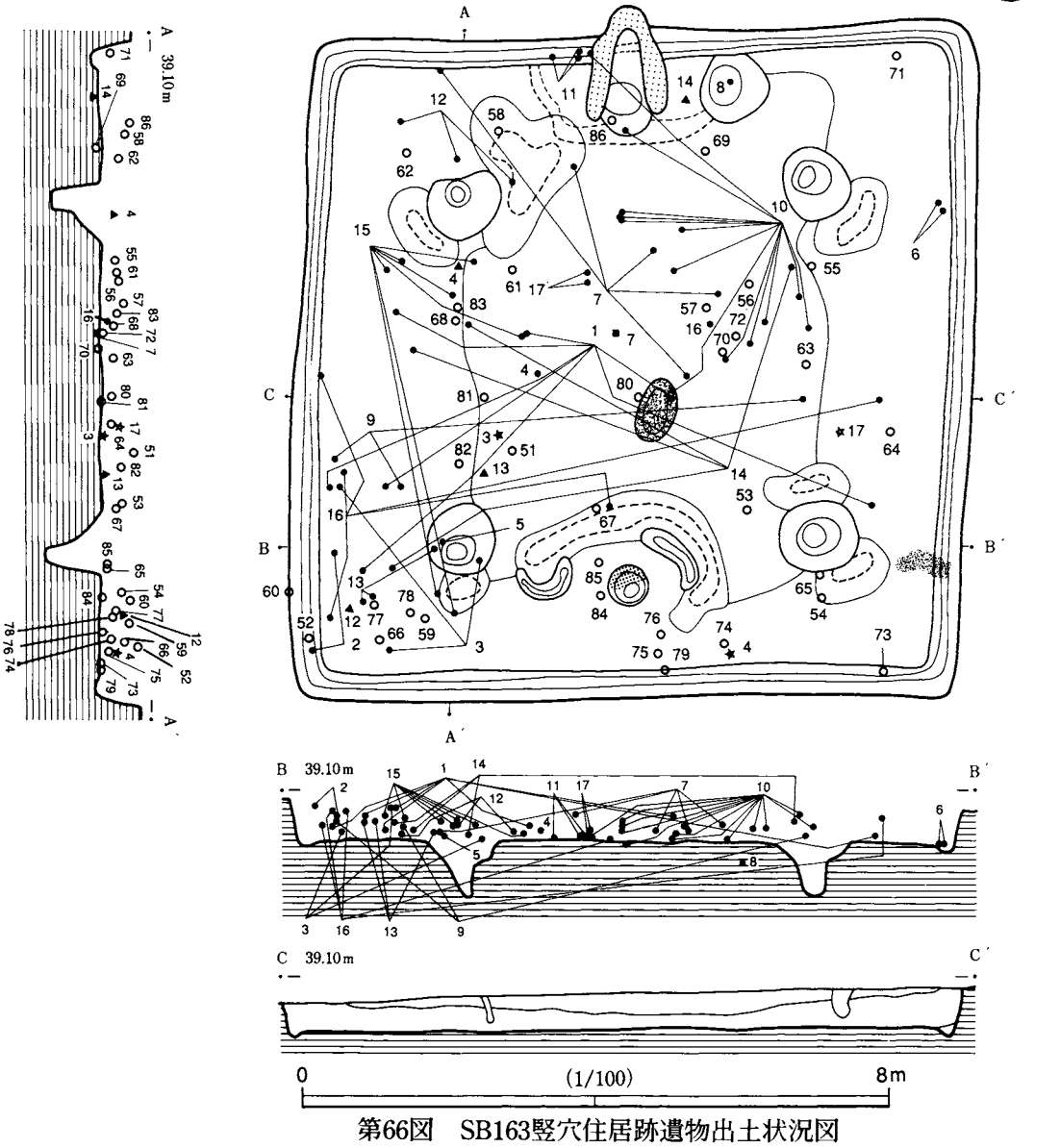
第65図　SB154竪穴住居跡遺物出土状況図



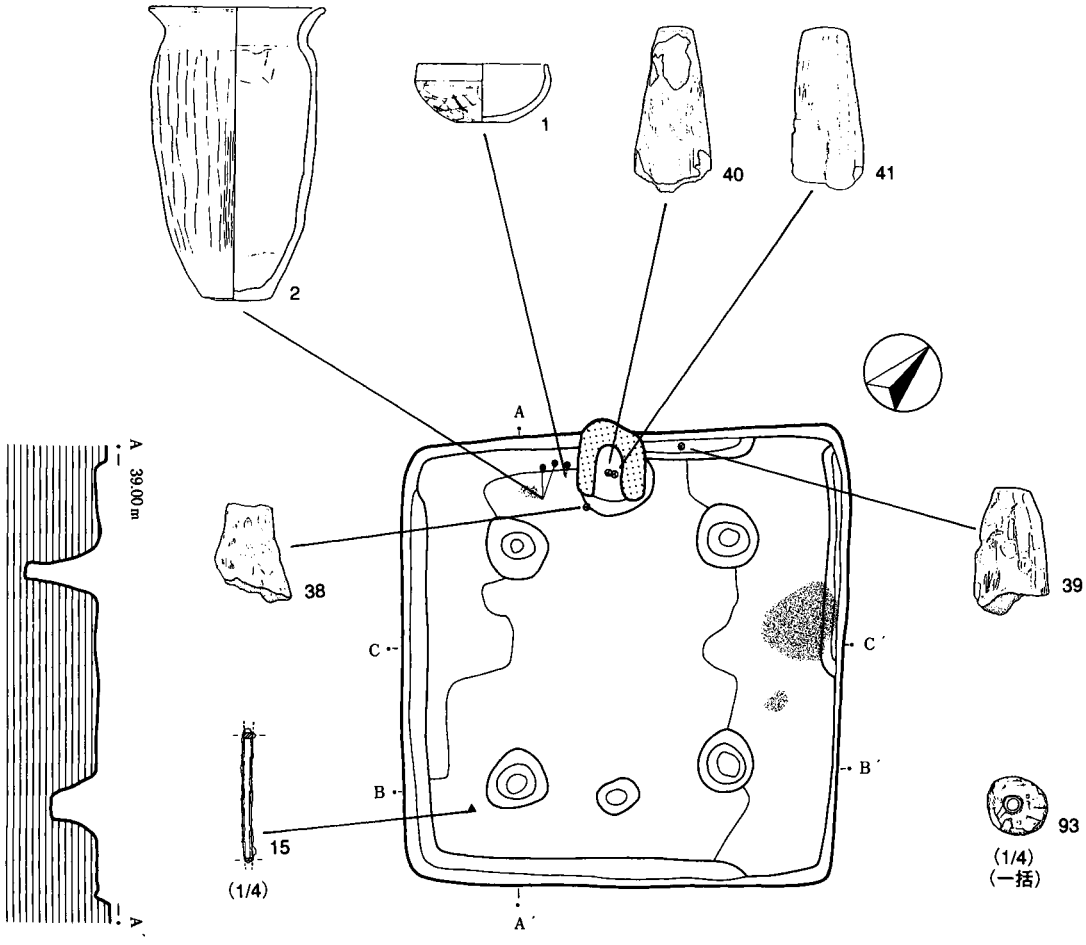
SB163カマド実測図



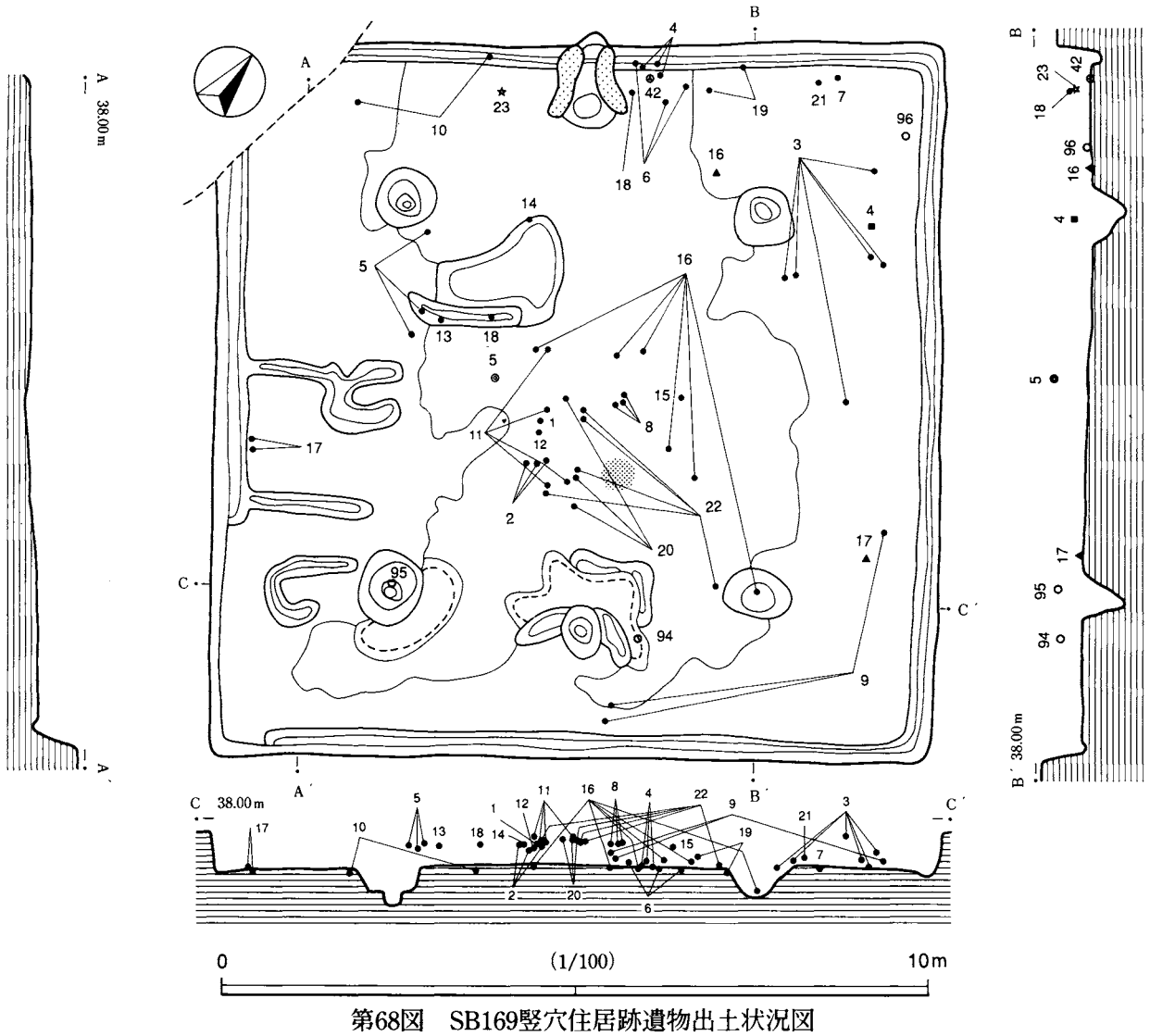
SB163炉実測図



第66図　SB163竪穴住居跡遺物出土状況図



第67図　SB168竪穴住居跡遺物出土状況図



第68図　SB169竪穴住居跡遺物出土状況図

ＳＢ169（第68図・図版33-1）

台地中央の平坦部で北斜面貝層保存区域に面するよう（D3-89グリッド）に位置している。本跡の西側コーナー部分は撹乱を受けているが、床面積は91.3m²を測り、本遺跡で検出された竪穴住居跡の中では最も大型で、ＳＢ183を切っている。壁溝は南コーナー部ではなく、東側は浅い。カマド・柱穴4か所・梯子ピットは検出されたが、貯蔵穴はない。床面は硬質部と軟弱部が明瞭で、梯子ピットと柱穴Ｐ3周辺では3cm～4cmの高まりが、柱穴Ｐ4近くには長方形状の浅い窪みがそれぞれ確認されており、凹凸が大きい。床面内で壁溝以外に確認された溝4条は、間仕切りのための溝かどうかは不明である。また、床中央部分では粘土が検出されている。

出土遺物は多く、図示できた土器は22点を数えるが完形品は1点しかなく、遺存度が低いものが多い。22点中須恵器は3点で、蓋（1）1点、杯（2）1点、壺（10）1点である。残りの19点は土師器で、杯（3～8・14）7点、椀（9）1点、鉢（11）1点、高杯（12・13・15）3点、甕（16～21）6点、甑（22）1点である。2の須恵器杯は底部回転ヘラケズリ後手持ちのナデを施し、体部外面には2か所のヘラ痕がある。完形であるが歪みが大きい。5の土師器杯は覆土上層から出土した。内外面ともに丁寧なヘラミガキが施され、漆を塗ったハケ目のような同心円状の痕跡がある。8は内外面黒色処理が施され、内外面とも丁寧なミガキが施

されていて、覆土上層から出土した。9は椀で覆土下層から、10は須恵器壺の口縁部で床面から、11は鉢で覆土上層から、それぞれ出土した。12・13・15の高杯は脚部のみ残存しており、3点ともに覆土上層から出土した。16～21の甕の中では、16以外は遺存度が悪い。22は甑で床面から出土した。

その他の遺物では、手捏土器（18）1点、支脚（42）1点、土製品（4）1点、土玉（94～96）3点、紡錘車（5）1点、玉類（23・24）2点がそれぞれ出土した。鉄製品では鉄鏃（16・17）2点が出土し、16は腸抉長三角形式、17は片刃形式である。

ＳＢ171（第69図・図版33-3）

台地中央やや南側斜面寄りの平坦部（D4-49グリッド）に位置する。床面積は32.9㎡を測る中型の竪穴住居跡である。壁溝は全周せず、間仕切り溝が北東壁から柱穴方向へ2条確認された。カマド・柱穴4か所・梯子ピット・貯蔵穴が確認され、遺物の出土は貯蔵穴内及び周辺と梯子ピット周辺の2か所に集中していた。また、床面には炭化材が若干認められた。本跡の確認面から床面までの掘り方は浅く、南西壁では立ち上がりがやっと確認できた状態である。

図示できた土器は、13点で、すべて土師器である。内訳は杯（1～4）4点、鉢（5・6）2点、甕（7～12）6点、甑（13）1点で、9の甕以外は、床面及び貯蔵穴内からの出土である。貯蔵穴の平面プランは円形で、深さ56cmを測り、この覆土内からは1・2・4・6の4点の土器が出土した。2・4と床面出土の3の杯の3点は外面に稜を有する杯である。2は底部丸底で体部中位に稜を有し、やや開き気味に口縁部へ至る。外面は黒色処理で丁寧なミガキが施されている。3は貯蔵穴内出土ではないが、すぐ近くの床面から出土した体部中位に稜を有し、内外面に黒色処理を施した土師器杯である。全面は丁寧なミガキが施されていたようだが、器面の摩耗が激しく詳しくは不明である。丸底気味の底部には線刻が認められる。4は底部周縁部に稜を有する内外面に黒色処理を施した土師器杯である。稜はヘラで削り出し、その後丁寧なミガキが施されている。5の鉢は貯蔵穴近くの床面から出土した。甕6点中11の甕だけが完形である。13は甑で、頸部外面に耳状突起が3か所認められた。この耳状突起は粘土を丸めて貼り付け、つまみ上げるようにして形を作り上げている。3か所認められた耳状突起の間隔からして、頸部を全周復元すると7か所に耳状突起が配されることになる。この耳状突起は後の甑にみられる把手の用途とは異なり、装飾的用途が強いと思われる。

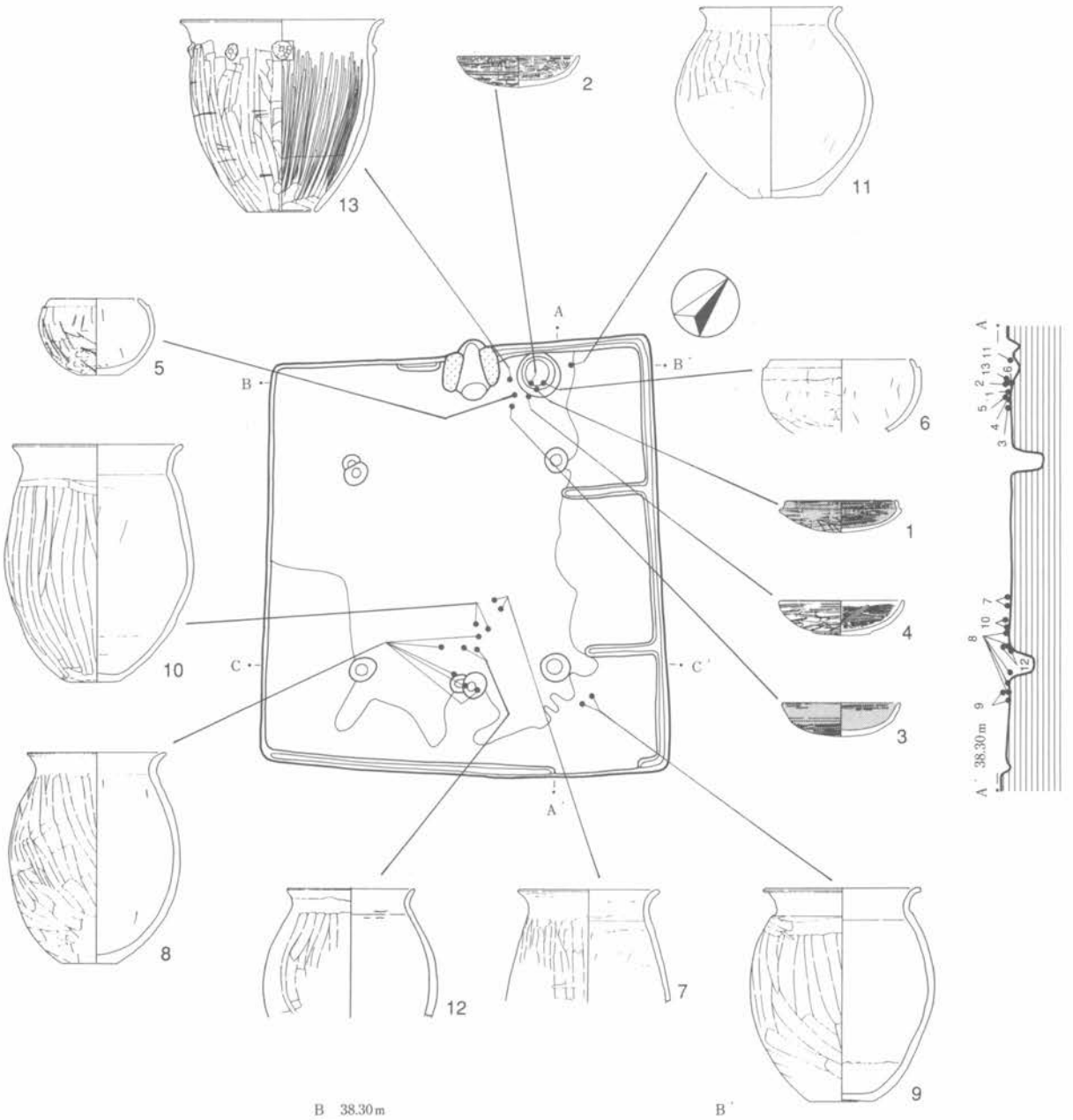
ＳＢ188（第70図・図版34-2）

台地中央の北斜面貝層保存区域に近接（E3-83グリッド）して位置し、ＳＢ198とＳＢ206を切っている。本跡北コーナー部分で貝層保存区域にかかったがかろうじて全掘することができた。床面積は22.0㎡を測る中型の竪穴住居跡である。壁溝は全周し、カマド・柱穴4か所・梯子ピット・貯蔵穴を検出した。梯子ピット周辺には土の高まりがみられる。床面は若干の凹凸があるが、硬質部と軟質部が明瞭に区別できる。

遺物の出土数は少なく、図示できた土器は4点で、すべて須恵器である。いずれも覆土下層から出土した。内訳は蓋（1～3）3点、高台付の杯（4）1点である。3は工具による放射状の圧痕がみられ、ＳＢ038竪穴住居跡の床面から出土した須恵器蓋（3）と住居間接合した。また、ＳＢ038竪穴住居跡の覆土下層から出土した須恵器杯（4）の蓋となる。4の高台付の杯は底部が高台端部より突出するタイプのものである。土器以外の遺物は、土玉（98～102）5点、ミニチュア土器と思われる土製品（8）が覆土一括で1点、砥石（7）が床面から1点それぞれ出土した。

ＳＢ189（第70図・図版34-3）

台地中央の北斜面貝層保存区域内（E3-71グリッド）に位置し、ＳＢ198とＳＢ206を切っている。貝層保



第69図　SB171竪穴住居跡遺物出土状況図

存区域のため未掘部分が多く、遺構全体の様相はつかめない。床面には壁溝と溝が2条平行してみられるため、建替え住居跡の可能性もある。

少ない遺物の中で図示できた土器は4点で、須恵器は蓋（1・2）2点、残りの2点は土師器で、杯（3）1点、甕（4）1点である。この4点の内、床面から出土した土器は1のみである。3の杯は底部が斜めに削られている。土器以外の出土遺物は、土玉（103～106）が4点で、104・106は赤彩が施されている。手捏土器（19）が1点で、内外面に赤彩が施されている。鉄製品では鉄鏃（18・19）が2点で、ともに身の部分は欠損しており形態は不明である。また、覆土中より炭化種子（不明）1点が出土した。

ＳＢ198（第70図）

台地中央の北斜面貝層保存区域内（E3-73グリッド）に位置し、ＳＢ206を切り、ＳＢ188とＳＢ189に切られている。貝層保存区域のため未掘部分が多く、竪穴住居跡の全様は不明であるが、ＳＢ189竪穴住居跡床面下からかろうじて壁溝部分を検出した。

出土遺物は少なく、図示できた土器は3点の土師器のみで、ともに覆土中層から出土した。内訳は杯（1，2）2点、鉢（3）1点である。1は約半分を欠損する杯である。2は内面に口縁部を除いてナデ後に大変丁寧なヘラミガキが施されている。3は底部平底で、ヘラケズリ後ナデが若干みられるが、器面が荒れているため不明な点が多い。土器以外の出土遺物は、紡錘車（6）が1点覆土一括で、玉類（25）が1点床面から、鉄鏃（20）が1点覆土下層からそれぞれ出土した。20の鉄鏃は柄の部分のみで身の形態は不明である。

ＳＢ206（第70図）

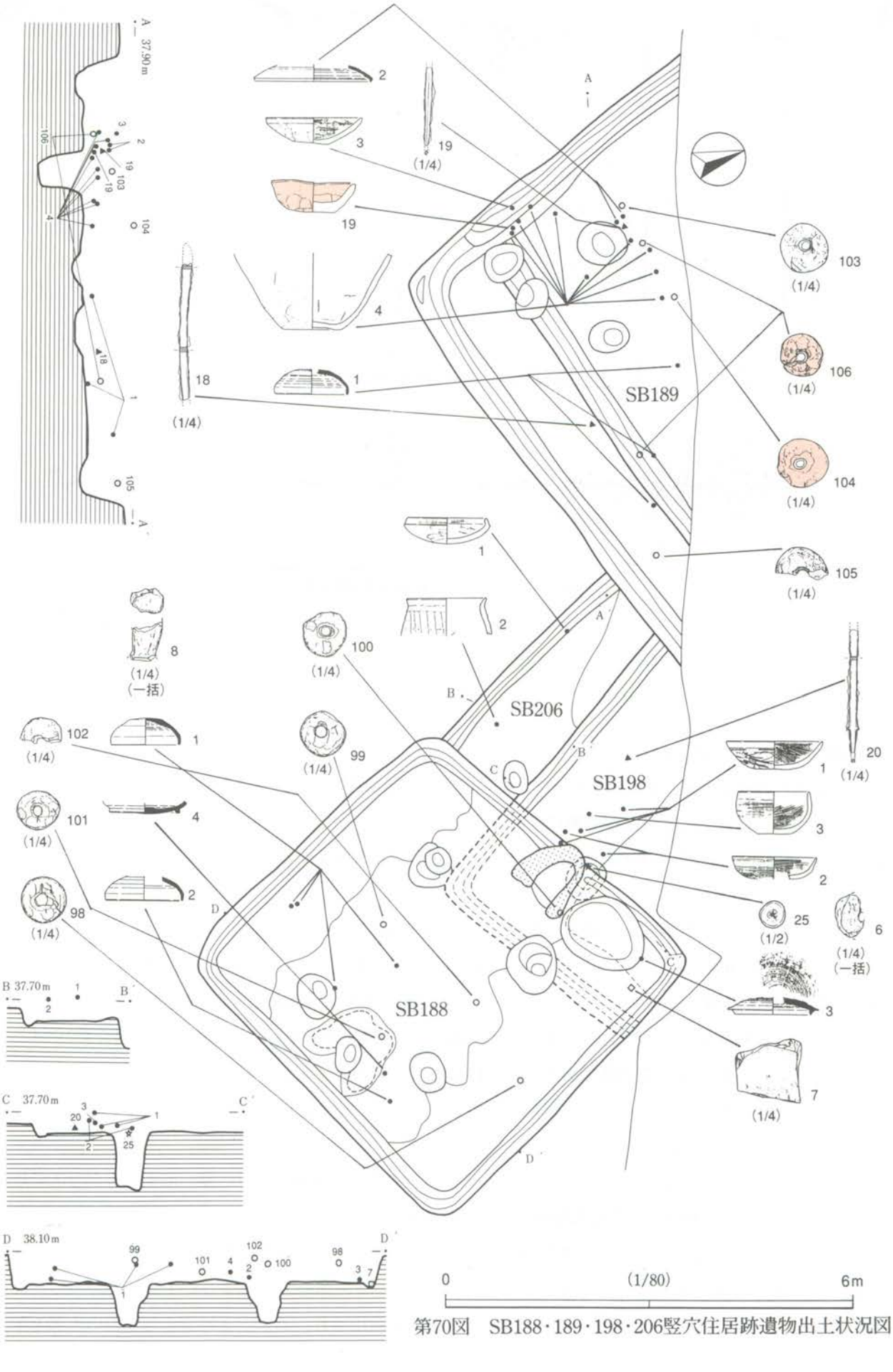
台地中央の北斜面貝層保存区域内（E3-72グリッド）に位置し、ＳＢ188・ＳＢ189・ＳＢ198に切られており、床面と壁の一部がかろうじて遺存するのみである。

図示できた土器は杯（1）1点、甕（2）1点の2点のみで、覆土上層から出土した。土器以外の出土遺物はない。

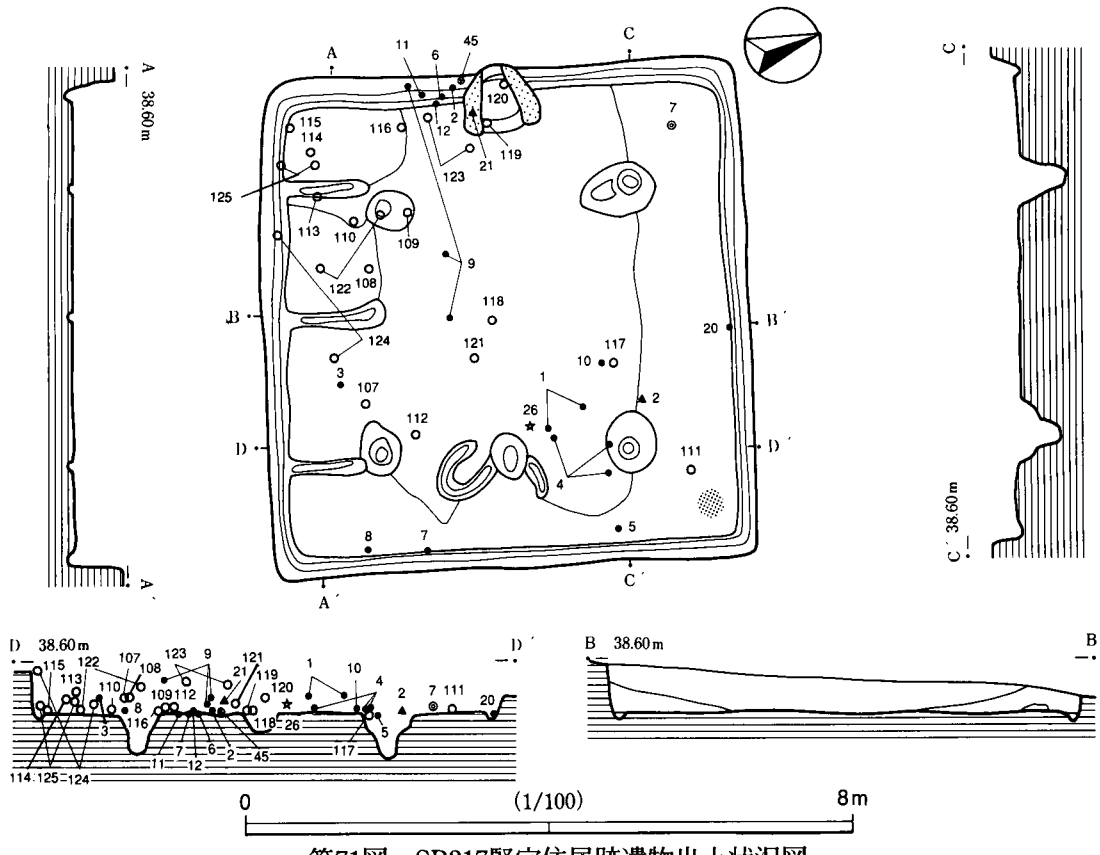
ＳＢ217（第71図・図版36-2，3）

台地北東の北側斜面に面した緩斜面上（G4-11グリッド）に位置する。住居の主軸方向をN73° Wにとり、本遺跡検出竪穴住居跡中最も西に傾いている。床面積は34.3㎡を測る中型の竪穴住居跡である。壁溝は全周し、3条の間仕切り溝と梯子ピット周辺に溝が検出された。床面は平坦で硬質部と軟質部が明瞭に区別できた。また、東側コーナー部分では粘土塊が検出された。

出土遺物は多く、図示できた土器は12点で、須恵器は蓋（1）1点のみである。残りの11点は土師器で、杯（2～4）3点、鉢（5）1点、椀（7）1点、甕（6・8～12）6点である。1の須恵器蓋は内外面の摩耗が激しい。2の外面はミガキのようなナデ痕があり、内面はヘラ痕が多数みられる。3は内外面に黒色処理を施されている。4は覆土下層から出土した。7の椀の外面はヘラケズリの単位が明瞭で輪積痕もはっきりみえるなど、調整は雑である。ただし、ヘラケズリ部分の所々に光沢をもった平滑な面がある。11・12の甕は完形及びほぼ完形に近く、カマド左袖脇に置かれるような状態で出土した。土器以外の出土遺物も多く、土玉（107～125）19点、土製紡錘車（7）1点、土製管玉（26）1点、手捏土器（20）1点、支脚（45）1点、鉄製品では、鉄鏃（21）1点、刀子（9）1点が出土した。中でも土玉の出土数が多く特徴的である。117・118の土玉は外面赤彩である。45の支脚はカマド左袖脇から、20の手捏土器は北側壁溝床面から、7の土製紡錘車は覆土下層から、26の土製玉は梯子ピット付近の覆土下層から、それぞれ出土した。21の鉄鏃は身の部分で、形態は片刃である。



第70図　SB188・189・198・206竪穴住居跡遺物出土状況図



第71図　SB217竪穴住居跡遺物出土状況図

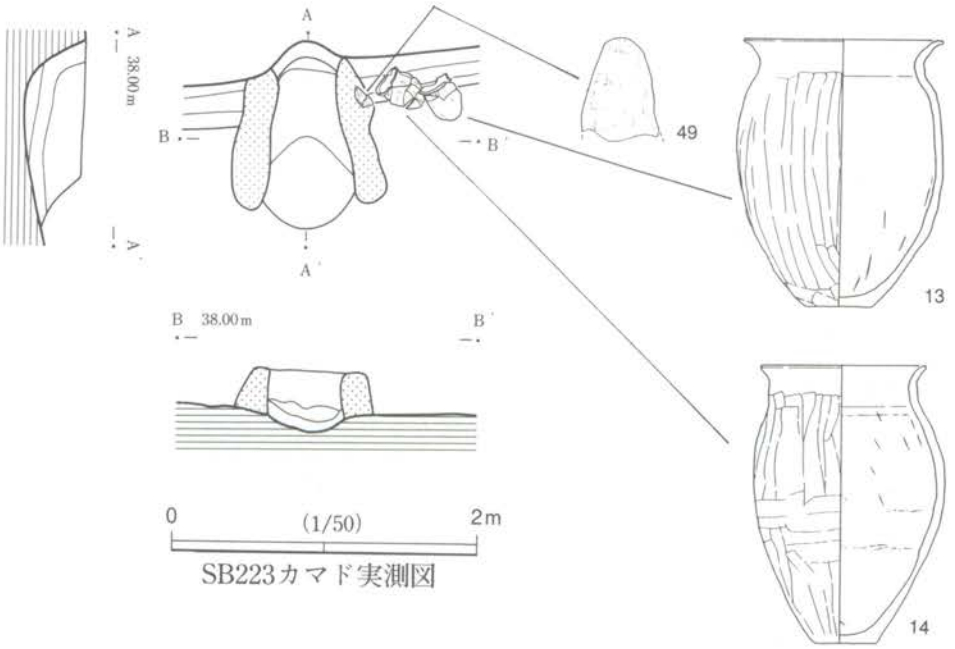
ＳＢ223（第72図・図版39-2）

台地東端部の緩斜面上（H4-54グリッド）に位置する。床面積は28.5㎡を測る中型の竪穴住居跡である。床面は平坦で、硬質部と軟質部が明瞭に区別できた。壁溝は全周し、間仕切り溝が4条検出された。柱穴は4か所・梯子ピットは検出されたが貯蔵穴はない。確認面から床面までの掘り方は東側で浅く、最底で2.2cmである。

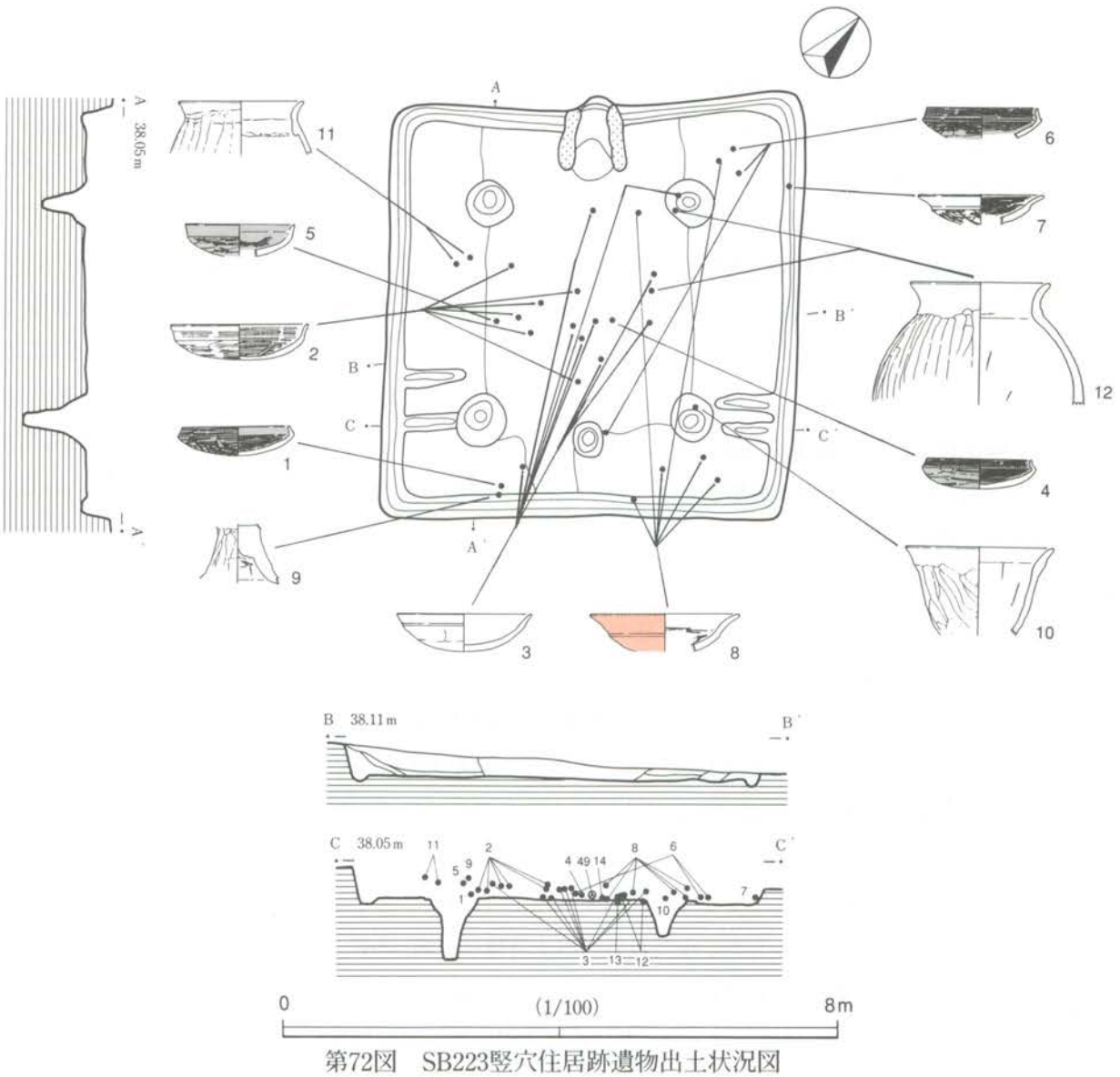
出土遺物は、カマド右袖部から出土した支脚（49）1点以外はすべて土師器である。図示できた土器は14点で、杯（1～6）6点、高杯（7～9）3点、鉢（10）1点、甕（11～14）4点である。杯の5以外は床面出土である。4の杯底部外面にはヘラによる線刻が施されている。また、内外面ともに器面の摩耗が激しい。8の高杯は外面に赤彩が施され、床面から出土した。10は鉢で、覆土下層から出土した。13・14の甕2点はカマド右袖脇に寝かされるような状態で出土した。13は最大径が胴部にあり、若干丸味を帯びている。内面にはヘラ痕が数か所みられる。14は最大径が胴部中位にあるが、やや長胴気味である。

ＳＢ229（第73図・図版40-3，41-1）

台地東端の平坦部（H4-71グリッド）に位置する。近世の陥穴状遺構により、壁・床面等を部分的に破壊されている。床面積は66.6㎡を測る大型の竪穴住居跡である。床面は硬質部と軟質部が明瞭に区別できないが、間仕切り溝で仕切られた部分では若干の踏みしめが認められるものと、まったく認められないものとがある。壁溝は全周せず東側壁中央部でなくなり、北側コーナー部分では壁より若干間隔をおいて設けられ、幅は広いが浅い。柱穴は4か所・梯子ピット・貯蔵穴が検出され、カマドと対面する壁の中央部を床面



SB223カマド実測図



第72図　SB223竪穴住居跡遺物出土状況図

まで方形に掘り込んだ入口施設が設けられている。

出土土器は図示できたものが10点で、すべて土師器であった。内訳は杯（1～7）7点、高杯（8・9）2点、甕（10）1点である。杯7点のうち、2・3を除いた残り5点は内外面に黒色処理を施している。また、5・7は体部外面下位に稜を有する杯で、5は底部に近い部分に稜を持ち、丁寧なミガキが全面に施されており、竪穴住居跡東側コーナー部分の覆土中層から出土した。底部は平底風丸底である。7は器面の摩耗が激しく、調整がはっきりしないが、黒色処理は5の杯よりも明瞭で、内面には回転を利用して漆をハケで塗ったような痕跡が認められる。底部は平底風丸底である。8・9は高杯で遺存状態はあまり良くない。8は杯部で内外面に、9は脚部で外面にそれぞれ赤彩が施されていて、覆土下層から出土した。10はほぼ完形の甕であるが全体的に歪みが大きく、口縁部が波を打っている。10はカマド左袖付近の壁溝上から出土した。土器以外の出土遺物は、手捏土器（22・23）2点、土製紡錘車（8）1点、土製勾玉（8）1点、鉄製品では手鎌（1）1点である。手捏土器22は覆土下層から、また、23は床面から出土した。土製紡錘車8は床面から、土製勾玉8は覆土下層から、手鎌1は柱穴Ｐ4の覆土内からそれぞれ出土した。

ＳＢ230（第74図・図版41-2，3）

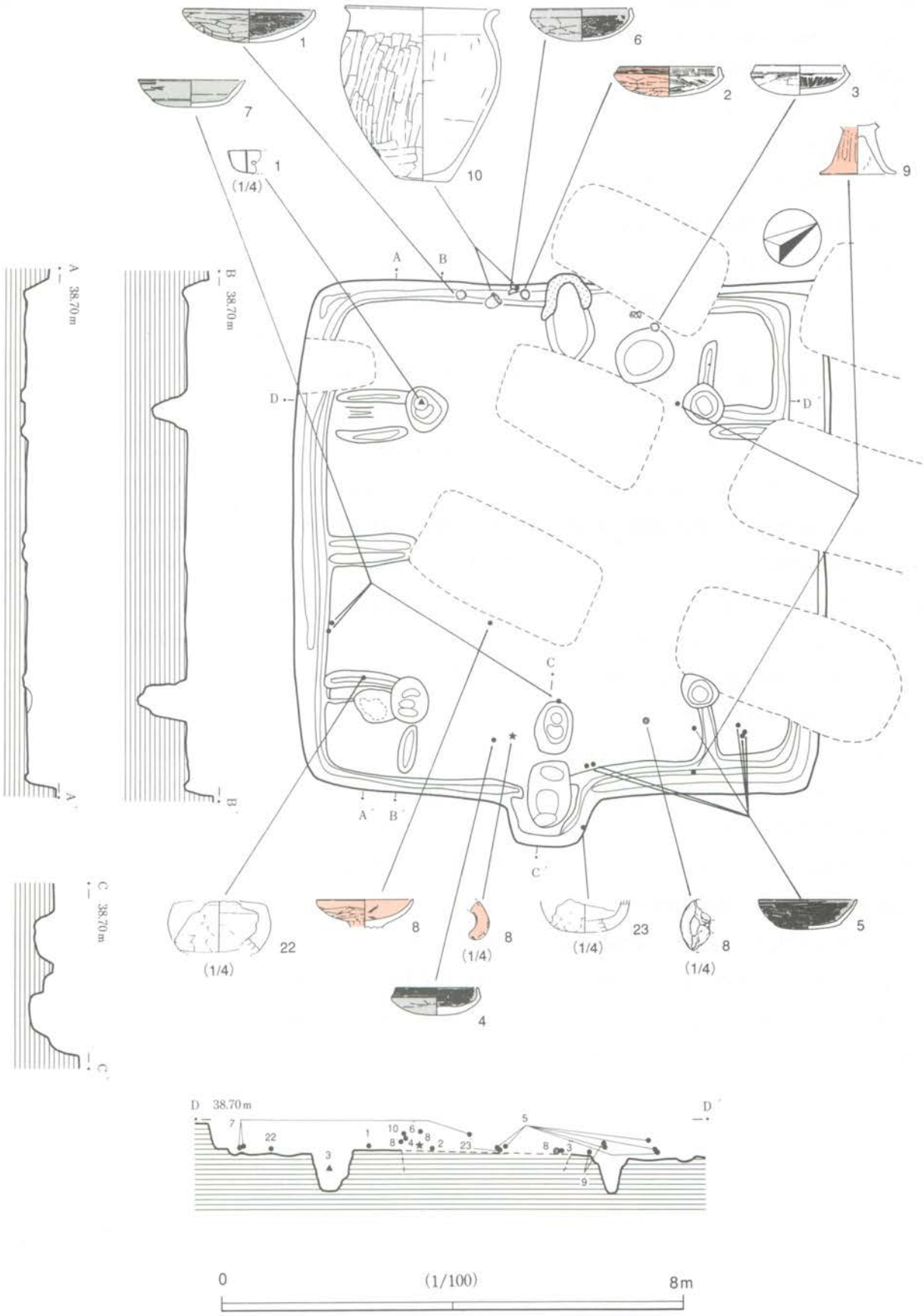
台地東端部の北側斜面に面した緩斜面上（Ｇ4-16グリッド）に位置する。床面積は38.1㎡を測る比較的大型の竪穴住居跡である。壁溝は全周し、南北壁から柱穴4か所に向かって4本の浅い間仕切り溝が検出された。梯子ピットは2か所検出され、周辺には若干の高まりや浅い窪みがあり、平坦ではない。床面は硬質部と軟質部が明瞭に区別され、間仕切り部分は全体に踏みしめられた様子はなく、若干の凹凸がある。

出土遺物は多く、図示できた土器は14点である。14点中須恵器は3点で、杯（1）1点、蓋（2・3）2点である。残り11点は土師器で、杯（4～7）4点、鉢（8・10・11）3点、椀（12）1点、高杯（9）1点、甕（13・14）2点である。杯4点のうち4以外は遺存度が悪い。4・6・7の3点は内外面に黒色処理が施されている。7は体部外面に稜を有する杯であるが、器高は低く偏平で底部は丸底である。全面には丁寧なミガキが施されている。8・10・11の鉢3点のうち、8は器形が非常に歪み、内面の一部は剥離している。10の底部には木葉痕が若干認められ、11は外面に輪積痕が明瞭に残り、いずれも炭素吸着が激しい。9の脚部は、脚内部に黒色処理が施されている。11は内外面ともに輪積痕がはっきりとみられ、雑な作りである。12は内外面にヘラ痕が数か所認められる。13は胴部下位から底部にかけて欠損し、内面に数か所のヘラ痕が認められる。また、14の甕も同様、内面にヘラ痕が数か所認められる。その他の遺物では、支脚（55）がカマド左袖脇から1点、手捏土器（24・25）2点が覆土中層から、土玉（141・142）2点が覆土上層から、土製勾玉（9）1点が床面からそれぞれ出土した。また、本跡からはスラグ8.33ｇが出土した。

ＳＢ232（第75図・図版42-1）

台地東側の中央平坦部（Ｇ5-15グリッド）に位置する。本跡の南側1/3は近世の特殊遺構ＳＸ008により床面から削平されていたが、かろうじて柱穴は確認できた。壁溝は浅く、部分的に途切れ、全周しない。貯蔵穴はカマド右袖脇に位置し、平面プランは楕円形を呈し深さは41.4㎝を測る。床面は本来踏みしめは弱く、また、撹乱が激しく床面利用に関しての資料は得られなかった。

撹乱を受けているため出土遺物は少なく、図示できた土器は4点のみである。また、遺物は、撹乱を受けていないカマド周辺部に限り出土した。土器以外の出土遺物は支脚（56）1点である。出土土器はすべて土師器で、杯（1・2）2点、甕（3・4）2点である。1はカマド左袖脇からほぼ完形に近い状態で出土し、内外面に黒色処理が施されている。2はカマド周辺及び貯蔵穴内から破片が散在する状態でそれぞれ出土した。



第73図　SB229竪穴住居跡遺物出土状況図

3は内面に輪積痕・ヘラ痕が明瞭にみられ、成形が雑である。4はカマド内火床部から横に寝かされた状態で出土した。56の支脚はカマド左袖周辺の床面から出土した。

ＳＢ237（第76図・図版43-2，3）

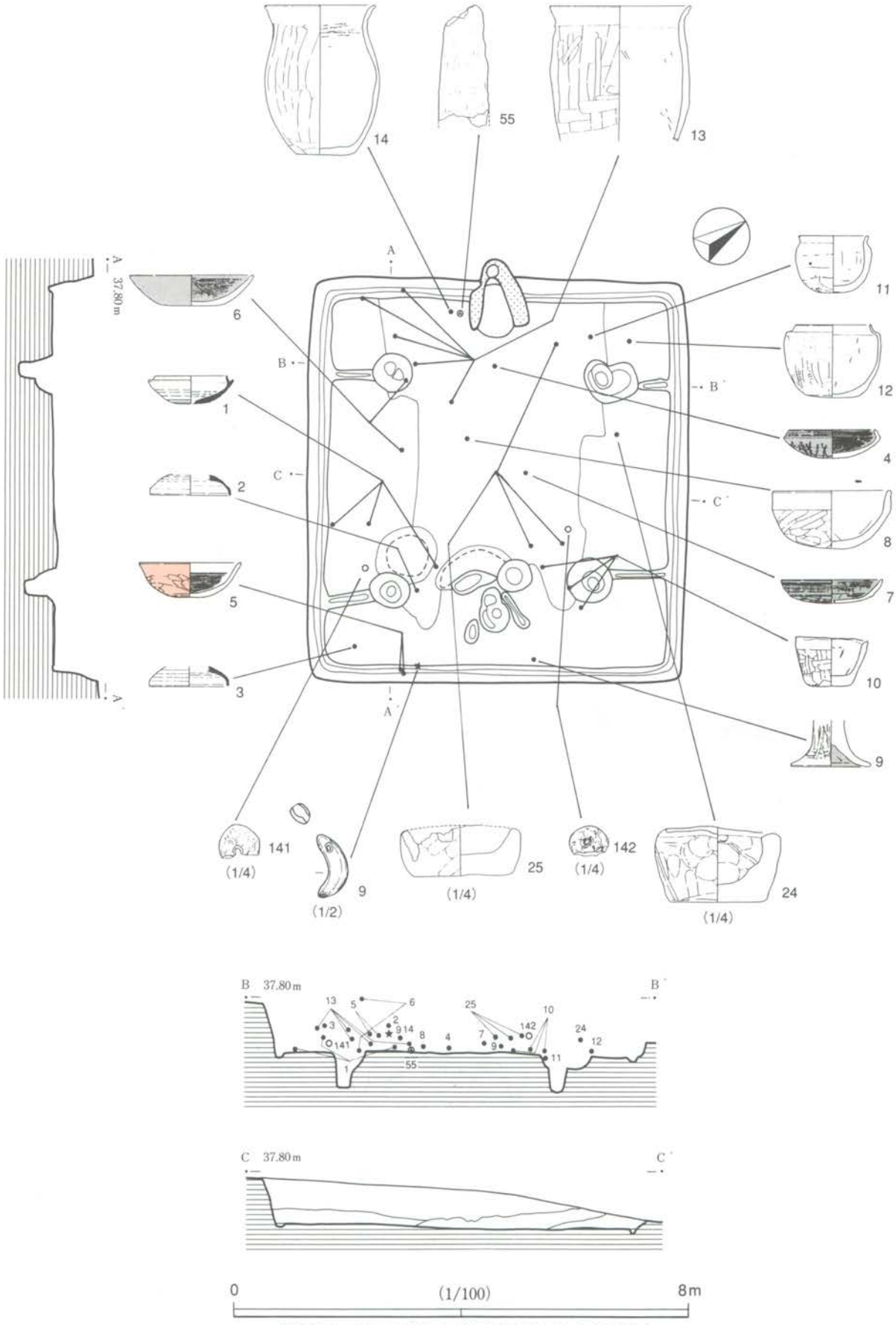
台地東端部の緩斜面上（H5-63グリッド）に位置する。北側コーナー部分を近世の溝状遺構ＳＤ028から切られているが、壁の一部分にとどまり、床面までの削平は免れた。床面積は29.7㎡を測る中型の竪穴住居跡である。壁溝は東壁下で不明瞭な箇所があり、全周しない。柱穴は4か所で、その中央2か所に浅めの支柱穴を設けている。北東壁側は間仕切り溝が巡り、長方形に区画される。南西壁側の長方形の区画は床面より若干高いテラス状を呈しているが、踏みしめはほとんどなく凹凸がある。また、梯子ピット周辺には若干の高まりが確認された。床面には炭化物や焼土が部分的に、また、Ｐ5付近からは粘土塊が検出された。

図示できた土器は11点で、須恵器は壺（1）1点である。残りの10点は土師器で、杯（2～4）3点、甕（5～11）7点である。土器以外の出土遺物は、支脚（57・58）2点のみである。遺物はカマド内及びカマド周辺に集中して出土した。カマド内からは4の杯が1点、6～8の甕が3点、また、カマド周辺部からは2の杯が1点、9・10の甕が2点、57・58の支脚が2点それぞれ出土し、計9点を数える。カマド内及びカマド周辺部以外からの出土遺物は、1の須恵器壺、3の杯、5の甕（小型）、11の甕の4点である。2は内外面に黒色処理が施された、体部外面中位に稜を有する丸底の土師器杯で、内外面ともに丁寧なミガキが施されている。3は底部外面に不自然なきず痕が6か所みられる。5は完形で、口縁部にはまだ焼成しない時に触ったためか歪んでいる。また、底部は斜めにカットされている。7はカマド内出土で、器面の摩耗が激しく歪みも大きい。8は完形の長胴の甕で、頸部内面には深い接合痕が数か所でみられる。

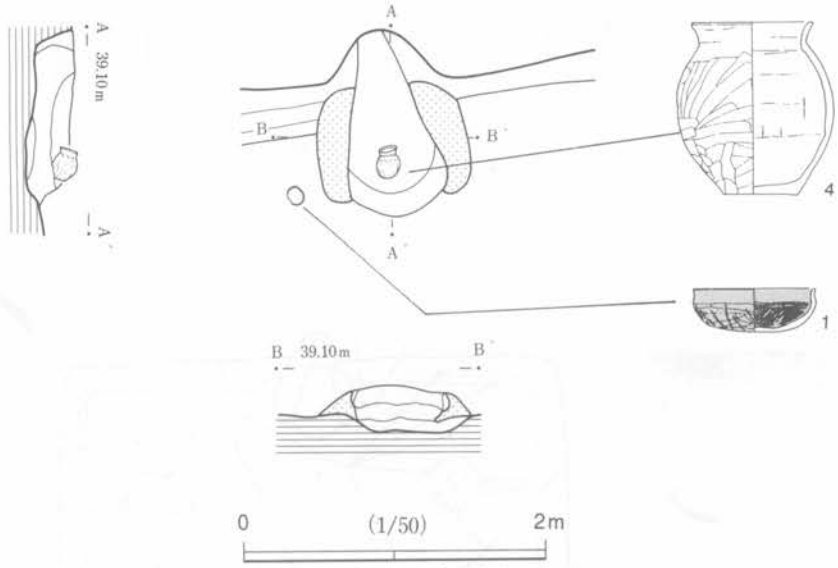
ＳＢ242（第77図・図版44-2）

台地東側の平坦部で、屋外炉跡ＳＸ011に近接して（G4-51グリッド）位置する。平面プランは不正方形でカマドを持たず、床面中央に炉を持つ。床面積は10.2㎡を測る小型の竪穴住居跡である。掘り込みは浅く、本跡に伴う柱穴はＰ1・Ｐ2・Ｐ3・Ｐ4と北東コーナーのＰ5の5か所で、炉近くのＰ6と北西コーナーに近接するＰ7の二つは、本跡に伴うかどうかは不明である。床面は踏みしめの様子は窺えず、軟質である。炉は焼土の状況から、使用期間は短いと思われる。

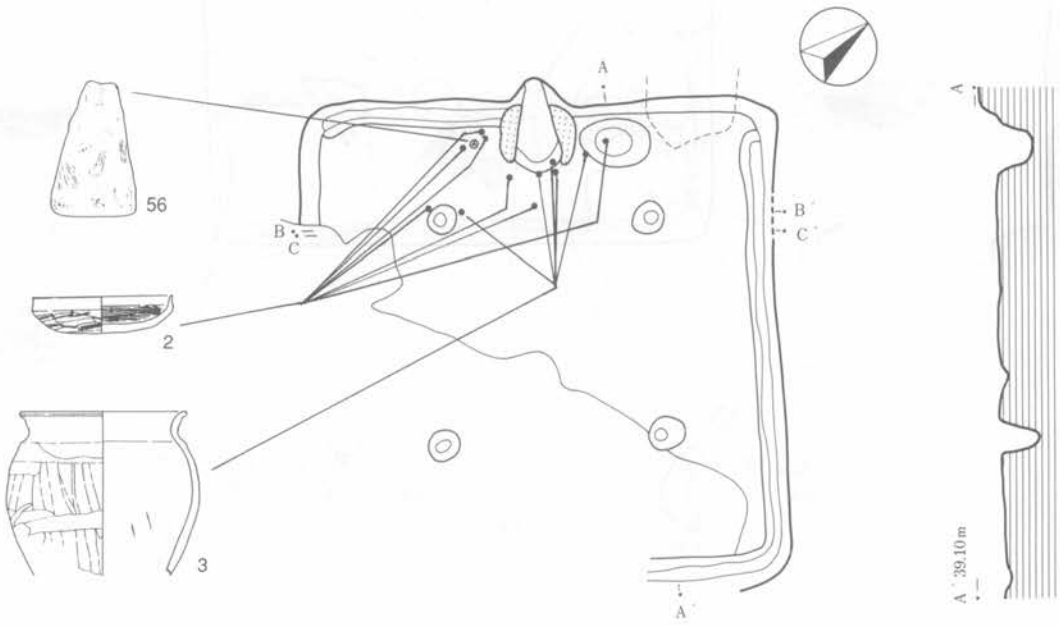
出土遺物はＰ7付近の床面から1の小皿が1点出土したのみである。ロクロ成形で、若干上げ底気味の底部には回転糸切り痕が認められる。その他の遺物は出土しておらず、本跡の時期については、1点のみ出土した小皿からすると平安時代になるが、本跡のすぐ北に同様の形態の古墳時代後期に属する竪穴住居跡ＳＢ240があり、古墳時代に属する竪穴住居跡の可能性もあるが、ここでは平安時代の竪穴住居跡とした。

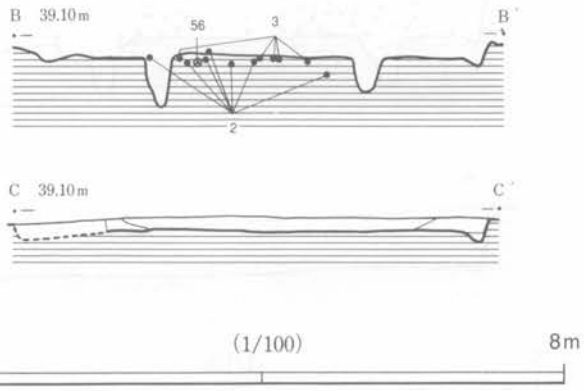


第74図　SB230竪穴住居跡遺物出土状況図

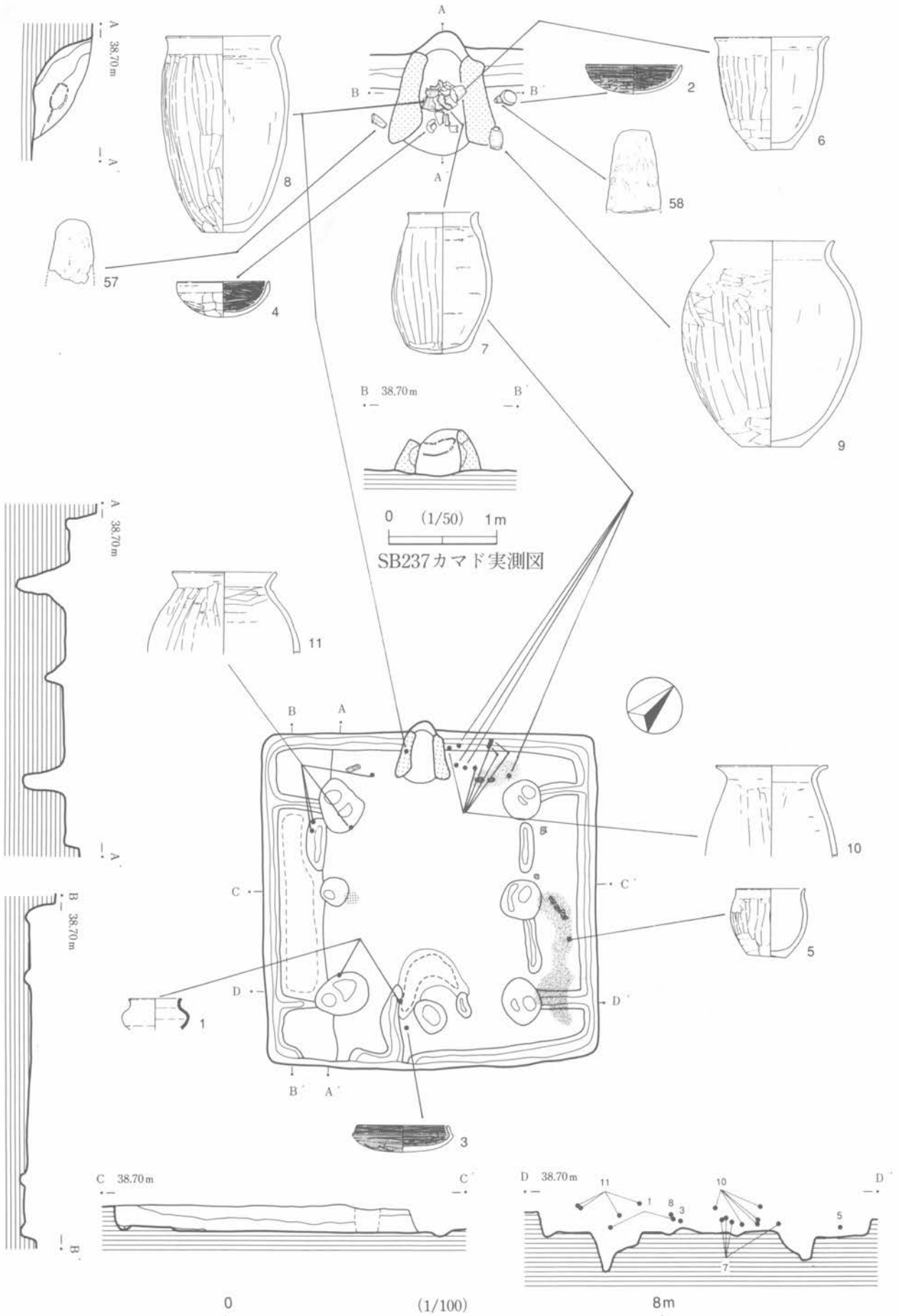


SB232カマド実測図

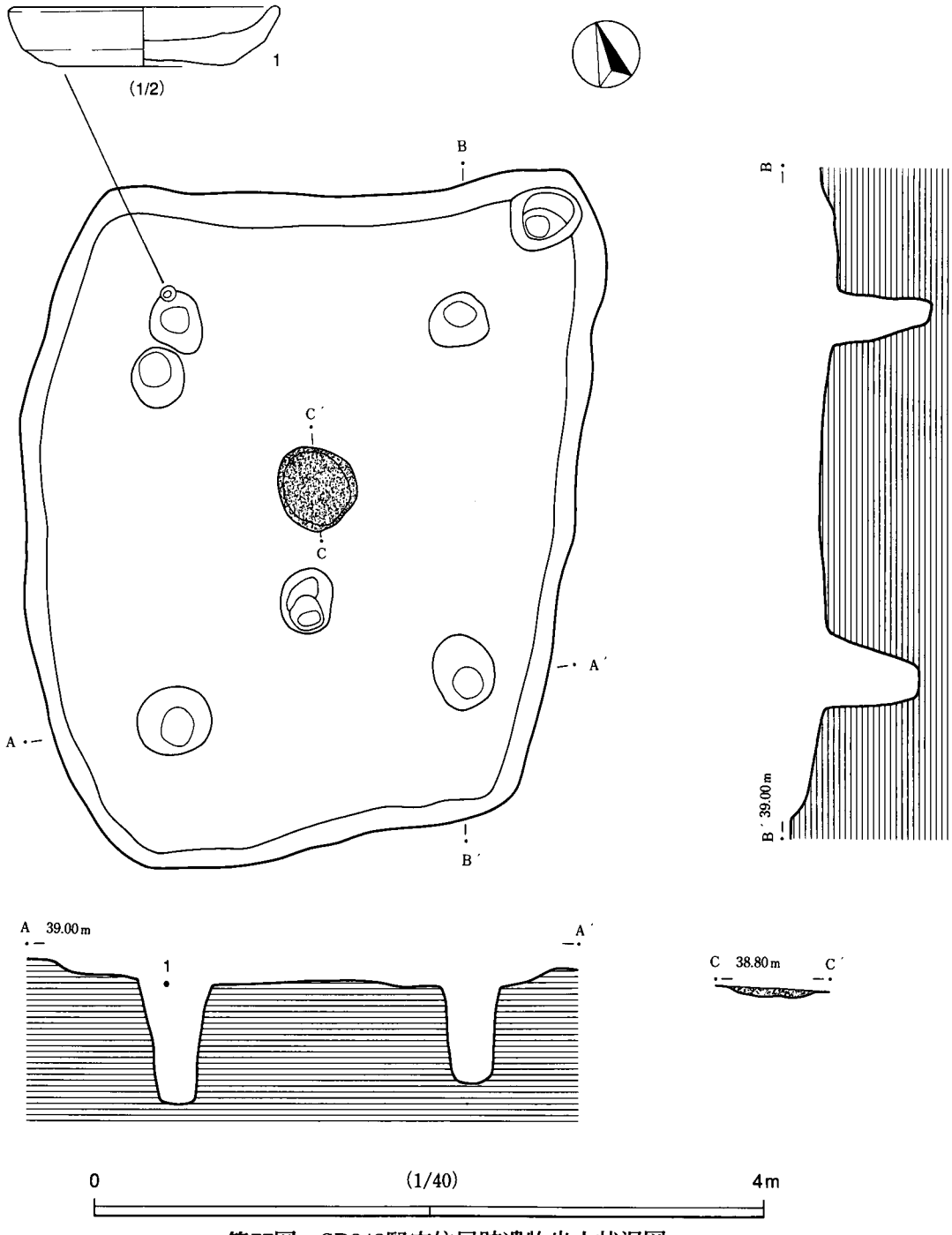




第75図　SB232竪穴住居跡遺物出土状況図

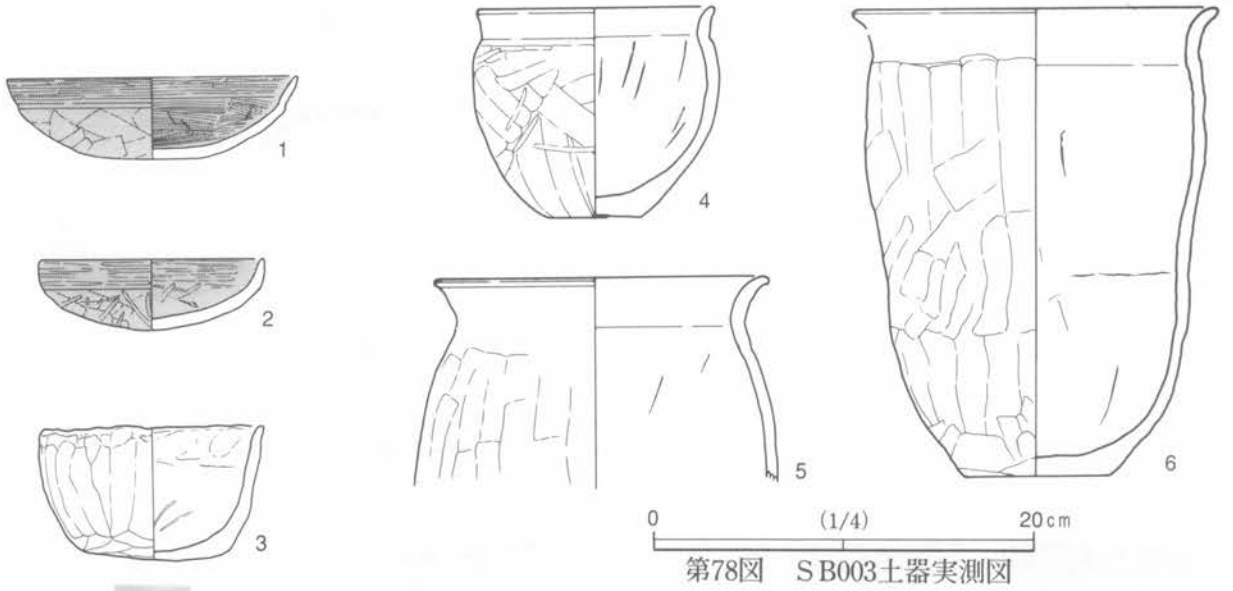


第76図　SB237竪穴住居跡遺物出土状況図

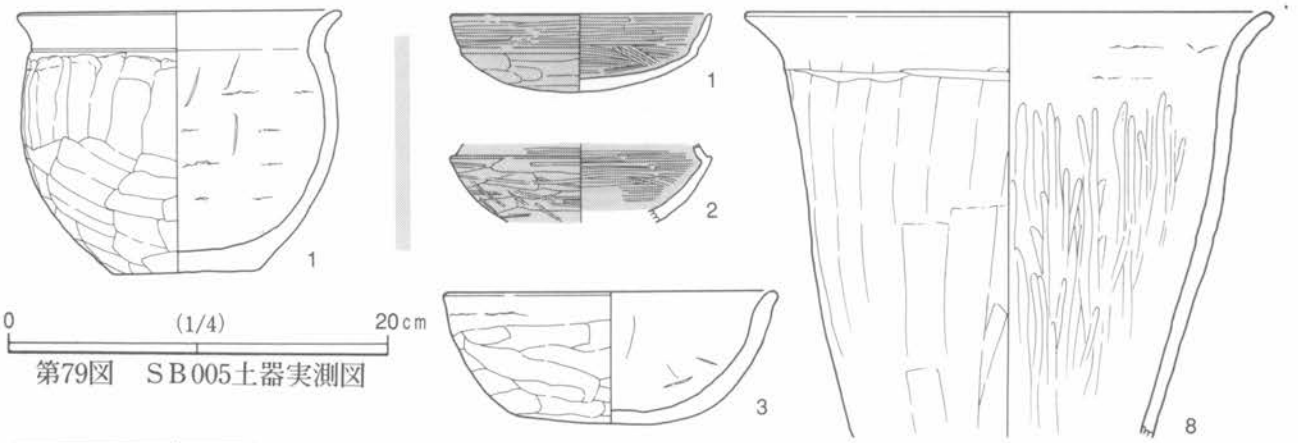


第77図　SB242竪穴住居跡遺物出土状況図

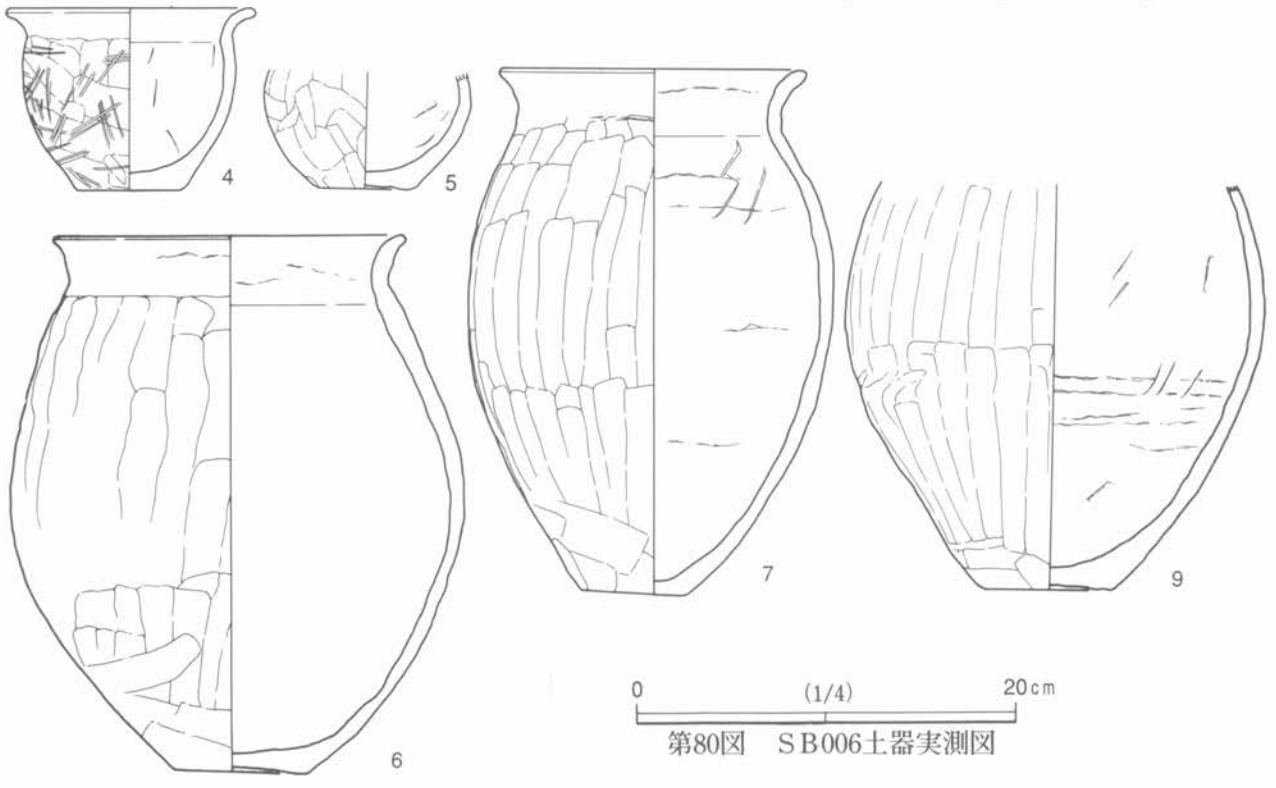
2　遺構内出土土器



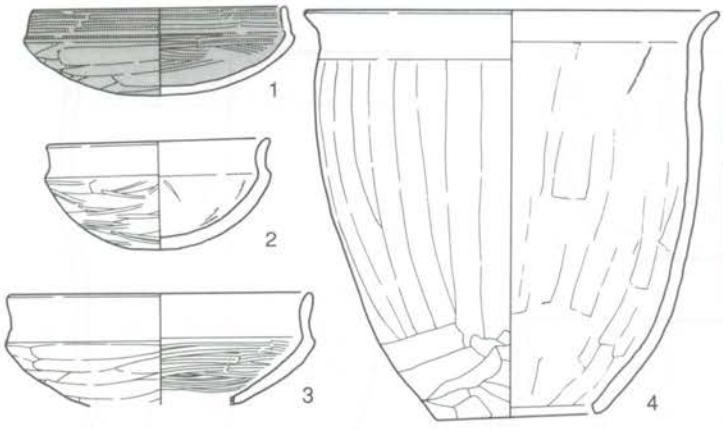
第78図　ＳＢ003土器実測図



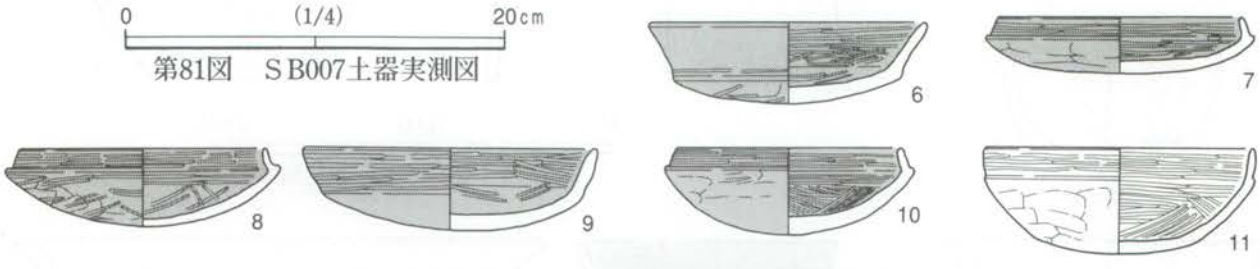
第79図　ＳＢ005土器実測図

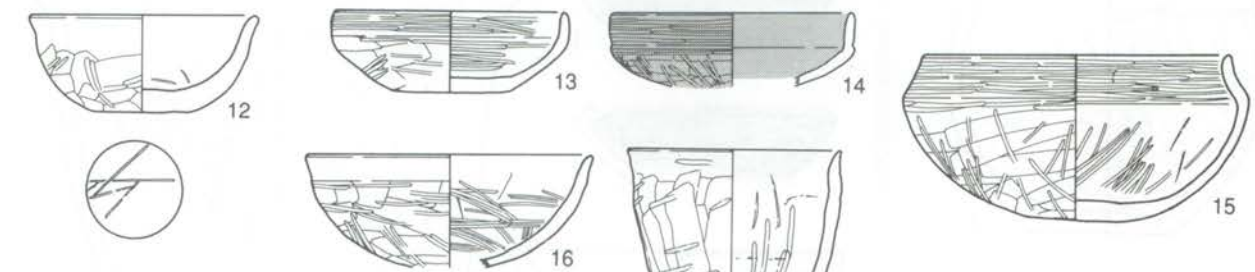


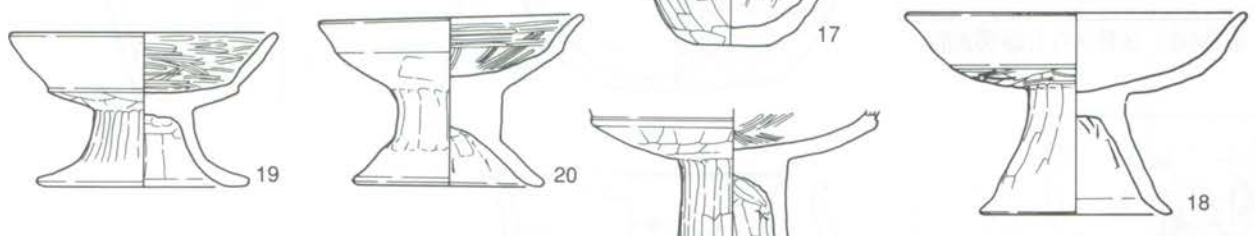
第80図　ＳＢ006土器実測図

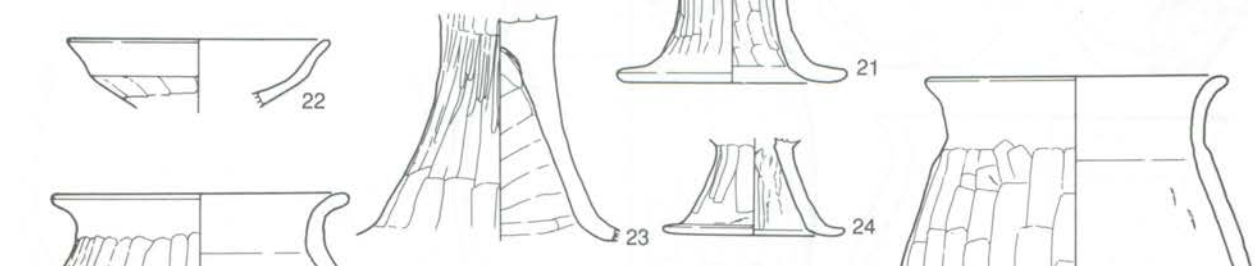


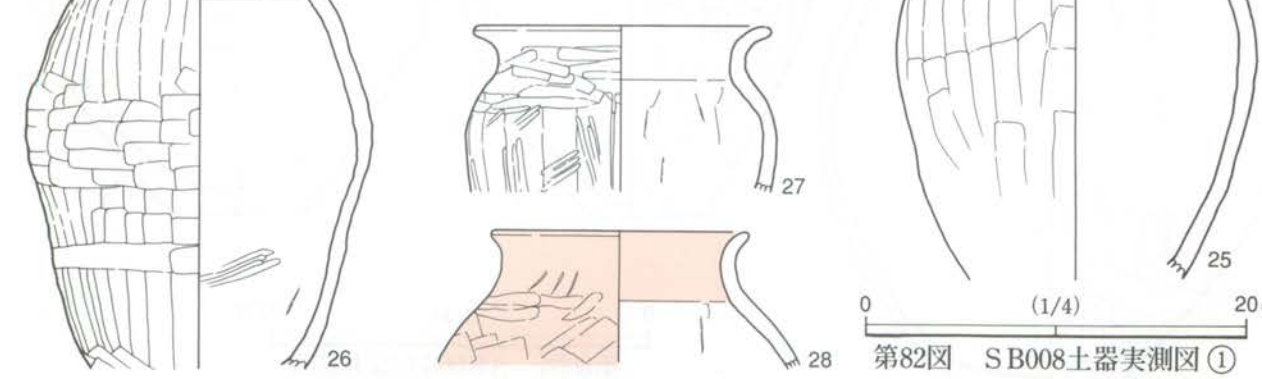
第81図　ＳＢ007土器実測図



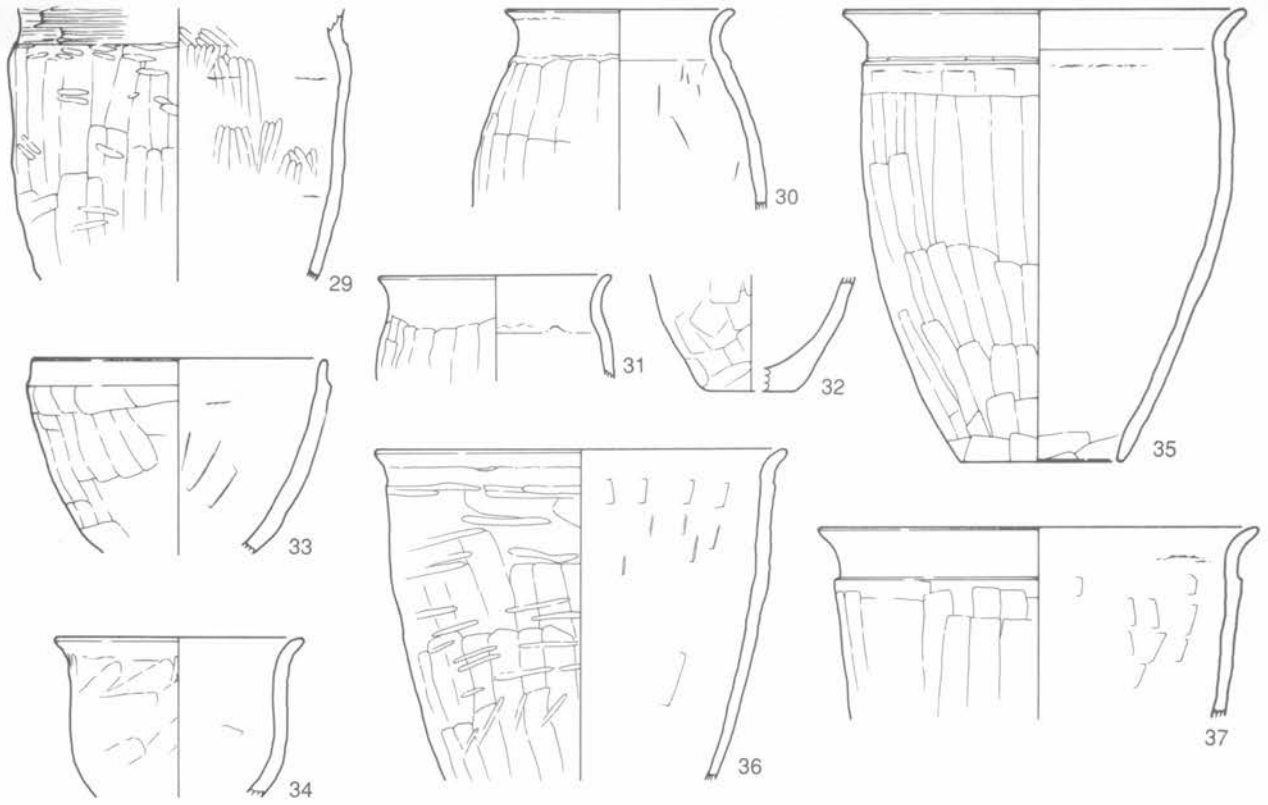




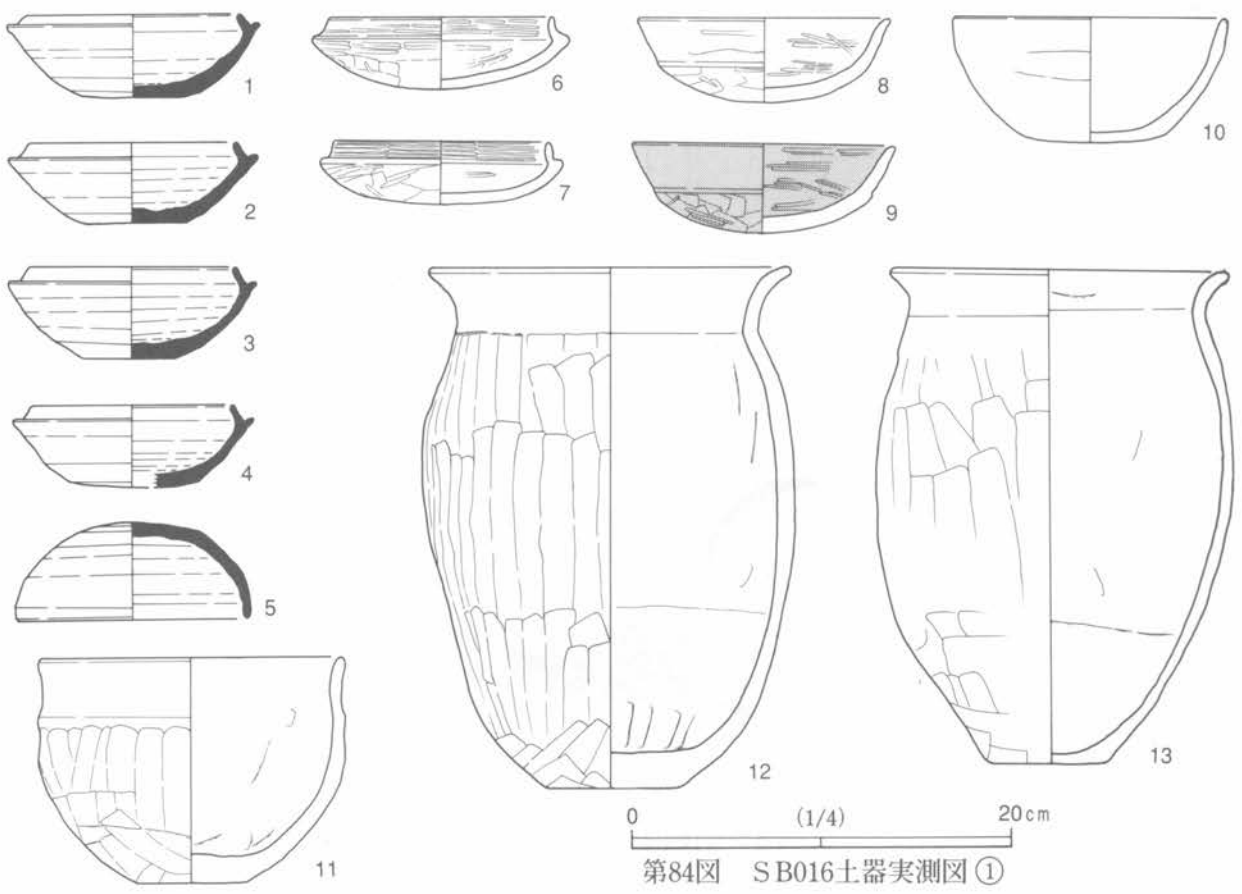




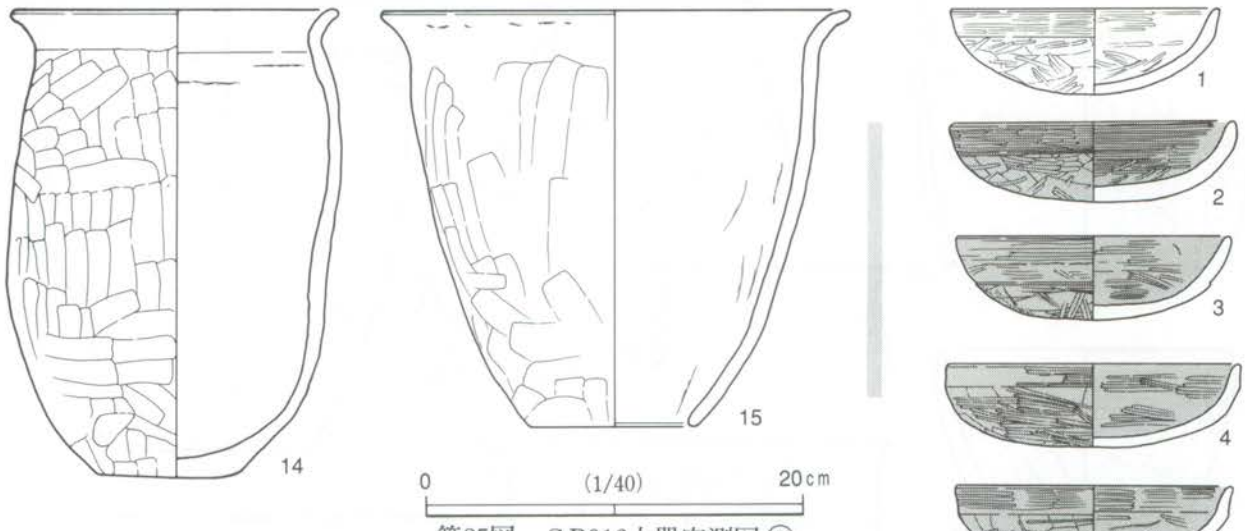
第82図　ＳＢ008土器実測図 ①



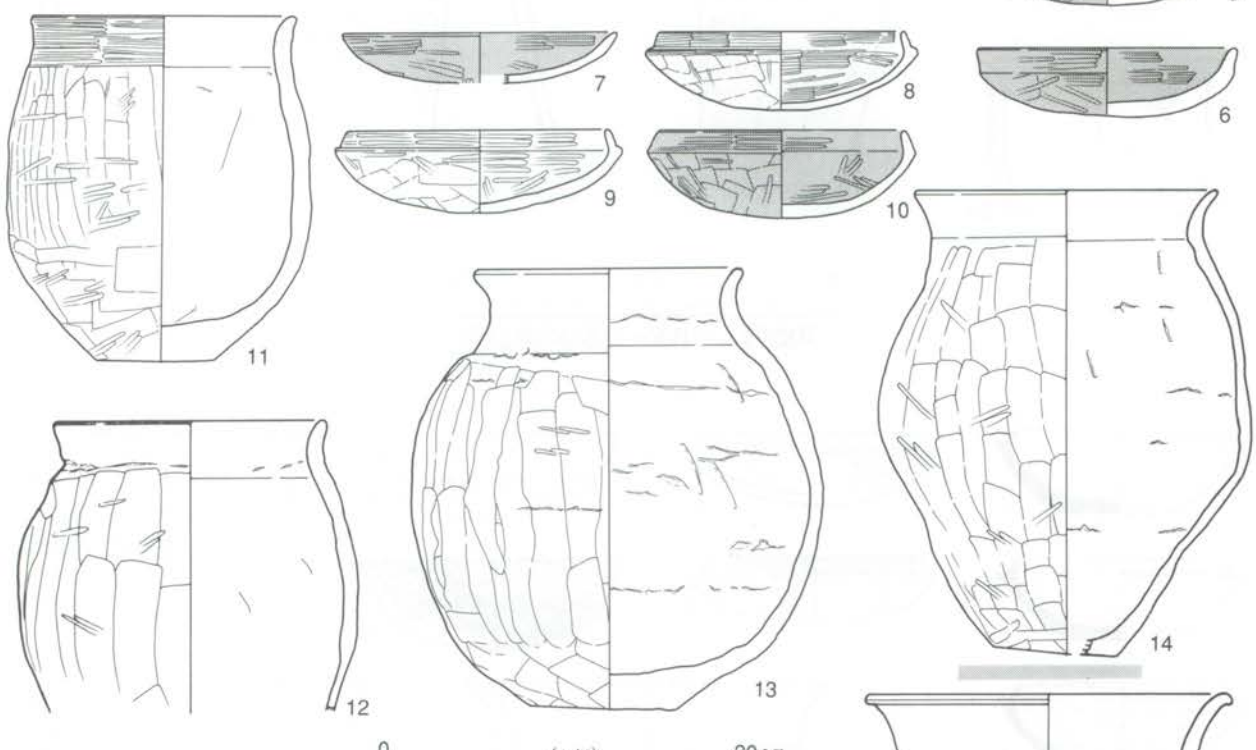
第83図　ＳＢ008土器実測図 ②



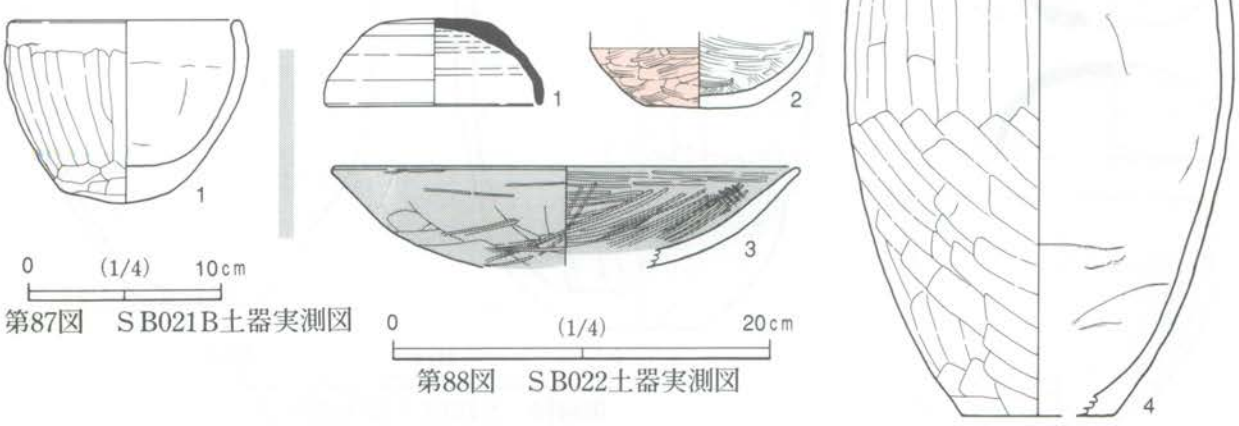
第84図　ＳＢ016土器実測図 ①



第85図　ＳＢ016土器実測図②

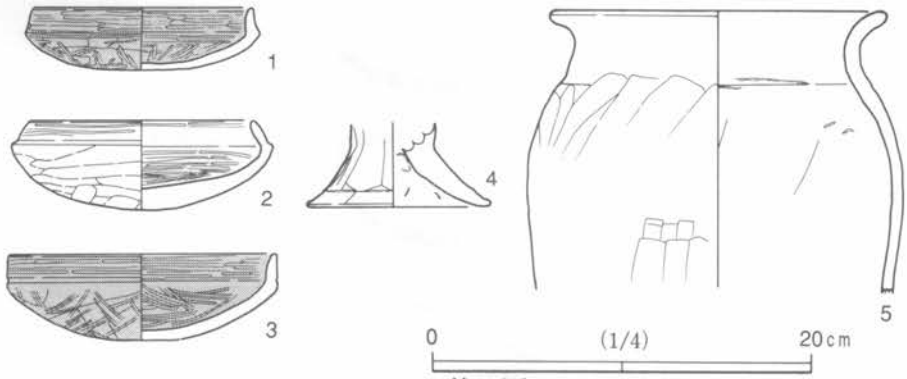


第86図　ＳＢ020土器実測図

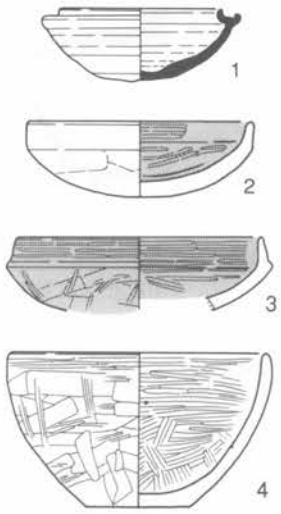


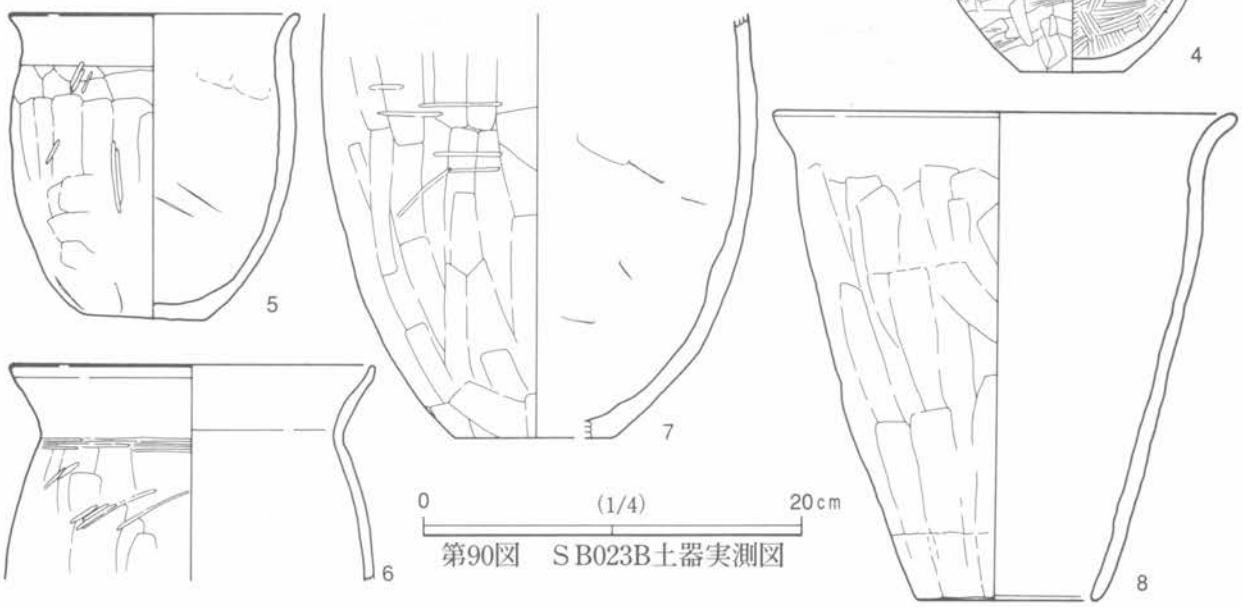
第87図　ＳＢ021Ｂ土器実測図

第88図　ＳＢ022土器実測図

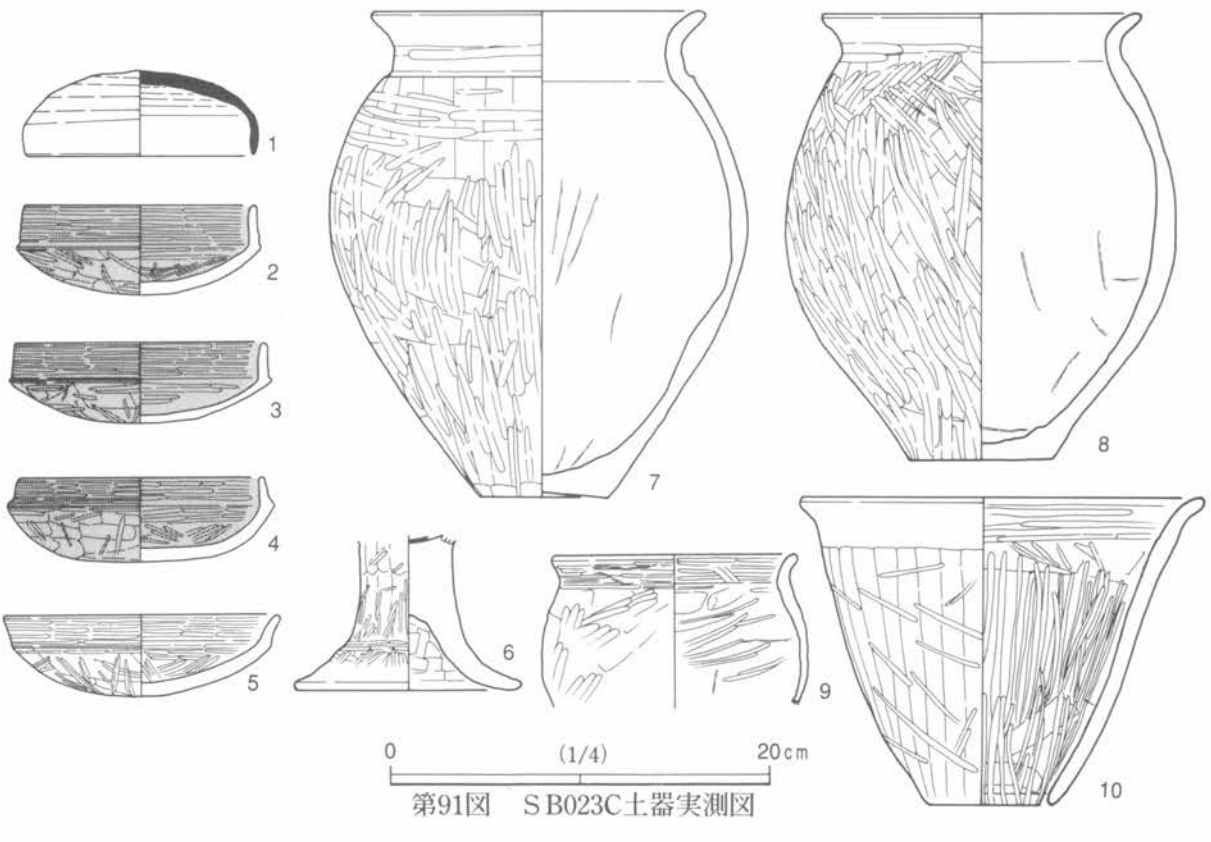


第89図　ＳＢ023Ａ土器実測図

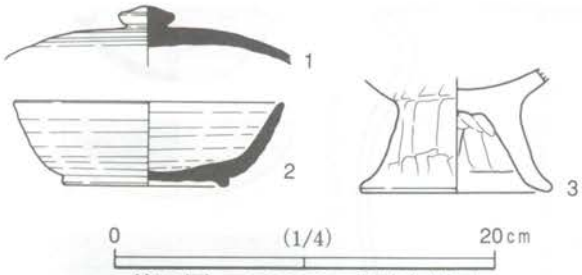




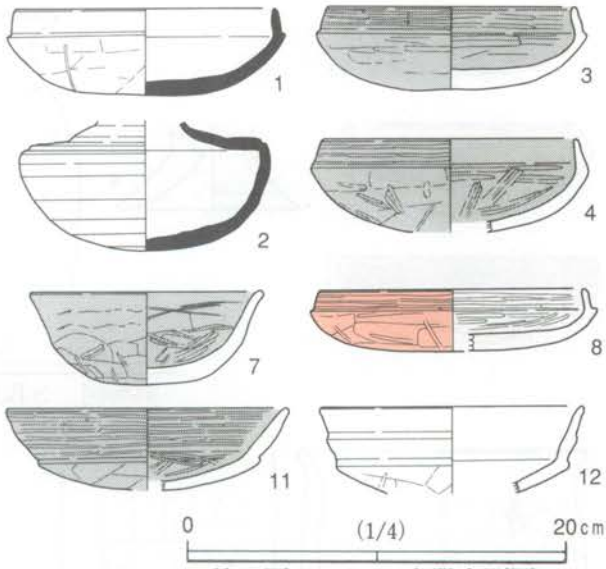
第90図　ＳＢ023Ｂ土器実測図



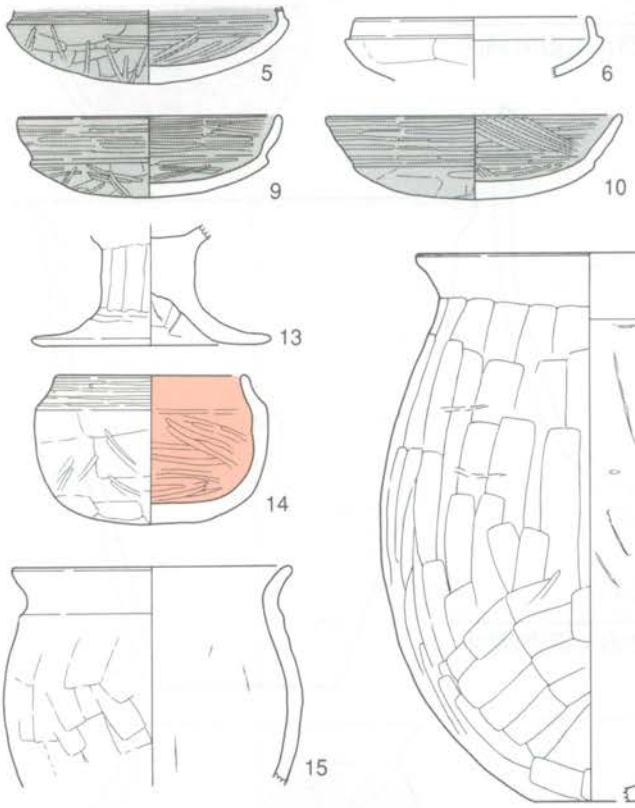
第91図　ＳＢ023Ｃ土器実測図

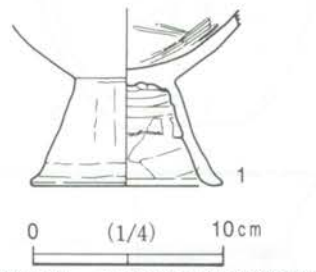


第92図　ＳＢ023D土器実測図

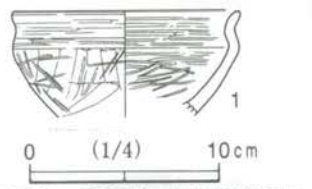


第93図　ＳＢ024土器実測図

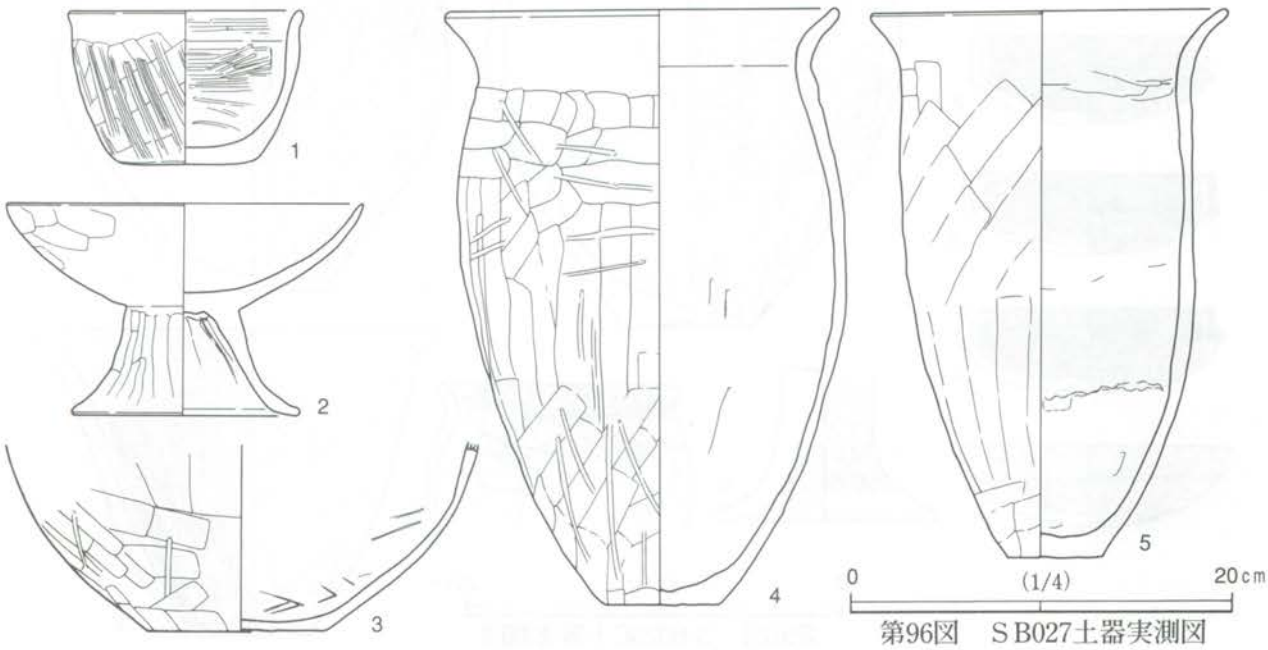




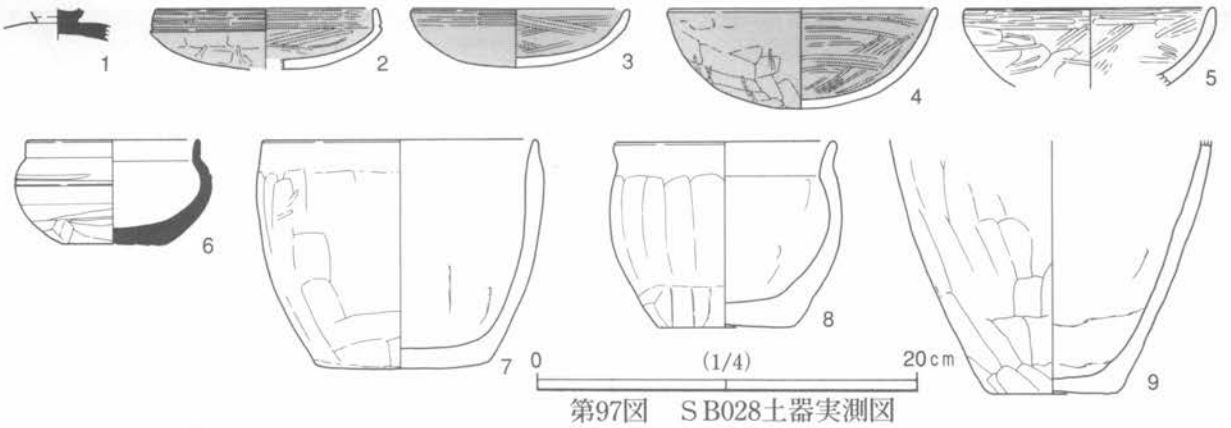
第94図　ＳＢ025土器実測図



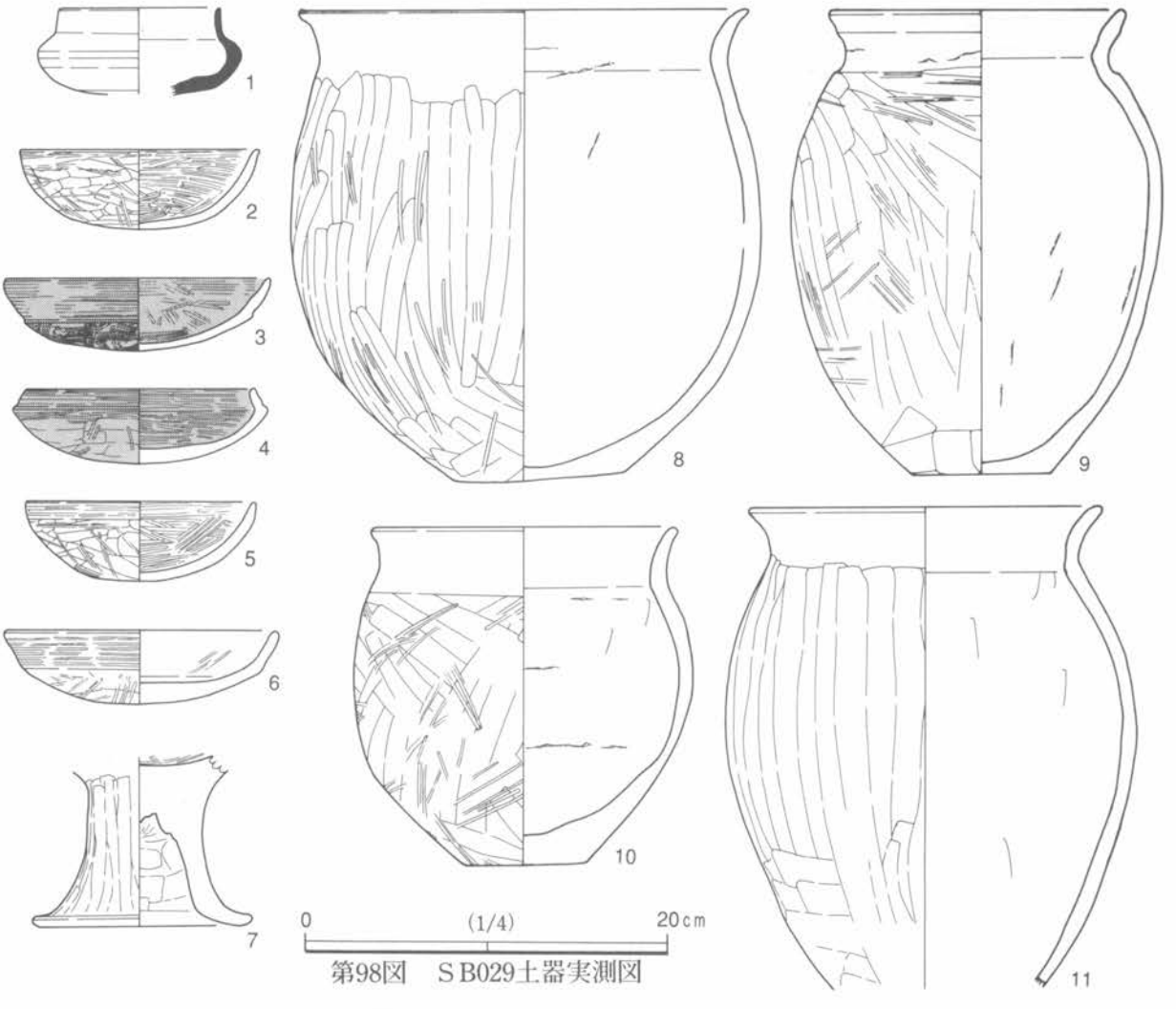
第95図　ＳＢ026土器実測図



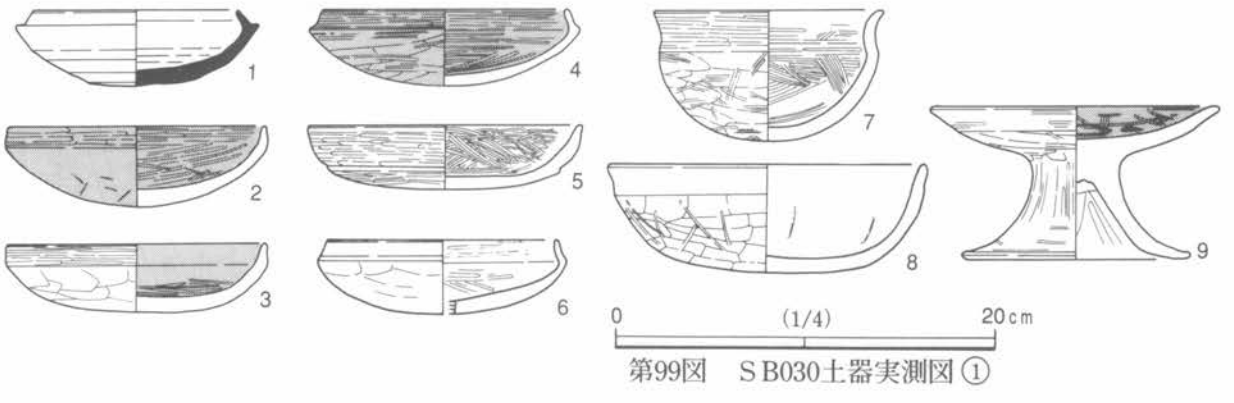
第96図　ＳＢ027土器実測図



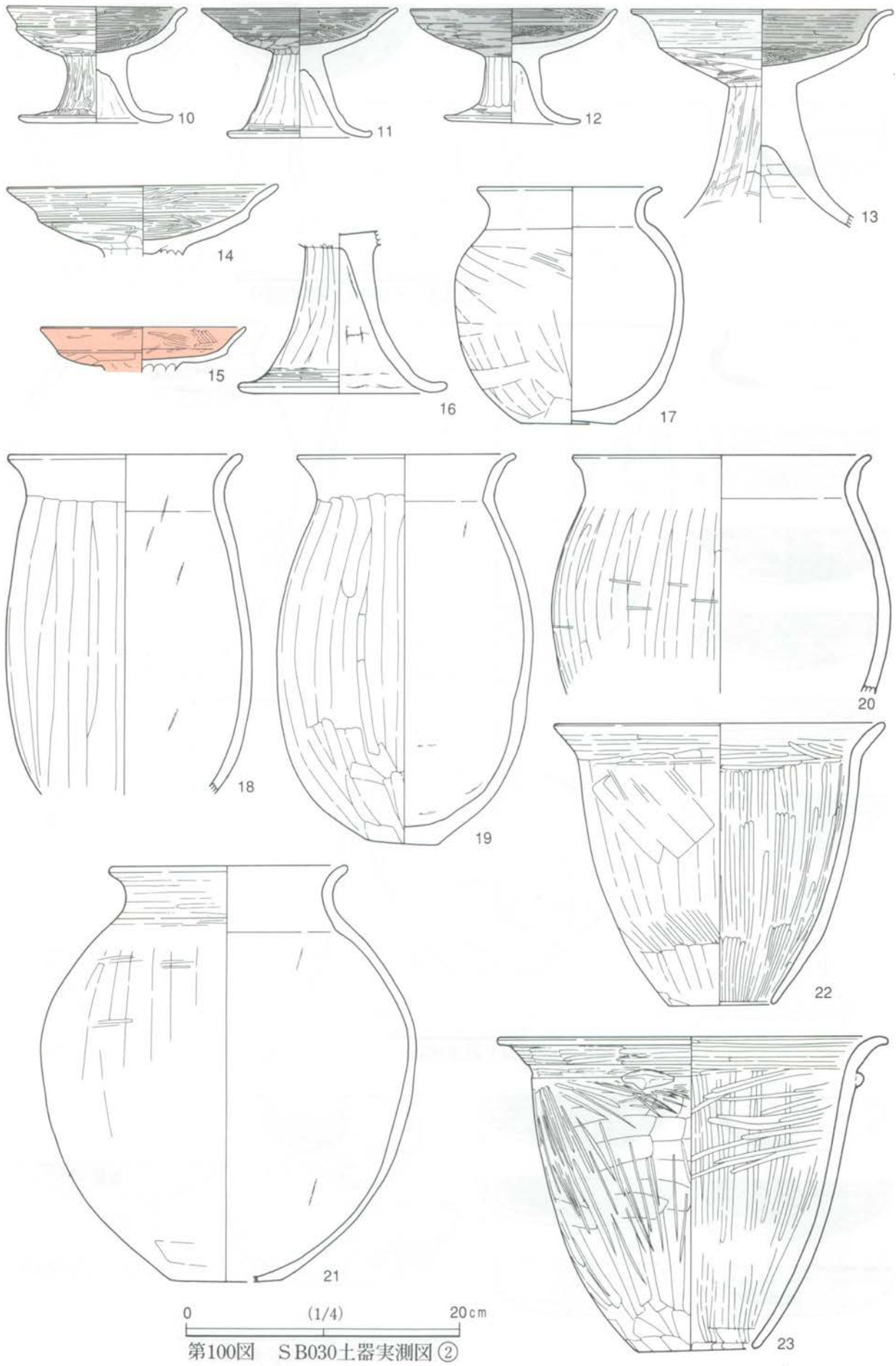
第97図　ＳＢ028土器実測図



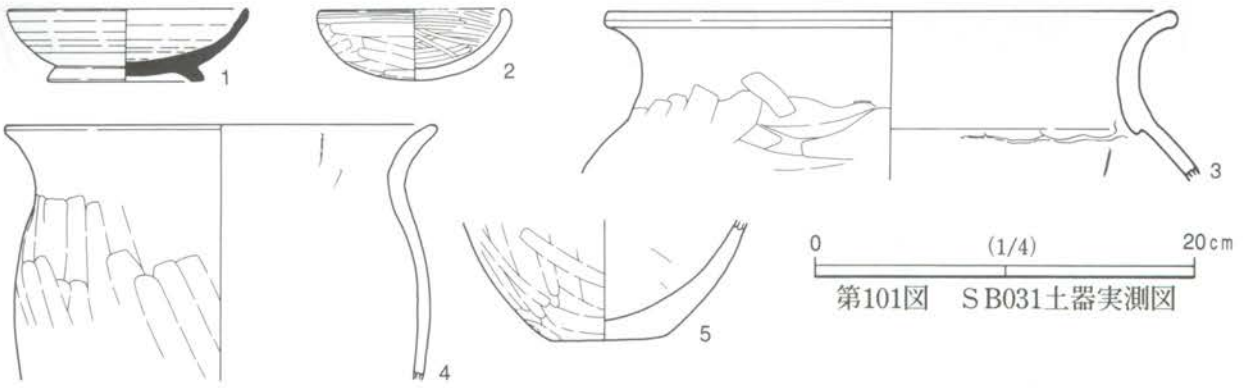
第98図　ＳＢ029土器実測図



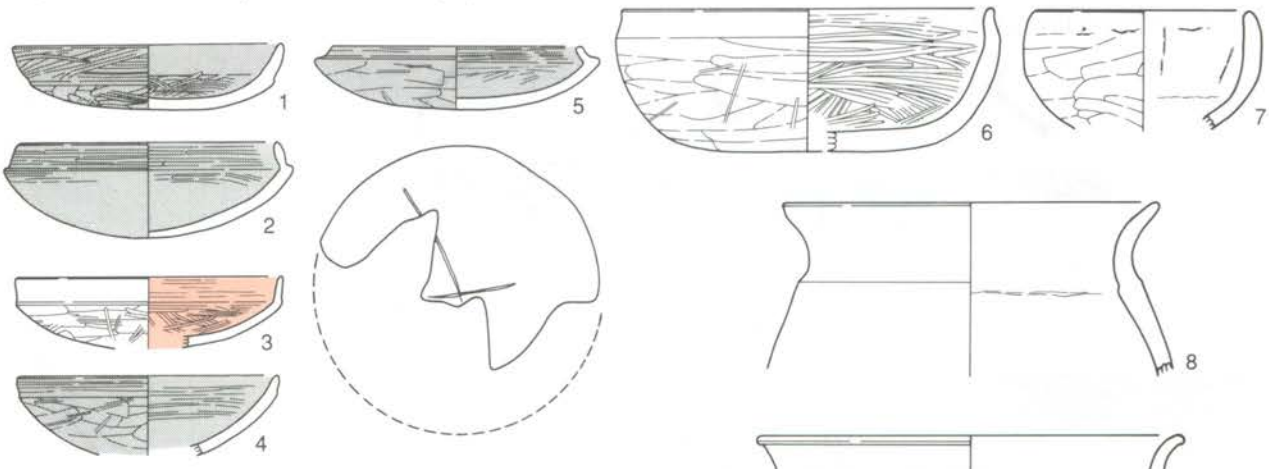
第99図　ＳＢ030土器実測図①



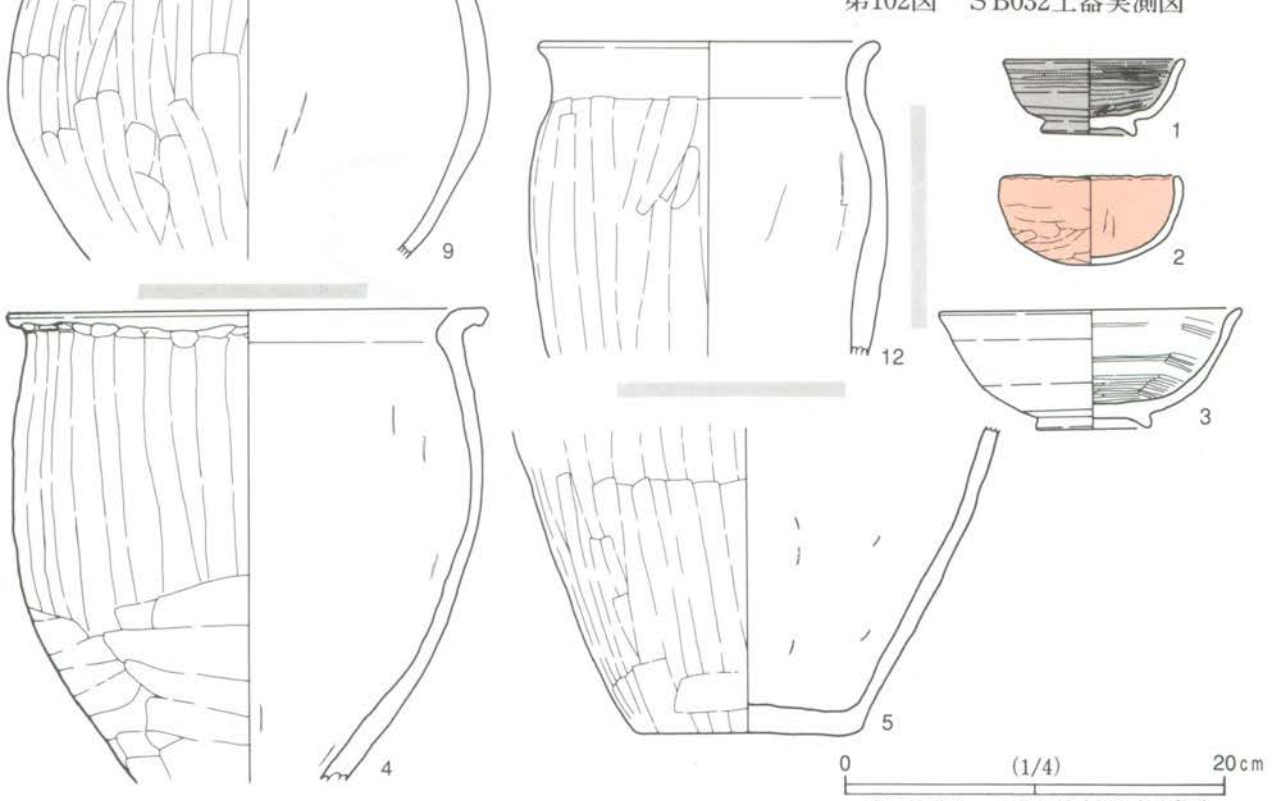
第100図　ＳＢ030土器実測図②



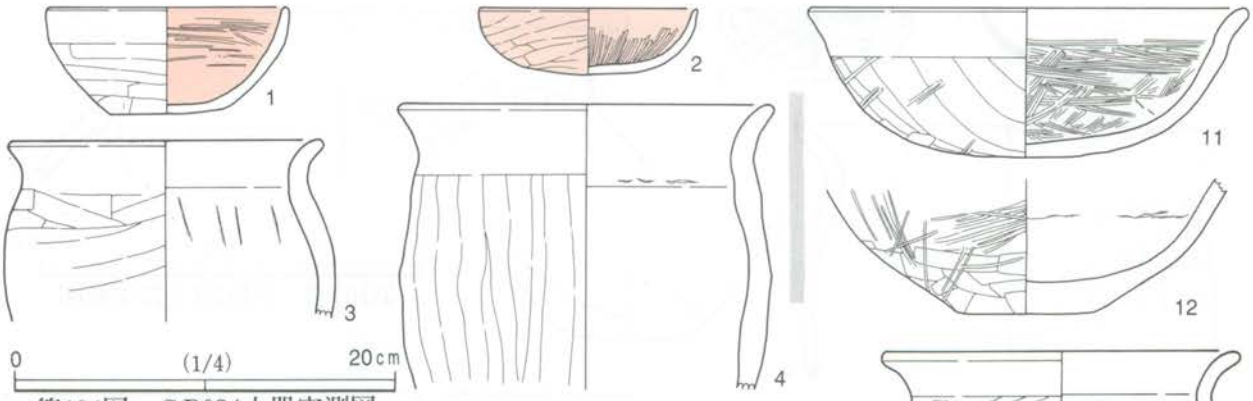
第101図　ＳＢ031土器実測図



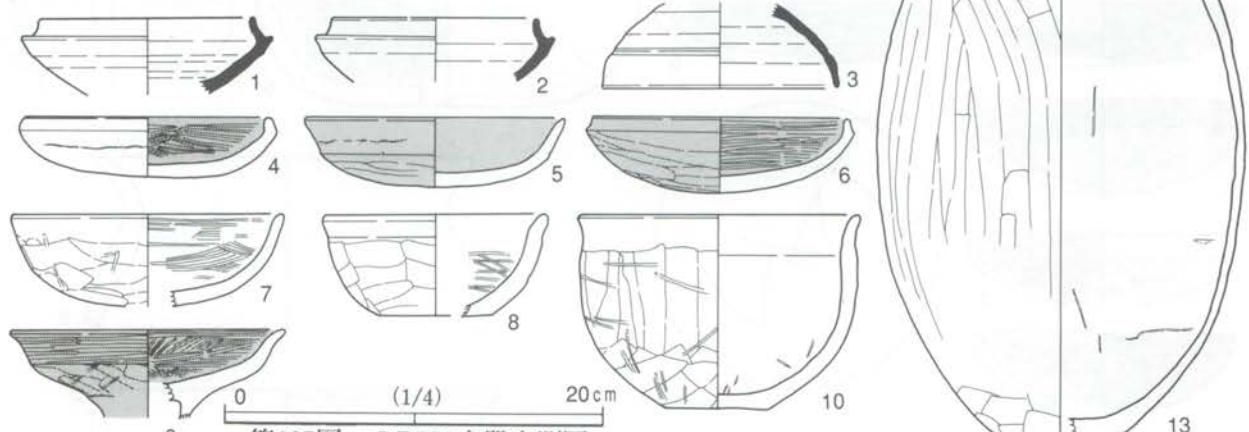
第102図　ＳＢ032土器実測図



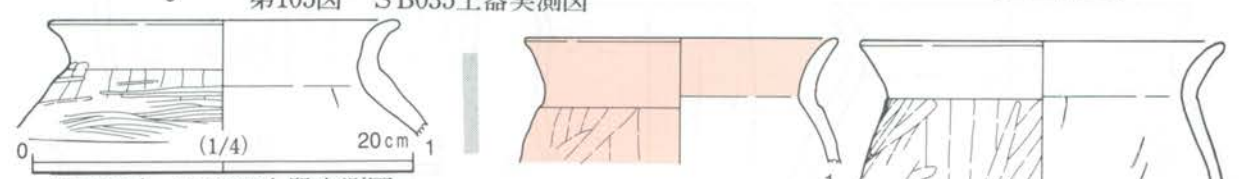
第103図　ＳＢ033土器実測図



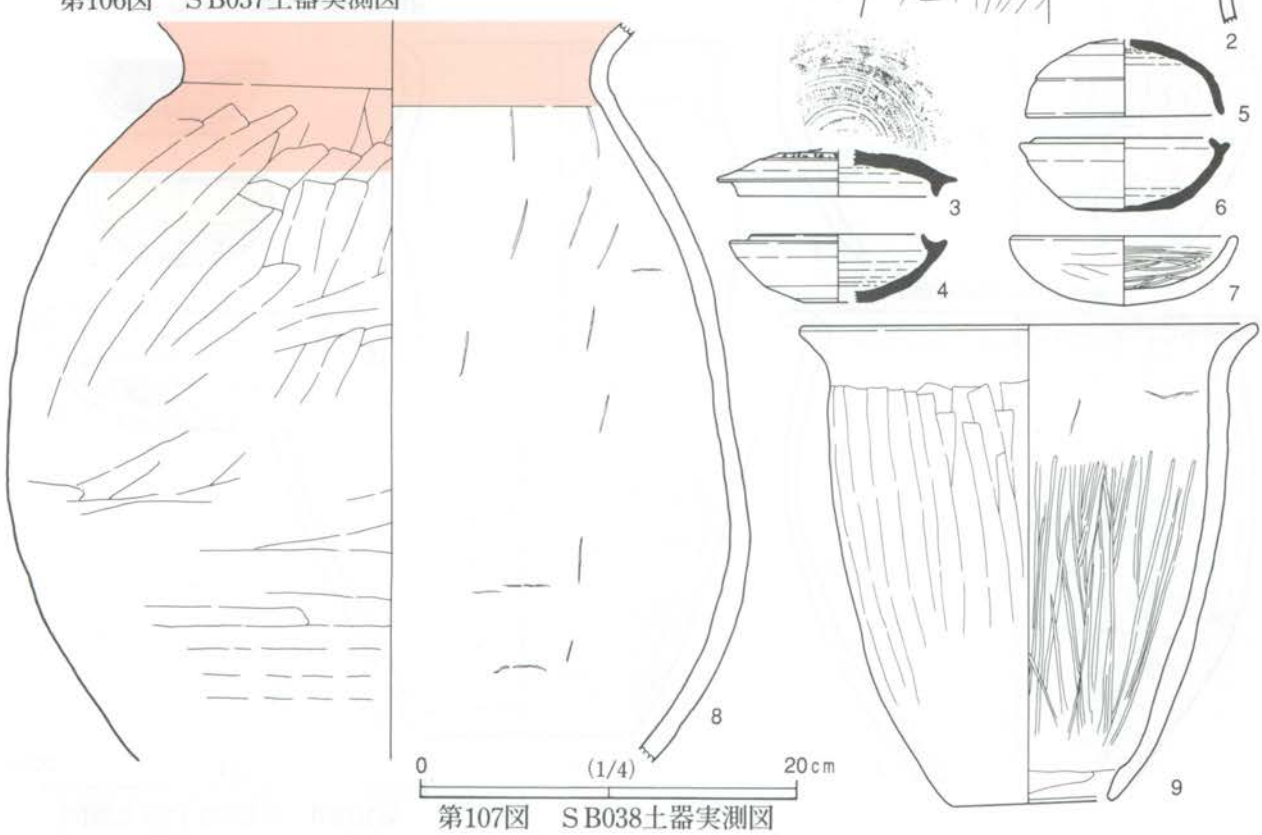
第104図　ＳＢ034土器実測図



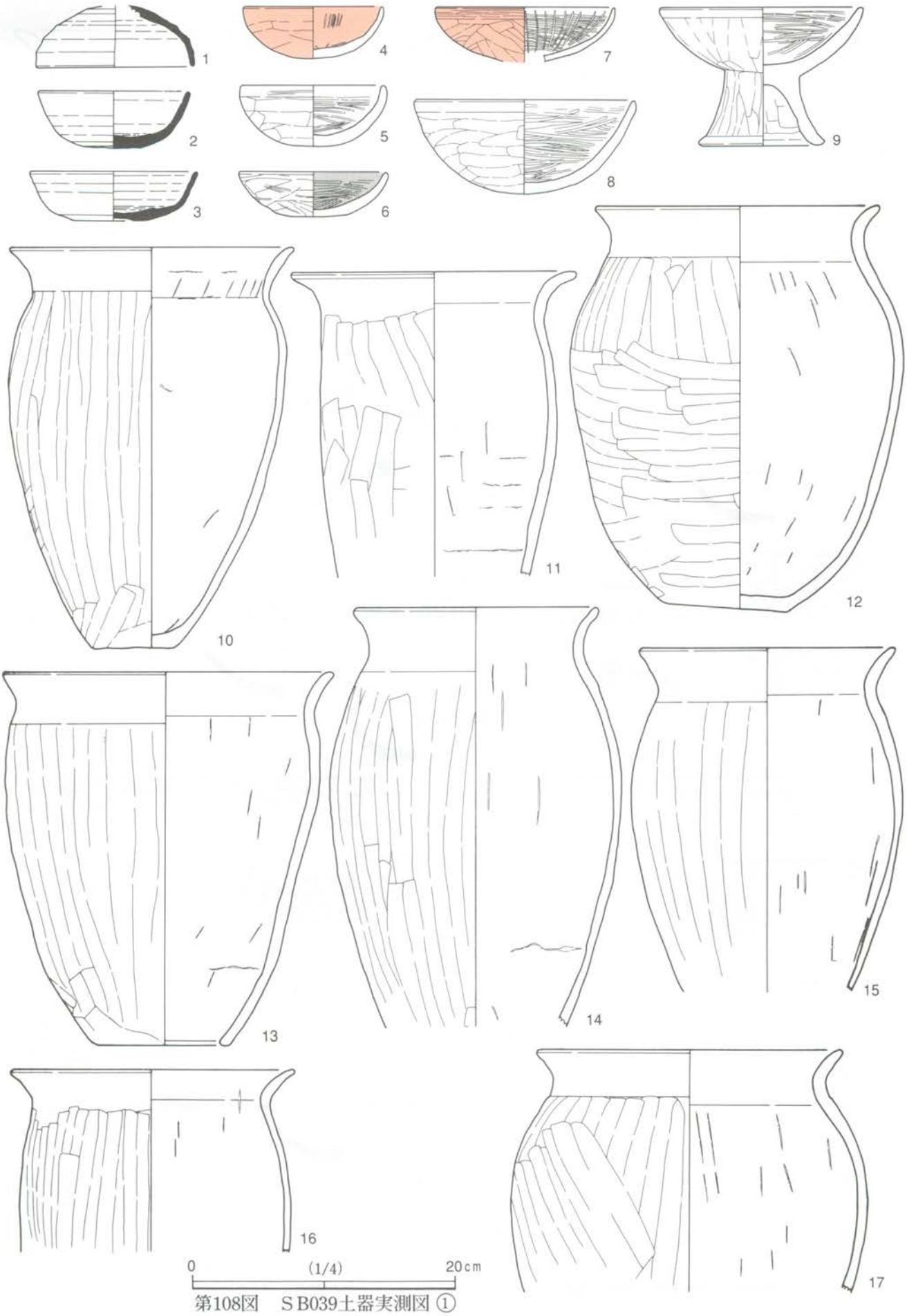
第105図　ＳＢ035土器実測図



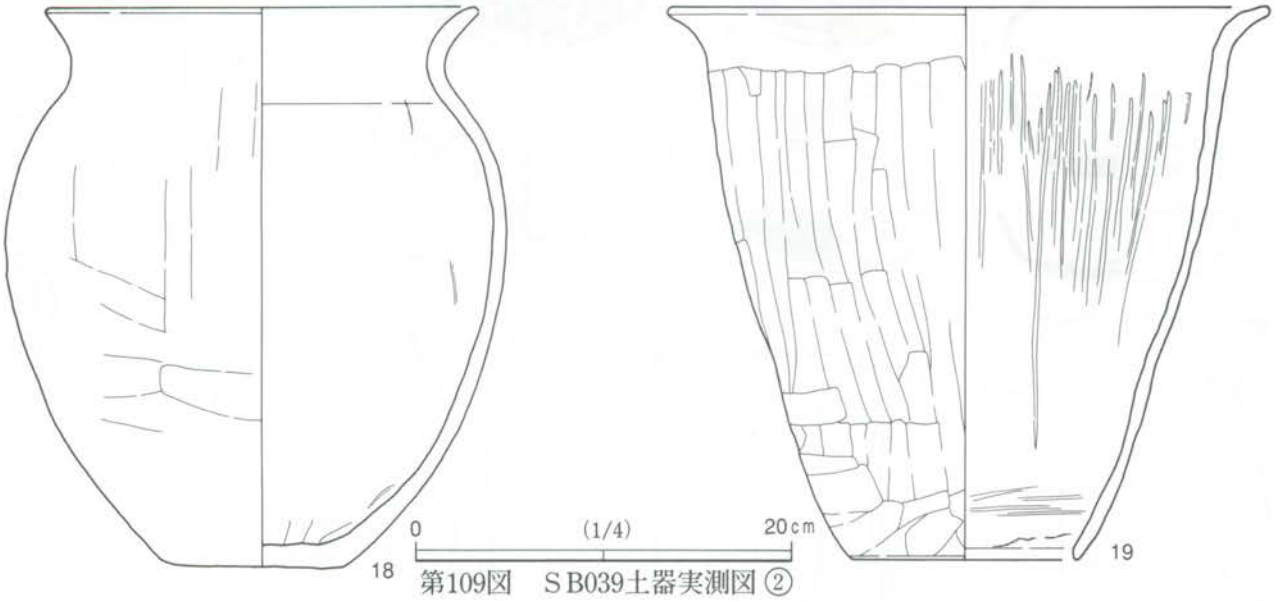
第106図　ＳＢ037土器実測図



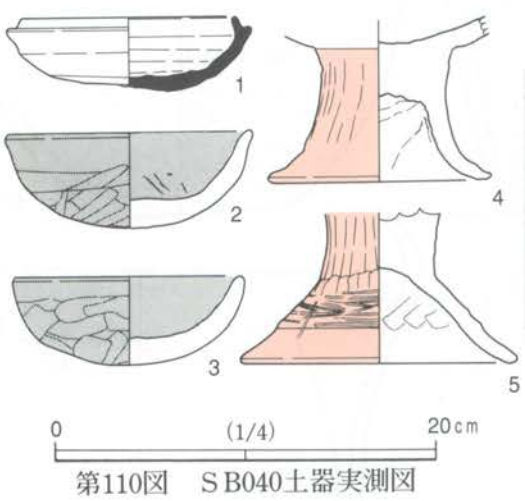
第107図　ＳＢ038土器実測図



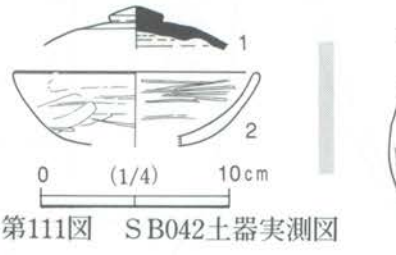
第108図　ＳＢ039土器実測図 ①



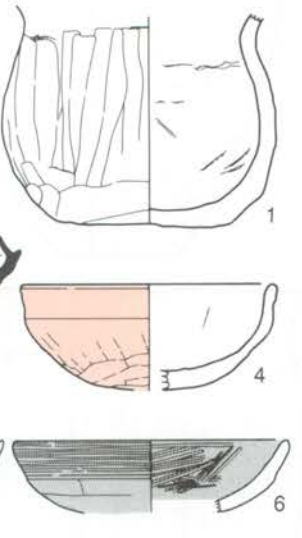
第109図　ＳＢ039土器実測図 ②

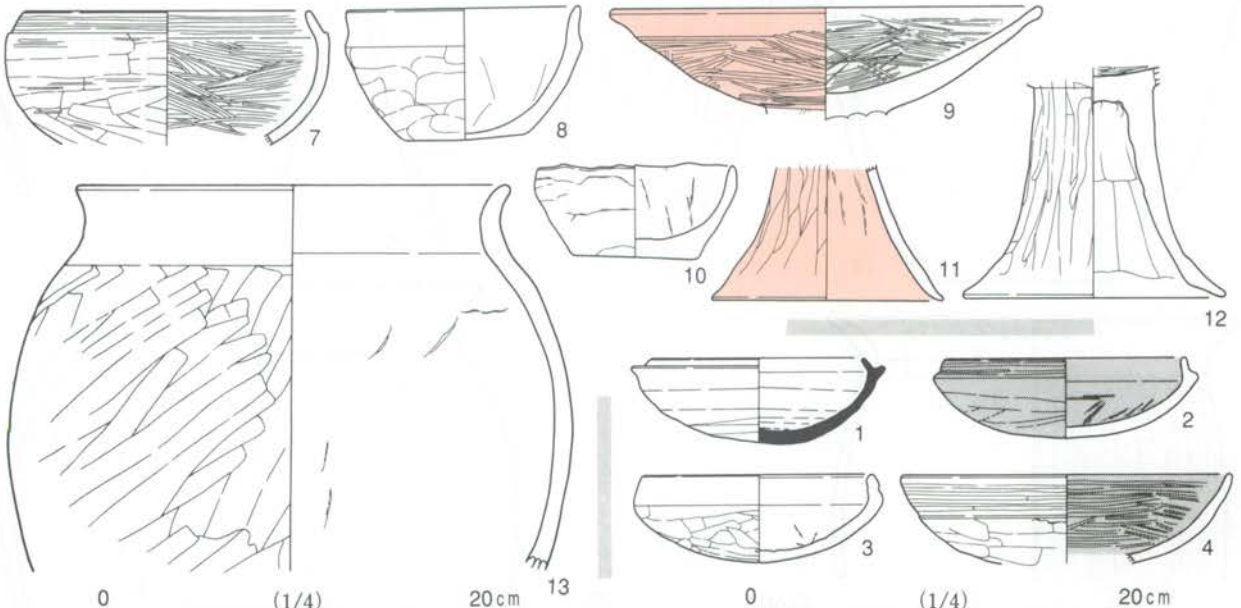


第110図　ＳＢ040土器実測図



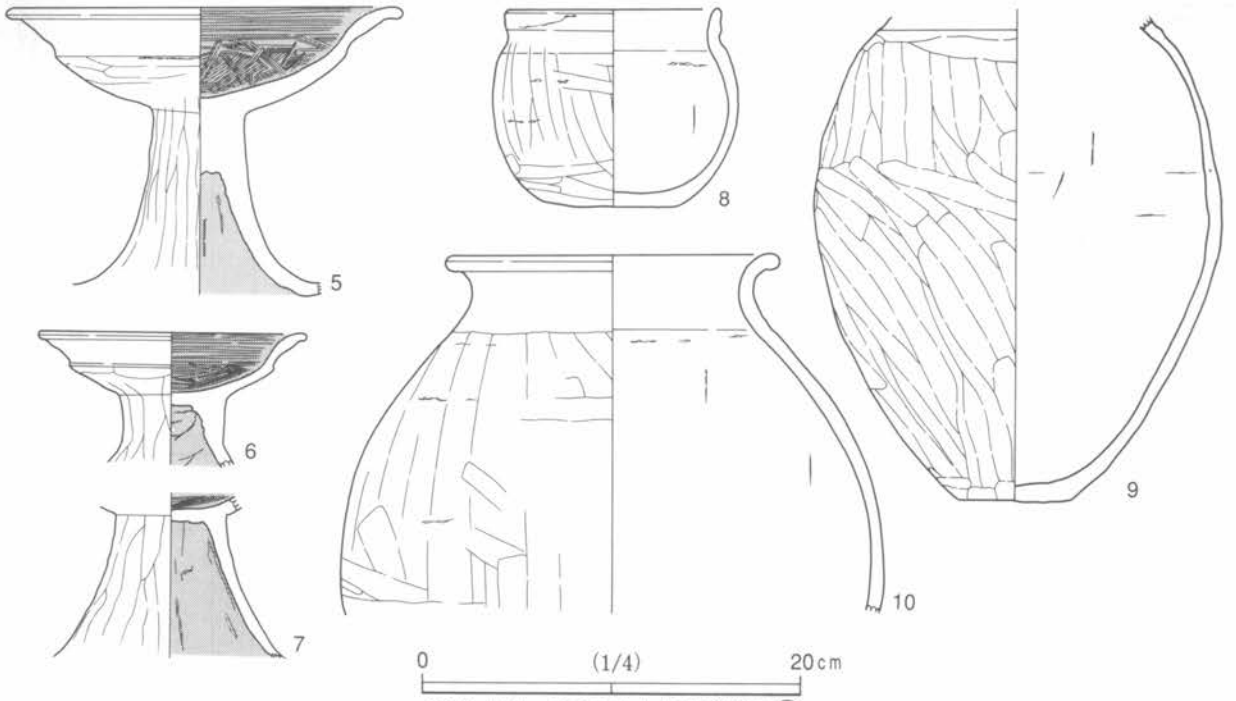
第111図　ＳＢ042土器実測図



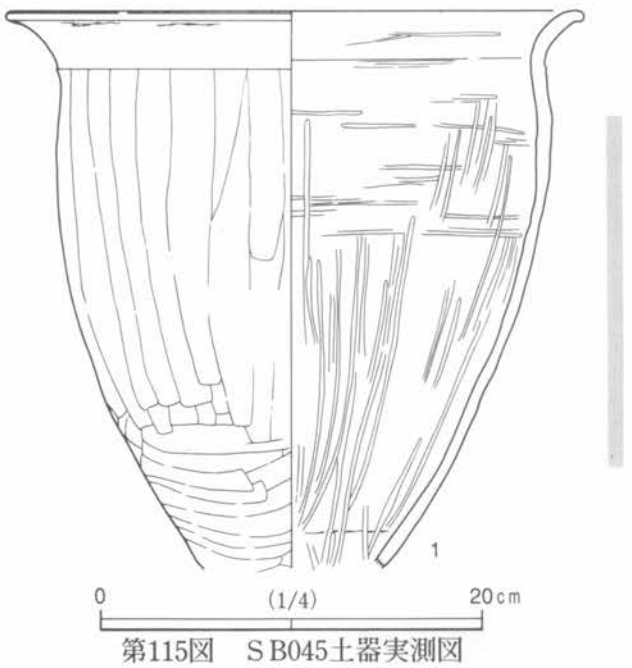


第112図　ＳＢ043土器実測図

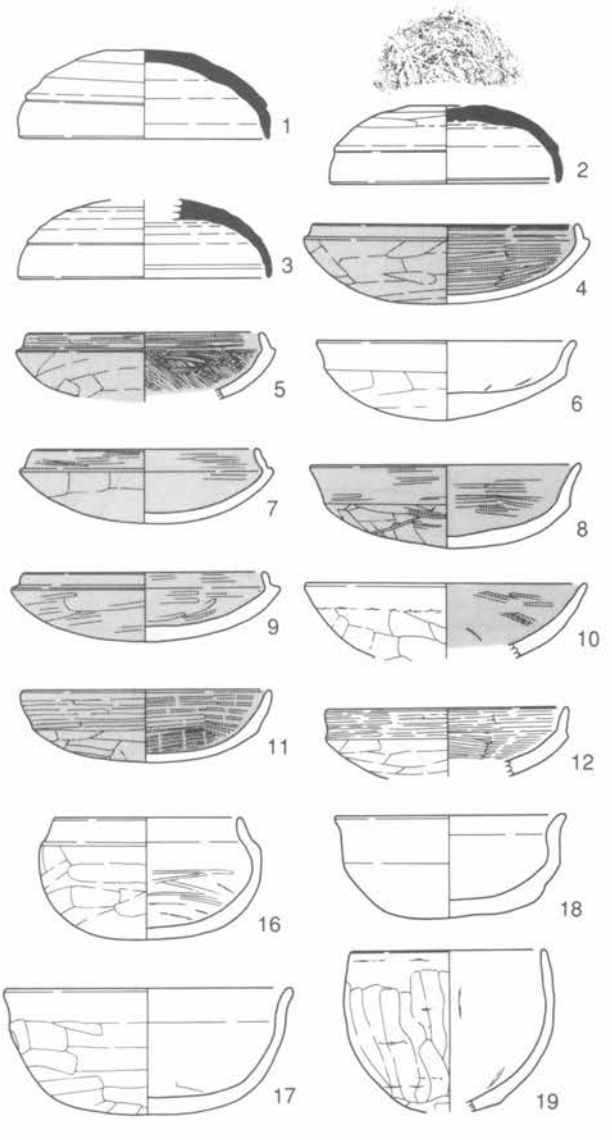
第113図　ＳＢ044土器実測図 ①

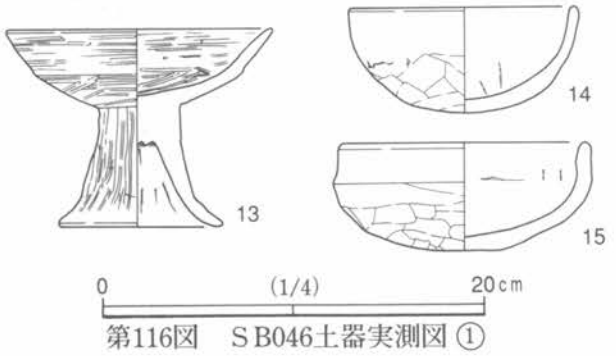


第114図　ＳＢ044土器実測図 ②

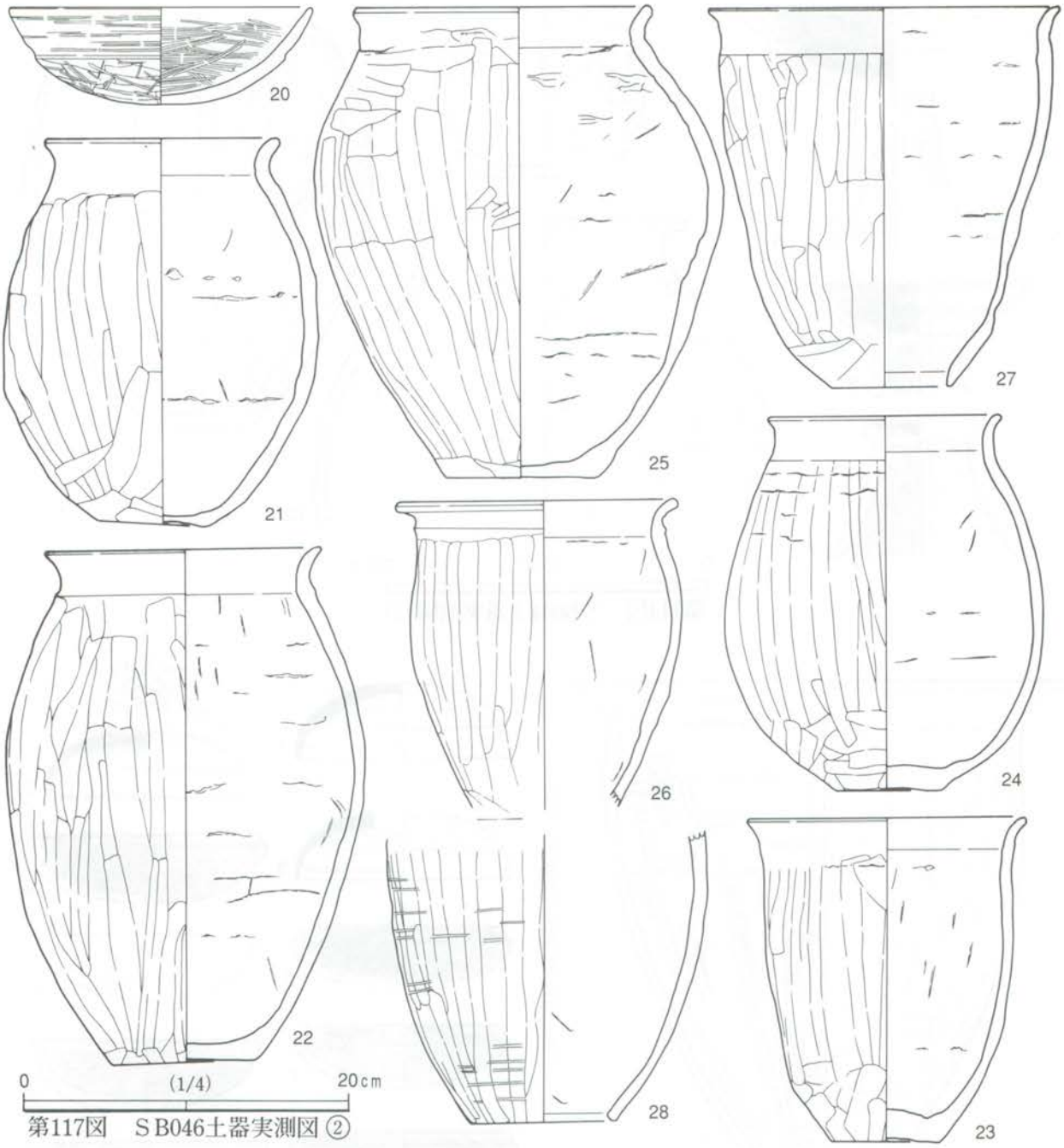


第115図　ＳＢ045土器実測図

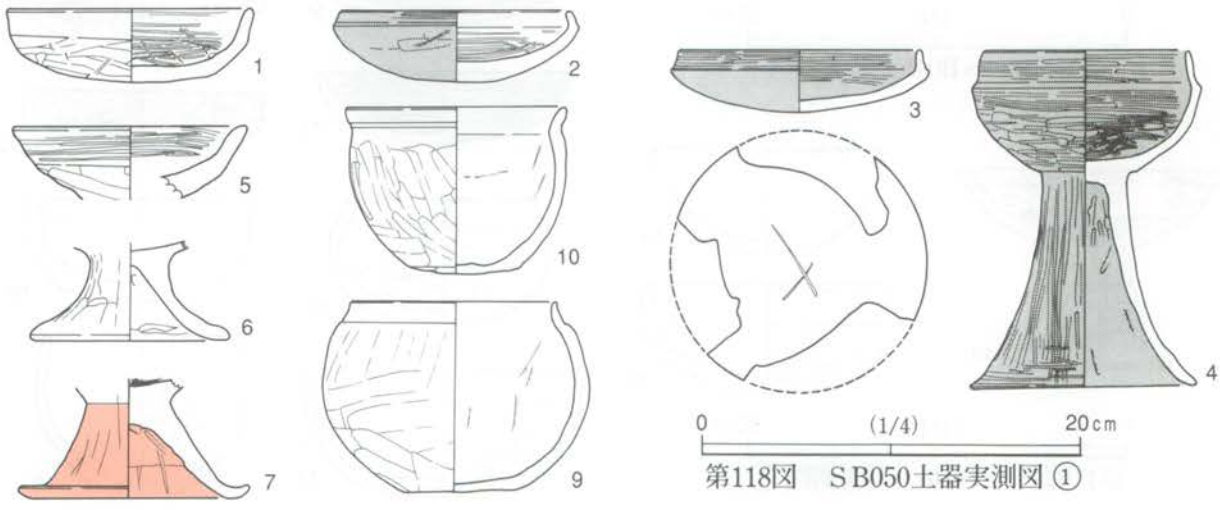




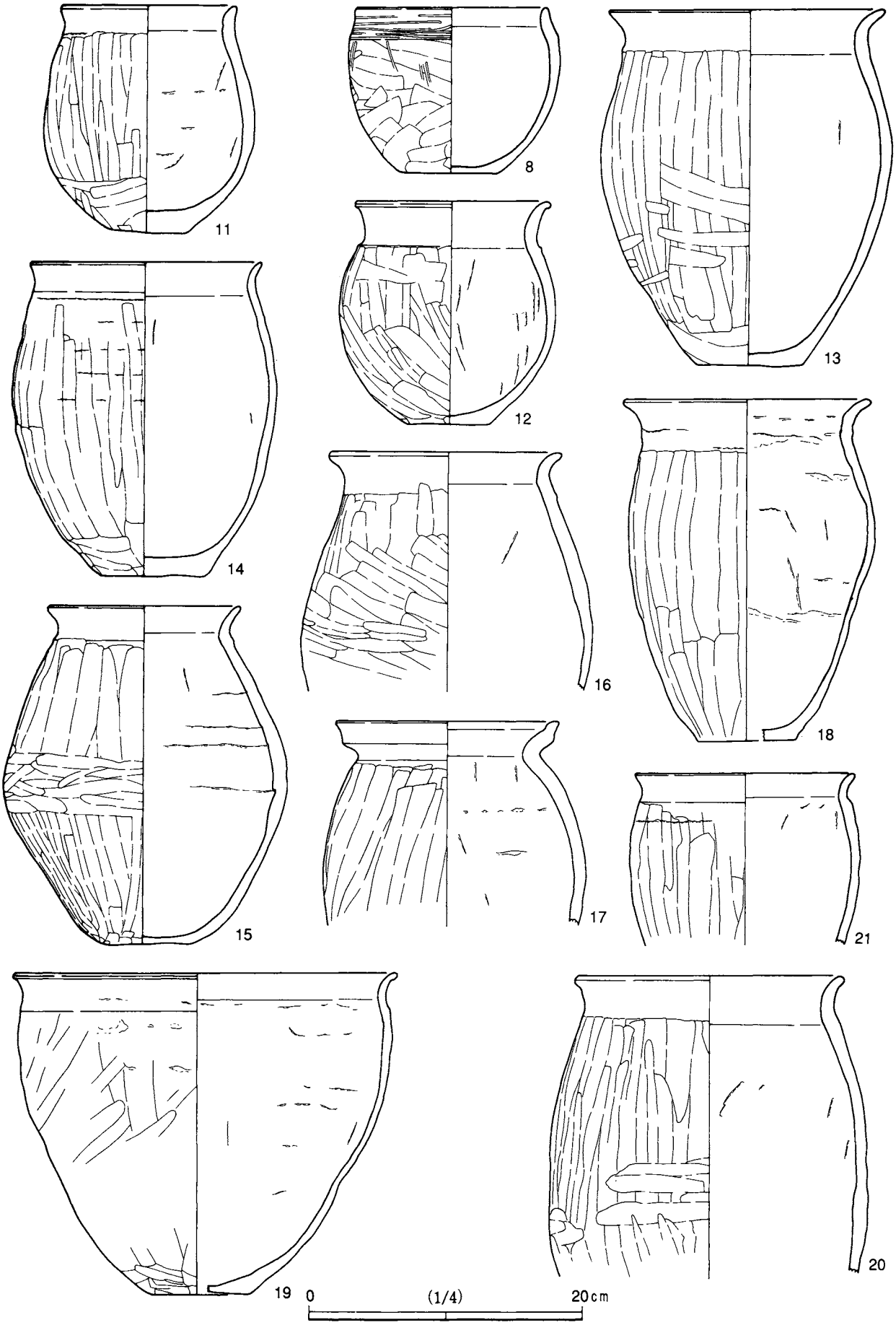
第116図　ＳＢ046土器実測図 ①



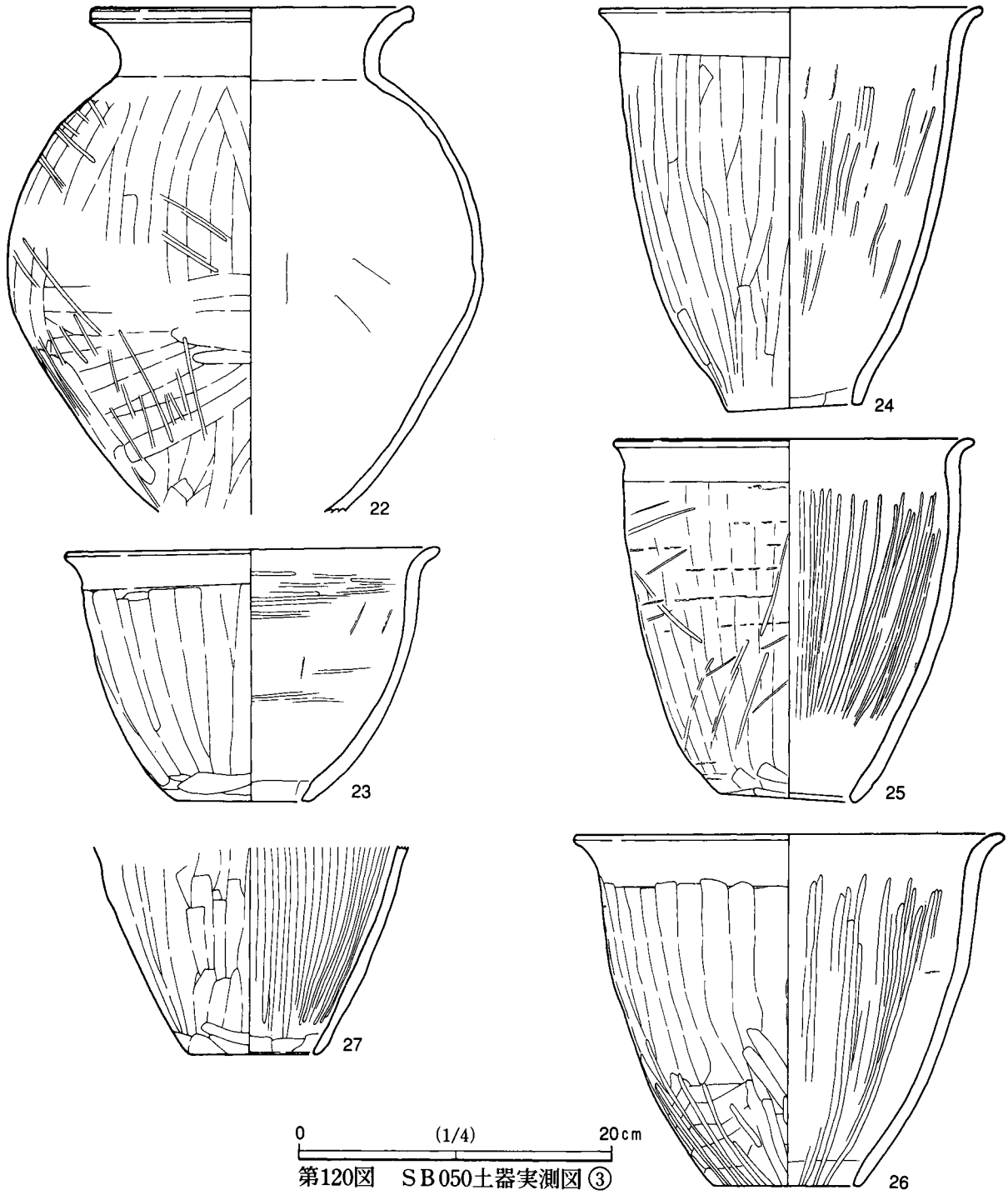
第117図　ＳＢ046土器実測図 ②



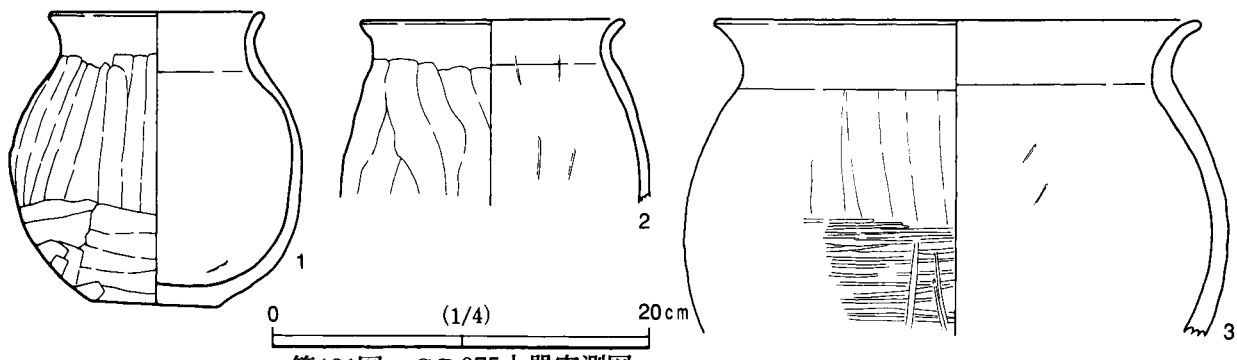
第118図　ＳＢ050土器実測図 ①



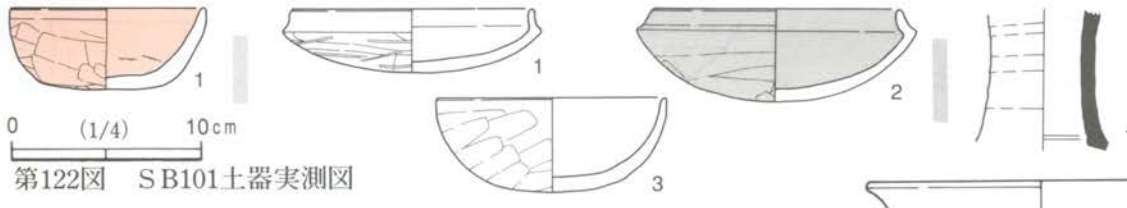
第119図　ＳＢ050土器実測図②



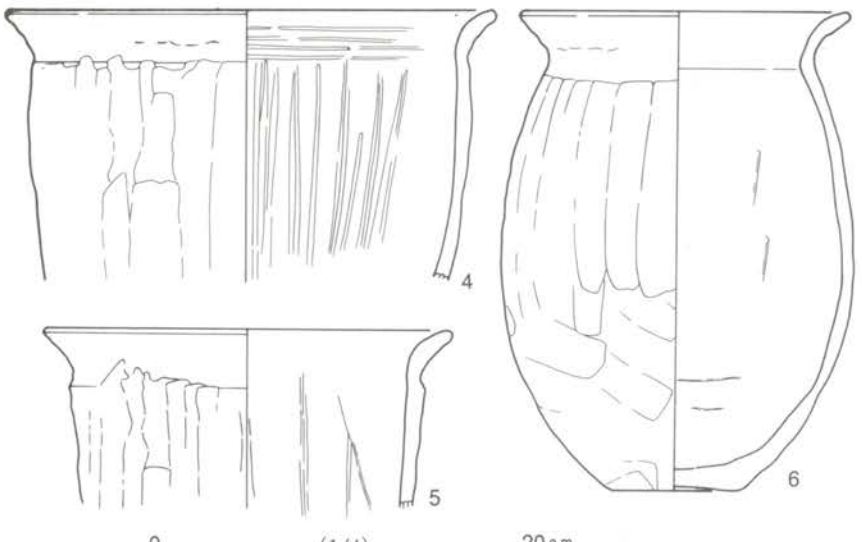
第120図　ＳＢ050土器実測図③



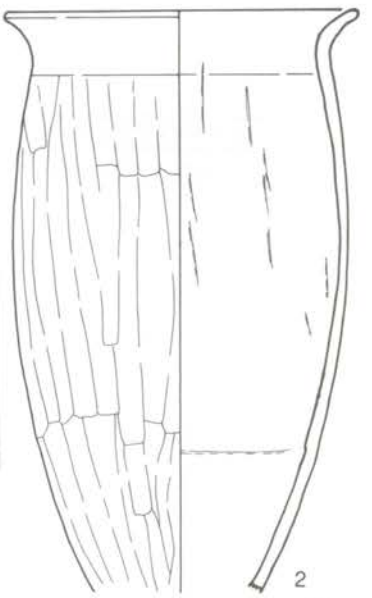
第121図　ＳＢ075土器実測図



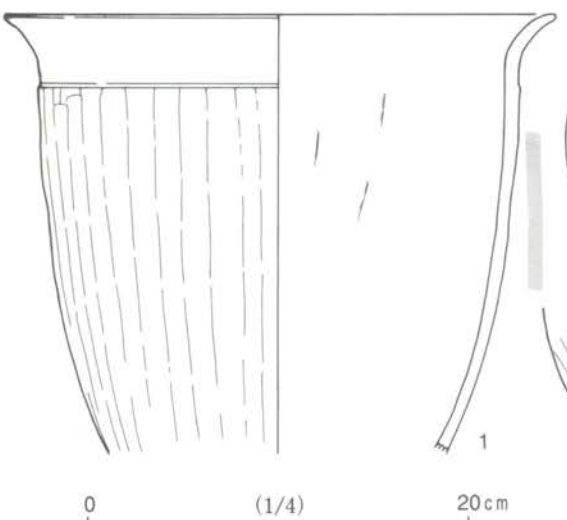
第122図　ＳＢ101土器実測図



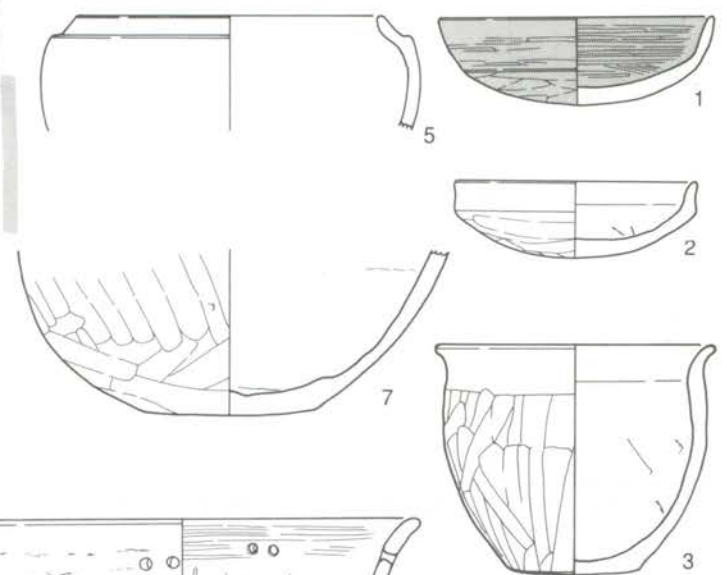
第123図　ＳＢ102Ａ土器実測図

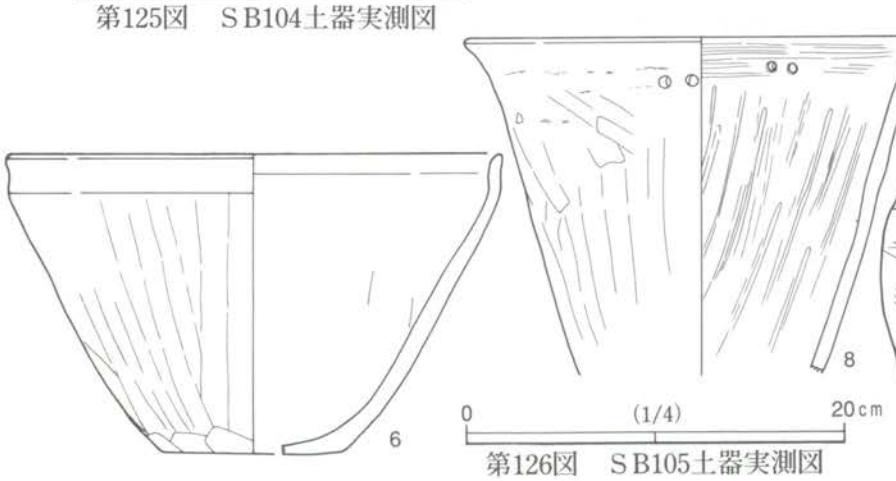


第124図　ＳＢ103土器実測図

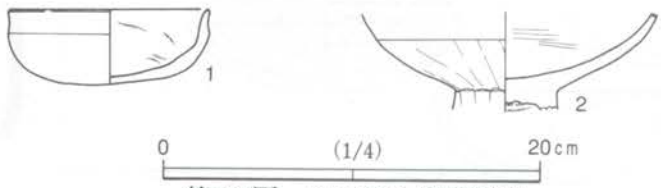


第125図　ＳＢ104土器実測図

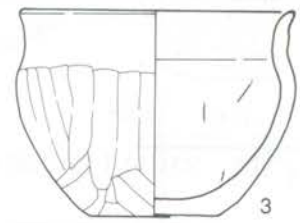


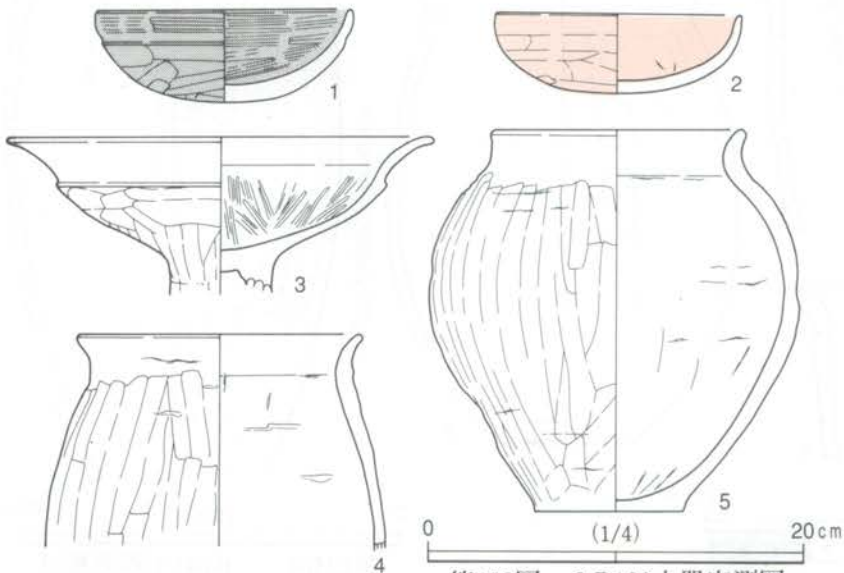


第126図　ＳＢ105土器実測図

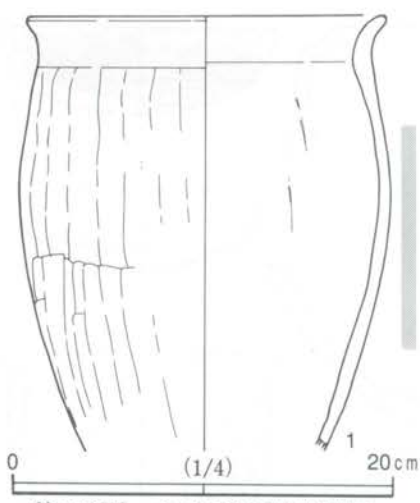


第127図　ＳＢ106土器実測図

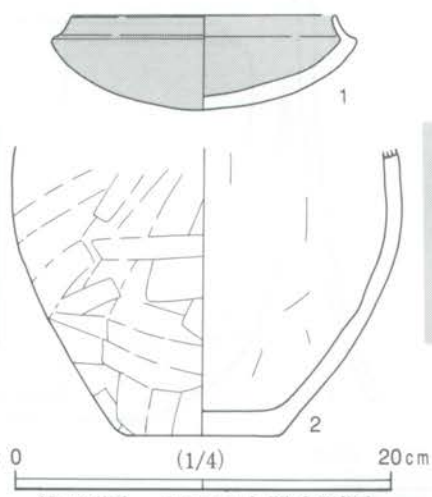




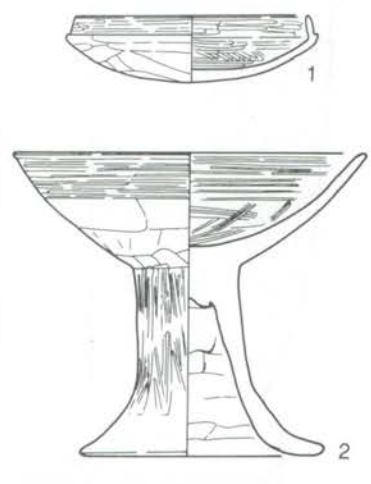
第128図　ＳＢ108土器実測図

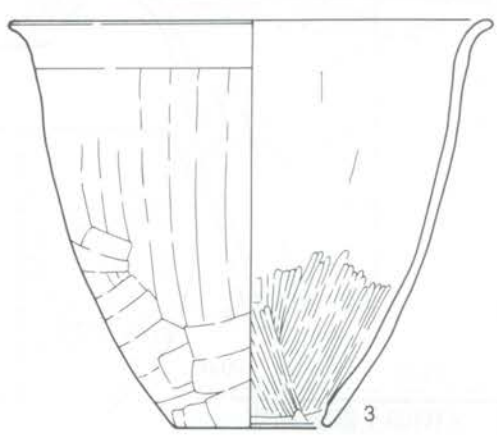


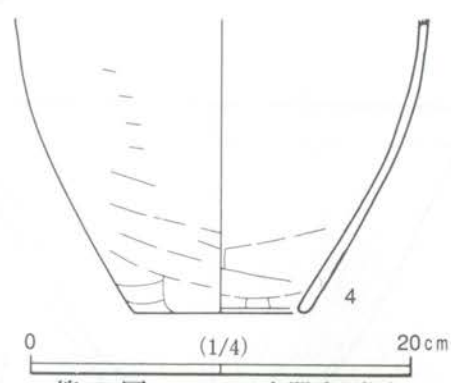
第129図　ＳＢ110土器実測図



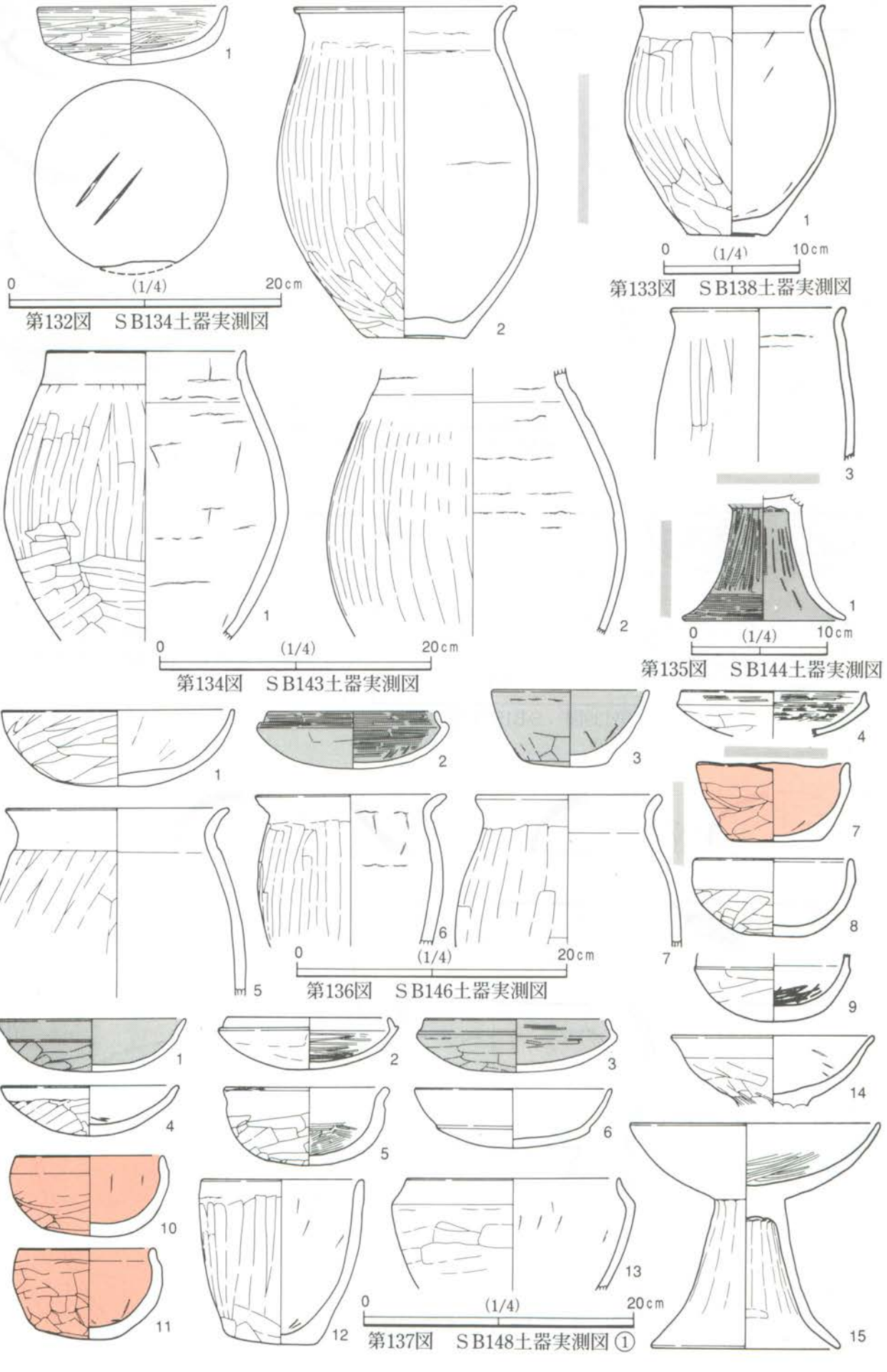
第130図　ＳＢ111土器実測図







第131図　ＳＢ129土器実測図



第132図　ＳＢ134土器実測図

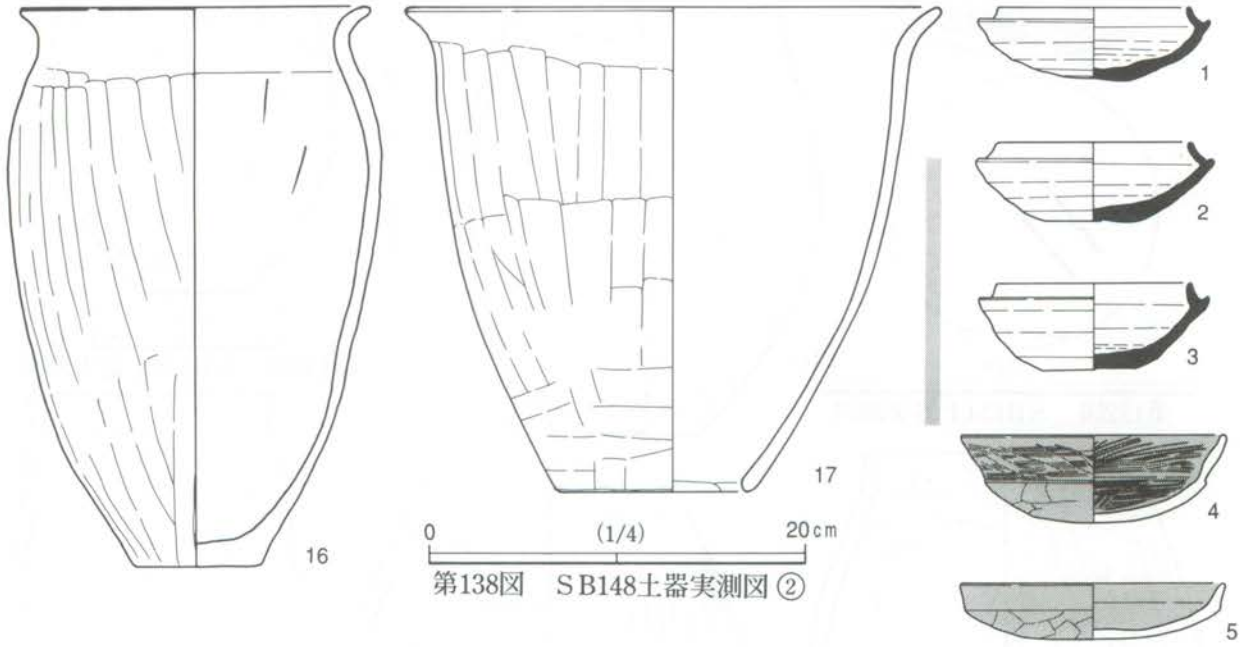
第133図　ＳＢ138土器実測図

第134図　ＳＢ143土器実測図

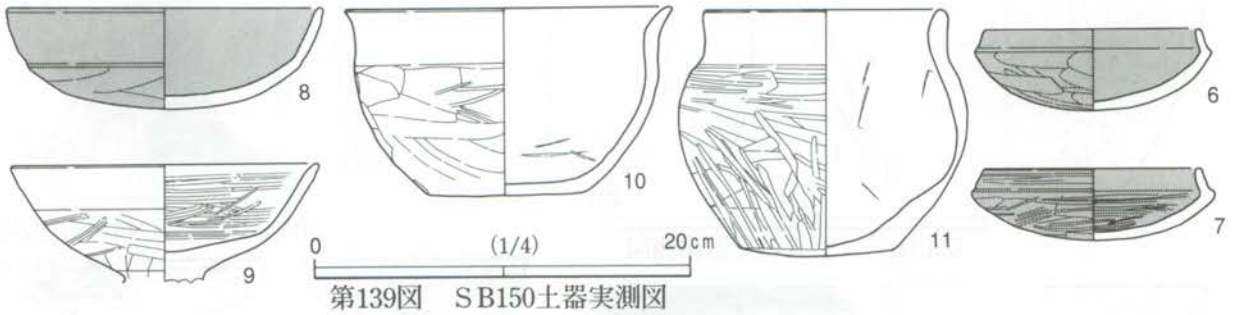
第135図　ＳＢ144土器実測図

第136図　ＳＢ146土器実測図

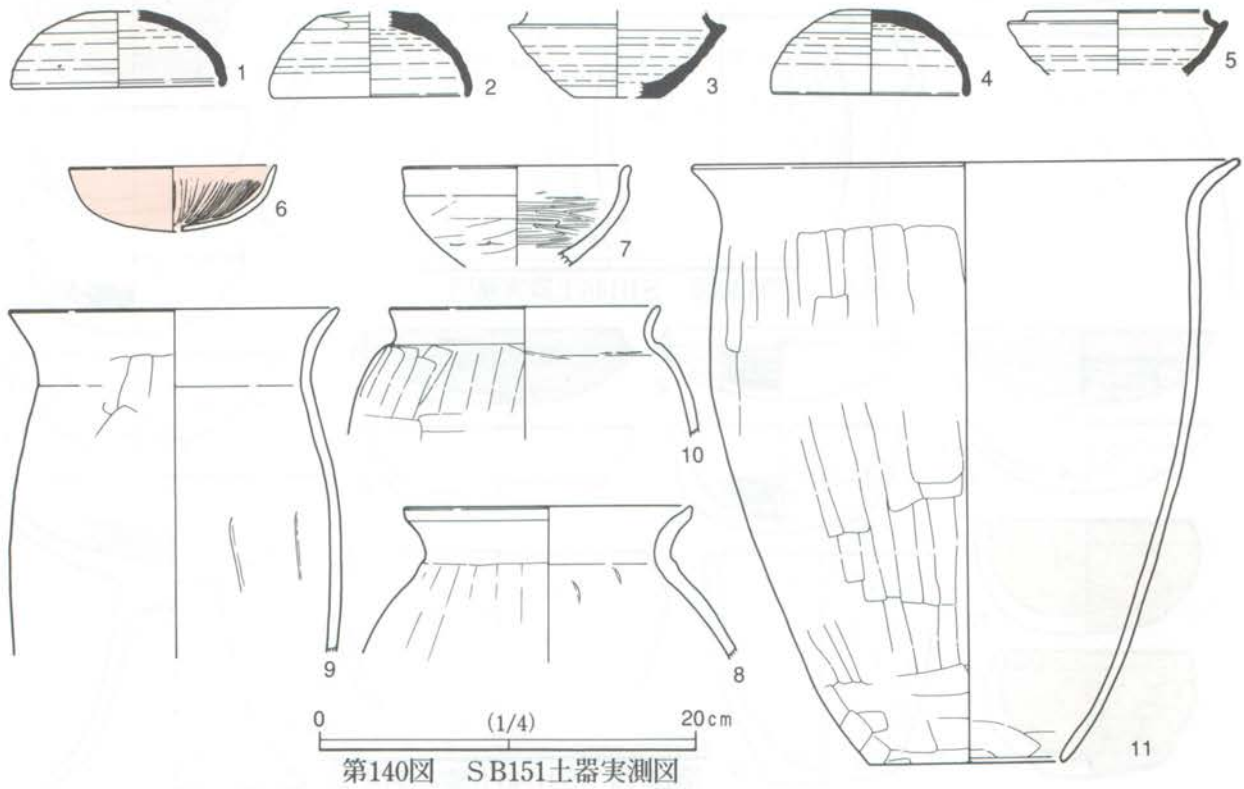
第137図　ＳＢ148土器実測図 ①



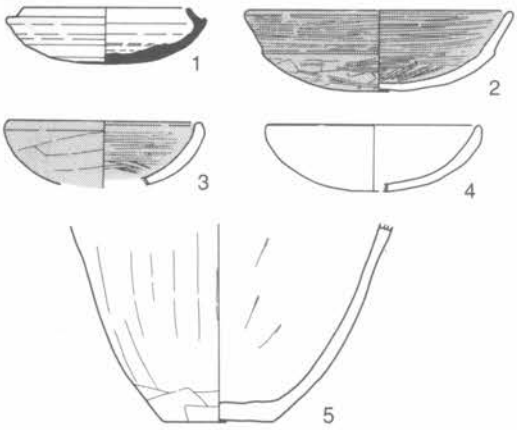
第138図　ＳＢ148土器実測図 ②



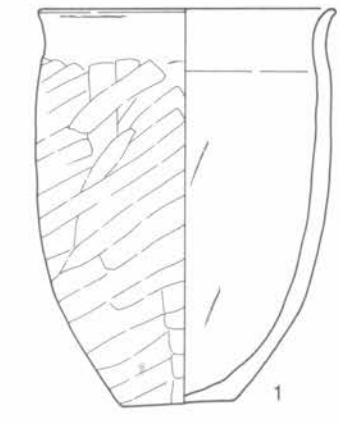
第139図　ＳＢ150土器実測図



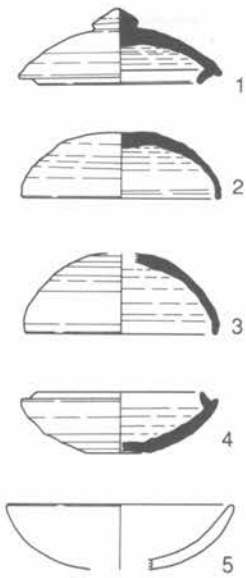
第140図　ＳＢ151土器実測図

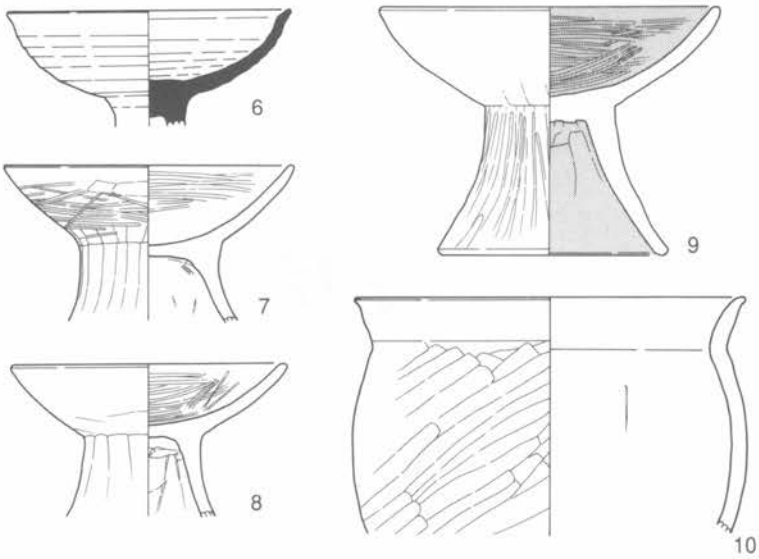


第141図　ＳＢ152土器実測図

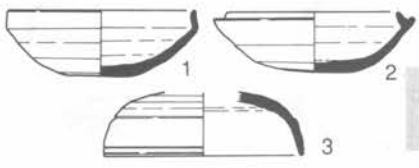


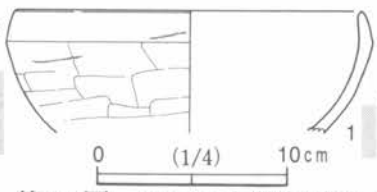
第142図　ＳＢ153土器実測図



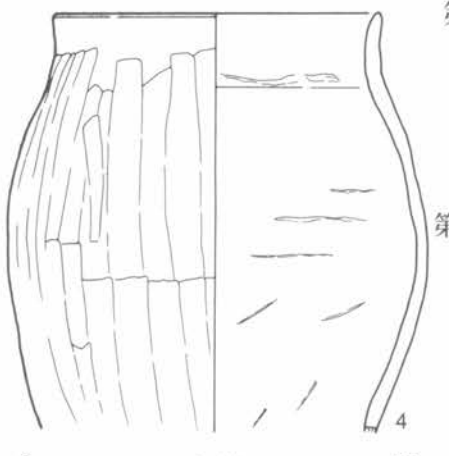


第143図　ＳＢ154土器実測図



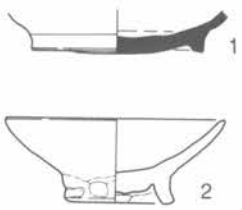


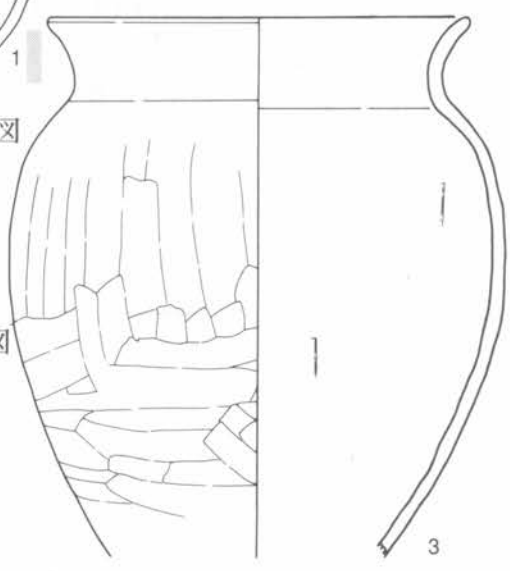
第144図　ＳＢ155土器実測図



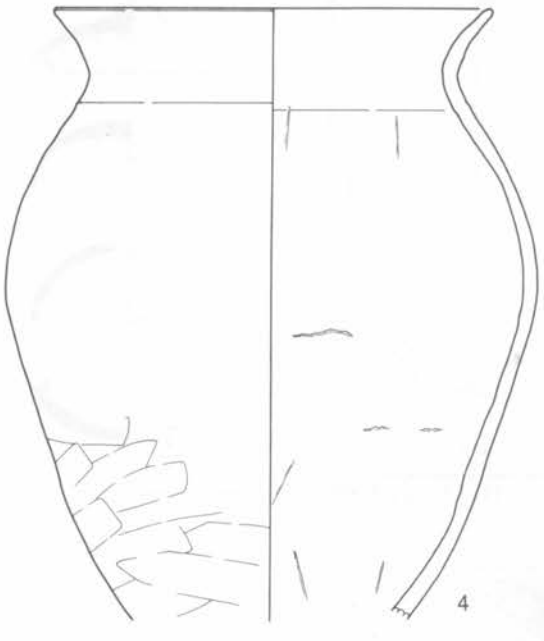
第146図　ＳＢ158土器実測図

第145図　ＳＢ157土器実測図

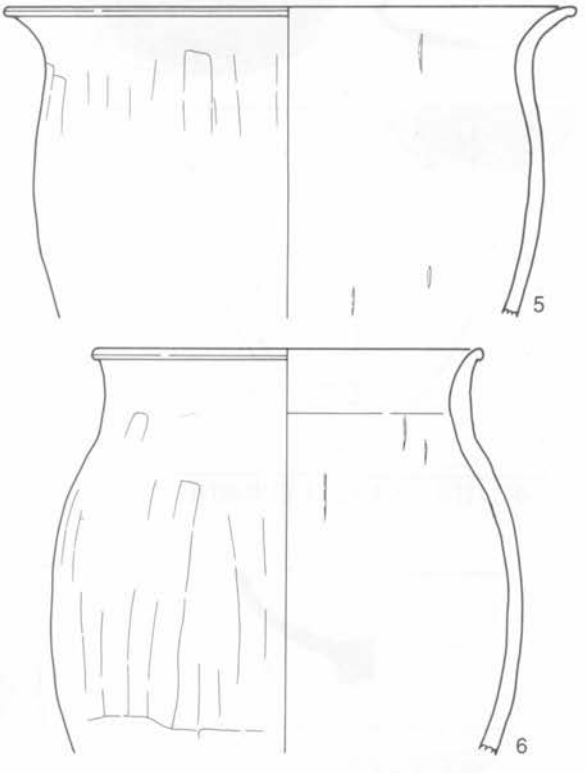


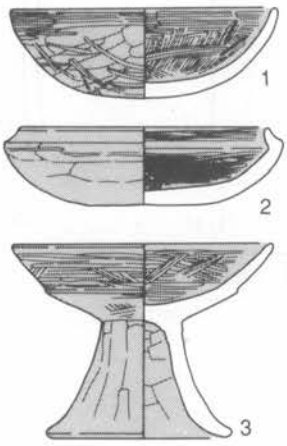


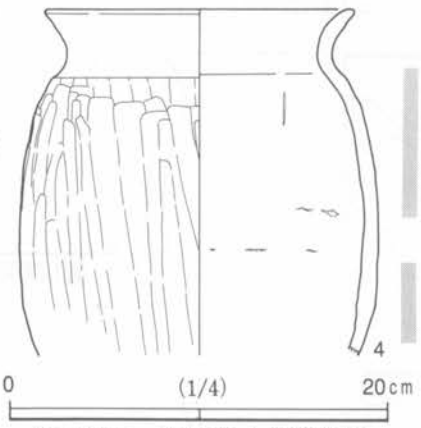
第147図　ＳＢ159土器実測図 ①



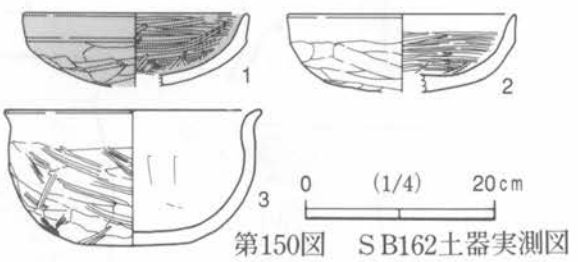
第148図　ＳＢ159土器実測図②



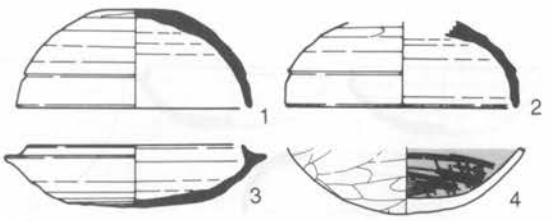


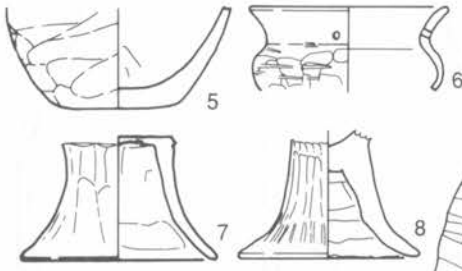


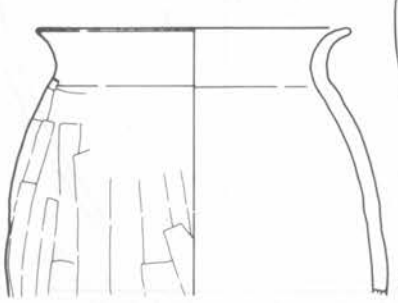
第149図　ＳＢ161土器実測図

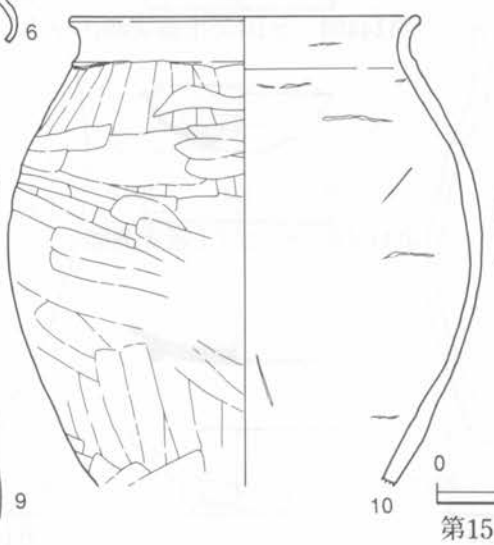


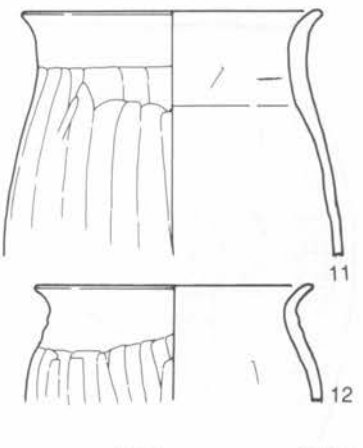
第150図　ＳＢ162土器実測図



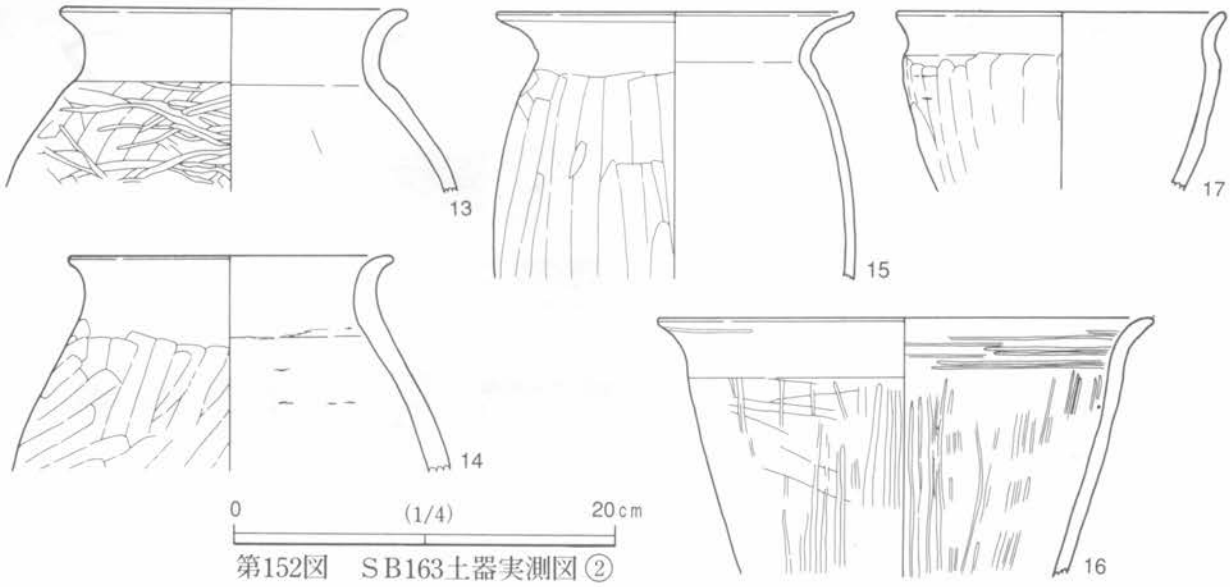




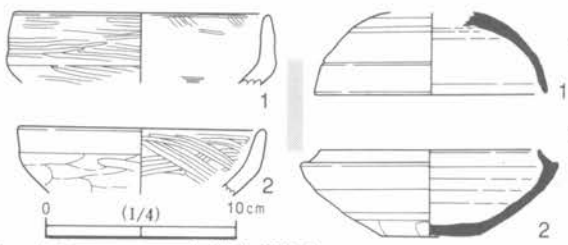


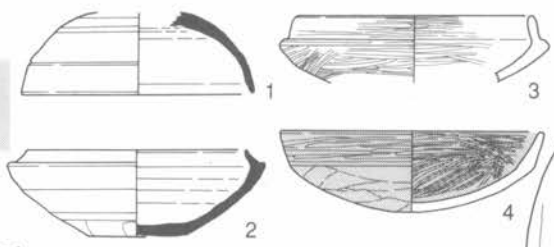


第151図　ＳＢ163土器実測図①

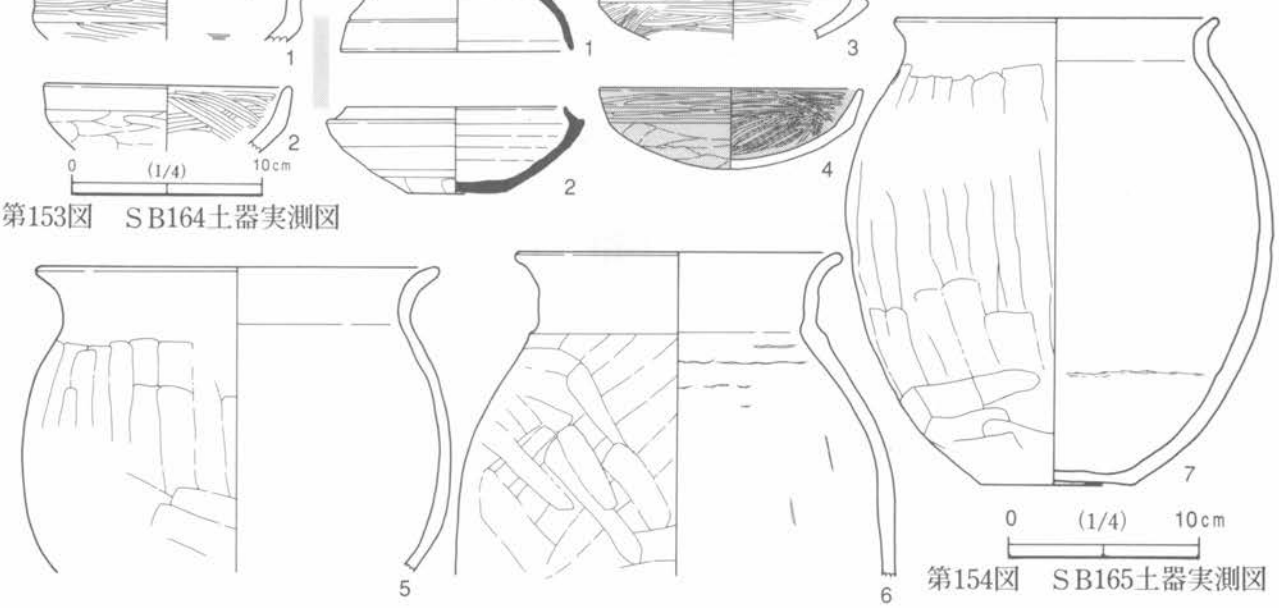


第152図　ＳＢ163土器実測図②

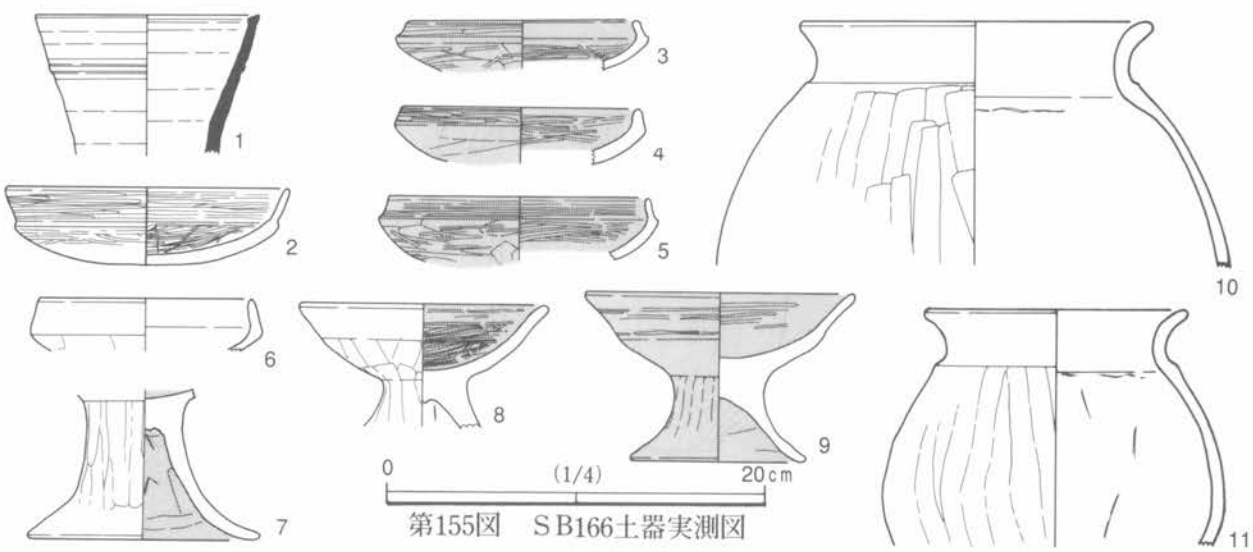




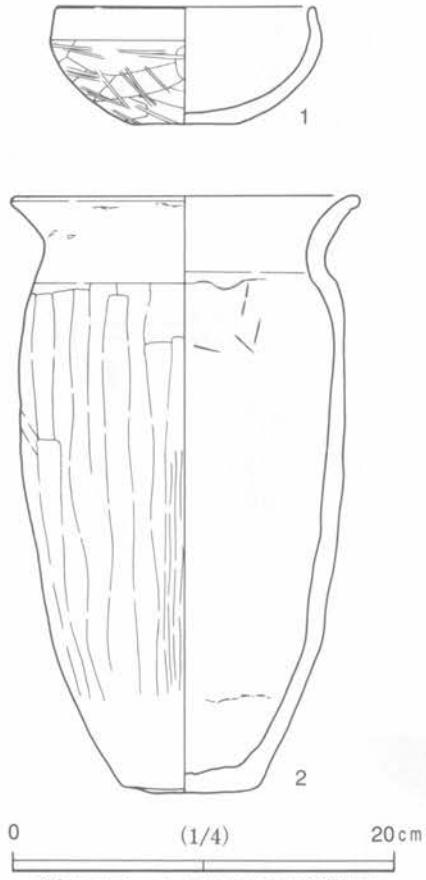
第153図　ＳＢ164土器実測図



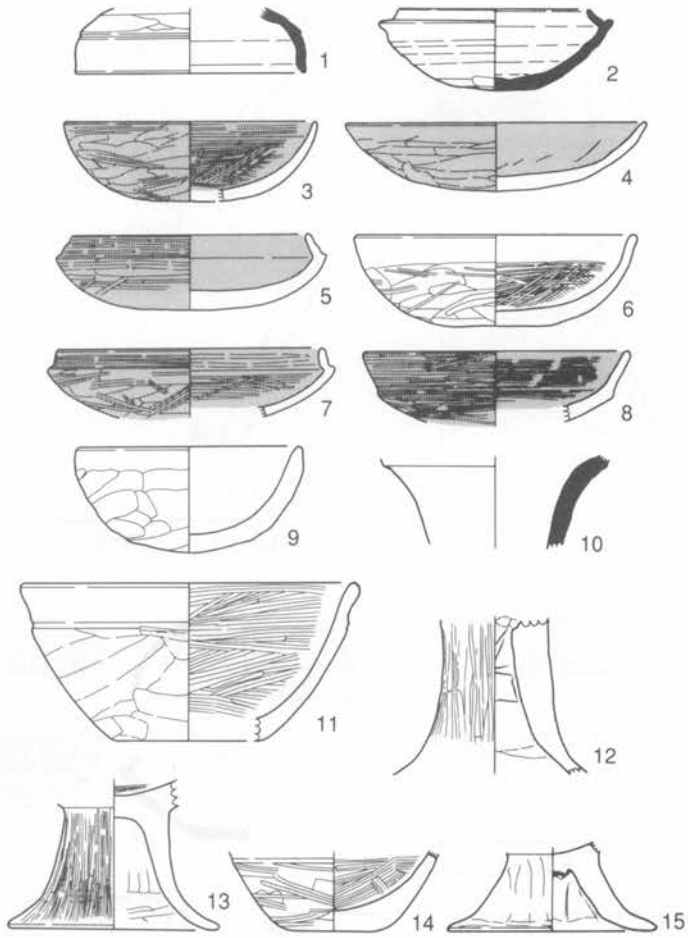
第154図　ＳＢ165土器実測図

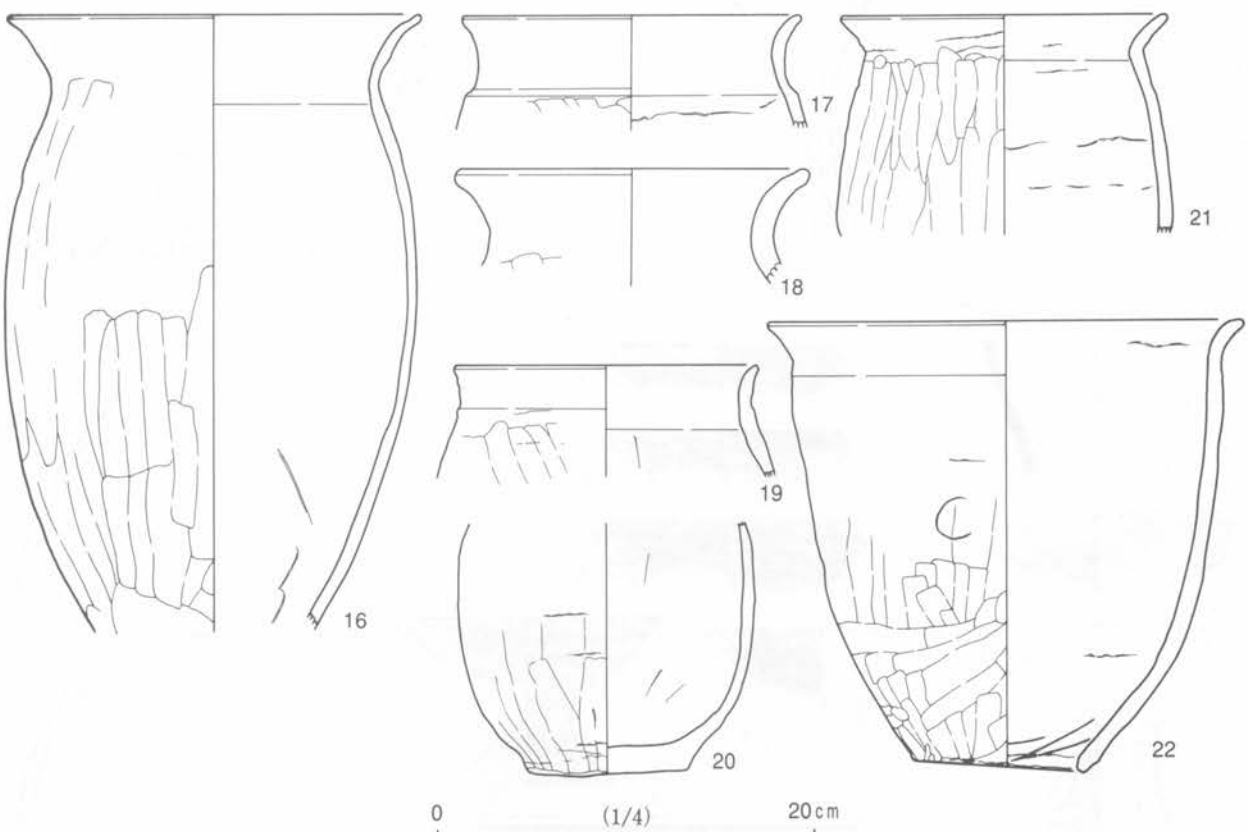


第155図　ＳＢ166土器実測図

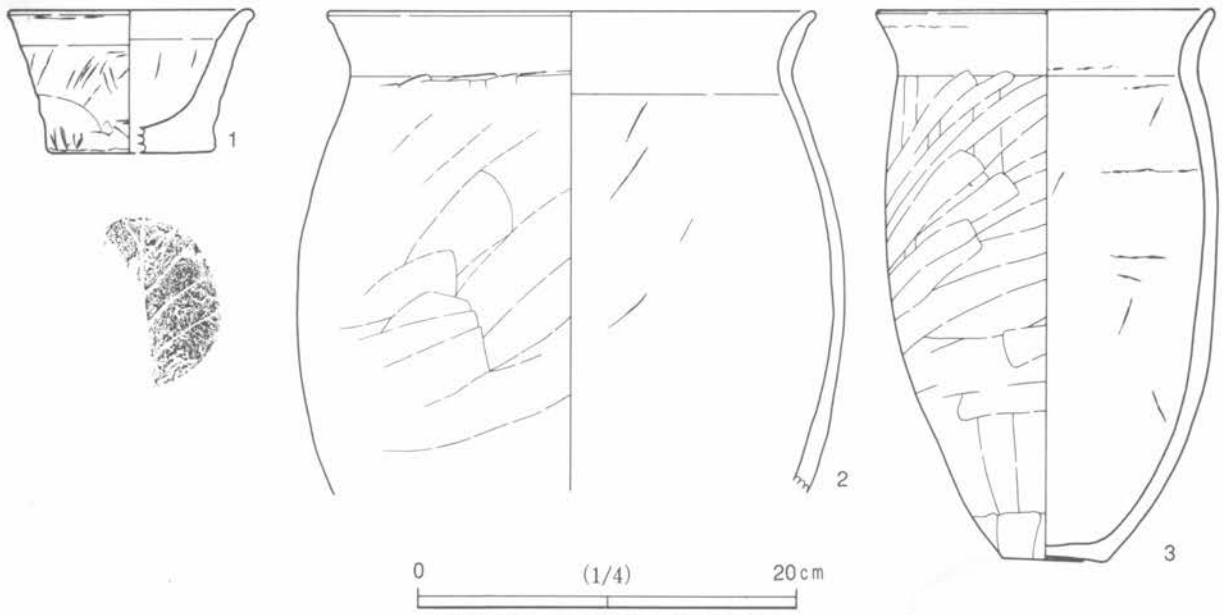


第156図　ＳＢ168土器実測図

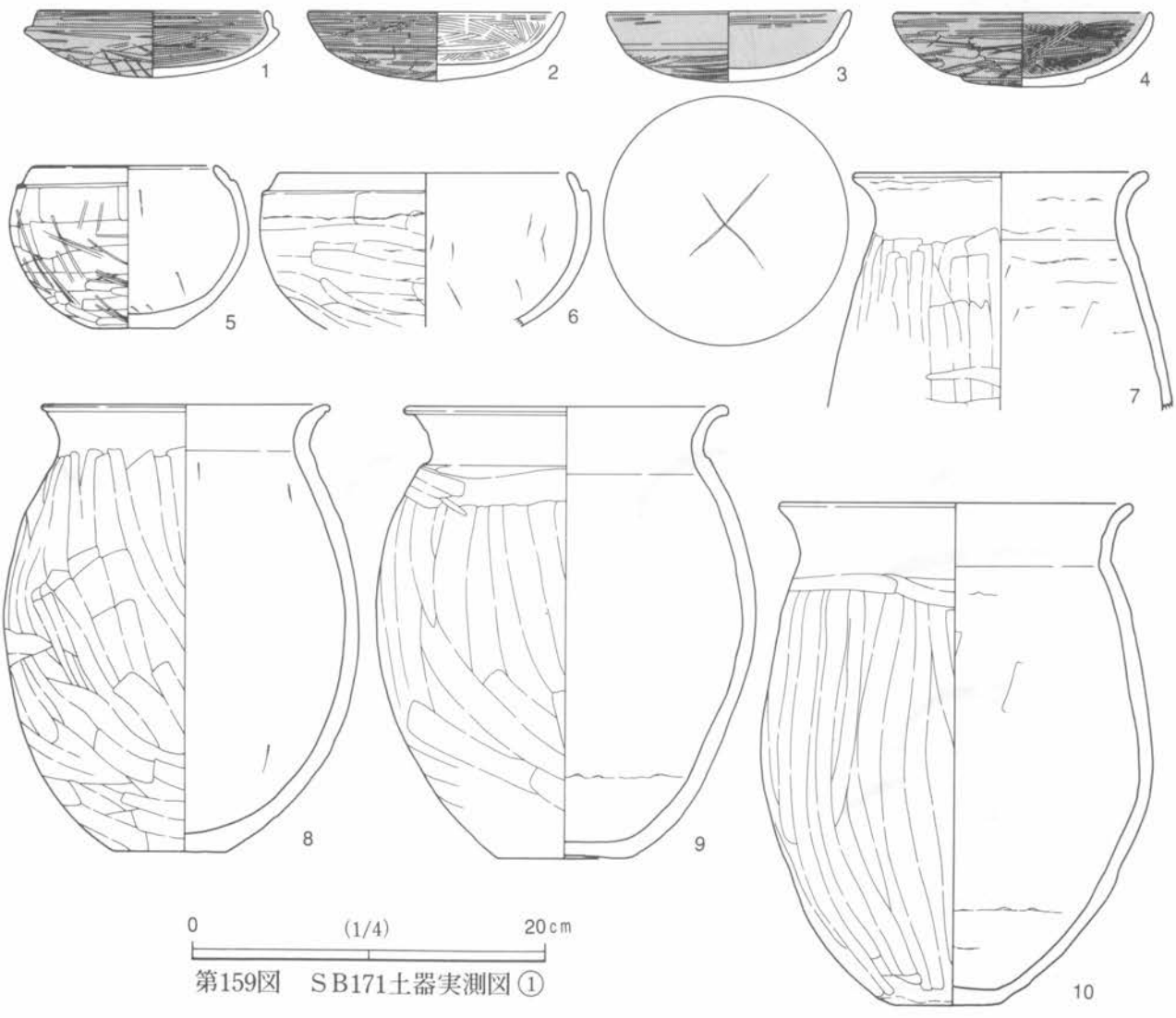




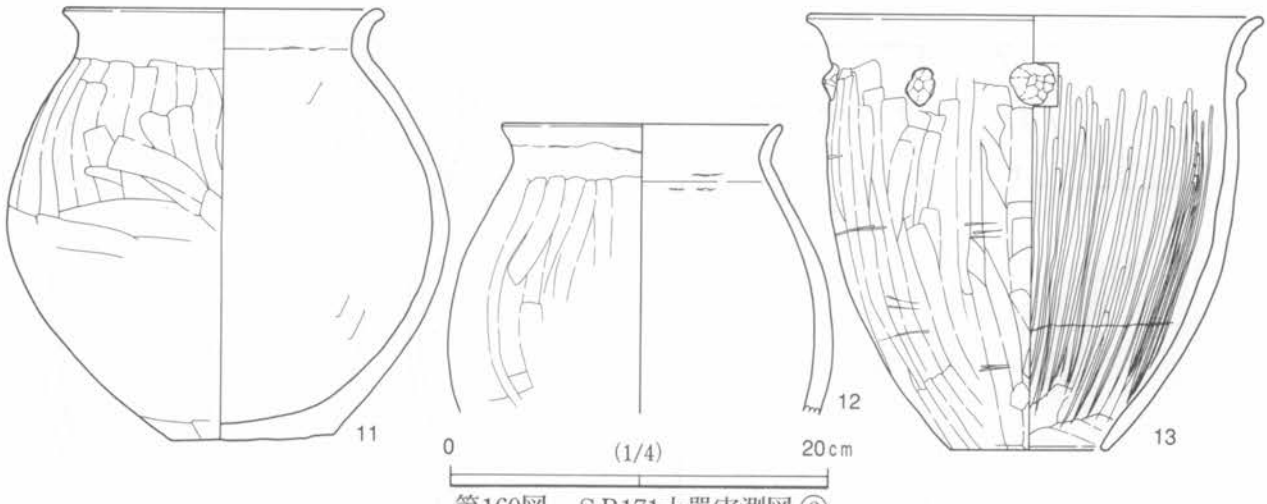
第157図　ＳＢ169土器実測図



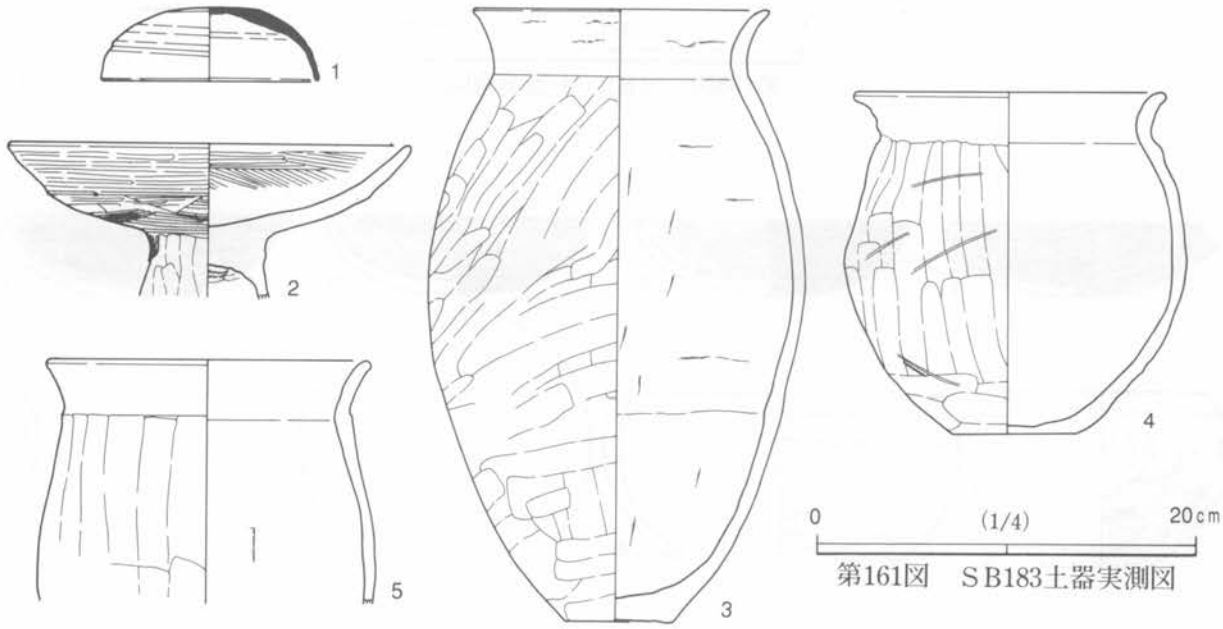
第158図　ＳＢ170土器実測図



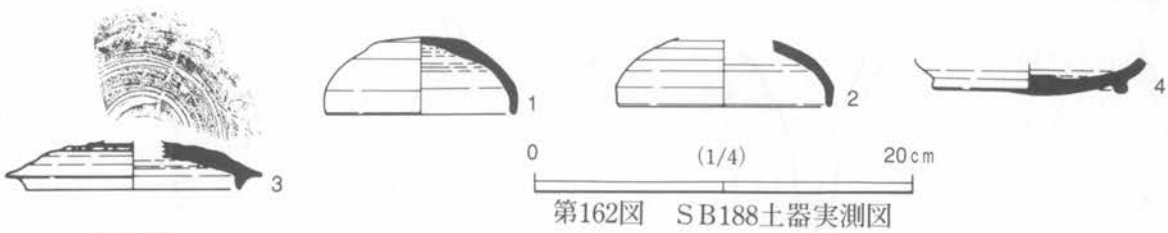
第159図　ＳＢ171土器実測図①



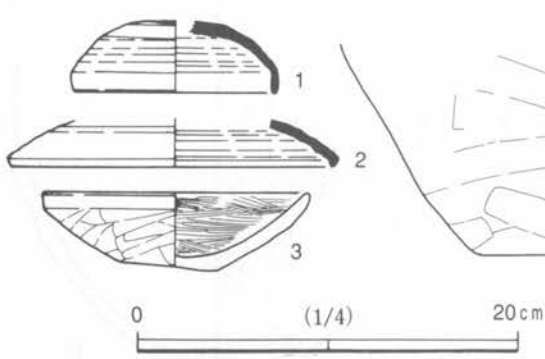
第160図　ＳＢ171土器実測図②



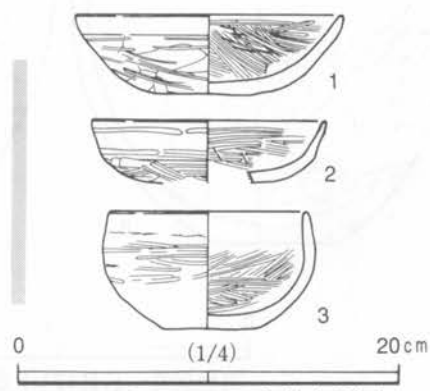
第161図　ＳＢ183土器実測図



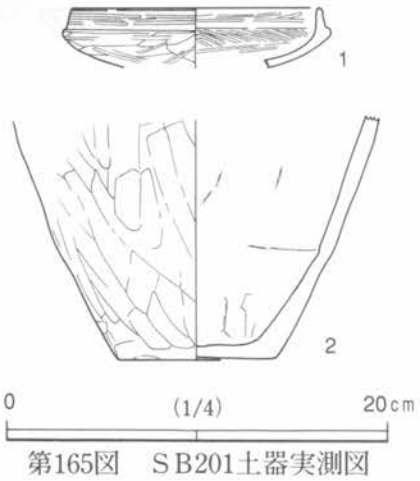
第162図　ＳＢ188土器実測図



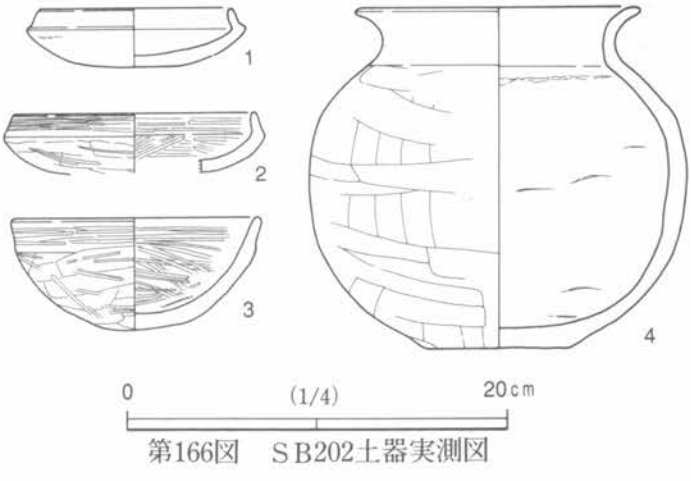
第163図　ＳＢ189土器実測図



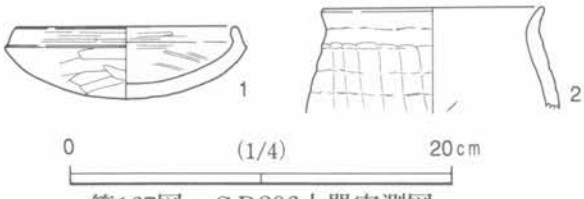
第164図　ＳＢ198土器実測図



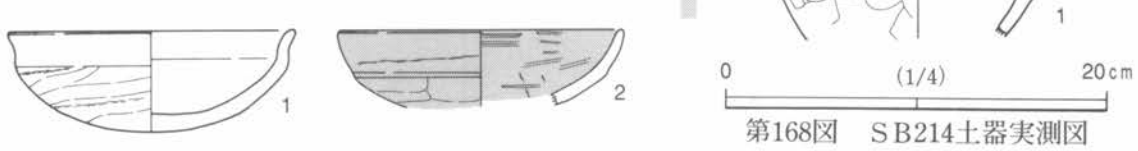
第165図　ＳＢ201土器実測図



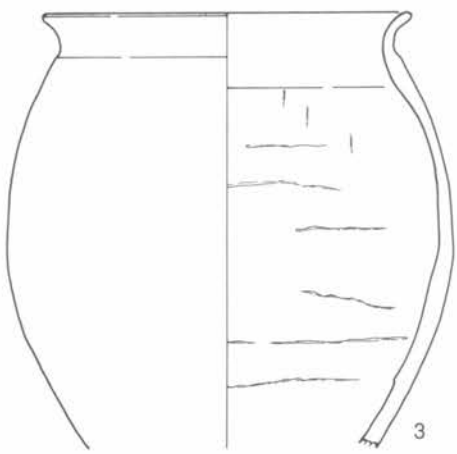
第166図　ＳＢ202土器実測図

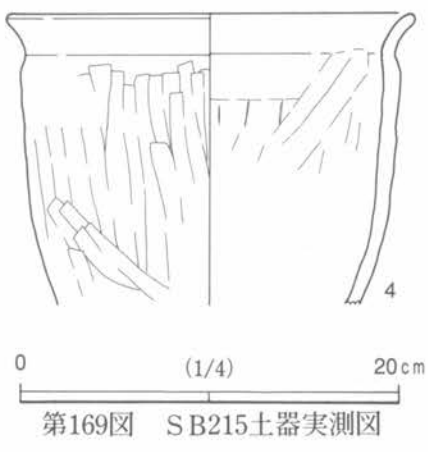


第167図　ＳＢ206土器実測図

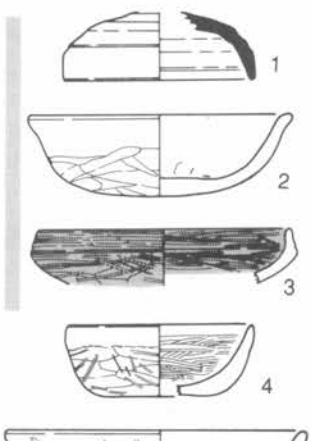


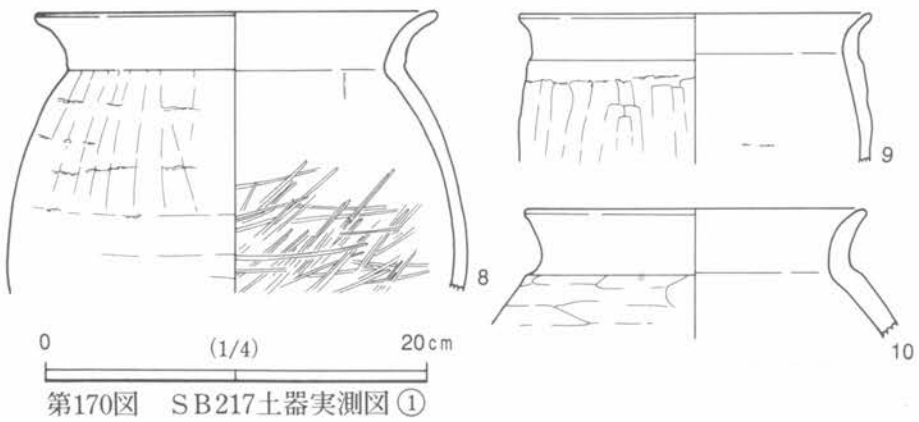
第168図　ＳＢ214土器実測図



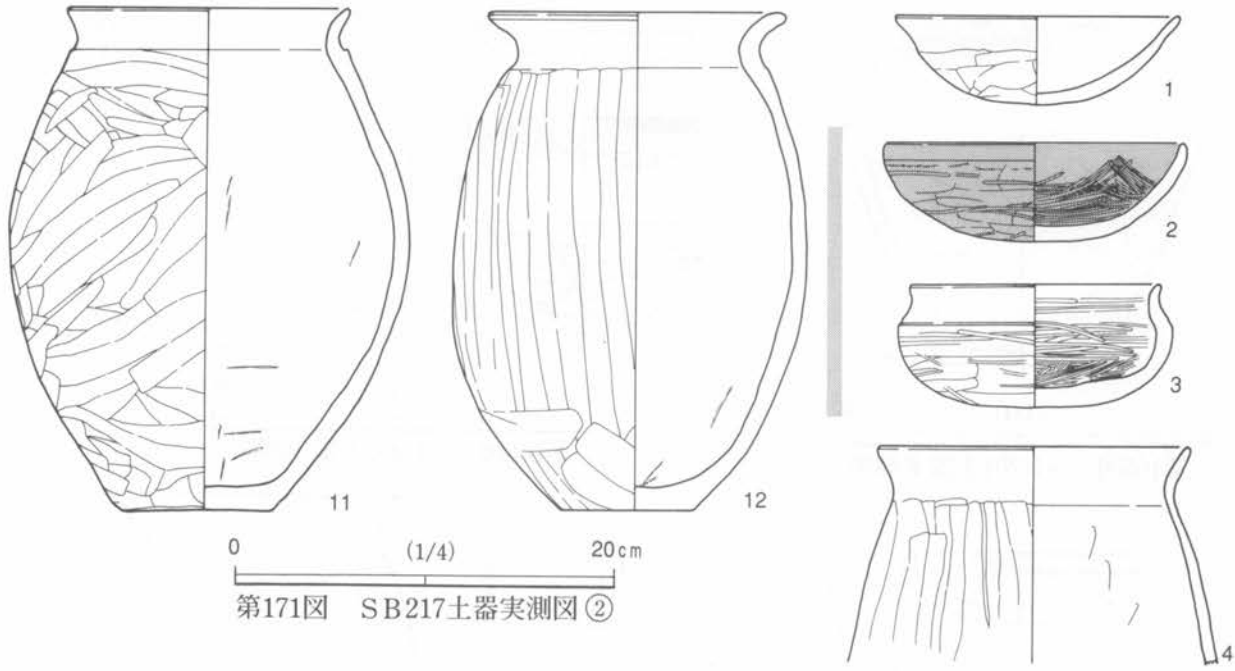


第169図　ＳＢ215土器実測図

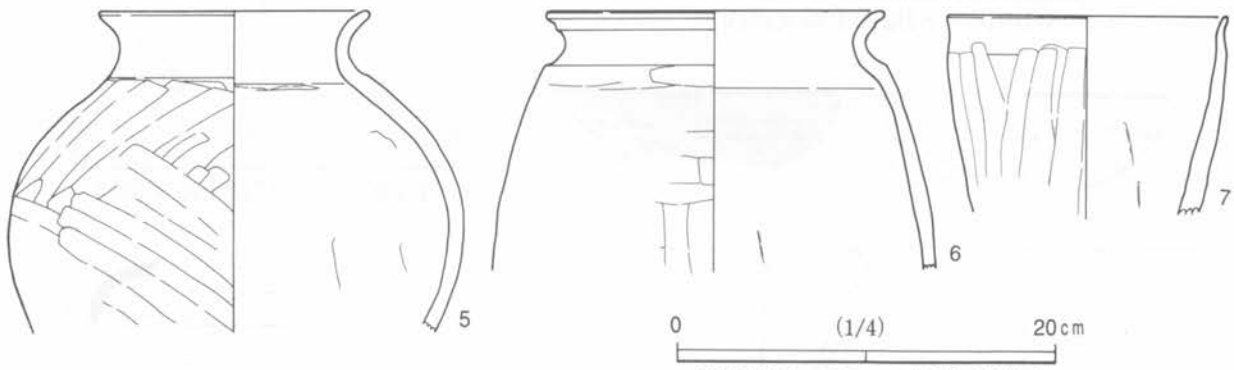




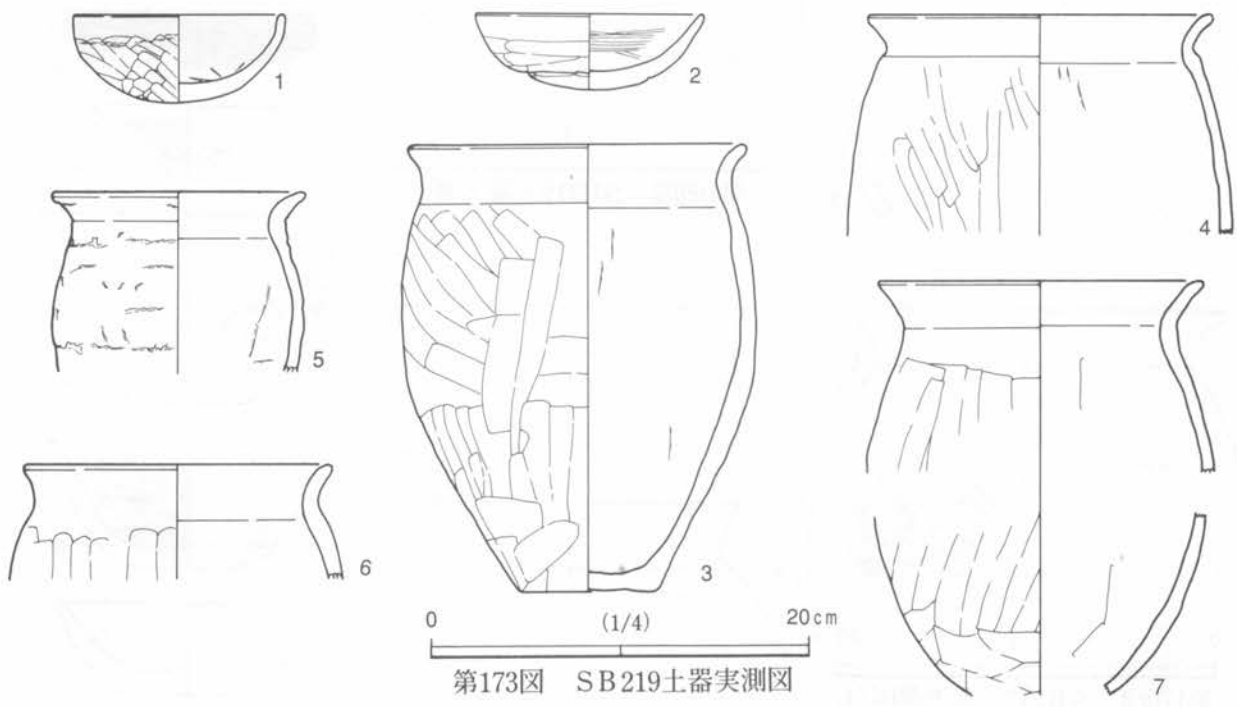
第170図　ＳＢ217土器実測図①



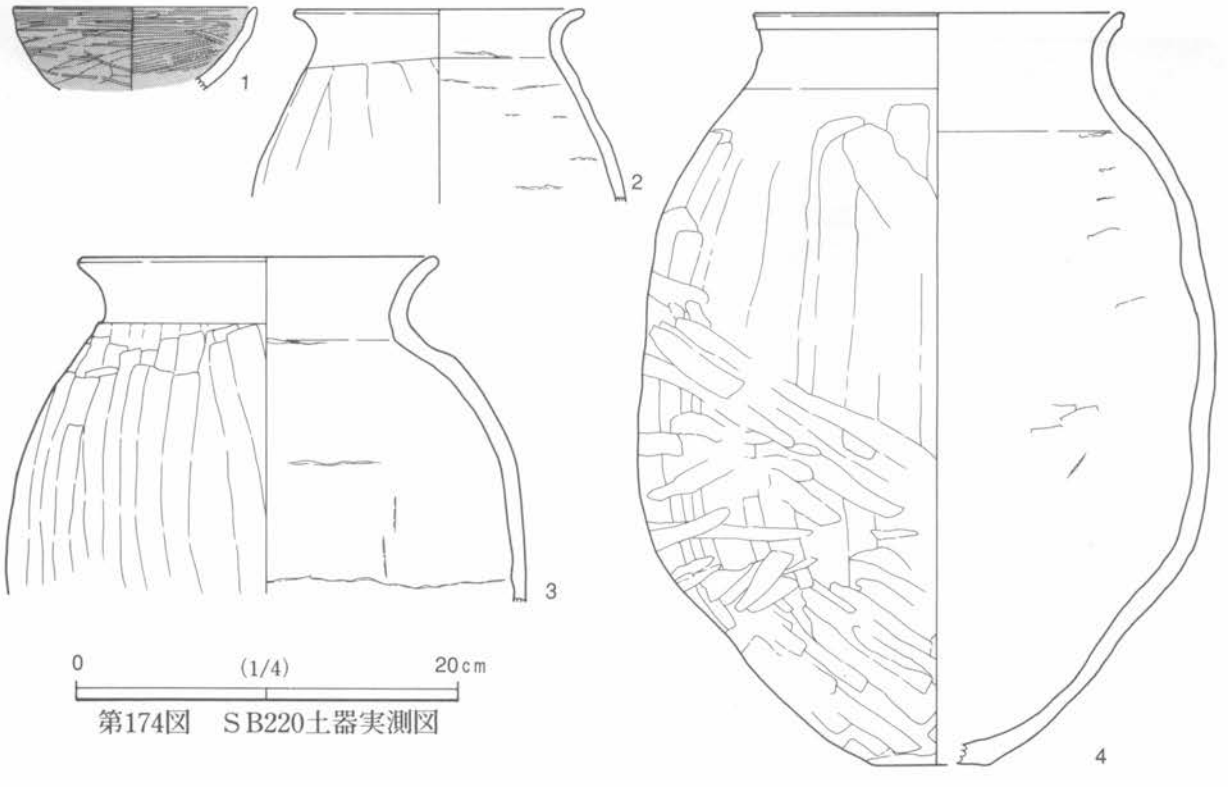
第171図　ＳＢ217土器実測図②



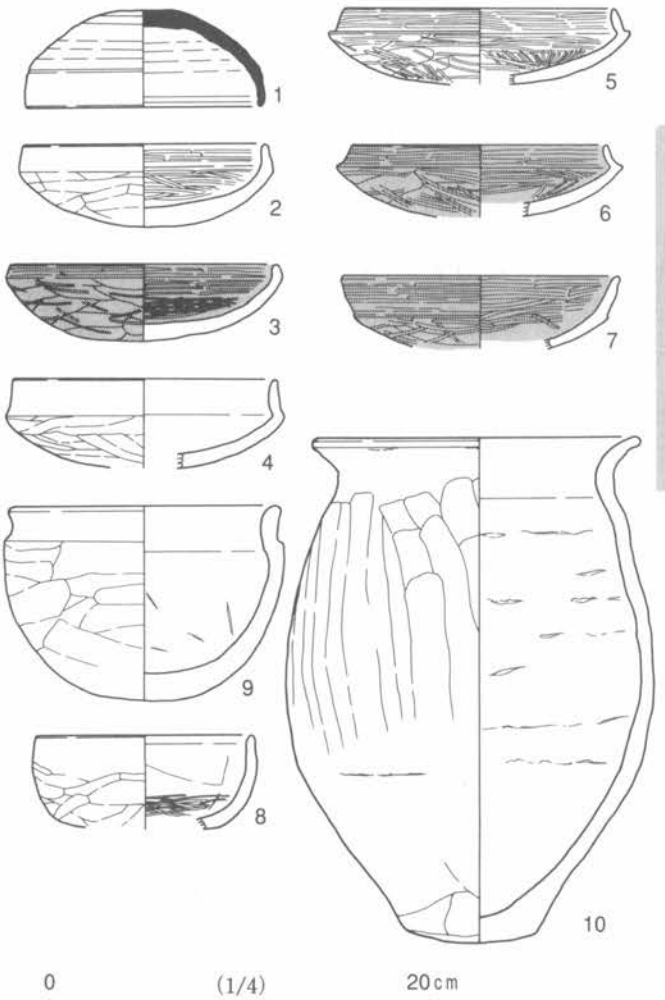
第172図　ＳＢ218土器実測図



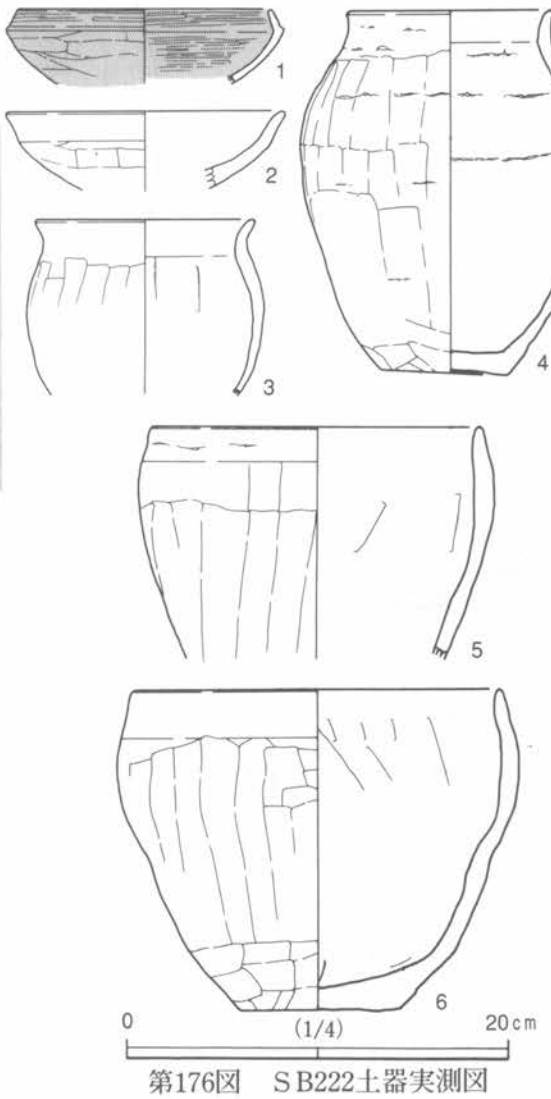
第173図　ＳＢ219土器実測図



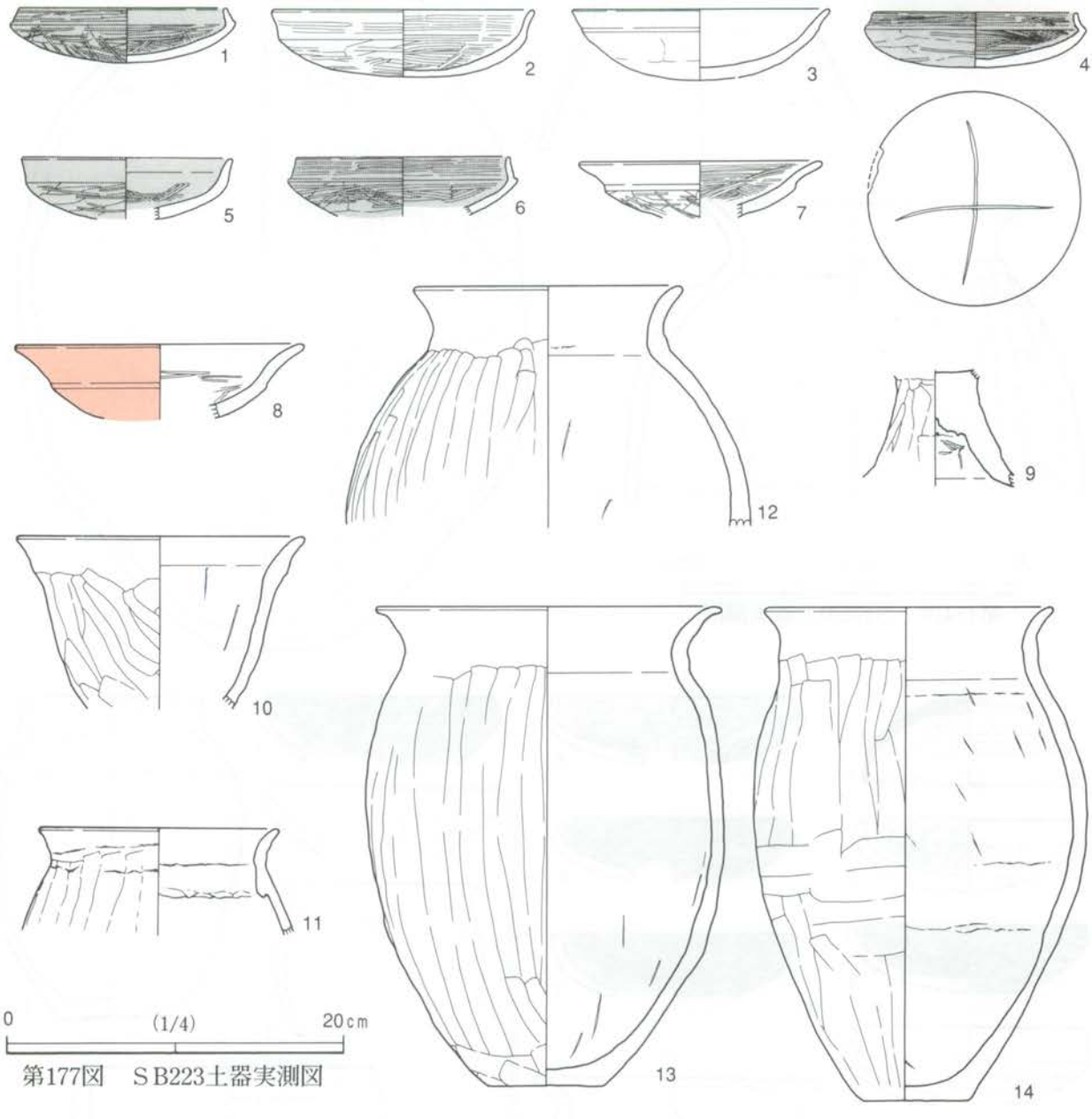
第174図　ＳＢ220土器実測図



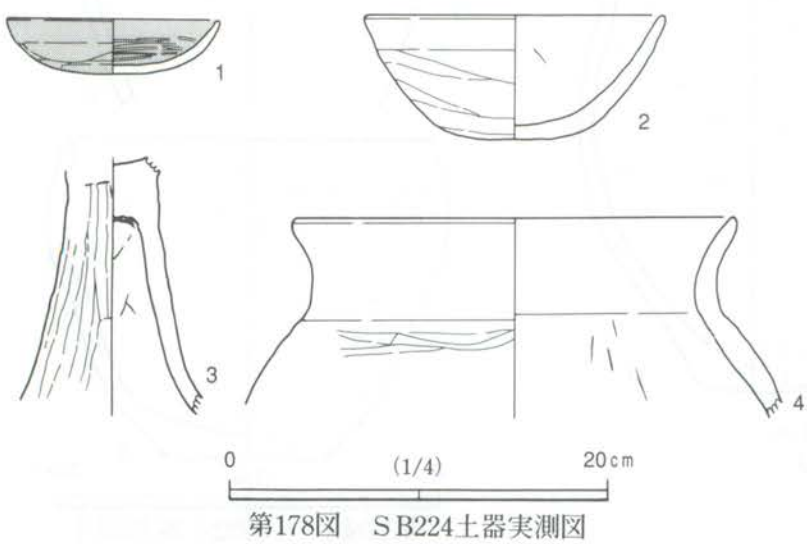
第175図　ＳＢ221土器実測図



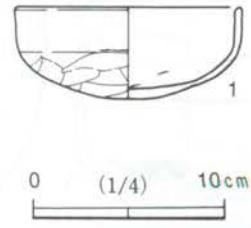
第176図　ＳＢ222土器実測図



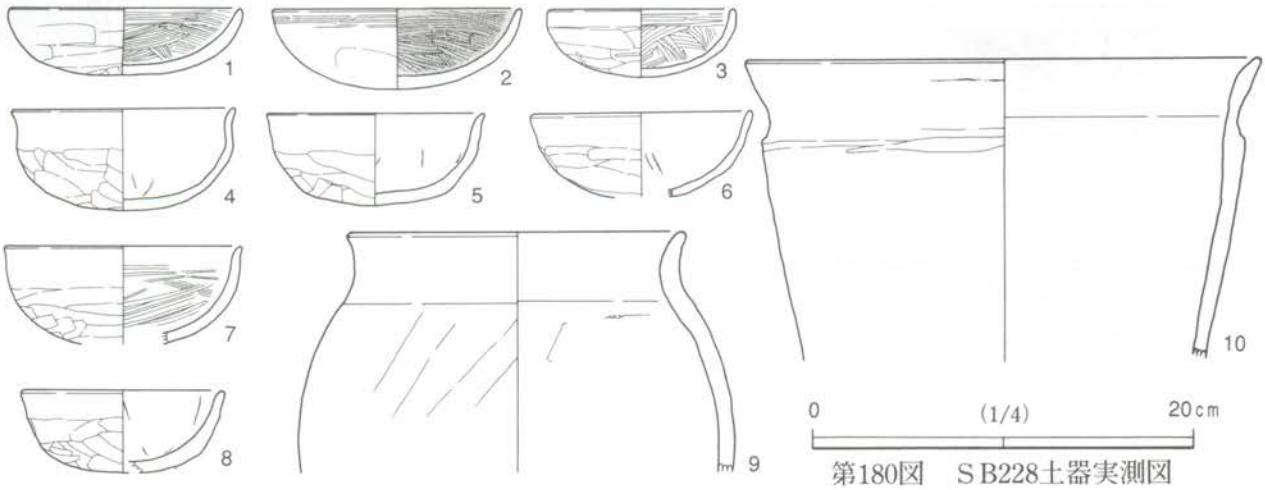
第177図　ＳＢ223土器実測図



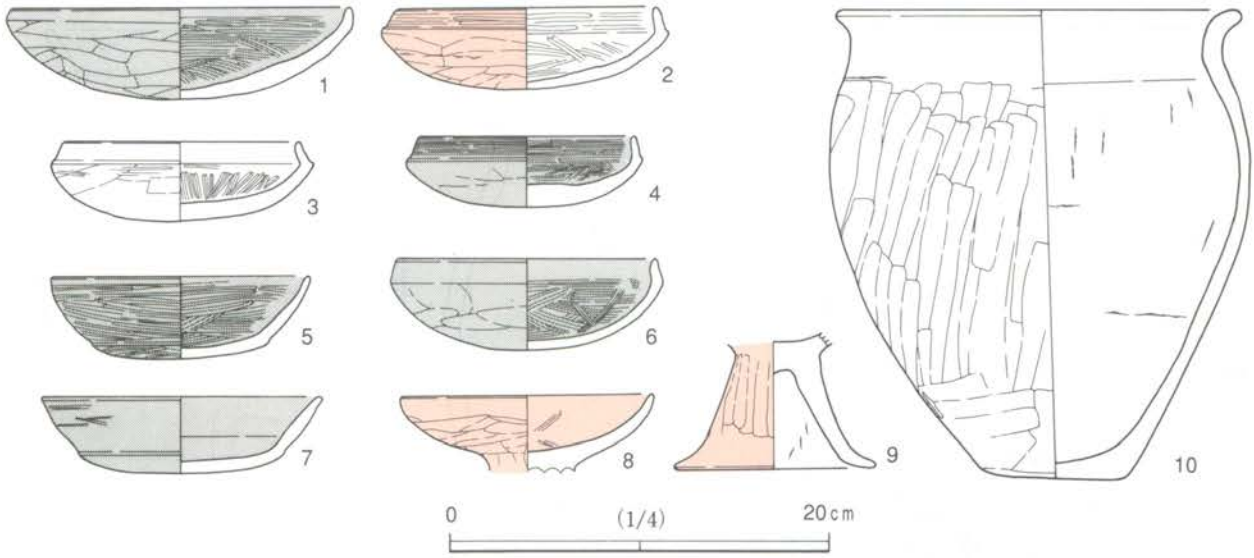
第178図　ＳＢ224土器実測図



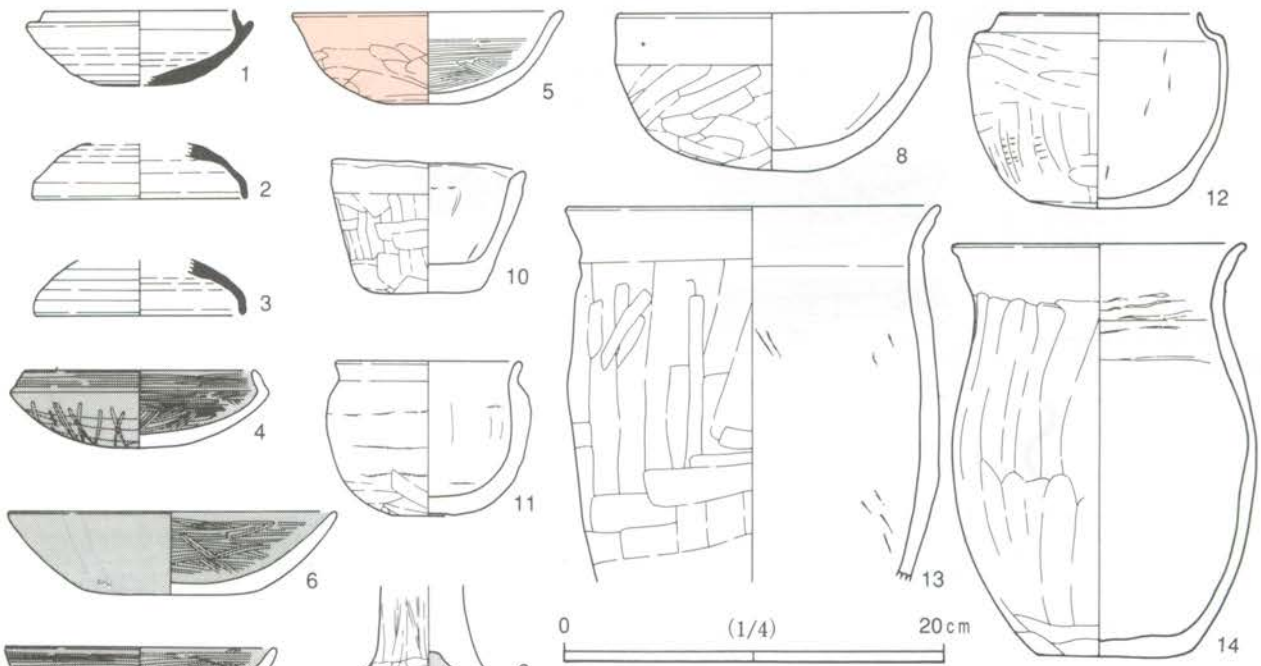
第179図　ＳＢ227土器実測図



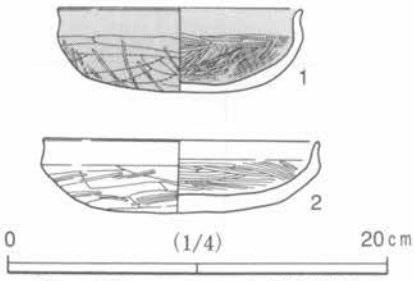
第180図　ＳＢ228土器実測図



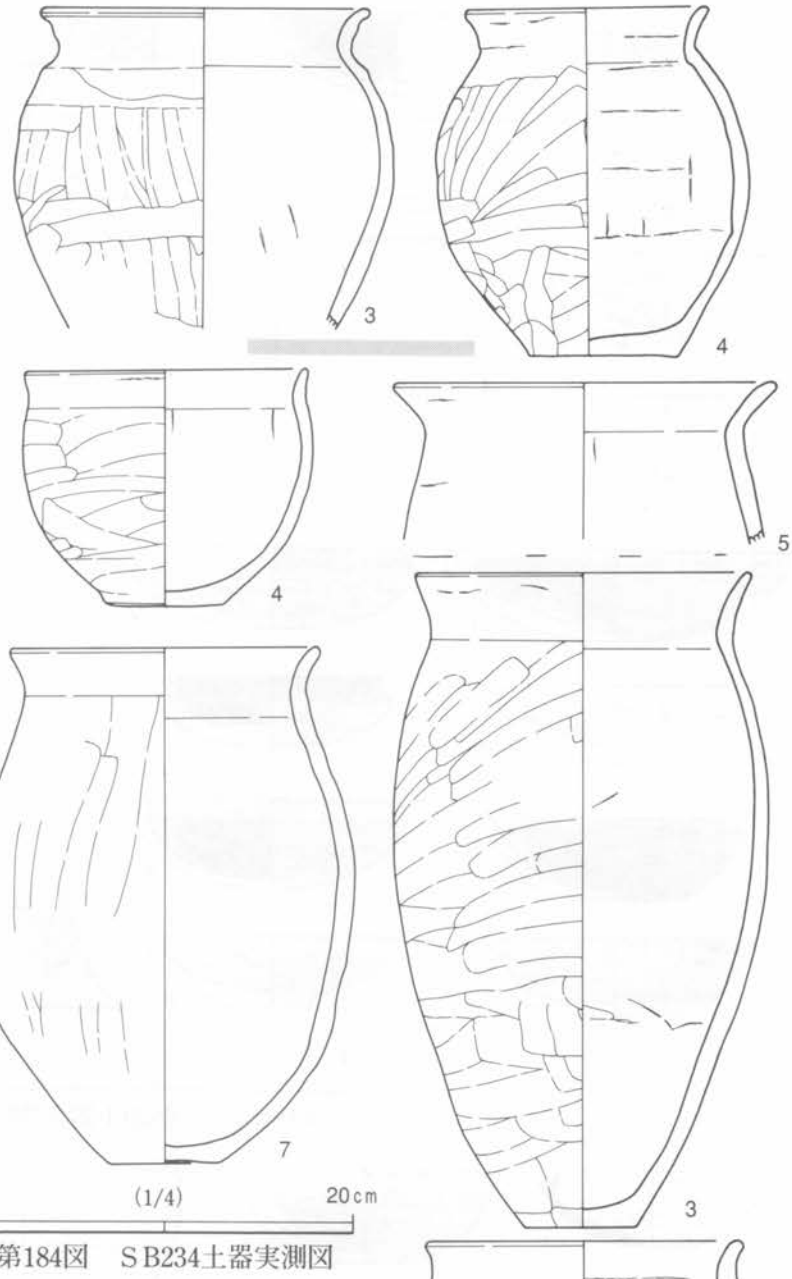
第181図　ＳＢ229土器実測図



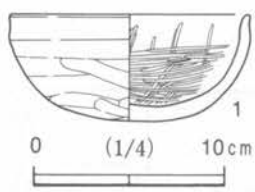
第182図　ＳＢ230土器実測図

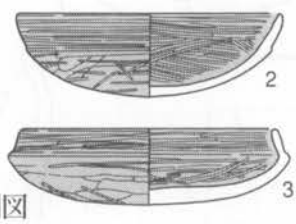


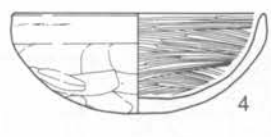
第183図　ＳＢ232土器実測図



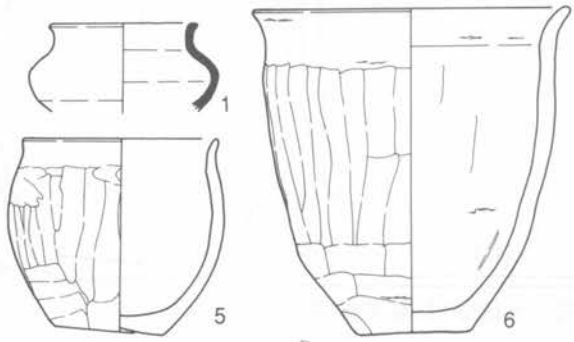
第184図　ＳＢ234土器実測図

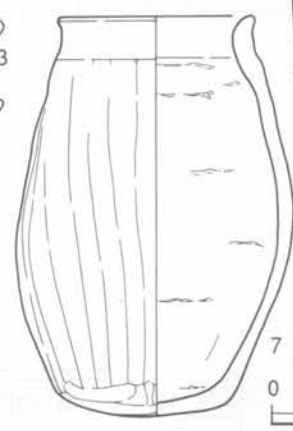


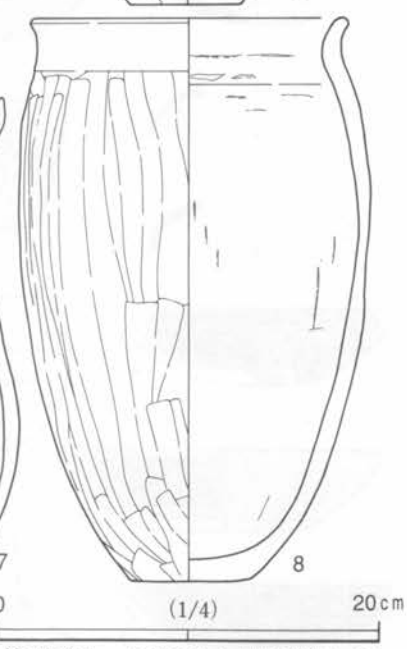




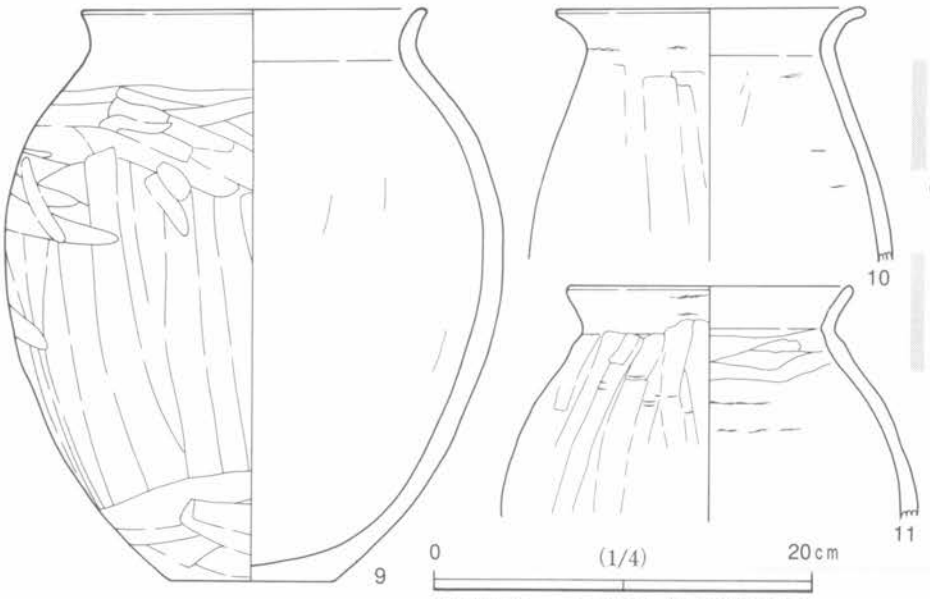
第185図　ＳＢ235土器実測図



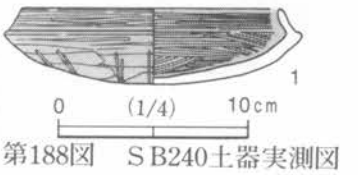




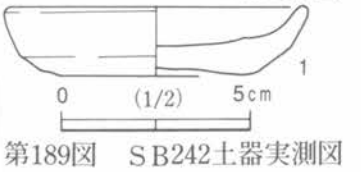
第186図　ＳＢ237土器実測図 ①



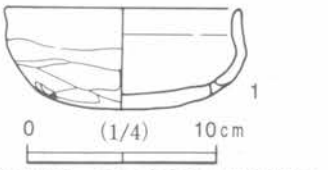
第187図　ＳＢ237土器実測図 ②



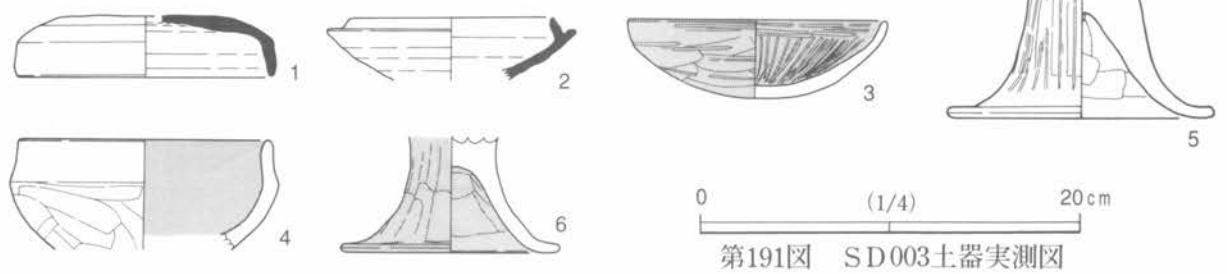
第188図　ＳＢ240土器実測図



第189図　ＳＢ242土器実測図

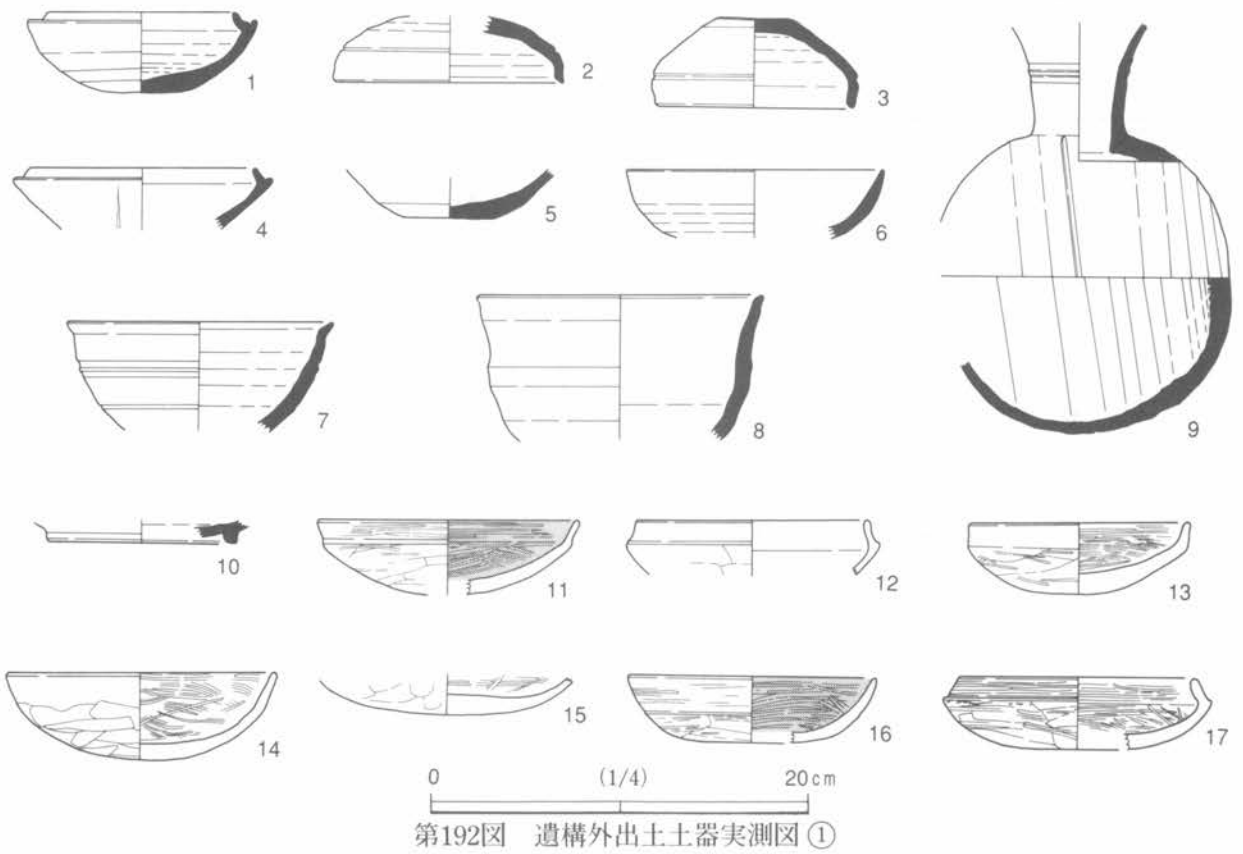


第190図　ＳＸ013土器実測図

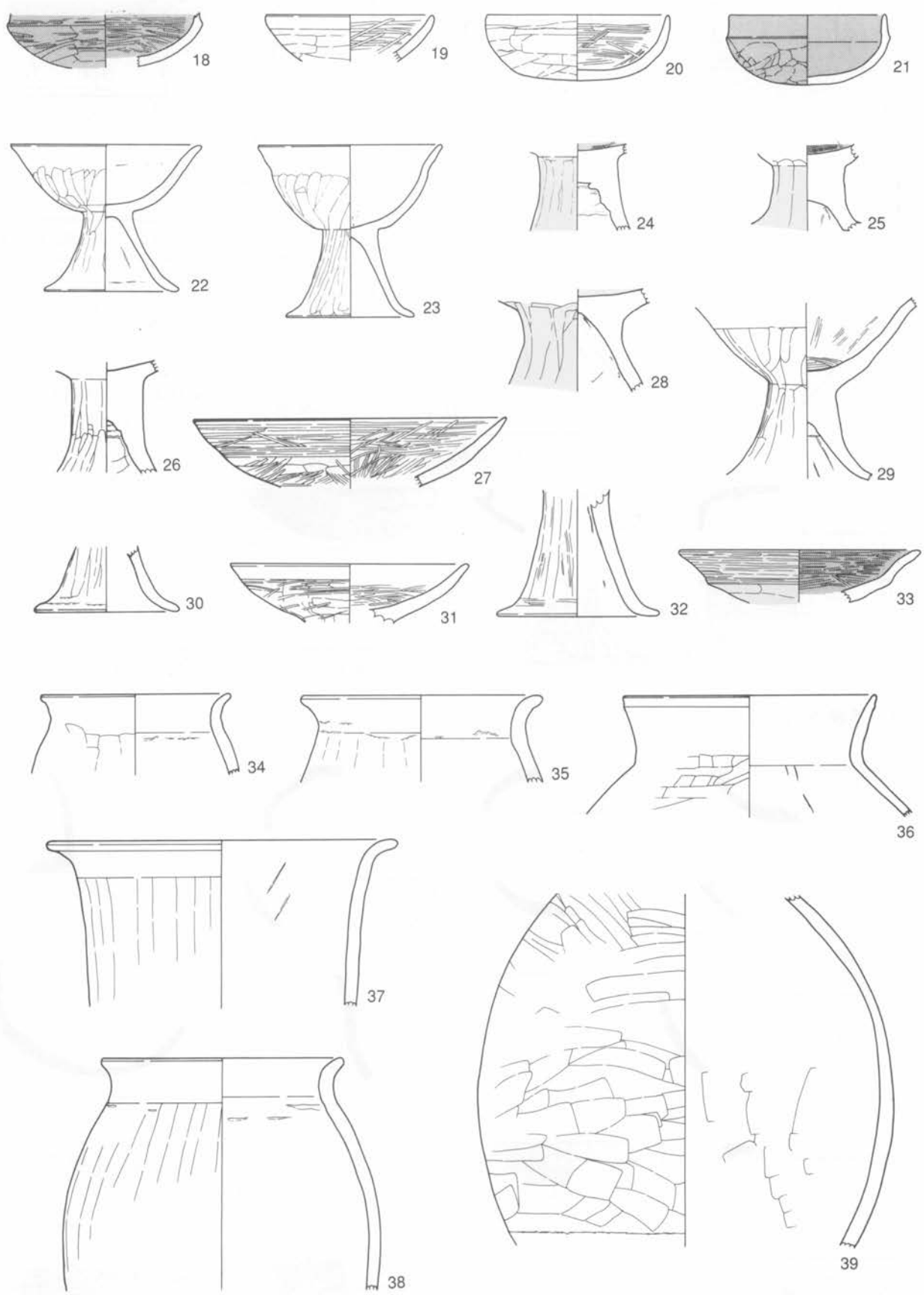


第191図　ＳＤ003土器実測図

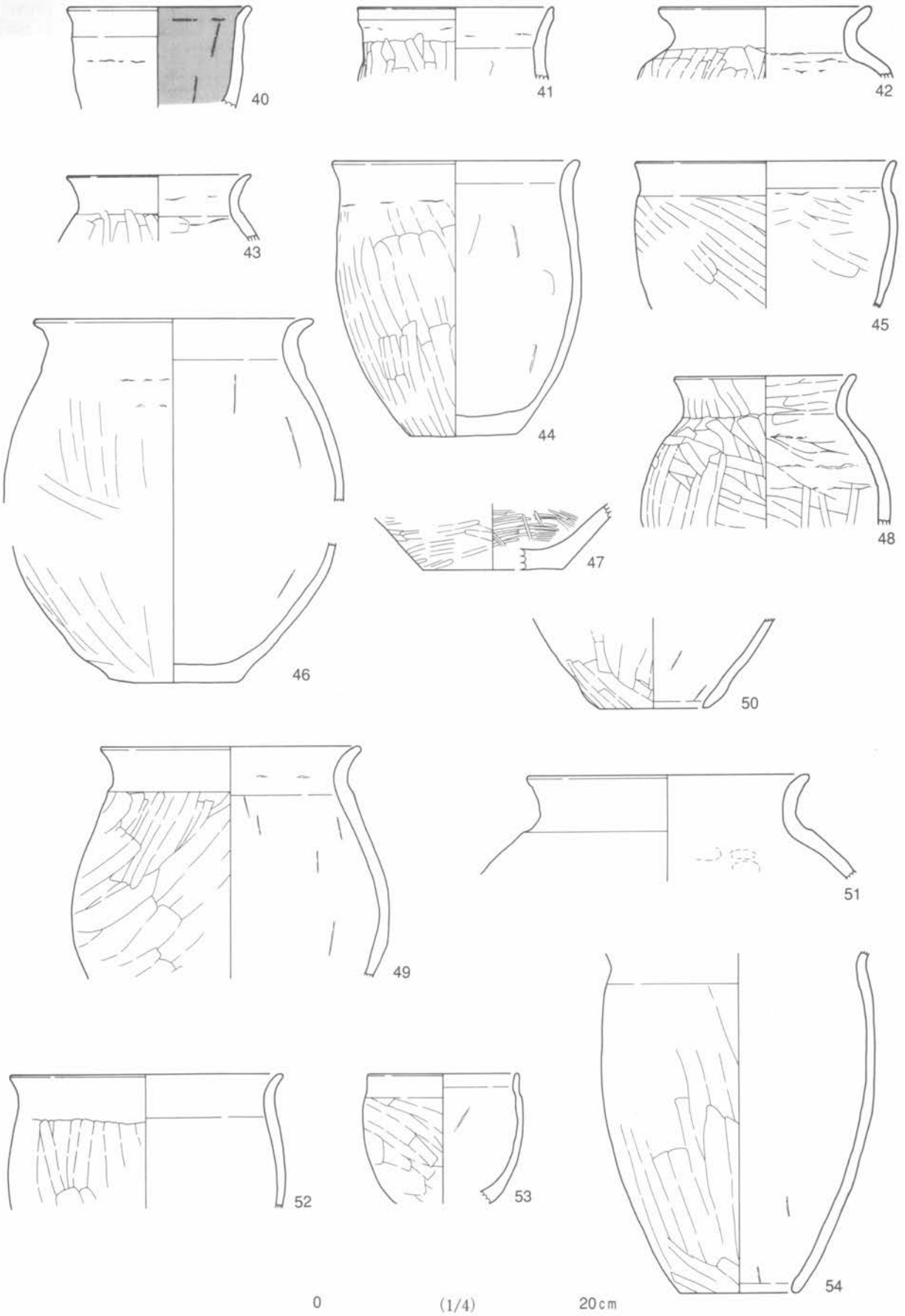
3　遺構外出土土器



第192図　遺構外出土土器実測図 ①



第193図　遺構外出土土器実測図 ②



第194図　遺構外出土土器実測図 ③

第11表　遺構内出土土器計測表

（　）残存長・復元長

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色 処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
SB003 78-1	土師	杯	完形	15.3	—	4.4	15.3	長石・石英・砂粒・黒色粒子	普通	明褐(/一部黒褐)	内外		覆土上層	53-1	器面の摩耗が激しい(内外)
78-2	土師	杯	50%	(11.7)	—	3.7	(11.7)	長石・石英・砂粒・黒色粒子(多)	普通	明褐灰・黒(/一部明赤褐・褐灰)	内外		床面	—	一部炭素吸着
78-3	土師	鉢	90%	11.3	6.2	6.9	11.8	長石・石英・砂粒(多)・小石	普通	明褐(明赤褐・口縁部褐灰/上半部褐灰・一部黒)			覆土下層	53-3	真上からみると円形でない口縁のつくりも手捏風
78-4	土師	甕(小型)	90%	12.3	4.8	11.0	12.7	長石・石英・砂粒(多)・小石(少)	普通	明赤褐(一部褐灰・黒褐/一部褐灰)			床面	53-4	底部に木葉痕
78-5	土師	甕	40%	17.6	—	(10.8)	—	長石(やや多)・石英・黒色粒子	普通	赤褐(一部褐灰・黒褐/一部褐灰)			床面	—	口縁部(内面)いたみがひどく、ひびが入り剥離している
78-6	土師	甕	70%	19.0	7.5	24.5	胴部 17.9	長石・石英・砂粒	普通	明褐(明赤褐・黒褐／明赤褐・黒褐)			床面	53-6	底部に木葉痕
SB005 79-1	土師	甕(小型)	完形	16.4	7.5	13.5	胴部 16.6	長石・石英・砂粒(多)・黒色粒子	普通	明褐・明赤褐(褐灰/一部黒)			床面	53-1	口縁～胴部上半の一部に黒色の付着物(ふきこぼれの炭化物?)内面にも黒い膜状のしみがある内面ヘラナデで輪積痕が残る
SB006 80-1	土師	杯	95%	13.5	—	4.0	13.5	長石(やや多)・石英・黒色粒子	普通	明褐・明黄褐(褐灰・黒/口縁部褐灰・黒褐)	内外		床面	53-1	
80-2	土師	杯	40%	12.4	—	(4.1)	13.6	長石・石英・砂粒(多)・黒色粒子	普通	明褐(明赤褐/明赤褐一部灰褐)	内外		覆土上層	—	
80-3	土師	椀	完形	17.0	—	6.8	17.0	長石・石英・砂粒(多)・黒色粒子	普通	明赤褐(一部明褐・褐灰/明褐・褐灰)			床面	53-3	正円ではない 口径16.5×17.2cm外面輪積痕が残る
80-4	土師	甕(小型)	70%	(13.0)	5.4	9.4	胴部 10.5	長石(多)・石英(多)・砂粒(多)	普通	明赤褐(一部褐灰/明褐・黒)			床面	53-4	底部不定方向のヘラケズリ後ナデ
80-5	土師	壺	50%	—	4.6	(6.0)	胴部 10.8	長石・石英・砂粒	普通	明褐(/一部黒)			床面	—	底部不定方向のヘラケズリ後ナデ
80-6	土師	甕	75%	18.4	7.1	27.6	(24.0)	長石(やや多)・石英・砂粒(やや多)	普通	明赤褐(下半部明赤褐/一部褐灰・黒)			床面	53-6	口縁部内外面とも輪積痕が残る
80-7	土師	甕	完形	15.4	5.3	27.2	19.0	長石(やや多)・石英・砂粒(多)	普通	明褐・明赤褐(上半部褐灰/上半部褐灰・一部黒)			床面	53-7	底部に木葉痕(若干)
80-8	土師	甑	40%	(27.5)	—	(22.0)	(27.5)	長石・石英・砂粒(多)・黒色粒子	普通	暗赤褐(/一部褐灰・黒)			床面	—	
80-9	土師	甕	45%	—	6.7	(21.1)	胴部 (21.8)	長石・石英・砂粒(細)・赤色粒子(少)	良	明赤褐(一部灰褐・褐灰/一部褐灰・黒)			床面	—	底部に木葉痕 胴部中位に分割成形の擬口縁 ヘラで溝をつけ、接触面積を大きくしている様子が剥離部分に明瞭に残る
SB007 81-1	土師	杯	50%	(13.0)	—	4.7	(14.2)	長石・石英・黒色粒子(やや多)	普通	明赤褐(一部灰褐/一部褐灰・黒褐)	内外		カマド右袖脇	—	
81-2	土師	杯	95%	(11.6)	—	5.7	11.8	砂粒(やや多)・小石(φ3～5mm・少)	普通	明赤褐			カマド右袖脇	53-2	器面が摩耗している(内外)
81-3	土師	杯	45%	16.0	—	(5.8)	16.1	長石(やや多)・石英・砂粒	普通	明褐(褐灰・黒/褐灰・黒)			覆土下層	—	炭素吸着(内外)
81-4	土師	甑	90%	21.8	—	21.7	胴部 20.2	長石・石英・砂粒(やや多)・黒色粒子・小石	普通	明赤褐(口縁部褐灰・黒/一部褐灰・黒)			覆土上層	53-4	
SB008 82-1	須恵	杯	完形	10.7	—	3.8	12.8	長石・白色砂粒(やや多)	良	灰			床面	53-1	歪みが大きい最大径12.8cm×13.4cm 口径10.7cm×11.5cm

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
82-2	須恵	蓋	完形	11.1	4.0	4.6	12.2	砂粒(多)	良	青灰			床面	53-2	歪んでいる 口径11.1cm×12.2cm
82-3	須恵	杯	50%	(10.6)	4.2	4.3	12.8	長石・石英・砂粒(やや多)	良	青灰			床面	−	底部及び周縁部回転ヘラケズリ
82-4	土師	杯	95%	12.0	−	3.5	12.0	長石・石英・砂粒・黒色粒子	普通	明褐(灰褐・黒褐/褐灰・黒・ごく一部明赤褐)	内外		覆土下層	53-4	ヘラ痕多数(内) 内面の器面にヘラのあたり痕
82-5	土師	杯	85%	13.9	−	4.4	13.9	石英・砂粒(細)・赤色粒子(胎土中の鉄分)	普通	明黄褐(灰褐・黒/一部明赤褐・灰褐・黒)	内外		床面	53-5	器面の摩耗が激しい(内外)
82-6	土師	杯	60%	(14.5)	−	4.2	(14.5)	石英・赤色粒子・黒色粒子	普通	明黄褐・淡黄(黒/灰褐・褐灰)	内外		床面	53-6	内面の黒色部分には一部光沢が残る
82-7	土師	杯	60%	(12.8)		2.8	(14.1)	砂粒(細)・赤色粒子(やや多)	普通	明黄褐・淡黄(一部灰褐・明褐/一部灰褐)	内外		覆土下層	−	
82-8	土師	杯	95%	13.1	6.2	4.1	14.5	砂粒(細)・赤色粒子(やや多)	普通	明黄褐(一部灰黄褐/一部灰黄褐)	内外		床面	54-8	
82-9	土師	杯	80%	(15.3)	−	4.3	(15.3)	雲母(少)赤色粒子(やや多)	普通	明黄褐(一部灰褐/一部灰褐・褐灰)	内外		床面	54-9	
82-10	土師	杯	50%	(12.0)	−	4.5	(13.1)	長石・砂粒(やや多)	普通	明褐(灰褐・一部褐灰/一部灰褐・褐灰)	内外		床面	−	
82-11	土師	杯	40%	(14.2)		(5.5)	(14.2)	砂粒(細)	普通	明褐(灰味を帯びたにぶい明赤褐/一部黒)			床面	−	
82-12	土師	杯	70%	(11.9)	5.0	5.0	(11.9)	長石・石英・砂粒(やや大)・黒色粒子	普通	赤褐(一部灰褐/一部褐灰・黒)			床面	−	底部に線刻
82-13	土師	杯	40%	(12.0)	(6.1)	4.2	(12.6)	長石・石英・砂粒(やや大)・黒色粒子	普通	赤褐(/一部黒)			覆土一括	−	
82-14	土師	杯	30%	(12.4)	−	(3.8)	(13.1)	雲母・長石・石英・砂粒(やや大・少)・黒色粒子	普通	明黄褐(一部褐灰・黒褐/口縁一部褐灰・黒褐)	内外		覆土下層	−	内面に二次的付着物
82-15	土師	鉢	70%	16.0	−	8.6	18.1	長石・石英・砂粒(やや多)・黒色粒子	普通	にぶい赤褐			貯蔵穴内	54-15	外面体部にヘラケズリ後のミガキによる光沢
82-16	土師	鉢	60%	(14.8)	−	(5.8)	(14.8)	長石・石英(やや多)・砂粒・黒色粒子(やや多)	普通	明褐(褐・黒褐/一部褐・黒褐)			覆土下層	−	炭素吸着(内外)
82-17	土師	鉢	70%	11.0	3.9	9.8	11.0	長石(やや多)・石英・砂粒・黒色粒子(ごく少)	普通	明赤褐(一部灰褐/一部褐灰・黒褐)			床面	54-17	口縁波状
82-18	土師	高杯	70%	17.8	脚裾部径 10.0	10.5	くびれ部径 5.3	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明赤褐(一部褐・黒褐/一部褐・黒褐)			覆土下層	54-18	炭素吸着(内外)
82-19	土師	高杯	70%	(13.8)	脚裾部径(11.0)	7.9	くびれ部径 5.2	長石・石英・砂粒・黒色粒子(少)・赤色粒子(やや多)	普通	明褐(明赤褐・黒褐/明赤褐・黒褐)			床面	54-19	炭素吸着(内外)
82-20	土師	高杯	90%	14.1	脚裾部径 10.0	8.7	くびれ部径 5.5	長石・石英・砂粒(多)・黒色粒子・小石(少)	普通	明褐(一部黒褐/)			覆土下層	54-20	炭素吸着(内外)
82-21	土師	高杯	60%	−	脚裾部径(12.2)	(10.3)	くびれ部径 5.7	砂粒(細・多)・赤色粒子(多・鉄分の固まり最大のものは5mm四方～微粒子まで)	普通	明褐(杯部−黒・脚部−褐灰/杯部−褐灰・脚部−一部灰褐)			床面	54-21	杯内面は丁寧に磨かれている 炭素吸着(内外)
82-22	土師	高杯(杯部)	40%	(13.6)	−	(3.5)	−	長石・石英・砂粒(多)	普通	明褐(暗褐黒/口縁端暗褐・一部褐)			床面	−	器面が摩耗している(内外) 炭素吸着(内)
82-23	土師	高杯(脚部)	40%	−	脚裾部径(13.9)	(11.4)	くびれ部径 6.0	長石・石英(やや多)・砂粒	普通	明褐(脚部−黒褐/灰褐・黒褐)			床面	−	外面脚部上部にミガキによる光沢 炭素吸着(内外)
82-24	土師	高杯(脚部)	40%	−	脚裾部径(9.6)	(5.2)	くびれ部径 4.8	長石・石英・赤色粒子	普通	明褐(灰褐・黒褐/灰褐)			覆土下層	−	炭素吸着(内外)
82-25	土師	甕	65%	15.8	−	(23.6)	17.9	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明赤褐(/灰褐・黒)			床面	54-25	炭素吸着(外面上半部) 赤褐色(外面下半部)

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
82-26	土師	甕	50%	(15.5)	—	(22.4)	17.8	砂粒(やや多)・黒色粒子(少)	普通	明赤褐(灰褐・褐灰/一部灰褐)			貯蔵穴内	54-26	輪積痕が残る(内外)
82-27	土師	甕	30%	(15.1)	—	(8.7)	(16.4)	長石・石英(少)・砂粒(多)	普通	赤褐(褐灰・黒褐/一部黒褐)			床　面	—	炭素吸着(内外)
82-28	土師	壺	30%	(13.5)	—	(7.0)	(19.0)	長石・石英・砂粒・黒色粒子(やや多)・赤色粒子	普通	明黄褐(明褐・一部明赤褐/明褐一部明赤褐)		内外	床　面	—	赤彩(内面口縁部から外面) 口縁部上端に円形(径9㎜)の貼付が1ケ所見られる
83-29	土師	甕	30%	(16.8)	—	(14.5)	—	長石・石英・黒色粒子	普通	赤褐(/褐灰・黒褐)			床　面	—	炭素吸着(外)その上にすじ状に赤褐部が走る(火だすきか)
83-30	土師	甕(小型)	30%	(11.8)	—	(10.7)	(15.4)	長石(やや多)・石英・スコリア・砂粒・黒色粒子	普通	明褐(黒褐/明赤褐一部灰褐・褐灰)			覆土下層	—	炭素吸着(内)
83-31	土師	甕(小型)	30%	(12.0)	—	(5.5)	—	長石・石英・黒色粒子・赤色粒子	普通	明褐(一部灰褐/明赤褐・褐灰)			床　面	—	器面が摩耗している(内外)
83-32	土師	甕(小型)	40%	—	(5.0)	(6.1)	—	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	赤褐(褐灰・黒褐/一部灰褐)			床　面	—	器面の摩耗が激しい(内) 炭素吸着(内外)
83-33	土師	甕(小型)	40%	(15.2)	—	(10.2)	(15.9)	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	赤褐(/一部褐灰)			覆土下層	—	炭素吸着(外)
83-34	土師	甕(小型)	40%	(12.9)	—	(8.3)	(11.4)	長石・石英・砂粒(多)	普通	明赤褐(一部褐灰/一部灰褐・黒褐)			覆土下層	—	二次的に火を受けたのか器面の摩耗が激しい(外)
83-35	土師	甑	80%	21.2	8.7	23.7	19.6	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明赤褐(/一部黒褐)			覆土下層	54-35	炭素吸着(内外)
83-36	土師	甑	30%	(21.6)	—	(17.2)	(20.0)	長石・石英(やや多)・砂粒(多)・黒色粒子(少)	普通	明黄褐(/一部黒褐)			床　面	—	炭素吸着(外)
83-37	土師	甑	30%	(23.0)	—	(10.0)	(23.0)	長石(やや多)・石英・黒色粒子・赤色粒子	普通	明褐(一部暗褐・黒褐/一部灰褐・黒褐)			覆土下層	—	炭素吸着(内外)
SB016 84-1	須恵	杯	完形	11.0	4.7	4.4	13.3	長石・砂粒(やや多)	良	灰(明褐灰/灰)			カマド左袖脇	54-1	還元しきれていない(内)
84-2	須恵	杯	40%	(11.0)	(4.8)	(4.2)	(13.0)	石英・砂粒	悪	明赤褐(/にぶい明赤褐・灰褐・褐灰)			カマド内	—	軟質の焼成 底部回転糸切後回転ヘラケズリ
84-3	須恵	杯	完形	10.8	4.9	4.7	13.1	砂粒(細・少)	悪	灰白(/受部・口縁・にぶい橙)			カマド左袖脇	54-3	軟質の焼成
84-4	須恵	杯	40%	(10.6)	(6.8)	4.3	(12.6)	長石・砂粒(細・やや多)	普通	暗灰(にぶい赤褐/)			床　面	—	還元しきれていない(内外)
84-5	須恵	蓋	70%	(12.2)	—	5.0	(12.2)	長石・砂粒(細・やや多)	良	灰(一部灰赤/)			カマド内	54-5	
84-6	土師	杯	95%	11.8	—	3.7	13.3	砂粒・赤色粒子(胎土中の鉄分多)	普通	明赤褐(/一部黒褐)			カマド左袖脇	54-6	
84-7	土師	杯	95%	11.2	—	3.3	12.8	長石・石英・黒色粒子・赤色粒子	普通	明褐(灰褐・黒褐/灰褐・黒褐)			カマド左袖脇	54-7	
84-8	土師	杯	完形	13.0	—	4.4	13.0	雲母(白)・砂粒(少)	普通	明赤褐(底部-黒褐/一部灰褐)			カマド左袖脇	55-8	
84-9	土師	杯	完形	13.2	—	4.6	13.2	長石・黒色粒子・赤色粒子	普通	明褐(灰褐・黒/灰褐・黒褐)	内外		カマド左袖脇	55-9	
84-10	土師	椀	40%	(13.8)	—	(6.5)	(13.8)	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明褐			床　面	—	器面が摩耗している(内外)
84-11	土師	鉢	70%	16.0	6.0	11.7	16.1	長石・石英・砂粒(多)	普通	明赤褐(底部-褐灰/底部-黒)			カマド内	55-11	器面の摩耗が激しい(外)
84-12	土師	甕	95%	19.1	7.4	27.0	19.3	長石・石英・砂粒(多)	普通	明赤褐(一部褐灰/一部褐灰)			カマド内	55-12	
84-13	土師	甕	90%	17.7	6.5	15.7	18.8	長石・石英・砂粒(多)	普通	明赤褐(ほぼ全面褐灰/一部褐灰・黒)			床　面	55-13	器面が摩耗している(内外)
85-14	土師	甕	95%	17.1	7.1	14.7	17.1	長石(少)・石英・砂粒(多)	普通	明赤褐(底部-褐灰/肩以下の広い範囲褐灰・黒褐)			カマド内	55-14	炭素吸着(外面肩部以下)
85-15	土師	甑	90%	24.6	8.8	22.0	21.0	長石・石英・砂粒(多)	普通	明褐(/約1/2は明赤褐)			カマド内	55-15	

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
SB020 86-1	土師	杯	90%	14.8	—	4.6	14.8	長石・石英・砂粒(細)	普通	明赤褐(全面黒褐/褐灰・黒褐)			カマド右袖上面	55-1	炭素吸着(内外)
86-2	土師	杯	95%	15.0	—		4.2	長石・石英・砂粒・赤色粒子(胎土中の鉄分)	普通	明褐(灰褐・褐灰/口縁・体部中心褐灰)	内外		カマド焚口手前	55-2	
86-3	土師	杯	60%	14.1	—	4.4	14.1	長石・石英・砂粒(やや多)・黒色粒子	普通	明褐(一部褐灰・黒褐/明赤褐・褐灰・黒)	内外		覆土上層	55-3	
86-4	土師	杯	完形	15.2	—	4.4	15.4	長石・砂粒	普通	明褐(灰褐・黒/灰褐・黒)	内外		床面	55-4	
86-5	土師	杯	50%	(14.4)	—	(4.3)	(14.6)	長石・石英	普通	明褐(一部明赤褐・黒褐/一部明赤褐・黒褐)	内外		カマド右袖脇	—	
86-6	土師	杯	完形	13.4	—	3.6		長石・砂粒・赤色粒子(細・胎土中の鉄分がやや多)	普通	明黄褐(一部灰褐/一部灰褐)	内外		カマド焚口手前	55-6	
86-7	土師	皿	30%	12.2	—	3.1	(12.2)	長石・石英・(きめ細かい)	普通	明黄褐(褐灰・黒褐/明赤褐・黒褐)	内外		覆土中層	—	
86-8	土師	杯	70%	12.2	—	4.0		長石・石英・砂粒	普通	明褐(褐灰・黒/一部にぶい赤褐・褐灰・黒)			カマド右袖上面	55-8	炭素吸着(内外)
86-9	土師	杯	30%	(13.7)	—	(4.3)	(15.2)	雲母(少)・長石(やや多)・石英・砂粒	普通	明褐(褐灰・黒褐/褐灰)			カマド左袖脇	—	炭素吸着(内外)
86-10	土師	杯	85%	12.6	—	4.5	14.0	長石(少)・石英(少)・赤色粒子(胎土中の鉄分)	普通	明黄褐(一部褐灰/一部褐灰・黒褐)	内外		カマド焚口手前	55-10	
86-11	土師	甕(小型)	80%	13.8	6.1	18.0	15.9	長石(やや多)・石英・砂粒・黒色粒子	普通	明褐(明赤褐・灰褐一部黒/明赤褐・褐灰一部黒)			カマド内床面	55-11	二次的に火を受けている
86-12	土師	甕	50%	14.0	—	(15.0)	18.0	長石・石英(やや多)・砂粒	普通	明赤褐(一部灰褐/一部褐灰・黒)			カマド焚口手前	—	炭素吸着(外)
86-13	土師	甕	95%	13.8	7.8	23.0	21.7	長石・石英	普通	明黄褐(灰褐・褐灰/一部明赤褐・褐灰・黒)			床面	55-13	作りが粗く器面がデコボコしている
86-14	土師	甕	75%	(15.9)	(6.5)	24.2	(19.5)	長石・石英・砂粒・黒色粒子	普通	明褐(灰褐/明赤褐・褐灰)			カマド焚口手前	56-14	二次的に火を受けている
SB021B 87-1	土師	鉢	90%	12.6	5.3	9.5	12.8	長石(やや多)・石英・砂粒(やや多)・黒色粒子	普通	明褐(明褐・褐灰/一部明赤褐・黒)			床面	56-1	底部は平らではなく安定感がない
SB022 88-1	須恵	蓋	50%	(11.1)	(3.2)	(4.5)	(11.5)	長石(少)・石英(少)・砂粒・黒色粒子	良	灰色			カマド内	—	
88-2	土師	杯	70%	(10.9)	5.8	(4.0)	(10.9)	長石・石英・砂粒(少)	普通	にぶい橙褐(一部灰褐・褐灰/明赤褐・黒褐)		外	カマド内	—	炭素吸着(内外)
88-3	土師	高杯(杯部)	15%	(24.8)	—	(5.2)	(24.8)	長石・石英・砂粒	良	灰褐(黒/褐灰・黒)	内外		床面	—	輪積痕が残る(外)
88-4	土師	甕	40%	(19.2)	(8.0)	31.0	(20.2)	長石・石英(多)・砂粒(多・量は少ないが、小石の混入が目立つ)赤色粒子(胎土中の鉄分)	普通	明褐(明赤褐・灰褐/灰褐・黒褐)			床面	56-4	量は少ないが小石の混入が目立つ
SB023A 89-1	土師	杯	完形	11.6	—	3.3	12.4	長石・石英・砂粒	普通	明褐(灰褐・黒褐/灰褐・黒褐)	内外		覆土上層	56-1	
89-2	土師	杯	70%	(11.5)	—	14.7	(13.6)	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(多)・小石(少)	普通	淡橙褐(/一部明褐)			カマド内右袖脇	—	
89-3	土師	杯	60%	(7.0)	—	(4.5)	(7.0)	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	にぶい赤褐(褐灰・黒褐/褐灰・黒灰)	内外		覆土下層	—	
89-4	土師	高杯(脚部)	30%	—	脚裾部径 9.6	(4.4)	—	雲母(少)・長石・石英・砂粒	普通	橙褐			覆土下層	—	脚部内面に指頭痕
89-5	土師	甕	40%	17.0	—	(14.5)	(19.5)	長石・石英・砂粒	普通	明褐(褐灰/明赤褐・褐灰)			床面	—	
SB023B 90-1	須恵	杯	完形	8.6	6.7	3.8	10.3	長石・石英	普通	灰			床面	56-1	

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
90-2	土師	杯	95%	11.4	—	4.0	11.4	長石・石英・砂粒(細)	普通	明褐(灰褐・褐灰／一部褐灰)	内		カマド内左袖脇	56-2	体部内面に輪積痕が残る
90-3	土師	杯	30%	(12.6)	—	—	(13.8)	石英・砂粒(やや大・多)・赤色粒子(胎土中の鉄分)	普通	明褐・明赤褐(明赤褐・褐灰／一部褐灰)	内外		覆土下層	—	
90-4	土師	鉢	40%	(13.4)	(5.4)	8.0	(13.8)	長石・石英・砂粒	普通	褐灰(明赤褐・一部灰褐／明赤褐・一部灰褐・黒褐)			覆土下層	—	底部周縁部はケズリが深いため円よりも不整多角形に近い 炭素吸着(底部外面)
90-5	土師	甕(小型)	90%	15.1	5.6	15.9	14.8	長石・石英・砂粒・小石(量は少ないが目立つ)	普通	明褐(上半一部灰褐・黒褐／灰褐・黒・底部-明赤褐)			カマド内右袖脇	56-5	
90-6	土師	甕	30%	(19.0)	—	(11.0)	(19.4)	長石・石英・砂粒・小石(多)・赤色粒子(やや大粒・胎土中の鉄分)	良	明赤褐(一部灰褐／一部褐灰・黒)			覆土下層	—	
90-7	土師	甕	50%	—	8.3	(22.0)	22.7	長石・石英・砂粒(多)・小石(やや多)・黒色粒子(少)	普通	明褐(一部褐灰／一部灰褐・黒褐)			カマド内右袖脇	56-7	器面が摩耗している(内外)
90-8	土師	甑	95%	24.2	(9.6)	25.3	21.2	長石・石英・砂粒(多)・黒色粒子・小石(やや多)	普通	明褐(明褐／一部赤褐)			カマド左袖脇	56-8	器面が摩耗している(内)
SB023C 91-1	須恵	蓋	95%	11.9	—	4.4	12.2	長石・石英(やや多)	良	灰			覆土中層	56-1	ヘラによる圧痕(外)
91-2	土師	杯	完形	11.9	—	4.5	12.6	長石・石英・砂粒・赤色粒子(胎土中の鉄分)	普通	明黄褐(灰褐・黒／灰褐・黒)	内外		覆土中層	56-2	
91-3	土師	杯	60%	(12.8)	—	4.2	(13.6)	長石・石英・砂粒・黒色粒子・赤色粒子(胎土中の鉄分)	普通	明黄褐(灰褐・黒／一部灰褐・黒)	内外		覆土中層	—	
91-4	土師	杯	60%	(12.6)	—	4.1	(13.8)	石英(少)・砂粒・黒色粒子(やや多)	普通	明褐(明赤褐 一部灰褐／一部灰褐・黒褐)	内外		床面	—	
91-5	土師	杯	95%	14.2	—	4.2	14.2	石英(少)・砂粒	普通	明褐(明赤褐・黒褐／一部灰褐・黒褐)			床面	56-5	
91-6	土師	高杯(脚部)	40%	—	脚裾部径(11.0)	(8.1)	—	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(褐灰／灰褐・褐灰)			カマド内	—	炭素吸着(内外)
91-7	土師	甕	95%	17.4	6.8	25.1	21.8	長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部灰褐／一部灰褐・黒褐)			覆土中層	56-7	炭素吸着(外)
91-8	土師	甕	80%	(16.2)	7.4	23.2	20.0	長石・石英・砂粒	普通	明褐(明赤褐／明赤褐・一部褐灰・黒褐)			覆土中層	56-8	炭素吸着(外)
91-9	土師	甕	30%	13.0	—	(7.9)	(13.8)	長石・石英・砂粒・黒色粒子	普通	明赤褐(一部灰褐・褐灰／一部灰褐・黒褐)			カマド内	—	炭素吸着(内外)
91-10	土師	甑	完形	20.8	6.4	16.0	21.1	長石・石英・砂粒・赤色粒子(胎土中の鉄分)	普通	明赤褐(ほぼ全面褐灰／ほぼ全面褐灰・黒褐)			覆土中層	56-10	口縁部がかなり歪んでいる
SB023D 92-1	須恵	蓋	40%	(14.8)	—	(3.2)	—	長石(少)・石英(少)	普通	灰白(灰白／灰白)			覆土上層	—	鈕径2.9cm 鈕高0.9cm SB023D-2の蓋
92-2	須恵	杯(高台付)	完形	13.9	18.7	4.5	14.1	長石(少)・石英(少)	普通	灰白(灰白／灰白)			カマド内	57-2	SB023D-1の身
92-3	土師	高杯(脚部)	40%	—	脚裾部径(10.0)	6.5	くびれ部径 6.3	長石(少)・石英(少)・砂粒(細・少)	普通	明黄褐(明黄褐／明褐一部灰褐)			覆土中層	—	器面の摩耗が激しい(外)
SB024 93-1	須恵	杯	95%	13.8	9.2	4.6	14.6	長石(細・少)・石英(細・少)・砂粒(細・少)・黒色粒子	良	灰白(灰白／一部黒灰・灰白)			覆土中層	57-1	口縁部に一部光沢(外)
93-2	須恵	長頸壺	60%	—	—	6.6	13.1	長石(やや多)・砂粒	良	灰(／一部暗青灰)			覆土中層	57-2	
93-3	土師	杯	90%	12.9	—	4.4	14.0	長石(細・少)・砂粒(細・少)	普通	明黄褐(一部灰褐・黒褐／一部灰褐・黒)	内外		床面	57-3	

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
93-4	土師	杯	40%	(13.4)	—	(4.9)	(14.4)	石英・砂粒	普通	明褐(褐灰・黒褐／褐灰・黒褐)	内外		覆土中層	—	
93-5	土師	杯	60%	14.1	8.6	(3.9)	14.1	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(褐灰・黒褐／褐灰・黒褐)	内外		覆土下層	—	
93-6	土師	杯	20%	(12.4)	—	(3.2)	(13.6)	砂粒(細)	普通	明褐(一部明赤褐・灰褐/明赤褐・灰褐)			覆土下層	—	器面の摩耗が激しい(外)
93-7	土師	杯	60%	(12.4)	(4.8)	4.8	(12.4)	長石・石英・砂粒	普通	明褐(黒/暗褐・黒)	内外		覆土下層	—	全体的に成形が荒く粗雑である
93-8	土師	杯	40%	(14.0)	—	3.2	(14.8)	石英(細)・砂粒(細)	普通	明褐(一部灰褐／赤褐・黒)		外	覆土下層	—	
93-9	土師	杯	70%	13.8	—	4.2	13.8	長石(細・少)・石英(細・少)・砂粒(細・少)	普通	明褐(明赤褐・一部褐灰／明赤褐・一部褐灰)	内外		覆土上層	57-9	
93-10	土師	杯	40%	(15.4)	—	4.3	(15.4)	砂粒(細)・黒色粒子(細・少)	普通	明褐(一部黒褐/一部褐灰)	内外		床面	57-10	
93-11	土師	杯	40%	(14.8)	—	(4.3)	(14.8)	砂粒(細)・赤色粒子(胎土中の鉄分)	普通	(灰味を帯びた淡明褐)浅黄橙(褐灰・黒褐/一部褐灰)	内外		覆土中層	57-11	
93-12	土師	杯	20%	(13.8)	—	(4.5)	(13.8)	石英・砂粒・黒色粒子(やや多)	普通	明褐(明赤褐／明赤褐)			覆土下層	—	器面の摩耗が激しい(外)
93-13	土師	高杯(脚部)	40%	—	脚裾部径(12.5)	(5.5)	くびれ部径 4.8	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(脚裾部-一部灰褐/一部灰褐)			床面	—	
93-14	土師	鉢	70%	(10.0)	—	(7.7)	(12.2)	長石・石英・砂粒・黒色粒子(やや大)・赤色粒子		にぶい橙灰味を帯びた明褐(明赤褐/一部黒)		内	覆土中層	—	炭素吸着(外)
93-15	土師	甕(小型)	30%	14.6	—	11.4	15.4	長石(少)・石英(少)・砂粒	普通	明褐(一部明赤褐・灰褐／一部明赤褐・褐灰)			覆土下層	—	炭素吸着(外)
93-16	土師	甕	80%	18.8	5.6	28.5	21.8	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明褐・明赤褐(灰褐/一部灰褐・黒)			床面	57-16	内面に輪積痕が残る
SB025 94-1	土師	高杯	40%	—	脚裾部径(10.0)	(9.2)	くびれ部径 5.2	長石・石英・砂粒(細)赤色粒子(多・胎土中の鉄分)	普通	明褐(やや灰味/やや灰味)			床面	—	器面が摩耗している(内外)
SB026 95-1	土師	鉢	30%	11.8	—	5.4	11.8	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明褐(一部灰褐/黒斑あり)			床面下	—	炭素吸着(外)
SB027 96-1	土師	鉢	50%	12.2	7.4	8.0	12.2	長石・石英・砂粒・黒色粒子(少)・赤色粒子(胎土中の鉄分)	普通	暗褐(黒/灰味を帯びた明褐・黒)			カマド内	—	器面の摩耗が激しい(外) 炭素吸着(内外)
96-2	土師	高杯	80%	18.5	脚裾部径 11.8	11.1	くびれ部径 5.8	砂粒(細)赤色粒子(少)	普通	明褐(一部褐灰／明褐)			カマド内右袖脇	57-2	器面が摩耗している(外) 炭素吸着(内外)
96-3	土師	甕	30%	—	9.3	(9.8)	—	長石・石英・砂粒	普通	明褐(/一部黒)			カマド右袖脇	—	器面が摩耗している(内外)
96-4	土師	甕	70%	(20.8)	6.0	30.9	胴部(20.3)	長石・石英・砂粒(多)・小石(やや多)	普通	明赤褐(一部褐灰/一部褐灰)			カマド内	57-4	二次的に火を受け赤褐(底部周辺) 炭素吸着(内外)
96-5	土師	甕	完形	18.7	5.0	28.4	胴部15.0	雲母(少)・砂粒(多)・小石(少)	普通	明赤褐(一部褐灰/褐灰・黒)			カマド内	57-5	器面が摩耗している(外面上半)
SB028 97-1	須恵	蓋	5%	—	—	(1.7)	—	長石(多)	良	灰			覆土一括	—	鈕径2.9cm 鈕高(1.2cm)
97-2	土師	杯	40%	(11.8)	—	3.2	(12.0)	砂粒(細)・赤色粒子(胎土中の鉄分)	普通	明褐(一部褐灰/一部褐灰)	内外		カマド内	—	
97-3	土師	杯	80%	11.6	—	3.1	11.6	砂粒(細)・赤色粒子(胎土中の鉄分)	普通	明褐(一部灰・黒褐/一部灰褐・黒褐)	内外		カマド内	57-3	炭素吸着(内外)
97-4	土師	杯	30%	(14.1)	—	(5.4)	(14.1)	石英・砂粒	普通	にぶい褐(黒/灰褐・黒褐)	内外		カマド内	—	
97-5	土師	杯	30%	(13.2)	—	(4.2)	(13.2)	長石・石英・小石(少)	普通	明褐(一部黒/にぶい赤褐・灰褐)			覆土一括	—	
97-6	須恵	杯	80%	9.2	5.6	5.5	10.3	長石(少)・砂粒(少)	良	灰			覆土上層	57-6	全体に正円形ではなく口縁部は卵形 SB043-3と住居間接合

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
97-7	土師	甕(小型)	60%	(14.3)	9.2	12.0	14.9	長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部灰褐／褐灰・黒)			カマド内	57-7	炭素吸着(底面)
79-8	土師	甕(小型)	50%	(11.7)	(7.0)	9.8	12.2	長石・石英・砂粒	普通	明褐(明褐/底面黒)			カマド内	—	
97-9	土師	甕	30%	—	1.5	(13.2)	—	長石・石英・砂粒・小石	普通	明褐(明褐/一部明赤褐・灰褐・黒褐)			床面	—	炭素吸着(外)
SB029 98-1	須恵	杯	30%	(8.6)	(6.2)	(4.5)	(11.1)	長石(少)	良	灰			遺構外	—	
98-2	土師	杯	完形	13.0	—	4.4	13.0	長石・石英・砂粒・赤色粒子(大・多)	普通	明褐(暗赤褐・黒褐/にぶい赤褐・黒褐)			カマド右袖脇	57-2	
98-3	土師	杯	85%	14.3	—	4.0	14.3	長石(細)・石英(細)・砂粒(細)・赤色粒子(胎土中の鉄分)	普通	明赤褐(褐灰/一部灰褐)	内外		覆土中層	57-3	
98-4	土師	杯	90%	12.4	—	4.1	14.0	長石(細)・石英(細)・砂粒(細)	普通	明褐(一部灰褐・黒/灰褐・黒)	内外		床面	57-4	
98-5	土師	杯	80%	12.2	—	4.3	12.6	長石・石英・砂粒・赤色粒子(大・多・胎土中の鉄分)	普通	明褐(にぶい褐・黒/一部黒)			カマド左袖脇	58-5	炭素吸着口縁部周辺(内外)
98-6	土師	杯	85%	15.0	—	4.1	15.0	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明赤褐(/一部灰褐)			覆土中層	58-6	黒い膜状の付着物が点々と見られる(外) 器面が摩耗している(内外)
98-7	土師	高杯(脚部)	50%	—	脚裾部径 11.2	(9.2)	くびれ部径(7.4)	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(褐灰・黒/一部灰褐・黒)			カマド内	—	炭素吸着(内外)
98-8	土師	甕	65%	(24.6)	9.5	25.6	(25.8)	長石(多)・石英(多)・砂粒・小石(少)	普通	淡橙褐(橙褐/)			覆土下層	58-8	炭素吸着(外)
98-9	土師	甕	完形	16.0	7.6	25.2	20.4	長石(多)・石英・砂粒(多)	普通	明赤褐(一部褐灰/一部褐灰)			覆土下層	58-9	炭素吸着(外)
98-10	土師	甕	95%	16.8	5.5	18.4	18.8	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明赤褐(一部褐灰/一部褐灰)			カマド内	58-10	器面の摩耗が激しい(外面下半)
98-11	土師	甕	90%	19.4	—	(26.2)	22.6	長石(多)・石英(多)・砂粒	普通	淡橙褐(一部灰褐・口縁内明赤褐/一部褐灰)			カマド左袖前	58-11	炭素吸着(外面下半)
SB030 99-1	須恵	杯	完形	10.6	4.8	3.9	12.8	長石(多)・砂粒(少)	良	青灰			床面	58-1	
99-2	土師	杯	90%	(13.6)	—	4.2	(13.9)	雲母(少)・長石・石英・スコリア(多)・砂粒	普通	淡橙褐(一部灰褐・褐灰/明褐・褐灰)	内外		覆土下層	58-2	器面が摩耗している(内外)
99-3	土師	杯	90%	13.7	8.0	3.5	13.8	雲母(少)・長石・石英・砂粒(やや多)	普通	にぶい明褐(黒／灰褐・褐灰)	内		覆土下層	58-3	炭素吸着(外)
99-4	土師	杯	95%	12.7	—	3.9	14.1	長石・石英・スコリア(やや多)・砂粒	普通	にぶい明黄褐(淡橙褐・褐灰/一部灰褐)	内外		覆土中層	58-4	
99-5	土師	杯	80%	(14.0)	—	3.3	(14.3)	雲母(少)・長石・石英・スコリア・砂粒	普通	にぶい明黄褐(一部褐灰／一部明褐・褐灰・黒褐)			床面	58-5	器面の摩耗が激しく(内外)黒色処理の有無は不明、底部から口縁部(外)にかけて炭素吸着?
99-6	土師	杯	50%	(12.1)	—	3.9	(13.0)	長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部褐灰/広範囲褐灰)			覆土中層	—	器面が摩耗している(内外) 炭素吸着(内外)
99-7	土師	杯	50%	12.0	6.8	6.8	12.0	長石(多)・石英(多)・砂粒(多)	普通	明褐(/一部褐灰)			床面	—	炭素吸着(底部外面)
99-8	土師	杯	完形	16.7	—	5.7	16.7	長石(多)・石英・砂粒(多)	普通	明褐(一部明赤褐・褐灰/明赤褐・褐灰)			覆土下層	58-8	
99-9	土師	高杯	完形	14.5	脚裾部径 11.4	7.9	くびれ部径 4.5	長石(多)・石英・砂粒	普通	明褐(杯-黒・脚--一部褐灰/一部明赤褐)	杯内		床面	58-9	器面の摩耗が激しい(内外)
100-10	土師	高杯	95%	12.6	脚裾部径 11.0	8.5	くびれ部径 4.2	長石(細)・石英(細)・スコリア(?)・砂粒(細)	普通	淡橙褐(黒褐/褐灰)	杯内		床面	58-10	

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
100-11	土師	高杯	80%	(13.8)	脚裾部径(10.0)	9.5	くびれ部径 3.5	雲母(少)・長石(細)・石英(細)・スコリア(細)・砂粒(細)	普通	橙褐色(杯-灰褐・黒褐・脚-明赤褐・褐灰/灰褐・褐灰)	杯内外		覆土下層	58-11	
100-12	土師	高杯	80%	(15.0)	脚裾部径(9.8)	8.4	くびれ部径4.0	長石・石英・スコリア(やや多)・砂粒(やや多)	普通	橙褐(杯-褐灰・黒褐・脚-黒斑あり/褐灰・黒褐)	杯内外		カマド左袖上	58-12	
100-13	土師	高杯	90%	18.7	脚裾部径(12.0)	15.9	くびれ部径 5.0	長石・石英・砂粒	普通	にぶい橙褐(黒/一部黒(黒斑)	杯内		床 面	58-13	器面が摩耗している(内外)
100-14	土師	高杯(杯部)	20%	(19.1)	−	(5.1)	(19.5)	雲母(少)・長石(細・少)・石英(細・少)・砂粒(細・少)	普通	明褐(一部褐灰/)			床 面	−	
100-15	土師	高杯(杯部)	40%	14.5	−	(3.2)	14.7	長石(少)・スコリア(やや多)・砂粒(少)	普通	橙褐		内外	覆土中層	−	
100-16	土師	高杯(脚部)	40%	−	脚裾部径 15.5	(11.8)	くびれ部径 6.1	長石・砂粒	普通	にぶい明赤褐(杯-黒褐・脚-褐灰/一部灰褐)			床 面	−	器面が摩耗している(内外)
100-17	土師	甕	完形	13.1	7.0	16.9	16.6	長石(やや多)・石英・砂粒(やや多)	普通	明赤褐(全面黒褐・褐灰/広範囲褐灰)			床 面	59-17	炭素吸着(内外)
100-18	土師	甕	80%	16.6	−	24.5	17.6	長石(多)・石英・砂粒	普通	にぶい明赤褐(広範囲褐灰/広範囲褐灰)			床 面	59-18	器面が摩耗している(内外) 炭素吸着(内外)
100-19	土師	甕	80%	15.6	5.2	28.0	18.6	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒	普通	明褐(褐灰/)			覆土下層	59-19	炭素吸着(内外)
100-20	土師	甕	20%	(21.5)	−	(16.0)	(24.7)	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(やや多)	普通	淡橙褐			床 面	−	炭素吸着(外)
100-21	土師	甕	70%	(16.8)	7.9	29.9	27.2	長石・石英・スコリア・砂粒(多)	普通	橙褐(/広範囲褐灰)			床 面	59-21	炭素吸着(外)
100-22	土師	甑	80%	23.6	7.4	20.3	24.1	長石・石英・砂粒(多)	普通	橙褐			覆土下層	59-22	炭素吸着(外)
100-23	土師	甑	95%	27.4	8.4	22.5	28.5	長石・石英・砂粒	普通	淡橙褐			床 面	59-23	頸部の全周を3等分したところ3か所に耳状突起
SB031 101- 1	須恵	杯(高台付)	50%	(12.7)	8.1	3.8	(12.9)	長石・石英・砂粒(やや多)	良	灰(明)			床 面	−	底部は回転ヘラケズリ後高台を貼付け後ナデ
101- 2	土師	杯(小型)	55%	(9.5)	−	3.7	(10.1)	雲母(細・やや多)・長石(少)・石英(少)	普通	橙褐			貼床中	−	
101- 3	土師	甕	10%	(29.8)	−	(8.9)	−	雲母・長石(細)・石英(細)・スコリア(少)・砂粒(細)	普通	にぶい明褐(/一部褐灰)			床 面	−	炭素吸着(内)
101- 4	土師	甕	30%	(22.4)		(13.4)	(22.8)	雲母・長石(多)・石英(多)・砂粒(多)	普通	橙褐(/一部灰褐)			床 面	−	器面の摩耗が激しい(内外)
101- 5	土師	甕(底部)	20%	−	6.1	(6.3)	−	長石・石英・砂粒(多)	普通	にぶい明褐(黒褐/褐灰・黒褐)			床 面	−	炭素吸着(内外)
SB032 102- 1	土師	杯	完形	14.3	−	3.4	14.3		普通	明褐(黒/一部黒)	内外		床 面	59- 1	
102- 2	土師	杯	40%	(13.2)	−	4.9	(15.1)	雲母(多)・長石(細)・石英(細)・砂粒(細)	普通	淡橙褐(一部褐灰/一部灰褐・黒)	内外		床 面	−	
102- 3	土師	杯	30%	(13.3)	−	(3.5)	(14.1)	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒	普通	にぶい明褐(明赤褐・褐灰/褐灰)		内	床 面	−	炭素吸着(外)
102- 4	土師	杯	35%	(13.6)	−	(4.9)	(13.7)	長石・石英・砂粒	普通	明黄褐(褐灰・黒褐/灰褐・褐灰)	内外		床 面	−	
102- 5	土師	杯	45%	(13.0)	−	3.3	(14.9)	長石(細・少)・石英(細・少)・砂粒(細・少)	普通	にぶい明黄褐(灰褐・褐灰/灰褐)	内外		床 面	−	底部中央に線刻 器面が摩耗している(内外)
102- 6	土師	椀	35%	(19.5)	(9.0)	7.5	(20.2)	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(やや多)	普通	明褐(一部黒褐/一部黒褐)			床 面	−	炭素吸着(内外)

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
102-7	土師	椀	40%	(11.2)	—	(6.3)	(12.5)	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(やや多)	普通	にぶい明赤褐(一部灰褐/一部灰褐・黒褐)			覆土下層	—	器面が摩耗している(内外)
102-8	土師	甕	15%	(21.2)	—	(9.0)	—	雲母・長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒	普通	にぶい明褐(一部灰褐/一部灰褐)			床面	—	頸部に深い輪積痕が残る(内)
102-9	土師	甕	30%	(18.5)	—	(23.5)	(24.8)	長石・石英・砂粒(多)	普通	橙褐(褐灰/一部にぶい明褐・褐灰)			カマド左袖脇	—	炭素吸着(内外)
102-10	土師	甕(小型)	40%	(11.6)	—	(8.5)	(11.9)	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(やや多)	普通	にぶい明褐(/灰褐・褐灰)			床面	—	輪積痕が残る(内)胴部にはヘラケズリによる光沢が残る(外) 炭素吸着(外)
102-11	土師	甕	15%	(22.1)	—	(7.0)	(22.5)	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(やや多)	普通	にぶい明赤褐(一部褐灰/一部褐灰)			覆土上層	—	炭素吸着(内外)
102-12	土師	甕	20%	(17.7)	—	(16.4)	(18.8)	長石・石英・砂粒(やや少)	普通	橙褐			P1覆土	—	頸部には横方向に一周する様に凹がつく程のナデがある(内) 器面が摩耗している(内外)
SB033 103-1	土師	杯(高台付)	完形	9.5	3.0	3.9	9.6	長石(細・少)・石英(細・少)・砂粒(細・少)	普通	(黒/橙褐)	内外		覆土中層	59-1	規則正しい横方向のミガキが並ぶ(内)
103-2	土師	椀	完形	9.6	—	4.7	9.8	長石(多)・石英(多)・砂粒	普通	にぶい明褐(一部褐灰・黒褐/広範囲褐灰)		内外	覆土中層	59-2	炭素吸着(内外)
103-3	土師	椀(高台付)	70%	(15.6)	5.7	6.0	(16.0)	長石・石英・砂粒	普通	橙褐(褐灰・黒褐/)			覆土中層	59-3	器面の摩耗が激しい(内外)
103-4	土師	甕	90%	25.0	—	24.0	26.0	長石(多)・石英(多)・砂粒	普通	明褐(褐灰/)			覆土中層	59-4	炭素吸着(内外)
103-5	土師	甕	40%	—	11.8	(15.8)	—	長石(多)・石英(多)・砂粒・小石	普通	橙褐(/黒褐)			覆土中層		器面の摩耗が激しい(内外) 帯状に炭素吸着(外)
SB034 104-1	土師	鉢	40%	(12.2)	5.8	5.6	—	長石・石英・砂粒	普通	明褐(にぶい明赤褐・底-黒/一部明赤褐・黒褐)		内	覆土上層	—	炭素吸着(内外)
104-2	土師	杯	90%	11.4	—	3.5	11.6	長石(細)・石英(細)・砂粒(細)	普通	橙褐(橙褐/淡橙褐)		内外	床面	59-2	放射状にミガキが入る(内) 器面の摩耗が激しい(内外)
104-3	土師	甕	30%	(16.4)	—	(10.4)	(17.0)	長石・石英・砂粒(多)	普通	にぶい明赤褐(褐灰/にぶい明赤褐・灰褐)			床面	—	器面の摩耗が激しい(内外)
104-4	土師	甕	30%	(19.4)	—	(15.2)	(19.6)	長石・石英・砂粒(多)	普通	にぶい明赤褐(褐灰/灰褐)			床面	—	頸部に深い輪積痕が残る(内) 器面の摩耗が激しい(外)
SB035 105-1	須恵	杯	25%	(11.2)	—	(4.0)	(13.2)	長石(多)・石英・砂粒	良	灰(/青灰)			覆土上層	—	SB035-3の身
105-2	須恵	杯	30%	(10.8)	—	(3.3)	(12.6)	長石(少)・石英(少)・砂粒	良	灰(/一部青灰)			覆土下層	—	
105-3	須恵	蓋	40%	(12.4)	—	(4.4)	(12.6)	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良	灰			覆土下層	—	SB035-1の蓋
105-4	土師	杯	95%	12.6	—	3.1	13.4	長石・石英・スコリア(多)・砂粒(やや多)	普通	にぶい淡橙褐(灰褐・黒褐/一部褐灰)	内		覆土下層	59-4	器面が摩耗している(外)
105-5	土師	杯	70%	(13.6)	—	3.5	(13.6)	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明黄褐(灰褐・黒褐/灰褐・黒褐)	内外		カマド内	59-5	
105-6	土師	杯	70%	(13.6)	—	3.9	(14.1)	長石・石英・砂粒	普通	にぶい淡明橙褐(灰褐・黒褐/灰褐・黒褐)	内外		カマド内	—	器面が摩耗している(内外)
105-7	土師	杯	50%	(14.2)	—	4.8	(14.2)		普通	明褐(一部褐灰/一部褐灰)			床面	—	器面が摩耗している(内外)
105-8	土師	杯	30%	(11.8)	—	(5.2)	(11.9)	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(やや多)	普通	にぶい明黄褐(広範囲黒褐/一部黒褐)			覆土一括	—	炭素吸着(内)

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
105-9	土師	高杯 (杯部)	35%	(15.3)	—	(4.5)	(15.3)	長石(多)・石英・砂粒	普通	にぶい明赤褐(黒/褐灰・黒褐)	内外		—	—	器面が摩耗している(内外)
105-10	土師	甕 (小型)	50%	(14.9)	5.3	10.0	胴部 (14.7)	雲母・長石(多)・石英・砂粒(多)	普通	にぶい明褐(一部褐灰/一部褐灰)			床面	—	炭素吸着(外)
105-11	土師	鉢	40%	(22.4)	—	(7.9)	(22.4)	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(やや多)		明褐(/一部明赤褐・黒褐)			覆土下層	—	炭素吸着(外)
105-12	土師	甕	25%	—	7.2	(7.2)	—	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(やや多)	普通	明褐(一部褐灰・黒褐 /にぶい明赤褐・褐灰)			カマド内	59-12	輪積痕のところで欠けている
105-13	土師	甕	40%	(18.8)	(5.8)	(26.8)	(19.4)	長石(多)・石英(多)・砂粒(多)	普通	明赤褐(一部褐灰/一部褐灰)			貯蔵穴内	—	輪積痕が残る(内) 炭素吸着(外)
SB037 106-1	土師	甕	15%	(18.3)	—	(6.0)	—	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良	明黄褐(一部灰褐・黒褐/)			覆土上層	—	
SE038 107-1	土師	甕	25%	(16.2)	—	(6.5)	—	長石(多)・石英(多)・砂粒(多)	普通	橙褐(淡橙褐/)		内外	床面	—	赤彩(内面口縁部～外面肩部) 器面の摩耗が激しい(内外)
107-2	土師	甕	20%	(18.8)	—	(9.2)	—	長石(多)・石英(多)・砂粒(多)	普通	にぶい明褐(褐灰/褐灰・黒褐)			覆土上層	—	炭素吸着(外)
107-3	須恵	蓋	40%	(11.0)	—	(2.5)	(13.3)	長石・石英・砂粒	良	青灰			床面	—	拓本(工具による圧痕) SB038-4の蓋 SB188-3と住居間接合
107-4	須恵	杯	40%	(8.7)	(3.8)	3.5	(11.4)	長石(少)・石英(少)・砂粒)(少)	良	灰(明)			覆土下層	—	SB038-3の身
107-5	須恵	蓋	40%	(10.1)	—	3.9	(10.4)	長石(少)・砂粒(少)	良 堅緻	(青灰/晴青灰)			覆土上層	—	
107-6	須恵	杯	40%	(9.2)	(4.7)	3.7	(11.2)	長石(少)・砂粒(少)	良	灰(明)			覆土下層	—	接合
107-7	土師	杯	70%	(11.7)	—	(3.6)	(12.0)	雲母(やや多)・長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(やや多)	普通	にぶい明褐(褐灰・黒褐/灰褐)			覆土下層	—	器面が摩耗している(内外)
107-8	土師	甕 (大型)	70%	—	—	(37.0)	(38.9)	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(やや多)	普通	淡橙褐・橙褐(一部赤褐・褐灰/一部赤褐・褐灰)		内外	床面	60-8	赤彩(内面口縁部～外面肩部) 器面の摩耗が激しい(内外)
107-9	土師	甑	70%	(24.0)	8.5	24.7	(24.0)	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明褐(褐灰/褐灰・黒褐)			カマド内	60-9	外部に輪積痕が残る(内) 炭素吸着(外)
SB039 108-1	須恵	蓋	30%	11.8	—	4.7	11.9	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良	灰(やや褐色味を帯びる/)			覆土下層	60-1	
108-2	須恵	杯	95%	11.5	6.5	4.5	11.5	長石(少)・石英(少)・砂粒)(少)	良	灰(明)			覆土下層	60-2	器面が摩耗している(内外)
108-3	須恵	杯	80%	12.6	5.8	3.5	12.8	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良	灰			覆土下層	60-3	
108-4	土師	杯	完形	10.2	—	4.0	10.6	砂粒(少)	普通	橙褐(/一部淡橙褐)		内外	覆土中層	60-4	器面の摩耗が激しい(内外)
108-5	土師	杯	50%	(10.8)	—	4.7	(11.0)	長石・石英・砂粒	普通	明褐(ごく一部褐灰/ごく一部褐灰)			カマド内	60-5	炭素吸着(内外)
108-6	土師	杯	50%	(11.0)	—	3.4	(11.2)	砂粒(少)	普通	明黄褐(灰褐/)	内		覆土一括	—	器面の摩耗が激しい(外)
108-7	土師	杯	30%	(13.4)	—	(4.1)	(13.6)	長石(多)・石英(多)・砂粒(多)	普通	橙褐(/明赤褐)		外	床面	—	
108-8	土師	椀	完形	16.5	3.0	7.1	16.8	雲母(少)・長石・石英・砂粒	普通	にぶい明褐(灰褐・褐灰/一部灰褐・黒褐)			覆土下層	60-8	炭素吸着(内外)
108-9	土師	高杯	95%	15.3	脚裾部径 9.5	10.5	くびれ部径 5.6	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(多)	普通	淡橙褐(明褐・褐灰/一部明褐・褐灰)			覆土下層	60-9	器面の摩耗が激しい(内外)
108-10	土師	甕	完形	21.3	6.3	30.2	胴部 21.0	長石・石英・砂粒(多)・小石	普通	明褐(にぶい明褐/褐灰・明赤褐)			カマド内	60-10	正円ではない 口径19.2cm×22.0cm 器面の摩耗が激しい(外) 炭素吸着(外面肩部下)

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
108-11	土師	甕	60%	(21.5)	—	(21.0)	胴部 18.2	長石(多)・石英(多)・砂粒(多)	普通	明褐(灰褐／一部灰褐・褐灰)			床面	—	器面の摩耗が激しい(外) 炭素吸着(外)
108-12	土師	甕	70%	(21.3)	9.0	30.3	25.6	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	普通	淡橙褐(明褐/下半灰褐)			カマド右袖脇	60-12	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(外)
108-13	土師	甑	95%	24.7	9.8	28.0	胴部 23.9	雲母(少)・長石(多)・石英(多)・砂粒(多)	普通	明褐(一部灰褐/一部灰褐)			床面	60-13	器面の摩耗が激しい(内外)
108-14	土師	甕	45%	(18.3)	—	(31.5)	(22.2)	雲母(やや多)・長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(やや多)	普通	にぶい淡橙褐(下半褐灰・黒褐/下半にぶい明赤褐・灰褐)			カマド右袖脇	60-14	正円ではない 器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外面下半)
108-15	土師	甕	40%	(18.9)	—	(26.0)	(20.5)	長石・石英・砂粒(多)・黒色粒子(多)	普通	明褐(一部褐灰/広範囲明赤褐)			床面	—	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)
108-16	土師	甕	40%	20.7	—	(12.1)	胴部 20.6	長石・石英・砂粒(多)・小石	普通	(/一部褐灰)			床面	—	器面の摩耗が激しい(外) 炭素吸着(外)
108-17	土師	甕	30%	(22.8)	—	(18.5)	(26.9)	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(多)	普通	淡橙褐(一部灰褐/一部赤褐)			床面	—	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)
109-18	土師	甕	95%	22.1	9.3	29.4	26.2	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	普通	橙褐(/にぶい明赤褐)			カマド内	61-18	明黄褐色の粘土が縞状にねりこまれている 器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(外面下半)
109-19	土師	甑	50%	(31.0)	(11.6)	29.0	(31.0)	雲母・長石・石英・スコリア(多)・砂粒	普通	淡橙褐(灰褐・褐灰/一部灰褐)			床面	60-19	器面の摩耗が激しい(外) 炭素吸着(外)
SB040 110-1	須恵	杯	55%	(11.1)	—	13.8	(12.8)	長石・石英・砂粒(少)	良	にぶい青灰			カマド上	—	底部に大きな歪み
110-2	土師	杯	70%	(12.4)	—	5.0	(12.4)	長石・石英・砂粒(多)	普通	明赤褐(褐灰・黒褐/褐灰・黒褐)	内外		覆土下層	60-2	肉厚
110-3	土師	杯	80%	(11.6)	—	4.5	(12.2)	長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部灰褐・褐灰/一部灰褐・黒褐)	内外		床面	61-3	肉厚
110-4	土師	高杯	55%	—	脚裾部径 11.5	(7.3)	くびれ部径 6.6	長石・石英・砂粒	普通	橙褐(/赤)		外	覆土上層	—	器面が摩耗している(内外)
110-5	土師	高杯(脚部)	58%	—	脚裾部径(14.7)	(7.8)	くびれ部径 5.8	雲母・長石・石英・砂粒	普通	橙褐(一部灰褐/)		外	覆土下層	—	炭素吸着(脚内部)
SB042 111-1	須恵	蓋	10%	—	—	(2.1)	—	長石(少)・砂粒(少)	良	灰(/自然釉)			覆土上層	—	鈕径2.8cm 鈕高0.8cm
111-2	土師	杯	70%	(12.8)	—	(4.1)	(12.9)	砂粒(少)	普通	淡橙褐(灰褐・黒褐/一部灰褐)			覆土上層	61-2	炭素吸着(内外)
SB043 112-1	土師	甕(小型)	95%	—	9.3	10.9	13.7	長石・石英・砂粒(やや多)・小石(少)	普通	明赤褐(一部灰褐/)			床面	61-1	輪積痕が残り調整が雑
112-2	須恵	杯	40%	(10.0)	—	(4.7)	(12.7)	長石(やや多)・石英・砂粒	良	青灰			床面	—	底部が歪んでいる
112-3	須恵	杯	80%	9.2	5.6	5.5	10.3	長石(少)・砂粒(少)	良	灰			覆土上層	57-6	全体に正円形ではなく口縁部は卵形 SB028-6と住居間接合
112-4	土師	杯	40%	(12.6)	—	(5.5)	(13.6)	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明褐(一部灰褐・黒褐/明褐)		外	床面	—	調整が雑で表面に凹凸が多い
112-5	土師	杯	65%	(12.0)	—	(4.1)	(12.6)	長石・石英・砂粒	普通	にぶい淡橙褐(灰褐/黒褐)	外		床面	61-5	炭素吸着(内外)
112-6	土師	杯	30%	(15.2)	—	(3.1)	(15.9)	砂粒(少)	普通	(一部黒褐/一部黒褐・にぶい明赤褐)	内外		覆土下層	—	器面の摩耗が激しい(内外)
112-7	土師	鉢	30%	(14.8)	—	(7.1)	(16.8)	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明赤褐(一部灰褐/一部灰褐・黒褐)			床面	—	
112-8	土師	鉢	95%	12.2	6.4	6.9	12.4	長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部灰褐・一部褐灰)			床面	61-8	炭素吸着(内外)
112-9	土師	高杯(杯部)	40%	(22.2)	—	5.6	(22.9)	長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部灰褐・一部灰褐・黒褐)		外	床面	—	炭素吸着(内外)

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
112-10	土師	椀	60%	(10.3)	6.4	4.7	(10.7)	長石(少)・石英(少)・砂粒	普通	にぶい明褐(黒/一部褐灰・黒)			床面	61-10	粗雑な作りで口縁波状 炭素吸着(内外)
112-11	土師	高杯(脚部)	40%	—	脚裾部径(12.2)	7.0	くびれ部径 5.3	砂粒(少)	良	橙褐(/一部灰褐)		内外	床面	—	
112-12	土師	高杯(脚部)	40%	—	脚裾部径(13.8)	(12.0)	くびれ部径 6.2	砂粒(少)	良	淡橙褐(杯-黒・脚上部-黒/広範囲灰褐)			床面	—	炭素吸着(内外)
112-13	土師	甕	15%	(22.0)	—	(20.0)	(29.2)	長石(多)・石英(多)・砂粒(多)	普通	明褐(一部褐灰/広範囲褐灰)			覆土下層	—	炭素吸着(内外)
SB044 113-1	須恵	杯	85%	10.9	—	4.5	13.2	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒	良	灰(明)			覆土上層	61-1	
113-2	土師	杯	50%	(12.4)	—	(4.2)	(13.8)	砂粒(細・少)	良	にぶい橙褐(褐灰/灰褐・褐灰)	内外		覆土下層	—	
113-3	土師	杯	完形	11.8	—	4.5	(13.2)	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明褐(広範囲褐灰・黒褐/広範囲褐灰)			床面	61-3	炭素吸着(内外)
113-4	土師	杯	30%	(17.0)	—	(4.6)	(17.4)	雲母(細)・砂粒(細・少)	良	淡橙褐(褐灰/一部灰褐)	内		床面	—	
114-5	土師	高杯	85%	18.8	脚裾部径(12.2)	(15.3)	くびれ部径 4.9	長石・石英・砂粒	普通	明褐(黒/一部灰褐・黒褐)	内		カマド内	61-5	
114-6	土師	高杯	70%	13.6	—	(8.1)	くびれ部径 5.5	砂粒(少)	普通	橙褐(黒/)	内		床面	61-6	
114-7	土師	高杯(脚部)	45%	—	脚裾部径(11.0)	(7.2)	くびれ部径 5.7	雲母(やや多)・スコリア(少)・砂粒(少)	良	淡橙褐(杯-うすい黒褐・脚部-一部灰褐/一部灰褐・褐灰)	内		床面	—	
114-8	土師	甕(小型)	95%	10.5	5.8	10.5	12.9	長石・石英・砂粒	普通	明褐(黒/ごく一部黒)			床面	61-8	炭素吸着(内)
114-9	土師	甕	75%	—	5.9	(25.5)	21.3	長石・石英・砂粒	普通	明褐(/一部明赤褐)			貯蔵穴内	61-9	炭素吸着(外)
114-10	土師	甕	35%	(16.4)	—	(16.2)	(28.2)	長石・石英・砂粒	普通	淡橙褐(一部灰褐/一部灰褐)			床面	—	器面の摩耗が激しい(内外)
SB045 115-1	土師	甑	60%	(30.2)	—	(28.9)	胴部(26.0)	長石(細)・石英(細)・スコリア(やや多)・砂粒	普通	にぶい淡橙褐(褐灰/広範囲褐灰・黒褐)			床面	61-1	炭素吸着(内外)
SB046 116-1	須恵	蓋	95%	13.0	平坦部4.4	4.6	13.4	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒	良	灰白			覆土下層	61-1	指ナデ(内) 器面が摩耗している(内外)
116-2	須恵	蓋	50%	(11.8)	平坦部(4.1)	4.0	(12.3)	長石・石英・砂粒(細)	良	青灰(明青灰/)			覆土下層	—	拓本(平坦部ヘラ圧痕)
116-3	須恵	蓋	20%	(10.6)	—	(4.1)	(10.8)	長石・石英・黒色粒子	良	暗青灰			覆土上層	—	
116-4	土師	杯	95%	14.0	—	4.2	15.3	長石(少)・石英(少)・砂粒(細)	普通	にぶい明褐(灰褐/灰褐・黒褐)	内外		覆土下層	61-4	器面若干摩耗(内外)
116-5	土師	杯	60%	12.0	—	(3.5)	13.9	長石・石英・砂粒	良	にぶい明赤褐(褐灰・黒/褐灰)	内外		覆土中層	61-5	器面若干摩耗(内外)
116-6	土師	杯	90%	13.3	—	4.1	13.5	長石・石英・砂粒・赤色粒子	普通	明赤褐(明赤褐/一部にぶい明褐)			覆土下層	61-6	器面の摩耗が激しい(内外)
116-7	土師	杯	85%	(11.6)	—	3.8	13.3	長石・石英・砂粒(細・少)	普通	明赤褐(一部褐灰/一部褐灰)	内外		覆土下層	61-7	器面の摩耗が激しい(内外)
116-8	土師	杯	70%	(13.9)	—	4.4	(14.1)	石英(少)・砂粒(少)・赤色粒子(多)	普通	にぶい明赤褐(黒褐/灰褐・黒褐)	内外		覆土上層	62-8	底部周縁部に平行に走る4条の圧痕
116-9	土師	杯	60%	12.5	—	3.6	(14.2)		普通	灰褐・黒褐(黒褐/灰褐・黒褐)	内外		覆土下層	62-9	
116-10	土師	杯	40%	(14.4)	—	(3.9)	(14.8)	長石・石英・砂粒	普通	明褐(褐灰・黒/一部褐灰・黒褐)	内		覆土下層	—	器面若干摩耗(内外)
116-11	土師	杯	50%	(12.5)	—	(3.8)	(13.2)	長石・石英・砂粒	良	にぶい明黄褐(灰褐/一部灰褐)	内外		覆土下層	—	器面若干摩耗(内外)
116-12	土師	杯	20%	(12.6)	—	(3.4)	(12.8)	長石・石英・砂粒	良	にぶい明褐(一部にぶい褐色/一部褐灰)			覆土下層	—	炭素吸着(外)
116-13	土師	高杯	95%	14.0	脚裾部径 8.6	(10.3)	くびれ部径 4.2	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	普通	淡橙褐(一部灰褐/一部灰褐・黒褐)			覆土下層	62-13	器面若干摩耗(脚外面)
116-14	土師	杯	完形	11.6	—	5.5	12.0	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(/一部灰褐)			カマド内	62-14	器面の摩耗が激しい(内外)

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内/外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
116-15	土師	杯	完形	12.5	−	5.6	13.6	長石・石英・砂粒・小石	普通	明赤褐(一部褐灰/一部褐灰)			カマド右袖脇	62-15	
116-16	土師	椀	95%	9.6	−	6.4	11.2	雲母(少)・長石(少)・石英(少)・砂粒	普通	にぶい明褐(一部明褐/)			覆土下層	62-16	炭素吸着(底部外面)
116-17	土師	杯	75%	15.0	−	6.8	15.2	長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部褐灰/一部灰褐)			覆土上層	62-17	口縁部外面に粘土が付着 炭素吸着(内)
116-18	土師	杯	70%	11.7	7.7	5.4	12.0	長石・石英・砂粒・小石(少)	普通	明赤褐(褐灰・黒褐/一部黒褐)			床面	62-18	器面の摩耗が激しい(内外)
116-19	土師	椀	40%	10.0	−	8.3	11.0	長石・石英・砂粒(多)	普通	にぶい明褐(一部褐灰/一部褐灰)			覆土下層	−	炭素吸着(底部外面)
117-20	土師	鉢	70%	18.2	−	6.0	18.5	砂粒	普通	明褐(一部灰褐・褐灰/明赤褐・褐灰)			カマド内	62-20	
117-21	土師	甕	完形	13.8	6.6	23.7	19.4	長石・石英・砂粒(多)・小石	普通	にぶい明赤褐(一部褐灰/一部褐灰)			カマド内	62-21	器面の摩耗が激しい(内外)
117-22	土師	甕	完形	16.6	8.5	31.0	22.1	長石(多)・石英(多)・砂粒(多)	普通	橙褐(一部灰褐/)			床面	62-22	ヘラ痕と輪積痕が多く残る(内)
117-23	土師	甕	90%	16.6	6.6	19.5	17.2	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明褐(灰褐・褐灰/にぶい明赤褐・褐灰)			覆土下層	62-23	器面の摩耗が激しい(内外)
117-24	土師	甕	85%	(13.8)	6.4	22.8	19.6	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明赤褐(一部灰褐/一部褐灰)			カマド内 覆土下層	62-24	器面の摩耗が激しい(内外)
117-25	土師	甕	70%	(18.0)	9.4	28.2	(25.0)	長石・石英・砂粒(多)・小石	普通	明赤褐(/黒斑)			床面下	62-25	
117-26	土師	甕	45%	(17.5)	−	(15.7)	胴部(16.9)	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明赤褐(同外面/口縁部褐灰)			覆土下層	62-26	器面の摩耗が激しい(内外)
117-27	土師	甑	95%	21.1	7.1	23.0	胴部(20.4)	長石・石英・砂粒(多)	普通	明褐(褐灰・灰褐/黒斑・明赤褐・褐灰)			覆土下層	63-27	明黄褐の粘土が斑状に混じる 炭素吸着(外)
117-28	土師	甑	50%	−	8.9	(17.5)	(19.8)	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明赤褐(/一部にぶい明褐・黒斑)			床面	−	
SB050 118-1	土師	杯	完形	12.3	8.0	3.9	12.5	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明赤褐			覆土下層	63-1	
118-2	土師	杯	50%	(11.8)	−	4.2	(13.0)	雲母(細・少)・砂粒(細・少)	普通	淡橙褐 明黄褐混(明褐・褐灰/一部褐灰・黒褐)	外		覆土上層	−	口縁部の摩耗が激しい
118-3	土師	杯	40%	(12.5)	−	(3.2)	(13.7)	砂粒(細・少)	普通	淡橙褐(褐灰/灰褐)	内外		覆土下層	−	底部中央に線刻
118-4	土師	高杯	80%	(10.6)	脚裾部径(11.8)	17.4	くびれ部径 4.8	砂粒(細・少)	良	淡橙褐(一部灰褐・褐灰/一部灰褐・褐灰)	内外		覆土下層	63-4	
118-5	土師	高杯(杯部)	40%	12.2	−	(3.7)	12.4	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明褐(広範囲黒褐/広範囲黒褐)			覆土下層	−	炭素吸着(内外)
118-6	土師	高杯(脚部)	40%	−	脚裾部径(10.3)	(5.1)	くびれ部径 4.1	雲母・長石・石英・スコリア(多)・砂粒(細・少)	普通	淡橙褐 明黄褐斑状混(一部灰褐/一部灰褐)			覆土下層	−	
118-7	土師	高杯(脚部)	40%	−	脚裾部径(12.0)	(5.7)	くびれ部径 4.4	雲母(細)・長石(細・少)・石英(細・少)・砂粒(細・少)	良	淡橙褐(杯部−黒/赤一部褐灰)	杯内	脚部内外	覆土上層	−	
118-8	土師	甕(小型)	80%	13.6	7.0	12.2	15.3	長石・石英・砂粒(多)	良	明褐(広範囲黒褐/広範囲灰褐・褐灰)			覆土上層	63-8	炭素吸着(内外)
118-9	土師	鉢	完形	10.1	6.4	9.8	14.0	長石・石英・砂粒	普通	明褐(橙褐/)			覆土下層	63-9	器面の摩耗が激しい(内外)
118-10	土師	甕(小型)	95%	11.4	5.9	8.6	胴部 11.4	長石・石英・砂粒	良	明褐(/一部明赤褐)			覆土下層	63-10	
119-11	土師	甕(小型)	完形	13.0	5.7	16.7	15.4	長石・石英・砂粒(多)	良	明褐(下半部−灰褐・底部−褐灰/広範囲灰褐・黒褐)			覆土下層	63-11	炭素吸着(外)
119-12	土師	甕(小型)	95%	13.8	5.7	16.2	15.5	雲母・長石(多)・石英・(多)・砂粒	良	淡橙褐(/一部橙褐・褐灰)			覆土下層	63-12	炭素吸着(外)
119-13	土師	甕	完形	19.7	7.6	25.9	21.1	長石(細・少)・石英(細・少)・砂粒(細・少)	普通	にぶい明赤褐(褐灰/褐灰)			床面	63-13	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外) 付着物が多い(外)

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
119-14	土師	甕	80%	16.4	7.4	22.8	19.2	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(やや多)	普通	明褐(下半部-灰褐/一部褐灰)			覆土上層	63-14	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)
119-15	土師	甕	95%	13.4	6.0	24.2	20.5	長石・石英・砂粒(多)	普通	明褐(にぶい明褐/広範囲灰褐)			覆土上層	63-15	炭素吸着(外)
119-16	土師	甕	40%	16.4	—	(17.2)	21.3	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明褐(/一部褐灰)			覆土上層	63-16	炭素吸着(外)
119-17	土師	甕	40%	16.1	—	(14.7)	(19.1)	スコリア(少)・砂粒(少)	普通	にぶい淡橙褐(一部灰褐/褐灰・黒褐)			覆土下層	—	炭素吸着(外)
119-18	土師	甕	70%	17.4	7.2	25.0	17.4	長石・石英・砂粒(多)	普通	橙褐(/一部明褐)			覆土上層	64-18	
119-19	土師	甕	85%	(27.9)	7.1	23.2	胴部(27.3)	長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部灰褐/明赤褐・褐灰)			覆土下層	64-19	器面の摩耗が激しい(内外)
119-20	土師	甕	50%	(18.8)	—	(21.8)	(23.2)	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明褐(灰褐・褐灰/褐灰・黒褐)			床直	—	炭素吸着(内外)
119-21	土師	甕	25%	(15.7)	—	(12.4)	(16.7)	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明褐(褐灰・黒褐/褐灰)			覆土下層	—	炭素吸着(内外)
120-22	土師	壺	70%	(19.7)	—	(31.75)	(30.0)	長石・石英・砂粒	普通	淡橙褐(一部灰褐/一部橙褐)			覆土下層	64-22	
120-23	土師	甑	90%	(23.3)	8.5	15.7	胴部21.2	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(/一部黒)			覆土下層	64-23	
120-24	土師	甑	90%	(24.1)	8.5	25.5	胴部(21.4)	長石・石英・砂粒	普通	明褐(口縁-黒斑/一部黒斑)			覆土上層	64-24	器面の摩耗が激しい(外)
120-25	土師	甑	85%	(22.6)	8.5	22.5	胴部21.2	長石・石英・砂粒・小石・黒色粒子(少)	普通	明赤褐(/一部黒)			覆土上層	64-25	輪積痕が多く残り調整が雑
120-26	土師	甑	50%	(26.5)	(9.3)	21.8	胴部(24.5)	雲母・長石・石英・スコリア・砂粒(多)	普通	明褐(褐灰/褐灰・黒)			覆土上層	64-26	炭素吸着(外)
120-27	土師	甑	40%	—	8.1	13.0	—	長石・石英・砂粒	良	淡橙褐(一部明褐/一部灰褐)			覆土上層	—	炭素吸着(外)
SB075 121-1	土師	甕(小型)	80%	10.9	6.7	15.4	15.2	長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部灰褐/明褐・褐灰)			貯蔵穴内	64-1	炭素吸着(内外)
121-2	土師	甕	30%	13.5	—	(9.5)	16.3	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(やや多)	普通	明褐(一部灰褐/)			カマド内	—	炭素吸着(内外)
121-3	土師	甕	30%	(25.6)	—	(16.7)	(28.6)	長石(細・多)・石英(細・多)・砂粒(細・多)	普通	明褐			貯蔵穴内	—	炭素吸着(内外)
SB101 122-1	土師	杯	95%	10.1	5.7	4.3	10.4	長石・石英・砂粒	良	にぶい明褐(赤/赤)		内外	床面	64-1	底部中央に木葉痕(若干)
SB102A 123-1	土師	杯	55%	(12.6)	—	3.4	(13.6)	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明赤褐(一部褐灰/一部褐灰)			貯蔵穴内	—	器面の摩耗が激しい(内)
123-2	土師	杯	50%	(13.0)	—	4.9	(14.7)	雲母(細・やや多)・長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部褐灰/一部褐灰)	内外		覆土下層	—	器面の摩耗が激しい(内外)
123-3	土師	杯	40%	(11.9)	—	(5.0)	(12.2)	長石・石英・砂粒	普通	明褐(灰褐/口縁部黒褐)			覆土下層	—	器面の摩耗が激しい(内外)
123-4	土師	甑	15%	(20.5)	—	(13.0)	(23.2)	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良	明褐(明赤褐/明赤褐・褐灰・黒)			床面	—	炭素吸着(外)
123-5	土師	甑	10%	(21.2)	—	(9.1)	(18.4)	長石・石英・砂粒	良	明褐(一部褐灰/褐灰・黒)			カマド内 カマド右袖脇	—	炭素吸着(内外)
123-6	土師	甕	70%	(17.4)	6.7	(15.0)	(18.5)	長石(多)・石英(多)・砂粒(多)	普通	明褐(一部褐灰/一部褐灰)			カマド内	—	器面の摩耗が激しい(内外)
SB103 124-1	須恵	長頸壺	20%	—	—	(7.4)	—	長石(少)・石英(少)・砂粒(細)・黒色粒子	良	灰白			床面	—	
124-2	土師	甕	55%	(18.5)	—	(32.5)	胴部(17.5)	長石・石英・砂粒・小石(少)	普通	明褐(/一部褐灰)			床面	64-2	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(外)
SB104 125-1	土師	甑	30%	(28.4)	—	(23.3)	胴部(24.7)	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)・黒色粒子(少)	普通	明黄褐(一部黒/一部黒)			床面	—	炭素吸着(外)

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色 処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
SB105 126-1	土師	杯	80%	(14.2)	—	4.5	(14.6)	長石(細)・石英(細)・スコリア(多)・砂粒(細)	普通	淡橙褐(一部灰褐・黒褐/一部灰褐・黒褐)	内外		床面	64-1	
126-2	土師	杯	30%	(12.8)	—	(4.0)	(12.8)	長石・石英・砂粒(多)	普通	にぶい明褐(一部灰褐/一部褐灰)			床面	—	器面の摩耗が激しい(内外)
126-3	土師	甕	50%	(13.9)	(6.8)	(12.0)	(13.9)	長石・石英(やや多)・砂粒	普通	明褐(明赤褐/一部灰褐)			床面	—	炭素吸着(内外) 歪みが大
126-4	土師	甕	75%	14.8	—	(14.8)	(18.3)	長石・石英・砂粒(多)	普通	明赤褐(一部灰褐/一部灰褐)			カマド内 カマド右袖前	64-4	器面の摩耗が激しい(内外)
126-5	土師	鉢	15%	16.0	—	(5.9)	—	長石(少)・石英(少)・砂粒(細)	普通	明赤褐(一部灰褐/一部灰褐)			床面	—	
126-6	土師	鉢	40%	(25.8)	(9.6)	(15.6)	(26.0)	長石(多)・石英(多)・砂粒	普通	明赤褐(一部褐灰/一部褐灰)			カマド内	—	器面の摩耗が激しい(内外)
126-7	土師	甕	20%	—	(9.0)	(8.3)	—	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明褐(黒褐/灰褐・黒褐)			床面	65-7	炭素吸着(内外)
126-8	土師	甑	60%	25.0	—	(17.5)	胴部 22.0	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明赤褐(ごく一部褐灰/褐灰・黒)			カマド内	64-8	口縁部2穴4対の穿孔あり4対は対角線上にはない 炭素吸着(外)
SB106 127-1	土師	杯	80%	(10.2)	—	4.0	(10.4)	長石・石英・砂粒(多)・小石	普通	明褐			床面	65-1	器面の摩耗が激しい(内外)
127-2	土師	高杯 (杯部)	40%	—	—	(5.3)	くびれ部径 6.0	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(やや多)	普通	明褐(一部灰褐/一部褐灰)			床面	—	
127-3	土師	甕 (小型)	70%	(14.0)	6.6	10.8	(14.6)	長石・石英・砂粒	普通	橙褐(一部灰褐/一部褐灰)			床面	65-3	器面の摩耗が激しい(内外)
SB108 128-1	土師	杯	70%	(13.4)	—	4.8	(13.6)	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(一部灰褐・黒褐/一部黒褐)	内外		カマド内	65-1	
128-2	土師	杯	60%	(13.0)	—	(4.2)	(13.3)	長石(多)・石英・砂粒(多)	普通	明褐(赤/赤)		内外	カマド内	—	
128-3	土師	高杯 (杯部)	40%	(22.5)	—	(8.1)	くびれ部径 5.8	長石(少)・石英(少)・砂粒	普通	淡橙褐(/一部灰褐・黒褐)			貯蔵穴内	65-3	
128-4	土師	甕	40%	15.0	—	(11.2)	—	長石(多)・石英(多)・砂粒(多)	普通	明褐(一部褐灰/一部褐灰)			カマド内	—	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)
128-5	土師	甕	90%	13.0	7.8	19.9	19.5	長石(多)・石英(多)・砂粒(多)	普通	にぶい明赤褐(褐灰・黒褐/一部褐灰・黒褐)			カマド内	65-5	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)
128-6	土師	甕	90%	15.0	4.2	28.5	19.5	雲母(少)・長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(多)	普通	淡橙褐(橙褐・灰褐/橙褐)			カマド内	65-6	炭素吸着(外)
SB110 129-1	土師	甕	40%	(18.9)	—	(22.2)	(11.4)	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明赤褐(褐灰/一部褐灰)			床面	—	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)
SB111 130-1	土師	杯	70%	13.8	—	4.9	16.2	砂粒(細)	普通	明黄褐色(灰褐/一部明褐 褐灰・黒)	内外		床面	65-1	器面の摩耗が激しい(内外)
130-2	土師	甕	35%	—	8.1	(15.1)	—	長石・石英・砂粒(少)	普通	明赤褐(明赤褐/一部灰褐・黒)			床面	—	炭素吸着(外)
SB129 131-1	土師	杯	完形	12.2	—	3.4	13.3	砂粒(細・少)	普通	にぶい淡橙褐(橙褐・橙灰/橙褐・橙灰)			覆土上層	65-1	炭素吸着(内外)
131-2	土師	高杯	90%	(18.0)	脚裾部径(12.6)	15.8	くびれ部径 5.5	長石・石英・砂粒(細)・赤色粒子(胎土中の鉄分)	普通	明褐(杯-一部黒褐/明褐)			床面	65-2	炭素吸着(内外)
131-3	土師	甑	60%	(25.6)	(8.1)	11.2	胴部 (22.8)	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明褐(一部褐灰・黒/一部灰褐・黒)			カマド内	65-3	炭素吸着(内外)
131-4	土師	甑	15%	—	(9.0)	(15.3)	—	長石・石英・砂粒	普通	にぶい赤褐(にぶい赤褐/黒)			カマド内	—	炭素吸着(外)
SB134 132-1	土師	杯	90%	13.7	—	4.3	14.0	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(やや多)	良	にぶい明褐(一部褐灰/褐灰・黒褐)			覆土下層	65-1	底部に深い線刻 炭素吸着(内外)
132-2	土師	甕	80%	16.3	7.3	24.2	(24.0)	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(明褐・褐灰/下半部-褐灰)			カマド左袖脇	65-2	器面の摩耗が激しい(外) 炭素吸着(内外)

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内/外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
SB138 133-1	土師	甕	60%	(13.5)	5.7	16.9	(15.4)	長石(多)・石英(多)・砂粒(多)	普通	明褐(一部褐灰/一部灰褐)			カマド内	65-1	炭素吸着(外)
SB143 134-1	土師	甕	30%	(12.9)	—	(10.9)	(14.6)	長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部灰褐/一部褐灰)			カマド内	—	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)
134-2	土師	甕	30%	(14.7)	—	(21.1)	(20.8)	長石・石英・砂粒・黒色粒子(少)	普通	明赤褐(ごく一部灰褐/一部黒)			覆土下層	—	炭素吸着(外)
134-3	土師	甕	35%	—	—	(19.5)	(22.0)	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒	普通	明褐(一部灰褐/一部灰褐・黒)			覆土下層	—	器面の摩耗が激しい(内)
SB144 135-1	土師	高杯 (脚部)	35%	—	脚裾部径 12.0	(9.1)	くびれ部径(5.2)	雲母・長石・石英・砂粒(やや多)	普通	橙褐(杯-黒、脚-淡橙褐/黒)	内外		覆土下層	65-1	脚内面以外はすべて黒色処理
SB146 136-1	土師	杯	65%	(16.8)	—	(5.5)	(17.1)	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(一部黒褐/)			P4覆土	65-1	器面の摩耗が激しい(内外)
136-2	土師	杯	40%	(12.1)	—	(4.2)	(14.2)	長石・石英・砂粒(細)	良	明黄褐・明褐(黒/一部黒)	内外		覆土下層	—	
136-3	土師	杯	25%	(6.6)	—	(3.2)	(14.3)	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)・黒色粒子(少)	普通	明黄褐(一部灰褐・黒褐/一部褐灰・黒褐)	内外		P4覆土	65-3	
136-4	土師	杯	完形	11.2	6.4	5.5	(11.7)	長石・石英・砂粒・小石(少)	普通	明褐(明褐/明褐)			覆土下層	—	
136-5	土師	甕	40%	(16.4)	—	(13.8)	(19.1)	長石・石英・砂粒・黒色粒子(やや多)	普通	橙褐(/一部明赤褐)			カマド右袖脇	—	焼成前に付着した粘土塊が広範囲に残る(外) 器面の摩耗が激しい(内外)
136-6	土師	甕	20%	(13.5)	—	(10.8)	胴部(12.8)	長石(やや大)・石英(やや大)・砂粒	普通	明褐(明赤褐/明褐)			覆土下層	—	
136-7	土師	甕	20%	(13.1)	—	(11.0)	(16.5)	長石(やや大)・石英・砂粒	普通	明褐(/一部灰褐・黒)			床面	—	
SB148 137-1	土師	杯	完形	13.9	—	3.8	14.9	長石・石英・砂粒(細)・赤色粒子(少)	普通	明褐(灰褐・黒/灰褐・黒)	内外		カマド右袖脇	66-1	
137-2	土師	杯	完形	12.0	4.6	3.8	13.4	長石・石英・砂粒(細)	普通	褐色(一部黒/一部明赤褐 灰褐・黒)			カマド左袖脇	66-2	炭素吸着(内外)
137-3	土師	杯	70%	(13.3)	—	3.9	(14.9)	長石・石英・砂粒(細)	普通	にぶい明褐(一部黒/一部灰褐・褐灰)	内外		カマド右袖脇	66-3	
137-4	土師	杯	70%	(13.0)	—	(3.5)	(13.2)	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明褐(広範囲黒/一部明赤褐・底部-黒)			カマド焚口手前	—	炭素吸着(内外)
137-5	土師	椀	完形	12.1	7.6	5.6	12.3	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明褐(灰褐・黒/灰褐・黒)			カマド左袖脇	66-5	底部(外面)ヘラ圧痕拓本 炭素吸着(内外)
137-6	土師	杯	90%	14.5	6.3	4.3	(14.7)	長石(少)・石英(少)・砂粒(細・少)	普通	にぶい明褐(にぶい明褐/一部にぶい黄褐)			床面	66-6	器面の摩耗が激しい(内外)ため黒色処理の有無は不明
137-7	土師	椀	90%	11.1	6.7	5.2～5.9	11.4	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(みこみ部分黒/底部とその周辺のみ黒)		内外	床面	66-7	粗雑な作りで口縁波状 炭素吸着(内外)
137-8	土師	杯	完形	11.3	4.9	5.6	12.1	雲母・長石・石英・砂粒	普通	明褐(褐灰・黒/広範囲黒・一部明赤褐)			床面	66-8	炭素吸着(内外)
137-9	土師	杯	95%	(11.1)	—	4.9	11.6	長石・石英・砂粒	普通	明褐(灰褐・褐灰/一部灰褐・黒)			覆土上層	66-9	炭素吸着(内外)
137-10	土師	椀	完形	11.0	5.8	5.8	(11.9)	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(一部黒褐/一部黒褐)		内外	床面	66-10	内面下半に一本の帯状のススが付着
137-11	土師	椀	完形	9.9	—	6.6	10.9	長石・石英・砂粒・黒色粒子(少)	良	明褐(一部灰褐・明赤褐/一部明赤褐)		内外	床面	66-11	
137-12	土師	鉢	完形	11.8	6.4	12.0	12.2	長石・石英・砂粒	普通	明褐(明褐/明褐)			覆土上層	66-12	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(外)
137-13	土師	鉢	15%	(15.5)	—	(8.0)	(17.8)	雲母(少)・長石・石英・砂粒	普通	明褐(明赤褐/明赤褐)			床面	—	

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内/外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
137-14	土師	高杯(杯部)	25%	(14.7)	−	(5.2)	くびれ部径 5.2	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒	普通	にぶい褐・明赤褐(一部褐灰/一部褐灰)			カマド左袖脇	−	炭素吸着(外)
137-15	土師	高杯	80%	18.2	脚裾部径 13.6	16.2	くびれ部径 5.2	長石(少)・石英(少)・砂粒(細・少)	普通	にぶい黄褐(一部黒/一部黒)			カマド左袖脇	66-15	炭素吸着(内外)
138-16	土師	甕	85%	(18.2)	6.5	25.2	19.4	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明赤褐(一部灰褐/一部灰褐)			カマド内	66-16	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(外)
138-17	土師	甑	80%	(27.7)	(10.5)	25.4	胴部 24.8	長石・石英・砂粒(多)・小石	普通	にぶい明褐(一部褐灰/一部明赤褐 褐灰・黒)			カマド左袖脇	66-17	炭素吸着(内外)
SB150 139- 1	須恵	杯	完形	9.8	−	4.0	12.0	長石・石英・砂粒(少)	良	灰白			床 面	66- 1	
139- 2	須恵	杯	完形	9.9	4.3	4.2	12.5	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良	暗青灰(/底部暗赤褐)			床 面	66- 2	
139- 3	須恵	杯	完形	10.1	4.8	4.5	12.0	長石・石英・砂粒(少)	良	暗青灰			床 面	66- 3	
139- 4	土師	杯	完形	13.8	−	5.5	14.0	長石・石英・砂粒(細)	普通	明褐(黒褐/一部褐灰・黒)	内外		床 面	66- 4	
139- 5	土師	杯	75%	13.5	6.3	3.0	14.1	長石・石英・砂粒(細)	普通	明褐(一部灰褐/灰褐・黒)	内外		床 面	67- 5	
139- 6	土師	杯	完形	11.1	−	4.2	12.5	長石・石英・砂粒・黒色粒子	普通	明褐(一部灰褐・褐灰/一部褐灰)	内外		カマド左袖	67- 6	
139- 7	土師	杯	完形	11.2	−	5.0	12.9	長石(少)・石英(少)・砂粒(細・少)	普通	明赤褐(一部褐灰・黒/一部褐灰・黒)	内外		床 面	67- 7	
139- 8	土師	杯	70%	16.1	−	6.2	16.6	長石・石英・砂粒(細)	普通	明赤褐(灰褐・黒褐/灰褐・褐灰)	内外		床 面	67- 8	器面の摩耗が激しい(内外)
139- 9	土師	高杯(杯部)	40%	(16.0)	−	(6.0)	くびれ部径 4.2	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(一部灰褐/一部黒褐)			床 面	−	
139-10	土師	鉢	95%	16.8	8.4	9.7	胴部 16.1	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明褐(一部褐灰・黒褐/一部灰褐・黒褐)			床 面	67-10	炭素吸着(内外)
139-11	土師	鉢	完形	12.2	8.0	12.7	15.3	長石・石英・砂粒(細)・赤色粒子(胎土中の鉄分)	普通	明褐(明褐/一部明赤褐・灰褐)			床 面	67-11	炭素吸着(外)
SB151 140- 1	須恵	蓋	25%	(11.8)	天井部径(3.0)	(3.9)	(12.0)	長石(少)・石英(少)・砂粒(細・少)	良	青みを帯びた灰白			覆土下層	−	
140- 2	須恵	蓋	30%	(10.1)	天井部径(5.2)	4.4	(10.6)	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良				覆土下層	−	
140- 3	須恵	杯	40%	−	(4.6)	(4.4)	(11.4)	長石(少)・石英(少)・砂粒(細・少)	良	青みをおびた灰白			床面下	−	
140- 4	須恵	蓋	30%	(10.6)	天井部径(2.1)	(4.2)	(10.4)	長石(細・少)・石英(細・少)・砂粒(細・少)	良	灰白			覆土下層	−	
140- 5	須恵	杯	15%	(9.3)	−	(3.3)	(11.7)	長石(少)・石英(少)・砂粒(細・少)	良	青みを帯びた灰白			床 面	−	
140- 6	土師	杯	50%	(10.7)	(4.8)	3.4	(10.9)	砂粒(細)	良	にぶい明褐(明赤褐/明赤褐)		内外	床 面	−	
140- 7	土師	椀	20%	(11.6)	−	(5.1)	(12.2)	長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部灰褐・黒褐/口縁部褐灰)			覆土下層	−	
140- 8	土師	甕	10%	(15.2)	−	(7.4)	(19.7)	長石・石英・砂粒・赤色粒子	普通	明赤褐(一部褐灰/一部褐灰)			床面下	−	炭素吸着(内外)
140- 9	土師	甕	25%	(17.0)	−	(17.8)	(17.2)	長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部暗褐/褐灰)			覆土下層	−	器面の摩耗が激しい(内外)
140-10	土師	甕	15%	(14.3)	−	(6.4)	(18.4)	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	にぶい明黄褐(一部褐灰・黒褐/一部褐灰・黒褐)			覆土下層	−	炭素吸着(内外)
140-11	土師	甑	45%	(28.6)	(10.1)	(31.0)	胴部 (25.5)	長石(細)・石英(細)・砂粒(細)	普通	明褐(一部灰褐/一部褐灰・黒)			カマド左袖脇	−	炭素吸着(外)

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
SB152 141-1	須恵	杯	40%	8.7	3.7	2.9	(10.6)	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒	良	灰白/青みをおびた			覆土下層	−	
141-2	土師	杯	30%	(13.5)	(6.0)	4.25	(14.0)	長石・石英・砂粒	良	明褐(一部灰褐/一部灰褐・黒褐)	内外		カマド内	−	
141-3	土師	杯	15%	9.9	−	3.3	(10.4)	長石・石英・砂粒(細)	普通	明褐(一部褐灰/ごく一部黒褐)	内外		床面	−	器面の摩耗が激しい(内外)
141-4	土師	杯	15%	(10.9)	−	(3.5)	(11.3)	長石・石英・砂粒(細・多)	普通	明赤褐(灰褐・黒褐/一部黒褐)			床面	−	器面の摩耗が激しい(内外)
141-5	土師	甕	30%	−	5.6	(10.2)	−	長石・石英・砂粒(大)	普通	明褐(一部灰褐/一部褐灰)			カマド内	−	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)
SB153 142-1	土師	甕	85%	15.6	5.8	20.9	15.7	長石・石英・砂粒・小石	普通	明赤褐(褐灰/褐灰)			床面	67-1	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)
SB154 143-1	須恵	蓋	完形	8.4	−	4.0	10.6	長石(少)・砂粒(少)	良	灰白色/灰色			床面	67-1	鈕径2.5cm 鈕高1.0cm
143-2	須恵	蓋	完形	10.3	−	3.6	10.5	長石・砂粒・黒色粒子	良	灰色			覆土下層	67-2	
143-3	須恵	蓋	40%	(9.8)		4.1	(10.3)	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良	灰色			覆土中層	−	
143-4	須恵	杯	45%	(8.6)	(4.0)	3.2	(10.4)	長石・石英	良	にぶい青灰色(/一部暗青灰色)			覆土中層	−	
143-5	土師	杯	25%	(11.6)	−	(3.3)	(12.0)	長石(少)・石英・砂粒	普通	明橙褐色(一部灰褐/一部灰褐)			覆土下層	−	
143-6	須恵	高杯(杯部)	55%	14.5	−	(6.0)	くびれ部径3.7	長石・砂粒	良	灰色/灰色			床面	67-6	
143-7	土師	高杯	75%	8.5	−	8.1	くびれ部径7.3	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	普通	淡橙褐(一部灰褐/一部明褐・灰褐)			床面	67-7	
143-8	土師	高杯	45%	(14.1)	−	(8.0)	くびれ部径6.1	長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部黒褐・明赤褐/)			床面	−	器面の摩耗が激しい(内外)
143-9	土師	高杯	75%	17.4	脚裾部径(11.5)	12.9	くびれ部径6.9	雲母・長石・石英・砂粒・小石(少)	普通	にぶい明褐(黒褐/)	杯内 脚内		覆土中層	67-9	
143-10	土師	甕	10%	(20.1)	−	(12.3)	(20.7)	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(褐/明赤褐・褐灰)			覆土一括	−	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)
143-11	土師	甕	65%	(17.6)	−	(16.3)	(18.9)	長石・石英・砂粒	普通	明褐			P2覆土内	−	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)
SB155 144-1	土師	椀	30%	(17.9)	−	(6.4)	(19.2)	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(/一部灰褐)			床面	−	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)
SB157 145-1	須恵	杯	50%	(8.1)	−	3.4	(10.2)	長石(少)	良	灰色			カマド左袖脇	−	
SB158 146-1	須恵	杯	完形	4.9	3.6	3.4	10.0	長石	良	灰色			覆土下層	67-1	
146-2	須恵	杯	60%	(8.7)	3.4	3.2	10.5	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良	にぶい青灰			覆土上層	67-2	
146-3	須恵	蓋	30%	(10.2)	−	(3.8)	(10.5)	長石(少)・砂粒(細)・黒色粒子	良	灰白			覆土上層	−	
146-4	土師	甕	75%	16.8	−	21.8	21.9	長石(やや多)・石英・砂粒	普通	明褐(明褐/明赤褐一部)			床面	67-4	正円ではない 口径15.4cm×17.0cm
SB159 147-1	須恵	杯(高台付)	15%	−	高台外径9.0	(2.2)	−	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良	にぶい明青灰色			覆土中層	−	底部中央は高台と同程度に張り出している
147-2	土師	杯(高台付)	85%	11.3	高台外径5.8	4.5	11.6	雲母(少)・長石(少)・石英(少)・砂粒(細)	普通	明赤褐(一部灰褐/)			覆土中層	67-2	高台を付けた際の指頭痕が残る 器面の摩耗が激しい(内外)
147-3	土師	甕	65%	(21.6)	−	(27.8)	(25.9)	長石・石英・砂粒・赤色粒子(少)	普通	淡橙(一部灰褐/一部灰褐・黒)			覆土中層	67-3	炭素吸着(外)
148-4	土師	甕	30%	(22.6)	−	(32.0)	(27.7)	長石(少)・石英(少)・砂粒(細)・赤色粒子	普通	淡橙(一部灰褐/)			覆土中層	−	炭素吸着(外)

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
148-5	土師	甑	25%	29.4	—	(16.5)	胴部(26.7)	長石・石英・砂粒	普通	橙(黄橙/)			床面	—	炭素吸着(外)
148-6	土師	甕	25%	(20.0)	—	(21.0)	(24.7)	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)・赤色粒子	普通	にぶい黄橙(/一部灰褐)			床面	—	炭素吸着(外)
SB161 149-1	土師	杯	30%	(14.0)	—	(4.5)	(14.0)	長石(少)・石英(少)・砂粒(細・少)	良	にぶい明褐(灰褐・褐灰/灰褐・黒褐)	内外		覆土下層	—	
149-2	土師	杯	35%	(12.8)	—	(4.0)	(14.4)	石英・砂粒・赤色粒子	良	にぶい明褐(一部褐灰/一部褐灰)	内外		覆土下層	—	
149-3	土師	高杯	85%	13.8	脚裾部径(9.0)	9.9	13.8	雲母(細・少)砂粒(細・少)赤色粒子	普通	にぶい明褐(灰褐/灰褐)	内外		貯蔵穴内	68-3	器面の摩耗が激しい(内外)
149-4	土師	甕	25%	(16.0)	—	(17.9)	(18.9)	長石(やや多)・砂粒(やや多)	普通	明赤褐(一部黒褐/暗褐)			覆土下層	—	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)
SB162 150-1	土師	杯	30%	(11.6)	—	(3.7)	(11.6)	雲母(多)	良	明赤褐(灰褐・黒/一部褐灰)	内外		貯蔵穴内	—	
150-2	土師	杯	20%	(11.8)	—	(4.0)	(11.8)	雲母(少)・長石・石英・砂粒	普通	明褐(明赤褐/明褐)			床面	—	
150-3	土師	椀	40%	(13.2)	—	(7.5)	(13.4)	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(一部黒褐/一部褐灰)			覆土下層	—	炭素吸着(内外)
SB163 151-1	須恵	蓋	35%	(12.4)	天井部径(4.0)	(5.0)	(12.4)	長石(やや多)・砂粒	良	(灰黄褐/灰)			覆土下層	—	灰白色の自然釉が付着(外)
151-2	須恵	蓋	35%	(12.0)	—	(4.3)	(12.0)	長石	良	にぶい暗青灰			覆土上層	—	
151-3	須恵	杯	35%	(11.3)	—	(3.3)	(13.7)	長石・黒色粒子	良	青灰			覆土下層	—	
151-4	土師	椀	35%	—	—	-3.5	—	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明赤褐(黒/褐灰)	内		覆土下層	—	炭素吸着(外)
151-5	土師	鉢	45%	—	5.3	(5.2)	(11.6)	長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部明赤褐/一部灰褐)			覆土下層	—	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(外)
151-6	土師	坩	40%	10.2	—	(4.4)	(10.0)	長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部黒褐/一部黒褐)			床面	—	対角線上の2か所に穿孔(頸部) 炭素吸着(内外)
151-7	土師	高杯(脚部)	40%	—	脚裾部径 10.0	(6.3)	くびれ部径 5.6	長石(少)・石英(少)・砂粒(細)	普通	明褐(支脚一部灰褐・黒褐/)			覆土下層	—	炭素吸着(杯内)・(脚内)
151-8	土師	高杯(脚部)	40%	—	脚裾部径 9.8	(6.6)	くびれ部径 4.4	雲母(細)・長石・石英・砂粒(細)・赤色粒子	普通	明褐			貯蔵穴内	—	
151-9	土師	甕	40%	15.8	—	(15.1)	(19.6)	長石(やや多)・石英・砂粒(多)	普通	にぶい褐(一部橙褐/一部橙褐)			覆土中層	—	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)
151-10	土師	甕	45%	(18.2)	—	(24.2)	(25.1)	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐			カマド左脇	—	炭素吸着(外)
151-11	土師	甕	25%	(15.5)	—	(12.6)	(17.7)	長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部褐灰/にぶい明褐)			床面	—	器面の摩耗が激しい(内外)
151-12	土師	甕	5%	(13.4)	—	(6.1)	(15.4)	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(褐灰/明赤褐)			覆土下層	—	炭素吸着(内)
152-13	土師	甕	25%	(17.5)	—	(9.6)	(23.5)	長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部褐灰/)			覆土中層	—	
152-14	土師	甕	25%	(16.0)	—	(11.2)	(22.8)	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(一部黒褐/一部黒褐)			覆土下層	—	
152-15	土師	甕	35%	(18.4)	—	(14.3)	(19.0)	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明褐(明赤褐・褐/灰褐・褐灰)			覆土中層	—	炭素吸着(内外)
152-16	土師	甑	10%	25.8	—	13.5	—	長石・石英・砂粒・黒色粒子(多)	普通	明褐			覆土下層	—	器面若干摩耗(内外)
152-17	土師	甕	5%	(17.0)	—	(9.4)	(17.2)	長石・石英・砂粒	普通	明褐(/褐灰・黒褐)			覆土下層	—	炭素吸着(外)
SB164 153-1	土師	杯	10% 口縁部1/6周	(13.1)	—	(3.6)	(14.0)	長石・石英・砂粒	良	にぶい明赤褐(黒/)			カマド内	—	炭素吸着(内外)
153-2	土師	杯	15%	(12.7)	—	(3.4)	(12.7)	雲母(多)・長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部黒/)			覆土下層	—	炭素吸着(内)
SB165 154-1	須恵	蓋	25%	(11.9)	—	(4.2)	(11.9)	砂粒	良	灰(褐灰/一部自然褐灰)			覆土下層	—	自然釉(外)
154-2	須恵	杯	50%	(11.3)	5.2	4.45	(13.4)	長石・石英・砂粒(少)	良	(青灰/明青灰)			床面	—	底部平底で円形ではない 底径(長×短) 5.2cm×9.8cm

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
154-3	土師	杯	20%	(12.1)	—	3.4	(14.0)	長石(細)・砂粒(細)	良	にぶい(灰褐・黒褐/一部黒・明赤褐)			床面	—	炭素吸着(内外)
154-4	土師	杯	25%	(13.6)	(5.0)	4.2	(13.6)	長石・砂粒・赤色粒子	良	明褐(黒/一部黒)	内外		覆土上層	—	
154-5	土師	甕	15%	(20.5)	—	(15.9)	(22.3)	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(一部灰褐/)			覆土下層	—	器面若干摩耗(内外)
154-6	土師	甕	15%	(16.8)	—	(16.75)	—	長石(やや多)・石英・砂粒	普通	明赤褐(一部褐灰/)			床面	—	器面若干摩耗(内外)
154-7	土師	甕	80%	16.4	9.0	24.2	22.4	長石・砂粒(やや多)	普通	明赤褐(一部灰褐/一部灰褐)			床面	68-7	
SB166 155-1	須恵	長頸壺	10%	(11.5)	—	(7.3)	—	長石・砂粒(少)	良	灰色(/一部暗青灰)			覆土下層	—	自然釉(内外)
155-2	土師	杯	30%	(14.6)	(6.0)	4.0	(14.6)	長石・砂粒	良	にぶい明褐(一部褐灰・黒褐/一部褐灰)			覆土上層	—	炭素吸着(内外)
155-3	土師	杯	15%	(11.8)	—	(2.6)	(13.1)	長石・石英・砂粒	良	明褐(一部灰褐/一部明赤褐・褐灰・黒褐)	内外		覆土上層	—	
155-4	土師	杯	15%	(12.1)	—	(2.75)	(13.0)	長石・石英・砂粒・赤色粒子	良	にぶい明褐(灰褐・黒褐/灰褐・褐灰)	内外		覆土上層	—	器面若干摩耗(内外)
155-5	土師	杯	10%	(14.2)	—	(3.3)	(14.6)	長石・石英・砂粒	良	淡橙褐(一部灰褐・褐灰/一部灰褐・褐灰)	内外		床面	—	
155-6	土師	杯	10%	(10.9)	—	(2.75)	(12.0)	長石・石英・砂粒	普通	淡橙褐(一部褐灰/一部褐灰・黒褐)			覆土上層	—	
155-7	土師	高杯(脚部)	45%	—	脚裾部径 12.0	(7.9)	くびれ部径 5.5	長石(細・少)・石英(細・少)・砂粒(細)・赤色粒子	普通	明褐(杯部-黒褐/一部黒褐)	杯内 脚内		床面	—	
155-8	土師	高杯	75%	12.8	—	(6.3)	くびれ部径 4.3	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒	良	明褐(にぶい明褐(脚)黒(杯)/ごく一部灰褐)	杯内		床面	68-8	
155-9	土師	高杯	65%	(14.1)	脚裾部径(9.2)	(8.7)	くびれ部径(5.4)	長石・石英・砂粒	普通	明黄褐(黒褐/黒褐)	内外		床面	68-9	器面の摩耗が激しい(内外)
155-10	土師	甕	30%	18.4	—	(12.6)	—	長石(細・少)・砂粒(細・少)	普通	明褐			床面	—	器面の摩耗が激しい(内外)
155-11	土師	甕	20%	(13.4)	—	(12.2)	(17.8)	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明褐(褐灰/一部灰褐・褐灰)			床面	—	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)
SB168 156-1	土師	鉢	75%	(13.6)	5.5	6.2	(14.3)	雲母(少)・長石(やや大)・石英・砂粒	普通	明赤褐(黒/一部黒)			床面	68-1	二次的に火を受けており、土器断面にまで炭素吸着(内外)がおよんでいる
156-2	土師	甕	85%	17.6	7.0	31.0	16.4	雲母・長石・石英・砂粒(多)	普通	明赤褐(一部褐灰/一部褐灰)			床面	68-2	胴部下半に分割成形の擬口縁 器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)
SB169 157-1	須恵	蓋	15%	(12.0)	—	(35.1)	(12.0)	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良	灰			覆土中層	—	自然釉(外)
157-2	須恵	杯	完形	9.8	4.4	4.3	12.2	長石(細・少)・石英(細・少)・砂粒(細・少)	良	暗青灰(暗青灰/一部赤褐)			覆土中層	68-2	若干の歪みがある
157-3	土師	杯	60%	(13.0)	(3.0)	4.2	(13.0)	長石(少)・石英(少)・砂粒(細)・赤色粒	良	中心部黒褐(淡橙・褐灰/淡橙黒褐)	内外		覆土下層	—	
157-4	土師	杯	40%	(21.6)	(18.0)	3.6	(21.6)	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(黒/黒)	内外		覆土下層	—	
157-5	土師	杯	80%	(13.2)	—	3.9	(14.1)	雲母(少)・長石(少)・砂粒(細)・赤色粒子	普通	淡橙(/一部黒褐)	内外		覆土上層	—	同心円状の漆を塗ったハケ目痕 器面若干摩耗(内外)
157-6	土師	杯	75%	(14.9)	6.0	5.0	(14.9)	長石・石英・砂粒		明褐(褐灰・黒/褐灰・黒)			床面	—	炭素吸着(内外)
157-7	土師	杯	25%	(13.8)	—	(3.5)	(15.0)	雲母・長石(少)・砂粒	普通	明褐(褐灰/黒褐)	内外		床面	—	
157-8	土師	杯	30%	(13.6)	—	(3.6)	(13.6)	砂粒(細)	普通	にぶい明褐(褐灰/黒)	内外		覆土上層	—	
157-9	土師	椀	35%	(11.9)	(5.7)	5.5	(12.0)	長石・石英・砂粒(多)・小石	普通	明赤褐			覆土下層	—	器面若干摩耗(内外)
157-10	須恵	壺(口縁)	10%	—	—	4.5	—	長石(細・少)・砂粒(細)	良	暗青灰			床面	—	

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
157-11	土師	鉢	45%	(17.4)	(7.7)	(8.1)	(17.8)	雲母(少・黒)・長石・石英・砂粒	普通	明褐(広範囲黒褐/一部褐灰)			覆土上層	−	炭素吸着(内外)
157-12	土師	高杯(脚部)	35%	−	−	(8.0)	−	長石(細・少)・石英(細・少)・砂粒(細)・赤色粒子	普通	明褐			覆土上層	68-12	羽口として再加工か？
157-13	土師	高杯(脚部)	30%	−	脚裾部径(11.3)	(7.5)	くびれ部径 5.5	雲母(やや多)・長石・石英・砂粒・赤色粒子(多)	普通	にぶい明赤褐(一部褐灰/一部褐灰)			覆土上層	−	炭素吸着(内外)
157-14	土師	杯	15%	−	(4.4)	(4.1)	−	長石・石英・砂粒(多)・黒色粒子	普通	明褐(明褐/一部灰褐)			覆土上層	−	
157-15	土師	高杯(脚部)	30%	−	脚裾部径(11.1)	(4.4)	くびれ部径 5.2	長石・石英・黒色粒子	普通	にぶい明褐			覆土上層	−	器面の摩耗が激しい(内外)
157-16	土師	甕	70%	(21.6)	−	(30.81)	胴部 21.5	長石・石英・砂粒(多)・小石	普通	明褐(暗褐・一部黒/一部褐灰・黒)			床面	68-16	器面若干摩耗(内外) 炭素吸着(内外)
157-17	土師	甕	10%	(17.8)	−	(5.9)	−	長石(少)・石英(少)・砂粒(細)	良	明褐(明褐/明褐)			覆土上層	−	
157-18	土師	甕	5%	(18.6)	−	(6.0)	−	雲母・長石(やや多)・石英・砂粒(多)・小石	普通	明褐(上端黒褐/灰褐)			覆土上層	−	炭素吸着(内外)
157-19	土師	甕	5%	(20.0)	−	(5.8)	−	長石・石英・砂粒	普通	明褐(明褐/にぶい明褐・黒褐)			覆土下層	−	炭素吸着(外)
157-20	土師	甕	50%	−	8.3	(13.0)	(15.6)	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒	普通	明褐(明赤褐/一部黒)			床面	−	炭素吸着(外)
157-21	土師	甕	15%	(16.9)	−	(11.5)	−	雲母・長石・石英・砂粒(多)	普通	明褐(褐灰・黒/明赤褐・褐灰・黒)			覆土上層	−	炭素吸着(内外)
157-22	土師	甑	40%	(25.0)	8.8	23.1	胴部(22.6)	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒・黒色粒子	普通	明褐(明褐/一部黒)			床面	−	底部付近に深いヘラ痕(内) 炭素吸着(外)
SB170 158-1	土師	鉢	40%	(13.0)	(8.6)	7.5	(13.0)	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明赤褐(にぶい明赤褐/にぶい明褐)			覆土一括	−	繊維痕(外) 底部に木葉痕 拓本
158-2	土師	甕	65%	(25.0)	−	(25.1)	(28.6)	長石・石英・砂粒(多)・小石	普通	明褐(にぶい明褐/一部明赤褐)			床面	68-2	器面の摩耗が激しい(内外)
158-3	土師	甕	95%	17.3	5.3	28.8	17.4	長石・石英(やや多)・砂粒(多)	普通	明褐(一部灰褐/)			床面	68-3	胴部中央に分割成形の擬口縁 器面若干摩耗(内外)
SB-171 159-1	土師	杯	完形	12.7	5.0	3.8	14.2	長石(少)・石英(少)・砂粒(細)	良	明黄褐(灰褐・褐灰/灰褐・褐灰・黒褐)	内外		貯蔵穴内	68-1	器面若干摩耗(内外)
159-2	土師	杯	95%	14.2	−	3.9	14.2	長石・石英・砂粒	普通	にぶい褐色(明褐・褐灰/褐灰・広範囲黒褐)	外		貯蔵穴内	68-2	炭素吸着(外)
159-3	土師	杯	完形	13.6	−	4.0	13.6	雲母(少)・長石(少)・石英(少)・砂粒(細)	普通	明赤褐(一部黒褐/一部褐灰・黒褐)	内外		床面	68-3	底部中央に線刻 器面の摩耗が激しい(内外)
159-4	土師	杯	90%	14.3	6.8	4.2	14.6	長石・石英・砂粒	普通	明褐(明褐・褐灰・黒褐/明赤褐・褐灰・黒褐)	内外		貯蔵穴内	69-4	底部周縁部にはヘラで削り出した稜を有し、そのまま底部となり丁寧なミガキが施される(内外) 器面若干摩耗(内外) 炭素吸着(内外)
159-5	土師	鉢	完形	10.2	4.9	9.1	13.6	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(上半部褐灰・黒褐/褐灰・黒褐)			床面	69-5	器面若干摩耗(内外) 炭素吸着(内外)
159-6	土師	鉢	35%	(16.1)	−	(8.8)	(18.6)	長石・石英(多)・砂粒	普通	明褐(/にぶい明赤褐)			貯蔵穴内	−	
159-7	土師	甕	25%	(16.0)	−	(13.4)	(19.5)	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(口縁内側褐灰・黒/一部褐灰)			床面	−	
159-8	土師	甕	90%	15.9	6.3	25.0	20.0	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(/一部褐灰)			床面	69-8	器面若干摩耗(内外)
159-9	土師	甕	80%	(17.6)	7.6	25.3	21.6	長石(やや多)・石英・砂粒	普通	明褐(/一部明赤褐)			覆土下層	69-9	器面若干摩耗(内外)
159-10	土師	甕	65%	(19.9)	6.9	28.0	(22.1)	長石(やや多)・石英・砂粒	普通	明赤褐(一部褐灰/一部褐灰)			床面	69-10	炭素吸着(内外)
160-11	土師	甕	完形	16.2	8.3	22.7	23.0	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(/一部褐灰・黒褐)			床面	69-11	器面若干摩耗(内外)

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
160-12	土師	甕	10%	(24.5)	—	(15.2)	(20.6)	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(褐灰・黒褐/一部褐灰)			床面	—	炭素吸着(内外)
160-13	土師	甑	60%	(23.4)	(8.2)	23.0	胴部(21.5)	長石・石英・砂粒・小石(少)	普通	明赤褐(/一部褐灰)			床面	—	耳状突起を3か所確認 (全周すると7点になる?)
SB183 161-1	須恵	蓋	70%	11.2	天井部径4.9	3.8	11.2	長石・石英(少)・砂粒(少)	良	灰色			床面	69-1	
161-2	土師	高杯	75%	(20.7)	—	(6.8)	くびれ部径6.1	雲母(やや多)・長石・石英・砂粒	良	明褐(/一部褐灰)			覆土上層	69-2	炭素吸着(内外)
161-3	土師	甕	90%	15.3	5.7	31.7	19.8	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明赤褐(褐灰・黒褐/褐灰・黒褐)			床面	69-3	正円ではない 口径17.3cm×14.9cm 炭素吸着(内外)
161-4	土師	甕	90%	16.4	6.9	17.7	17.8	長石・石英・砂粒	普通	明褐(褐灰・黒褐/一部明赤褐 褐灰・黒褐)			床面	69-4	炭素吸着(内外)
161-5	土師	甕	25%	(16.5)	—	(13.5)	(17.6)	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(/一部灰褐)			覆土下層	—	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)
SB188 162-1	須恵	蓋	30%	(9.7)	天井部径(4.6)	3.9	(10.0)	長石(細・少)・砂粒(細)	良	淡青灰色			覆土下層	—	
162-2	須恵	蓋	15%	(11.0)	—	(3.5)	(11.4)	砂粒(少)	良	明灰(明灰/灰)			覆土下層	—	
162-3	須恵	蓋	40%	(11.0)	—	(2.5)	(13.3)	長石・石英・砂粒	良	青灰			床面	—	SB038-3と住居間接合 拓本(放射状に工具による圧痕) SB038-4の蓋
162-4	須恵	杯 (高台付)	10%	—	(10.3)	(2.0)	—	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良	灰色			覆土下層	—	底部は高台端部より突出する
SB189 163-1	須恵	蓋	30%	(10.2)	天井部径(2.8)	(3.7)	(10.4)	長石(少)・砂粒	良	灰色			床面	—	
163-2	須恵	蓋	15%	(16.6)	—	(2.3)	(16.9)	長石(細・少)・石英(細・少)・黒色粒子(細)	良	灰色(青灰色/)			覆土上層	—	器面の摩耗が激しい(内外)
163-3	土師	杯	完形	13.6	5.1	3.9	14.0	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明褐(一部黒褐/一部黒褐)			覆土上層	69-3	底部が斜めに削られている 炭素吸着(外)
163-4	土師	甕	35%	—	8.0	(11.0)	—	長石(少)・石英(少)・砂粒(細)・赤色粒子	普通	淡橙(一部灰褐/)			覆土下層	—	
SB198 164-1	土師	杯	45%	(14.0)	(5.4)	4.1	(14.2)	雲母(少)・長石(少)・石英(少)・砂粒(少)・赤色粒子	良	明褐(一部褐灰/明赤褐・灰褐)			覆土中層	—	
164-2	土師	杯	25%	(12.3)	—	(3.2)	(12.4)	長石・石英・砂粒	良	にぶい褐(/黒褐)			覆土中層	—	口縁部を除いてナデ後に大変丁寧なヘラミガキ 炭素吸着(外)
164-3	土師	鉢	70%	(10.4)	4.8	6.1	11.1	雲母・長石(少)・石英(少)・砂粒	普通	にぶい明褐(灰褐・黒褐/)			覆土中層	—	炭素吸着(内外)
SB201 165-1	土師	杯	20%	(13.5)	—	(3.2)	(14.1)	雲母(多)・長石・石英・砂粒(細)	良	にぶい明赤褐(一部灰褐/一部明赤褐・褐灰)			覆土下層	—	器面の摩耗が激しい(底部外) 炭素吸着(外)
165-2	土師	甕	20%	—	(8.0)	(12.5)	—	長石・石英・砂粒(多)	良	明赤褐(一部褐灰/広範囲褐灰・黒褐)			覆土下層	—	炭素吸着(内外)
SB202 166-1	土師	杯	30%	(10.1)	(4.0)	3.1	(11.6)	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	普通	明赤褐(一部褐灰/一部褐灰)			床面	—	器面の摩耗が激しい(内外)
166-2	土師	杯	15%	(12.6)	—	(3.1)	(13.8)	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(一部黒褐/一部黒褐)			床面下	—	外面は丁寧なミガキで内面は雑なミガキ 炭素吸着(外)
166-3	土師	椀	95%	12.8	3.0	5.8	13.1	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐			床面	69-3	口縁部は部分的に断面厚が異なる 器面の摩耗が激しい(内外)
166-4	土師	甕	50%	(14.0)	(7.4)	17.9	(19.7)	長石・石英・砂粒・小石	普通	明赤褐(/一部褐灰)			床面	—	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内/外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
SB206 167-1	土師	杯	20%	(11.3)	−	3.8	(12.6)	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	普通	赤味を帯びたにぶい明褐(一部褐灰/一部灰褐)			覆土上層	−	炭素吸着(内外)
167-2	土師	甕	5%	(11.4)	−	(5.4)	−	長石・石英・砂粒	普通	赤褐(一部褐灰/一部褐灰)			覆土上層	−	輪積痕が明瞭に残る(外) 器面の摩耗が激しい(内外)
SB214 168-1	土師	甕	60%	(14.4)	−	(16.2)	(11.2)	長石(少)・石英(少)・砂粒	普通	淡橙褐色			床面	69-1	器面の摩耗が激しい(内外)
SB215 169-1	土師	杯	50%	(14.6)	−	5.3	(14.6)	長石(やや多)・石英・砂粒(やや多)	普通	明赤褐(/一部褐灰)			カマド内	−	器面の摩耗が激しい(内外)
169-2	土師	杯	30%	(15.0)	−	(4.0)	(15.0)	長石(細)・石英(細)・砂粒(細)	普通	にぶい淡橙褐(黒褐/灰褐・黒褐)	内外		覆土下層	−	器面若干摩耗(内外)
169-3	土師	甕	30%	(18.6)	−	(22.6)	(23.3)	長石・石英・砂粒	普通				覆土下層	−	ヘラ痕と輪積痕が明瞭に残る(内) 器面若干摩耗(内外) 炭素吸着(内外)
169-4	土師	甕	10%	(20.7)	−	(15.0)	(20.0)	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明赤褐			覆土下層	−	炭素吸着(外)
SB217 170-1	須恵	蓋	20%	(9.7)	天井部径(2.8)	3.5	(9.7)	長石(細)・石英(細)・砂粒(少)	良	(青灰/灰)			覆土中層	−	器面の摩耗が激しい(内外)
170-2	土師	杯	95%	13.5	4.1	4.2	13.8	長石(やや多)・石英・砂粒	普通	明褐(褐灰・黒褐/一部灰褐・褐灰)			床面	69-2	ヘラ痕が多数残る(内) 器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)
170-3	土師	杯	10%	(13.0)	−	(2.8)	(13.9)	長石(細・少)・石英(細・少)・砂粒(細・少)	良	にぶい明黄褐(黒/灰褐・黒)	内外		覆土中層	−	器面若干摩耗(内外)
170-4	土師	杯	40%	(9.6)	(6.2)	3.7	(9.9)	長石(細・少)・石英・砂粒	普通	褐灰(明褐・一部黒褐/明褐・一部黒褐)			覆土下層	−	
170-5	土師	鉢	60%	(15.4)	6.7	10.0	(15.4)	長石・石英・スコリア・砂粒	普通	明褐(全面黒褐/全面褐灰・黒褐)			床面	−	底部は不定方向のヘラケズリ 器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)
170-6	土師	甕	20%	−	(5.9)	(6.7)	−	長石(やや多)・石英・砂粒(やや多)	普通	明褐(/一部褐灰)			床面	−	炭素吸着(外)
170-7	土師	椀	45%	(13.0)	(6.4)	4.8	(13.0)	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明褐(黒/一部灰褐・褐灰)			床面	−	輪積痕が残るなど全体的に調整は雑炭素吸着(内外)
170-8	土師	甕	30%	(20.9)	−	(14.0)	(24.0)	長石・石英・砂粒・黒色粒子	普通	赤褐(一部褐灰・黒/黒)			床面	−	黒色の光沢のある付着物(内外)
170-9	土師	甕	15%	(18.2)	−	(7.6)	(18.5)	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明褐(一部灰褐/一部灰褐)			覆土中層	−	器面若干摩耗(内外)
170-10	土師	甕	15%	(17.4)	−	(6.7)	(21.2)	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明赤褐(/一部黒)			覆土下層	−	
171-11	土師	甕	完形	14.4	8.0	26.3	20.8	長石(やや多)・石英・砂粒	普通	明褐(/一部明赤褐・黒褐)			床面	70-11	炭素吸着(外)
171-12	土師	甕	90%	14.9	7.1	26.1	18.3	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明赤褐(/一部褐灰)			床面	70-12	正円ではない 口径15.5cm×14.5cm 器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(外)
SB218 172-1	土師	杯	完形	14.4	4.0	4.8	14.4	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良	明赤褐(口縁付近黒褐/褐灰・黒褐)			床面	70-1	
172-2	土師	杯	70%	(15.4)	4.0	5.3	(15.4)	長石・石英・砂粒	良	明褐(灰褐・黒褐/灰褐・黒褐)	内外			−	口縁部に黒い付着物(内外) 器面若干摩耗(内外)
172-3	土師	鉢	70%	(13.0)	(5.9)	6.4	(14.4)	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(やや多)	普通	明褐(褐灰/一部灰褐)			周溝内下層	−	炭素吸着(内外)
172-4	土師	甕	15%	(16.0)	−	(10.8)	(19.4)	長石(少)・石英・砂粒	普通	にぶい明赤褐(一部褐灰/一部灰褐)			覆土上層	−	器面若干摩耗(内外)

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
172-5	土師	甕	40%	14.0	—	(16.6)	(23.7)	長石・石英	普通	明褐(灰褐/明褐)			覆土下層	—	炭素吸着(内外)
172-6	土師	甕	10%	(17.4)	—	(13.4)	—	長石(少)・石英(少)・スコリア・砂粒	普通	明褐(/一部褐灰)			床面	—	器面若干摩耗(内外)
172-7	土師	甕	30%	(14.4)	—	(10.2)	(14.4)	雲母・長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(黒褐/明赤褐・黒褐)			床面	—	炭素吸着(内外)
SB219 173-1	土師	杯	90%	10.9	—	4.6	11.0	長石・石英・砂粒	普通	明褐(黒褐/一部灰褐・黒褐)			覆土上層	70-1	炭素吸着(内外)
173-2	土師	杯	90%	11.6	—	3.9	11.6	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明褐(一部黒褐/一部黒褐)			床面	70-2	底部周縁部にヘラケズリによる沈線があり底面から見ると円形で8回継いでいる 器面の摩耗が激しい(内外)
173-3	土師	甕	65%	(17.3)	7.1	23.1	(18.6)	長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部褐灰/明赤褐・褐灰)			床面	70-3	底部に木葉痕(2枚分の圧痕) 器面の摩耗が激しい(外) 炭素吸着(内外)
173-4	土師	甕	20%	(17.6)	—	11.3	(22.0)	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐			覆土下層	—	器面の摩耗が激しい(内外)
173-5	土師	甕	15%	(12.8)	—	(9.3)	(13.0)	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明赤褐(黒褐/褐灰)			覆土下層	—	器面の摩耗が激しい(内外) 輪積痕が明瞭に残る
173-6	土師	甕	10%	(14.4)	—	(4.9)	—	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	普通	明赤褐			覆土下層	—	器面の摩耗が激しい(内)
173-7	土師	甕	40%	(16.6)	—	(9.8)	(18.2)	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明赤褐(/褐灰・黒褐)			床面	—	上下接合しないが同一個体である 器面若干摩耗(内外) 炭素吸着(内外)
SB220 174-1	土師	杯	20%	(12.8)	—	(4.4)	(12.8)	長石(少)・石英(少)・砂粒	良	灰褐(黒/黒)	内外		床面	—	
174-2	土師	甕	20%	(14.5)	—	(10.3)	(19.5)	長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部褐灰/一部褐灰・黒褐)			カマド左袖脇	—	炭素吸着(内外)
174-3	土師	甕	50%	18.1	—	(18.0)	(27.0)	長石・石英・砂粒	普通	明褐(/一部明赤褐)			カマド右袖脇	70-3	器面若干摩耗(内外) 炭素吸着(外)
174-4	土師	甕	55%	19.1	(6.6)	39.3	(29.8)	長石・石英・砂粒	普通	明褐(底部-褐灰/一部褐灰)			覆土下層	70-4	器面の摩耗が激しい(内外面下半) 炭素吸着(外面下半)
SB221 175-1	須恵	蓋	95%	12.1	—	5.0	(12.1)	長石・石英・黒色粒子(やや多)	良	灰白			床面	70-1	器面若干摩耗(内外)
175-2	土師	杯	完形	12.4	—	4.3	13.2	長石・石英・砂粒	普通	明褐			床面	70-2	器面若干摩耗(内外) 炭素吸着(内外)
175-3	土師	杯	完形	13.6	—	3.9	14.3	雲母(少)・長石・石英・スコリア・砂粒	良	にぶい明赤褐(褐灰・黒/褐灰・黒)	内外		床面	70-3	
175-4	土師	杯	45%	(13.5)	—	5.2	(14.5)	長石・石英・砂粒	良	明褐(/一部明赤褐)			覆土下層	—	器面若干摩耗(内外) 炭素吸着(内外)
175-5	土師	杯	20%	(14.0)	—	(3.9)	(15.7)	雲母(少)・長石(少)・石英(少)・スコリア(やや多)・砂粒(細・少)	良	明黄褐(/一部橙褐)			覆土下層	—	器面若干摩耗(内外)
175-6	土師	杯	30%	(12.8)	—	(3.7)	(14.8)	長石・石英・砂粒	良	明褐(一部灰褐・黒/明赤褐・黒)	内外		覆土下層	—	
175-7	土師	杯	20%	(14.4)	—	(3.7)	(14.4)	砂粒(少)	良	にぶい明黄褐(一部灰褐・黒/一部灰褐・黒)	内外		床面	—	
175-8	土師	杯	60%	(11.0)	—	(4.7)	(11.7)	長石・石英・砂粒	良	明赤褐			覆土下層	—	
175-9	土師	椀	完形	13.5	—	10.0	14.6	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(やや多)・小石	普通	明褐(黒/広範囲褐灰・黒)			床面	70-9	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
175-10	土師	甕	完形	16.5	6.9	26.1	19.1	長石・石英・砂粒	普通	明褐(/明赤褐・黒褐)			カマド左袖脇	70-10	器面の摩耗が激しい(内外面下半) 炭素吸着(内外)
SB222 176-1	土師	杯	10%	(13.1)	—	(3.8)	(14.5)	長石(少)・石英(少)・スコリア(やや多)・砂粒(少)	良	明褐(一部褐灰/一部黒)	内外		床面	—	器面若干摩耗(内外)
176-2	土師	杯	25%	(14.2)	—	(4.2)	(14.2)	長石(細・少)・石英(細・少)・スコリア・砂粒(細・少)	普通	明橙褐(一部明赤褐/明赤褐)			床面	—	器面の摩耗が激しい(内外)
176-3	土師	甕	15%	(11.2)	—	(9.0)	(12.4)	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明褐(褐灰/にぶい明赤褐)			カマド左袖脇	—	器面若干摩耗(内外)
176-4	土師	甕	90%	10.5	6.7	18.9	14.8	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明褐(全面褐灰/ほぼ全面褐灰)			カマド左袖脇	70-4	輪積痕が明瞭に残る(内外) 炭素吸着(内外)
176-5	土師	鉢	30%	(17.0)	—	(12.0)	(18.5)	長石・石英・砂粒(多)	普通	にぶい明褐(一部褐灰/一部褐灰)			カマド右袖脇	—	炭素吸着(外)
176-6	土師	鉢	40%	(19.0)	8.3	16.5	(20.8)	長石・石英・砂粒(多)	普通	明褐(/明赤褐)			貯蔵穴内	—	器面若干摩耗(内) 炭素吸着(外)
SB223 177-1	土師	杯	95%	(12.0)	—	3.3	13.3	長石・石英・砂粒(やや多)	良	(黒/褐灰・黒)	内外		床面	71-1	
177-2	土師	杯	90%	15.3	—	4.0	15.6	長石・石英・砂粒	普通	明黄褐(一部灰褐・褐灰/一部明赤褐・灰褐・黒)			床面	71-2	器面の摩耗が激しい(外) 炭素吸着(外)
177-3	土師	杯	60%	(15.2)	—	4.2	(15.2)	長石(少)・石英(少)・砂粒(細・少)	普通	明黄褐(ほぼ全面灰褐/一部灰褐・黒褐)			床面	71-3	炭素吸着(内外)
177-4	土師	杯	90%	(11.7)	—	3.3	13.0	長石・石英・砂粒	普通	(にぶい明褐・黒褐/にぶい明褐・黒褐)	内外		床面	71-4	底面にヘラによる線刻 器面の摩耗が激しい(内外)
177-5	土師	杯	30%	(12.2)	—	(3.6)	(12.4)	長石・石英・砂粒	普通	にぶい褐(黒褐/褐灰・黒褐)	内外		覆土下層	—	炭素吸着(内外)
177-6	土師	杯	20%	(12.4)	—	(3.5)	(13.6)	長石(細)・石英(細)・砂粒(細)	良	にぶい明黄褐(灰褐・黒褐/灰褐・黒褐)	内外		床面	—	器面若干摩耗(内外)
177-7	土師	高杯(杯部)	30%	(14.2)	—	(3.4)	(14.4)	長石(少)・石英(少)・スコリア・砂粒(少)	良	明褐(/一部褐灰)			覆土下層	—	炭素吸着(外)
177-8	土師	高杯(杯部)	40%	(16.7)	—	(4.3)	—	長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部明赤褐・黒褐/赤)		外	床面	—	器面の摩耗が激しい(内外)
177-9	土師	高杯(脚部)	35%	—	—	(6.9)	くびれ部径 4.8	長石(少)・石英(少)・砂粒	普通	にぶい明黄褐(ごく一部にぶい黒褐/)			覆土上層	—	
177-10	土師	鉢	15%	(16.5)	—	(10.1)	—	長石(やや多)・石英・砂粒	普通	明褐			覆土下層	—	
177-11	土師	甕	10%	(13.8)	—	(6.2)	—	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(一部にぶい赤褐/)			覆土下層	—	輪積痕か残る
177-12	土師	甕	15%	(15.6)	—	(14.0)	(24.0)	長石・石英・砂粒	普通	にぶい明褐(一部褐灰/にぶい明赤褐)			床面	—	器面若干摩耗(内外)
177-13	土師	甕	75%	(20.2)	6.8	28.0	21.2	長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部灰褐/明赤褐・黒褐)			カマド右袖脇	71-13	口縁・胴部ともに歪みが大きい 口径22.5cm×17.0cm 器面の摩耗が激しい(内外)
177-14	土師	甕	95%	16.6	6.3	28.9	19.8	雲母・長石(細・多)・石英・砂粒	普通	明褐(一部灰褐/広範囲褐灰・一部黒色・下半明赤褐)			カマド右袖脇	71-14	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)
SB224 178-1	土師	杯	60%	(10.8)	(3.0)	2.8	(10.8)	長石・石英・砂粒	普通	灰褐(黒褐/黒褐)	内外		覆土下層	71-1	器面若干摩耗(内外)
178-2	土師	鉢	30%	(15.4)	(6.4)	(6.4)	(15.4)	長石(多)・石英(多)・砂粒(多)	普通	明褐(一部褐灰/一部褐灰)			周溝内下層	—	器面若干摩耗(内外) 炭素吸着(内外)
178-3	土師	高杯(脚部)	35%	—	—	(13.3)	くびれ部径 5.0	長石(少)・石英(少)・砂粒・黒色粒子	普通	にぶい明黄褐(灰褐/)			床面	—	器面若干摩耗(内外)
178-4	土師	甕	10%	(23.0)	—	10.3	—	雲母(少)・長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明褐(一部明赤褐/)			覆土下層	—	器面若干摩耗(内外)
SB227 179-1	土師	椀	55%	(11.6)	(3.4)	4.8	(11.6)	長石(細)・石英(細)・砂粒(細)	普通	明黄褐			カマド右袖脇	71-1	器面若干摩耗(内外)

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
SB228 180-1	土師	杯	50%	(12.1)	(3.8)	3.5	(12.1)	長石(細・少)・石英(細・少)・砂粒(細)・黒色粒子	普通	明黄褐(一部灰褐・褐灰/一部褐灰)			床 面	71-1	器面の摩耗が激しい(内外)
180-2	土師	杯	35%	(12.7)	(4.0)	4.3	(12.7)	砂粒(細・少)	良	にぶい明黄褐(灰褐・黒褐/明赤褐)	内		床 面	—	器面の摩耗が激しい(内外)
180-3	土師	杯	50%	(9.5)	(3.0)	3.6	(9.5)	長石・石英・砂粒	普通	明黄褐			床 面	—	器面の摩耗が激しい(内外)
180-4	土師	椀	90%	11.4	4.0	5.5	11.4	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良	にぶい明黄褐(一部灰褐/一部明赤褐・褐灰)			覆土上層	71-4	歪んでいる 口径12.0cm×10.5cm
180-5	土師	杯	50%	(11.1)	(6.0)	4.9	(11.1)	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良	にぶい明黄褐			覆土上層	—	
180-6	土師	杯	50%	(11.2)	(3.6)	4.5	(11.5)	雲母(少)・長石(少)・石英(少)・砂粒	普通	にぶい明黄褐(一部灰褐/一部灰褐)			床 面	—	器面の摩耗が激しい(内外)
180-7	土師	杯	35%	(12.2)	—	(5.0)	(12.5)	長石(少)・石英(少)・砂粒	普通	にぶい明黄褐(灰褐・黒/一部灰褐)			床 面	—	器面若干摩耗(内外) 炭素吸着(内)
180-8	土師	杯	50%	(10.3)	—	(4.3)	(10.7)	雲母(少)・長石・石英・砂粒	良	にぶい明黄褐(/一部灰褐)			覆土上層	—	放射線状にヘラ痕(内)
180-9	土師	甕	25%	(17.2)	—	(12.5)	(22.7)	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明褐			覆土下層	—	器面の摩耗が激しい(内外)
180-10	土師	甕	15%	(26.6)	—	(15.8)	—	長石・石英・砂粒(やや多)・小石(少)	普通	明赤褐			床 面	—	器面の摩耗が激しい(内外)
SB229 181-1	土師	杯	95%	17.4	—	4.7	18.0	長石(やや多)・石英・スコリア(少)・砂粒(多)	普通	明褐(褐灰・黒褐/一部褐灰)	内外		床 面	71-1	器面若干摩耗(内外)
181-2	土師	杯	完形	13.3	—	4.2	14.8	雲母・長石(やや多)・石英・砂粒(多)・小石(少)	普通	明褐(一部灰褐/明赤褐)		外	床 面	71-2	
181-3	土師	杯	95%	12.1	—	4.2	13.6	雲母・長石・石英・スコリア・砂粒(多)	普通	にぶい明赤褐(一部灰褐/明赤褐)			床 面	71-3	器面若干摩耗(内外)
181-4	土師	杯	95%	11.1	—	3.7	12.3	雲母(少)・長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	普通	にぶい明黄褐(一部灰褐/一部灰褐)	内外		覆土中層	71-4	
181-5	土師	杯	75%	(13.1)	—	4.3	(13.3)	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良	明褐(一部明赤褐・褐灰/一部明赤褐・褐灰)	内外		覆土中層	71-5	
181-6	土師	杯	60%	(13.3)	(5.0)	4.7	(14.6)	スコリア(多)・砂粒(少)	普通	明褐(一部灰褐/)	内外		覆土上層	—	器面若干摩耗(内外)
181-7	土師	杯	40%	(14.2)	—	4.0	(14.4)	長石・石英・砂粒	普通	明褐(褐灰・黒/一部明赤褐)	内外		覆土下層	71-7	回転を利用して漆をハケで塗った痕(内)
181-8	土師	高杯(杯部)	25%	(13.0)	—	(3.9)	くびれ部径4.6	雲母(少)・長石・石英・砂粒(やや多)	良	明褐(橙褐/橙褐)		内外	覆土下層	—	
181-9	土師	高杯(脚部)	35%	—	脚裾部径(10.3)	(7.1)	くびれ部径4.5	長石(少)・石英(少)・スコリア・砂粒(少)	普通	にぶい橙褐		外	覆土下層	—	器面の摩耗が激しい(内外)
181-10	土師	甕	95%	20.4	7.7	24.6	22.0	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(やや多)	普通	明褐(一部灰褐/一部灰褐)			覆土中層	71-10	底部が斜めに削られている 器面の摩耗が激しい(内外)
SB230 182-1	須恵	杯	30%	(9.9)	(4.0)	3.9	(11.9)	長石(少)・石英(少)・砂粒(やや多)	良	うすい青灰			床 面	—	
182-2	須恵	蓋	15%	(11.0)	—	2.9	(11.2)	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良	うすい青灰(/釉付着)			覆土中層	—	自然釉(外)
182-3	須恵	蓋	15%	(10.6)	—	2.9	(10.9)	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良	うすい青灰色			覆土中層	—	自然釉(外)
182-4	土師	杯	95%	11.8	—	4.1	13.5	長石(少)・石英(少)・スコリア(少)・砂粒(少)	普通	明褐(灰褐・褐灰/一部灰褐・黒褐)	内外		床 面	71-4	器面若干摩耗(内外)
182-5	土師	杯	40%	(13.9)	3.9	4.8	(14.3)	長石・石英・スコリア・砂粒(やや多)	普通	明褐(一部褐灰・黒/明赤褐)		外	覆土下層	—	炭素吸着(内外)

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
182-6	土師	杯	25%	(17.0)	(8.9)	4.3	(17.6)	雲母(少)・長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	普通	明黄褐(灰褐/一部明赤褐)	内外		覆土下層	—	器面若干摩耗(内外)
182-7	土師	杯	30%	(13.9)	—	3.3	(14.2)	雲母・長石(細・多)・石英・砂粒	普通	にぶい明褐(黒褐/黒褐)	内外		覆土上層	—	
182-8	土師	鉢	70%	(16.0)	—	8.2	(16.4)	雲母・長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明褐・明赤褐(/明赤褐・褐灰)			床面	71-8	歪んでいる 炭素吸着(外)
182-9	土師	高杯(脚部)	45%	—	脚裾部径 11.0	(6.4)	くびれ部径 4.2	長石(やや多)・石英・砂粒	普通	明褐(黒光沢/一部黒褐)	脚内		覆土下層	—	
182-10	土師	鉢	55%	(9.6)	6.3	6.7	(10.5)	長石・石英・砂粒(細)	普通	明褐(広範囲黒褐/広範囲黒褐)			覆土下層	—	歪んでいる 口縁波状 底部に木葉痕(若干) 炭素吸着(内外)
182-11	土師	鉢	95%	(9.4)	3.3	8.0	10.4	長石・石英・砂粒	普通	明褐(下半黒/底部明赤褐)			床面	72-11	輪積痕が残る(外) 炭素吸着(内)
182-12	土師	椀	65%	(10.3)	7.4	10.2	13.1	雲母・長石・石英・スコリア・砂粒	普通	淡橙褐			床面	72-12	器面若干摩耗(内外)
182-13	土師	甕	50%	(19.3)	—	(19.4)	(19.4)	長石(細)・石英(細)・砂粒(細・やや多)	普通	明褐(一部褐灰/明赤褐・褐灰)			覆土下層	72-13	器面若干摩耗(内外) 炭素吸着(内外)
182-14	土師	甕	70%	(15.1)	(8.0)	21.5	(16.0)	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明赤褐(一部褐灰/一部褐灰)			床面	72-14	場所によりヘラによる深い溝(内) 器面若干摩耗(内外) 炭素吸着(内外)
SB232 183-1	土師	杯	95%	12.5	5.2	4.5	12.6	雲母(少)・長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部灰褐/一部灰褐・褐灰)	内外		カマド左袖脇	72-1	器面若干摩耗(内外)
183-2	土師	杯	90%	(14.2)	6.0	3.9	14.5	長石・石英・砂粒	普通	明褐(明赤褐・灰褐/明赤褐・黒)			貯蔵穴内	72-2	炭素吸着(内外)
183-3	土師	甕	30%	(17.8)	—	(17.0)	(20.0)	長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部灰褐/一部灰褐)			床面	—	炭素吸着(内外)
183-4	土師	甕	完形	12.2	7.8	18.3	16.5	雲母・長石・石英・スコリア・砂粒(やや多)	普通	明褐(/一部褐灰)			カマド内	72-4	炭素吸着(外面下半)
SB234 184-1	土師	高杯(脚部)	45%	—	脚裾部径 12.7	(9.0)	くびれ部径 6.5	雲母・長石・石英・スコリア・砂粒(やや多)	普通	明褐(一部褐灰・黒褐/褐灰・灰褐)			覆土下層	72-1	炭素吸着(内外) 羽口に加工か?
184-2	土師	鉢	80%	14.0	—	(9.2)	(14.2)	長石(多)・石英(多)・スコリア・砂粒(多)	普通	明褐(広範囲褐灰・黒褐/広範囲褐灰・黒褐)			覆土下層	72-2	炭素吸着(内外)
184-3	土師	甕	80%	(17.4)	5.9	33.9	19.6	長石・石英・砂粒	普通	明褐(上半黒褐/下2/3褐灰・黒褐)			床面	72-3	器面の摩耗が激しい(内) 炭素吸着(内外)
184-4	土師	鉢	90%	14.6	6.3	12.3	15.2	長石(多)・石英(多)・砂粒(多)	普通	にぶい明褐(褐灰/褐灰・底-明赤褐)			床面	72-4	器面の摩耗が激しい(内) 炭素吸着(内外)
184-5	土師	甕	15%	(19.4)	—	(8.6)	—	長石・石英・砂粒	普通	明黄褐(/一部明赤褐)			床面	—	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)
184-6	土師	甕	10%	(16.2)	—	(4.4)	—	長石(多)・石英(多)・砂粒(やや多)	普通	にぶい明褐(灰褐・褐灰/にぶい明赤褐・灰褐・褐灰)			覆土下層	—	器面の摩耗が激しい(内) 炭素吸着(内外)
184-7	土師	甕	65%	(16.0)	5.7	26.8	20.0	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(やや多)	普通	明褐(一部灰褐・褐灰/一部灰褐・褐灰)			覆土下層	72-7	器面の摩耗が激しい(内) 炭素吸着(内外)
184-8	土師	甑	80%	(19.4)	7.7	17.4	(19.8)	長石・石英・砂粒(多)	普通	明褐(一部灰褐/一部灰褐)			床面	73-8	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)
SB235 185-1	土師	杯	55%	(12.2)	—	5.6	(12.4)	長石・石英・砂粒	普通	明赤褐(一部黒褐/一部黒褐)			床面	72-1	
SB237 186-1	須恵	壺	10%	(7.2)	—	(4.2)	(9.7)	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良	青灰			覆土下層	—	自然釉(外)
186-2	土師	杯	完形	13.7	5.0	4.9	13.9	雲母(少)・長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良	明褐(一部黒褐/一部灰褐・黒褐)	内外		カマド右袖脇	73-2	器面若干摩耗(内外)

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
186-3	土師	杯	70%	(13.0)	6.0	3.9	(14.7)	長石・石英・砂粒(細・やや多)	良	明褐(一部褐灰/一部明赤褐・黒褐)	内外		覆土中層	—	器面若干摩耗(内外)
186-4	土師	杯	50%	(13.0)	(5.0)	5.25	(13.4)	長石(多)・石英(多)・砂粒	普通	明褐			カマド内	—	器面の摩耗が激しい(内外)
186-5	土師	甕(小型)	完形	9.8	5.5	10.2	11.1	長石・石英・砂粒	良	明褐(一部褐灰/一部灰褐・黒褐・一部明赤褐)			覆土中層	73-5	器面若干摩耗(内外) 炭素吸着(内外)
186-6	土師	甕	95%	16.2	5.9	16.7	15.2	長石(やや多)・石英・砂粒(やや多)	普通	明褐(一部灰褐/一部灰褐)			カマド内	73-6	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(外)
186-7	土師	甕	完形	9.8	9.0	20.6	14.5	長石(多)・石英(多)・砂粒(多)	普通	明褐(/一部灰褐)			カマド右袖	73-7	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(外)
186-8	土師	甕	完形	16.0	6.4	29.2	18.3	雲母(やや多)・長石(やや多)・石英・砂粒	普通	明褐(一部褐灰/一部褐灰・黒褐)			カマド内	73-8	深い接合痕が数ケ所残る(内) 器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)
187-9	土師	甕	50%	(17.6)	(8.6)	30.0	(26.0)	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明赤褐(広範囲褐灰/一部褐灰)			カマド内	73-9	器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(外)
187-10	土師	甕	20%	15.8	—	(13.3)	(19.0)	長石・石英・砂粒	普通	明褐			覆土中層	—	器面の摩耗が激しい(内外)
187-11	土師	甕	15%	(14.6)	—	(12.2)	(21.8)	雲母(少)・長石・石英(少)・砂粒(少)	普通	明褐(明赤褐・黒褐/明赤褐・褐灰)			覆土上層	—	胴部上位にヘラ痕が1/4周残る(外) 器面若干摩耗(内外) 炭素吸着(内外)
SB240 188-1	土師	杯	完形	13.3	—	4.0	15.7	長石・石英・砂粒	良	明褐(灰褐・褐灰/一部明赤褐・褐灰・黒褐)	内外		床面	73-1	
SB242 189-1	土師	小皿	97%	7.6	5.1	1.8	7.6	雲母・長石・石英・スコリア・砂粒	普通	淡橙褐			床面	73-1	底部若干上げ底気味で回転糸切り痕
SX013 190-1	土師	椀	45%	(12.1)	—	(5.2)	(12.6)	長石・石英・砂粒・破砕した土器片?	普通	明褐(一部黒褐/一部黒褐)			床面	73-1	体部に穿孔 器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(内外)
SD003 191-1	須恵	蓋	30%	(13.3)	天井部径(8.8)	3.3	(13.7)	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良	青灰			覆土下層	—	
191-2	須恵	杯	10%	(10.5)	—	(3.3)	(13.0)	長石・石英(少)・砂粒(少)	良	明青灰			覆土下層	—	
191-3	土師	杯	80%	(13.2)	—	4.1	(13.3)	長石(細・少)・石英(細・少)・スコリア(細・少)・砂粒(細・少)	良	明褐(一部灰褐・褐灰/一部灰褐・褐灰)	内外		覆土下層	73-3	器面の摩耗が激しい(内外)
191-4	土師	椀	20%	(12.8)	—	(5.8)	(14.2)	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒	良	にぶい明黄褐(黒/にぶい明黄褐)	内		覆土下層	—	器面の摩耗が激しい(外)
191-5	土師	高杯(脚部)	40%	—	脚裾部径(14.0)	(10.5)	くびれ部径 4.6	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒	普通	明褐(/一部灰褐)			覆土下層	—	
191-6	土師	高杯(脚部)	40%	—	脚裾部径(11.3)	(6.0)	くびれ部径 4.6	雲母・長石(やや多)・石英・砂粒	普通	灰褐(黒褐/黒褐)	内外		覆土下層	—	

第12表　遺構外出土土器計測表

（）残存長・復元長

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調（内／外）	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
C2-03 192-1	須恵	杯	完形	9.8	5.1	4.3	12.1	長石・石英	良	灰色			貝層内	73-1	(SK129)時期不明土壙流れ込み
C2-03 192-2	須恵	蓋	15%	(11.9)	—	(3.5)	(12.1)	長石・石英	良	灰色			貝層内	—	(SK129)時期不明土壙流れ込み
不明 192-3	須恵	蓋	45%	(10.1)	(4.0)	(4.6)	(10.9)	長石・石英・砂粒	良	灰色			覆土内	73-3	(SD007)近世溝流れ込み
不明 192-4	須恵	杯	10%	(11.6)	—	(3.2)	(13.6)	長石・石英(少)・砂粒(少)	良	灰色(明)			覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み
不明 192-5	須恵	杯	10%	—	(4.5)	(2.1)	—	長石(やや多)・砂粒	良	青灰(褐灰/青灰)			覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み
不明 192-6	須恵	杯	15%	(13.3)	—	(3.5)	(13.5)	長石・砂粒	良	灰白(明)(白灰(明)/灰色)			覆土内	—	(SD022)近世溝流れ込み
不明 192-7	須恵	鉢	10%	(13.7)	—	(5.6)	(14.0)	長石(細)・石英・砂粒(細)	良	灰色			覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み
不明 192-8	須恵	鉢	15%	(14.8)	—	(7.5)	—	砂粒(少)	良	にぶい青灰(/一部灰(明))			覆土内	—	(SD030)近世溝流れ込み 自然釉(外)
不明 192-9	須恵	瓶	85%	頸部 (7.0)	—	(21.2)	16.0	砂粒(細・少)	良	灰色(明)			覆土内	73-9	(SD007)近世溝流れ込み 自然釉
不明 192-10	須恵	杯（高台付）	5%	—	(9.8)	(1.2)	—	雲母(少)・長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良	灰色			覆土内	—	(SD022)近世溝流れ込み
C2-61 192-11	土師	杯	15%	(13.5)	(4.0)	3.8	(13.7)	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良	にぶい明褐(黒/にぶい明褐)	内		覆土内	—	(SK002)時期不明土壙流れ込み
C2-03 192-12	土師	杯	5%	(12.1)	—	(2.8)	(13.4)	長石(細)・石英(細)・スコリア(細)・砂粒(細)	良	淡橙褐(/一部灰褐)			貝層内	—	(SK129)時期不明土壙流れ込み
不明 192-13	土師	杯	45%	(11.4)	—	3.7	(11.6)	長石・石英・砂粒	良	明褐(明褐/明褐)			覆土内	—	(SK198)欠番
不明 192-14	土師	杯	60%	(13.9)	—	4.5	(14.3)	長石(少)・石英(少)・砂粒・黒色粒子(多)	良	明褐(一部褐灰/一部褐灰)			覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み
不明 192-15	土師	杯	35%	—	—	(2.0)	—	雲母・長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	普通	にぶい淡橙褐(一部灰褐・黒褐/一部灰褐・黒褐)			覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み
不明 192-16	土師	杯	20%	(12.8)	—	(3.3)	(13.2)	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良	にぶい明褐(黒褐・褐灰/灰褐)	内		覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み
不明 192-17	土師	杯	15%	12.1	—	3.6	14.2	雲母(少)・長石(細・少)・石英(細・少)・砂粒(細・少)	良	明褐(一部褐灰/にぶい明赤褐～黒褐)			覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み
不明 193-18	土師	杯	10%	—	—	3.7	—	雲母(少)・長石・石英・砂粒(やや多)	良	にぶい明褐(にぶい明赤褐・褐灰/一部灰褐・褐灰)	内外		覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み
不明 193-19	土師	杯	10%	(11.4)	—	(3.3)	(11.6)	長石(細・少)・砂粒(細・少)	普通	にぶい橙褐(にぶい黒褐/にぶい橙褐)			覆土内	—	(SD022)近世溝流れ込み
不明 193-20	土師	杯	25%	(12.6)	—	(4.6)	(12.8)	長石(細・少)・石英(細・少)・砂粒(細・少)	良	にぶい明黄褐(灰褐・黒褐/黒褐・灰褐)			覆土内	—	(SD026)中世溝流れ込み 炭素吸着(内外)
C2-70 193-21	土師	杯	80%	10.6	—	4.9	(11.3)	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(多)	良	にぶい明黄褐(灰褐・褐灰/明褐・褐灰)	内外		覆土内	74-21	(ホ-18)南斜面貝層
C2-60 193-22	土師	高杯	85%	12.9	脚裾部径 9.1	(10.2)	くびれ部径 3.4	長石・石英・砂粒	良	淡橙褐(にぶい橙褐/一部灰褐・黒褐)			覆土内	73-22	(SK007)時期不明土壙流れ込み
C2-60 193-23	土師	高杯	50%	(12.6)	脚裾部径(9.0)	10.2	くびれ部径 3.9	長石・石英・砂粒(細)	良	淡橙褐(口縁一部褐灰/一部褐灰・黒褐)			覆土内	74-23	(SK007)時期不明土壙流れ込み
C2-60 193-24	土師	高杯（脚部）	15%	—	—	(5.1)	くびれ部径 5.6	雲母(少)・長石・石英・砂粒	普通	(杯 黒、脚 灰褐/赤褐)	杯内	外	覆土内	—	(SK007)時期不明土壙流れ込み
不明 193-25	土師	高杯（脚部）	35%	—	—	(6.1)	くびれ部径 5.0	雲母(少)・長石・石英・砂粒	普通	明褐(杯 黒・脚一部黒褐/赤)	杯内	脚外	覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み
不明 193-26	土師	高杯（脚部）	25%	—	—	(7.8)	くびれ部径 5.1	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(やや多)	普通	明褐(一部褐灰/黒)			覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み 器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(外)
不明 193-27	土師	高杯（杯部）	20%	(21.8)	—	(4.8)	—	雲母(少)・長石(少)・石英(少)・砂粒	良	にぶい明褐(一部褐灰/一部褐灰)			覆土内	—	(SK198)欠番
不明 193-28	土師	高杯（脚部）	25%	—	—	(7.1)	くびれ部径 6.8	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(やや多)	普通	明褐(一部灰褐/一部灰褐)		杯内 脚外	覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み
不明 193-29	土師	高杯	65%	(15.4)	—	(12.2)	くびれ部径 4.8	長石・石英・砂粒	普通	明褐(にぶい明赤褐・褐灰/にぶい明赤褐・褐灰)			覆土内	74-29	(SD007)近世溝流れ込み 炭素吸着(内外)

遺構 挿図番号	器質	器種	遺存度	口径	底径	器高	最大径	胎土	焼成	色調(内／外)	黒色処理	赤彩	出土状況	図版番号	備考
C2-60 193-30	土師	高杯 (脚部)	20%	—	脚裾部 径 (10.0)	(4.5)	—	長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	良	淡橙褐(にぶい淡橙褐/にぶい淡橙褐・一部灰褐)			覆土内	—	(SK007)時期不明土壙流れ込み
不明 193-31	土師	高杯 (杯部)	35%	(16.5)	—	(4.2)	(16.8)	雲母(細・やや多)・長石・石英・砂粒	良	にぶい明褐(にぶい明赤褐・黒/褐灰・黒褐)			覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み 炭素吸着(内外)
不明 193-32	土師	高杯 (脚部)	30%	—	脚裾部径(11.4)	(8.8)	くびれ部径(4.4)	長石(少)・石英(少)・スコリア(多)・砂粒	普通	にぶい明黄褐			覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み 器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(外)
不明 193-33	土師	高杯 (杯部)	15%	(16.7)	—	(3.6)	(17.1)	雲母・長石・石英・砂粒(多)	普通	(黒/赤褐)	内	外	覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み
C2-60 193-34	土師	甕	5%	(12.9)	—	(5.5)	(14.4)	雲母・長石・石英・砂粒	普通	明褐(一部黒褐/一部黒褐)			覆土内	—	(SK007)時期不明土壙流れ込み
G4-69 193-35	土師	甕	10%	(16.7)	—	(5.9)	—	雲母・長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(多)	普通	明褐(灰褐・褐灰/広範囲褐灰・黒褐)			覆土内	—	(SK830)時期不明土壙流れ込み
不明 193-36	土師	甕	10%	(17.5)	—	(8.4)	—	雲母・長石・石英・砂粒	普通	明褐(/一部褐灰)			覆土内	—	(SK198)欠番
G4-69 193-37	土師	甕	20%	(23.4)	—	(11.4)	—	長石・石英・砂粒	普通	にぶい橙褐(黒褐/黒)			覆土内	—	(SK830)時期不明土壙流れ込み
G4-69 193-38	土師	甕	15%	(16.6)	—	(16.0)	(22.2)	雲母(少)・長石(少)・石英(少)・砂粒	普通	にぶい橙褐(一部褐灰/一部灰褐・褐灰)			覆土内	—	(SK830)時期不明土壙流れ込み
C2-60 193-39	土師	甕	30%	—	—	(23.5)	(29.4)	長石・石英・砂粒	普通	橙褐(橙褐/淡橙褐)			覆土内	—	(SK007)時期不明土壙流れ込み
不明 194-40	土師	甕 (小型)	20%	(12.7)		(7.3)	(12.9)	長石・石英・砂粒(多)	普通	にぶい明黄褐(黒/一部黒褐)	内		覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み 器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(外)
不明 194-41	土師	甕	15%	(13.7)	—	(5.3)	—	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(やや多)	普通	にぶい明褐(ほぼ全面黒褐/ほぼ全面黒褐)			覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み 炭素吸着(内外)
不明 194-42	土師	甕	10%	(14.8)	—	(5.2)	—	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明褐			覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み 輪積み痕(内)
不明 194-43	土師	甕	10%	(12.9)	—	(4.6)	—	長石・石英・砂粒	普通	明褐(褐灰/褐灰・黒褐)			覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み 炭素吸着(内外)
不明 194-44	土師	甕	75%	(17.2)	(7.6)	(19.4)	(17.6)	長石(やや少)・石英(やや少)・砂粒	普通	明赤褐(一部灰褐/一部灰褐・黒褐)			覆土内	74-44	(SD007)近世溝流れ込み 器面の摩耗が激しい(内外) 炭素吸着(外)
不明 194-45	土師	甕	35%	(18.1)	—	(10.4)	(18.7)	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒	良	明褐(/黒褐)			覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み
不明 194-46	土師	甕	40%	(19.4)	(9.4)	上(12.3) 下(9.5)	(23.9)	雲母(少)・長石・石英・砂粒	普通	淡橙褐(/一部にぶい赤褐・褐灰)			覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み 接合はしないが同一個体
不明 194-47	土師	甕	10%	—	(10.0)	(4.5)	—	長石(細・多)・石英・砂粒	良	淡橙褐(一部黒褐/一部灰褐)			覆土内	—	(SD016)近世溝流れ込み
不明 194-48	土師	甕	40%	12.9	—	10.7	17.6	長石(細・少)・石英(細・少)・砂粒	良	明褐(褐灰/一部褐灰・黒褐)			覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み 炭素吸着(内外)
不明 194-49	土師	甕	35%	(1.8)	—	(16.3)	(22.5)	長石・石英・砂粒	普通	明褐			覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み 炭素吸着(外)
不明 194-50	土師	甑	10%	—	(7.5)	(6.5)	—	長石・石英・砂粒(やや多)	普通	明褐			覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み
不明 194-51	土師	甕	10%	(18.6)	—	(7.5)	—	雲母(少)・長石(少)・石英(少)・砂粒(少)	普通	淡橙褐			覆土下層	—	(SD007)近世溝流れ込み 器面の摩耗が激しい(内外)
不明 194-52	土師	甕	10%	(19.0)	—	(9.4)	—	長石・石英・砂粒(多)	普通	にぶい明褐			覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み 器面の摩耗が激しい(内外)
不明 194-53	土師	甕 (小型)	15%	(10.5)	—	(9.0)	(11.4)	長石(細・少)・石英(細・少)・砂粒	普通	にぶい明褐(褐灰/一部灰褐)			覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み 炭素吸着(内外)
不明 194-54	土師	甑	35%	—	(8.4)	(23.8)	(19.3)	長石(やや多)・石英(やや多)・砂粒(やや多)	普通	にぶい明褐(/黒褐)			覆土内	—	(SD007)近世溝流れ込み 炭素吸着(外)

4　その他の遺物（第195図～第217図・第13表～第28表・図版74～図版85）

手捏土器（第195図・第13表・図版74，75）

本遺跡で出土した手捏土器は32点で、赤彩を施されたものが10点、内外面に黒色処理を施されたものが1点である。6・13・17の3点は丁寧な指ナデ調整が施され、指頭痕がほとんど残らない。6は外面に櫛状工具による縦の沈線が3本単位で7対施文されている。13は口縁部下に二つの穿孔が対角線上に施され、一方の穿孔部分内側5㎜となりに途中で中止した穿孔痕がある。17はミニチュアの壺で、内面頸部まで分厚く赤彩塗料が付着しており、赤彩塗料を貯蔵するための壺であった可能性がある。

羽口（第196図・第14表・図版75）

本遺跡で図示できた羽口は下記の4点のみである。（　）の数字は挿図番号・上の3桁の数字は遺構内出土番号を表している。（1）～（3）はＳＫ609小鍛冶遺構の炉内出土羽口で、第32図で出土状況を掲載した。（4）はＳＤ007溝状遺構覆土内流れ込みの羽口で、第30図で出土状況を掲載した。また、第14表の遺構番号は小グリッドに換算して掲載した。4点とも専用の羽口である。（1）は外面縦のヘラケズリ、内面基部ではヨコナデが認められる。被熱変色の最大の長さは、アメ状溶着2.9cm・還元被熱5.4cm・酸化被熱3.8cmを測る。（2）内外面ともに摩耗が激しく、外面縦のヘラケズリが一部に認められるのみである。被熱変色の最大の長さは、アメ状溶着3.5cm・還元被熱3.5cm・酸化被熱3.5cm・地色2.5cmを測る。（3）外面ははっきりした縦のヘラケズリ、内面は回転ヘラケズリが認められる。被熱変色の最大の長さは、アメ状溶着4.8cm・還元被熱1.4cm・酸化被熱5.3cm・地色2.8cmを測る。（4）遺存度が悪いが、外面先端部には縦のヘラケズリ、基部には横のヘラケズリが認められる。被熱変色の最大の長さは、アメ状溶着なし・還元被熱2.6cm・酸化被熱1.2cm・地色7.2cmを測る。

土製品（第197図・第15表・図版76）

性格・用途が不明なものがほとんどであるが、10・13～16の5点は球状の一部分に平らな剥離痕が認められ、焼成以前に平らな部分にくっついていたものと思われる。いわゆる高杯等の杯部に供物として飾られ、焼成後に剥離したものではないだろうか。このような一部分に平らな剥離痕を有する球状土製品の出土例はあるが、まだ少ない。いずれにしても、出土例の増加を待ちたい。

紡錘車（第198図・第16表・図版76）

13点中完形品は5点で欠損品が多く、材質は滑石製が3点で土製のものが多い。土製品と石製品を比較すると、土製品の方が石製品より厚い傾向が窺える。

玉類・勾玉（第199，200図・第17，18表・図版77）

玉類は未製品も含めると39点出土した。材質は土製品が多く石製品は少ない。土製品のほとんどは外面が摩耗している。石製品ではコハク・ヒスイも各1点ずつ出土した。形態的には臼玉5点・管玉4点・切子玉3点がそれぞれ確認された。

勾玉は10点出土したがすべて土製品で、赤彩は4点確認された。

土玉（第201図～第204図・第19表・図版78，79）

本遺跡出土の土玉は図示できたものだけでも164点を数える。そのうち竪穴住居跡から出土したものが145点で、土玉のほとんどは竪穴住居跡から出土している。竪穴住居跡から出土した土玉の数は、竪穴住居跡1軒でだいたい3～4点が平均的であるが、ＳＢ163竪穴住居跡からは36点もの土玉が出土し、ＳＢ217竪穴住居跡からは19点出土した。また、出土状況をＳＢ163竪穴住居跡とＳＢ217竪穴住居跡でみてみると、平面分布ではまとまった状態ではなく、散在する状態で分布している。レベル分布では覆土上層から床面まで満遍なく分布している。この出土数の大幅な差異と出土状況は、本遺跡の特徴的な現象として押さえておきたい。本遺跡出土の土玉は、大まかに下記の五つのタイプに分類することができる。Ⅰ…ほぼ球形を呈すもの（円）・Ⅱ…穿孔部分を平らに浅くカットするもの（偏平）・Ⅲ…穿孔部分を平らに深くカットするもの（臼玉状）・Ⅳ…胴部最大径の位置で尖るもの（ソロバン玉状）・Ⅴ…平面形態が円にならないもの（四角状）、以上の五つに土玉の大小及び、赤彩が施されるもの施されないもの等が絡み合ってくる。第19表の備考欄に気が付いたものは記載した。

支脚（第205図～第207図・第20表・図版80，81）

竪穴住居跡内出土のものが58点、遺構外（グリッド）出土のものが2点、計60点出土した。竪穴住居跡出土のものはそのほとんどが、カマド内及びカマド周辺からの出土である。完形品は2点のみで、ほとんどが欠損品である。支脚先端部分から基部に至るにしたがい太くなる、どっしりした形が中心であるが、あまり太くならないものも若干認められる。31はその典型である。48は半裁竹管による沈線文が描かれている。また、53は高杯の脚部を再利用した支脚である。

刀子（第208図・第21表・図版81）

刀子で図示できたのは9点である。1・5は刃部が発達せず切先は鋭く尖ると思われるが、残念ながら遺存していない。使い減りあるいは折損したものと思われる。2は刃部のみで切先を欠損する。4は刃部のみで茎部は欠損している。切先は尖っている。3は刃部先端部が欠損し茎部がかろうじて残っている。6・7は刃部から茎部にかけて残存している。8は柄の木質部が残存している。9は刃部片である。

鎌（第209図・第22表・図版81，82）

鎌で図示できたものは6点である。1・2は錆化が進み刃部と背部は一部分しか確認できず、基端部の屈曲はあまり強くない。3は背部の一部分を欠損するが、刃部は明瞭に確認できた。4・5は同一個体である。6は鎌の茎部と刃部片で同一個体である。刃部から茎部にかけて緩やかにカーブしながら基端部に至る。茎部は若干の錆化がみられるが、木質が残り遺存状態は良い。背部には1か所、棒状の鉄を丸く折り曲げた内部空洞の突起が付いている。基端部には強い屈曲がある。

手鎌（第210図・第23表・図版82）

手鎌で図示できたものは1点で、幅が15.5㎜とやや薄く、孔も背部と刃部のほぼ中央にある。

小札（第211図・第24表・図版82）

1点のみ出土した。中央部分でやや厚みが増し、4孔が認められる。

鉄鏃（第212図・第25表・図版83）

鉄鏃で図示できたものは25点である。身の形態は大まかに三角形式と片刃の2種類に分けられる。三角形式は腸抉のものとそうでないものに分類できる。2は箆被が長方形、茎が方形の断面を呈しており、茎部には木質が遺存し、糸状のもので巻き付けた痕が残る。26は断面円形で両先端部が丸まっている。鉄鏃ではなく用途不明の棒状鉄製品と思われる。

耳環（第213図・第26表・図版82）

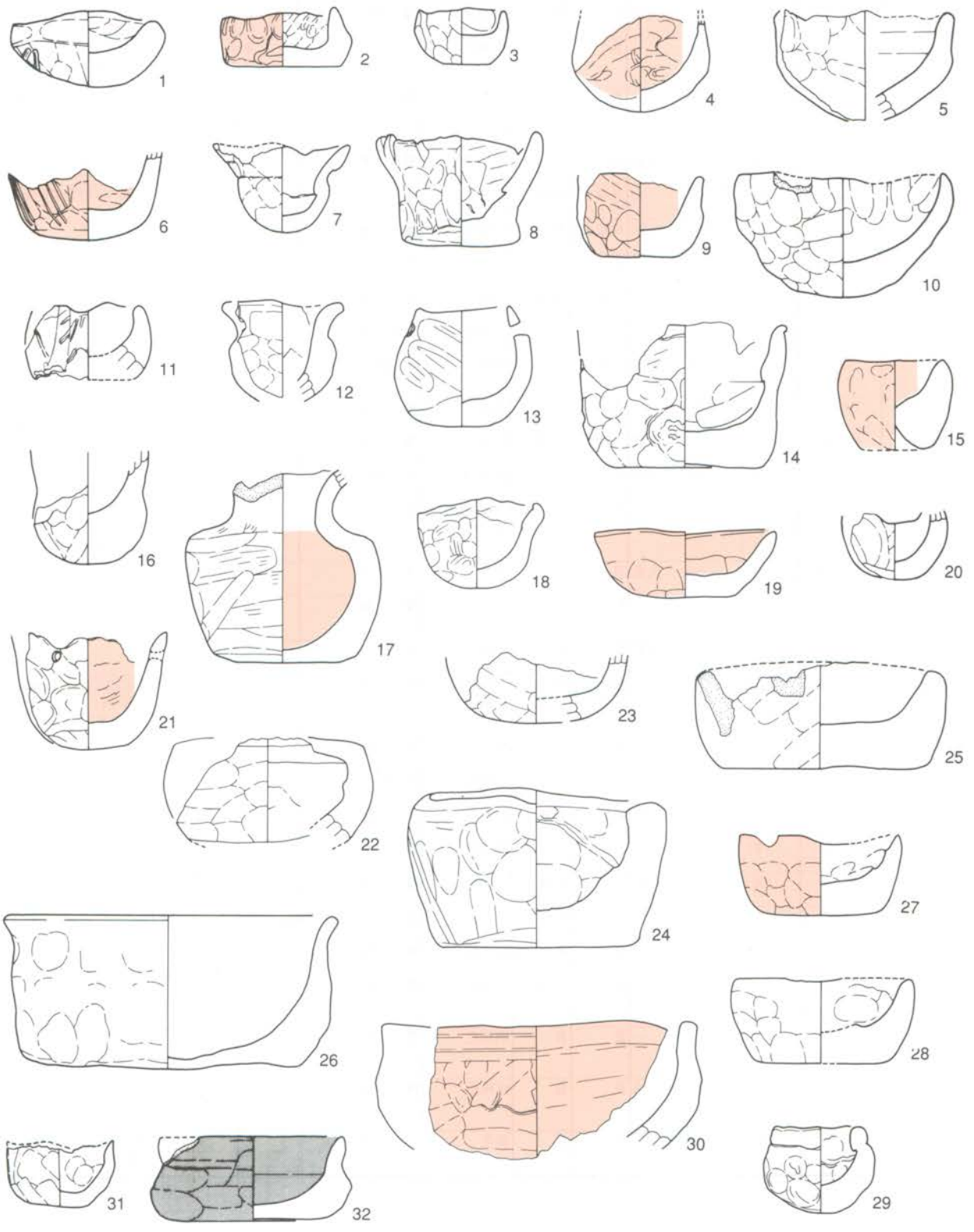
耳環は3点出土した。2は金箔が所々に残る金環である。

砥石（第214図～第216図・第27表・図版84，85）

古墳時代から奈良・平安時代に属すると思われる砥石は55点である。

その他の遺物（第217図・第28表・図版75，76）

その他の遺物は10点掲載した。3は板状土製品で両面ともイネ籾の圧痕と茎状の圧痕が認められる。

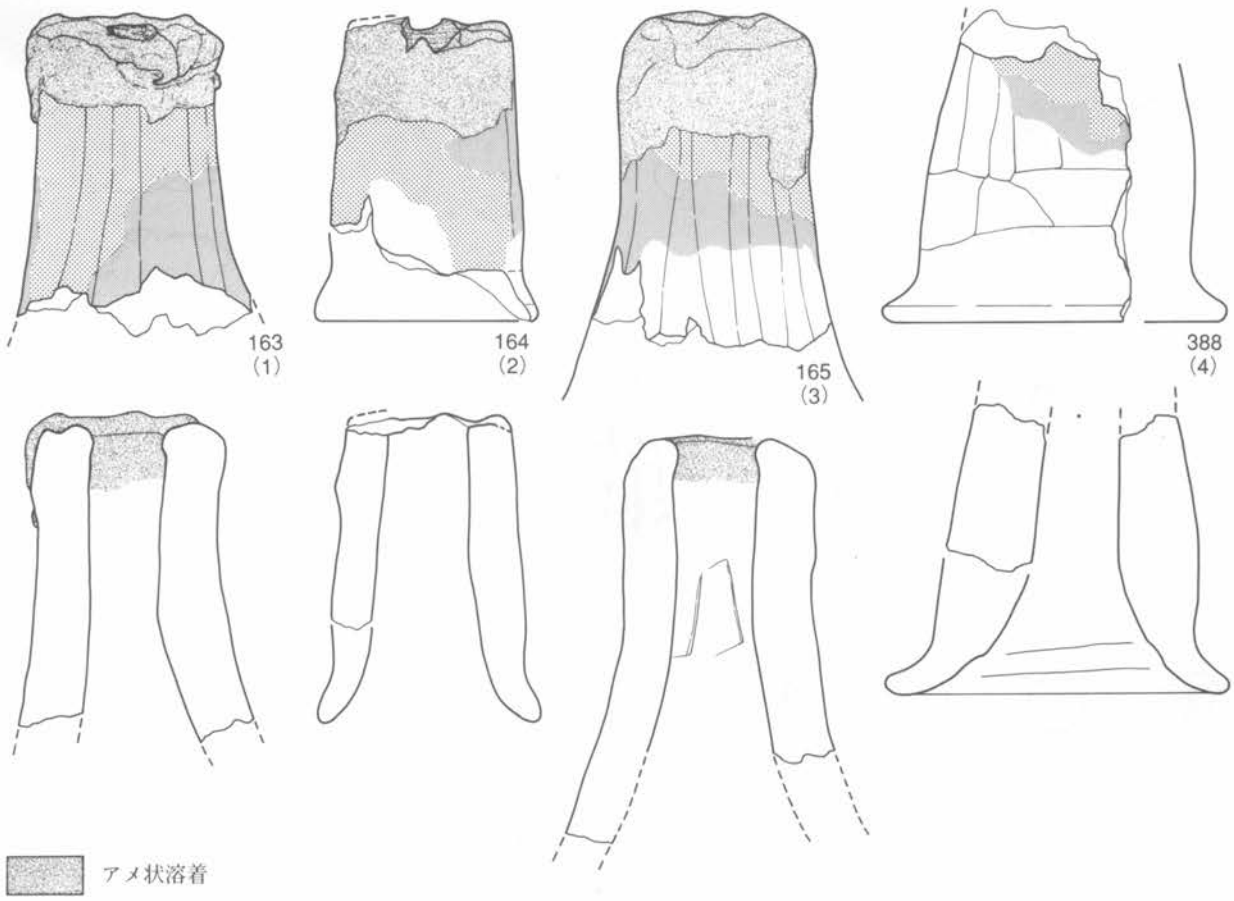


第195図　手捏土器実測図

第13表　手捏土器計測表

( )現存長

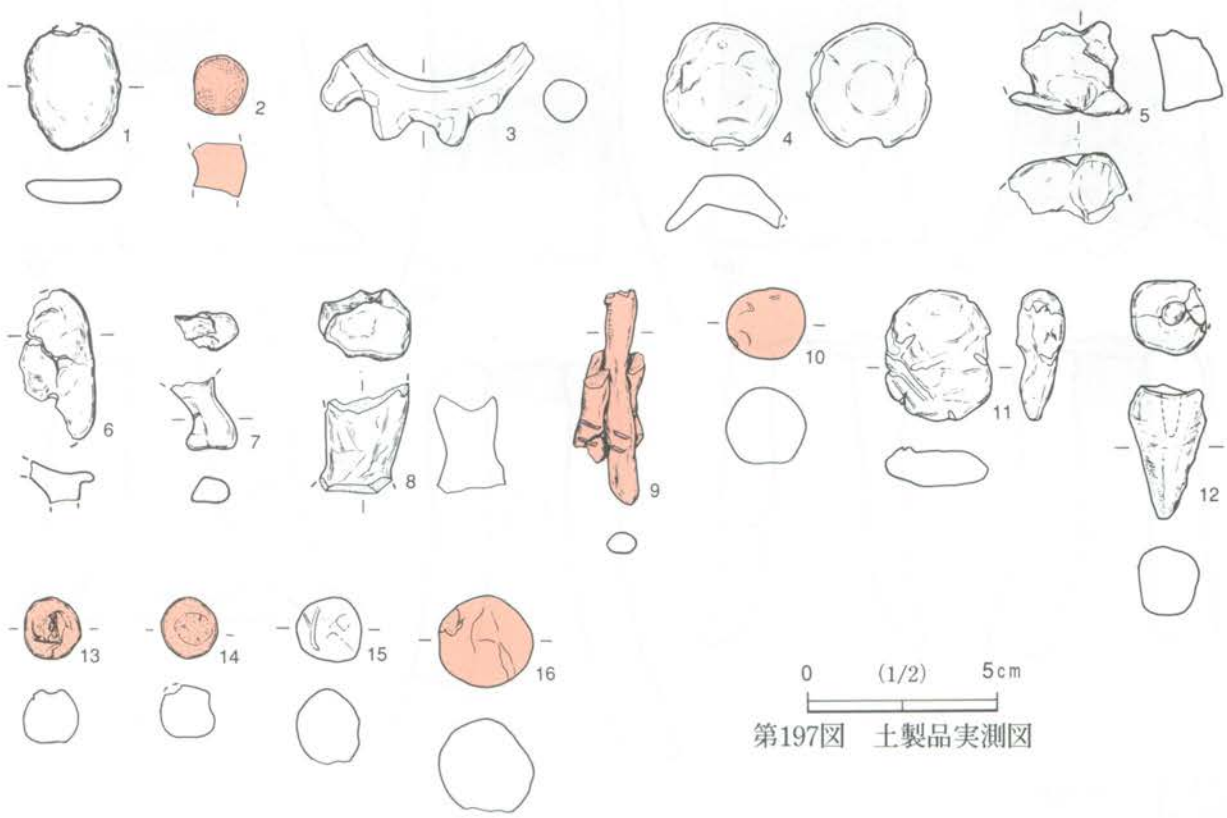
遺構番号	挿図番号	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	胎土	焼成	色調	出土状況	遺存度 (%)	図版番号	備考
SB006	195-1	53	26	丸底	普通	普通	暗褐色	覆土下層	100	74-1	外面口辺部指撫で
SB008	195-2	38	20	35	良	良	明褐色	床　面	100	74-2	赤彩(外)口縁部波状
SB008	195-3	30	19	14	砂粒多	普通	褐色	床　面	90	74-3	
SB024	195-4	—	(32)	丸底	密	良	明褐色	覆土中層	40	—	赤彩(内・外)
SB027	195-5	—	(36)	—	良	良	明褐色	—	40	—	注記なし スス付着(外)
SB032	195-6	—	(28)	38	良	良	明褐色	覆土上層	60	74-6	櫛状工具による縦沈線 3本7対 赤彩(内・外)
SB035	195-7	(45)	29	丸底	良	良	明灰褐色	覆土下層	90	74-7	スス付着(内・外)
SB035	195-8	(56)	37	40	普通	普通	黒褐色	床　面	90	74-8	全面スス付着(内・外)
SB035	195-9	(43)	(28)	(25)	砂粒少	普通	明褐色	覆土下層(1区)	60	—	赤彩(内・外)
SB044	195-10	(70)	(40)	丸底	密	良	暗褐色	覆土下層	60	—	スス付着(内・外)
SB129	195-11	(36)	(25)	(33)	普通	普通	黒褐色	覆土上層(1区)	40	—	スス付着(内・外)
SB144	195-12	(40)	(32)	—	良	良	明褐色	覆土中層	40	—	
SB148	195-13	31	29	丸底	砂粒少	良	黒褐色	床　面	100	74-13	穿孔(2穴対辺)5mm・3mm スス付着(内・外)
SB148	195-14	(70)	48	51	普通	普通	褐色	覆土下層	80	74-14	底部中央上げ底
SB152	195-15	—	—	丸底	普通	普通	明褐色	覆土中層	40	—	赤彩(内・外)
SB163	195-16	(40)	(50)	丸底	良	良	暗褐色	覆土下層	60	—	スス付着(内・外)
SB165	195-17	—	(63)	48	良	良	赤褐色(内) 暗褐色(外)	覆土中層	95	74-17	小型壺 赤彩(内) スス付着(外)
SB169	195-18	42	30	丸底	良	良	褐色	覆土下層	100	74-18	口縁部スス付着
SB189	195-19	60	22	35	良	良	明褐色	覆土下層	95	75-19	赤彩(内外) 炭素吸着(外)
SB217	195-20	(35)	22	丸底	良	良	褐色	床　面	40	—	
SB228	195-21	(52)	38	丸底	普通	普通	赤褐色(内) 黒褐色	覆土下層	65	74-21	穿孔(2穴対辺)3.5mm 赤彩(内) スス付着(外)接合
SB229	195-22	—	—	—	良	良	褐色	覆土下層	30	—	
SB229	195-23	—	(22)	—	良	良	明褐色	床　面	—	—	接合
SB230	195-24	86	52	68	砂粒多	普通	明褐色	覆土中層	95	75-24	指押痕(内・外)
SB230	195-25	84	(35)	69	砂粒多	不良	明褐色	覆土中層	60	75-25	接合
SB234	195-26	(106)	51	85	良	普通	明褐色	覆土土層	90	75-26	木葉痕(底)
SB235	195-27	(53)	26	(40)	良	良	明褐色	覆土中層	45	—	赤彩(外)
SB235	195-28	(60)	28	(45)	良	良	暗灰褐色	覆土中層	35	—	スス付着(内・外)
H5-49	195-29	33	28	丸底	砂粒多	普通	黒褐色	覆土中層	100	75-29	スス付着(外) SD007(流れ込み)
H5-49	195-30	(106)	(43)	—	良	良	明褐色	覆土中層	30	—	赤彩(内) 接合 D007(流れ込み)
H5-87	195-31	(37)	22	18	良	良	暗褐色	覆土中層	95	75-31	スス付着(外) SD007(流れ込み)
不明	195-32	(62)	28	55	良	良	黒色	—	85	75-32	黒色処理(内・外) 木葉痕(底)



第196図　羽口実測図

第14表　羽口計測表　　( )現存長

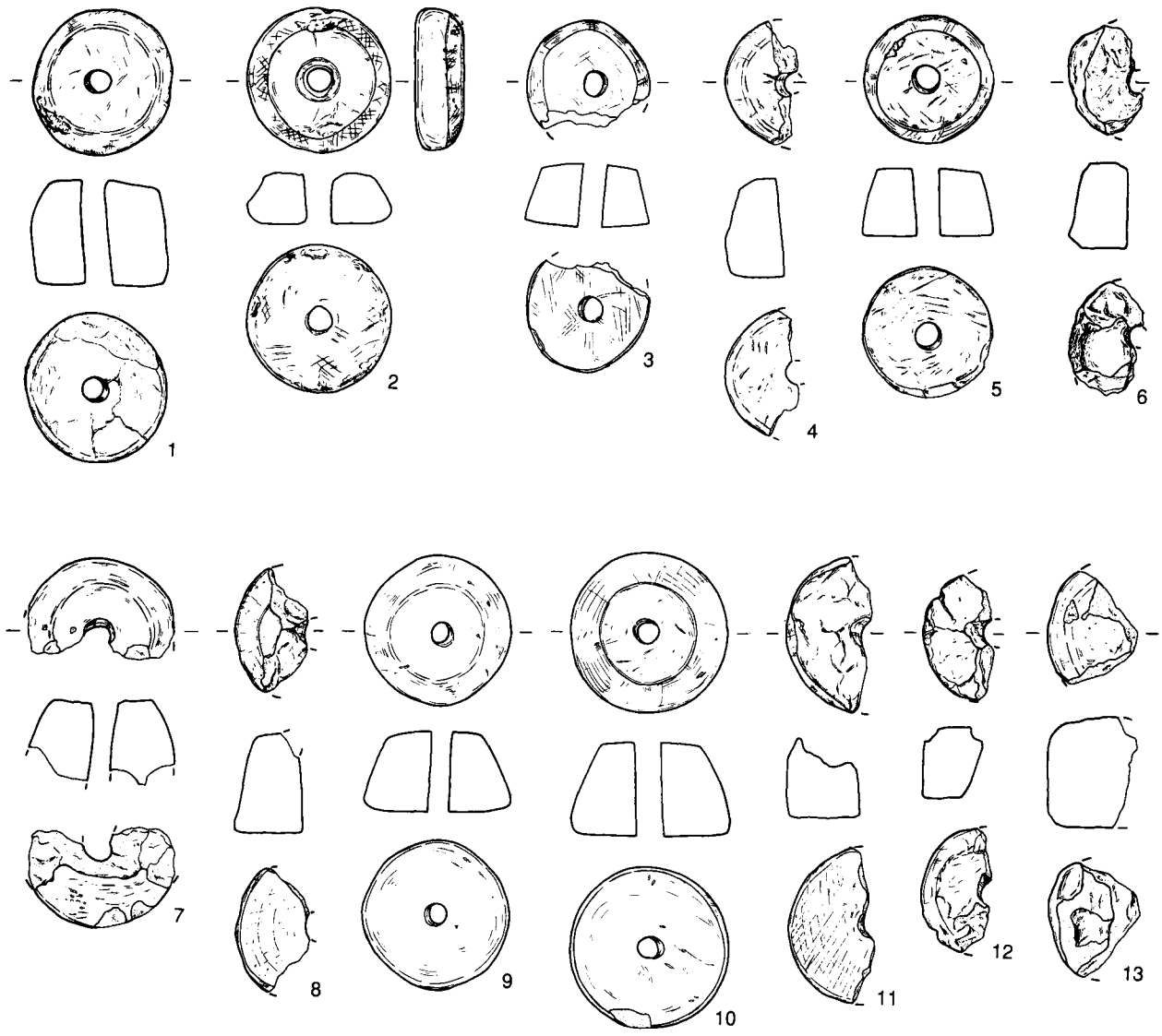
遺構番号	挿図番号	長さ	先端部(cm)		基部(cm)		色調	出土状況	遺存度	図版番号	備考
		(cm)	外径	内径	外径	内径			(%)		
SK609	196-1	(8.5)	4.9	2.0	(6.1)	(2.8)	被熱変色	炉内	70	75-1	専用羽口 (224.2g)
SK609	196-2	8.0	4.3	2.1	(5.8)	(5.3)	被熱変色	炉内	80	75-2	専用羽口 (120.2g)
SK609	196-3	10.3	5.0	2.2	—	(3.3)	被熱変色	炉内	90	75-3	専用羽口 (243.0g)
H6-33	196-4	(7.3)	(5.4)	(1.97)	(9.0)	(7.8)	被熱変色	SD007 覆土内(流れ込み)	40	75-4	専用羽口 接合(160.5g)



第197図　土製品実測図

第15表　土製品計測表

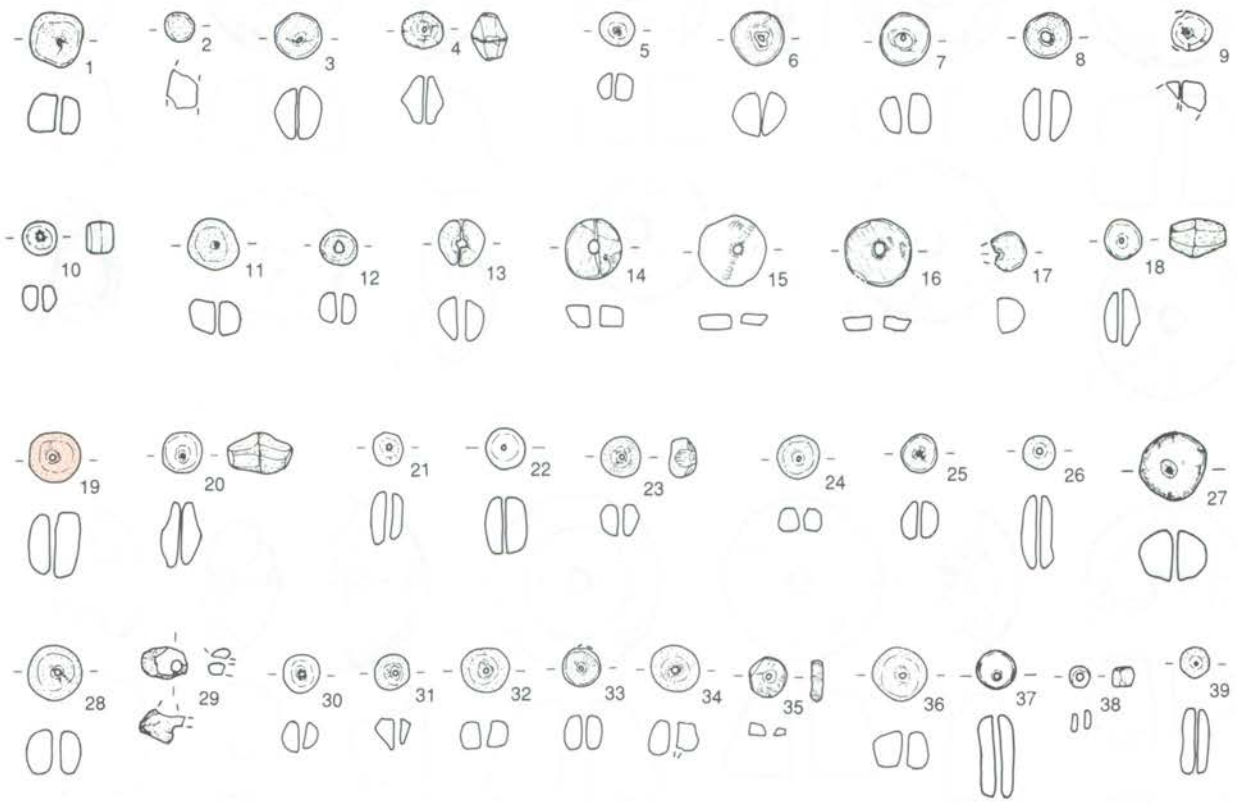
遺構番号	挿図番号	用途・性格	最大長 (mm)	幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	色調	出土状況	遺存度 (%)	図版番号	備考
SB008	197-1	不明	33.2	24.3	6.3	4.99	明褐色	覆土一括(4区)	100	76-1	多量の砂粒を含む
SB038	197-2	不明	(高)13.5	(径)15.9	14.0	3.31	明褐色	覆土下層	100	76-2	赤彩
SB044	197-3	装飾品	26.8	55.9	11.6	10.31	褐色	床　面	—	76-3	スス付着
SB044	197-4	不明	32.7	31.7	13.7	8.88	暗褐色	注記なし	ほぼ完形	76-4	スス付着
SB105	197-5	不明	25.2	30.8	19.6	7.69	褐色	覆土一括(3区)	—	76-5	スス付着
SB158	197-6	不明	38.9	20.2	9.0	4.59	黄褐色	覆土一括(4区)	80	76-6	
SB163	197-7	不明	18.8	17.1	10.1	1.57	褐色	床　面	90	76-7	
SB188	197-8	ミニチュア土器?	28.3	23.9	19.5	9.78	暗褐色	覆土一括(1区)	—	76-8	スス付着
SB218	197-9	不明	55.7	19.2	9.5	5.91	明褐色	覆土中層	—	76-9	赤彩
C3-25	197-10	供物?	(高)20.3	(径)19.6	—	7.14	明褐色	遺構外	—	76-10	赤彩 南斜面貝層(ヌ-87)
C3-27	197-11	不明	34.3	27.9	12.3	9.78	暗褐色	遺構外	100	76-11	南斜面貝層(ヌ-55)
E2-26	197-12	不明	34.6	20.3	19.3	8.07	暗褐色	遺構外	ほぼ完形	76-12	
E2-35	197-13	供物?	(高)13.5	(径)16.3	—	2.87	褐色	遺構外	—	76-13	赤彩
E4-17	197-14	供物?	(高)13.7	(径)16.1	—	2.92	褐色	遺構外	—	76-14	赤彩
E4-50	197-15	供物?	(高)18.6	(径)17.9	—	5.24	明褐色	遺構外	—	76-15	SD020(流れ込み)
E4-50	197-16	供物?	(高)23.2	(径)24.9	—	12.20	明褐色	遺構外	—	76-16	赤彩 SD020(流れ込み)



第198図　紡錘車実測図

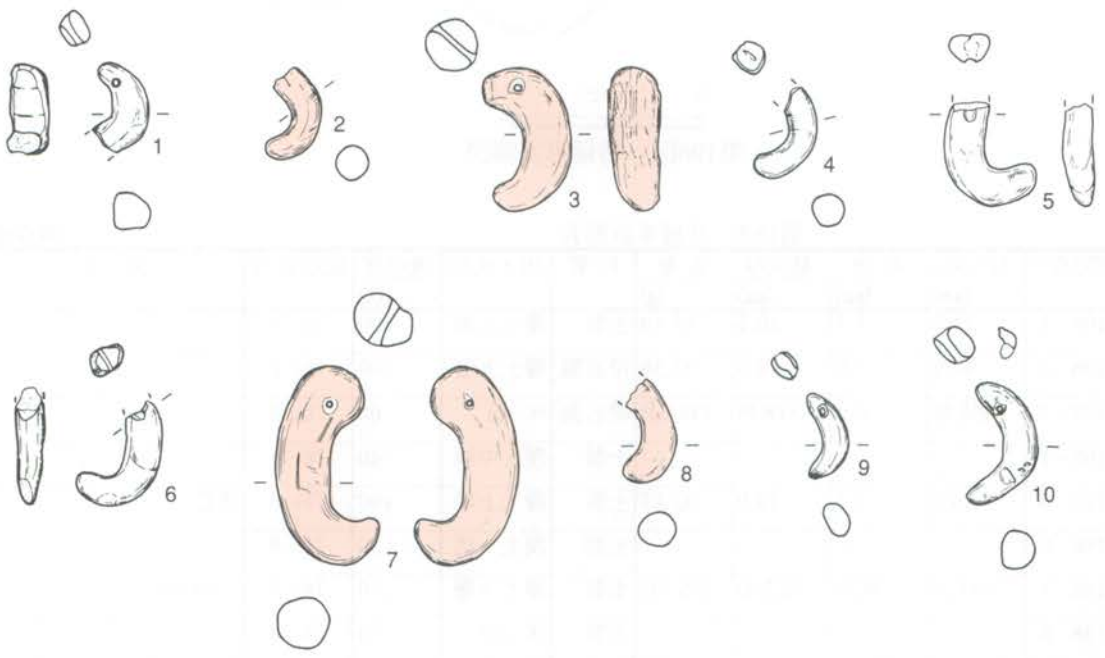
第16表　紡錘車計測表　　( )現存長

遺構番号	挿図番号	最大径 (mm)	孔径 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	材質	出土状況	遺存度 (%)	図版番号	備考
SB024	198-1	41.5	7.7	30.5	57.16	土製	覆土上層	100	76-1	
SB024	198-2	40.9	7.6	14.3	37.38	滑石製	覆土上層	100	76-2	
SB046	198-3	(35.9)	6.5	(18.0)	(30.64)	滑石製	床面	60	76-3	
SB153	198-4	—	—	—	—	土製	覆土中層	40	76-4	
SB169	198-5	36.2	7.4	19.9	32.67	土製	覆土上層	100	76-5	黒色
SB198	198-6	—	—	—	—	土製	覆土一括	30	76-6	
SB217	198-7	(41.2)	(8.3)	(25.4)	(26.31)	土製	覆土下層	50	76-7	スス付着
SB229	198-8	—	—	—	—	土製	床面	20	76-8	
CO-94	198-9	41.7	6.1	21.7	39.09	土製	遺構外	100	76-9	スス付着
C1-55	198-10	45.1	6.4	26.5	60.49	土製	遺構外	100	76-10	スス付着
D3-50	198-11	—	—	—	—	土製	遺構外	30	76-11	
E3-60	198-12	—	—	—	—	滑石製	遺構外	40	76-12	SK657B(流れ込み)
F4-91	198-13	—	—	—	—	土製	遺構外	30	76-13	



0 (1/2) 5cm

第199図　玉類実測図



0 (1/2) 5cm

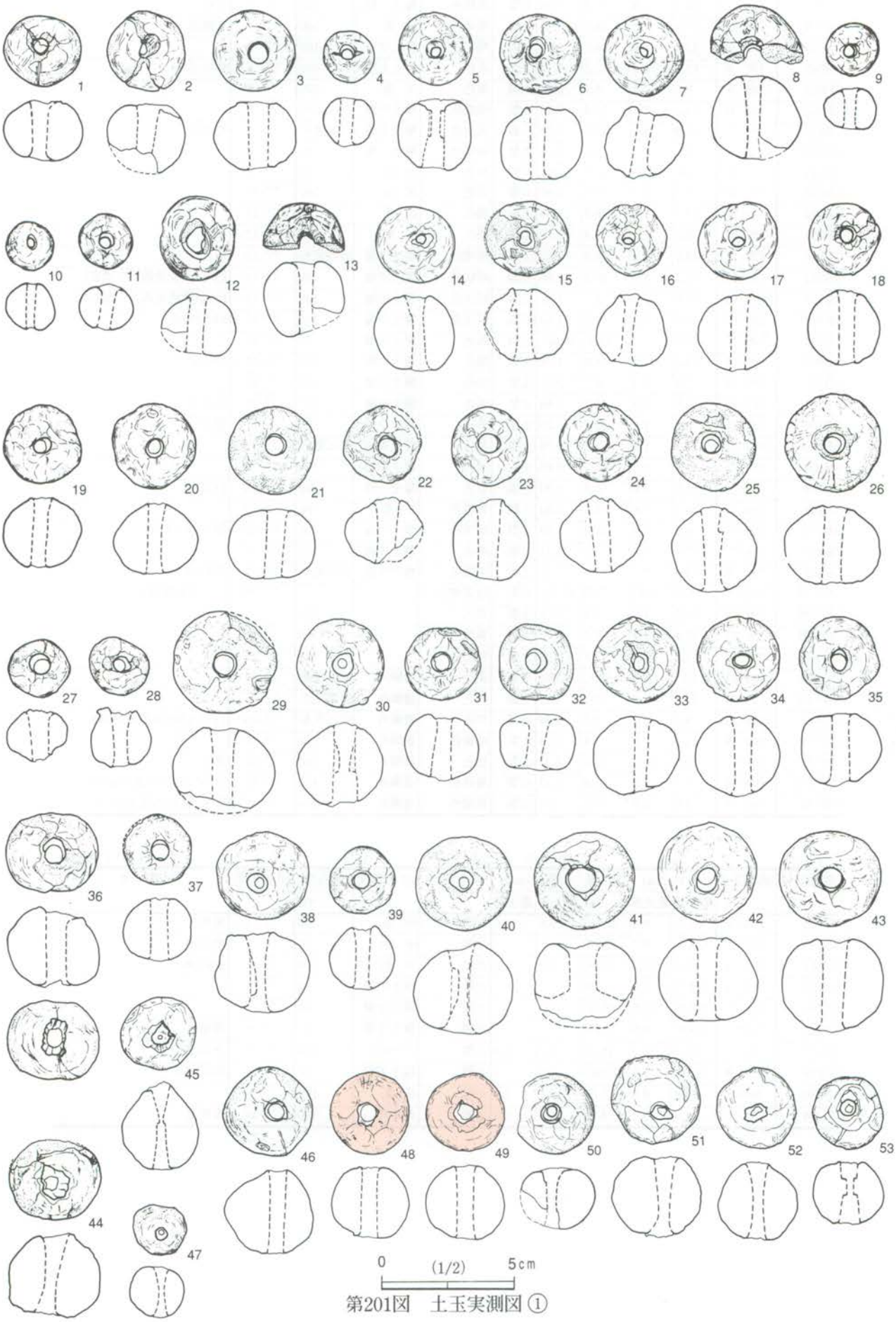
第200図　勾玉実測図

第17表　玉類計測表　　()現存長

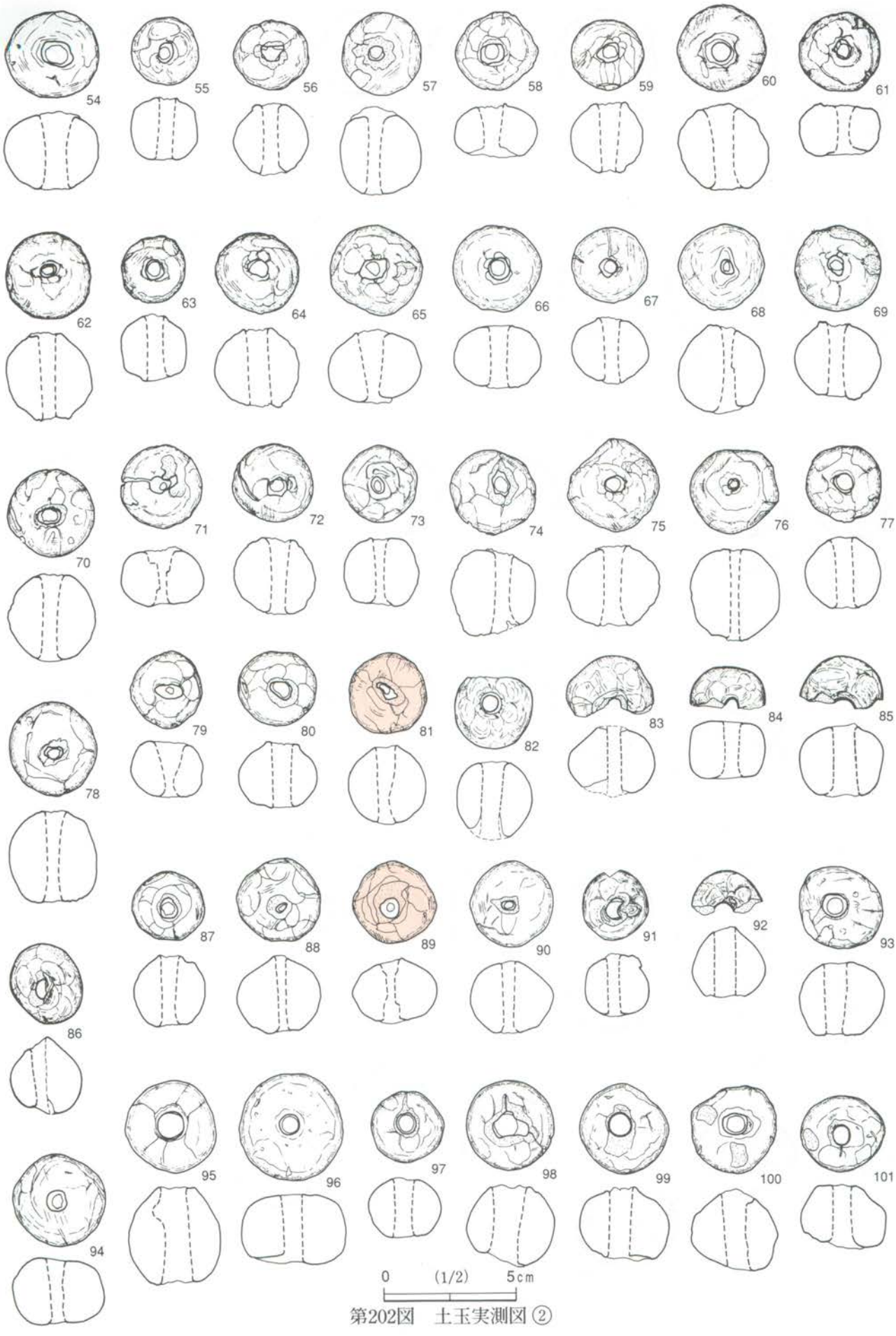
遺構番号	挿図番号	径 (mm)	穿孔 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	材質	色調	出土状況	遺存度 (%)	図版番号	備考
SB008	199-1	14.7	1.4	10.4	2.30	土製	黒褐色	覆土一括	100	77-1	方形
SB008	199-2	17.9	—	10.5	0.65	土製	黒褐色	床面	100	77-2	未製品
SB020	199-3	12.4	1.9	14.0	2.05	土製	明褐色	覆土中層	100	77-3	
SB035	199-4	10.1	1.6	12.2	1.10	土製	黒色	覆土上層	100	77-4	切子玉
SB035	199-5	9.0	0.8	6.7	0.62	土製	黒色	床面	100	77-5	
SB037	199-6	14.2	2.6	12.4	2.12	土製	暗褐色	覆土中層	100	77-6	
SB037	199-7	13.9	4.6	10.1	2.74	石製	灰白色	覆土上層	ほぼ完形	77-7	蛇紋岩
SB038	199-8	13.5	3.0	13.6	2.02	土製	黒褐色	覆土下層	100	77-8	
SB044	199-9	(10.5)	(0.7)	(8.3)	(0.68)	石製	黒色	床面	50	77-9	
SB044	199-10	8.7	1.7	6.0	0.48	石製	黒色	床面	100	77-10	
SB044	199-11	13.7	1.3	8.3	1.44	土製	褐色	床面	100	77-11	
SB105	199-12	9.7	2.9	7.4	0.70	土製	褐色	床面	100	77-12	
SB146	199-13	12.0	2.6	10.9	1.30	土製	暗褐色	覆土中層	ほぼ完形	77-13	接合
SB151	199-14	15.3	3.5	16.3	1.60	石製	暗灰色	覆土中層	100	77-14	臼玉・溝状沈線あり(滑石)
SB161	199-15	18.0	2.5	4.2	1.57	石製	暗灰色	覆土中層	100	77-15	臼玉・溝状沈線あり(滑石)
SB161	199-16	16.9	3.3	4.2	1.54	石製	暗灰色	覆土中層	100	77-16	臼玉(滑石)
SB163	199-17	(9.8)	—	(9.1)	(0.60)	土製	黒色	覆土中層	70	77-17	
SB166	199-18	10.2	1.3	14.8	1.28	土製	黒色	覆土中層	100	77-18	切子玉
SB166	199-19	12.9	1.4	6.7	2.93	土製	褐色	覆土中層	100	77-19	
SB166	199-20	10.6	1.0	16.7	1.64	土製	黒色	覆土中層	100	77-20	切子玉
SB166	199-21	8.9	1.4	12.2	0.85	土製	黒色	覆土中層	100	77-21	管玉
SB166	199-22	10.7	1.5	14.7	1.70	土製	黒色	覆土中層	ほぼ完形	77-22	
SB169	199-23	10.5	1.3	7.7	0.85	土製	黒色	覆土中層	100	77-23	
SB169	199-24	11.0	3.6	6.3	0.92	土製	黒色	覆土一括	100	77-24	臼玉
SB198	199-25	10.1	0.9	9.3	0.84	土製	黒褐色	床面	100	77-25	
SB217	199-26	8.9	1.5	18.9	1.58	土製	暗褐色	覆土下層	100	77-26	管玉・スス付着
SB220	199-27	17.4	0.8	12.1	3.41	土製	褐色	覆土中層	100	77-27	
SB228	199-28	14.6	1.7	11.3	2.47	土製	明褐色	覆土中層	ほぼ完形	77-28	赤彩(外)
SB不明	199-29	(8.5)	(3.0)	(7.5)	(0.31)	石製	暗赤橙色	—	—	77-29	コハク(未製品)
SB不明	199-30	10.0	1.6	8.4	0.71	土製	黒色	—	100	—	
SB不明	199-31	10.4	1.4	7.7	0.72	土製	黒色	—	100	77-31	
SB不明	199-32	11.6	1.7	7.2	0.98	土製	明褐色	—	100	77-32	
D2-00	199-33	(10.1)	(1.5)	(8.5)	(0.80)	土製	黒色	遺構外	ほぼ完形	77-33	
D4-16	199-34	12.2	1.9	9.1	1.40	土製	黒色	遺構外	ほぼ完形	77-34	
E5-09	199-35	9.9	3.9	3.2	0.48	石製	黒色	遺構外	ほぼ完形	77-35	臼玉 SX009(流れ込み)
G4-55	199-36	14.1	2.0	9.1	1.78	土製	暗褐色	遺構外	100	77-36	
H6-00	199-37	20.6	10.3	10.0	2.22	土製	褐色	遺構外	100	77-37	管玉
H6-05	199-38	5.7	2.0	4.8	0.19	石製	薄緑色	遺構外	100	77-38	ヒスイ SD006(流れ込み)
H6-51	199-39	8.0	0.9	17.1	1.1	土製	黒褐色	遺構外	100	77-39	管玉 SD006(流れ込み)

第18表　勾玉計測表　　()現存長

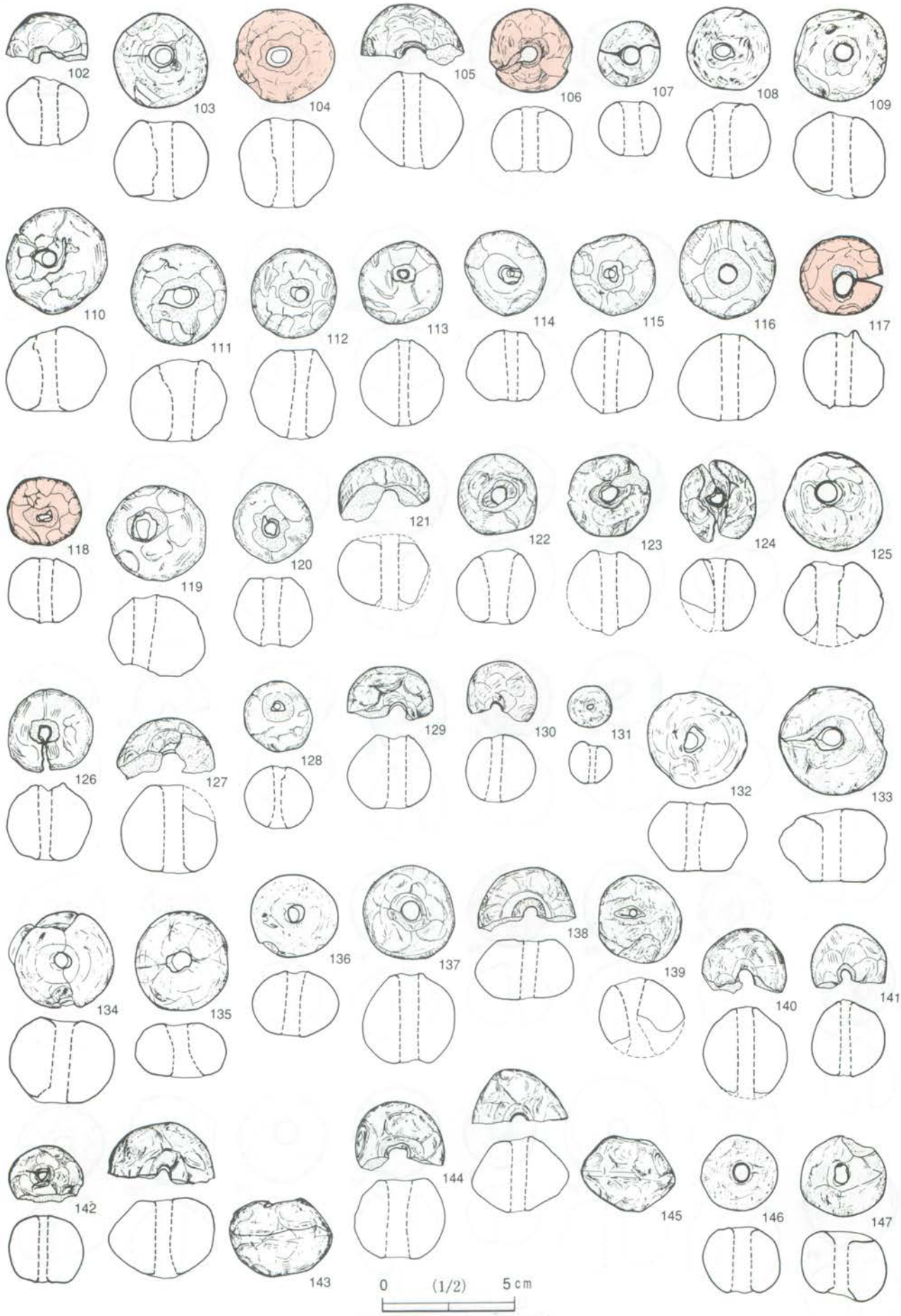
遺構番号	挿図番号	寸法(mm) 最大長	最大厚	重量 (g)	穿孔(mm) 最大径	最小径	材質	出土状況	遺存度 (%)	図版番号	備考
SB008	200-1	(22.7)	9.4	(2.56)	3.6	1.6	土製	床面	60	77-1	黒褐色
SB146	200-2	(23.3)	8.7	(2.29)	—	—	土製	床面	70	77-2	赤彩(外)
SB163	200-3	36.9	13.5	10.07	2.8	1.3	土製	床面	100	77-3	赤彩(外)
SB163	200-4	(24.9)	7.6	(1.78)	—	—	土製	覆土中層	90	77-4	
SB202	200-5	(26.3)	10.6	(3.11)	—	—	土製	覆土中層	80	77-5	
SB221	200-6	(29.9)	9.6	(2.65)	—	—	土製	覆土中層	90	77-6	黒褐色
SB222	200-7	51.3	17.3	15.03	3.7	1.8	土製	カマド内	100	77-7	赤彩(外)
SB229	200-8	(26.6)	8.9	(2.62)	—	—	土製	覆土下層	70	77-8	赤彩(外)
SB230	200-9	21.6	8.9	1.57	2.9	1.9	土製	床面	100	77-9	
C0-94	200-10	31.3	9.5	3.68	4.9	2.0	土製	遺構外	100	77-10	黒褐色



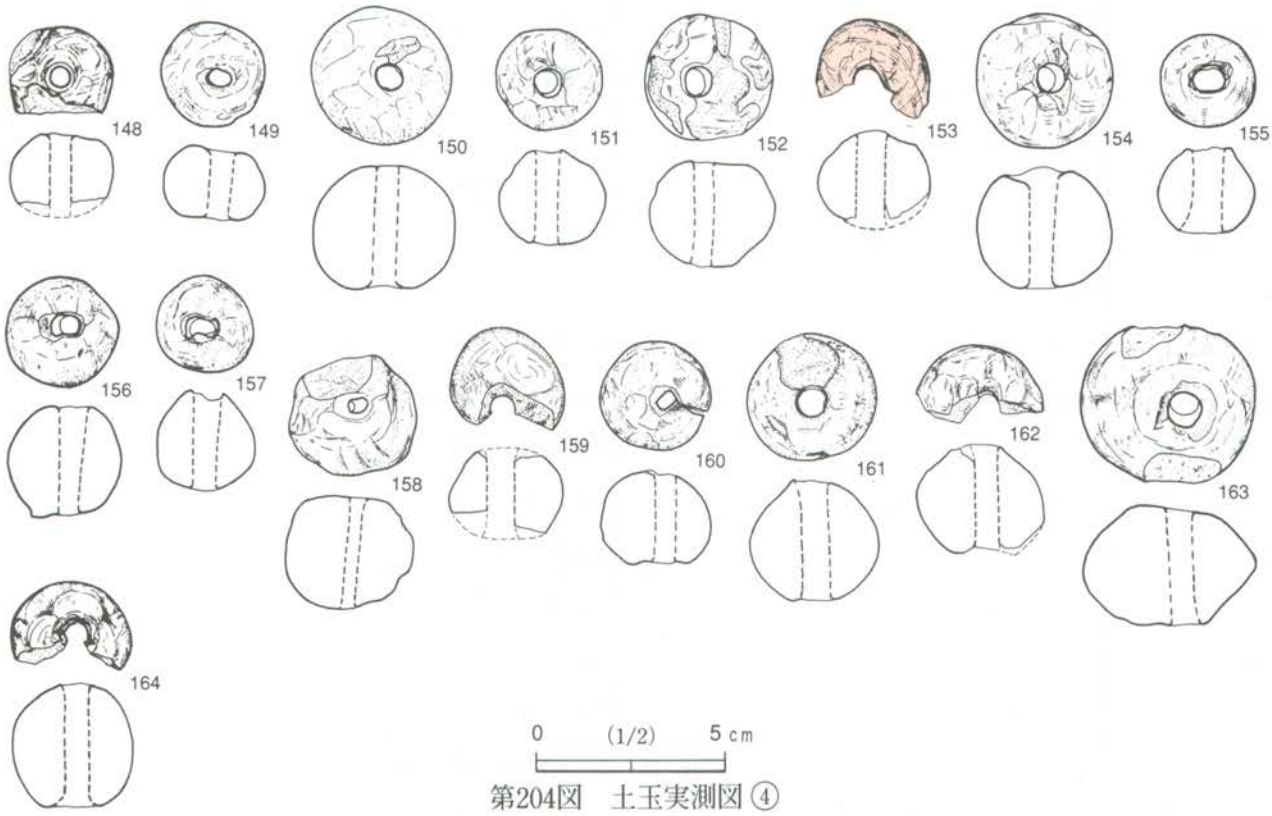
第201図　土玉実測図 ①



第202図　土玉実測図 ②



第203図　土玉実測図③



第204図　土玉実測図 ④

第19表　土玉計測表

（）現存長

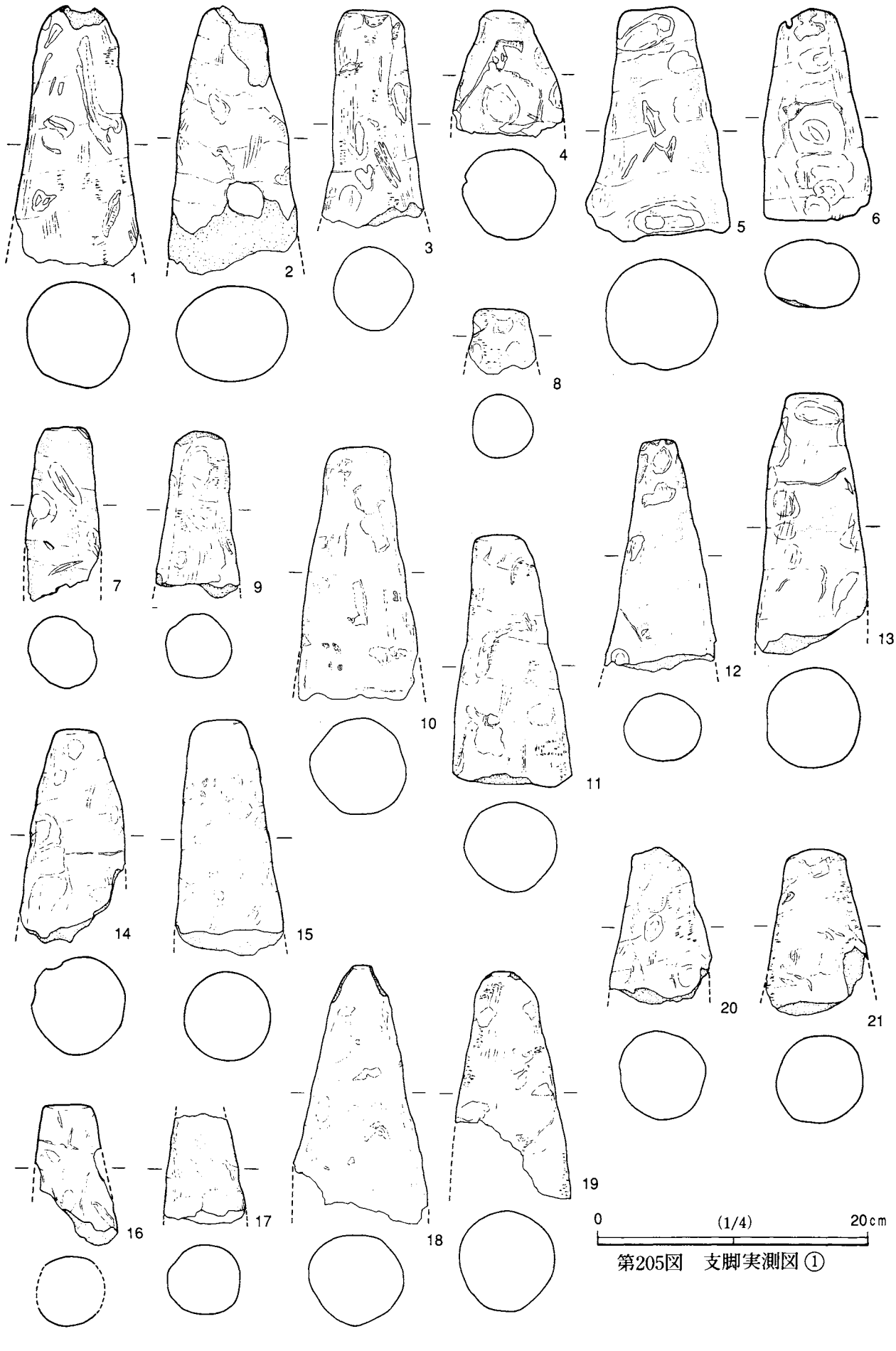
遺構番号	挿図番号	長さ	最大幅	最大幅に直交する幅	最大孔径	最小孔径	重さ	焼成	色調	出土状況	遺存度	図版番号	備考
		(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(g)				(%)		
SB003	201- 1	21.5	29.2	25.8	6.2	5.5	14.60	普通	明褐色	覆土下層	100	78- 1	
SB003	201- 2	24.5	29.6	29.2	8.0	6.4	15.97	普通	暗褐色	覆土上層	90	78- 2	
SB003	201- 3	25.2	31.2	29.4	8.8	6.9	21.28	良	黒褐色	床　面	100	78- 3	
SB003	201- 4	18.1	19.2	18.5	5.7	4.8	4.93	良	明灰褐色	覆土上層	100	78- 4	胎土密
SB006	201- 5	26.0	27.7	26.8	11.2	3.5	18.19	普通	暗褐色	覆土上層	100	78- 5	穿孔不十分・ス ス付着
SB008	201- 6	27.1	30.8	29.1	8.0	4.6	23.74	普通	暗褐色	床　面	100	78- 6	
SB008	201- 7	26.7	30.4	29.7	7.5	5.1	17.78	普通	明褐色	床　面	100	78- 7	砂粒多い
SB008	201- 8	(30.0)	(34.0)	−	−	−	(20.60)	良	暗灰褐色	覆土一括(3区)	50	78- 8	
SB016	201- 9	15.2	19.6	18.7	5.0	4.1	4.82	良	明褐色	床　面	100	78- 9	
SB016	201- 10	16.5	17.9	17.2	7.8×4.1	5.7×3.6	4.36	普通	明灰褐色	覆土中層	100	78- 10	
SB016	201- 11	15.4	20.0	18.7	5.6	4.8	5.07	良	明灰褐色	覆土下層	100	78- 11	
SB016	201- 12	(21.0)	30.0	27.6	(6.2)	(4.0)	(17.70)	普通	暗灰褐色	覆土中層	80	78- 12	接合
SB016	201- 13	(28.0)	(30.0)	−	−	−	(12.30)	普通	暗褐色	覆土中層	50	78- 13	
SB024	201- 14	26.4	30.4	26.5	8.6×4.8	6.8×5.4	21.00	普通	明褐色	覆土上層	100	78- 14	
SB027	201- 15	24.9	30.1	26.5	8.6×5.7	8.5×6.3	18.24	普通	明灰褐色	覆土下層	90	78- 15	
SB027	201- 16	25.9	25.8	25.4	4.5	4.1	15.87	普通	褐色	覆土中層	100	78- 16	ス ス付着
SB027	201- 17	27.6	30.4	26.9	6.9	6.7	19.47	普通	茶褐色	覆土上層	100	78- 17	
SB028	201- 18	25.4	26.7	25.7	6.8	5.9	16.12	普通	明灰褐色	覆土中層	100	78- 18	
SB028	201- 19	28.1	28.8	28.3	7.0	6.0	19.11	良	明黒褐色	覆土中層	100	78- 19	ス ス付着
SB028	201- 20	25.8	31.3	31.0	7.1	6.4	21.52	良	明灰褐色	覆土中層	100	78- 20	やや偏平
SB032	201- 21	25.2	32.7	31.3	7.8	6.5	24.06	良	黒褐色・明褐色	覆土下層	100	78- 21	ス ス付着・砂粒多い
SB035	201- 22	24.8	28.5	27.6	8.8	7.1	14.95	普通	暗褐色	覆土上層	80	78- 22	やや偏平
SB035	201- 23	28.1	28.8	28.6	8.2	6.4	21.07	良	暗褐色	覆土上層	100	78- 23	
SB035	201- 24	26.5	30.2	28.0	7.6	5.9	19.81	良	暗褐色	覆土上層	100	78- 24	
SB037	201- 25	30.6	32.8	31.6	7.9	6.1	27.56	不良	黒褐色	覆土上層	100	78- 25	砂粒多い・ス ス付着
SB037	201- 26	28.7	36.0	35.5	7.4	6.2	32.07	良	黒灰色	覆土上層	100	78- 26	胎土密・ス ス付着・偏平
SB038	201- 27	19.3	22.3	21.2	6.4	5.5	6.31	普通	黒灰色	覆土下層	95	78- 27	ス ス付着
SB038	201- 28	22.3	23.3	20.3	6.9	4.8	8.56	普通	明灰褐色	カマド内	100	78- 28	
SB039	201- 29	30.8	39.2	37.4	10.0	8.2	31.55	普通	明褐色	覆土上層	80	78- 29	砂粒多い・やや偏平
SB039	201- 30	27.4	33.2	32.1	9.8	7.6	27.85	普通	明褐色	覆土中層	100	78- 30	穿孔不十分・ス ス付着
SB041	201- 31	22.4	28.3	26.1	9.7×7.5	7.1	15.91	良	暗褐色	床　面	100	78- 31	ス ス付着
SB043	201- 32	28.6	27.9	27.0	7.3	6.7	16.33	不良	暗褐色	覆土下層	100	78- 32	四角状・偏平・砂粒多い
SB043	201- 33	27.2	32.2	31.6	6.7	4.5	25.10	普通	明褐色	覆土上層	100	78- 33	

遺構番号	挿図番号	長さ	最大幅	最大幅に直交する幅	最大孔径	最小孔径	重さ	焼成	色調	出土状況	遺存度	図版番号	備考
		(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(g)				(%)		
SB043	201-34	29.8	30.9	30.9	7.5	6.8	25.57	普通	暗褐色	覆土上層	100	78-34	砂粒多い
SB043	201-35	25.8	30.5	29.5	8.0	5.6	22.05	良	黒色	覆土下層	100	78-35	
SB043	201-36	30.8	34.1	28.5	11.5	6.9	26.52	普通	暗褐色	覆土下層	100	78-36	穿孔を数回くりかえす
SB043	201-37	22.3	25.6	24.8	7.9	6.7	13.33	不良	黒褐色	覆土上層	95	78-37	砂粒多い
SB043	201-38	29.2	34.6	31.6	8.1	3.8	30.57	普通	黒褐色	覆土下層	100	78-38	穿孔不十分・ススト付着
SB043	201-39	22.1	25.2	24.3	6.7	5.9	12.51	普通	暗灰褐色	床面	100	78-39	ススト付着
SB045	201-40	32.0	37.3	34.1	9.0	3.5	35.26	不良	明褐色	床面	100	78-40	砂粒多い・穿孔不十分
SB045	201-41	22.4	36.7	34.8	12.8	9.9	30.42	普通	明褐色	床面	80	78-41	砂粒多い
SB045	201-42	29.8	37.3	36.5	10.0	8.5	37.29	普通	明褐色	床面	100	78-42	砂粒多い
SB045	201-43	32.4	38.4	34.7	8.9	8.2	42.60	普通	明褐色	床面	100	78-43	
SB046	201-44	29.4	33.7	28.9	14.0	6.9	25.62	不良	暗褐色	覆土上層	95	78-44	剥離激しい
SB046	201-45	30.2	28.7	25.6	7.4	1.0	21.52	普通	褐色	覆土上層	100	78-45	穿孔不十分・調整雑
SB129	201-46	29.6	34.0	32.8	8.0	6.2	26.08	良	褐色	覆土上層	100	78-46	ソロバン玉状・ススト付着
SB146	201-47	17.1	19.7	18.6	1.7	—	5.71	不良	暗褐色	覆土下層	95	78-47	砂粒多い・穿孔不十分・繊維状のものでふさがっている
SB151	201-48	25.4	30.2	30.0	9.1	6.5	20.75	良	明褐色	覆土中層	100	78-48	赤彩(全面・孔内部)
SB153	201-49	25.9	29.7	27.4	8.1	6.1	20.05	良	明褐色	覆土中層	100	78-49	赤彩(全面・孔内部)
SB158	201-50	(22.0)	(29.5)	—	(8.0)	3.1	(17.10)	不良	暗褐色	覆土中層	50	78-50	砂粒多い・穿孔不十分
SB163	201-51	28.6	33.4	32.5	7.0	2.8	27.72	不良	暗褐色	覆土上層	90	78-51	砂粒多い
SB163	201-52	26.3	29.9	28.6	9.0	2.2	21.84	不良	暗褐色	覆土上層	100	78-52	砂粒多い・ススト付着
SB163	201-53	23.0	27.4	26.0	8.3	2.5	14.74	良	明黒褐色	覆土中層	100	78-53	ススト付着
SB163	202-54	28.0	35.6	31.6	13.6	8.9	27.24	普通	明灰褐色	覆土中層	100	78-54	
SB163	202-55	23.4	25.6	24.8	7.9	6.0	14.98	良	明黒褐色	覆土中層	100	78-55	臼玉状・ススト付着
SB163	202-56	25.0	28.0	25.2	7.5	5.2	16.30	良	明褐色	覆土中層	100	78-56	ススト付着
SB163	202-57	31.5	34.0	30.0	7.5	4.8	27.29	普通	暗灰褐色	覆土中層	100	78-57	ススト付着
SB163	202-58	18.5	31.4	27.6	9.0	6.3	13.95	不良	褐色	覆土上層	100	78-58	偏平・砂粒多い
SB163	202-59	25.4	27.0	26.5	7.1	5.7	16.25	普通	黒褐色	覆土上層	100	78-59	ススト付着
SB163	202-60	31.0	32.7	32.3	11.4	8.0	26.30	不良	明灰褐色	覆土上層	100	78-60	砂粒多い
SB163	202-61	19.0	30.2	29.6	8.3	7.9	17.16	不良	褐色	覆土中層	100	78-61	臼玉状・砂粒多い
SB163	202-62	32.1	32.6	31.1	6.9	3.2	29.30	不良	褐色	覆土中層	100	78-62	砂粒多い
SB163	202-63	23.1	24.8	23.9	7.9	5.8	13.06	良	褐色	覆土下層	100	78-63	ススト付着・やや偏平
SB163	202-64	29.0	31.0	28.6	9.3	5.7	22.97	普通	黒褐色	覆土下層	100	78-64	ススト付着
SB163	202-65	27.2	34.3	33.3	10.4	7.0	26.39	普通	暗褐色	覆土下層	100	78-65	やや偏平
SB163	202-66	22.2	32.9	30.9	8.1	7.8	19.36	普通	明褐色	覆土中層	100	78-66	臼玉状
SB163	202-67	23.7	28.5	26.8	7.2	5.4	16.22	普通	暗褐色	覆土下層	100	78-67	

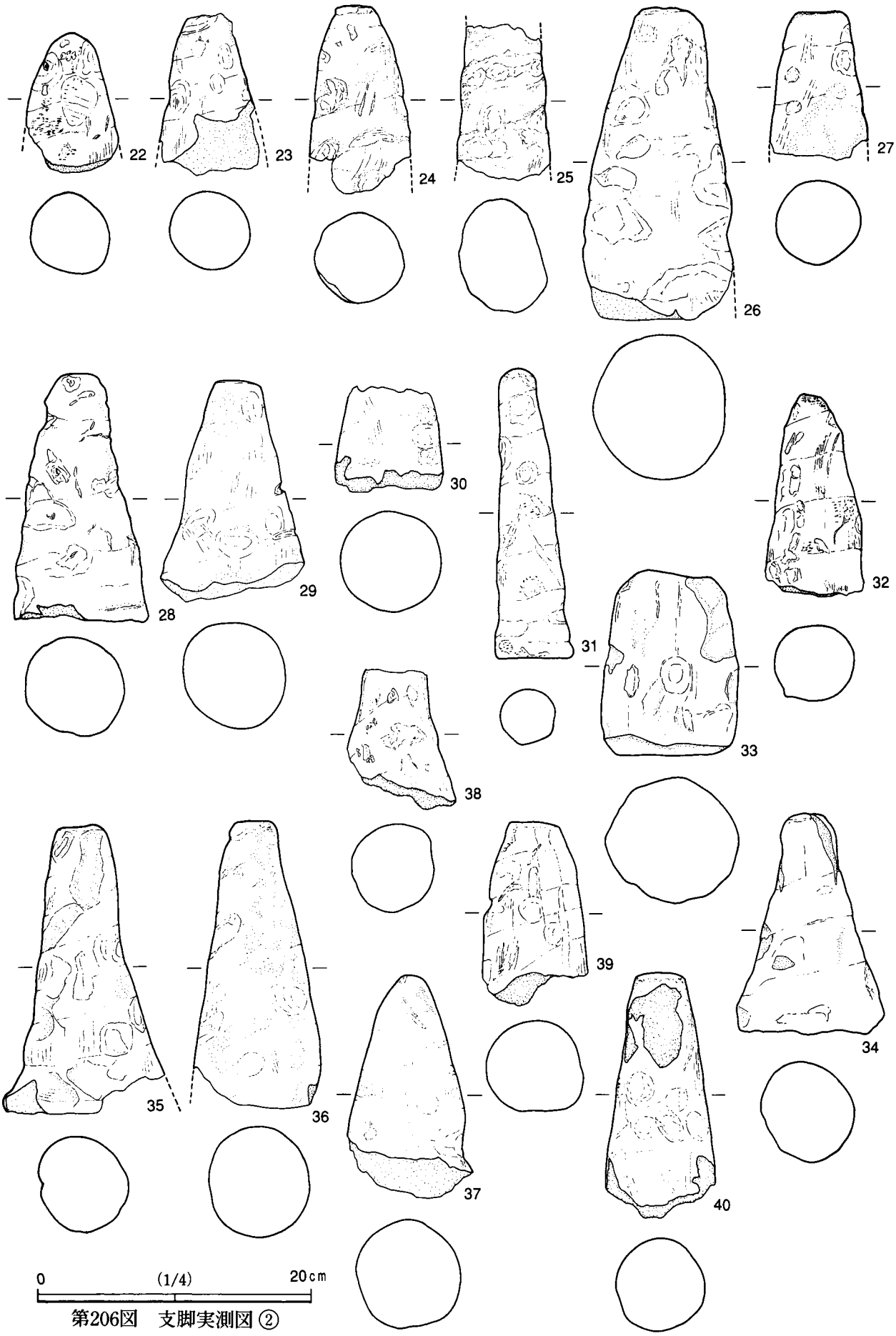
遺構番号	挿図番号	長さ	最大幅	最大幅に直交する幅	最大孔径	最小孔径	重さ	焼成	色調	出土状況	遺存度	図版番号	備考
		(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(g)				(%)		
SB163	202-68	31.9	32.3	30.3	6.5	4.5	(26.48)	不良	暗赤褐色	覆土下層	95	78-68	剥離が激しい
SB163	202-69	27.3	32.1	29.5	6.1	5.9	24.62	普通	暗褐色	床面	100	78-69	やや偏平・砂粒多い
SB163	202-70	31.4	32.6	31.9	8.8	6.5	30.38	普通	暗赤褐色	床面	100	78-70	
SB163	202-71	19.8	30.3	29.5	10.1	3.0	17.81	普通	暗褐色	覆土下層	100	78-71	臼玉状・穿孔不十分
SB163	202-72	27.0	30.5	28.3	6.9	5.8	21.85	不良	暗褐色	床面	100	78-72	砂粒多い
SB163	202-73	24.8	28.1	27.2	5.1	3.7	18.73	不良	褐色	床面	100	78-73	やや偏平・砂粒多い・ススト付着
SB163	202-74	31.8	32.4	29.7	10.0	6.0	(25.86)	普通	褐色	覆土下層	95	78-74	調整雑
SB163	202-75	29.4	33.7	33.2	12.5	7.1	27.02	普通	明褐色	覆土下層	100	78-75	調整雑
SB163	202-76	31.7	33.2	30.4	4.8	3.0	30.99	不良	暗褐色	床面	100	78-76	調整雑・砂粒多い
SB163	202-77	24.6	28.6	27.3	8.1	7.0	16.73	不良	黒褐色	覆土下層	100	78-77	ススト付着
SB163	202-78	32.1	34.1	32.0	7.9	4.3	35.92	良	褐色	覆土下層	100	78-78	
SB163	202-79	19.4	26.7	26.3	10.8	3.0	(13.83)	不良	明褐色	床面	95	78-79	臼玉状・剥離が激しい
SB163	202-80	23.5	28.6	26.0	8.0	1.8	16.23	普通	灰褐色	覆土下層	100	78-80	やや偏平
SB163	202-81	28.4	29.2	28.8	7.5	4.1	21.95	普通	明赤褐色	床面	100	78-81	赤彩(全面・孔内部)
SB163	202-82	(27.0)	30.0	−	(8.0)	6.3	(19.2)	普通	暗灰色	覆土中層	65	78-82	ススト付着
SB163	202-83	(26.2)	30.1	−	−	−	(16.20)	普通	褐色	覆土中層	50	78-83	
SB163	202-84	(21.1)	(28.9)	−	−	−	(10.40)	普通	褐色	床面	50	78-84	臼玉状・砂粒多い
SB163	202-85	(26.8)	−	−	−	−	(14.70)	良	暗褐色	覆土下層	50	78-85	
SB163 SB165	202-86	28.0	31.2	26.0	7.0	4.0	(18.10)	良	暗褐色	覆土上層 覆土下層	95	78-86	住居間接合
SB164	202-87	26.0	26.8	25.0	6.8	4.9	15.97	良	暗灰褐色	覆土下層	100	78-87	ススト付着
SB165	202-88	28.1	30.7	30.1	4.2	2.7	24.79	普通	暗褐色	覆土上層	100	78-88	ススト付着
SB165	202-89	23.2	31.5	29.6	7.6	2.6	19.46	普通	暗赤褐色	覆土上層	100	78-89	赤彩(外)・穿孔不十分・臼玉状
SB165	202-90	25.8	31.5	31.3	5.2	3.3	23.78	良	明黒褐色	覆土上層	100	78-90	ススト付着
SB165	202-91	23.8	26.0	24.0	8.1	4.1	(14.10)	良	暗褐色	覆土下層	95	78-91	接合
SB165	202-92	(26.6)	−	−	−	−	(8.00)	普通	黒褐色	床面	50	78-92	ススト付着・注記なし
SB168	202-93	26.6	31.5	29.6	8.8	5.5	23.61	普通	褐色	−	100	78-93	ススト付着
SB169	202-94	23.4	34.9	33.6	7.7	5.3	26.54	普通	暗褐色	覆土上層	100	79-94	臼玉状・ススト付着
SB169	202-95	35.5	33.8	33.2	9.3	8.5	29.10	良	明灰褐色	覆土上層	100	79-95	
SB169	202-96	23.5	38.8	38.6	7.1	5.8	38.22	不良	明褐色	床面	100	79-96	臼玉状・砂粒多し・ススト付着
SB170	202-97	21.8	26.8	35.8	7.4	6.0	12.58	普通	暗灰褐色	覆土一括(3区)	100	79-97	やや偏平
SB188	202-98	29.5	32.9	32.5	13.3	8.6	25.33	普通	暗褐色	覆土上層	100	79-98	砂粒多い
SB188	202-99	26.7	33.0	33.0	7.9	7.5	(23.82)	良	明黒褐色	覆土上層	90	79-99	臼玉状
SB188	202-100	29.6	31.7	31.3	9.5	6.7	25.10	不良	明灰褐色	覆土中層	100	79-100	調整雑・やや偏平
SB188	202-101	23.0	31.8	28.0	7.0	6.5	16.25	普通	黒色	覆土下層	100	79-101	臼玉状

遺構番号	挿図番号	長さ	最大幅	最大幅に直交する幅	最大孔径	最小孔径	重さ	焼成	色調	出土状況	遺存度	図版番号	備考
		(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(g)				(%)		
SB188	203-102	(25.0)	(30.0)	−	−	−	(12.7)	良	暗灰褐色	覆土上層	50	79-102	スス付着
SB189	203-103	30.9	34.8	34.3	9.2	5.4	(34.59)	良	褐色	覆土上層	95	79-103	穿孔不十分
SB189	203-104	33.4	35.9	34.6	9.1	5.7	(37.82)	良	明褐色	覆土上層	90	79-104	赤彩(外)
SB189	203-105	(35.2)	(39.5)	−	−	−	(23.50)	普通	暗褐色	覆土上層	50	79-105	
SB189	203-106	(25.6)	(31.6)	30.9	(6.0)	5.5	(24.20)	良	赤褐色	覆土中層	80	79-106	赤彩(全面・孔内部)・接合
SB217	203-107	20.2	24.1	23.0	7.1	5.7	9.46	普通	褐色	覆土中層	100	79-107	
SB217	203-108	28.4	30.9	30.8	8.0	5.8	25.31	不良	明褐色	覆土中層	100	79-108	砂粒多い
SB217	203-109	32.1	34.3	33.3	7.2	6.3	(33.26)	普通	暗褐色	覆土下層	95	79-109	スス付着
SB217	203-110	30.9	38.6	37.3	8.4	5.1	38.52	普通	暗褐色	覆土下層	100	79-110	やや偏平・スス付着
SB217	203-111	30.2	36.5	35.0	14.6	6.9	32.67	普通	暗褐色	床　面	100	79-111	やや偏平
SB217	203-112	33.7	31.7	31.5	6.5	4.5	30.43	普通	黒褐色	覆土下層	100	79-112	
SB217	203-113	31.6	31.2	29.8	4.7	3.0	27.45	不良	暗褐色	覆土中層	100	79-113	砂粒多い
SB217	203-114	24.9	30.1	30.2	4.8	2.0	21.30	不良	暗褐色	覆土下層	100	79-114	穿孔不十分・やや偏平・砂粒多い
SB217	203-115	28.8	32.1	30.1	5.8	3.0	25.46	普通	明褐色	床　面	100	79-115	
SB217	203-116	30.5	35.4	35.2	7.3	5.2	(36.12)	普通	暗褐色	床　面	90	79-116	スス付着
SB217	203-117	29.1	30.1	28.6	9.0	5.8	22.00	普通	明褐色	床　面	100	79-117	赤彩(外)
SB217	203-118	24.6	27.4	25.1	5.5	7.0	16.04	普通	明褐色	床　面	100	79-118	赤彩(外)
SB217	203-119	30.8	36.9	34.7	10.2	3.9	(34.83)	不良	褐色	床　面	95	79-119	砂粒多い
SB217	203-120	25.1	29.6	28.9	7.2	3.3	20.46	不良	褐色	覆土中層	100	79-120	やや偏平・砂粒多い
SB217	203-121	(24.8)	(35.4)	−	−	−	(15.20)	普通	褐色	覆土下層	50	79-121	
SB217	203-122	(27.8)	30.0	(28.8)	(14.7)	(5.1)	(20.40)	普通	褐色	覆土下層	70	79-122	接合
SB217	203-123	(29.0)	(30.1)	(29.8)	(7.5)	(6.5)	(19.50)	良	暗褐色	覆土上層	65	79-123	接合
SB217	203-124	(28.0)	(29.4)	(28.3)	(8.8)	(5.3)	(17.40)	普通	褐色	覆土下層	65	79-124	接合・砂粒多い
SB217	203-125	(27.3)	38.0	34.4	(10.9)	7.1	(30.90)	普通	褐色	覆土下層	80	79-125	接合・やや偏平
SB219	203-126	28.4	31.2	29.1	5.1	3.8	24.14	良	明灰褐色	覆土中層	100	79-126	
SB219	203-127	(31.8)	(36.1)	−	−	−	(19.40)	普通	暗褐色	覆土一括	50	79-127	
SB222	203-128	22.9	24.8	24.5	5.1	2.3	13.58	普通	褐色	カマド内一括	100	79-128	砂粒多い
SB222	203-129	(29.2)	(32.0)	−	−	−	(15.70)	不良	暗褐色	カマド内一括	50	79-129	
SB222	203-130	(24.5)	26.2	−	−	−	(13.40)	普通	暗褐色	床　面	65	79-130	
SB224	203-131	14.5	15.3	15.0	5.0	2.4	3.02	不良	明灰褐色	覆土一括	100	79-131	砂粒多い・極小
SB228	203-132	25.5	37.5	35.0	7.4	4.5	30.83	良	灰褐色	覆土上層	100	79-132	ソロバン玉状
SB228	203-133	27.0	(41.0)	39.5	10.0	6.7	(35.80)	普通	明褐色	覆土中層	90	79-133	ソロバン玉状
SB228	203-134	31.0	(38.3)	(34.5)	7.3	6.6	(33.31)	普通	暗褐色	覆土中層	80	79-134	
SB228	203-135	20.0	34.5	36.6	11.3	5.8	26.82	良	暗褐色	覆土中層	100	79-135	臼玉状・スス付着

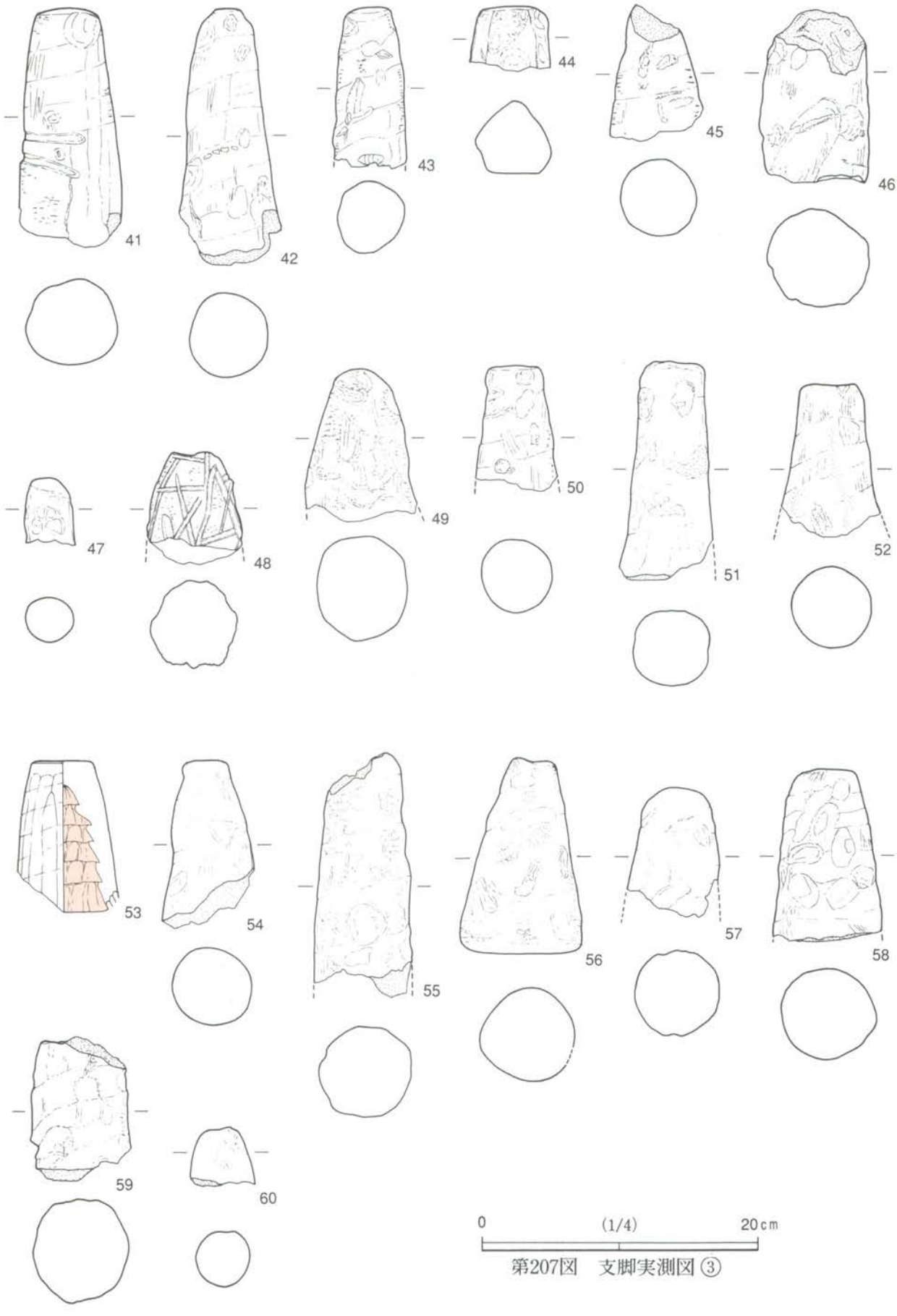
遺構番号	挿図番号	長さ	最大幅	最大幅に直交する幅	最大孔径	最小孔径	重さ	焼成	色調	出土状況	遺存度	図版番号	備考
		(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(g)				(%)		
SB228	203-136	24.0	32.5	30.0	7.5	5.4	22.41	普通	明褐色	覆土中層	100	79-136	やや偏平・砂粒多い
SB228	203-137	33.1	35.0	34.5	8.0	7.3	(36.40)	良	明黒褐色	覆土下層	95	79-137	接合
SB228	203-138	22.1	(36.8)	−	−	−	(16.00)	普通	明灰褐色	覆土中層	50	79-138	臼玉状・穿孔工具による刺突痕あり
SB228	203-139	−	(33.3)	(31.2)	(12.0)	(3.0)	(20.90)	普通	暗灰色	覆土中層	65	79-139	砂粒多い
SB228	203-140	(32.9)	−	(32.5)	−	−	(20.30)	良	暗褐色	床 面	50	79-140	スス付着
SB230	203-141	(27.7)	−	(27.9)	−	−	(16.90)	普通	黒褐色	覆土上層	65	79-141	スス付着
SB230	203-142	(24.0)	(28.1)	−	(4.0)	(3.3)	(15.60)	普通	暗褐色	覆土上層	65	79-142	
SB234	203-143	(28.3)	(39.4)	−	−	−	(19.50)	良	黒灰色	覆土中層	50	79-143	ソロバン玉状・スス付着
SB234	203-144	(30.0)	−	(34.5)	−	−	(22.60)	良	暗褐色	覆土上層	65	79-144	
SB234	203-145	(26.5)	(36.3)	−	−	−	(15.30)	良	暗褐色	覆土下層	50	79-145	ソロバン玉状
C1-11	203-146	23.2	28.7	28.0	9.0	6.7	17.53	不良	褐色	遺構外	100	79-146	臼玉状・大粒砂粒多い (SK056流れ込み)
C1-72	203-147	24.1	31.8	29.4	5.5	5.1	(19.77)	普通	明褐色	遺構外	70	79-147	
C2-36	204-148	(28.0)	−	(17.0)	(6.0)	−	(12.0)	不良	暗灰褐色	遺構外	65	79-148	スス付着
C2-70	204-149	18.4	27.0	27.0	10.0	6.4	12.71	普通	暗褐色	遺構外	100	79-149	臼玉状(SK008流れ込み)
C3-02	204-150	31.5	36.9	36.0	6.3	4.8	39.27	普通	暗褐色	遺構外	100	79-150	南斜面貝層(チ-05)
D2-00	204-151	24.6	28.0	26.2	7.4	6.9	15.98	普通	明褐色	遺構外	100	79-151	スス付着
D2-68	204-152	26.6	33.3	32.0	7.2	6.5	(26.15)	不良	褐色	遺構外	90	79-152	
D3-17	204-153	(24.3)	(32.2)	−	−	−	(14.40)	良	明褐色	遺構外	65	79-153	赤彩(全面・孔内部)・やや偏平(SD002流れ込み)
E3-95	204-154	31.0	35.0	34.7	9.7	6.4	38.42	良	黒色	遺構外	100	79-154	(SK193流れ込み)
E4-20	204-155	21.8	25.2	23.8	11.7	9.2	11.40	普通	褐色	遺構外	100	79-155	
F3-99	204-156	27.3	29.5	28.3	8.2	5.2	21.06	普通	明褐色	遺構外	100	79-156	(SD030流れ込み)
F4-78	204-157	25.1	25.9	25.4	9.1	7.8	14.61	普通	暗灰褐色	遺構外	100	79-157	スス付着
G4-00	204-158	29.2	33.8	30.3	5.3	4.5	(27.27)	普通	明褐色	遺構外	75	79-158	
G4-01	204-159	(30.0)	−	(19.0)	(6.0)	−	(16.60)	不良	灰褐色	遺構外	50	79-159	
G4-50	204-160	24.2	29.0	28.2	5.0	2.5	18.21	良	暗褐色	遺構外	100	79-160	スス付着
H5-10	204-161	31.6	34.0	31.9	6.7	6.5	(29.45)	普通	明灰褐色	遺構外	90	79-161	
H5-39	204-162	(33.0)	−	(26.0)	(6.0)	−	(15.00)	良	明灰褐色	遺構外	50	79-162	
H5-59	204-163	30.5	44.9	41.0	7.8	7.5	(49.85)	良	明灰褐色	遺構外	80	79-163	ソロバン玉状(SD007流れ込み)
不明	204-164	(32.0)	−	(33.0)	(7.0)	−	(20.80)	良	暗褐色	−	65	79-164	



第205図　支脚実測図①



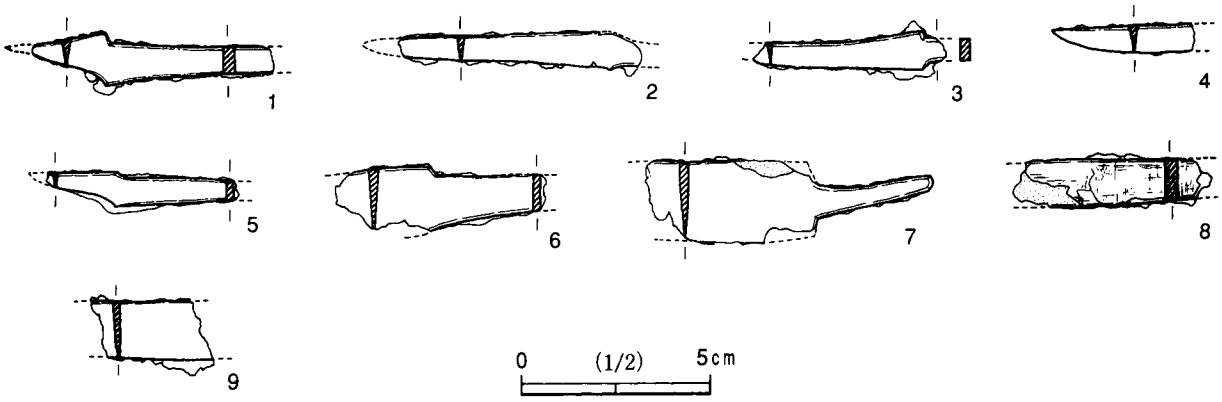
第206図　支脚実測図②



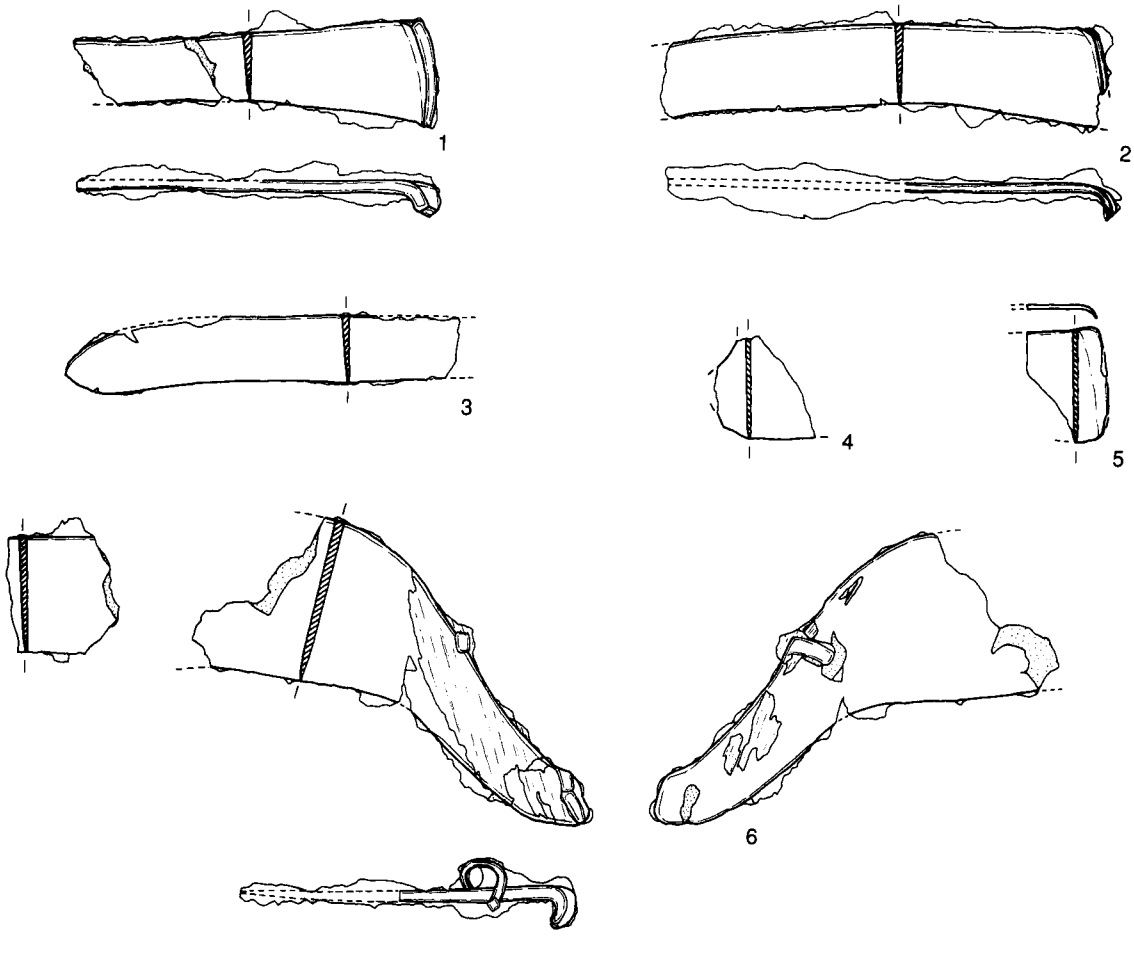
第207図　支脚実測図 ③

第20表　支脚計測表

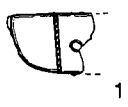
遺構番号	挿図番号	高 (mm)	径 (mm)	出土状況	遺存度 (%)	図版番号	備　考
SB003	205- 1	190	75	カマド右袖脇	80	80- 1	
SB008	205- 2	200	81	カマド内	70	80- 2	
SB016	205- 3	160	58	カマド右袖脇	80	80- 3	
SB023A	205- 4	92	70	カマド右袖脇	40	80- 4	
SB023B	205- 5	176	80	カマド内	80	80- 5	
SB023C	205- 6	156	68	カマド右袖脇	90	80- 6	
SB024	205- 7	127	50	カマド内	50	80- 7	
SB025	205- 8	48	44	覆土上層	10	80- 8	
SB025	205- 9	120	48	覆土下層	50	80- 9	
SB027	205-10	185	70	カマド内	80	80-10	
SB027	205-11	213	66	カマド内	90	80-11	
SB028	205-12	170	55	カマド内	80	80-12	
SB029	205-13	188	73	カマド左袖脇	80	80-13	
SB031	205-14	155	71	カマド左袖脇	65	80-14	
SB032	205-15	170	64	カマド右袖脇	80	80-15	
SB032	205-16	100	53	覆土下層	30	80-16	
SB038	205-17	80	52	床　面	30	80-17	
SB038	205-18	186	70	カマド内	70	80-18	
SB038	205-19	165	73	カマド内	65	80-19	
SB044	205-20	113	62	カマド左袖脇	50	80-20	
SB045	205-21	120	63	床　面	60	80-21	
SB045	206-22	97	60	床　面	40	80-22	
SB046	206-23	118	58	カマド内	40	80-23	
SB050	206-24	140	65	カマド左袖脇	50	80-24	
SB105	206-25	114	81	カマド左袖脇	40	80-25	
SB108	206-26	227	115	カマド内	95	80-26	
SB110	206-27	109	61	床　面	40	80-27	
SB129	206-28	179	73	カマド右袖脇	95	80-28	
SB129	206-29	156	80	カマド右袖脇	80	80-29	
SB146	206-30	70	75	覆土下層	30	80-30	指痕あり
SB148	206-31	208	40	カマド前面	100	80-31	
SB148	206-32	143	58	カマド内	60	80-32	
SB149	206-33	133	98	カマド内	90	80-33	
SB153	206-34	160	68	カマド内	95	80-34	
SB158	206-35	208	70	床　面	95	80-35	
SB160	206-36	205	73	カマド左袖脇	90	80-36	
SB166	206-37	159	77	床　面	80	80-37	
SB168	206-38	100	65	覆土中層	30	80-38	
SB168	206-39	132	73	床　面	70	80-39	
SB168	206-40	176	67	カマド内	80	80-40	
SB168	207-41	170	65	カマド内	80	80-41	
SB169	207-42	183	60	床　面	80	80-42	
SB202	207-43	118	51	覆土上層	50	80-43	
SB214	207-44	47	53	覆土上層	20	80-44	
SB217	207-45	100	53	床　面	35	80-45	
SB221	207-46	125	72	カマド右袖脇	40	80-46	
SB221	207-47	45	34	カマド右袖脇	20	80-47	
SB222	207-48	80	63	床　面	30	80-48	半裁竹管による沈線あり
SB223	207-49	108	66	カマド右袖脇	40	81-49	
SB224	207-50	88	52	床　面	40	81-50	
SB224	207-51	157	54	カマド左袖脇	70	81-51	
SB227	207-52	210	58	カマド内	40	81-52	
SB228	207-53	105	42	床　面	60	81-53	高杯脚代用、内面赤彩
SB228	207-54	116	57	床　面	70	81-54	
SB230	207-55	175	69	床　面	60	81-55	剥離激しい
SB232	207-56	140	69	床　面	100	81-56	
SB237	207-57	94	60	カマド左袖脇	30	81-57	
SB237	207-58	124	68	カマド右袖脇	70	81-58	
G4- 40	207-59	103	69	遺構外	40	81-59	
I5- 20	207-60	40	40	遺構外	20	81-60	SD007(流れ込み)



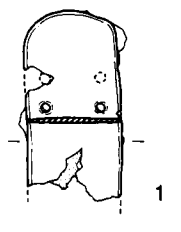
第208図　刀子実測図



第209図　鎌実測図



第210図　手鎌実測図



第211図　小札実測図

第21表　刀子計測表

遺構番号	挿図番号	計測部位	身　部(mm)			茎　部(mm)			重量	出土状況	図版番号	備　考
		全長(mm)	長	幅	厚	長	幅	厚	(g)			
SB035	208-1	63.6	20.1	17.1	4.2	43.5	8.5	3.5	9.55	床　面	81-1	
SB151	208-2	63.6	63.6	9.0	2.7	—	—	—	4.64	覆土中層	81-2	
SB161	208-3	50.5	45.2	7.5	3.7	5.3	6.5	4.3	3.98	覆土中層	81-3	
SB163	208-4	37.5	37.5	6.9	3.1	—	—	—	1.70	覆土中層	81-4	
SB165	208-5	50.1	20.4	11.7	6.0	29.7	10.5	3.5	4.08	覆土中層	81-5	
不　明	208-6	54.2	24.8	15.6	4.5	29.4	12.6	2.9	6.00	不　明	81-6	SD020(流れ込み)
C3-45	208-7	75.7	45.0	22.2	3.7	30.7	6.7	3.0	11.40	遺構外	81-7	
C3-67	208-8	53.1	—	—	—	53.1	13.8	6.8	7.78	遺構外	81-8	刀子の柄
SB217	208-9	31.3	—	15	2.5	—	—	—	3.74	覆土下層	81-9	

第22表　鎌計測表

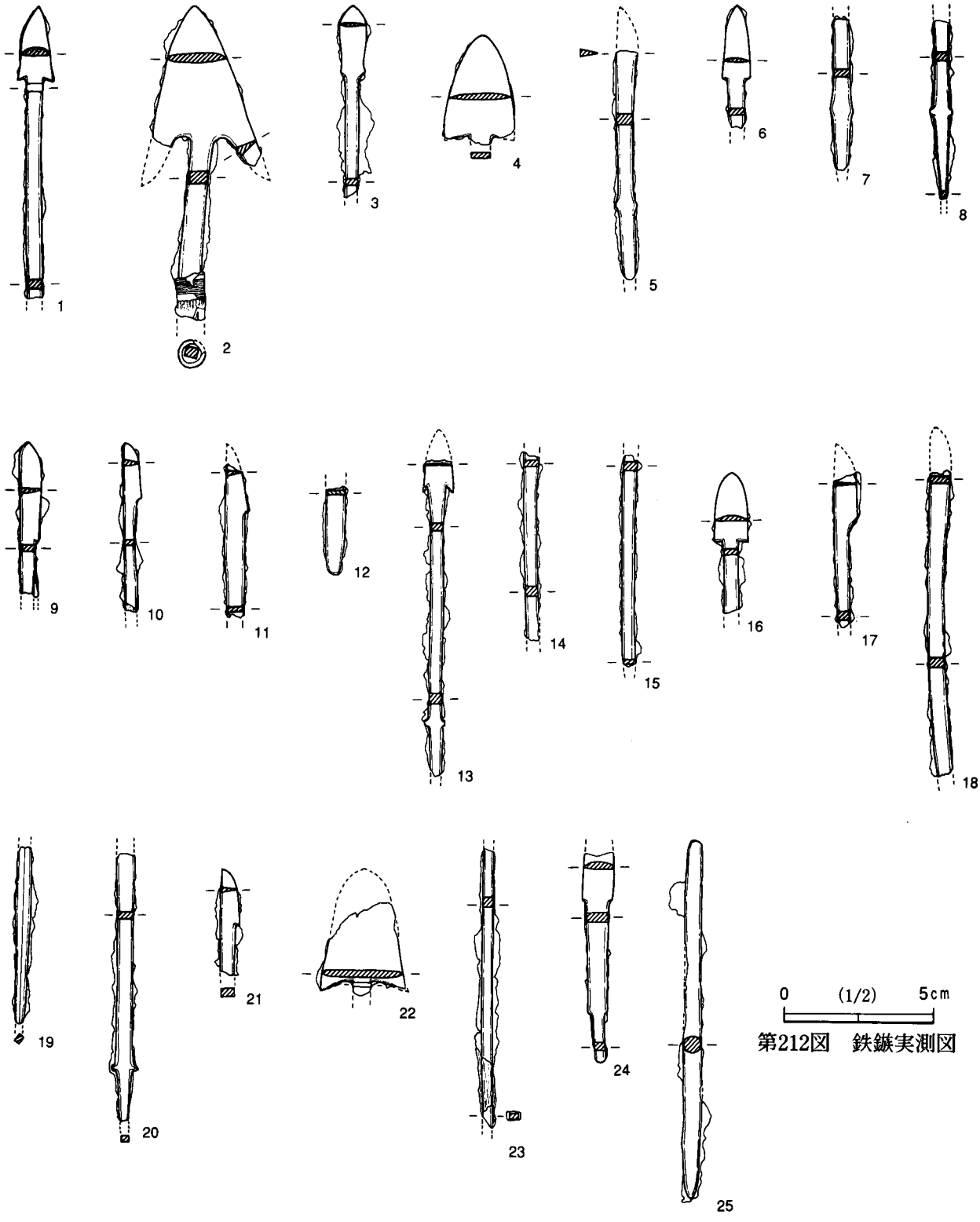
遺構番号	挿図番号	全長	幅	厚さ	重量	出土状況	図版番号	備　考
		(mm)	(mm)	(mm)	(g)			
SB040	209-1	94.5	28.0	4.4	25.60	覆土下層	81-1	
SB105	209-2	117.8	24.2	5.1	28.55	床　面	81-2	
SB170	209-3	104.2	17.9	2.9	18.93	覆土中層	81-3	
E3-97	209-4	—	29.1	1.1	2.48	遺構外	81-4	5と同一個体
E3-97	209-5	—	29.1	1.1	2.51	遺構外	81-5	4と同一個体
SB-233	209-6	—	43.6	3.2	33.25,6.7	不　明	82-6	木質部付着(同一個体あり)

第23表　手鎌計測表

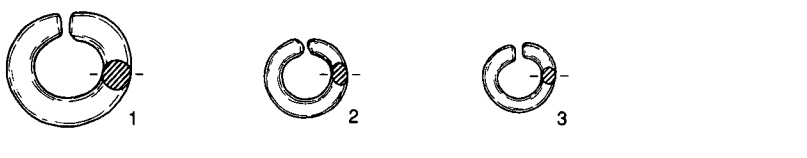
遺構番号	挿図番号	重　量	厚さ	出土状況	図版番号	備　考
		(g)	(mm)			
SB039	211-1	8.35	2.6	覆土一括	82-1	穿孔4

第24表　小札計測表

遺構番号	挿図番号	全長	幅	厚さ	孔数	孔径	重量	出土状況	図版番号	備　考
		(mm)	(mm)	(mm)	()推定	(mm)	(g)			
SB229	210-1	23.2	15.5	1.2	1	2.7	1.11	P4覆土内	82-1	穿孔1



第212図　鉄鏃実測図



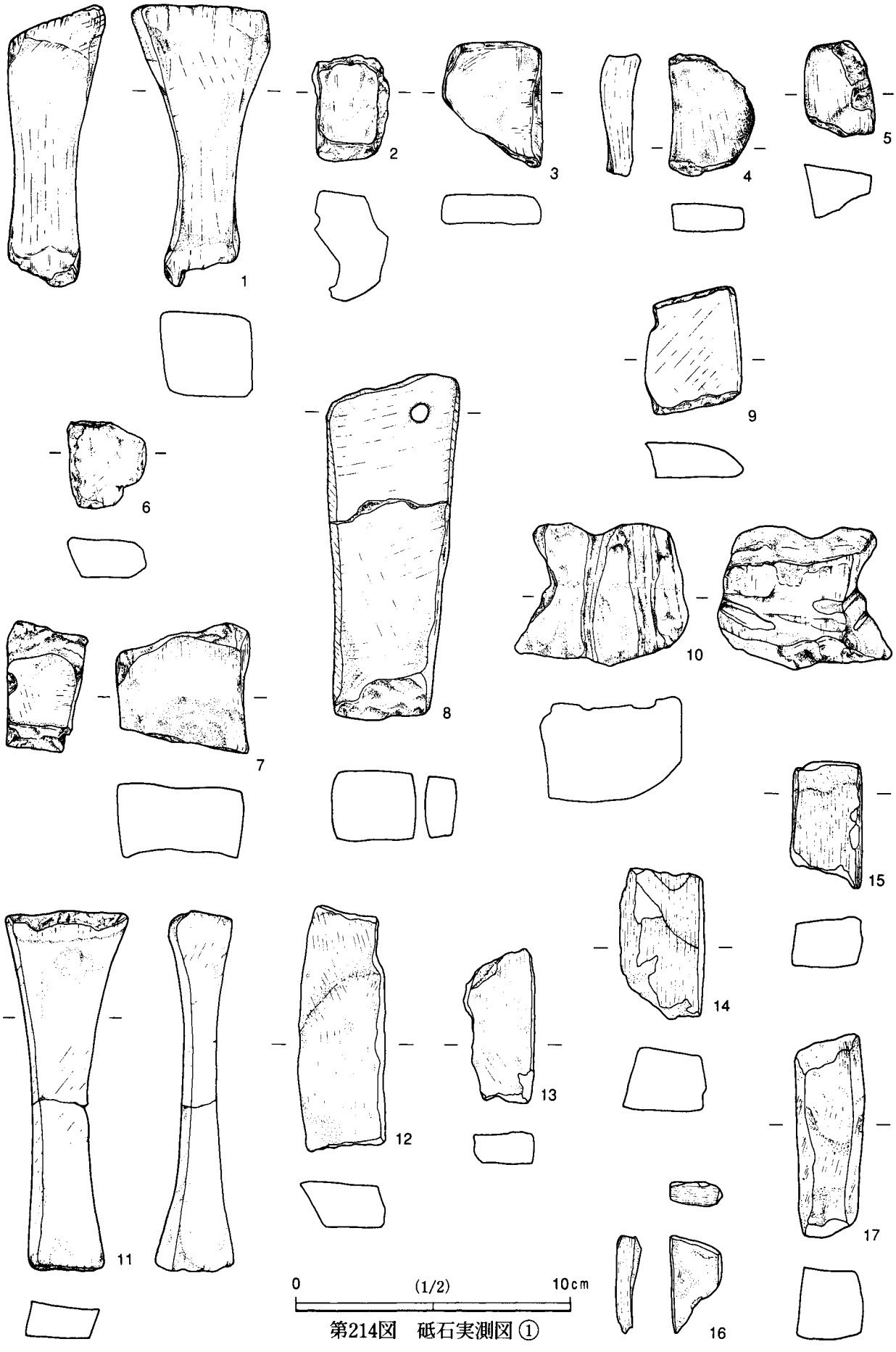
第213図　耳環実測図

第25表　鉄鏃計測表

遺構番号	挿図番号	身の形態	計測部位	身部 (mm)				棒状部 (mm)				茎部(mm)		現重量	出土状況	図版番号	備考
			全長(mm)	長	逆刺深	最大幅	厚	長	幅	突起部長	厚	長	上端幅	(g)			
SB002	212-1	腸抉長三角形式	96.0	25.0	2.7	11.1	5.2	71.0	5.5	−	3.3	−	−	6.30	覆土下層	83-1	
SB006	212-2	腸抉長三角形式	103.4	46.3	15.8	37.3	6.7	43.1	8.2	−	6.3	13.5	9.4	26.61	覆土上層	83-2	
SB020	212-3	長三角形式	63.9	24.4	2.1	10.5	2.3	39.5	5.3	−	3.4	−	−	3.59	床　面	83-3	
SB023D	212-4	腸抉三角形式	37.0	35.0	8.3	23.5	2.4	2.0	7.9	−	3.0	−	−	4.31	覆土下層	83-4	
SB038	212-5	片刃	76.3	−	−	−	−	50.5	7.4	7.7	4.9	25.8	5.6	7.83	覆土上層	83-5	
SB038	212-6	長三角形式	40.5	25.4	2.4	9.3	2.7	15.1	5.5	−	3.3	−	−	2.00	覆土上層	83-6	
SB038	212-7	不明	51.7	−	−	−	−	32.6	6.6	7.2	3.3	19.1	6.2	3.55	覆土上層	83-7	
SB043	212-8	不明	59.6	−	−	−	−	32.2	6.3	8.1	4.2	27.4	6.8	4.11	床　面	83-8	
SB043	212-9	片刃	49.5	32.5	1.4	7.7	2.3	17.7	5.7	−	3.7	−	−	3.14	覆土下層	83-9	
SB159	212-10	片刃	55.6	19.1	1.7	6.5	2.3	36.5	4.9	−	2.9	−	−	2.55	覆土中層	83-10	
SB161	212-11	片刃	50.2	15.8	−	7.9	2.1	34.4	2.0	−	2.0	−	−	2.56	覆土中層	83-11	
SB163	212-12	不明	29.2	−	−	−	−	29.2	7.4	−	2.4	−	−	1.36	覆土中層	83-12	
SB163	212-13	腸抉長三角形式	103.7	8.1	2.4	10.8	1.9	78.7	5.4	6.9	3.6	16.9	6.8	7.41	床　面	83-13	
SB163	212-14	不明	62.1	−	−	−	−	62.1	6.0	−	3.9	−	−	4.29	カマドの掘り込み	83-14	
SB168	212-15	不明	69.2	−	−	−	−	69.2	4.4	−	4.2	−	−	5.41	覆土上層	83-15	
SB169	212-16	腸抉長三角形式	46.2	23.0	3.1	10.7	3.4	23.2	5.4	−	2.8	−	−	3.16	床　面	83-16	
SB169	212-17	片刃	50.1	17.0	−	9.5	2.1	33.1	5.2	−	−	−	−	3.46	覆土中層	83-17	
SB189	212-18	不明	90.1	−	−	−	−	90.1	5.9	−	5.4	−	−	11.08	覆土中層	83-18	
SB189	212-19	不明	58.5	−	−	−	−	58.5	5.1	−	4.6	−	−	4.86	覆土中層	83-19	
SB198	212-20	不明	88.5	−	−	−	−	72.1	5.6	9.5	3.0	−	−	8.10	覆土下層	83-20	
SB217	212-21	片刃	35.3	18.9	0.5	7.9	2.0	16.4	4.6	−	2.9	−	−	2.03	覆土中層	83-21	
SB222	212-22	腸抉長三角形式	30.6	26.0	11.1	26.5	3.0	4.6	6.6	−	2.1	16.4	5.7	6.44	床　面	83-22	
D2-66	212-23	不明	91.8	−	−	−	−	91.8	4.0	−	4.4	−	−	6.38	遺構外	83-23	
不　明	212-24	腸抉長三角形式	69.1	17.1	1.0	10.9	4.7	37.7	8.2	7.0	4.2	14.3	4.1	6.66	不　明	83-24	
SB154	212-25	不明	115.0	−	−	−	−	−	4.9	−	−	−	−	13.89	覆土上層	83-25	棒状

第26表　耳環計測表

遺構番号	挿図番号	外径	内径	断面径	重量	出土状況	図版番号	備考
		長×短(mm)	長×短(mm)	長×短(mm)	(g)			
SB043	213-1	32.7×29.8	17.9×16.2	7.8×7.5	28.49	覆土上層	82-1	
SB045	213-2	21.5×20.7	12.6×11.9	6.1×4.4	8.13	床　面	82-2	金環
不　明	213-3	19.4×18.2	11.8×11.0	4.9×4.2	4.67	不　明	82-3	



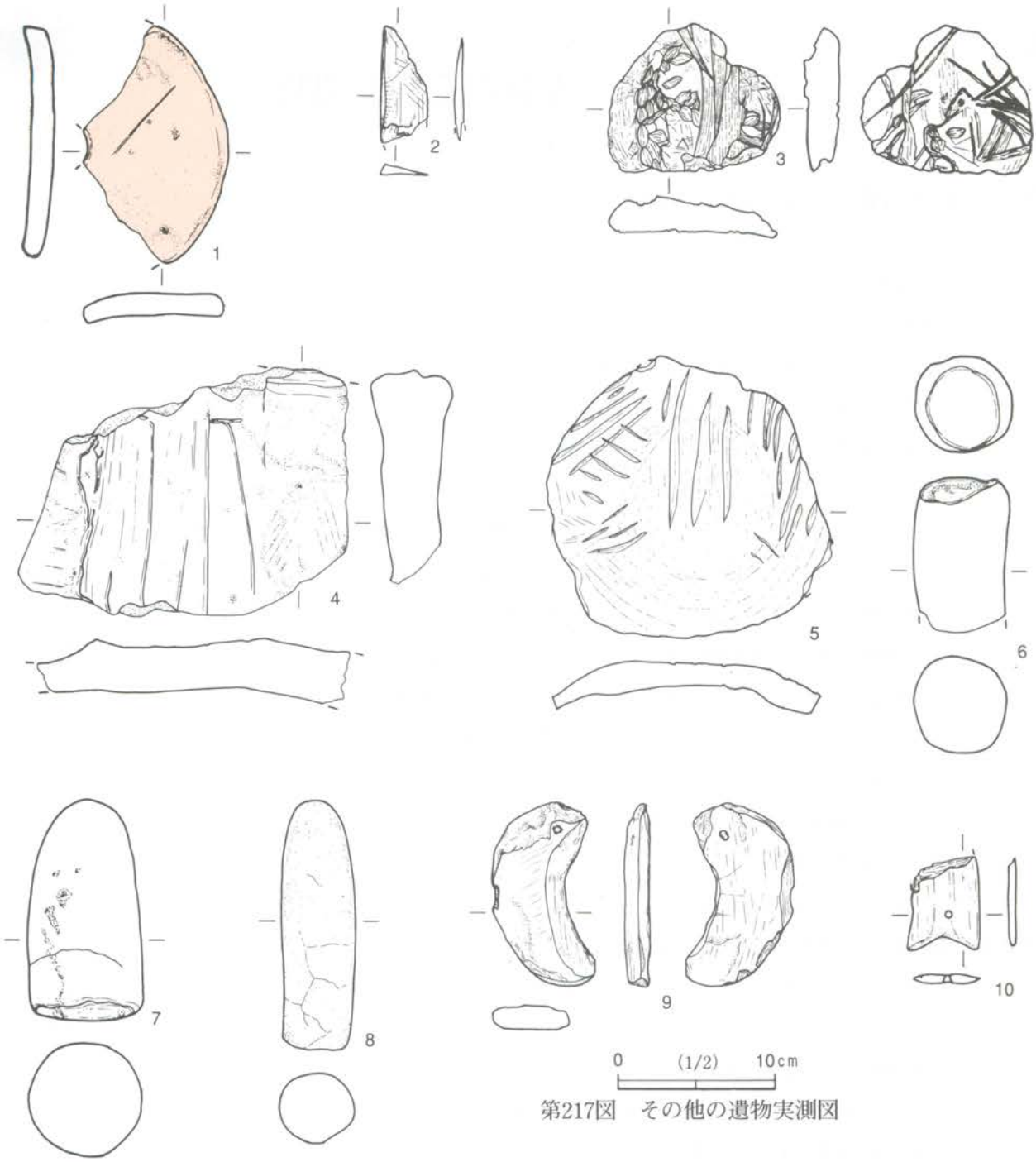
第214図　砥石実測図①

第215図　砥石実測図②

第216図　砥石実測図 ③

第27表　砥石計測表

遺構番号	挿図番号	全長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	出土状況	図版番号	備考
SB008	214-1	101.8	50.3	32.5	161.6	覆土下層	84-1	
SB016	214-2	38.7	27.5	41.6	47.3	覆土一括	84-2	
SB032	214-3	45.3	37.0	10.0	23.7	覆土一括	84-3	
SB129	214-4	44.1	31.0	15.6	19.2	床　面	84-4	
SB161	214-5	35.2	23.4	29.8	18.3	覆土中層	84-5	
SB161	214-6	30.9	27.6	15.5	14.3	覆土中層	84-6	
SB188	214-7	44.5	48.5	29.8	91.9	床　面	84-7	
SB214	214-8	124.1	48.8	36.5	258.5	覆土上層	84-8	
SB218	214-9	35.1	46.4	12.2	31.4	覆土上層	84-9	
SB不明	214-10	63.1	51.4	40.5	104.6	－	84-10	注記不明瞭
SK623	214-11	127.1	42.6	25.8	102.1	覆土中層	84-11	
SD010	214-12	85.6	29.5	16.0	58.7	覆土上層	84-12	
SD020	214-13	55.8	26.0	12.9	24.8	覆土一括	84-13	
SD020	214-14	49.4	28.0	22.7	48.9	覆土一括	84-14	
SD020	214-15	44.6	25.2	16.8	30.5	覆土一括	84-15	
SD020	214-16	33.2	17.8	8.2	5.1	覆土一括	84-16	
SD022	214-17	71.2	49.8	24.1	69.8	覆土一括(2区)	84-17	
SX006	215-18	80.5	39.8	38.1	160.3	覆土中層	84-18	
SX006	215-19	54.4	24.9	20.9	38.6	覆土中層(P1)	84-19	
SX006	215-20	54.5	45.4	32.2	134.0	覆土中層(P160)	84-20	
B2-28	215-21	34.3	37.4	15.0	25.0	遺構外	84-21	南斜面貝層(イ-89)
B2-29	215-22	25.4	35.9	5.2	8.3	遺構外	84-22	南斜面貝層(イ-79)
C2-53	215-23	55.3	37.5	30.0	63.1	遺構外	84-23	南斜面貝層(ニ-38)
C2-84	215-24	38.6	27.6	9.3	14.6	遺構外	84-24	南斜面貝層(ト-64)
C3-06	215-25	45.2	27.9	20.5	33.2	遺構外	84-25	南斜面貝層(ヌ-40)
C3-10	215-26	40.4	28.6	19.0	23.1	遺構外	84-26	南斜面貝層(チ-54)
C3-25	215-27	53.1	35.9	19.0	51.2	遺構外	84-27	南斜面貝層(ヌ-82)
C3-47	215-28	34.0	39.0	13.2	19.8	遺構外	84-28	南斜面貝層(ヌ-88)
C3-55	215-29	50.0	43.7	11.7	31.4	遺構外	84-29	
C3-58	215-30	127.2	39.5	34.4	216.3	遺構外	84-30	南斜面貝層(ワ-70)
C3-69	215-31	48.0	43.3	9.1	23.5	遺構外	84-31	南斜面貝層(ワ-63)
D1-63	215-32	93.0	89.1	28.8	255.2	遺構外	84-32	
D2-29	215-33	57.0	45.3	20.6	86.3	遺構外	84-33	
D2-38	215-34	43.4	27.0	10.5	13.6	遺構外	84-34	
D2-59	216-35	33.6	33.5	15.9	14.7	遺構外	85-35	
D2-59	216-36	82.5	34.1	30.2	85.1	遺構外	85-36	
D3-09	216-37	45.1	37.8	27.7	36.5	遺構外	85-37	
D3-60	216-38	94.4	31.9	16.7	53.5	遺構外	85-38	南斜面貝層(ワ-65)
D3-83	216-39	92.0	40.0	30.8	131.6	遺構外	85-39	南斜面貝層(タ-31)
D3-83	216-40	57.7	38.3	24.6	76.6	遺構外	85-40	南斜面貝層(タ-31)
D3-86	216-41	37.4	33.0	3.8	5.5	遺構外	85-41	
E2-15	216-42	45.9	22.8	15.8	20.4	遺構外	85-42	
E2-26	216-43	70.6	46.4	13.7	40.3	遺構外	85-43	
E3-95	216-44	41.1	30.7	11.0	19.2	遺構外	85-44	
E4-18	216-45	52.5	39.9	23.2	64.9	遺構外	85-45	
E4-25	216-46	51.3	25.3	11.2	25.2	遺構外	85-46	
E4-33	216-47	48.0	17.3	10.0	13.2	遺構外	85-47	
E4-48	216-48	76.1	38.2	20.7	88.6	遺構外	85-48	
E4-77	216-49	77.5	31.3	28.7	76.5	遺構外	85-49	
E5-11	216-50	44.2	38.9	7.8	17.8	遺構外	85-50	
E5-88	216-51	55.0	26.2	14.3	32.9	遺構外	85-51	
F4-94	216-52	35.5	27.5	17.8	18.2	遺構外	85-52	
F6-05	216-53	32.9	22.1	17.5	20.5	遺構外	85-53	
不　明	216-54	44.2	30.4	28.1	41.7	－	85-54	注記なし
不　明	216-55	79.1	37.2	14.8	68.7	－	85-55	注記なし



第217図　その他の遺物実測図

第28表　その他の遺物計測表　　( )現存長

遺構番号	挿図番号	種類・性格	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	材質	出土状況	遺存度 (%)	図版番号	備考
SB024	217-1	土製円板	(75.7)	(45.1)	(7.3)	(26.2)	土製	覆土下層	—	75-1	赤彩
SB036	217-2	石製模造品	(37.2)	(14.6)	(3.1)	(1.4)	片岩	床面	—	75-2	
SB144	217-3	板状土製品	(54.1)	(47.0)	(11.4)	(22.9)	土製	覆土上層	—	75-3	稲穂の圧痕
SB169	217-4	土製品	(105.1)	(78.9)	(25.2)	(148.9)	土製	覆土下層	—	75-4	用途不明
C1-15	217-5	砥石転用	(91.5)	(88.1)	(8.9)	(73.5)	須恵器	覆土上層	—	75-5	SX002(流れ込み)
C2-65	217-6	石製品	(48.0)	(30.5)	(31.0)	(47.3)	砂岩	遺構外	—	76-6	
C3-06	217-7	石製品	68.4	36.9	36.7	121.0	砂岩	遺構外	100	76-7	
D3-60	217-8	石製品	77.7	23.6	21.7	51.7	砂岩	遺構外	100	76-8	
不明	217-9	石製模造品	57.0	33.8	7.6	19.9	片岩	—	100	76-9	勾玉　孔径3.1mm
不明	217-10	石製模造品	(29.1)	(23.6)	(2.8)	(2.6)	片岩	—	—	76-10	2と同一?

第3章　中・近世の遺構と遺物

第1節　検出遺構の概要（第218，219図）

中世の遺構としては、台地南西斜面に面した緩斜面を地山整形した整地面に土壙群が3か所検出された。また、この土壙群に近接した北東側平坦地にピット群を検出した。3か所の土壙群は中央部を中央整地面、東側を東側整地面、西側を西側整地面とそれぞれ呼称した。整地面内及びその周辺では、土壙墓1基（ＳＫ181）、火葬墓3基（ＳＫ604・ＳＫ613・ＳＫ622）、地下式壙3基（ＳＫ619・ＳＫ621・ＳＫ638）の墓壙が検出された。ピット群内では、掘立柱建物跡2棟（ＳＩ001・ＳＩ002）と柵列遺構1基（ＳＩ003）が確認された。そのほかの遺構としては、性格不明の土壙25基、竪穴遺構5基、溝状遺構1条、特殊遺構1基が検出された。（第30表）

近世の遺構は溝状遺構・陥穴状遺構9基・性格不明遺構3基・竪穴遺構3基・土壙2基が確認されている。溝状遺構には三種類あり、台地先端部のＳＤ001～ＳＤ004Ｄの性格不明のものと、台地中央部のＳＤ018～ＳＤ023の畑を区画するもの、台地東端部のＳＤ006・007、ＳＤ027～ＳＤ032の道路状を呈すものがあげられる。特にＳＤ006・007、ＳＤ030は谷津と台地上を結ぶ道と考えられるが、ここでは踏みしめられたような固く締まった跡がないので、一応溝状遺構とした。陥穴状遺構は、北西側に並ぶ4基（ＳＫ649・ＳＫ826・ＳＫ843・ＳＫ665）には覆土上層に宝永の火山灰が多量に含まれた層が確認され、南西側に並ぶ5基（ＳＫ652・ＳＫ854・ＳＫ820・ＳＫ839・ＳＫ868）には確認されなかった。性格不明遺構は台地先端部の斜面上に位置するＳＸ002・005・006である。竪穴遺構は中世ピット群の東側に位置するＳＸ008・012、ＳＫ603である。土壙は、台地先端部の斜面上に位置するＳＫ126と、中世西側整地面の西側に位置し、火葬墓ＳＫ613を切っているＳＫ187である。

中世東側整地面（第219図・第30表・図版48-3）

台地南西斜面に面した整地面で、規模は690.7㎡を測る。東から西（中央整地面側）に約1.5ｍの標高差をもって緩やかに傾斜する。本整地面内には、ＳＫ619・ＳＫ621の2基の地下式壙と、中世整地面内の遺構の中では比較的規模の大きな土壙群が整然と構築されている。この土壙群は整地面の平坦地縁辺部を巡るように構築された、ＳＫ620・ＳＫ623・ＳＫ624・ＳＫ626・ＳＫ627・ＳＫ628・ＳＫ629・ＳＫ630・ＳＫ633・ＳＫ636・ＳＫ637の11基、平坦地中央部に構築された、ＳＫ625・ＳＫ631の2基、北東側の一段高いテラス状の部分に構築された、ＳＫ618・ＳＫ632・ＳＫ634・ＳＫ635の4基の計19基と、その他多数のピットにより本整地面は構成されている。また、ピットは北東側の一段高いテラス状の部分に集中している。

本整地面の北側は、ピットが集中するテラス状の部分よりさらに一段高いテラスが、幅1.5ｍ～0.9ｍで東西にのびる。また、このテラスの北側はＳＤ010の溝状遺構により区画される形になる。一方、本整地面の西側は、一段低い中央整地面へとつながる。

中世中央整地面（第219図・第30表・図版48-2）

東・西の両整地面より一段低く、平坦地には溝状の遺構がみられる等凹凸があり、規模は601.6㎡を測る。本整地面の東側は、谷津からのびると思われる、溝状遺構と一段高く細長いテラス状の遺構がほぼ南北にのびているのが確認された。この遺構が途切れる部分には、焼土と炭化物を多量に含む土壙ＳＫ598が構築されている。平坦地を巡る溝状遺構の西側から、西側整地面との間にあるテラスにはＳＫ614・ＳＫ615・

第218図　中・近世遺構配置図

第219図　中世土壙群・ピット群

ＳＫ616の3基の土壙が切り合うように構築されている。本整地面は以上の4基の土壙と多数のピットとで構成されている。ピットのほとんどは性格不明であるが、ＳＫ598の土壙の北側平坦部にあるピット5基は、直列していることに注目したい。

中世西側整地面（第219図・第30表・図版48-1）

中央整地面より一段高く、東・中央の両整地面に比較すると、規模は最も小さく272.3㎡を測る。本整地面平坦部の縁辺部には、北側に土壙ＳＫ611が1基、西側には長楕円形の土壙ＳＫ610が1基、また、平坦部中央には土壙ＳＫ597が1基で計3基の土壙が確認された。本整地面の西側外付近には、和鏡・かわらけ小皿4枚・頭骨・炭化米等を出土した土壙墓ＳＫ181と、それぞれ人骨を出土した火葬墓ＳＫ613・ＳＫ622が近接して位置する。また、本遺構の北側には、近世の溝状遺構ＳＤ022に切られた状態の竪穴遺構ＳＸ007が位置する。

中世整地面の東・中央・西の三つの区画は、それぞれ土壙とピットで構成されるが、東側整地面を除いた、中央及び西側整地面の土壙・ピットの配置の規則性はみられない。

中世ピット群（第219図・図版49-4）

東側整地面と中央整地面の北側に位置するピット群で、規模は1082.1㎡を測る。東・中央の両整地面とは、ＳＤ005・ＳＤ010の溝状遺構及び特殊遺構ＳＸ009により隔てられている。この特殊遺構ＳＸ009はＳＤ010溝状遺構の延長上にある、平面プラン不正方形で最深1.8mを測る、大きな凹状遺構である。このピット群の西端には、地山を削って平らにした段差が北東方向へのび、ＳＫ648竪穴遺構のすぐ北側で南東へ方向を変えるように続いているが、すぐに消滅する。

恐らく地山整形はピット群の配置状況からして、南東方向へ行われている。一方、ピット群の東端はピット群の配置状況から、ＳＤ012・ＳＤ026の溝状遺構とすることができる。したがって、本遺構は主軸方位は若干ずれるが、南北方向約15m、東西方向約20mの長方形の範囲内にピットが集中していることがわかる。本遺構のピットのすべてが中世のピット群として捉えることはできないが、少なくとも長方形に区画された内には、何棟かの掘立柱建物跡や掘立小屋程度の建物が存在していたであろう。調査時に覆土の状況から確認できた遺構は、掘立柱建物跡ＳＩ001・ＳＩ002の2棟、そして、柵列遺構ＳＩ003の1か所である。このピット群内で、中世陶器片及び北宋銭が出土した竪穴遺構は、ＳＫ640・ＳＫ647・ＳＫ648・ＳＫ650である。

土壙群とピット群に関しての全体像は第4章第2節で触れることとし、ここでは個別に遺構をみていくこととする。

1　土壙墓

ＳＫ181土壙墓（第220図・第29表・図版47-1）

台地南西斜面に面した緩斜面上（Ｅ5-24グリッド）に位置する古墳時代後期の重複した竪穴住居跡、ＳＢ102Ａ・ＳＢ102Ｂの覆土中に約13㎝掘り込まれた状態で検出された。平面プランは、約1.6m×1.2mの長方形を呈し、床面は若干の起伏があり、土壙南西側に向けて緩やかに傾斜し、壁は緩やかに立ち上がっている。

遺物は人骨、和鏡、かわらけ小皿4枚、炭化米が数点出土した。人骨は保存状態が極めて悪く、頭蓋の一部と歯が出土している。頭は北からやや東の方向に向け、顔を土壙底面に接するように俯せに埋葬されて

いた。頭蓋は粉状になっており、土と分離することは不可能であった。よって、形態的特徴についてはほとんど確認できず、性別に関しても不明である。しかし、残存する歯の咬耗状態から成人前後の個体と思われる。歯の咬耗度は全てＢｒｏｃａの1を呈していた。残存する歯は次のとおりである。

765	23　56
8765	7

和鏡は土壙中央からやや北東よりの場所から、鏡面を下にした状態で、床面よりやや浮いた位置で出土した。

かわらけ小皿4点は土壙の南西端部付近、遺体の足元付近に、まとめて置かれた状態で出土した。このかわらけ小皿4点も和鏡同様、人骨とは異なり、床面からやや浮いた状態で出土した。

炭化米は数的には少なく19粒確認された。その多くはかわらけ小皿3・4・5の付近に集中し、和鏡付近にも数粒認められた。浅い覆土上層から床面までの範囲から出土した。

2　火葬墓

ＳＫ604火葬墓（第221図・第29表・図版47-2）

台地東部を南東にのびる、ＳＤ008溝状遺構が途切れる部分（H5-90グリッド）に位置する。平面プランは楕円形を呈し、長径3.47m短径2.42mを測り、掘り込みは13cmで極めて浅い。床面は中央部分で若干の高まりを持ち、壁は緩やかに立ち上がる。出土遺物は人骨のみで、西端部に集中していた。

人骨は重量約350ｇの火葬人骨である。骨片の状態から成人以上のものと思われる。骨の色調は白色から灰色までの各部位での変化がある。性別は不明である。

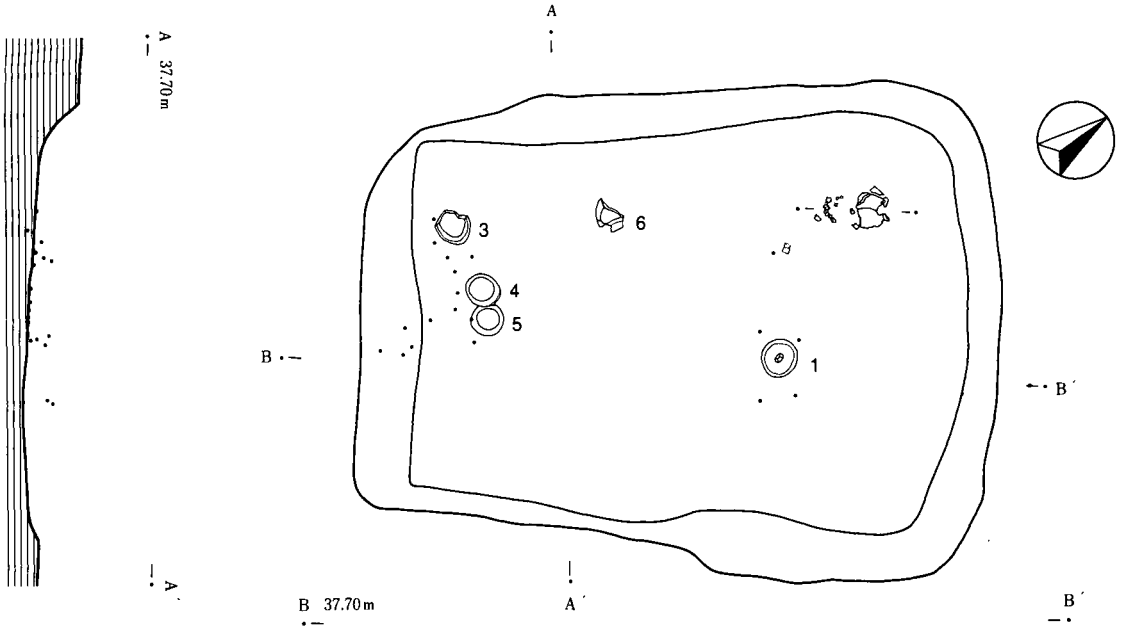
ＳＫ613火葬墓（第222図・第29表・図版47-3）

台地南西斜面に面した緩斜面上（E5-36）に位置する。ＳＫ181土壙墓から東へ約3.5m隔たっている。近世の土壙ＳＫ187と木の根の撹乱により、遺構の大部分を破壊されているため、正確な遺構形態は不明である。わずかに遺存する部分から復元すると、平面プランは長方形を呈すと思われる。遺構の東端部外には炭化材を含む焼土が認められた。わずかに残る底面からは人骨が検出された。

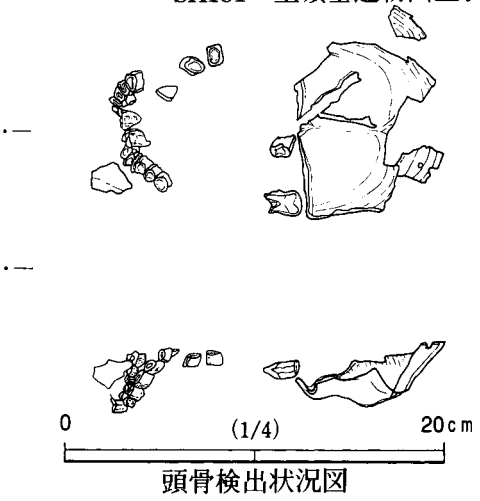
人骨は重量約800ｇの火葬人骨である。各部位の骨を部分的に識別するが、成人の全骨格の重量としては軽いように思われる。骨片となっている頭蓋における矢状縫合の外反は開存しているが、内板は閉鎖消失している。骨の色調は白色から黒色までの変化がみられる。また、骨片には亀裂が認められる。成人以上の個体と思われるが、性別は不明である。

ＳＫ622火葬墓（第223図・第29表・図版49-1）

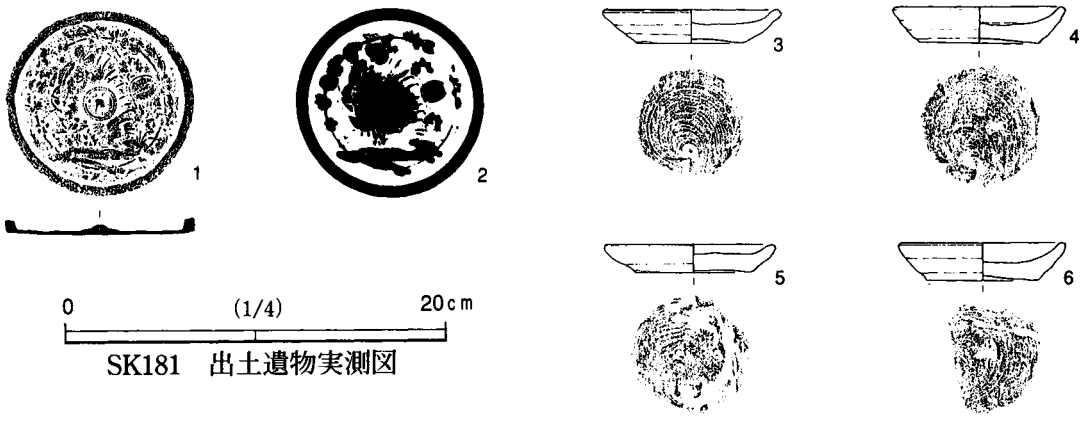
台地南西斜面に面した緩斜面上（E5-45グリッド）に位置する。ＳＫ613火葬墓から南へ約4.0m隔たっている。平面プランは不正方形を呈し、長辺1.21m短辺0.97mを測る。遺構中央部は楕円状に掘り込まれており、床面は平らではない。覆土中には炭化材を含む多量の焼土が堆積しており、覆土中層から床面にかけての範囲から火葬骨片が検出された。火葬骨片は11点確認されたが、骨片が小片であるため詳細については不明である。



SK181　土壙墓遺物出土状況図

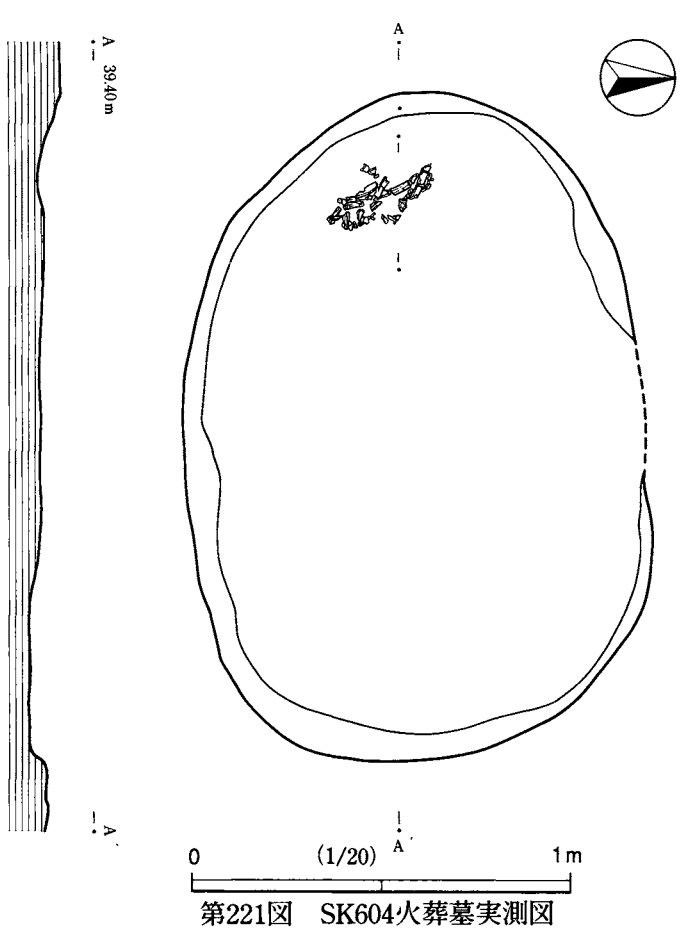


頭骨検出状況図

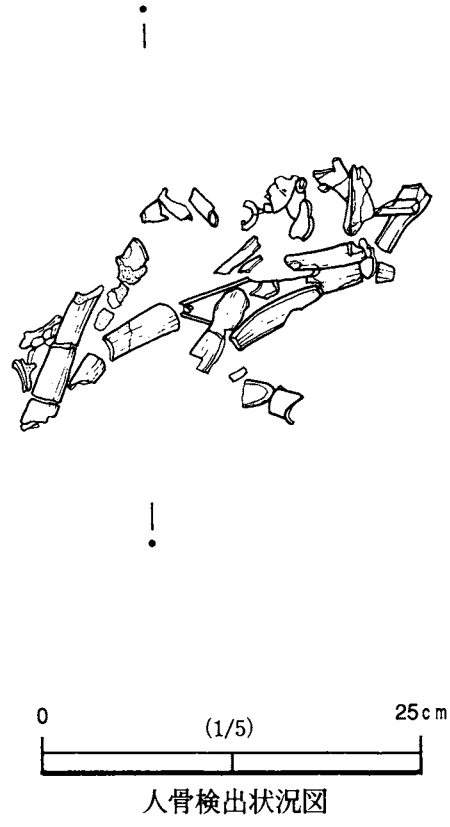


SK181　出土遺物実測図

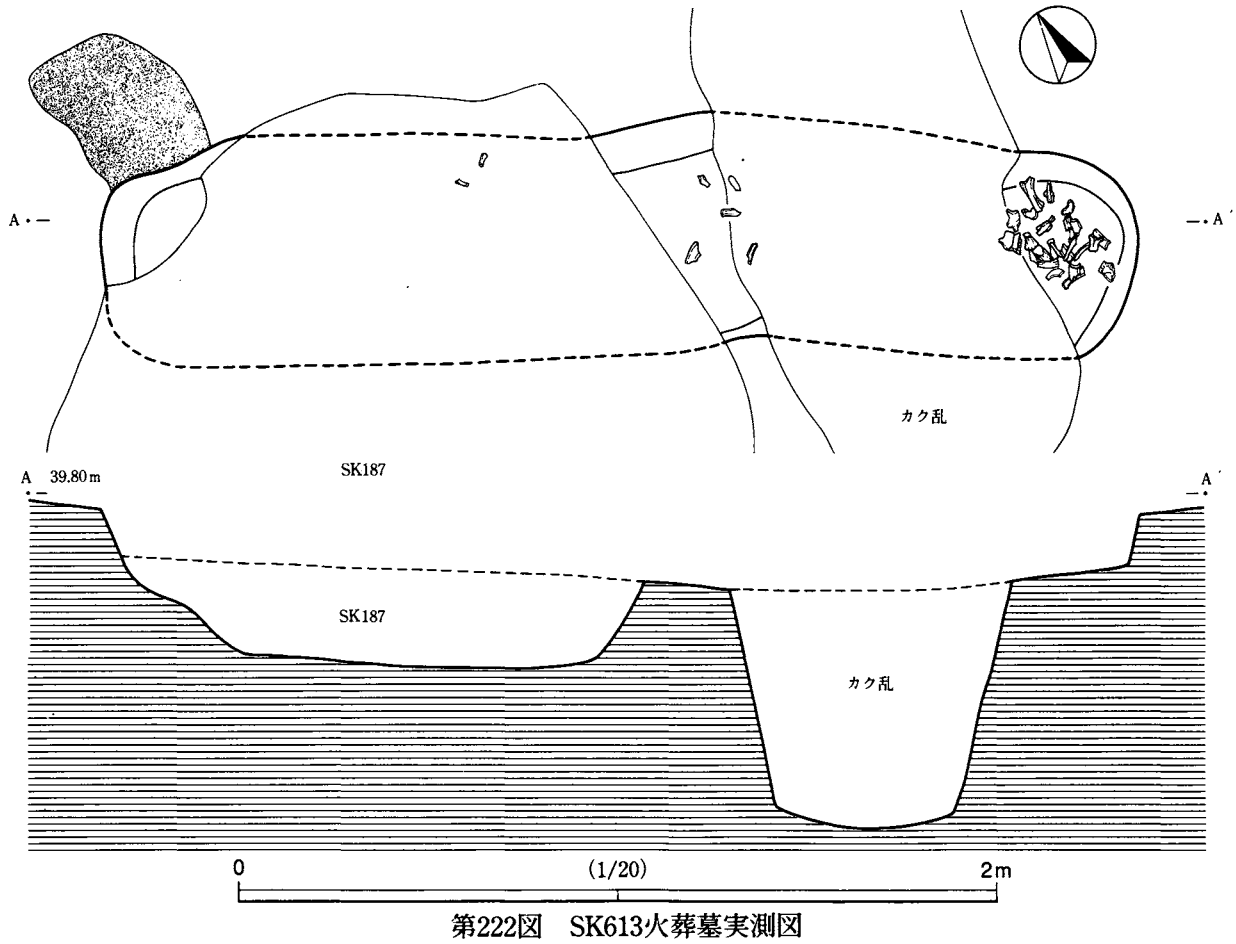
第220図　SK181土壙墓遺物出土状況及び遺物実測図



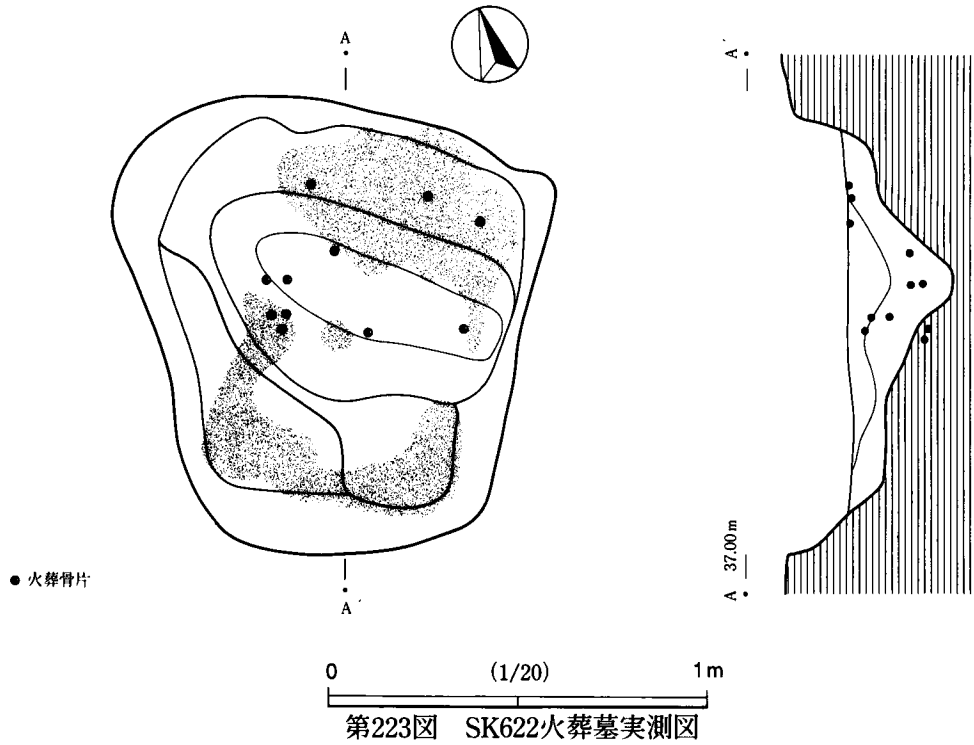
第221図　SK604火葬墓実測図



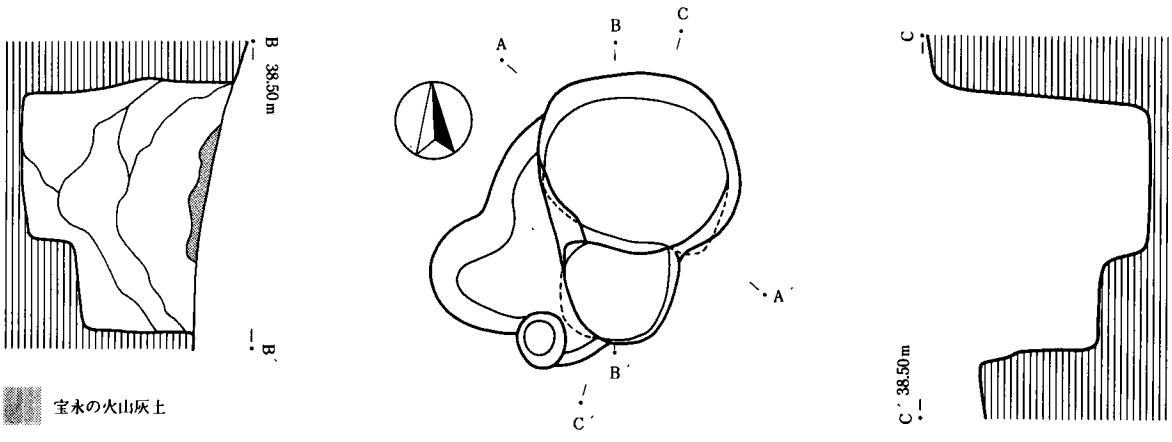
人骨検出状況図



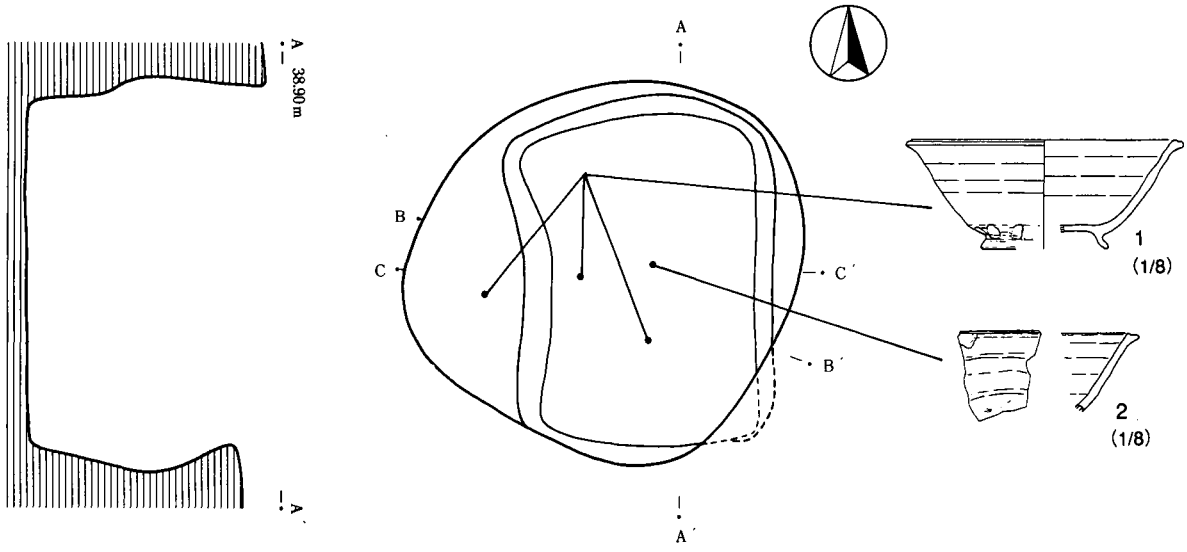
第222図　SK613火葬墓実測図



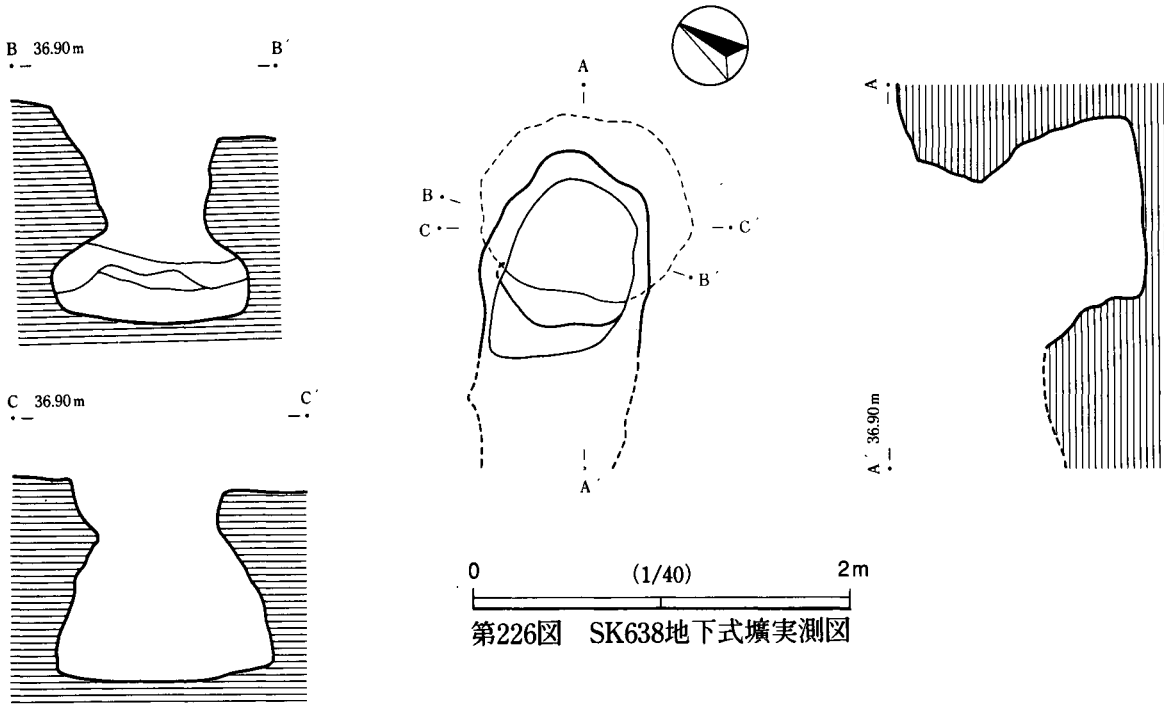
第223図　SK622火葬墓実測図



第224図　SK619地下式壙実測図



第225図　SK621地下式壙実測図



第226図　SK638地下式壙実測図

3　地下式壙

ＳＫ619地下式壙（第224図・第29表・図版49-2）

中世土壙群の東側整地面北端（Ｆ5-87グリッド）に位置し、西側は後世の撹乱を受けており、天井部は崩落していた。復元形は半円筒状の入口施設をもつ直方体で、地下壙内の底面は若干オーバーハングしている。地下壙内の寸法は長辺2.00m、短辺1.48m、確認面からの深さは最深で2.36mを測る。覆土中層には天井崩落層が確認でき、覆土上層には宝永の火山灰の堆積が認められた。遺物は出土していない。

ＳＫ621地下式壙（第225図・第29表・図版49-3）

中世土壙群の東側整地面東端（Ｇ6-10グリッド）に位置し、天井部は崩落していた。復元形は半円筒状の入口施設をもつ直方体で、地下壙内の底面は南東コーナー部分でオーバーハングしている。また、壁も北・東・南の三方向で若干オーバーハングしている。地下壙内の寸法は長辺3.45m、短辺2.19m、確認面からの深さは最深で2.45mを測る。覆土中層には天井崩落層が確認でき、覆土上層には宝永の火山灰の堆積が認められた。遺物は常滑のコネ鉢1・2が2点出土した。1・2は同一個体の可能性もある。

ＳＫ638地下式壙（第226図・第29表）

台地中央部の南西側斜面上（Ｄ4-54グリッド）に位置し、中世の西側整地面からは北西へ60m程隔たっている。近世の溝状遺構ＳＤ016により大きく削平され、入口施設は不明である。地下壙内の底面は大きくオーバーハングし、楕円形である。地下壙内の寸法は長辺1.15m、短辺0.91m、深さは最深で1.15mを測る。出土遺物はない。

第29表　墓壙一覧表　　単位cm

遺構番号 挿図番号	種　類	位　置	形　態	規模(長×短)	深　さ	図版番号	備　考
SK181 220	土壙墓	E5-24	長方形	160×120	13	47-1	和鏡1、かわらけ4点 人骨、炭化米出土
SK604 221	火葬墓	H5-90	楕円形	347×242	11	47-2	人骨片出土
SK613 222	火葬墓	E5-36	長方形	－	－	47-3	人骨片出土 SK187撹乱により残存少
SK622 223	火葬墓	E5-45	不正方形	121× 97	42	49-1	炭化材、焼土 火葬骨片出土
SK619 224	地下式壙	F5-87	壙内形態 直方体	壙内底面規模 200×148	236	49-2	半円筒状の入口施設あり 覆土上面に宝永火山灰堆積 出土遺物なし
SK621 225	地下式壙	G6-10	壙内形態 直方体	壙内底面規模 345×219	245	49-3	半円筒状の入口施設あり 覆土上面に宝永火山灰堆積 常滑コネ鉢出土
SK638 226	地下式壙	D4-54	壙内形態 フラスコ状	壙内底面規模 115× 91	115	－	入口施設はSD016の撹乱により不明 出土遺物なし

4　その他の遺構

ＳＩ001掘立柱建物跡（第227図・図版49-5）

中世ピット群の東端部（G5-43グリッド）に位置する。本遺構は調査中から覆土が暗褐色でしまり具合も共通していたため確認することができた。3間×1間の側柱建物で西側に半間分の張り出しがある。桁行長7.1m、梁行長2.1mで、長軸方向はN-9°-Eである。柱穴は計26であるが、そのすべてが関係しているかどうかは不明である。しかし、ここではP2・P5・P8・P10・P15・P20・P24・P22・P18・P14・P12が本遺構に直接対応する柱穴と思われる。柱間寸法は桁間で2.1m～2.6m、梁間で2.0m～2.1mを測る。また、張り出した半間分の柱間の桁行方向は0.8m～0.9mで他の柱間に比べて狭く、庇の可能性がある。各柱穴の深さは次のとおりである。

P1＝14.5cm・P2＝45.8cm・P3＝46.0cm・P4＝21.4cm・P5＝47.3cm・P6＝37.1cm・　P7＝42.6cm・P8＝49.0cm・P9＝51.6cm・P10＝56.1cm・P11＝25.8cm・P12＝29.5cm・　P13＝64.2cm・P14＝56.5cm・P15＝61.6cm・P16＝13.5cm・P17＝12.6cm・P18＝50.9cm・　P19＝26.9cm・P20＝49.1cm・P21＝8.8cm・P22＝50.9cm・P23＝53.0cm・P24＝34.5cm・　P25＝84.1cm・P26＝35.6cm

ＳＩ002掘立柱建物跡（第228図・図版50-1）

中世ピット群のほぼ中央部（H5-39グリッド）に位置する。2間×1間の側柱建物で桁行長は北東側で4.4m、北西側で5.1m、梁行長は2.7mを測る。北東側の柱穴列は直線にならず、梁行の柱穴とも直角に交差しないため、不正な長方形になる。長軸方向はN-41°-Wである。柱間寸法は桁間で2.0m～2.4m、梁間で2.7mを測る。柱穴の深さは下記のとおりである。

P1＝61.8cm・P2＝35.8cm・P3＝31.5cm・P4＝59.8cm・P5＝37.0cm・P6＝53.9cm

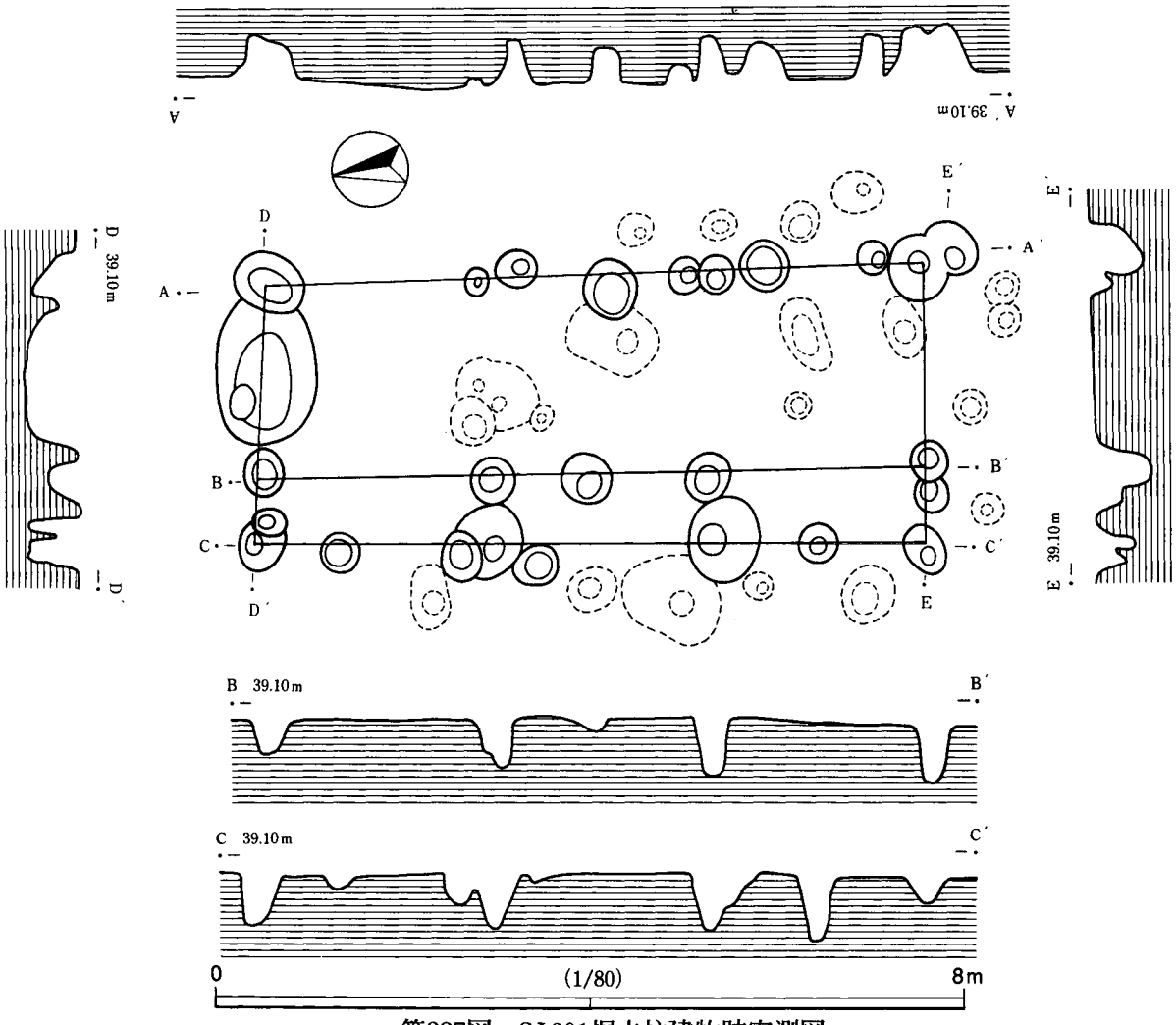
ＳＩ003柵列遺構（第229図・図版50-2）

中世ピット群の中央からやや西側に寄った場所（F5-27グリッド）に位置する。ＳＩ002掘立柱建物跡からは約5m隔たっている。柱穴は8穴が直列するが、P6とP7は重複しており計9穴確認できた。方向はN-40°-Eである。P1～P9までの長さは6.5mで、各柱穴間の寸法は0.9m～1.1mを測る。　各柱穴の深さは下記のとおりである。

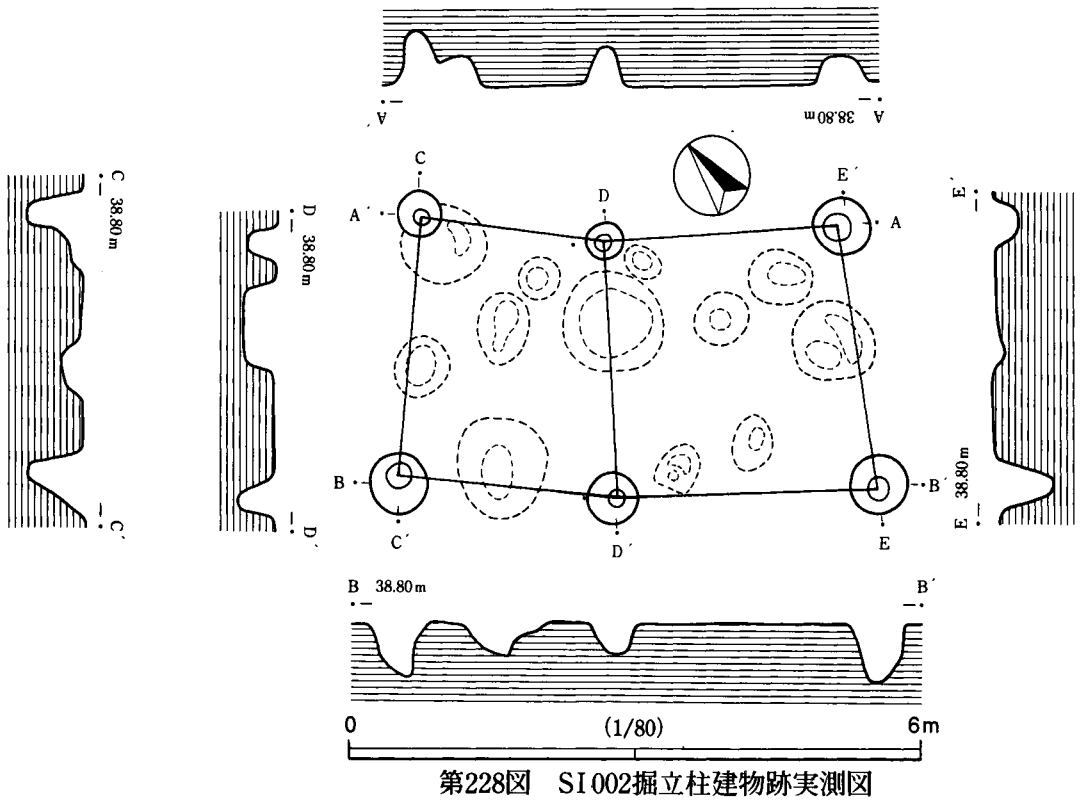
P1＝30.8cm・P2＝30.4cm・P3＝45.2cm・P4＝58.7cm・P5＝50.5cm・P6＝58.1cm・P7＝57.0cm・P8＝63.0cm・P9＝51.3cm

本遺構の柱穴列方向を南西側に40m延長した場所に5穴直列する柱穴がある。本遺構と同一方向に延びており、柵列遺構としてみることもできるが、ここでは特に遺構番号は付さず割愛した。また、ピット群の中には図面上では遺構として捉えることもできるものもあるが、あくまでも調査担当時に確認できたものに限って遺構として取り扱った。

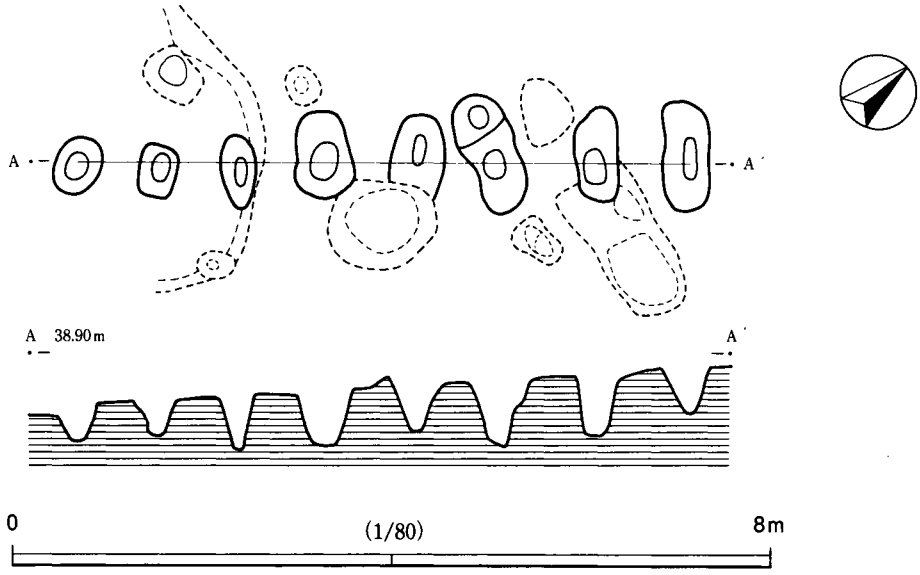
第230図から第248図までのその他の土壙及び、近世陥穴状遺構については一覧表に詳しく記載したので、説明の文章は割愛した。



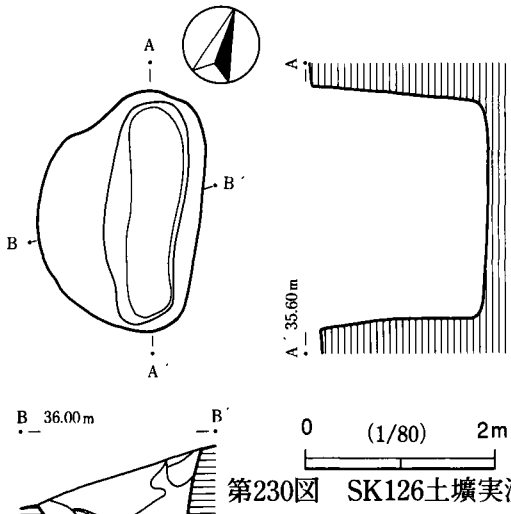
第227図　SI001掘立柱建物跡実測図



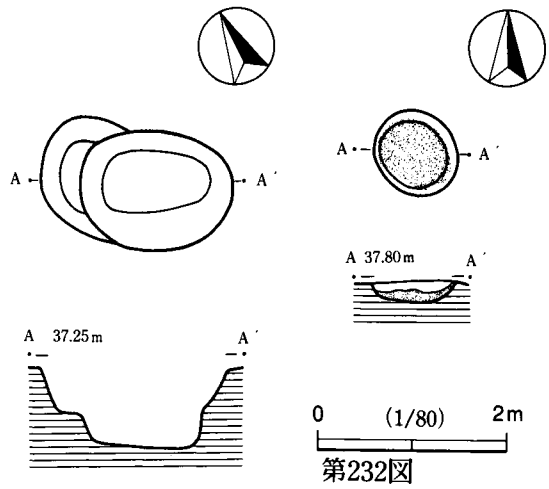
第228図　SI002掘立柱建物跡実測図



第229図　SI003柵列遺構実測図

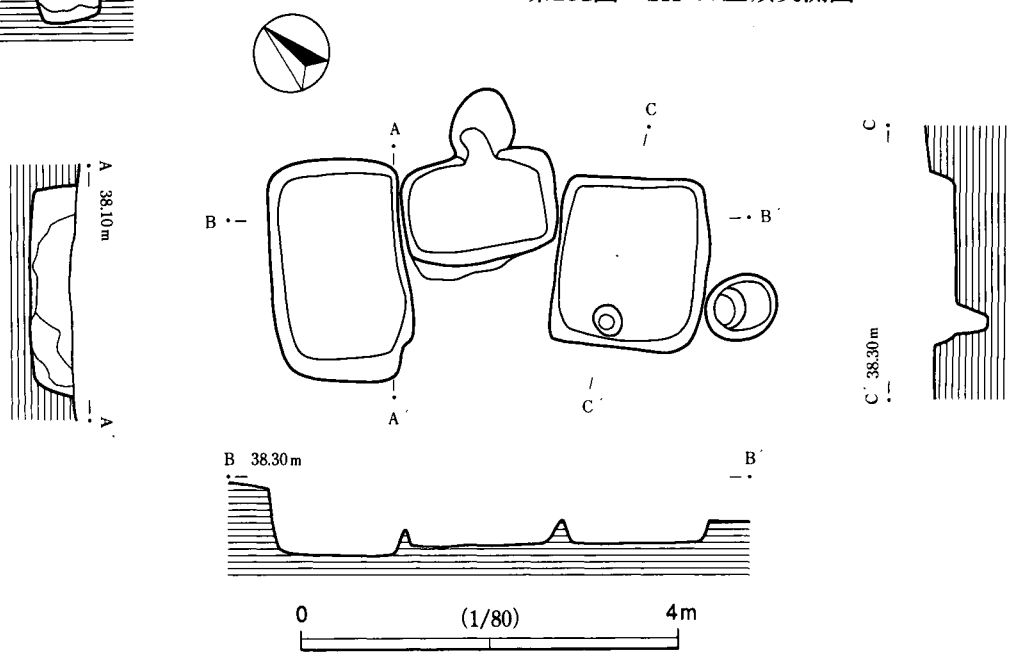


第230図　SK126土壙実測図

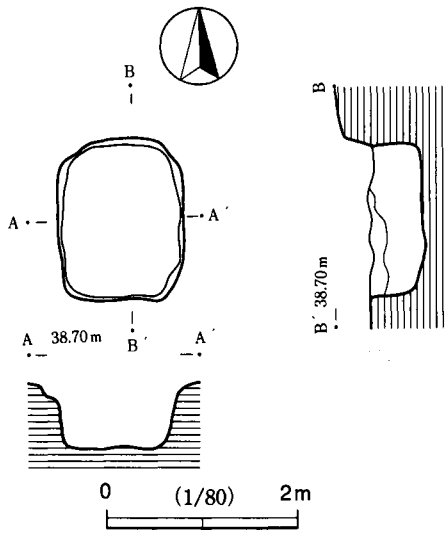


第231図　SK597土壙実測図

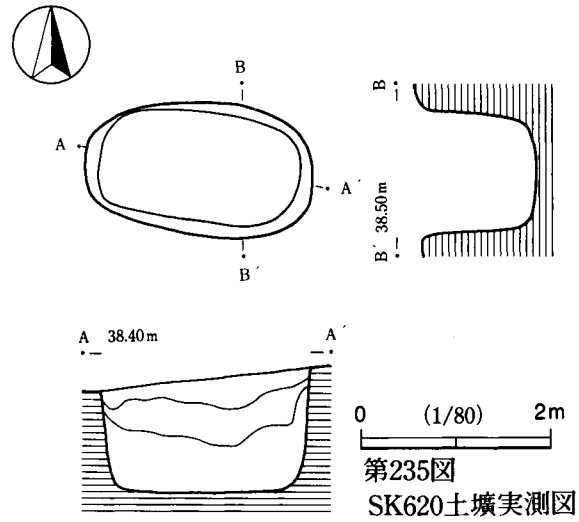
第232図
SK598土壙実測図



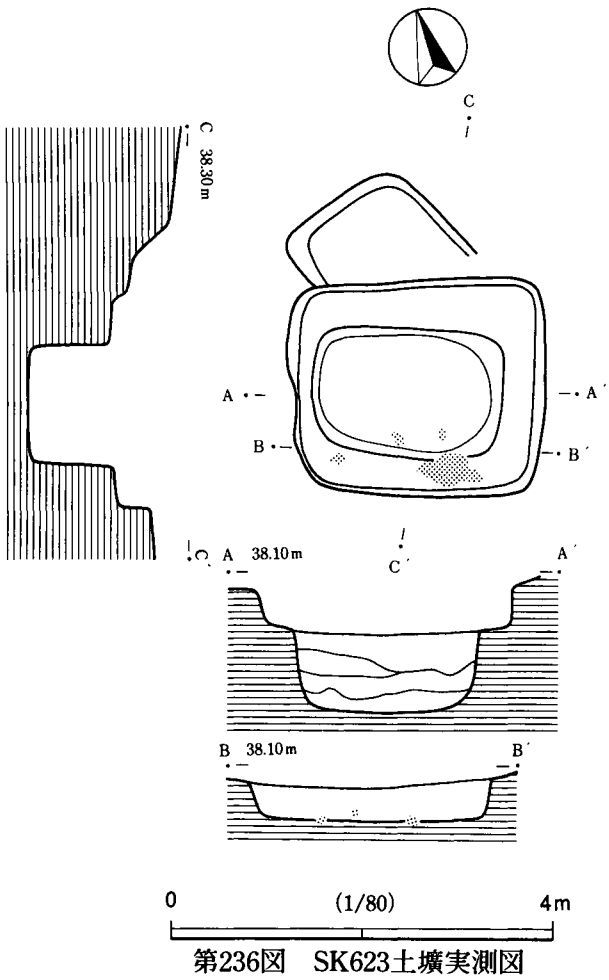
第233図　SK614・615・616土壙実測図



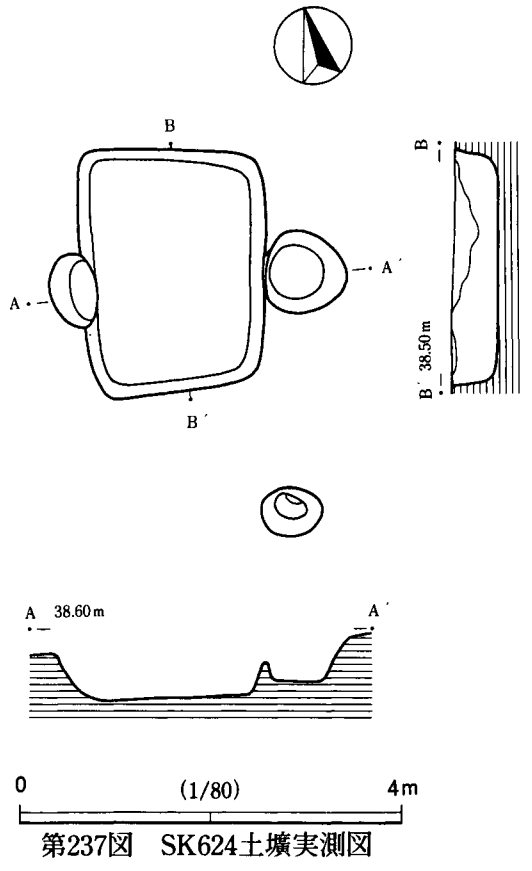
第234図　SK618土壙実測図



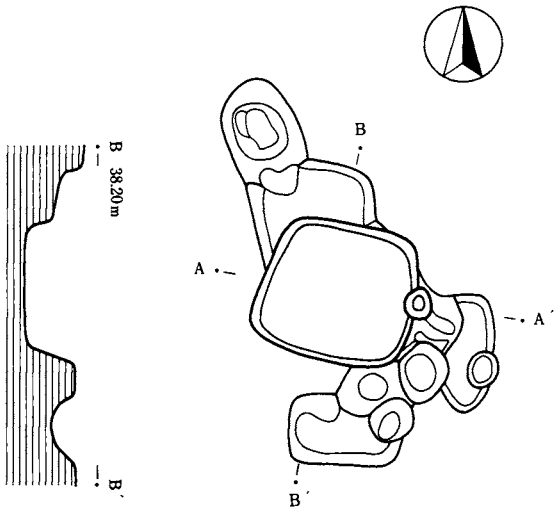
第235図
SK620土壙実測図



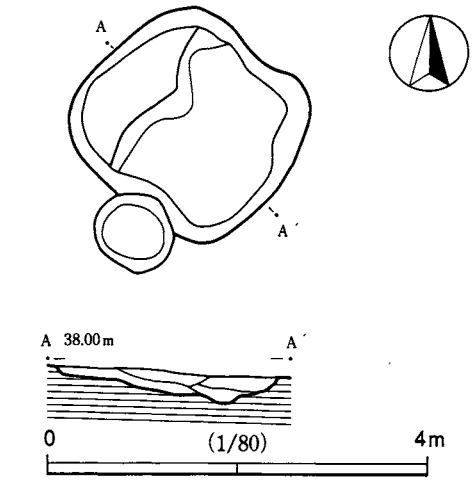
第236図　SK623土壙実測図



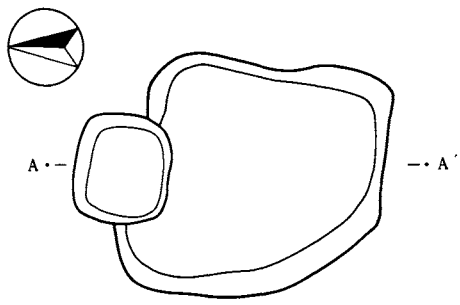
第237図　SK624土壙実測図

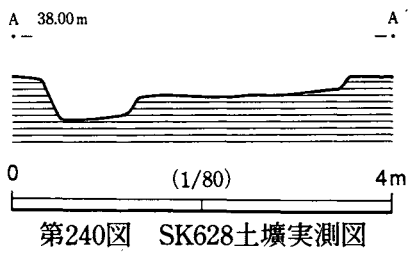


第238図　SK625土壙実測図

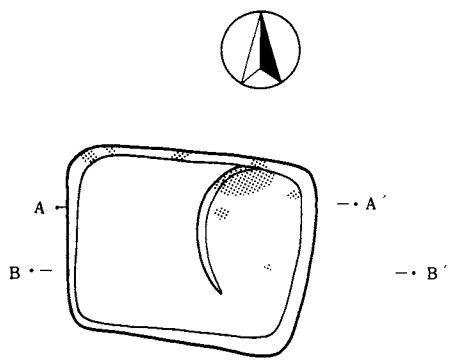


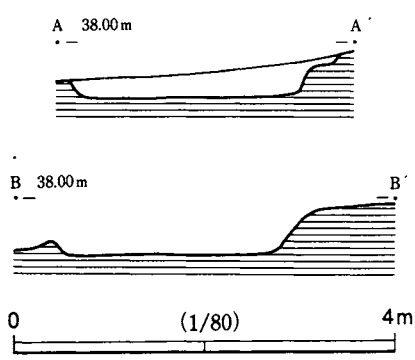
第239図　SK627土壙実測図



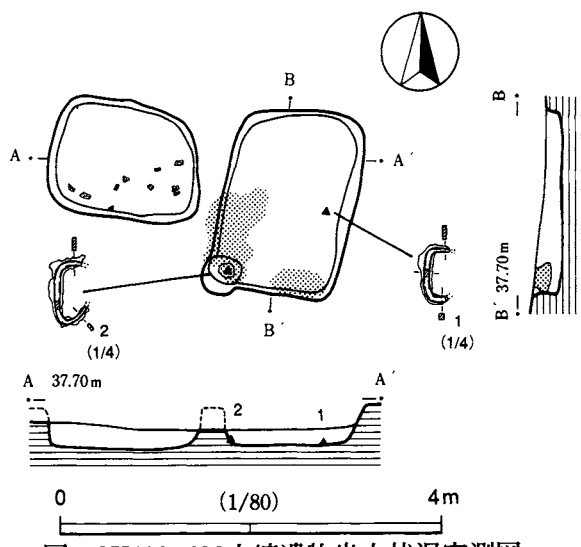


第240図　SK628土壙実測図

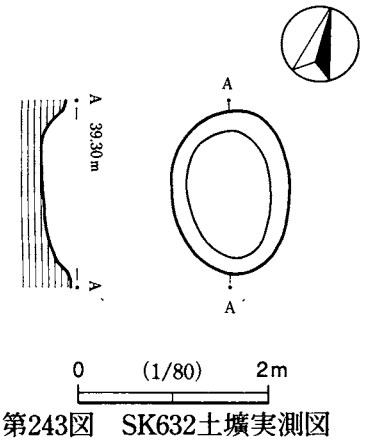




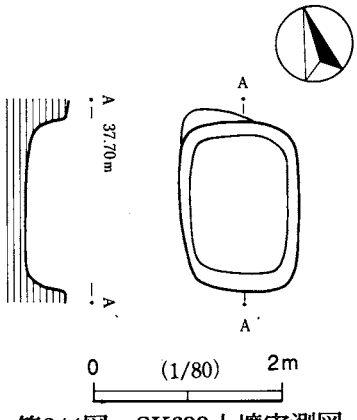
第242図　SK631土壙実測図



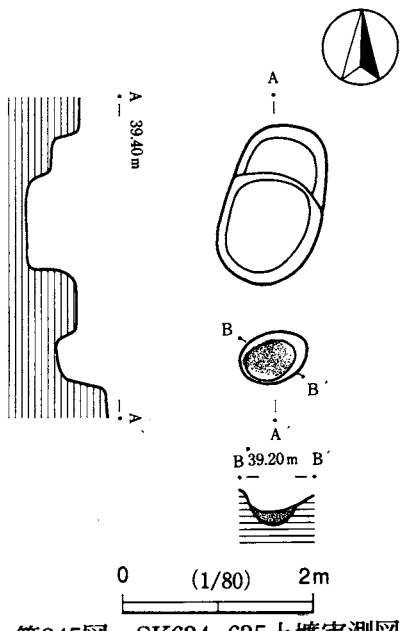
第241図　SK629・630土壙遺物出土状況実測図



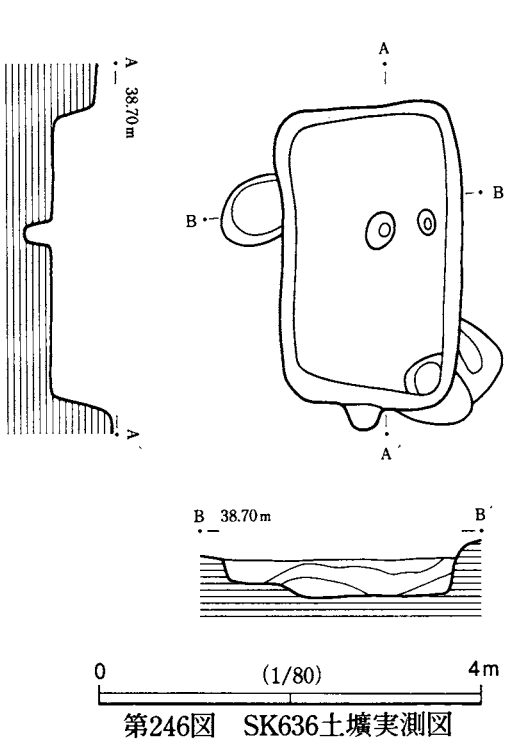
第243図　SK632土壙実測図



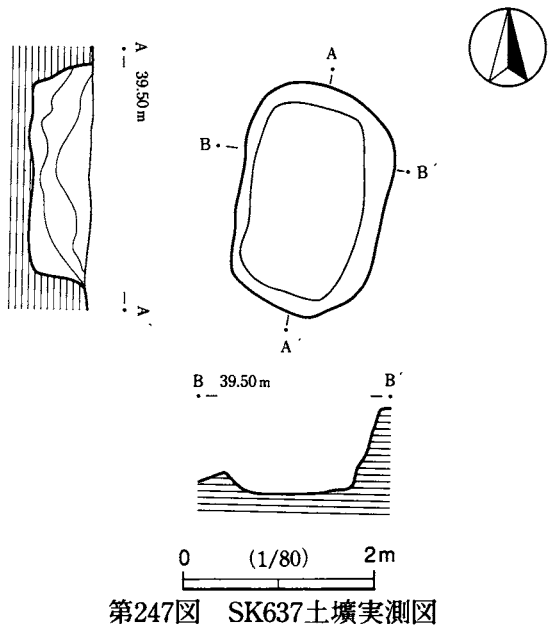
第244図　SK633土壙実測図



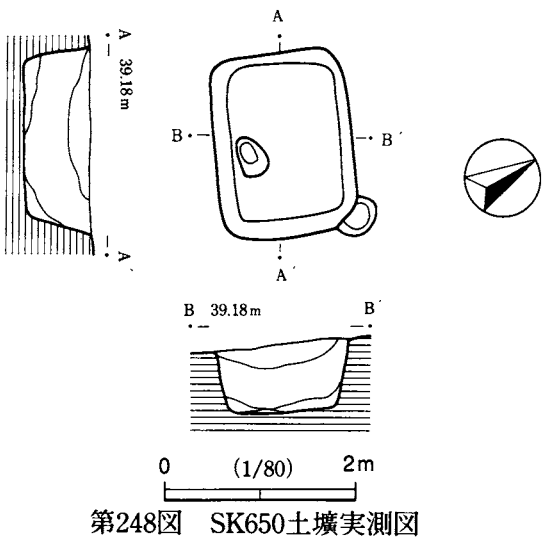
第245図　SK634・635土壙実測図



第246図　SK636土壙実測図



第247図　SK637土壙実測図

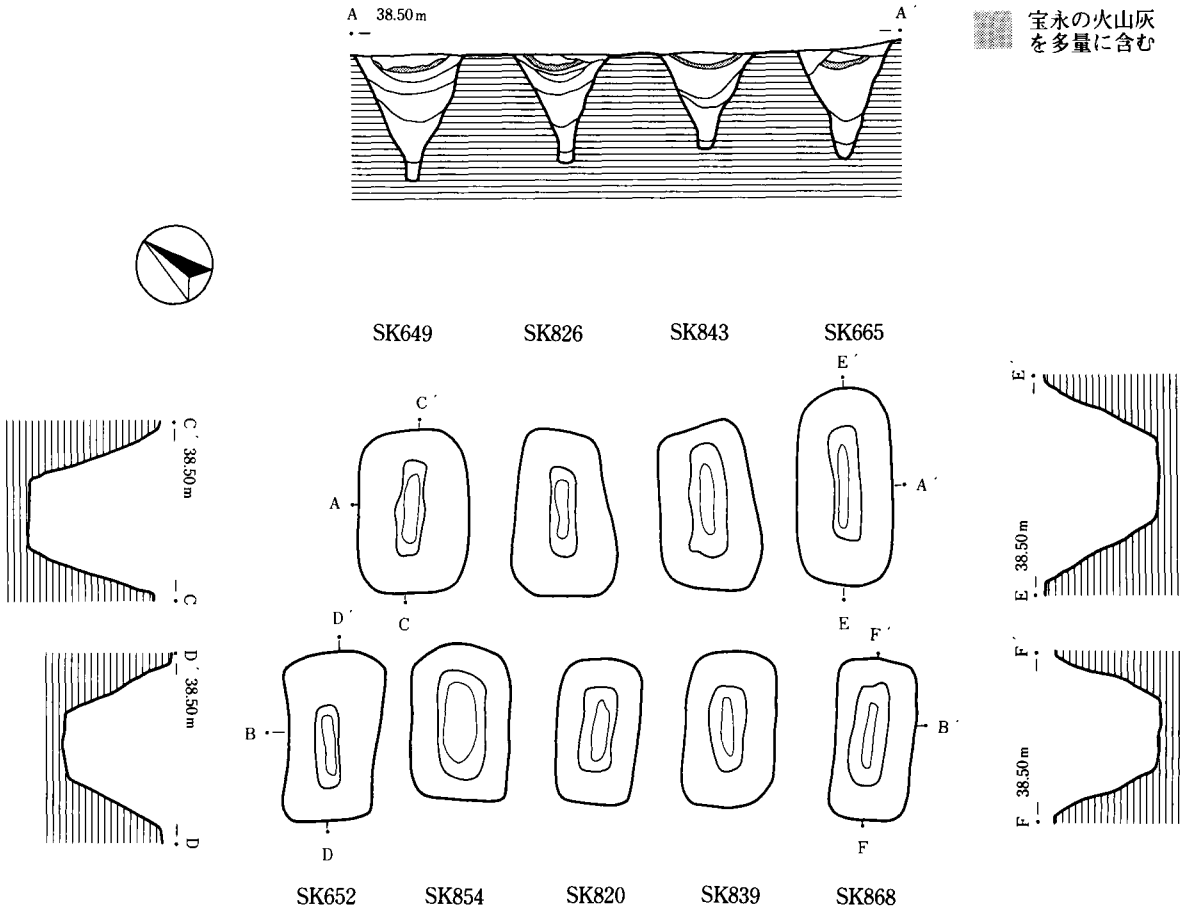


第248図　SK650土壙実測図

第30表 その他の遺構一覧表

単位cm

遺構番号 挿図番号	種 類	位 置	形 態	規模(長×短)	深さ	図版番号	備 考
SK126 230	土壙	C2-30	楕円形	245×171	184	—	覆土内に宝永の火山灰堆積 近世?
SK597 231	土壙	E5-38	楕円形	201×119	87	—	西側整地面内
SK598 232	土壙	F5-94	円形	径82	21	—	炭化物・焼土粒を多量に含む 中央整地面内
SK603 219	竪穴遺構	G6-05	楕円形	862×461	34	—	近世
SK610 219	土壙	E5-27	長楕円形	660×94	128	—	西側整地面内
SK611 219	土壙	E5-28	楕円形	149×81	134	—	西側整地面内
SK614 233	土壙	E5-59	長方形	229×142	68	50-3	中央整地面内
SK615 233	土壙	F5-50	長方形	167×123	—	50-3	北側長辺中央に円形の張り出しを持つ 中央整地面内
SK616 234	土壙	F5-60	方形	178×163	26	50-4	pit1あり 中央整地面内
SK618 234	土壙	F5-88	隅丸方形	161×129	69	—	東側整地面内(北東側の一段高い部分)
SK620 235	土壙	F5-98	楕円形	233×130	121	50-5	東側整地面内(平坦地縁辺部)
SK623 236	土壙	F6-08	隅丸方形	273×215	128	—	二重の掘り込みあり、砥石1出土 東側整地面内(平坦地縁辺部)
SK624 237	土壙	F6-39	長方形	253×179	49	50-6	pit2あり 東側整地面内(平坦地縁辺部)
SK625 238	土壙	F6-28	隅丸方形	160×143	77	51-1	東側整地面内(平坦地中央部)
SK626 219	土壙	F5-87	長楕円形	340×124	43	—	pit1あり、深さ51cm 東側整地面内(平坦地縁辺部)
SK627 239	土壙	F5-96	隅丸方形	266×226	28	—	東側整地面内(平坦地縁辺部)
SK628 240	土壙	F6-06	不整方形	325×250	28	—	東側整地面内(平坦地縁辺部)
SK629 241	土壙	F6-26	長方形	191×133	41	51-2	粘土検出、pit1あり、U字型鉄製品2出土 東側整地面内(平坦地縁辺部)
SK630 241	土壙	F6-26	不整方形	157×118	—	51-2	炭化材・焼土検出 東側整地面内(平坦地縁辺部)
SK631 242	土壙	F6-17	隅丸方形	262×189	48	—	粘土検出 東側整地面内(平坦地中央部)
SK632 243	土壙	G5-92	楕円形	172×121	27	—	不明鉄製品1出土 東側整地面内(北東側の一段高い部分)
SK633 244	土壙	F6-36	隅丸方形	180×120	44	51-3	東側整地面内(平坦地縁辺部)
SK634 245	土壙	G6-10	楕円形	167×100	56	51-4	東側整地面内(北東側の一段高い部分)
SK635 245	土壙	G6-10	楕円形	74×47	51	51-4	焼土粒を多量に含む 東側整地面内(北東側の一段高い部分)
SK636 246	土壙	F6-49	隅丸方形	325×193	63	51-5	pit3あり 東側整地面内(平坦地縁辺部)
SK637 247	土壙	G6-30	隅丸長方形	234×150	67	51-6	東側整地面内(平坦地縁辺部)
SK640 219	竪穴遺構	F5-38	不整円形	431×419	22～38	—	ピット群内 カメ体部片(須恵質)出土
SK645 219	竪穴遺構	F4-95	不整円形	351×342	30～50	—	ピット群西側外近
SK647 219	竪穴遺構	F5-37	楕円形	384×369	32～49	—	北宋銭出土(3点)、ピット群内 近世溝状遺構SD022に大部分を切られる
SK648 219	竪穴遺構	F4-98	不整方形	452×353	9～20	—	ピット群内
SK650 248	土壙	G5-10	隅丸長方形	192×144	71	52-1	pit1あり、深さ32cm ピット群内
SD010 219	溝状遺構	F5-76 G5-70	不整長方形	23.5m×6.0m～2.5m	40～56	—	かわらけ小皿1、常滑焼(コネ鉢2、カメ1、椀1) 青磁椀1、砥石2出土
SX007 219	竪穴遺構	F5-09	不整楕円形	958×450	11～28	—	常滑焼コネ鉢1出土
SX009 219	特殊遺構	G5-82	不整方形	8.5m×7.6m	1.3～1.8	523	常滑焼コネ鉢1、コネ鉢1出土



第249図　SK649・652・665・820・826・839・843・854・868
近世陥穴状遺構実測図

第31表　近世陥穴状遺構計測表　　単位cm

遺構番号	位　置	形　態	規模(長×短)	深さ	備　考
SK649	H4-50	長方形	350×228	268	宝永の火山灰堆積
SK652	G4-59	長方形	348×204	218	
SK665	H4-61	長方形	406×198	232	宝永の火山灰堆積
SK820	G4-69	長方形	302×172	238	覆土内に土師器(実測可能)3点出土(流れ込み)
SK826	H4-50	長方形	340×208	230	宝永の火山灰堆積
SK839	H4-70	長方形	326×188	214	
SK843	H4-61	長方形	338×196	204	宝永の火山灰堆積
SK854	G4-59	長方形	322×204	224	
SK868	H4-70	長方形	332×170	222	

第2節　出土遺物の概要（第250図～第262図・第32表～第35表・図版82，85～88）

中・近世の遺物はほとんどが破片で、量的には極めて少ない。遺物量が少ない中でも分類すると、陶器・磁器・かわらけ、鉄製品、銅製品、銭貨、砥石とに大別できる。中世の遺物としては陶器が数的に最も多く、なかでも常滑焼が主体で、かわらけ、磁器の順に出土した。鉄製品はU字型鉄製品、止め金具、用途不明の鉄製品が出土した。銅製品は和鏡、杯、キセル、鋲頭、釧、鈴が出土した。これらの鉄製品及び銅製品に関しては時期不明のものもある。銭貨については初鋳年代のわかる北宋銭、寛永通寶が主体で、その他に鉄銭、永楽通宝が出土した。

1　陶器・磁器・かわらけ（第250図～第258図・第32表・図版86，87）

遺構内出土のものでは、先述したＳＫ181土壙墓から人骨（頭骨）とともに出土したかわらけの小皿（250-3・4・5・6）4点があげられる。また、地下式壙ＳＫ621の床面からは常滑焼のコネ鉢（251-1・2）2点が出土した。この2点については、胎土・焼成・色調等が酷似しているため同一個体の可能性がある。中世ピット群内のほぼ中央に位置する竪穴遺構ＳＫ640の覆土中からは、須恵質の甕の体部片（255-1）1点が出土した。中世整地面遺構内の溝状遺構ＳＤ010の覆土中からは、かわらけの小皿（252-1）1点、常滑焼のコネ鉢（254-6・7）2点、常滑焼の椀（253-4）、常滑焼の甕頭部片（253-5）、青磁の椀底部片（254-8）それぞれ1点、砥石（252-2・3）2点の、計8点が出土した。砥石2は凝灰岩、3は常滑焼のコネ鉢を利用している。竪穴遺構ＳＸ007の覆土中からは、常滑焼のコネ鉢（256-1）1点が出土した。特殊遺構ＳＸ009の覆土中からは、常滑焼のコネ鉢（257-1）1点、コネ鉢（257-2）1点の、計2点が出土した。遺構外からは、常滑焼（鉢2点・擂鉢1点・コネ鉢1点・カメ2点）が6点、磁器（青磁1点・壺1点・灯明皿1点）が3点、砥石（瓦利用）1点の、計10点が出土した。

土壙墓ＳＫ181から出土したかわらけ4点（250-3・4・5・6）については、本報告書より先行するかたちで、詳細に報告されている。[1)]

2　金属製品（第250図，第260図～第262図・第33表～第35表・図版82，85，86，88）

時期を確定できないものもあるが、一応中・近世と思われる銅製品のうち、図示できた銅製品は7点である。

土壙墓ＳＫ181からは人骨（頭骨）、かわらけ小皿4点、炭化米と一緒に和鏡が出土している（第250図1，2・図版86）。和鏡は遺体の背中付近から鏡面を下にして出土した。遺存状況は非常に良好で、鏡全面に薄く緑青が吹いている他には損傷はほとんど認められない。また、鏡面は部分的に、白銅色に光っている。

鏡は甜瓜双鳥鏡と呼ばれる和鏡で、鏡面径9.7cm、鏡背面径9.8cm、縁高0.5cm、縁幅0.5cm、内区径7.3cm、鈕径2.0cm、鈕高2.0cm、鈕孔径0.15cm、重量123.8ｇを計測する。鏡面は端部で0.15cm程度反る凸面を呈しており、それに続く縁は外傾式厚縁である。鏡背面中央に作られたは鈕は、菊座の花芯形態を呈す。鏡背面は、径7.3cmの細線単界圏によって内・外区に分けられている。この界圏は主鋳文である甜瓜の茎として利用され、鏡背面に巡らされている。また、界圏にそって4個の果実及び2花7葉が表現されている。鏡背面下部で、界圏上に甜瓜が表現されていない部分には流水が表現されている。流水には蚊屋吊草が緩やかな曲線を描いて生えている。甜瓜の茎として利用されている細線単界圏の内区には、相対して飛び交う2羽の小鳥と茎を離れた3葉の甜瓜の葉が、鈕を巡って配されている。鏡背面の文様は細部に至るまで鮮明で、鋳崩

れや手ずれ等は認められない。[1]

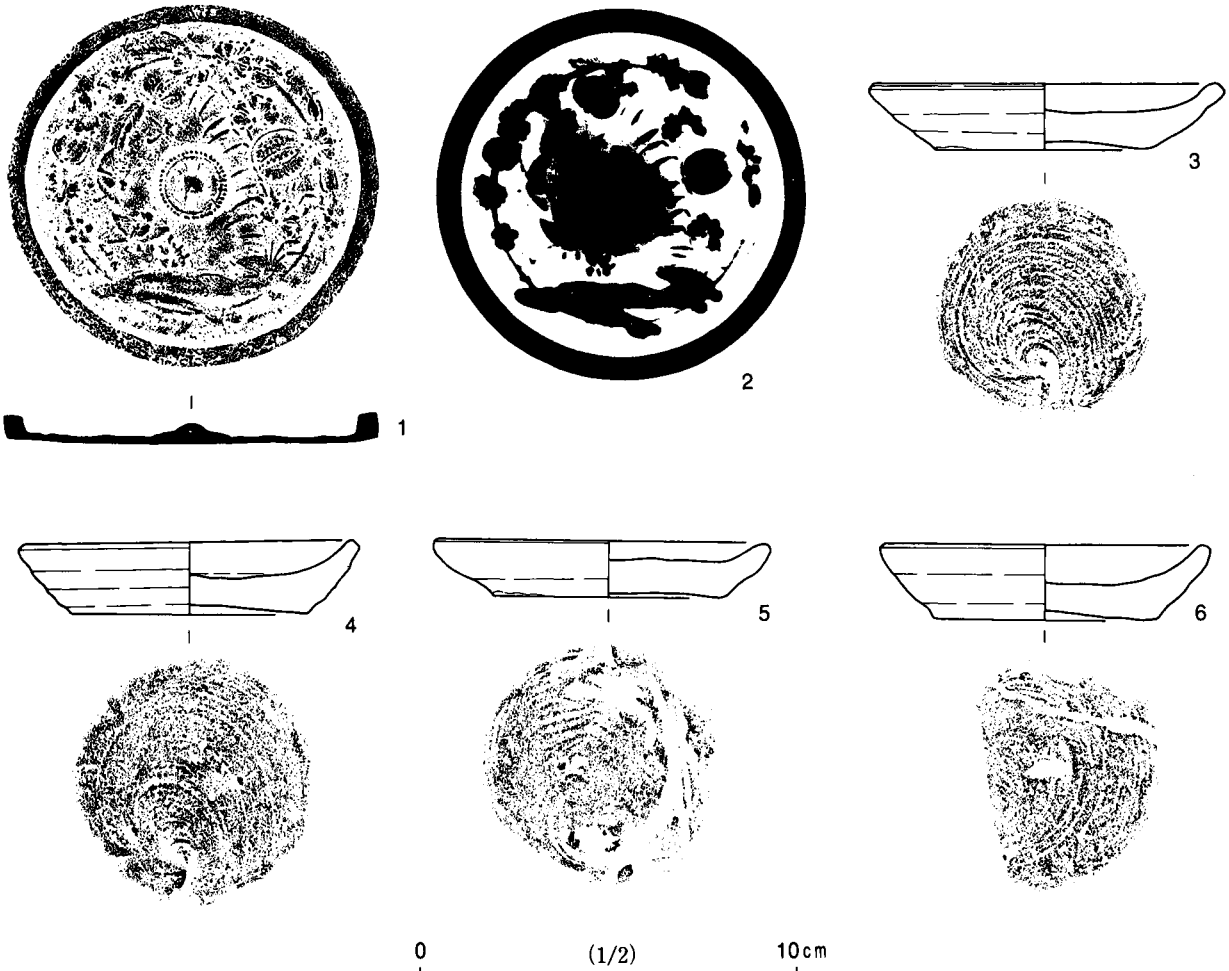
溝状遺構ＳＤ020の覆土上層からは高台付きの銅杯が出土している（第260-1図・第33表・図版85-1）。杯全面には薄く緑青が吹いており、側面及び底面から打撃を受け、器形は大きく変形している。側面からの打撃は体部を内側に抉り込ませ、底面からの打撃は底部を内側に盛り上がらせている。また、体部には内側からの打撃による穴が1か所みられる。ＳＤ020の覆土上層からの出土であるが、本遺構に伴うものかどうかは不明である。

2～4は遺構外出土の銅製のキセルである。2は火皿部から雁首部まで遺存し、火皿部内面に若干の緑青が吹いている。銅製品と思われるが、銅の比率が少なく錫の比率が多いせいか、外面には光沢が残っている。3は火皿部のみで、全面に緑青が吹いている。4は吸い口部で、全面に厚く緑青が吹いている。5は銅製品の鋲頭で、全面に緑青が吹いている。6は銅釧で全面に緑青が吹いており、断面は円形を呈している。時期的には、中・近世ではなく古墳時代の可能性もあるが、遺構に伴っていないので時期は不明である。7は銅製の鈴である。やや偏平気味で表面は若干の緑青が吹いているが、光沢をもっている。外面頭部の鈕は欠損しているが、痕跡はしっかり残っている。出土状況は不明で、時期は確定できない。

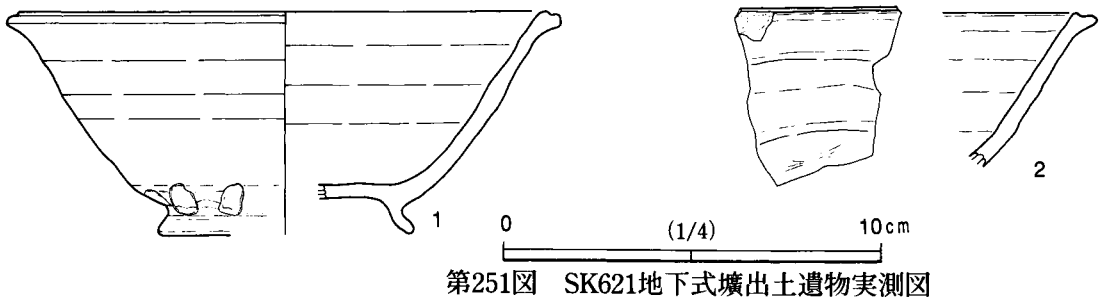
銅製品と同じく、時期を確定できない鉄製品もあるが、一応中・近世と思われる鉄製品のうち、図示できた鉄製品は6点である。その他も鉄製品は何点か出土しているが、錆びが進行しボロボロになった状態になっており、図示不能であった。1～3はＵ字型鉄製品で、1・2は中世東側整地面内にある土壙群の性格不明土壙ＳＫ629の床面及び覆土下層から出土した。3は出土状況は注記がなく不明であるが、近世溝状遺構ＳＤ015出土である。この3点とも若干長さが異なるが、形態的には酷似しており、同一時期のものであると思われる。4・5は止め金具で、4は中世竪穴遺構ＳＸ007の覆土中層から出土した。このＳＸ007からは常滑焼のコネ鉢も覆土上層からではあるが、出土している。5はグリッド一括のため出土状況は不明であるが、形態的には4と酷似しており、同一時期のものであると思われる。6は錆びが進行しており剥離が激しい状態であったが、かろうじて図示できた用途不明の鉄製品である。断面は方形を呈し両端に行くにつれ細くなる。また、端部の一方には木質が付着しており、この部分が柄となるようである。この不明鉄製品は中世東側整地面内にある土壙群の性格不明土壙ＳＫ632の床面から出土した。

本遺跡から出土した銭貨は計50点で、そのうち拓影図で表すことができたものが39点である。銭貨の計測にあたっては、第262図下に表した方法で行った。50点のうち銭貨名を判別できたのが42点で、そのうち北宋銭が21点、寛永通寶が20点、永楽銭が1点である。また、50点のうち鉄銭が5点で、すべてが判別不能であった。銭貨はほとんどが遺構外出土で、古墳時代の竪穴住居跡の覆土内から出土したり、縄文貝層である南斜面貝層の小グリッド内から出土した、いわゆる流れ込みと思われるものに関しては、第1章第1節2の調査の方法（第2図）で示したとおり、混乱を避けるため通常のグリッドに変換し、第35表の出土地点の欄にはグリッド番号で記載した。また、備考欄には変換前の遺構及びグリッド番号を併記した。遺構に伴って出土した銭貨は9点で、ＳＫ612，ＳＫ647・ＳＤ005・ＳＤ018・ＳＤ020・ＳＤ022の各遺構の覆土中から出土している。

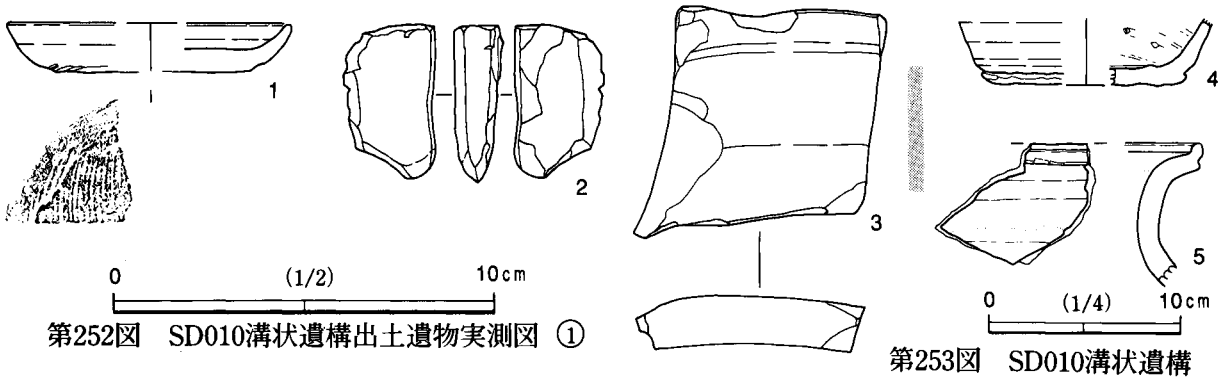
注1　笹生　衛　1986「有吉北貝塚における中世土壙墓とその出土遺物-中世初期土壙墓の様相について-」
『研究連絡誌』第15・16号　財団法人千葉県文化財センター



第250図　SK181土壙墓出土遺物実測図

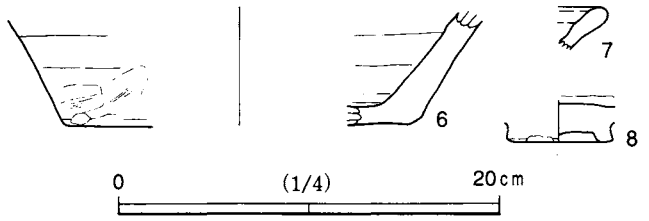


第251図　SK621地下式壙出土遺物実測図

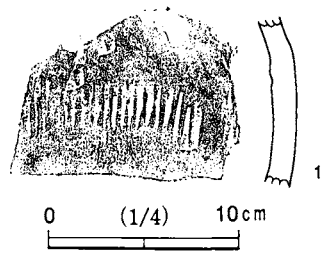


第252図　SD010溝状遺構出土遺物実測図 ①

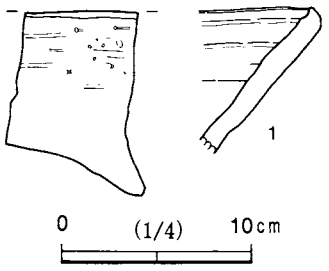
第253図　SD010溝状遺構
出土遺物実測図 ②



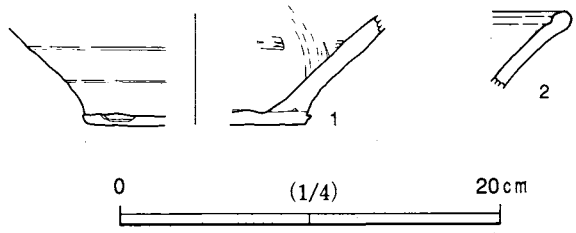
第254図　SD010溝状遺構出土遺物実測図 ③



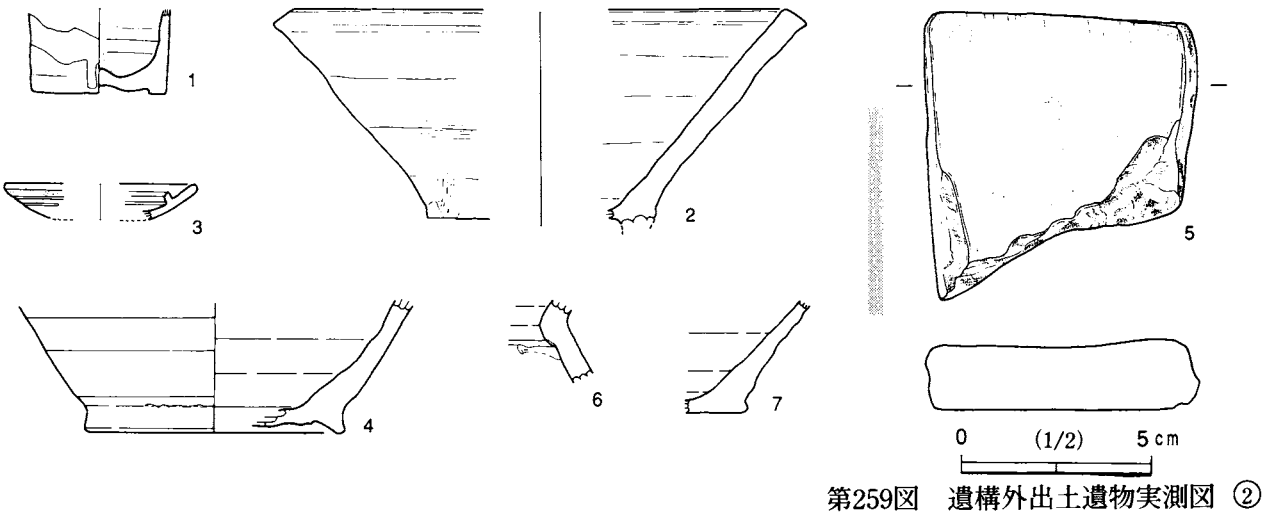
第255図　SK640堅穴遺構出土遺物実測図



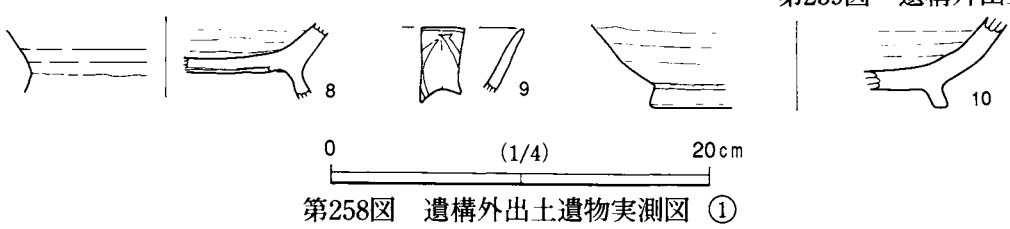
第256図　SX007出土遺物実測図



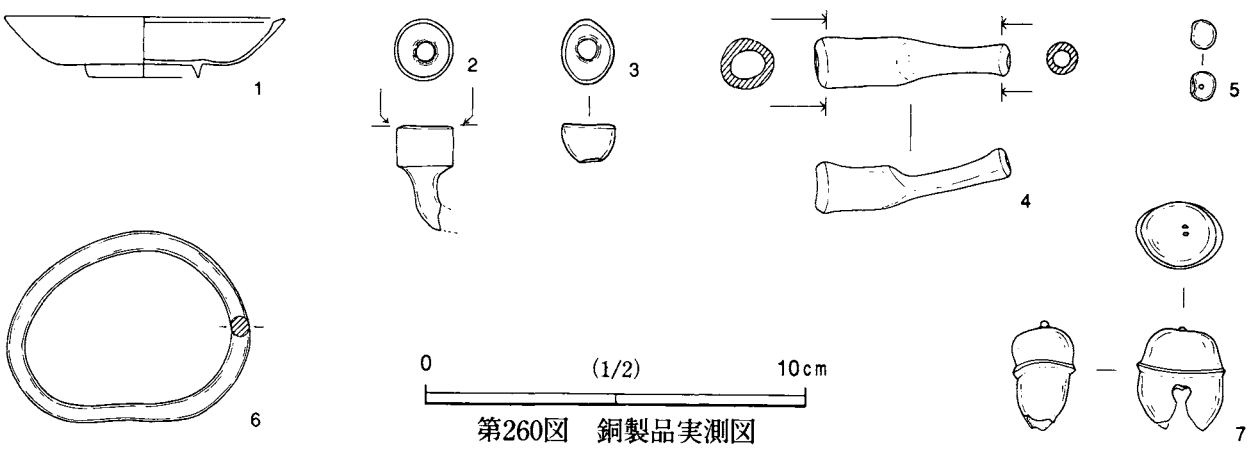
第257図　SX009出土遺物実測図



第259図　遺構外出土遺物実測図 ②



第258図　遺構外出土遺物実測図 ①



第260図　銅製品実測図

第32表　中世遺物計測表

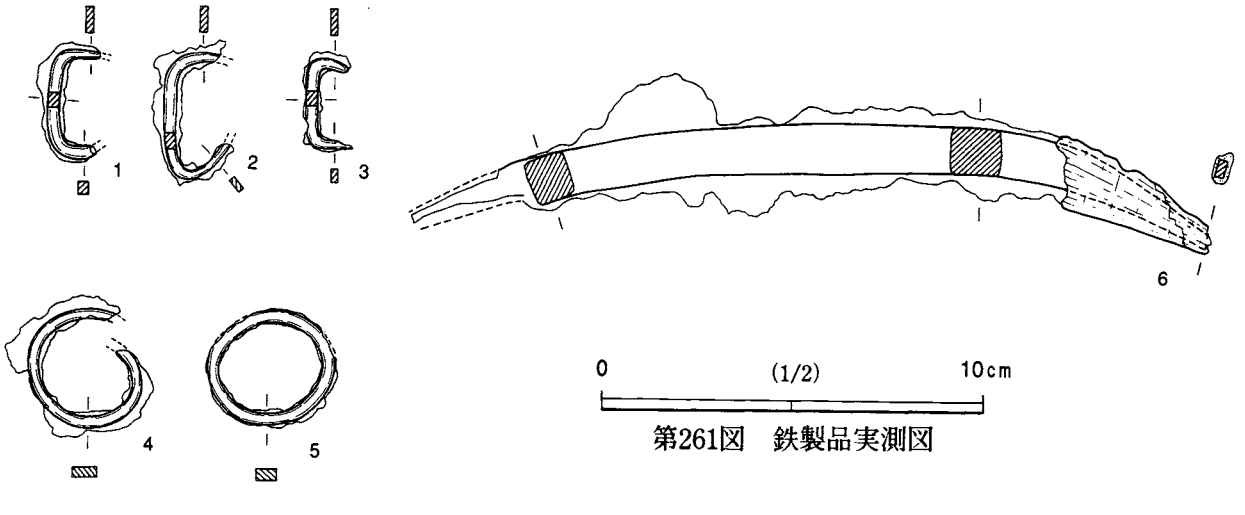
（）現存長

遺構	挿図番号	器種	遺存度	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	最大径 (cm)	胎土	焼成	色調(内／外)	出土状況	図版番号	備考
SK181	250-3	かわらけ小皿	85%	8.9	5.6	1.8	—	雲母(やや多)・長石・石英・スコリア・砂粒(多)・黒色粒子(多)	普通	にぶい淡橙褐	覆土下層	86-3	ロクロ成形 底部回転糸切り
SK181	250-4	かわらけ小皿	98%	8.6	6.1	1.9	—	雲母(やや多)・長石・石英・スコリア・砂粒(多)	普通	淡橙褐～にぶい淡橙褐	覆土下層	86-4	ロクロ成形 底部回転糸切り
SK181	250-5	かわらけ小皿	完形	8.7	6.1	1.5	—	長石・石英・スコリア・砂粒(多)	普通	淡橙褐(一部橙褐)	覆土下層	86-5	ロクロ成形 底部回転糸切り
SK181	250-6	かわらけ小皿	50%	8.3	(5.6)	2.0	—	雲母(やや多)・長石・石英・スコリア・砂粒(多)・黒色粒子(多)	普通	淡橙褐	覆土下層	86-6	ロクロ成形 底部回転糸切り
SK621	251-1	常滑コネ鉢	20%	(27.6)	(13.6)	(11.7)	(29.3)	長石(多)・石英・砂粒(少)	良	灰色	床面	86-1	F6-49と接合
SK621	251-2	常滑コネ鉢	15%	—	—	(7.9)	—	長石(多)・石英・砂粒(少)	良	灰色	床面	86-2	同一個体?
SK640	255-1	カメ体部	10%	—	—	—	—	砂粒(少)	良	灰色	覆土上層	87-1	外面押印
SD010	252-1	かわらけ小皿	25%	(7.4)	(5.1)	(1.3)	—	雲母(やや多)・長石・スコリア・砂粒・黒色粒子(多)	良	淡橙褐	覆土中層	86-1	ロクロ成形 底部回転糸切り
SD010	252-2	砥石		—	—	—	—	—	—	白色	覆土中層	—	重量13.7g・凝灰岩
SD010	252-3	コネ鉢利用の砥石		—	—	—	—	—	—	青灰色	覆土中層	86-3	
SD010	253-4	常滑椀	15%	—	(10.7)	(3.5)	—	白色粗大礫(多)	良	紫褐色	覆土中層	86-4	ロクロ成形 SD014と接合
SD010	253-5	常滑カメ頭部	10%	—	—	—	—	白色粗大礫(少)	良	紫褐色	覆土下層	—	ロクロ成形
SD010	254-6	常滑コネ鉢	20%	—	(18.2)	(5.9)	—	石英・スコリア・砂粒(多)	良	暗紫褐色	覆土中層	87-6	ロクロ成形
SD010	254-7	常滑コネ鉢	10%	—	—	—	—	長石(多)	普通	青灰色	覆土中層	87-7	ロクロ成形
SD010	254-8	青磁椀底部	10%	—	(5.1)	—	—	密	良	灰緑色	覆土下層	87-8	削り出し高台
SX007	256-1	常滑コネ鉢	10%	—	—	—	—	砂粒(多)	良	褐色	覆土上層	87-1	ロクロ成形
SX009	257-1	常滑コネ鉢底部	10%	—	(21.8)	(5.5)	—	砂粒(少)	良	褐色	覆土上層	87-1	ロクロ成形
SX009	257-2	コネ鉢	10%	—	—	—	—	白色礫(多)	良	紫褐色	覆土上層	87-2	ロクロ成形
E1-40	258-1	壷底部	20%	—	7.1	(4.3)	—	礫(多)	良	黄褐色	遺構外	87-1	北斜面貝層(Ⅲ-30)
E1-31	258-2	常滑コネ鉢	30%	(28.1)	—	(10.9)	—	白色粗大礫(多)	良	褐色	遺構外	87-2	北斜面貝層(Ⅲ-63)
D3-81	258-3	灯明皿	30%	(10.0)	(5.0)	(19.0)	—	密	良	褐色	遺構外	87-3	南斜面貝層(タ-60)
D4-63	258-4	常滑鉢	20%	—	(13.2)	(6.7)	—	長石(多・大粒)・石英・砂粒	良	青灰色	遺構外	87-4	SD016(流れ込み)
E4-17	259-5	瓦利用の砥石		—	—	—	—	—	—	暗灰色	遺構外	87-5	
F4-35	258-6	常滑カメ頭部	10%	—	—	—	—	長石(少)	良	青灰色	覆土中層	87-6	ロクロ成形 SD020(流れ込み)
F6-04	258-7	常滑擂鉢底部片	15%	—	—	—	—	礫(多)	良	黄褐色	遺構外	87-7	ロクロ成形
F6-04	258-8	常滑カメ	20%	—	(15.1)	(3.9)	—	砂粒(多)・白色礫(多)	良	灰色	遺構外	87-8	ロクロ成形
F6-04	258-9	青磁片	10%	—	—	—	—	密	良	青灰色	遺構外	87-9	
G6-11	258-10	常滑鉢	20%	—	(15.6)	(4.7)	—	長石・石英・砂粒(多)	良	黄褐色	遺構外	87-10	

第33表　銅製品計測表

単位mm

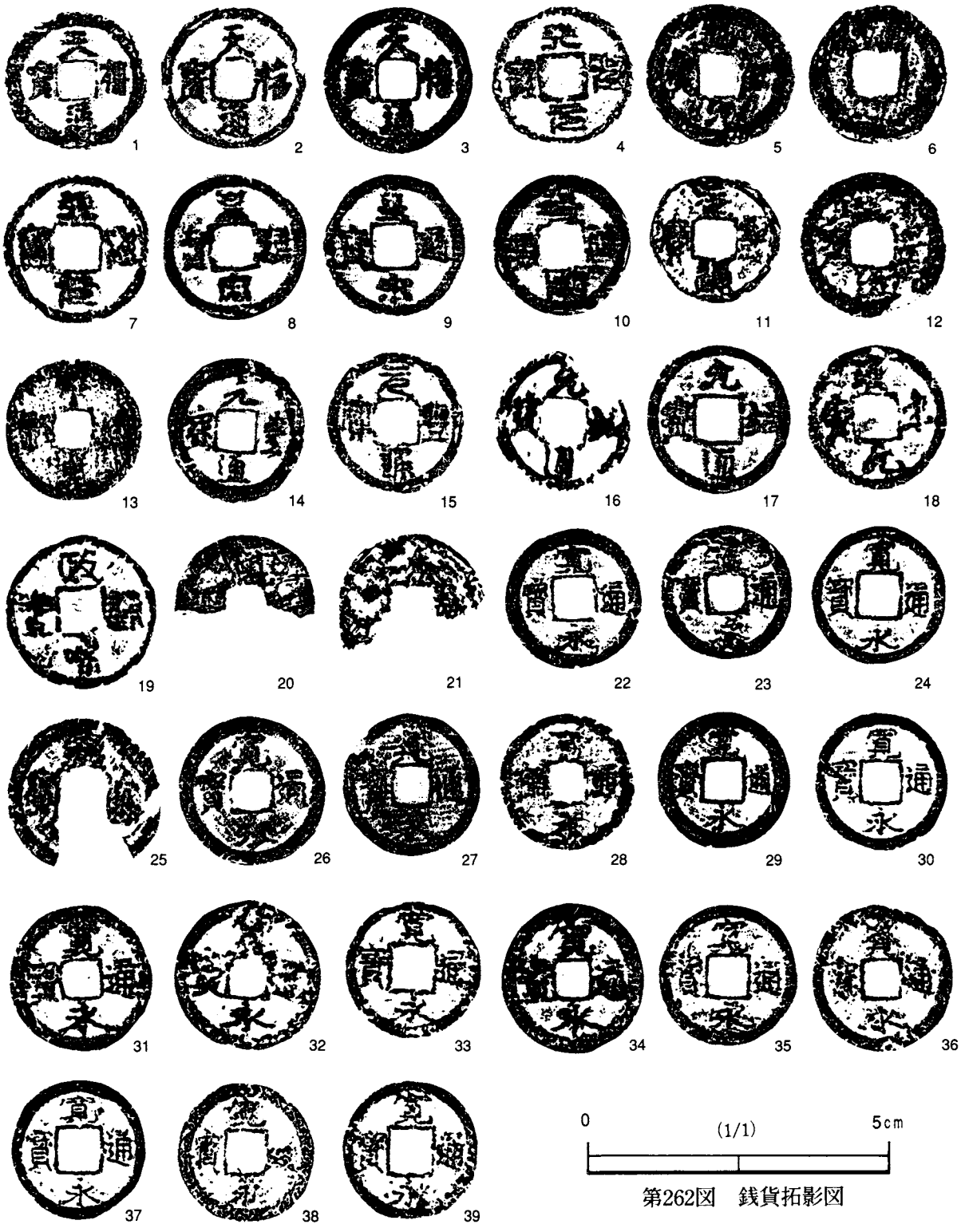
遺構番号	挿図番号	種　類	計 測 値	重 量 (g)	出土状況	図版番号	備　考
SK181	250-1 250-2	和鏡	P228参照		覆土下層	86-1 86-2	中世
SD020	260-1	銅杯	(口径)73.1(底径)47.5 (高台径)28.9(器高)15.6	32.07	覆土上層	85-1	時期不明
C3-59	260-2	キセル	(口径)15.5(厚さ)0.8	5.26	遺構外	82-2	近世　火皿部～雁首部
D4-08	260-3	キセル	(口径)長16.8　短14.1 (厚さ)1.0	2.05	遺構外	82-3	近世　火皿部
F4-11	260-4	キセル	(全長)51.4 (口径)長13.8　短12.9 (吸口部口径)8.5(厚さ)2.3	8.83	遺構外	82-4	近世　吸い口部
F6-03	260-5	鋲頭	(長径)7.5(短径)6.1	0.13	遺構外	82-5	時期不明
G4-23	260-6	銅釧	外径(長×短)64.5×49.7 内径(長×短)54.6×40.4 断面径(長×短)5.1×4.8	23.76	遺構外	82-6	時期不明
不　明	260-7	鈴	(高)26.0 厚さ(長×短)22.5×18.4	3.25	不　明	82-7	時期不明



第261図　鉄製品実測図

第34表　鉄製品計測表

遺構番号	挿図番号	全 長 (mm)	幅・径 (mm)	重 量 (g)	出土状況	図版番号	備　考
SK629	261-1	28.5	4.6	2.75	床　面	82-1	U字型鉄製品
SK629	261-2	32.8	5.7	4.70	覆土下層	82-2	U字型鉄製品
SD015	261-3	25.7	5.3	1.94	不　明	82-3	U字型鉄製品
SX007	261-4	－	9.1	11.15	覆土中層	82-4	止め金具
E4-04	261-5	－	6.0	8.62	不　明	82-5	止め金具
SK632	261-6	209.5	先端部112.0×110.0 木質部 45.0×25.0	132.33	床　面	82-6	不明鉄製品



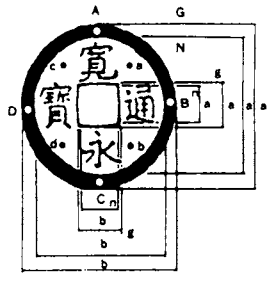
第262図　銭貨拓影図

＊銭貨の各部測点については下のとおりである。

外縁外径 $G = \frac{Ga+Gb}{2}$ ，外縁内径 $N = \frac{Na+Nb}{2}$ ，内郭外径 $g = \frac{ga+gb}{2}$

内郭内径 $n = \frac{na+nb}{2}$

外縁厚 $T = \frac{A+B+C+D}{4}$ ，文字面厚 $t = \frac{a+b+c+d}{4}$



第35表　銭貨計測表

番号	出土地点	銭貨名	W (g)	G (mm)	N (mm)	g (mm)	n (mm)	T (mm)	t (mm)	初鋳年代	書体	備　考
1	C2-61	天禧通宝	2.59	23.69	18.51	7.15	6.05	1.31	0.61	1017	楷書	北宋　南斜面貝層(ニ-98)　図版-88
2	SD022	天禧通宝	2.30	24.70	20.62	7.38	6.25	1.24	0.94	1017	楷書	北宋(SD022)
3	C3-12	天禧通宝	3.01	25.13	19.85	7.10	6.00	1.11	0.63	1017	楷書	北宋　南斜面貝層(チ-28)
4	F4-97	天聖元宝	2.03	23.72	20.85	8.10	6.30	1.00	0.63	1023	篆書	北宋(SB160)
5	SK647	天聖元宝	2.75	24.60	—	—	6.90	1.10	0.80	1023		天元通宝か
6	SD018	天聖元宝	2.03	23.47	18.79	8.53	7.10	1.08	0.84	1023	楷書	北宋
7	G5	天聖元宝	2.10	24.59	21.58	8.50	7.10	1.07	0.66	1023	篆書	北宋
8	SK647	皇宋通宝	2.60	24.80	19.70	8.15	6.68	1.24	0.84	1039	篆書	北宋
9	F5-84	皇宋通宝	2.51	23.96	20.00	7.80	6.90	1.08	0.58	1039	楷書	北宋
10	F4-97	元豊通宝	2.37	23.67	—	8.15	7.15	1.38	0.93	1078	篆書	北宋(SB160)
11	F4-99	元豊通宝	1.69	21.40	18.38	7.33	6.15	1.25	1.09	1078	篆書	北宋(SB162)
12	F4-91	元豊通宝	1.62	24.20	—	8.00	6.73	1.02	0.80	1078	行書	北宋(SB172)
13	H4-70	元豊通宝	2.31	23.50	—	—	6.15	0.96	0.76	1078		北宋(SB229)
14	C2-61	元豊通宝	1.97	24.11	17.44	7.19	6.05	1.35	0.61	1078	行書	北宋
15	F5-84	元豊通宝	3.33	23.68	19.39	7.30	6.40	1.28	0.78	1078	篆書	北宋
16	SD005	元祐通宝	1.51	23.07	19.01	8.15	6.65	—	0.84	1093	行書	北宋
17	F5-84	元祐通宝	2.52	24.50	20.73	7.90	6.80	1.16	0.81	1093	行書	北宋
18	G5-94	聖宋元宝	2.24	23.59	19.82	8.20	6.95	1.24	0.79	1101	行書	北宋(SB105)
19	SD022	政和通宝	1.96	25.03	22.30	8.20	6.80	1.28	0.84	1111	篆書	北宋
20	C2-61	—	0.90	—	—	—	—	—	—			
21	D3-62	—	(1.90)	—	—	—	—	—	—			鉄銭　南斜面貝層(ワ-37)
22	H5-63	寛永通宝	2.63	23.62	18.49	7.65	6.45	1.08	0.79			(SB237)
23	H5-64	寛永通宝	2.37	22.59	17.57	7.15	6.30	1.11	0.70			(SB237)
24	H5-64	寛永通宝	2.41	23.13	18.63	8.15	6.70	1.09	0.66			(SB237)
25	F5-44	寛永通宝	1.80	26.28	—	—	—	1.25	0.97			(P211)
26	F5-74	寛永通宝	3.15	25.35	19.67	7.18	6.00	1.16	0.64			
27	F6-02	寛永通宝	2.48	23.83	19.46	6.75	5.95	1.16	0.74			
28	C3-32	寛永通宝	2.21	23.35	18.84	7.00	5.83	1.05	0.78			南斜面貝層(ル-31)
29	C3-13	寛永通宝	2.09	22.61	17.16	7.10	6.05	0.96	0.58			南斜面貝層(チ-19)
30	C2-66	寛永通宝	1.75	22.96	18.84	7.05	6.20	0.91	0.49			南斜面貝層(ト-03)
31	C2-83	寛永通宝	2.87	24.28	19.78	6.60	5.65	1.21	0.70			南斜面貝層(ト-73)
32	C3-12	寛永通宝	4.05	24.36	20.28	7.30	5.40	1.51	0.94			南斜面貝層(ト-99)
33	C2-53	寛永通宝	2.82	23.10	18.95	7.60	6.10	1.44	1.03			南斜面貝層(ニ-38)
34	B2-89	寛永通宝	3.53	24.80	19.03	6.30	5.00	1.31	0.83			南斜面貝層(ホ-39)
35	D3-62	寛永通宝	3.22	23.85	19.10	7.15	6.20	1.36	0.80			南斜面貝層(ワ-37)
36	C3-59	寛永通宝	2.75	24.50	19.10	6.40	5.50	1.24	0.55			南斜面貝層(ワ-62)
37	C3-59	寛永通宝	2.57	22.90	18.55	7.86	6.65	1.30	0.76			南斜面貝層(ワ-62)
38	C3-59	寛永通宝	1.99	23.13	18.37	7.37	6.25	1.04	0.62			南斜面貝層(ワ-62)
39	C3-98	寛永通宝	3.44	23.51	19.18	8.18	6.92	1.55	1.10			南斜面貝層(ワ-94)
40	B2-99	天聖元宝	(1.00)	—	—	—	—	—	—	1023	篆書	1/4存　拓本なし　南斜面貝層(チ-99)
41	SK612	皇宋通宝	1.39	24.69	21.00	—	—	1.00	0.78	1039	楷書	北宋　拓本なし
42	E4-61	—	(1.70)	—	—	—	—	—	—			鉄銭　拓本なし(SB152)
43	F4-97	—	(0.38)	—	—	—	—	—	—			拓本なし(SB160)
44	F4-97	—	(0.34)	—	—	—	—	—	—			拓本なし(SB160)
45	H5-63	—	(3.86)	—	—	—	—	—	—			鉄銭　拓本なし(SB237)
46	SK647	—	(2.98)	—	—	—	—	—	—			鉄銭　拓本なし
47	D3-80	—	(2.72)	—	—	—	—	—	—			鉄銭　拓本なし　南斜面貝層(ワ-80)
48	D1-64	永楽通宝	3.25	25.47	20.86	6.64	5.55	1.32	0.69			拓本なし
49	SD020	寛永通宝	1.15	(23.50)	(19.26)	—	—	(1.03)	(0.69)			1/2存　拓本なし
50	C3-59	寛永通宝	3.36	25.05	19.33	6.72	5.78	1.32	0.58			拓本なし　南斜面貝層(ワ-62)

第4章　まとめ

第1節　古墳時代から奈良・平安時代

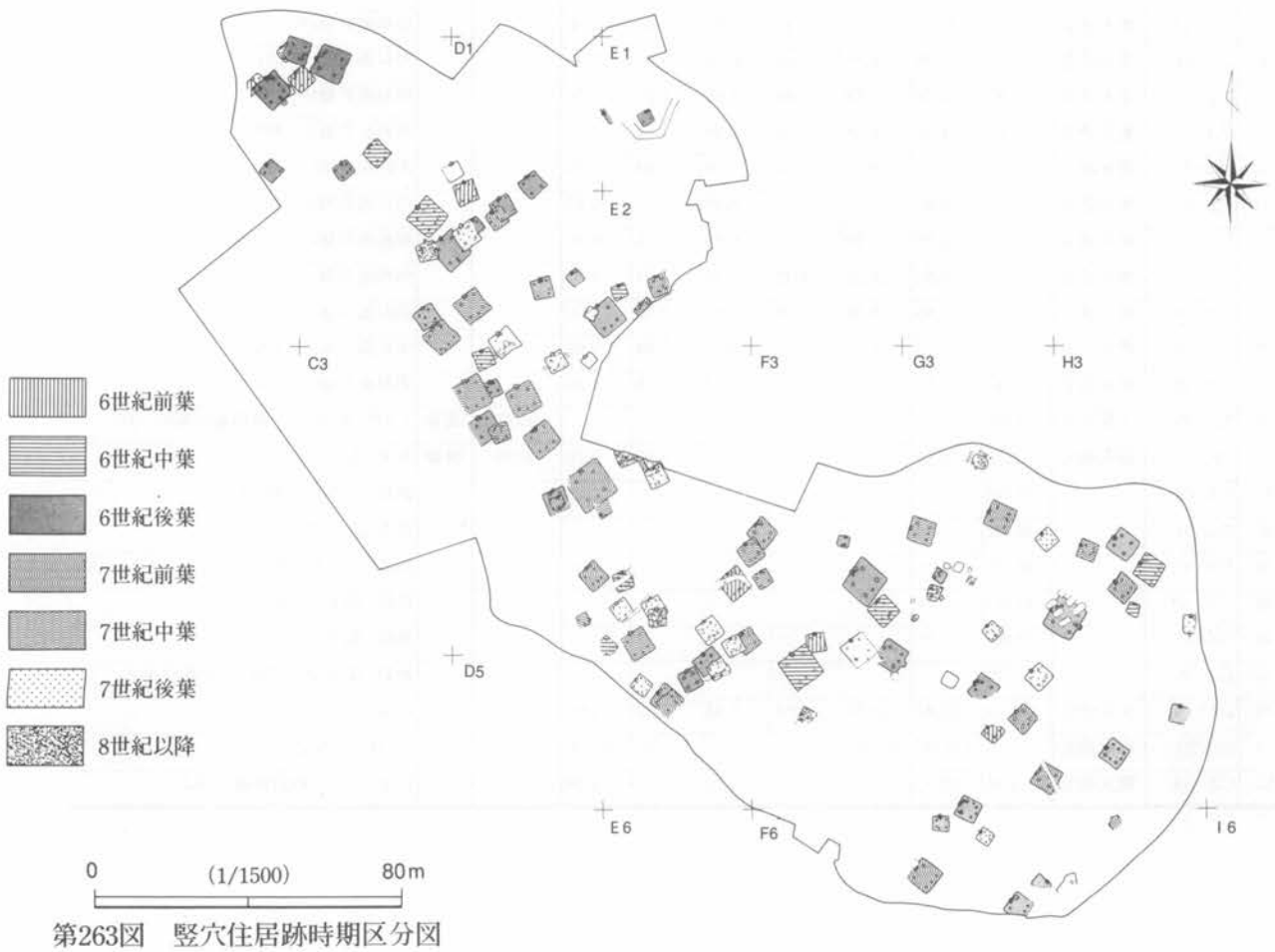
1　検出遺構について

まず、検出された遺構について述べる前に、ここでは時期区分の機軸について簡単に示しておく。竪穴住居跡の時期区分は、竪穴住居跡の床面、カマド、貯蔵穴出土の土器に主眼を置き、共伴する須恵器、竪穴住居跡の重複関係により試みた。また、近年、集落遺跡の調査の増加に伴い進展している土器編年の成果も参考にした。時期区分については、1世紀間を前葉・中葉・後葉に細分することを基本としたが、細分不明のものも多い。このような細分不明の竪穴住居跡については、前葉～中葉・中葉～後葉、8世紀（8C）等のように幅広い時期区分で表した。

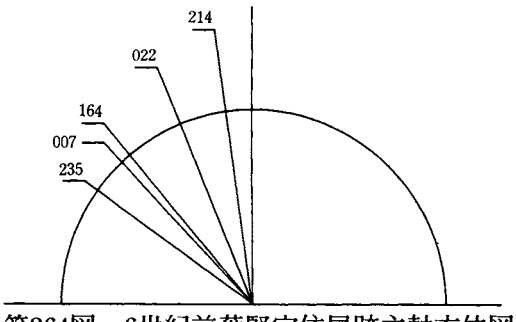
本遺跡では竪穴住居跡が108軒検出された。上記により時期をほぼ区分できたものは99軒で、残りの9軒については時期不明である。時期区分できた99軒の竪穴住居跡のうち細分できたものは66軒、細分不明のものは33軒である。細分不明の33軒のうち、前葉～中葉・中葉～後葉等のように世紀間をある程度まで区分できた竪穴住居跡は30軒で、世紀単位でしか区分できなかったものは3軒である。

時期区分できた99軒の竪穴住居跡の内訳は次のとおりである。

6世紀代は49軒（前葉6軒、中葉10軒、後葉33軒）、7世紀代は45軒（前葉19軒、中葉11軒、後葉15軒）8世紀代は4軒（前葉2軒、不明2軒）、11世紀代は1軒である。

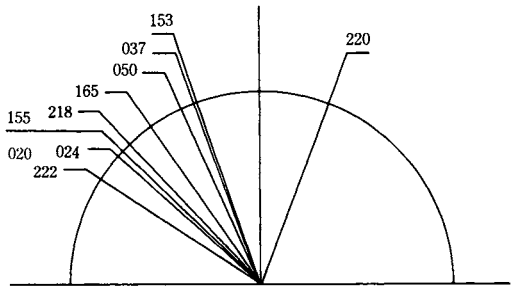


第263図　竪穴住居跡時期区分図



第264図　6世紀前葉竪穴住居跡主軸方位図

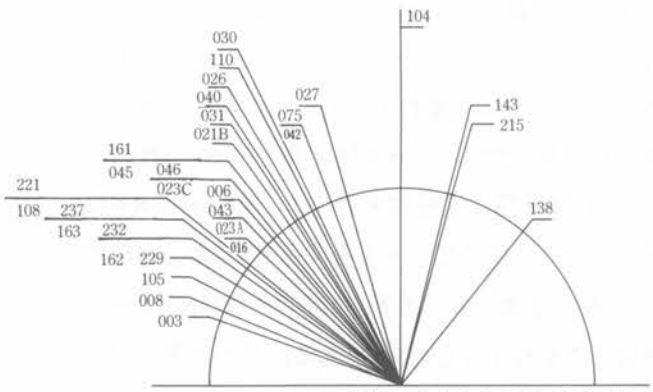
6世紀前葉の竪穴住居跡はＳＢ005・007・022・164・214・235である。時期不明の9軒の竪穴住居跡のうちＳＢ015は切り合い関係から、6世紀前葉以前にその時期が求められるため、計7軒になる可能性もある。この時期の竪穴住居跡を構造上から細分すると、4本柱を有するもの4軒、うちＳＢ022は柱穴間壁側に支柱穴を有する、いわゆる6本柱の竪穴住居跡である。梯子ピットを有するもの3軒、貯蔵穴を有するもの1軒、壁溝を有するもの4軒（うち2軒は全周せず）、間仕切り溝を有するもの1軒である。この時期の竪穴住居跡の主軸方位はＮ－8°～54°－Ｗの範囲にある。平均の床面積は28.4㎡で、貼床を施したもの1軒である。縄文時代以降再び集落が構成される初現の時期としては、この時期の6軒の竪穴住居跡は部分的に集中することなく台地全面を意識した集落構成をみせ、竪穴住居跡の形態も軒数が少ないわりには多様化の傾向が窺える。平均の床面積は28.4㎡である。



第265図　6世紀中葉竪穴住居跡主軸方位図

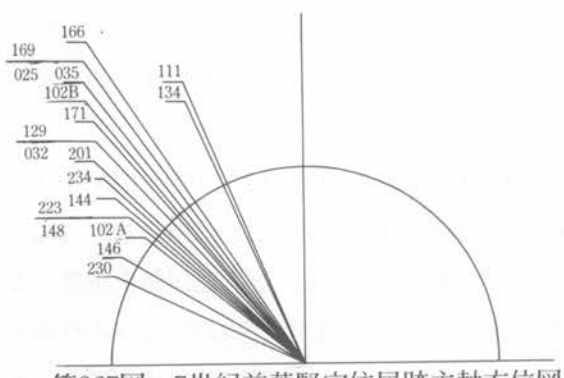
6世紀中葉の竪穴住居跡はＳＢ020・024・037・050・153・155・165・218・220・222である。時期不明の9軒の竪穴住居跡のうちＳＢ002及びＳＢ014の2軒については、切り合い関係から、6世紀後葉以前にその時期が求められるため、計12軒になる可能性もある。この時期の竪穴住居跡を構造上から細分すると、4本柱を有するもの8軒、うちＳＢ024は柱穴間中央に支柱穴を有する、6本柱の竪穴住居跡である。また、ＳＢ220のように柱穴がまったくなく、貯蔵穴のみの小型の竪穴住居跡も1軒みられる。梯子ピットを有するものが7軒あるが、そのピットをコの字に囲うように若干の盛土がみられるＳＢ165や、同じく周辺に窪みがみられるＳＢ218等の竪穴住居跡も検出されている。貯蔵穴を有するもの5軒、壁溝は10軒すべてにみられるが、うち5軒は全周しない。間仕切り溝を有するものは2軒である。竪穴住居跡の主軸方位は、ＳＢ220がＮ－21°－Ｅと東側に突出する以外は、Ｎ－19°～57°－Ｗの範囲にある。平均の床面積は30.9㎡で、貼床を施したものは2軒、建替えは1軒である。この時期にはＳＢ165（67.9㎡）や、ＳＢ024（55.8㎡）のような大型の竪穴住居跡が2軒みられる一方、ＳＢ220（7.1㎡）や、ＳＢ050（10.3㎡）のような小型の竪穴住居跡が2軒みられるなど、竪穴住居跡の形態・規模は多様化してくる。集落構成に関しては前時期同様、部分的に集中することなく台地全面を意識した集落構成が窺える。

6世紀後葉の竪穴住居跡はＳＢ003・006・008・016・021Ｂ・023Ａ・023Ｃ・026・027・029・030・031・040・042・043・045・046・075・104・105・108・110・138・143・161・162・163・215・221・229・232・237・240である。この時期になると竪穴住居跡の軒数は33軒で、急激に増加する。竪穴住居跡を構造上から細分すると、4本柱を有するもの24軒、うちＳＢ006・237には柱穴間中央に支柱穴を有する、6本柱の竪穴住居跡である。また、ＳＢ026は貼床・建替えが行われた竪穴住居跡であるが、貼床前には支柱穴があり、貼床後には支柱穴を持っていない。ＳＢ016は柱穴3か所、ＳＢ030・215は柱穴2か所、ＳＢ138は柱穴



第266図　6世紀後葉竪穴住居跡主軸方位図

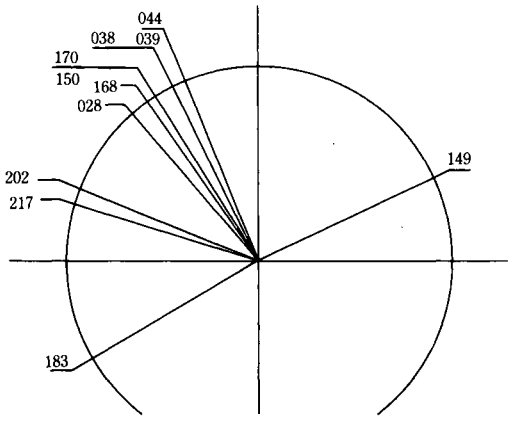
1か所、ＳＢ046・143は柱穴がまったくない。このように4本柱を持たず、柱穴数3から柱穴をまったく持たない竪穴住居跡が6軒みられる。これらの竪穴住居跡はすべて小型のものである。また、ＳＢ240のように平面プランが不正方形で、柱穴4か所が不規則に配置された竪穴住居跡もみられる。この竪穴住居跡はカマドを持たず床面中央に炉を持っており、住居内には貝層が検出されている。梯子ピットを有するものが16軒あるが、そのピットの周辺を囲うように若干の盛土が見られるＳＢ163・221・237や、同じく周辺に窪みがみられるＳＢ108等の竪穴住居跡も検出されている。一方、ＳＢ026は貼床前には梯子ピットがあり、貼床後には梯子ピットはみられない。この時期から、ＳＢ006・162・229のようにカマドと対面する壁の中央部を床面まで方形に掘り込んだ入口施設を持つ竪穴住居跡が3軒みられるようになる。3軒のうちＳＢ162は床面積の計測は不能であるが、ＳＢ006は49.5㎡、ＳＢ229は66.6㎡を測る大型の竪穴住居跡である。貯蔵穴を有するものは13軒で、貼床前には貯蔵穴があり貼床後にはない竪穴住居跡4軒（ＳＢ026・031・105・108）が確認できた。また、ＳＢ163には住居構築時には掘り込みはしたが、すぐに埋め戻した痕跡がみられた。壁溝が全周するもの9軒、全周せず部分的にあるもの13軒、残りの11軒はまったくないもの及び不明のものである。間仕切り溝を有するものは4軒で、ＳＢ237は壁溝と間仕切り溝で長方形に区画された部分が、ベッド状に一段高く作られていた。一方、ＳＢ108は貼床前には間仕切り溝があり、貼床後にはなくなる。平均の床面積は32.1㎡で、貼床を施したものは5軒、建替えは3軒である。この時期にはＳＢ163が70.0㎡、ＳＢ229が66.6㎡、ＳＢ045が57.4㎡、ＳＢ023Ａが57.3㎡、ＳＢ008が55.0㎡というように床面積が50㎡を超える大型の竪穴住居跡が5軒もある。また、ＳＢ240が8.0㎡、ＳＢ215が7.4㎡というように床面積が10㎡に満たない小型の竪穴住居跡が2軒もある。竪穴住居跡の主軸方位は、Ｎ－16°～71°－Ｗの範囲にほとんどが集中するが、ＳＢ220のようにＮ－39°－Ｅと東側に突出するものもある。この時期には竪穴住居跡の軒数が大幅に増加していることによるものか、竪穴住居跡の形態・規模はさらに多様化がみられる。また、この時期から焼失住居がみられるようになり、その軒数は33軒中8軒を数える。集落構造に関しても、台地全面に展開される傾向は前時期と比べて変化はない。



第267図　7世紀前葉竪穴住居跡主軸方位図

7世紀前葉の竪穴住居跡はＳＢ025・032・035・102Ａ・102Ｂ・111・129・134・144・146・148・166・169・171・201・206・223・230・234である。前時期に比べると竪穴住居跡の軒数は14軒も減少しており、この時期から減少傾向を迎える。竪穴住居跡を構造上から細分すると、4本柱を有するもの15軒、うちＳＢ025には柱穴間に支柱穴を有する、6本柱の竪穴住居跡である。また、ＳＢ111は柱穴1か所と貯蔵穴1か所のみで、ＳＢ144は破壊が激しいが柱穴はまったくない。このように4本柱を持たな

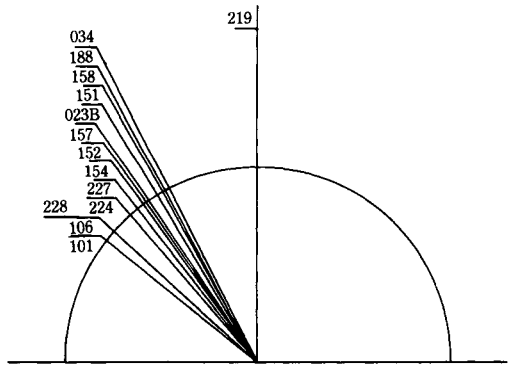
い竪穴住居跡は2軒で、これらの竪穴住居跡は2軒とも小型のものである。梯子ピットを有するものが12軒あるが、そのピットの周辺を囲うように若干の盛土がみられるＳＢ169・230や、同じく周辺に窪みがみられるＳＢ201などの竪穴住居跡も検出されている。貯蔵穴を有するものは6軒で、貼床前には貯蔵穴があり貼床後にはない竪穴住居跡1軒（ＳＢ032）が確認できた。壁溝が全周するもの5軒、全周せず部分的にあるもの13軒、残りの1軒はまったくないものである。間仕切り溝を有するものは6軒である。平均の床面積は37.1㎡で、この時期に最大になる。貼床を施したものは3軒、建替えも3軒である。この時期には本遺跡で最大の床面積91.3㎡を測るＳＢ169が構築されている。また、全体的にみると中型の竪穴住居跡が多く、小型のものはＳＢ111が7.7㎡、計測不能であるがＳＢ144の2軒である。竪穴住居跡の主軸方位は、Ｎ－22°～65°－Wの範囲にほとんどが集中する。 このように20軒の竪穴住居跡のうち、 すべての竪穴住居跡が多少の振れはあるもののほぼ同一方向に主軸方位をとっていることと、16軒の竪穴住居跡が若干の差はあるものの、ほぼ同一規模で構築されていること等から、この時期には集落構成上何らかの規制が加わっていたのではなかろうか。いずれにしても、この時期から竪穴住居跡の軒数は減少していく。しかし、集落構成に関しては、台地全面に展開される傾向には変化はみられない。



第268図　7世紀中葉竪穴住居跡主軸方位図

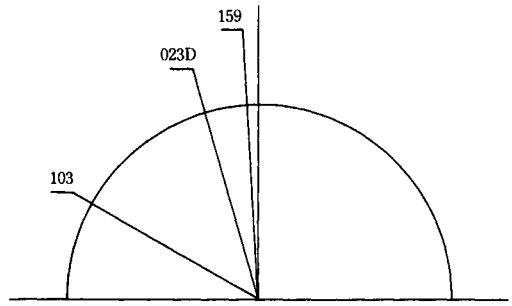
7世紀中葉の竪穴住居跡はＳＢ028・038・039・044・149・150・168・170・183・202・217である。前時期に比べると竪穴住居跡の軒数は8軒の減少で、軒数最大の6世紀後葉の33軒に比較すると22軒も減少しており、減少のピークとなっている。4本柱を有するものは9軒で、その他のＳＢ149は柱穴2か所のみ、ＳＢ183は2/3を破壊されており柱穴は不明である。この4本柱を持たない2軒の竪穴住居跡は、小型のものである。梯子ピットを有するものが9軒あるが、そのピットの周辺を囲うように若干の盛土がみられるＳＢ150・170の竪穴住居跡も検出されている。貯蔵穴を有するものは1軒のみである。壁溝が全周するもの5軒、全周せず部分的にあるもの6軒である。間仕切り溝を有するものは3軒である。平均の床面積は26.5㎡で、この時期になって竪穴住居跡の規模は、急激に小型化の現象がみられる。この時期最大のものでもＳＢ028の45.7㎡である。竪穴住居跡の主軸方位は、Ｎ－22°～73°－Wの範囲にほとんどが集中するが、ＳＢ149のようにＮ－65°－Ｅと東側に突出するものと、ＳＢ183のようにW－65°－Ｓと西側に突出する2軒がみられる。本遺跡では南西方向に主軸方位を持つ竪穴住居跡は、上記のＳＢ183と6世紀後葉のＳＢ029（破壊が激しく主軸方位計測不能であるが、カマドの方位がW－34°－Ｓを持つ）の2軒のみである。集落構造に関しても、前時期と比べてあまり変化はない。

7世紀後葉の竪穴住居跡はＳＢ023Ｂ・034・101・106・151・152・154・157・158・188・198・219・224・227・228である。前時期に比べると竪穴住居跡の軒数は4軒増加するが、本遺跡の集落構成からみると減少傾向の流れのなかにある。竪穴住居跡を構造上から細分すると、4本柱を有するもの13軒で、その他のＳＢ219は竪穴住居跡内に柱穴2か所、外に1か所、ＳＢ198は貝層保存区域のため未発掘で柱穴は不明である。梯子ピットを有するものが12軒あるが、そのピットをコの字に囲うように若干の盛土がみられるＳＢ188・227や、同じく周辺に窪みがみられるＳＢ154などの竪穴住居跡も検出されている。ＳＢ023Ｂは貼床後に梯



第269図　7世紀後葉竪穴住居跡主軸方位図

子ピットを設けている竪穴住居跡である。貯蔵穴を有するものは1軒のみである。壁溝が全周するもの6軒、全周せず部分的にあるものが6軒で、まったくないものが1軒ある。間仕切り溝を有するものは3軒である。平均の床面積は20.2m²で、前時期から始まった小型化の現象がこの時期にも若干みられる。この時期最大のものでもＳＢ023Ｂの30.0m²である。貼床を施す竪穴住居跡は3軒、建替えは1軒確認できた。また、焼失住居が2軒確認されている。竪穴住居跡の主軸方位は、Ｎ－27°～52°－Ｗの範囲にほとんどが集中する。しかし、ＳＢ219のようにＮ－0°と真北に主軸をとるものも1軒ある。この竪穴住居跡は東側1/3を床面から破壊されているが、東側急斜面に位置する粘土採掘坑の平坦な跡地を利用して構築されている。いずれにしても、前時期からの竪穴住居跡の小型化現象の流れのなかにあり、竪穴住居跡の軒数は若干増加するものの、住居形態もＳＢ219の1軒を除けば、ほとんど差異はない。集落構造に関しては、台地全面に展開される傾向には変化はみられない。



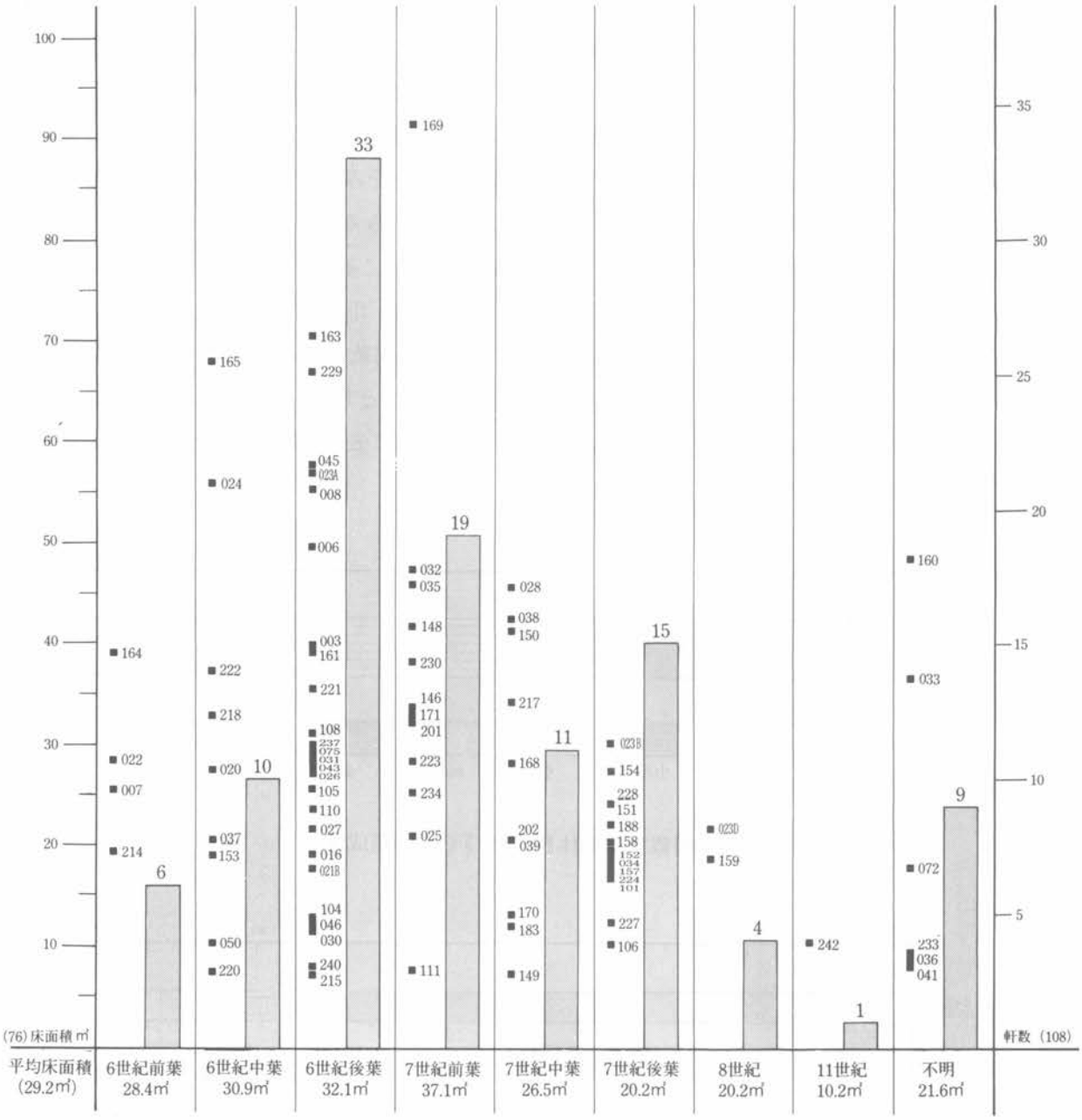
第270図　8世紀代竪穴住居跡主軸方位図

8世紀代の竪穴住居跡はＳＢ023Ｄ・103・159・189である。4軒のうちＳＢ159・189の2軒は前葉に比定できる。前時期に比べると竪穴住居跡の軒数は11軒も大幅に減少する。竪穴住居跡を構造上から細分すると、4本柱を有するもの2軒で、その他のＳＢ103は大部分を破壊されているため詳細については不明で、ＳＢ189は貝層保存区域のため未発掘で柱穴は不明である。梯子ピットを有するものは1軒、貯蔵穴を有するものが1軒である。壁溝が全周するもの2軒、残りの2軒は全周するか部分的に途切れるかは不明である。焼失住居は1軒確認されている。平均の床面積は20.2m²で、前時期から始まった小型化の現象がこの時期にも若干みられる。貼床が施されているものは1軒である。竪穴住居跡の主軸方位は、Ｎ－3°～60°－Ｗの範囲で、やはり北西側に主軸を持つ傾向が窺える。この時期の竪穴住居跡は4軒比定することができたが、部分的に集中することなく竪穴住居跡が配置されている。

8世紀代以後は11世紀代の土器1点のみを出土している竪穴住居跡ＳＢ242が1軒確認されているが、住居構造からみると古墳時代後期の可能性もある。この竪穴住居跡は平面プラン不正方形を呈し、床面中央に炉を持っている。

以上、古墳時代から奈良・平安時代の竪穴住居跡をみてきたが、竪穴住居跡以外にも小鍛冶遺構2基、屋外炉跡6基、土坑2基、粘土採掘坑1か所、竪穴遺構1基、火葬墓1基、溝状遺構1条が検出されている。小鍛冶遺構は台地奥部の北側急斜面と南側急斜面にそれぞれ1基づつ構築されている。この2基の小鍛冶遺構は、図示できなかったが、鬼高期の土器片が出土していることから、竪穴住居跡が規模・軒数ともに充実してくる6世紀後葉から7世紀前葉頃に比定できる。しかし、2基が同一時期に同時併行して稼動していたかどう

かは不明である。　いずれにしても2基の小鍛冶遺構は6世紀後葉から7世紀前葉頃にかけた極めて近い期間に稼働していたと思われる。



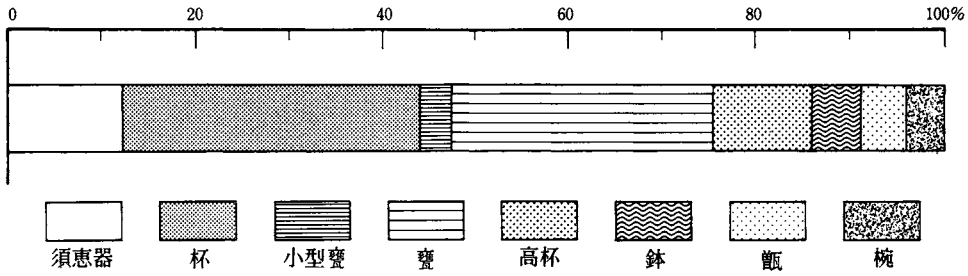
第271図　竪穴住居跡時期別軒数及び床面積図

その他の屋外炉跡6基、土坑2基、粘土採掘坑1か所、竪穴遺構1基、溝状遺構1条についても小鍛冶遺構同様出土遺物等から判断すると、6世紀後葉から7世紀前葉頃に比定できる。

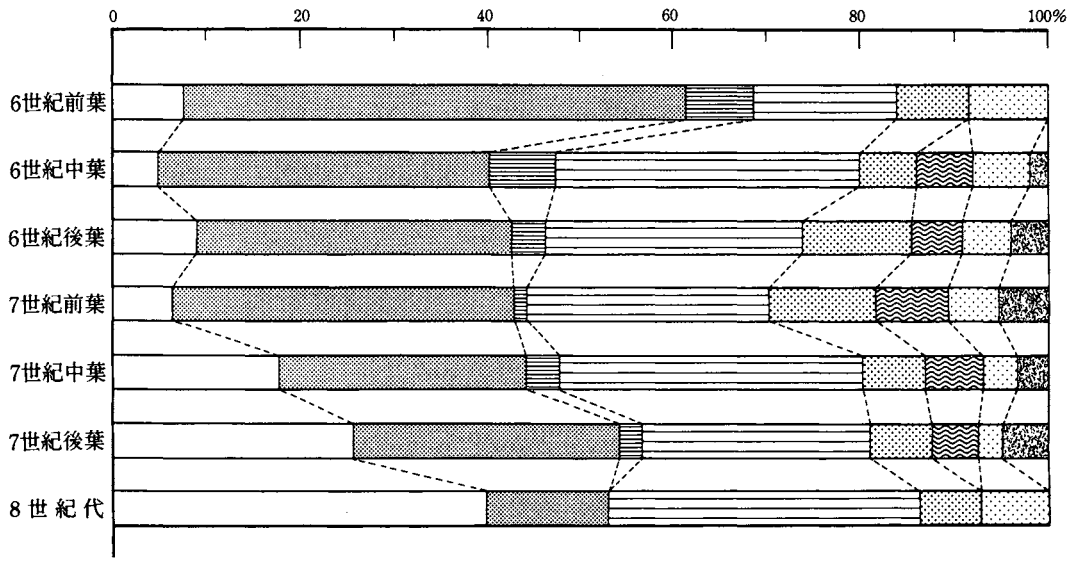
本遺跡は前述したとおり竪穴住居跡以外の遺構が極めて少ない、竪穴住居跡主体の集落跡である。縄文時代に営まれた集落以来、長い空白期間を経て、6世紀前葉頃に再び人々が移り住み集落を営み始める。この集団は6世紀後葉から7世紀前葉にかけて集落としての機能を充実させる。そして、7世紀後葉から8世紀にかけて徐々に衰退していきながら中世を迎えることとなる。

2　出土土器について

本遺跡から出土した土器は、図示できたもので総数755点を数え、本報告書にはそのすべてを掲載した。このうち遺構内出土土器は701点、遺構外（グリッド）出土土器は54点である。前項で述べたとおり、検出された竪穴住居跡は総計108軒で、時期区分できた竪穴住居跡は99軒である。このうち古墳時代後期に比定できる竪穴住居跡は94軒である。このように主体となる時期は古墳時代後期であり、94軒から出土した土器の掲載個体数は、全掲載数の88.5％にあたる668点である。器種別の内訳については、第2章第2節の出土遺物の概要で示した第10表を参照されたい。須恵器と土師器の割合をみると、755点中92点が須恵器で12.2％をしめ、土師器は755点中663点で87.8％をしめている。器種別にみると、須恵器は杯45点、蓋38点、壺（長頸壺も含む）5点、鉢2点、高杯1点、瓶1点で、杯と蓋が圧倒的に多い。土師器は杯238点、甕236点、高杯80点、鉢40点、甑36点、椀27点、壺3点、皿（小皿も含む）2点、坩1点で、杯と甕が大部分をしめている。第272図は掲載実測個体数に基づく土器組成を表しているが、掲載総個体数755点から、個体数が少なくグラフに表しきれない壺・皿・坩をあらかじめ除いた749点を基準として組成割合を示した。また、須恵器に関しては器種別には取り扱わず一括し、土師器に関して器種別に表した。このことは第273図においても同様である。



第272図　掲載実測個体数に基づく土器組成図



第273図　時期区分による器種構成図

第272図は、対象を6世紀前葉から8世紀代までとした。よって、住居軒数は、11世紀代の小皿1点しか出土していないＳＢ242の1軒を除外した107軒が対象となる。また、土器個体数は、掲載実測個体数755点から図化できない壺・皿・坩の6点を差し引いた749点が対象となる。つまり、第272図は住居軒数107軒、土器個体数749点を基本とした土器組成図である。この第272図は、土器個体数6点が差し引かれているだけで、体制に影響はなく、本遺跡全体の土器組成図とすることができる。では、第272図をみていくこととする。

須恵器は749点中92点出土しており、出土土器全体の1割を少し超える程度で、本遺跡の主体的な土器とはならない。一方、土師器は全体の9割近くをしめ、須恵器をはるかに凌駕する。土師器の器種別割合をみると、一番多い杯が238点で31.8%、次は甕が210点で28.0%となる。三番目からは高杯が80点で10.7%、鉢が40点で5.3%、甑が36点で4.8%、椀が27点で3.6%、小型甕が26点で3.5%である。このように杯と甕の割合が59.8%で半分以上をしめ、これに小型甕3.5%を加えると63.3%となり、土師器の中では主体的な位置をしめている。

次に、第273図にしたがい時期区分による器種構成の変化をみていくこととする。

第273図は、6世紀前葉から8世紀代までの、時期区分できた竪穴住居跡98軒から出土した掲載実測土器690点を対象とした。各時期の数値は下記にしめしたとおりである。

6世紀前葉は、住居軒数6軒・個体数13点、内訳は、須恵器1点（7.7%）・土師器12点（92.3%）、土師器の器種別の割合は、杯7点（53.8%）・小型甕1点（7.7%）・甕2点（15.4%）・高杯1点（7.7%）・甑1点（7.7%）で、軒数・個体数が少ないからか、鉢・椀はみられない。

6世紀中葉は、住居軒数10軒・個体数82点、内訳は、須恵器4点（4.9%）・土師器78点（95.1%）、土師器の器種別の割合は、杯29点（35.4%）・小型甕6点（7.3%）・甕27点（32.9%）・高杯5点（6.1%）・鉢5点（6.1%）・甑5点（6.1%）・椀1点（1.2%）で、図には記載されていないが、この時期に壺・皿がそれぞれ1点づつみられる。

6世紀後葉は、住居軒数33軒・個体数261点、内訳は、須恵器24点（9.2%）・土師器237点（90.8%）、土師器の器種別の割合は、杯88点（33.7%）・小型甕10点（3.8%）・甕72点（27.6%）・高杯31点（11.8%）・鉢14点（5.4%）・甑14点（5.4%）・椀8点（3.1%）で、図には記載されていないが、この時期に壺2点・坩1点がみられる。

7世紀前葉は、住居軒数19軒・個体数151点、内訳は、須恵器10点（6.6%）・土師器141点（93.4%）、土師器の器種別の割合は、杯55点（36.4%）・小型甕2点（1.3%）・甕39点（25.8%）・高杯17点（11.3%）・鉢12点（8.0%）・甑8点（5.3%）・椀8点（5.3%）である。

7世紀中葉は、住居軒数11軒・個体数84点、内訳は、須恵器15点（17.9%）・土師器69点（82.1%）、土師器の器種別の割合は、杯22点（26.2%）・小型甕3点（3.6%）・甕27点（32.0%）・高杯6点（7.1%）・鉢5点（6.0%）・甑3点（3.6%）・椀3点（3.6%）である。

7世紀後葉は、住居軒数15軒・個体数77点、内訳は、須恵器20点（25.9%）・土師器57点（74.1%）、土師器の器種別の割合は、杯22点（28.6%）・小型甕2点（2.6%）・甕19点（24.7%）・高杯5点（6.5%）・鉢4点（5.2%）・甑2点（2.6%）・椀3点（3.9%）である。

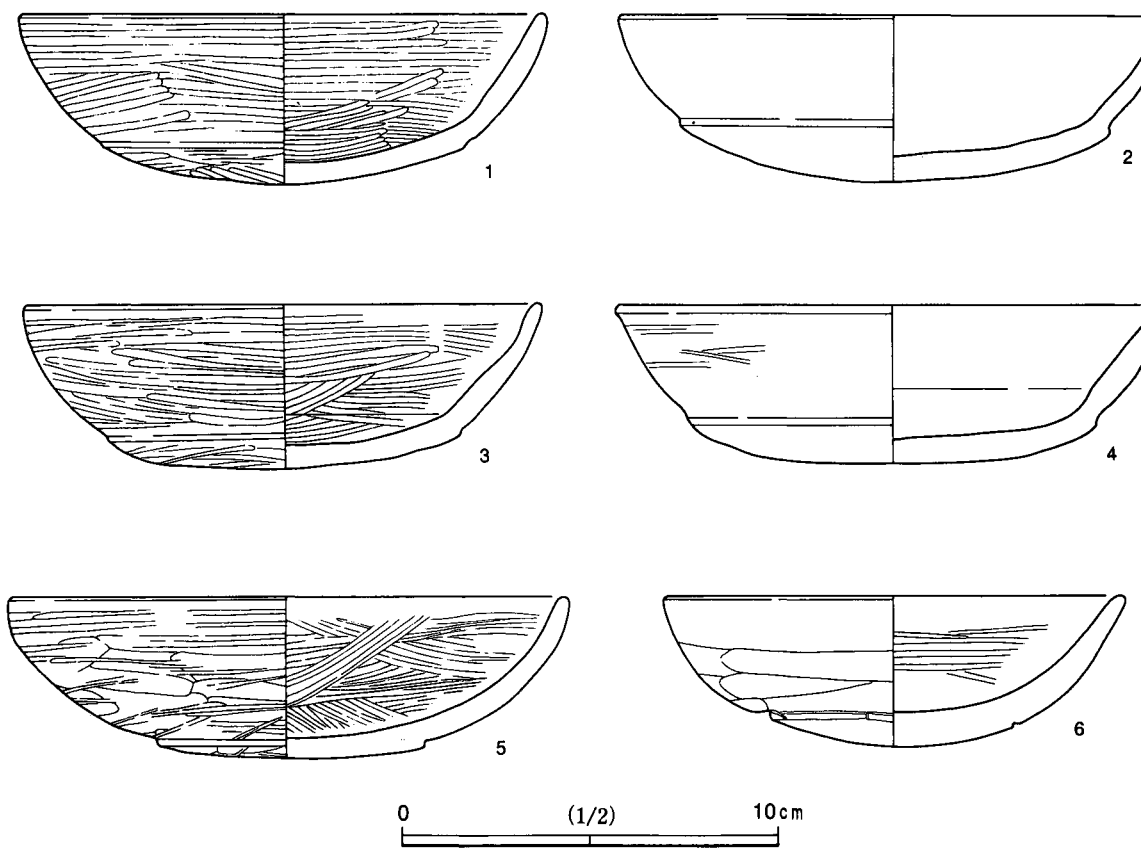
8世紀代は、住居軒数4軒・個体数15点、内訳は、須恵器6点（40.0%）・土師器9点（60.0%）、土師器の器種別の割合は、杯2点（13.3%）・甕5点（33.3%）・高杯1点（6.7%）・甑1点（6.7%）で、・小型甕・

鉢・椀はみられない。

このように時期別の器種構成の変化をみてみると、須恵器は、本集落の初現から7世紀前葉までは、割合は低いが、安定的に供給されていたようである。その供給は以後も続くが、7世紀中葉からその割合は高くなり、8世紀代には40%にも達しており、このころから須恵器は主体的な土器の様相をみせ始める。須恵器の蓋と杯の個体数は各時期ともにほぼ同数みられ、その割合は7世紀中葉から高まっていく。一方、土師器杯は6世紀前葉には53.8%と、5割を超える保有率をしめているが、徐々に減少し、8世紀代には個体数では須恵器杯と同数になる。このように土師器杯の減少と須恵器杯の増加は相関関係にあることがわかる。甕は小型甕を含めて、6世紀前葉こそ割合が低いが、以後8世紀代まで高い割合で安定した供給が継続されている。高杯は割合は低いが、甕同様6世紀前葉から8世紀まで安定している。

次に、以前から注目されている体部外面下位に稜を有する土師器杯で、いわゆる「東北系」の土師器[1]とされる杯で、第274図で示した1～5の5点である。6は1～5の5点とは異なる杯であり、最後に記載した。ここではこれらの土器の共通する特徴と、分類の指針を示してみたい。

1はＳＢ008の南側壁溝よりの床面から出土した遺物番号5の杯である。外面の稜は、ヘラによる丁寧なヨコナデによって作り出され、体部と底部を分ける低い位置に巡る。内面にも稜が外面とほぼ同じ位置に巡っていた痕跡が若干みられ、内面全体に細かく丁寧なヘラミガキを施していく際になくなり、微かに面影を残すのみとなったようである。細かく丁寧なヘラミガキは外面にも施されている。底部は丸底で、体部は稜から口縁部に緩やかに内湾しながら立ち上がる。黒色処理は内外面に施され、胎土中には白色針状物質が含まれている。



第274図　体部外面下位に稜を有する土師器杯実測図

2はＳＢ148のカマド焚口部前面の床面から出土した遺物番号6の杯である。外面の稜は、1と同様ヘラによる丁寧なヨコナデによって作り出され、体部と底部を分ける低い位置に巡る。内外面ともに摩耗が激しく、最終調整は不明で、内面にも稜が外面とほぼ同じ位置に巡っていた痕跡が若干みられる。底部は丸底で、体部は稜から口縁部に緩やかに内湾しながら立ち上がる。黒色処理は摩耗が激しいため不明であるが、内面に非常に薄い黒斑が全面にかろうじて認められるので、可能性はまったくないともいえない。また、胎土中には白色針状物質が含まれている。

1・2は、多くの共通点が認められ、同一タイプとみなすことができる。それを整理すると下記のようになる。

① 外面の稜が底部と体部を分ける低い位置に巡る
② 内面の稜が外面とほぼ同じ位置に巡る（丁寧な調整のためわずかに残る）
③ 底部は丸底
④ 底部内面は平坦部がない
⑤ 口縁部が内湾気味に立ち上がる

3はＳＢ229の覆土中層から出土した遺物番号5の杯である。1と同様外面の稜は、ヘラによる丁寧なヨコナデによって作り出され、体部と底部を分ける低い位置に巡る。内面にも稜が外面とほぼ同じ位置にみられる。内外面全体には細かく丁寧なヘラミガキが施されている。底部は平底風丸底で、底部内面中央が平坦である。体部は稜から口縁部に緩やかに内湾しながら立ち上がる。黒色処理は内外面に施され、胎土中には白色針状物質が含まれている。

3の特徴を示すと、次のようになる。

① 外面の稜が底部と体部を分ける低い位置に巡る
② 内面の稜が外面とほぼ同じ位置に巡る
③ 底部は平底風丸底
④ 底部内面中央が平坦
⑤ 口縁部が内湾気味に立ち上がる

4はＳＢ229の覆土下層から出土した遺物番号7の杯である。外面の稜は、ヘラによる丁寧なヨコナデによって作り出され、体部と底部を分ける低い位置に巡る。内外面ともに摩耗が激しく、最終調整は不明である。内面には外面の稜よりやや高い位置に稜が巡る。底部は平底風丸底で、体部は稜から口縁部に直線的に立ち上がる。黒色処理は内外面に施されており、特に内面には漆を塗ったハケ目痕がみられる。また、胎土中には白色針状物質が含まれている。

4の特徴を示すと下記のようになる。

① 外面の稜が底部と体部を分ける低い位置に巡る
② 内面の稜が外面と一致しない
③ 底部は平底風丸底
④ 底部内面中央が平坦
⑤ 口縁部が直線的に立ち上がる

5はＳＢ171の貯蔵穴内から出土した遺物番号4の杯である。外面の稜はヘラで削り出すようにして作られた底部周縁部を巡り、そのまま平底風底部としている。内面には稜が認められない。内外面ともに細かく

丁寧なヘラミガキが施されている。体部は稜から口縁部に緩やかに内湾しながら立ち上がる。黒色処理は内外面に施され、胎土中には白色針状物質が含まれている。

5の特徴を示すと下記のようになる。

① 外面の稜がヘラで削り出すようにして作られた底部周縁部を巡る

② 内面の稜は認められない

③ 底部平底風丸底

④ 底部内面中央が平坦

⑤ 口縁部が内湾気味に立ち上がる

6はＳＢ219の床面から出土した遺物番号2の杯である。外面の稜は5同様底部周縁部を巡るが、ヘラケズリが不十分で、稜というよりは沈線の状態である。他の5点とは異なり口径が若干小さく、胎土も砂粒が多く含まれている。底部は丸底で、内面には稜が認められない。体部は底部周縁部で若干の丸味を持ち、体部中位から口縁部にかけては直線的に立ち上がる。黒色処理は内外面ともに認められない。また、胎土中には白色針状物質が含まれている。この杯は1～5の杯にみられるような体部外面下位の稜を模したと思われる沈線が巡っているが、調整・胎土において1～5の杯とは明らかに異なる。しかし、1～5の杯を明らかに意識しており、このタイプの杯を理解する上で重要なポイントを持つ杯かもしれない。

以上、本遺跡から出土した1～6のそれぞれの杯の特徴を示してきたが、タイプ別に分類すると次の五つに分類することができる。一つ目は、1・2のように底部丸底で、口縁部はやや内湾気味に立ち上がるもの。二つ目は、3のように平底風丸底で、口縁部が内湾気味に立ち上がるもの。三つ目が、4のように平底風丸底で、口縁部が直線的に立ち上がるもの。四つ目が、5のように稜以下が底部そのものとなり、口縁部は内湾して立ち上がる。五つ目が、稜が沈線化しているもの。

ここでこれらの杯の共通する特徴と分類の指針を簡単にまとめてみると、下記のようになる。

（共通する特徴）

①体部外面下位に稜が巡る

②細かく丁寧なヘラミガキが内外面全体に施される

③基本的に内外面に黒色処理が施される

④胎土中に白色針状物質を含む

（分類の指針）

①底部は丸底と平底風丸底の2点がある

②内面に稜のあるものとないものがある

③稜以下が底部そのものを形成するものがある

④底部内面中央が平坦なものと平坦でないものがある

⑤口縁部が内湾して立ち上がるものと直線的に立ち上がるものがある

ここでは、あくまでも本遺跡出土の特徴をまとめたものであり、他の遺跡出土のものも加えるともっと細分化できるであろう。

次に、この6点の時期区分をみてみると、1が6世紀後葉～7世紀前葉、2が7世紀前葉、3・4が6世紀後葉、5が7世紀前葉～7世紀中葉、6が7世紀後葉の竪穴住居跡からそれぞれ出土しており、6世紀後葉から7世紀代の時期に当てはまる。

このタイプの杯の県内での出土地域は、現在知り得る限りでは、千葉市[2]・市原市[3]・東金市[4]・山武郡芝山町[5]・山武郡大網白里町[6]・山武郡山武町[7]等に限られ、出土点数も少ない。

現在、搬入品としての典型的な栗囲式土器は確認されていないが、県内出土のこれらのタイプの杯は、類似土器または模倣土器として捉えることもできる。しかし、「東北系」として固定化するためには、東北地方の土師器との比較検討、また、房総在地の土師器との比較検討、須恵器との関わり等問題は山積している。今後このタイプの杯の資料が蓄積され、研究が進展する中で、東北地方と房総・関東地方との人的関係、社会的関係、政治的関係等が、解明されていくことを期待したい。

第2節　中世以降

中世以降の検出遺構と出土遺物については、第3章で個々に記載したので、ここでは総合的にまとめることとする。

中世以降の検出遺構を大まかにまとめると、墓壙・土壙・ピット群・溝等があげられるが、ここでは和鏡を出土したＳＫ181の土壙墓について若干まとめてみたい。（第220図参照）

第3章で記載したように、ＳＫ181の土壙墓からは和鏡（甜瓜双鳥鏡）1点、かわらけ小皿4点、人骨（頭蓋骨と顎骨の一部）、炭化米19粒がそれぞれ検出された。この土壙墓の詳細については、笹生　衛氏により本報告書より先行するかたちで、報告されている[8]。氏は報告文の中で、本土壙墓出土のかわらけ小皿中に、千葉市西屋敷遺跡出土のかわらけに形態的に類似するものがあることをあげ、そのかわらけが甲崎光彦氏[9]が示したＩ期の資料として扱われていることにより、Ｉ期に対応する輸入陶磁器等の年代から、12世紀中頃から13世紀代の年代を想定できる可能性を示している。当地域ではかわらけの編年が確立されていない現在、明確な年代想定は難しく、他遺跡との比較で幅広い年代を推定することは有用な方法である。この点において12世紀中頃から13世紀代の年代想定は妥当である。

また、和鏡の作成年代は、甜瓜が主鋳文として描かれるのは鎌倉時代に限られること[10]、また、文様の表現方法が平安時代後期に多くみられる「利圏生態描写」[11]の手法であること等から、12世紀後半から13世紀前半とするのが妥当であろう[12]。

ＳＫ181の土壙墓の構築年代については、上記のかわらけ小皿と和鏡の推定年代から、鎌倉時代初期に求めることができる。

一方、第3章で記載したように、人骨は土壙墓底面から出土しているのに対し、かわらけ小皿と和鏡は土壙墓底面からやや浮いた状態で出土している。また、土壙墓覆土内からは19粒の炭化米が、かわらけ小皿周辺及び和鏡周辺に確認されている。このような出土状況から考えると、遺体を土壙内に安置した後、埋葬の途中に、かわらけ小皿は遺体の足元に、和鏡は遺体の背中付近にほぼ同時に埋納された可能性が考えられる。また、炭化米19粒が小皿と鏡の周辺にバラバラに出土している状況から、埋納直後に米粒が小皿と鏡周辺にまかれた可能性も考えられる。このような葬送形態を解明するには、県内では類例がほとんどみられない。ましてや、平安時代中期から鎌倉時代にかけての和鏡の出土例は、まだ稀である[13]。今後の資料の増加や研究の進展に期待したい。

次に中世土壙群とピット群について若干まとめてみたい。

第3章で記載したとおり、土壙群は地山を整地した3か所の中に構築されている。その整地面を東から東側整地面・中央整地面・西側整地面と仮称した。規模は東側整地面で約690.7㎡を測り、広い平坦面には整

第275図　中世土壙群・ピット群配置図

然と構築された地下式壙2基と土壙17基が確認されており、北東側の一段高いテラス状になった部分にはピットが集中している。このように東側整地面内部を平坦面の土壙群と、テラス上のピット集中部分を区画する構造から、墓域とそれに伴う何らかの施設があったとみることも可能ではなかろうか。

中央整地面の規模は601.6㎡を測り、4基の土壙と多数のピットが確認されているが、構造形態は不明である。

西側整地面の規模は272.3㎡を測り、他の整地面に比べ極端に小さい。3基の土壙とピットが確認されているが、中央整地面と同様構造形態は不明である。

ピット群の規模は1082.1㎡を測り、整地面とはＳＤ10の溝状遺構を挟んで北側に位置する。掘立柱建物跡2棟と柵列遺構1か所が確認されている。図面上では他に何棟か存在していた可能性もあるが、あったにしても掘立小屋程度の建物だと思われる。このピット群の北側は中世の遺構はまったくなく、北側斜面まで空白地域になっている。一方、南側は3か所の整地面ともに斜面に面し、谷津と接近している。東側整地面と中央整地面との境には、谷津からのびると思われる、溝状遺構と一段高く細長いテラス状の遺構がほぼ南北にのびているのが確認された。これらの遺構は、踏みしめられた様な固い面を持っている。整地面が南側斜面に面していることと、これらの遺構の状況から察すると、南側の谷津から台地上に行くための道

としての性格を持っているものと考えられる。（第275図中に↑で示した）道が緩やかに左にカーブした平坦面には直列するピットが並行に2列認められる。（第275図中に波線で示した）これは道が尽きる部分にあることと、ピット群と墓域の境にあることから、出入口的要素を持った何らかの施設の存在が考えられる。

ピット群と墓域の時期はピット群内から初鋳年代のわかる北宋銭が21点出土していることと、ＳＫ621の地下式壙底面から常滑焼の鉢が出土していることを合わせて考えると、鎌倉時代中頃とすることができる。[13)] つまりＳＫ181の土壙墓より後になり、この土壙墓が先行して台地上に構築され、その後墓域と掘立小屋程度の建物が建てられ始めることになる。

注1　永嶋正春　1988『東金市久我台遺跡－房総導水路建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書－』財団法人千葉県文化財センター

本文中に「器型は東北系」と記載されている

上野純司他　1992『房総考古学ライブラリー6　古墳時代(2)』　財団法人千葉県文化財センター

本文中に「栗囲式土器類似の土師器杯」と記載されている

小林清隆　1993「村田川流域の6～7世紀の土師器の再検討－千葉市榎作遺跡の分析を中心に－」〔研究ノート〕『千葉県文化財センター研究紀要14』財団法人千葉県文化財センター

本文中では「杯Ｅ」として分類されている

本報告書で取り扱った杯はこのタイプのものである

2　小林清隆　1992『千葉市榎作遺跡－千葉急行線埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ－』財団法人千葉県文化財センター

3　財団法人市原市文化財センター　1984『－千葉県市原市－小田部新地遺跡』

財団法人市原市文化財センター　1989『千草山遺跡・東千草山遺跡』

財団法人千葉県文化財センター　1991『千原台ニュータウンⅣ　中永谷遺跡』

4　作畑遺跡調査会　1986『作畑遺跡』

財団法人千葉県文化財センター1988『東金市久我台遺跡－房総導水路建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書－』

財団法人千葉県文化財センター1994『東金市妙経遺跡・井戸谷9号墳－房総導水路建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅲ－』

5　財団法人千葉県文化財センター1992『主要地方道成田松尾線Ⅶ　芝山町御田台遺跡・小池新林遺跡』

財団法人山武郡市文化財センター1991『千葉県芝山町大台遺跡群－中ノ台遺跡－』

6　財団法人山武郡市文化財センター1995『大網山田台遺跡群－ⅡNo5地点　道円坊遺跡－』

財団法人山武郡市文化財センター1995『大網山田台遺跡群－ⅡNo6地点　－本松遺跡－』

7　財団法人千葉県文化財センター1998刊行予定「山武郡山武町栗焼棒遺跡

8　笹生　衛　1986「有吉北貝塚における中世土墳墓とその出土遺物－中世初期土墳墓の様相について－」『研究連絡誌』第15･16号　財団法人千葉県文化財センター

9　甲崎光彦　1986「南関東における中世土土器様相」『シンポジウム、古代末期～中世における在地系土器の諸問題』「神奈川考古」第21号　神奈川考古同人会

10 広瀬都　1974『和鏡の研究』角川書店

11 広瀬都　1974『和鏡の研究』角川書店

界圏を植物の茎に利用して生態描写する手法を「利圏生態描写」としている

12 財団法人千葉県文化財センター　1996『千葉県文化財センター研究紀要17』

この研究紀要は「県内の青銅製品の集成と分析」を行ったもので、県内出土和鏡（主に平安時代中期から鎌倉時代にかけての製品で、江戸時代のものは含んでいない）が有吉北貝塚出土の和鏡も含めて16例掲載され

ているが、近年の発掘調査で検出された1枚があるので、資料の追加としてここで紹介しておく。
船橋市印内台遺跡群（21）の土壙墓から出土した和鏡「水草双雀鏡」で、時期は平安時代のものである。
財団法人船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター

13　永原慶二編1995『常滑焼と中世社会』小学館
常滑製品の東国への搬入がピークを迎えるのは13世紀から14世紀にかけてであり、このころに擂鉢等の生産が出現するとしている。

付　章

炭化種子同定

1　試料

試料は、古墳時代後期（鬼高期）のものとされるSB-163住居址から検出されたもので発掘調査過程で遺物として取り上げられたもの12点と、土壌試料を水洗篩別して得られた1 以上の残渣中から拾い出されたもの 51点である。

2　方法

試料を肉眼および双眼実体鏡下で観察し、同定・観察した。同時に固定された種実の拡大写真図版（図版1）も作成した。

3　結果

試料はいずれも炭化しており、完形のものは少なく同定できないものもあった。固定された種実は以下の3科6種類（Taxa）である。

GRAMINEAE	（ｲﾈ科）	Oryza sativa	（ｲﾈ）
		cf. Hordeum sp.	（ｵｵﾑｷﾞ属類似種）
ROSACEAE	（ﾊﾞﾗ科）	Prunus persica	（ﾓﾓ）
		P. salicina	（ｽﾓﾓ）
RUTACEAE	（ﾐｶﾝ科）	Zanthoxylum piperitum	（ｻﾝｼｮｳ）
		Z. ailanthoides	（ｶﾗｽｻﾞﾝｼｮｳ）

各試料中から同定された種類および個体数はつぎのようなものである。なお、破片も1個にかぞえた（表1）。

・No．3　モモ（1）
・No．217　モモ（1）
・No．363　モモ（1）
・No．1564　モモ（1）
・No．2039　モモ（1）
・No．2229　モモ（1）
・No．2713　モモ（1）
・No．3485　モモ（1）
・No．3653　モモ（1）
・No．4213　モモ（1）
・No．4279　モモ（1）
・No．2-2　不明（2）
・No．4-1　不明（4）
・No．4-2　イネ（4），不明（2）
・No．6-1　不明（4）
・No．6-2　イネ（1），不明（3）
・No．8-1　不明（2）
・No．8-2　不明（4）
・No．10-1　モモ（2），スモモ？（1），不明（12）

・No. 10-2　不明 (14)
・No. 12-1　サンショウ (1), 不明 (3)
・No. 12-2　不明 (6)
・No. 14-1　イネ (1), モモ (1), 不明 (11)
・No. 14-2　不明 (3)
・No. 16-1　イネ (2), モモ (5), 不明 (15)
・No. 16-2　イネ (1), 不明 (9)
・No. 18-1　不明 (6)
・No. 20-1　イネ (1), 不明 (10)
・No. 22-1　オオムギ? (2), 不明 (7)
・No. 22-2　イネ (1), 不明 (4)
・No. 24-1　不明 (7)
・No. 26-1　イネ (2), モモ (1), 不明 (6)
・No. 26-2　不明 (2)
・No. 28-2　オオムギ? (4), モモ (2), 不明 (2)
・No. 30-2　不明 (2)
・No. 31-2　不明 (10)
・No. 33-2　不明 (6)
・No. 35-1　モモ (1), 不明 (3)
・No. 35-2　イネ (1), 不明 (13)
・No. 37-2　イネ (1), モモ (4), 不明 (10)
・No. 39-1　イネ (2), 不明 (1)
・No. 39-2　スモモ (3), サンショウ (1), 不明 (14)
・No. 41-1　イネ (1), スモモ? (2), 不明 (5)
・No. 41-2　イネ (1), サンショウ (1), 不明 (6)
・No. 43-1　イネ (2), オオムギ? (5), 不明 (6)
・No. 43-2　モモ (1), 不明 (5)
・No. 45-1　オオムギ? (1); 不明 (4)
・No. 45-2　スモモ (2), 不明 (5)
・No. 47-1　不明 (10)
・No. 47-2　モモ (2), 不明 (4)
・No. 49-1　イネ (2), 不明 (11)
・No. 49-2　モモ (1), 不明 (8)
・No. 51-1　イネ (3), オオムギ? (3), スモモ (1), 不明 (3)
・No. 51-2　不明 (3)
・No. 53-1　不明 (2)
・No. 53-2　オオムギ? (3), モモ (7), 不明 (14)
・No. 55-1　オオムギ? (1), 不明 (4)
・No. 57-1　不明 (1)
・No. 57-2　モモ (1), 不明 (9)
・No. 59-1　モモ (3), カラスザンショウ (1), 不明 (8)
・No. 59-2　不明 (1)

同定された6種類のうち、イネ・オオムギ？・モモ・スモモはいずれも古い時代に渡来し食用とされている栽培種であり、サンショウも香辛料などとして有用な植物である。欠失部分のある炭化種子であるため、種類不明のものが多いが、同定された種類をみるかぎり、人間生活に密接に結びついた植物のみが検出されているといえよう。住居址の覆土から検出されていることから、当時の人々が、同住居内で貯蔵または調理した食料の一部が、なんらかの原因で炭化し、残存したものであろう。

表1　SB-163検出の種子個体数

種名	個体数
イネ	25
オオムギ？	23
モモ	41
スモモ	11
サンショウ	3
カラスザンショウ	1
不明	310
合計	414

写真図版

周辺地形航空写真

図版 2

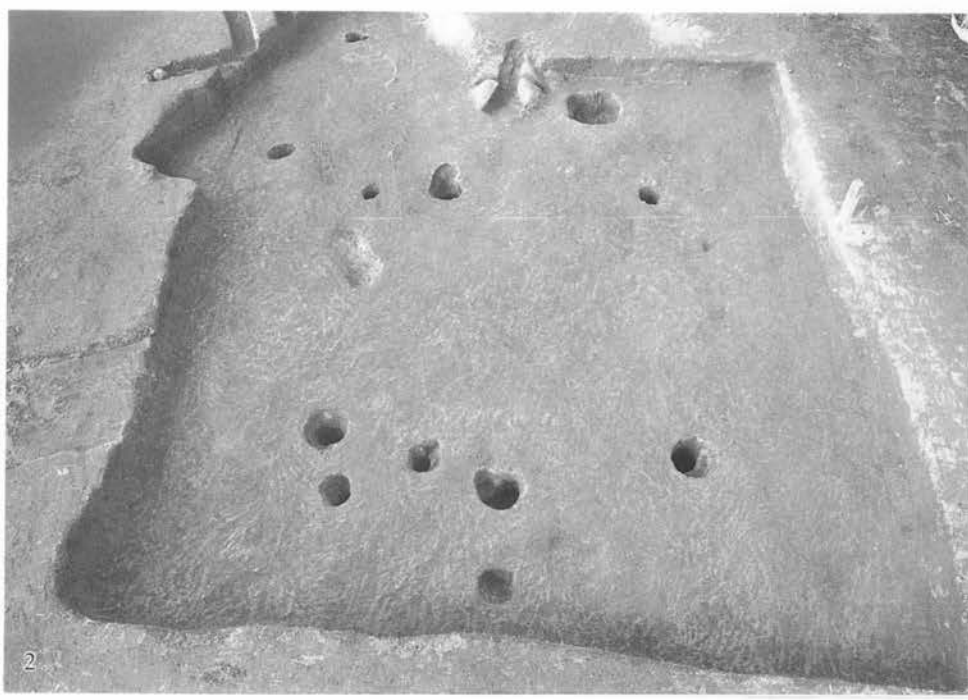
1．石吉北B塚空撮（5）昭和60年

2．石吉北B塚空撮（2）昭和61年

1．SB002完掘（南東→）

カマド

2．SB003完掘（東→）



カマド

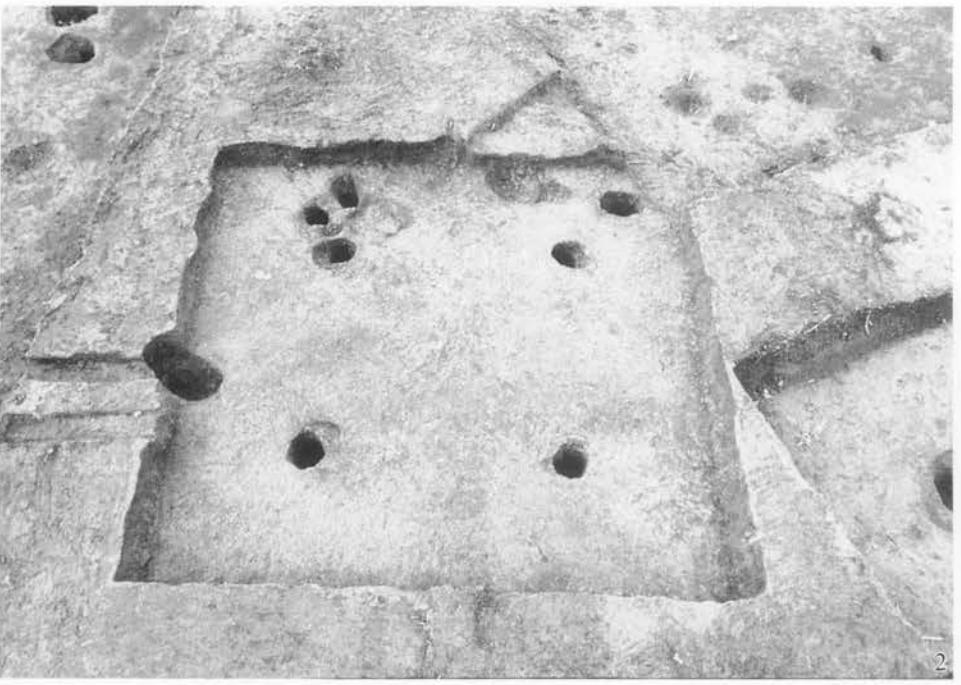
3．SB005遺物出土状況（南東→）

遺物拡大

図版 4

1．SB006完掘（南東→）

カマド



2．SB007完掘（南東→）

カマド

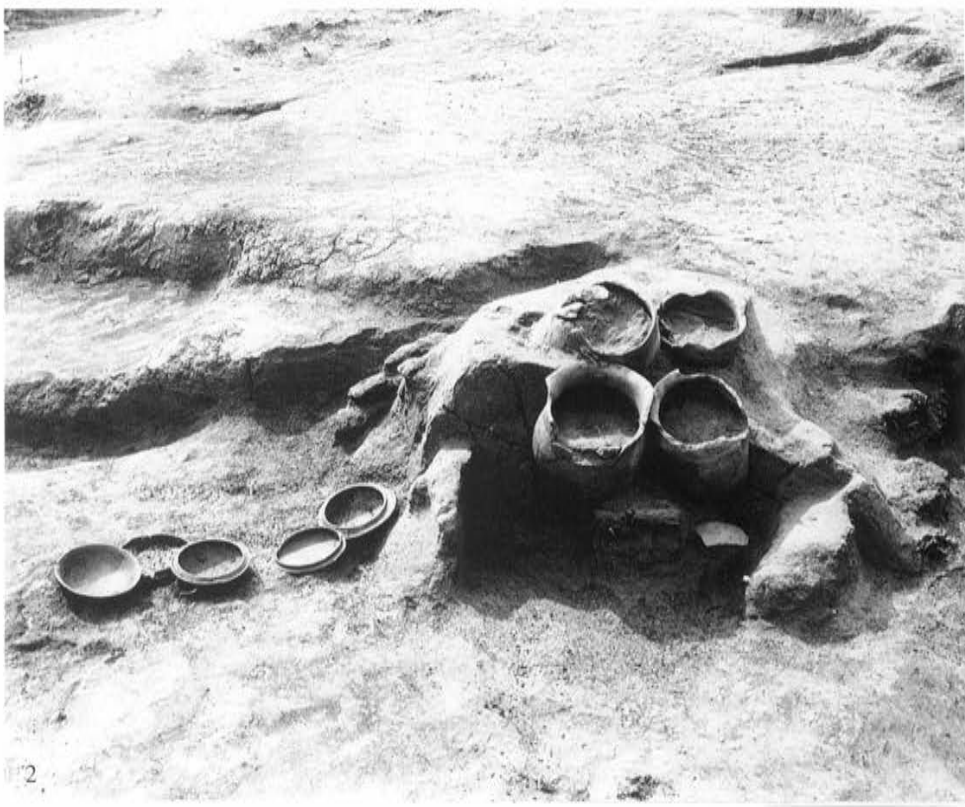
3．SB008遺物出土状況（東→）

貯蔵穴内遺物出土状況

1．SB008完掘（東→）

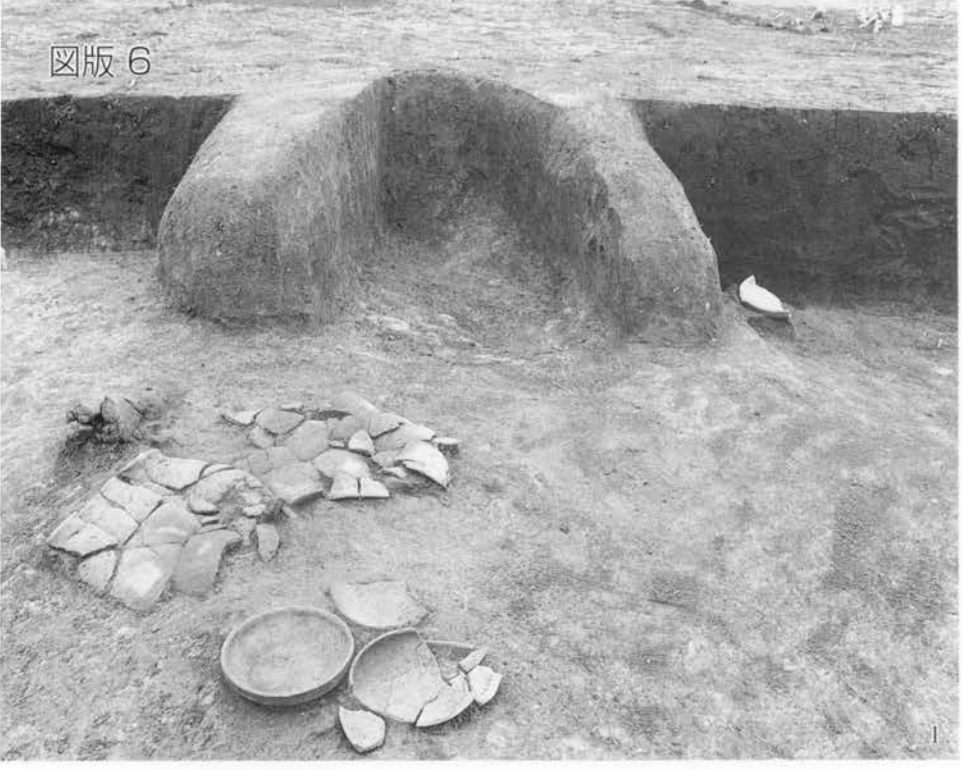
カマド

2．SB016遺物出土状況（南東→）

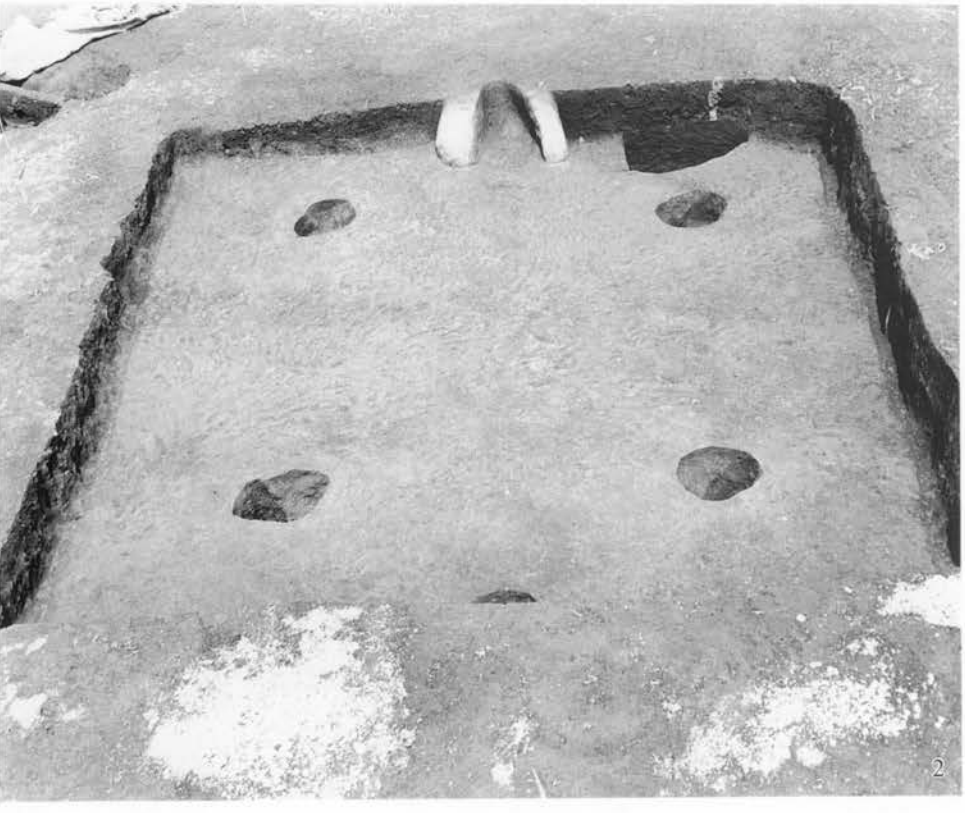


3．SB016完掘（南東→）

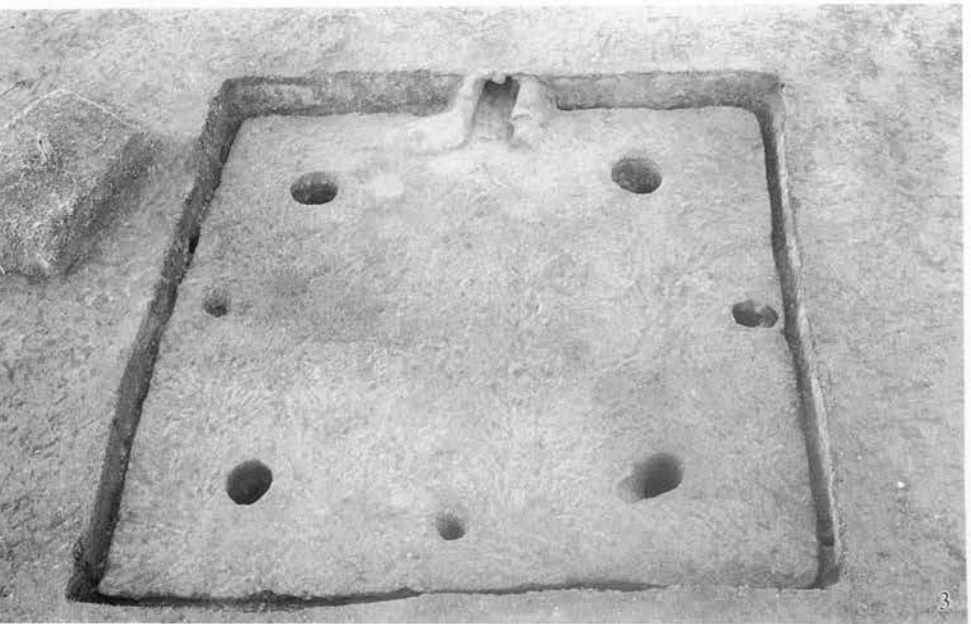
カマド



1．SB020遺物出土状況（南東→）



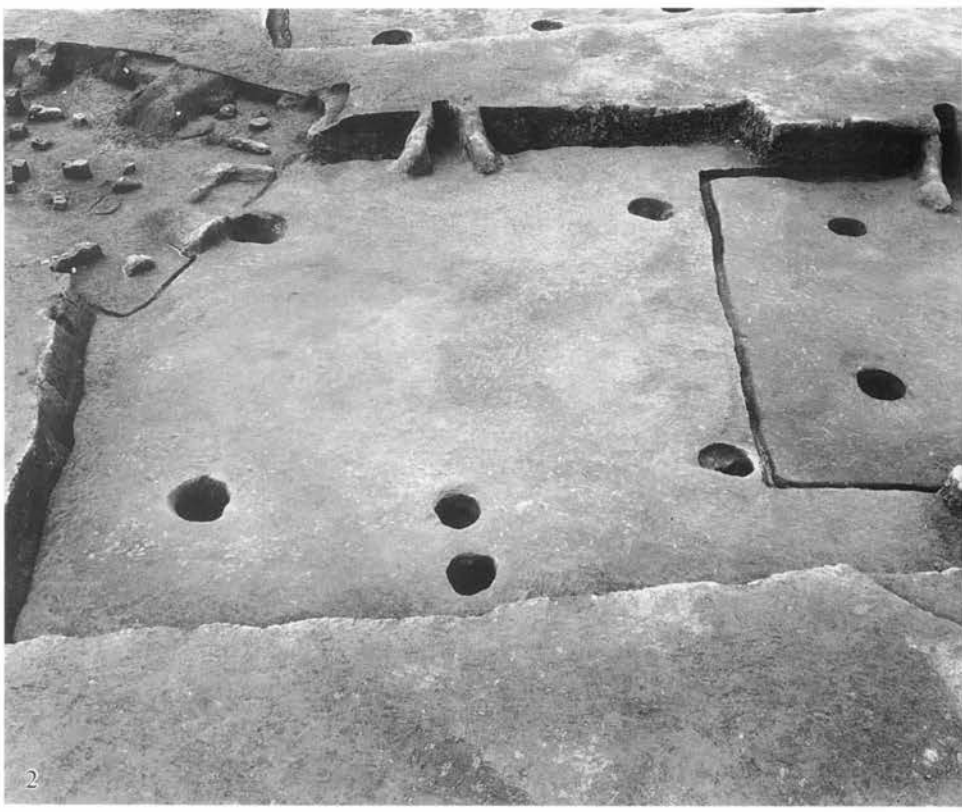
2．SB020完掘（南東→）



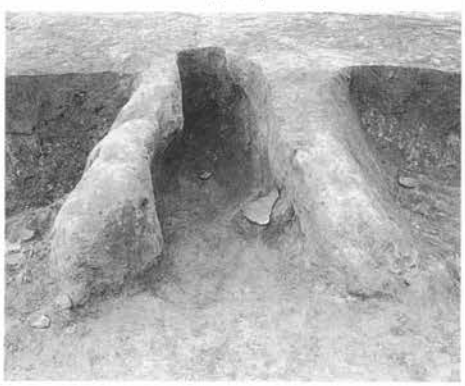
3．SB022完掘（南→）

1．SB023A遺物出土状況（南東→）

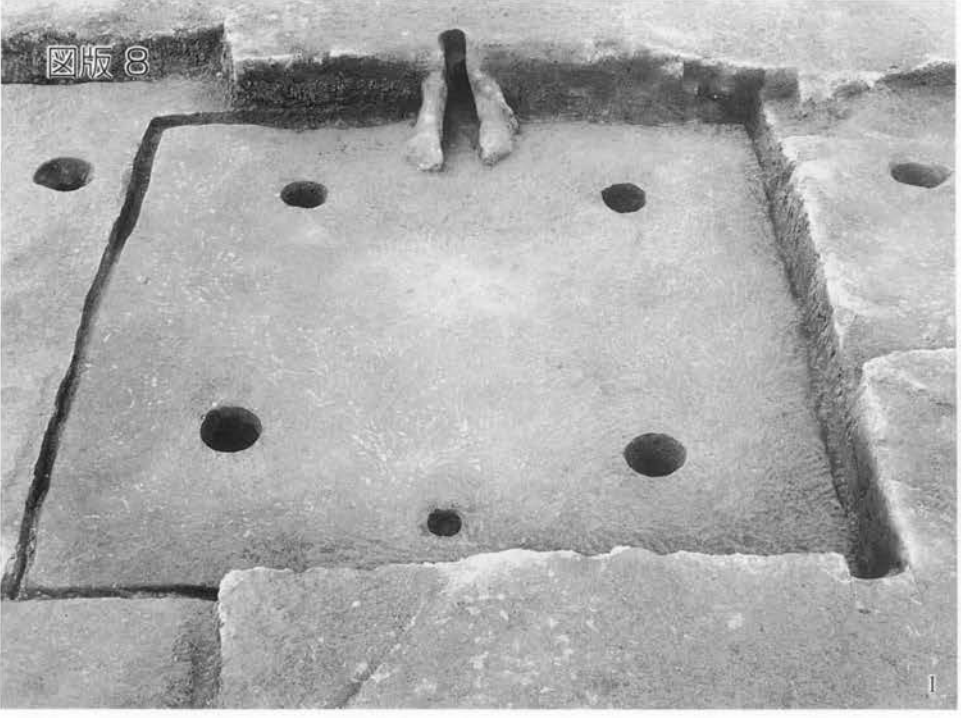
2．SB023A完掘（南東→）



カマド



3．SB023B遺物出土状況（南東→）



1．SB023B完掘（南東→）

カマド

2．SB023C遺物出土状況（東→）

3．SB023C完掘（南東→）

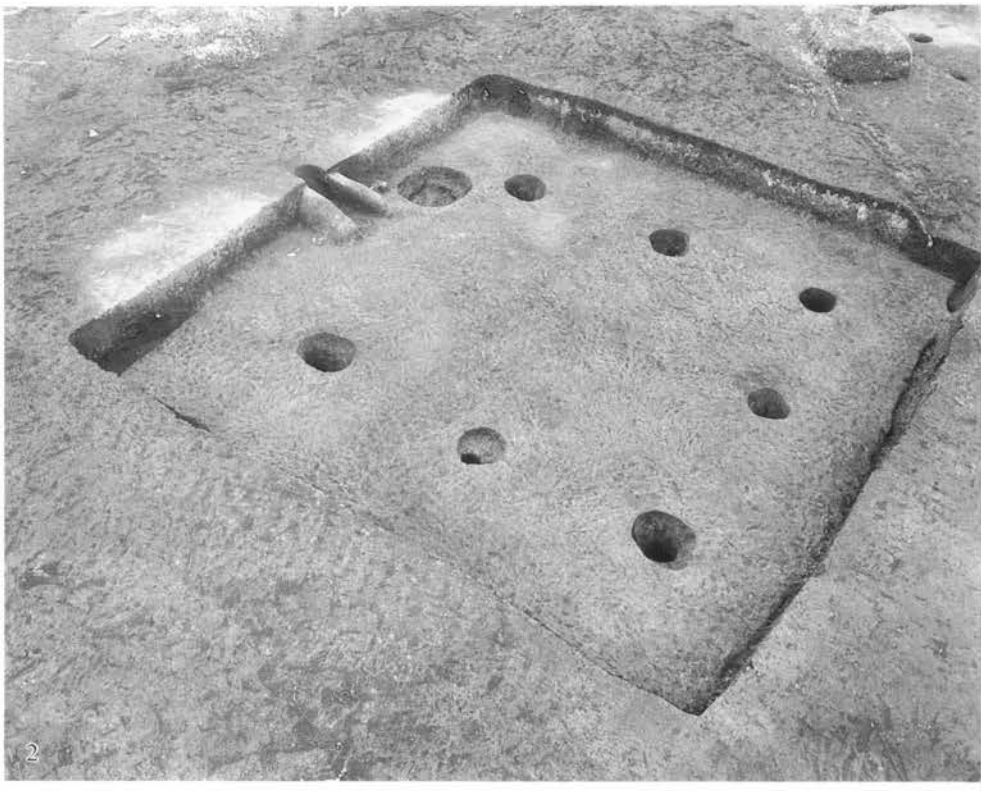
カマド

1．SB023D完掘（南→）

カマド

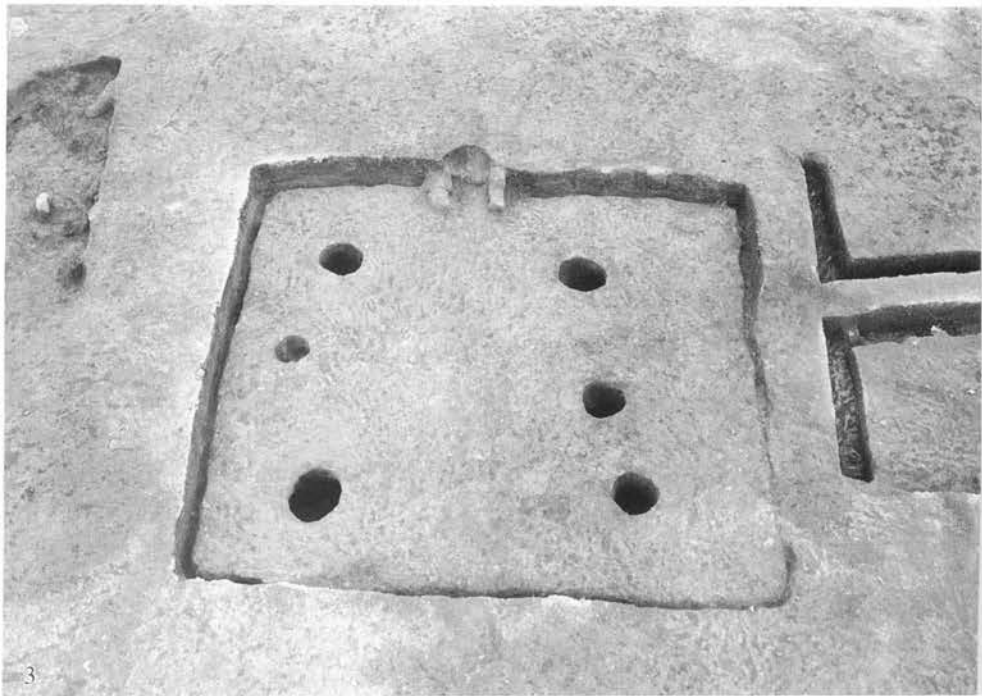
2．SB024完掘（南→）

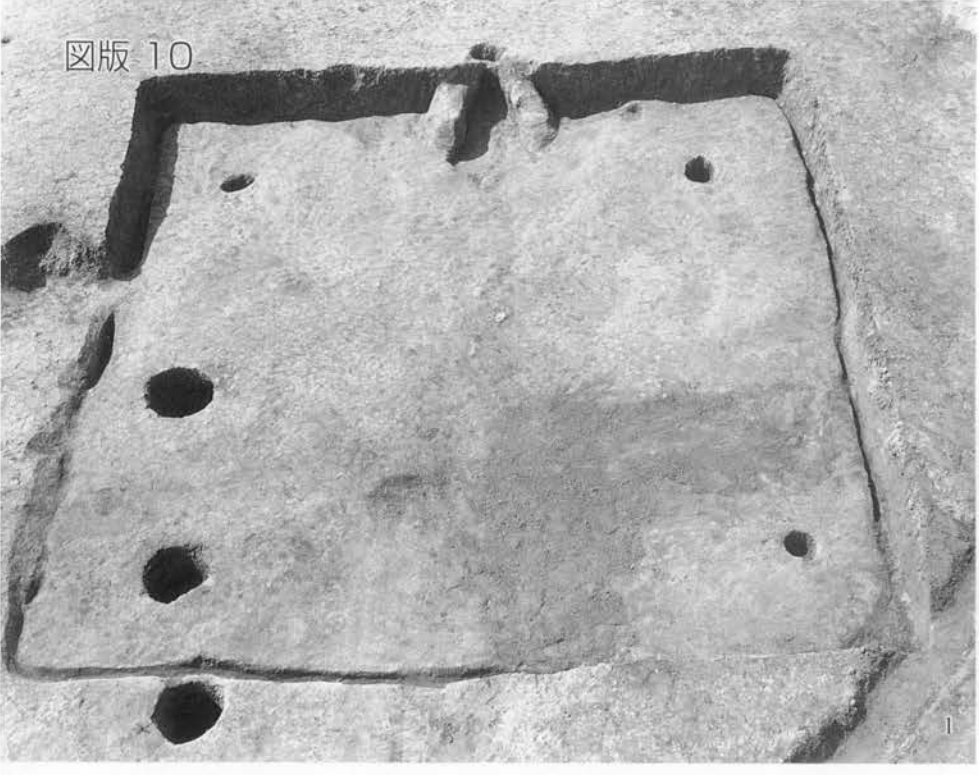
カマド



3．SB025完掘（南東→）

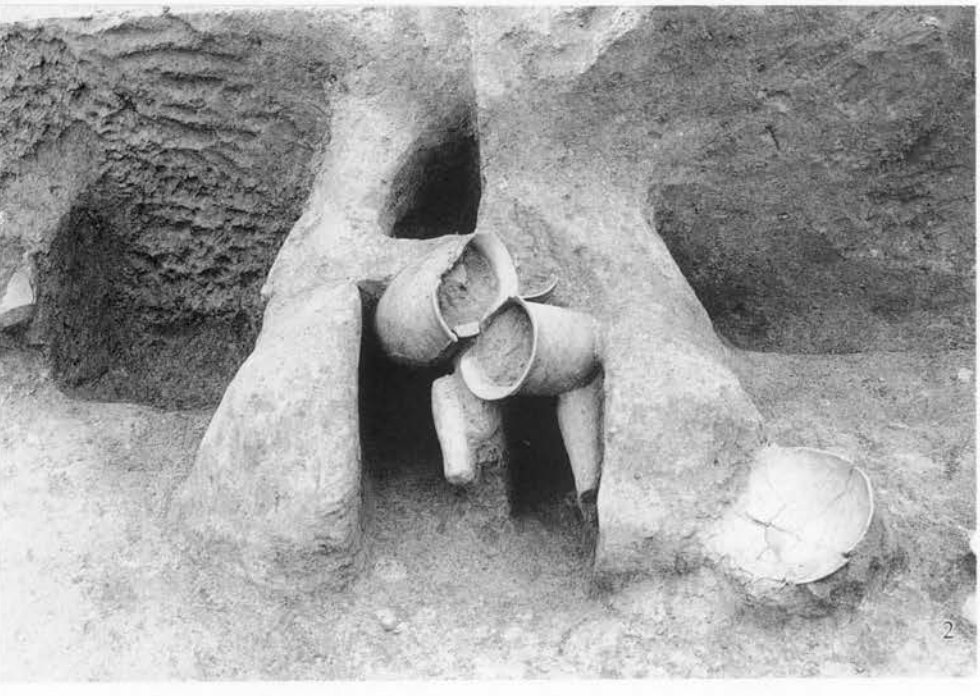
カマド



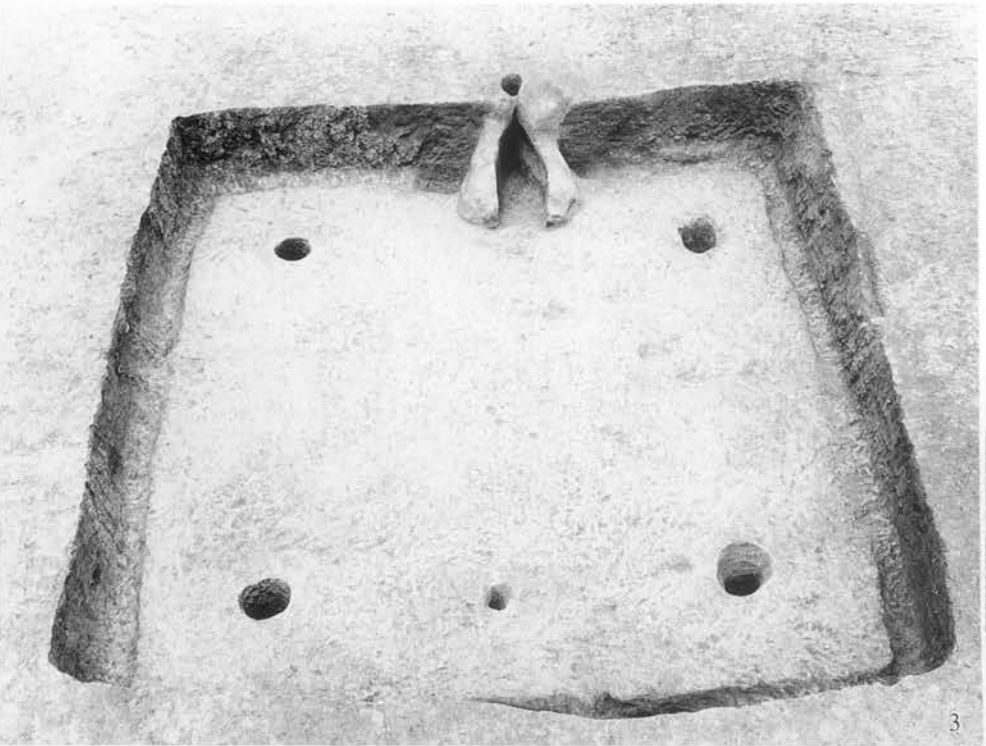


1．SB026完掘（南東→）

カマド



2．SB027遺物出土状況（南→）



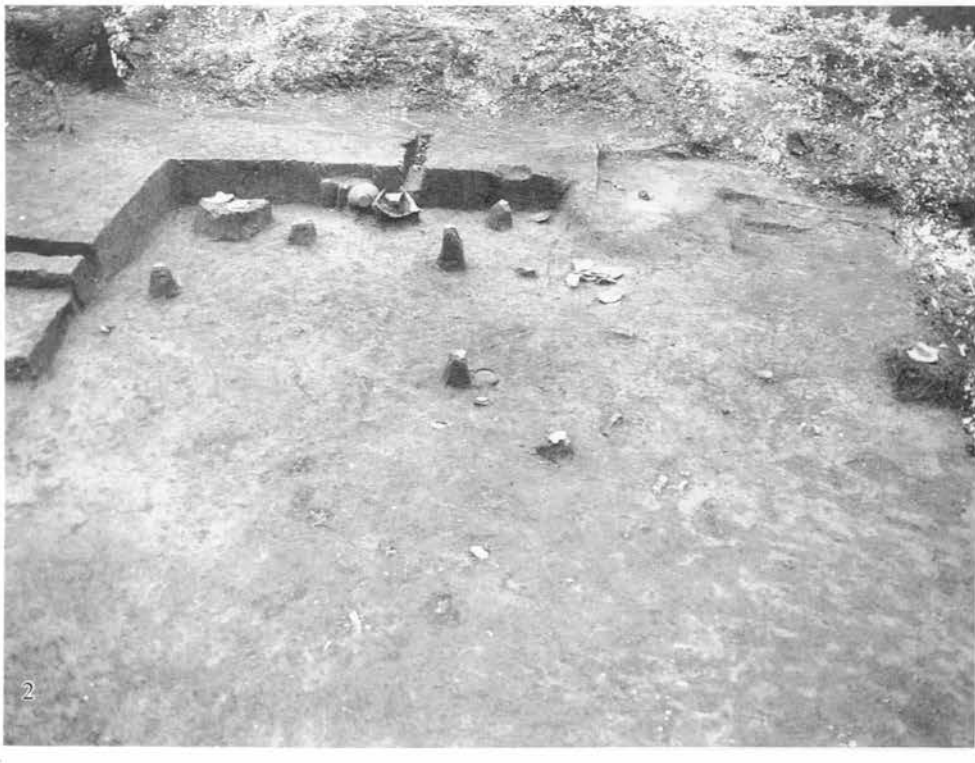
3．SB027完掘（南→）

カマド

1．SB028完掘（南西→）

カマド

2．SB029遺物出土状況（1）
（北西→）



3．SB029遺物出土状況（2）
（北西→）

カマド

図版 12

1．SB030遺物出土状況（北→）

カマド

2．SB030完掘（南→）

SB031　カマド

3．SB031・032完掘（南東→）

SB032　カマド

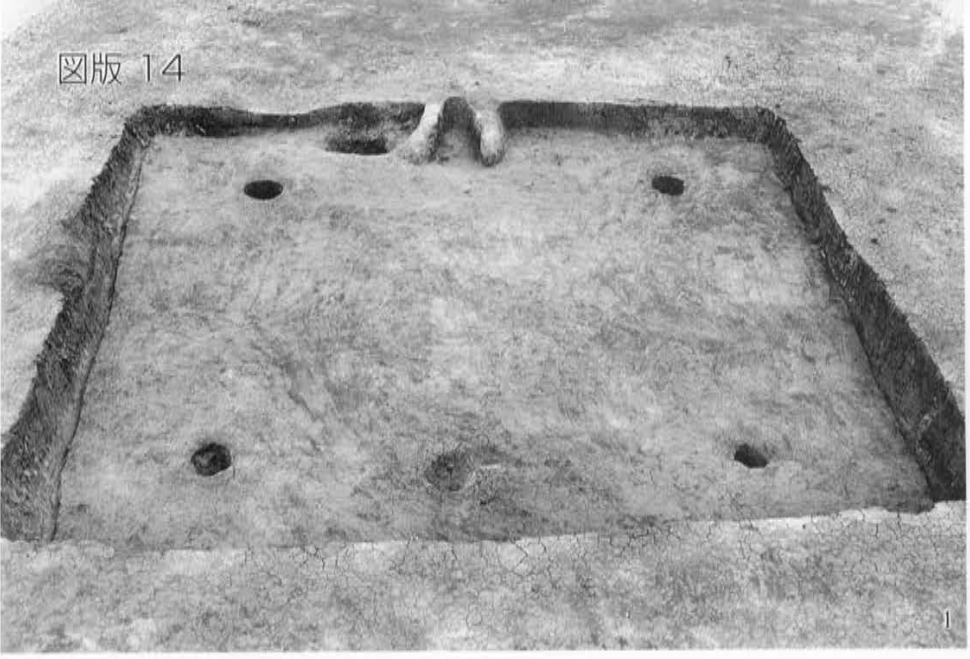
1．SB033覆土内骨蔵器出土状況
（東→）

遺物拡大

2．SB033完掘（南東→）

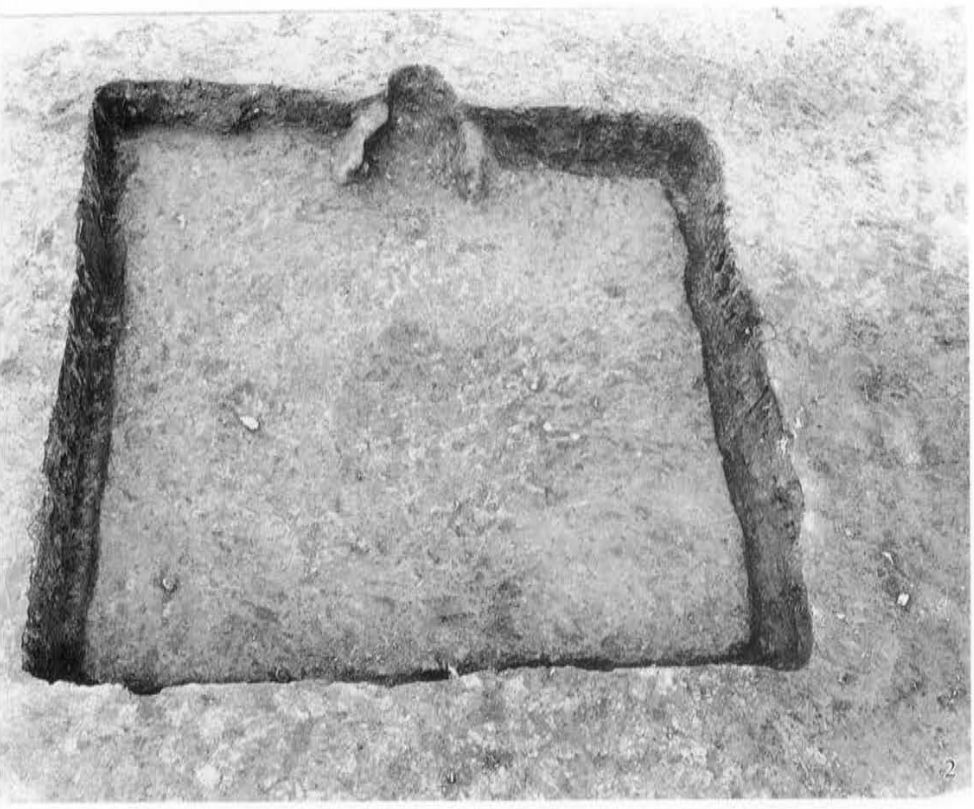
カマド

3．SB034完掘（南東→）

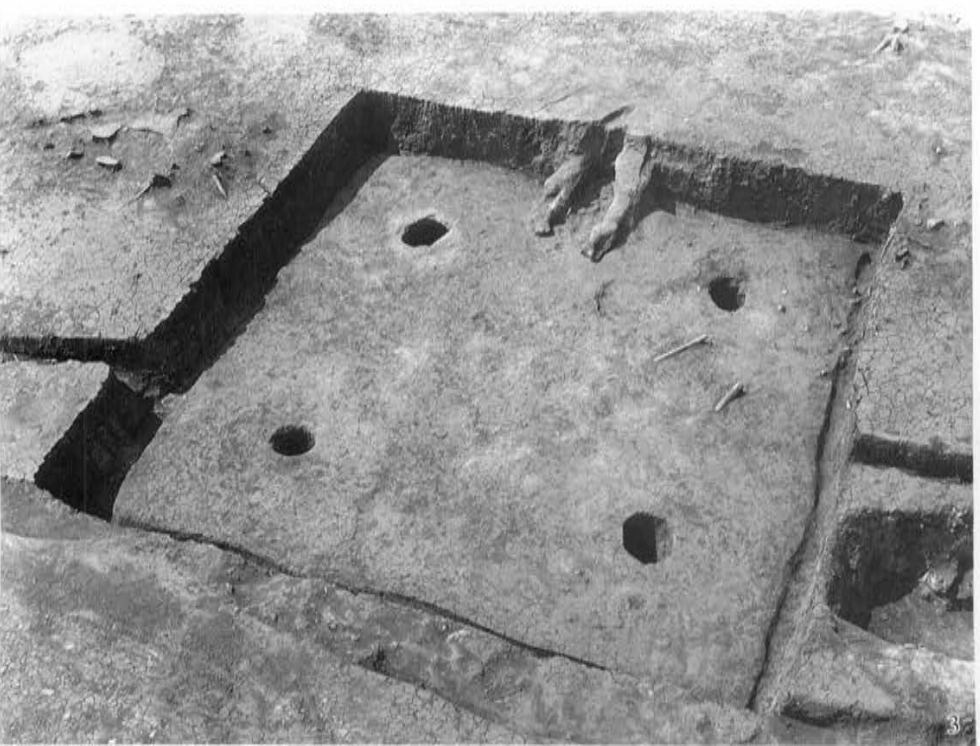


1．SB035完掘（南東→）

カマド



2．SB036完掘（南東→）



3．SB037完掘（東→）

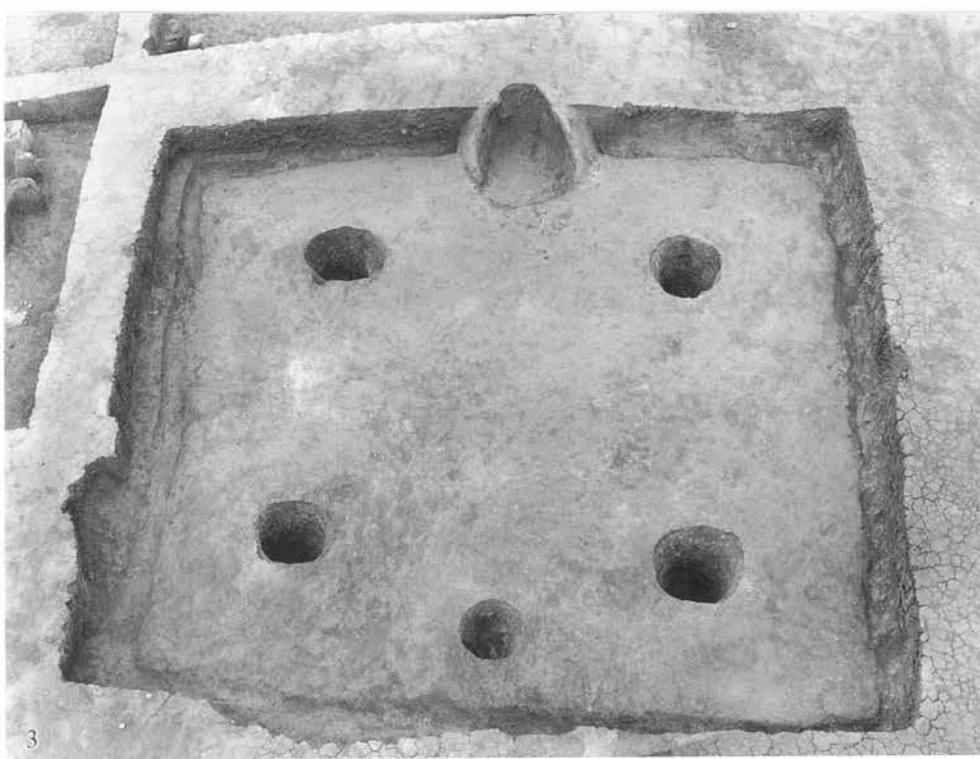
カマド

1．SB038完掘（南東→）

カマド

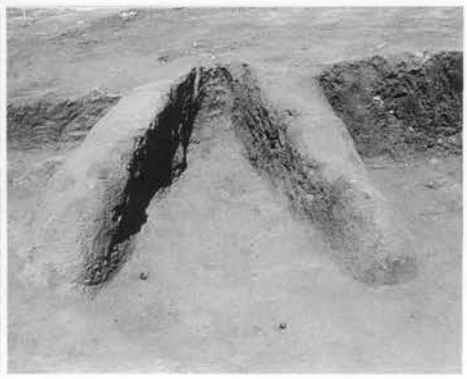
2．SB039遺物出土状況（南→）

3．SB039完掘（南→）



1．SB040完掘（南東→）

カマド



2．SB041完掘（南→）

3．SB042完掘（南東→）

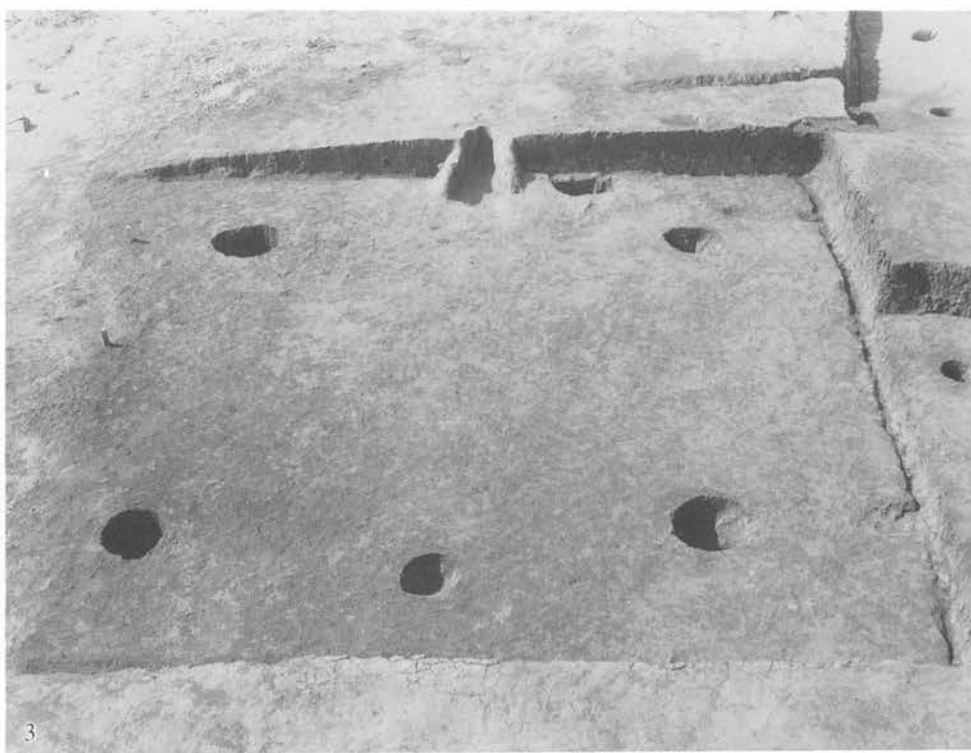
1．SB043完掘（南東→）

カマド

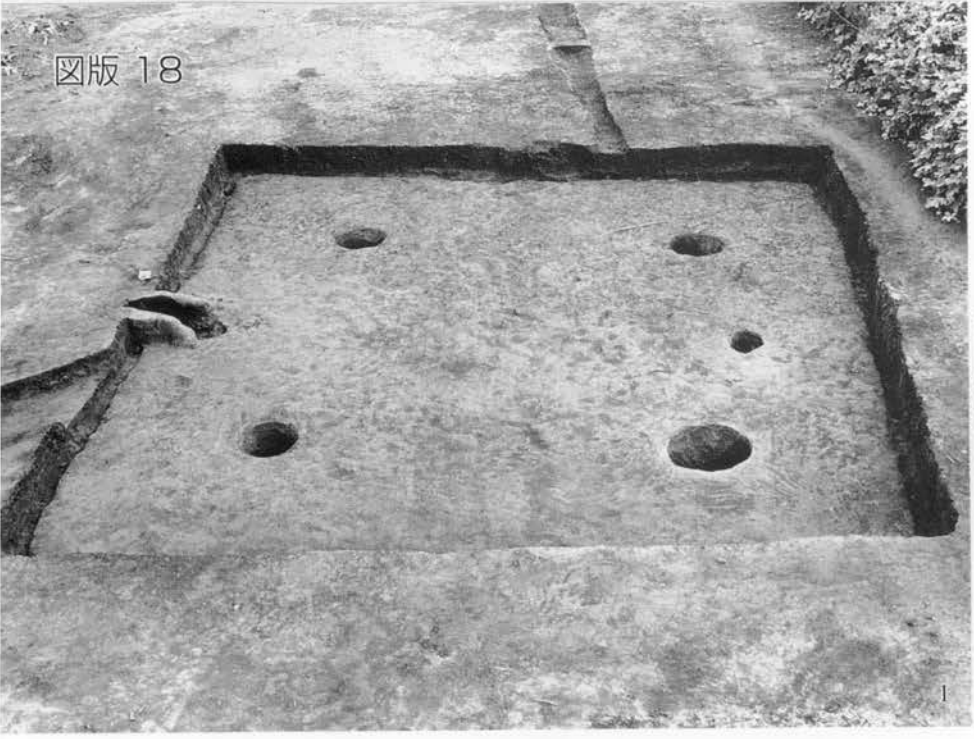
2．SB044貯蔵穴内遺物出土状況
（北西→）

3．SB044完掘（南東→）

カマド



図版 18



1．SB045完掘（南西→）

カマド

2．SB046遺物出土状況（南東→）

遺物拡大

3．SB046完掘（南東→）

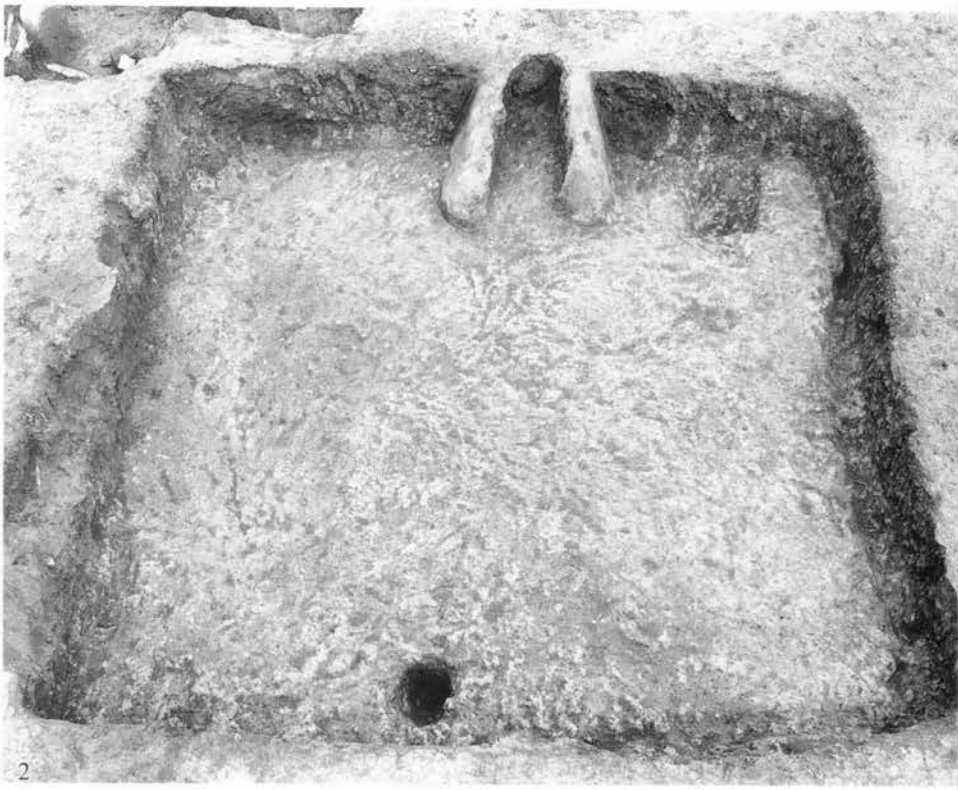
カマド

1．SB050遺物出土状況（南東→）

遺物拡大

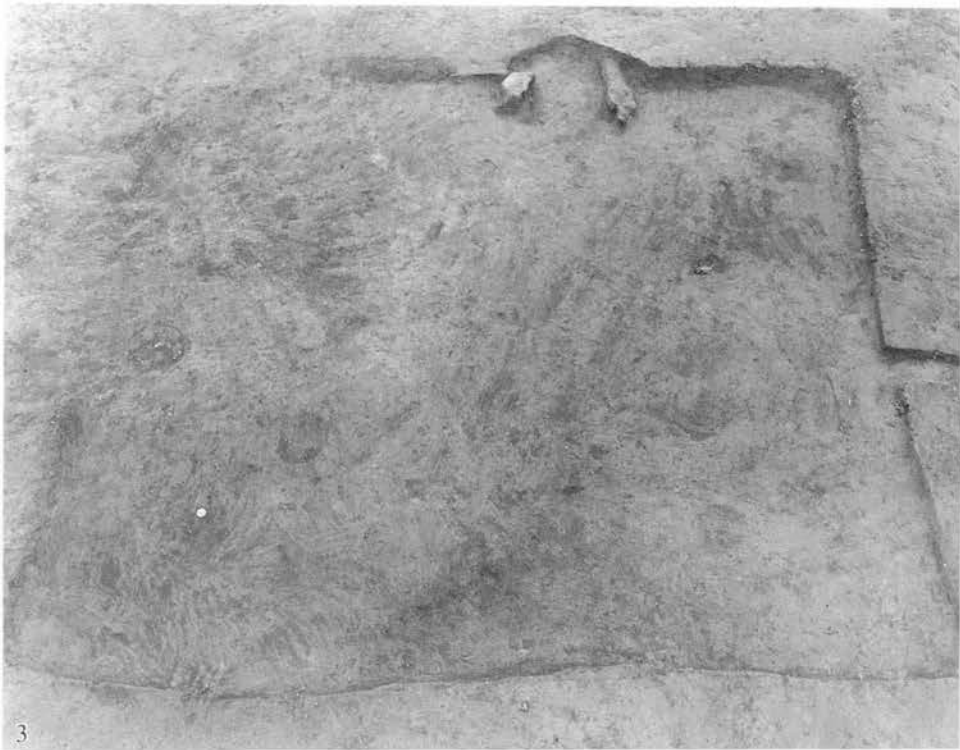
2．SB050完掘（南東→）

カマド



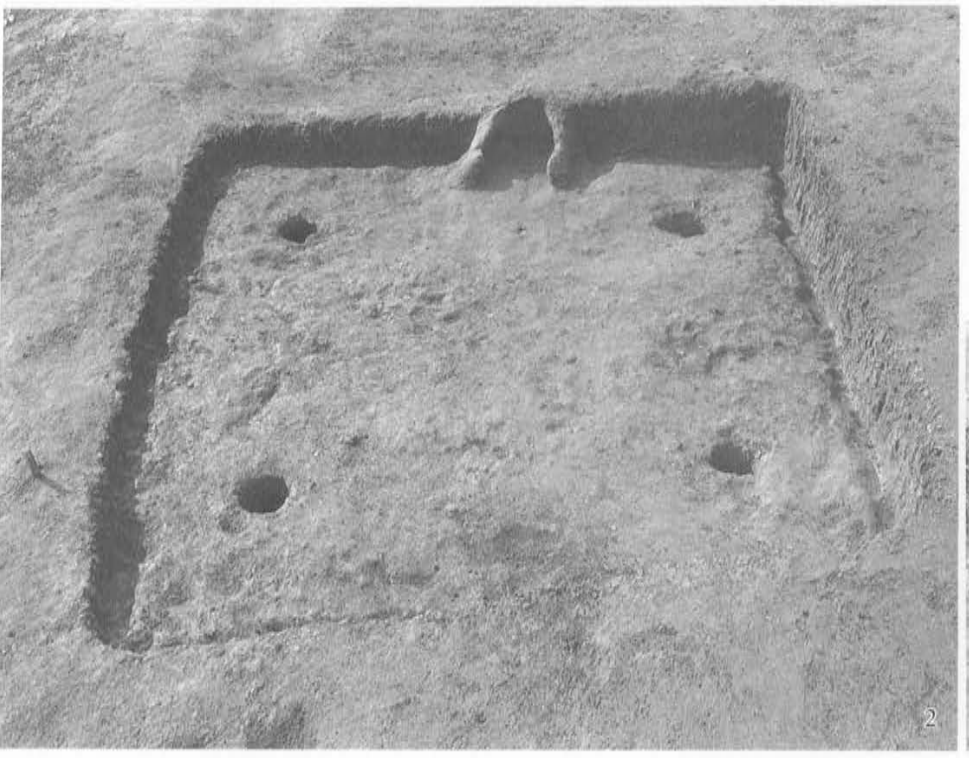
3．SB072完掘（南東→）

カマド



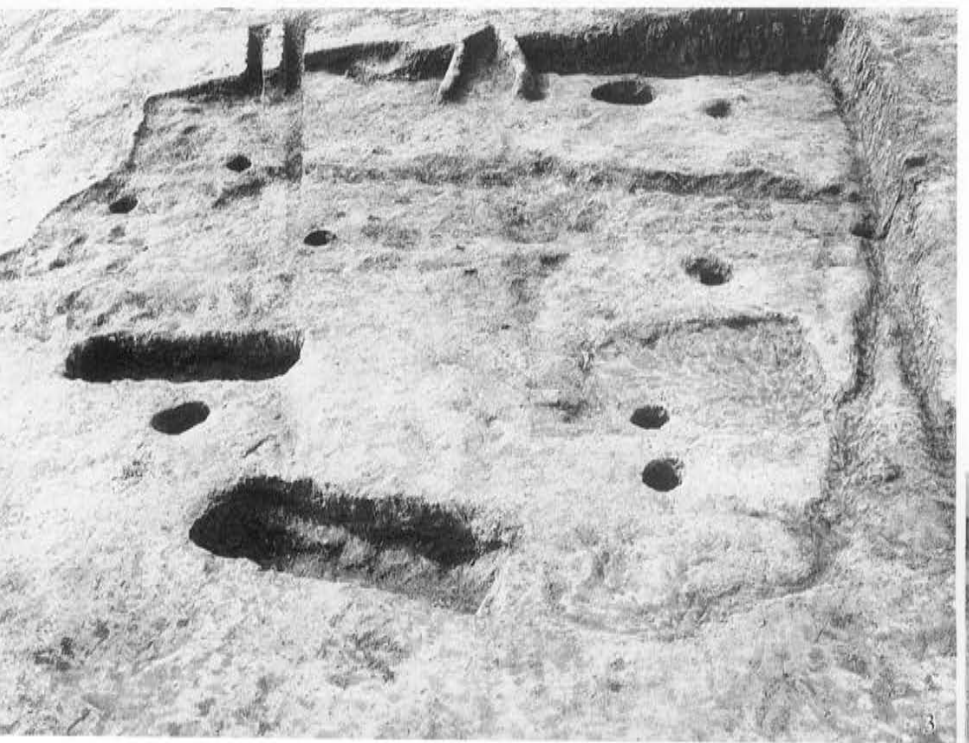
1．SB075完掘（西→）

カマド



2．SB101完掘（南東→）

カマド



3．SB102A・102B完掘（南東→）

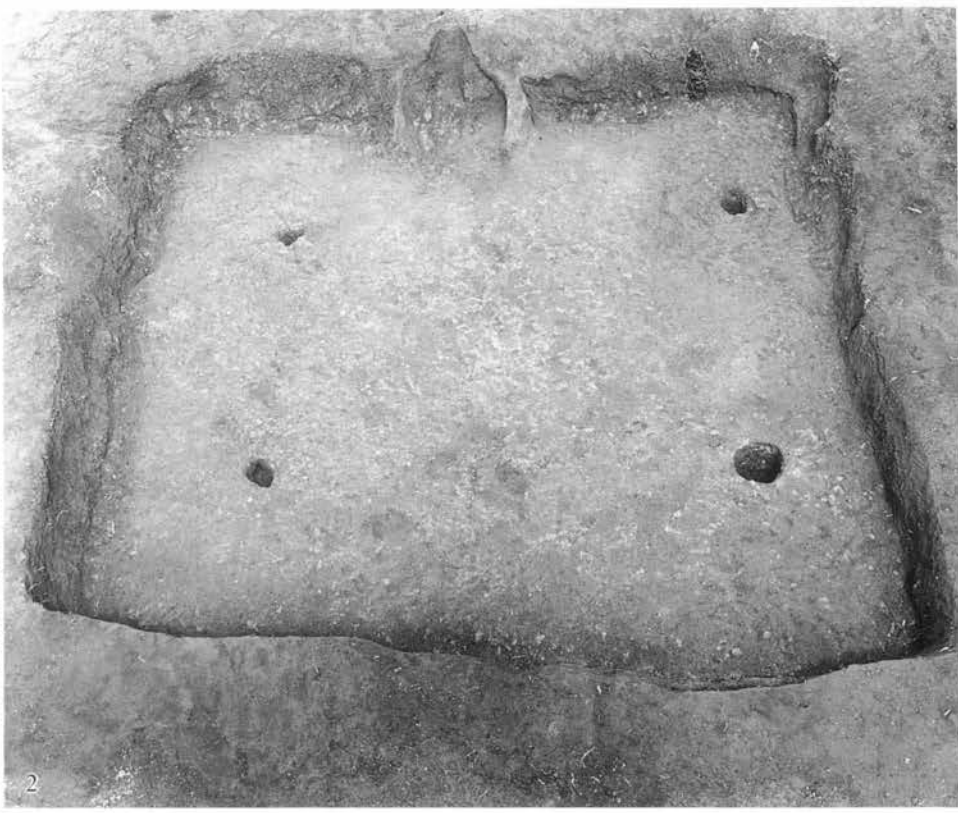
カマド

1．SB103完掘（東→）

カマド

2．SB104完掘（南→）

カマド



3．SB105遺物出土状況（南東→）

1．SB106完掘（南東→）

カマド

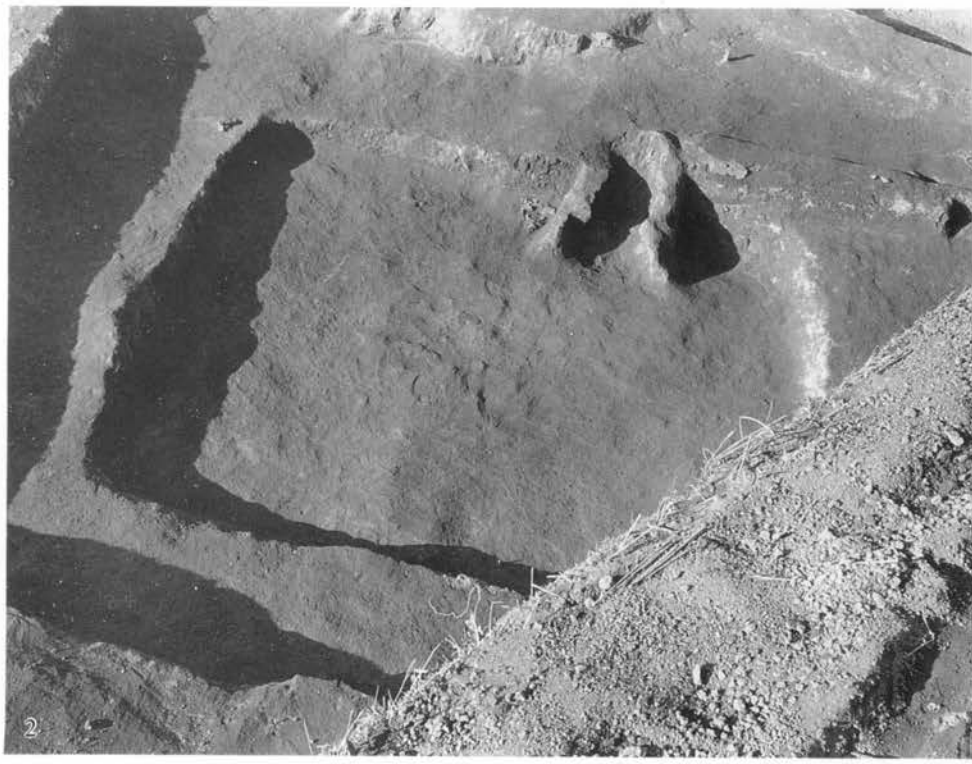
2．SB108完掘（南東→）

3．SB108遺物出土状況（南東→）

カマド

1．SB110完掘（南東→）

2．SB111完掘（南東→）



カマド

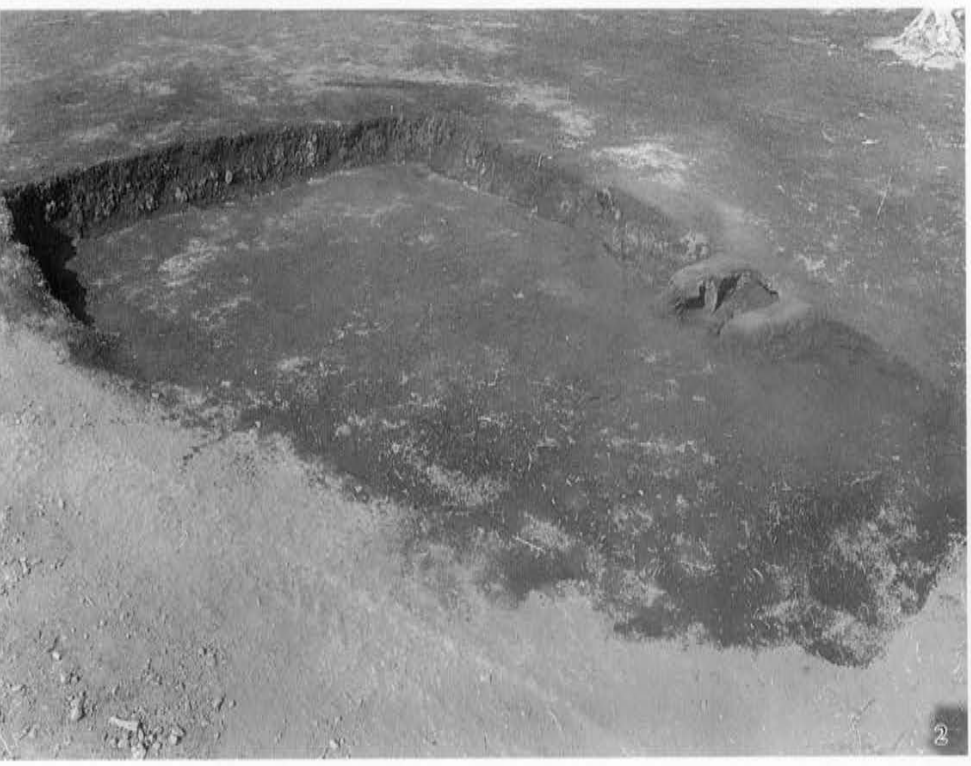
3．SB129完掘（南東→）

カマド

図版 24

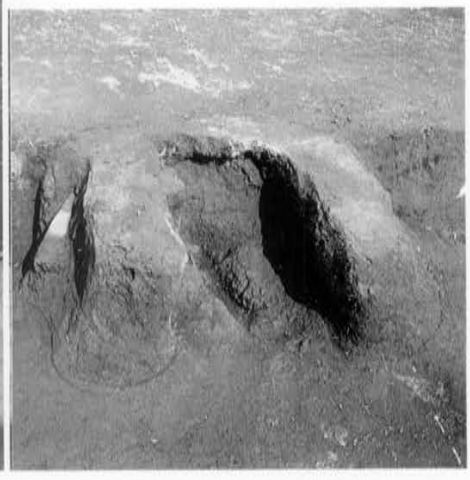
1．SB134完掘（北→）

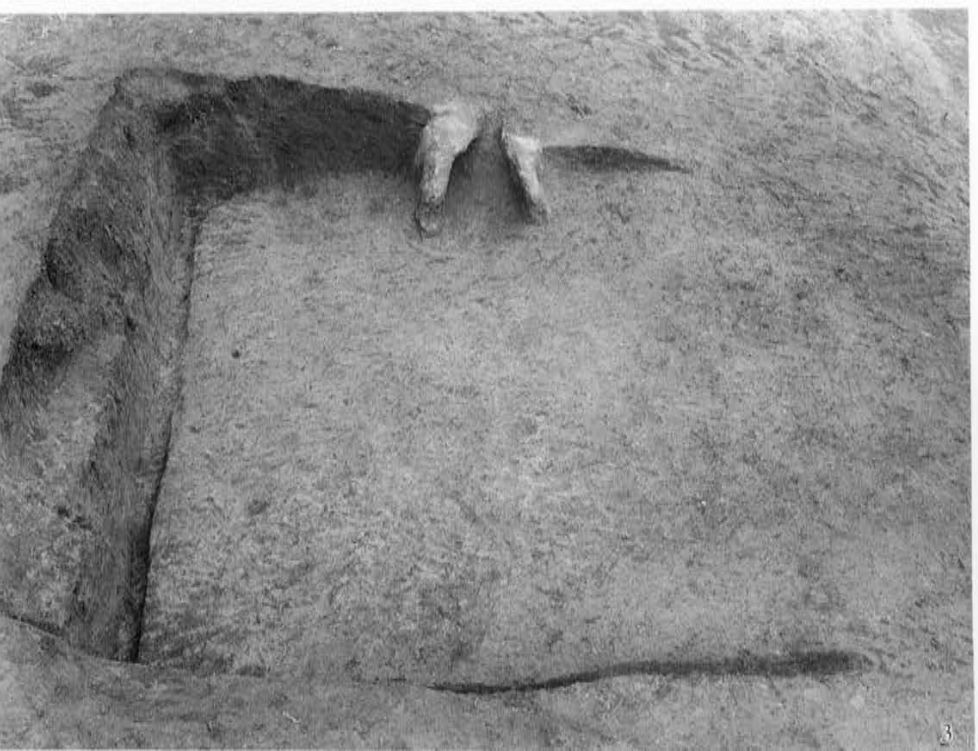
カマド



2．SB138完掘（南→）

カマド

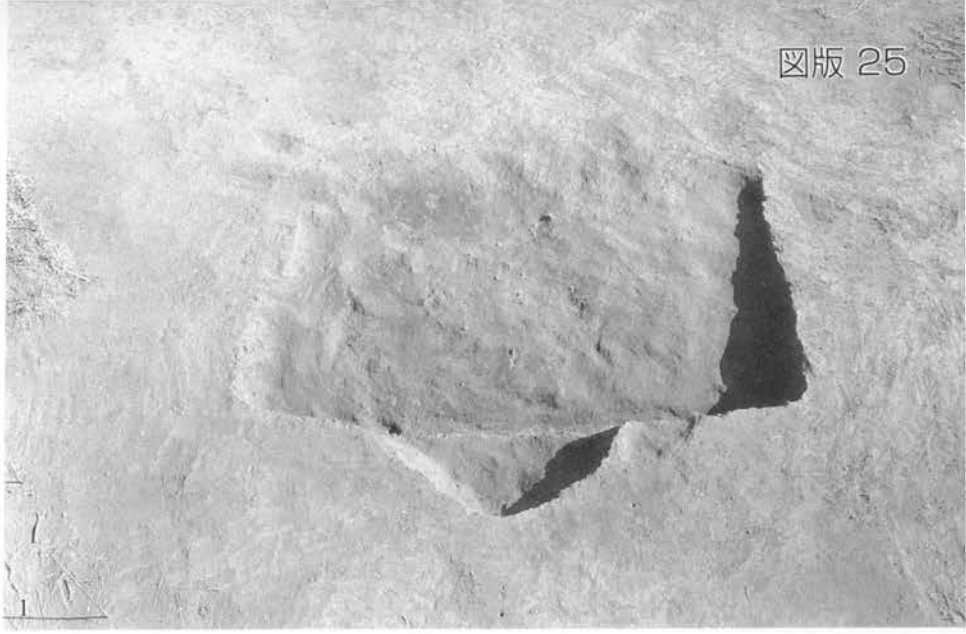




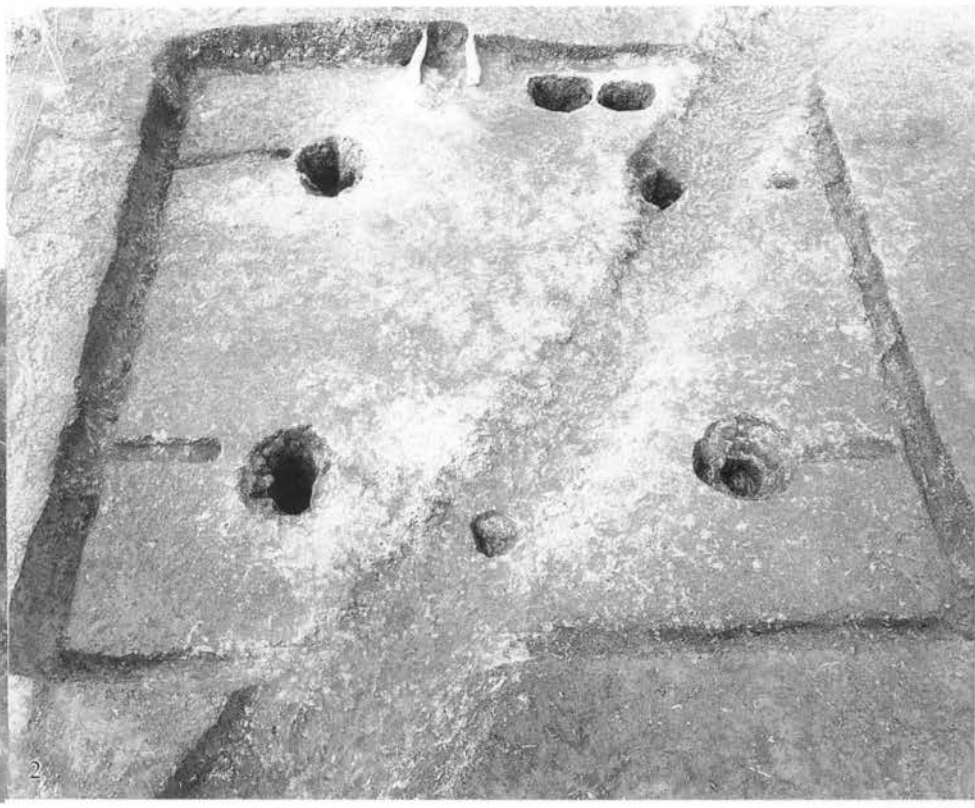
3．SB143完掘（南→）

カマド

1．SB144完掘（北西→）

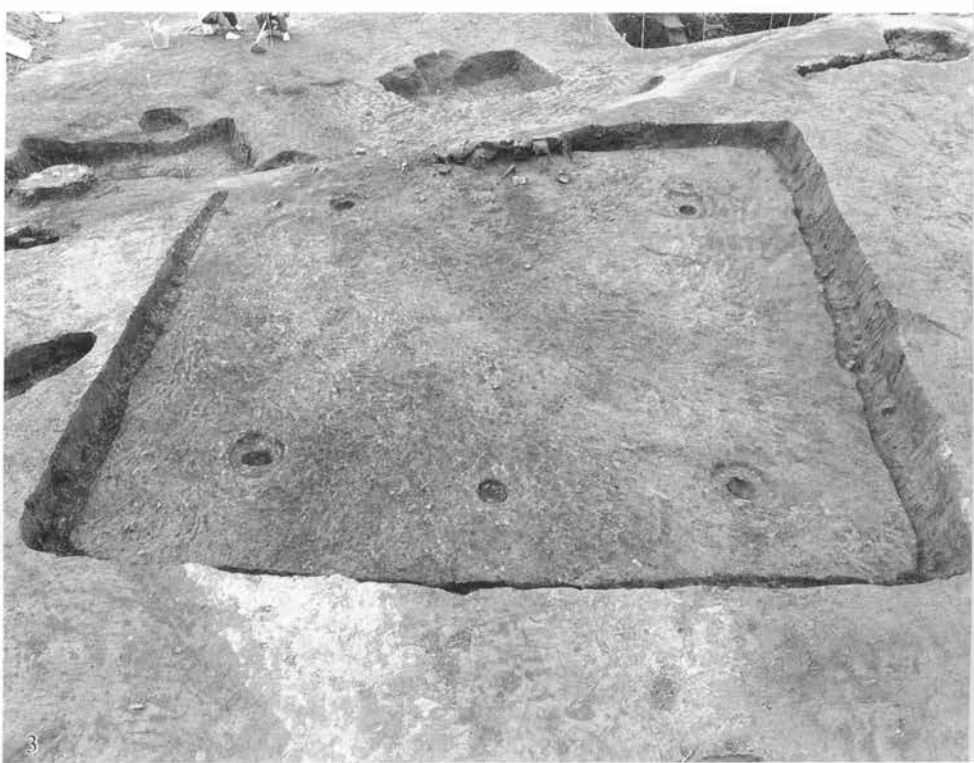


2．SB146完掘（西→）



カマド

3．SB148完掘（南東→）



カマド

1．SB149完掘（西→）

2．SB150遺物出土状況（南→）

3．SB150完掘（南東→）

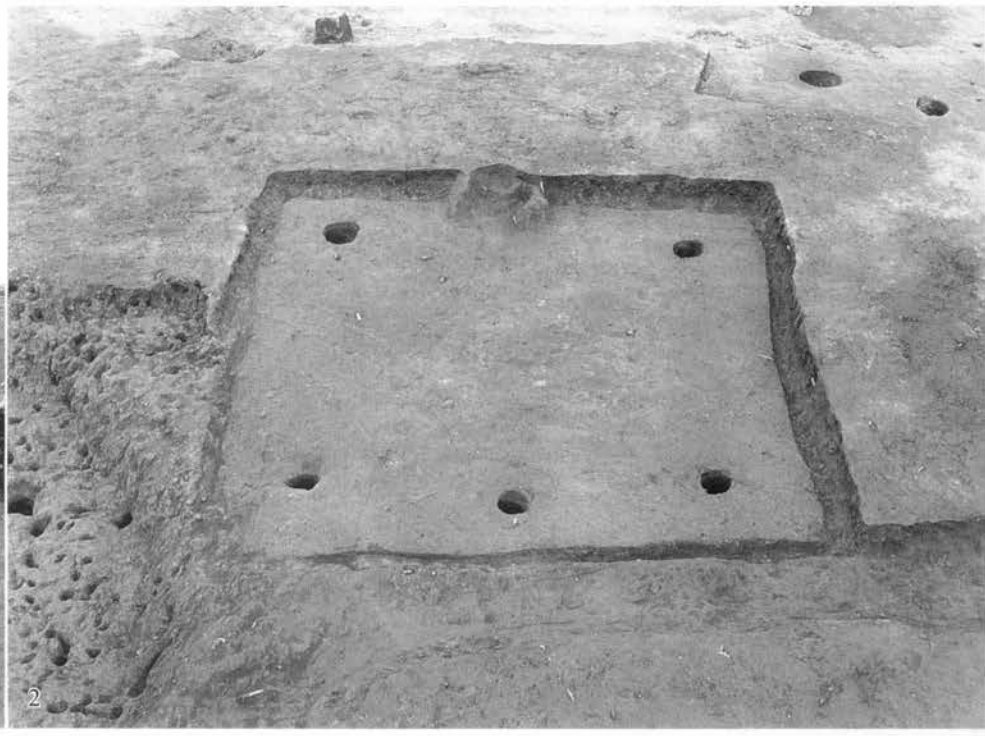
カマド

1．SB151完掘（南東→）

カマド

2．SB152完掘（南東→）

カマド



3．SB153完掘（南東→）

カマド

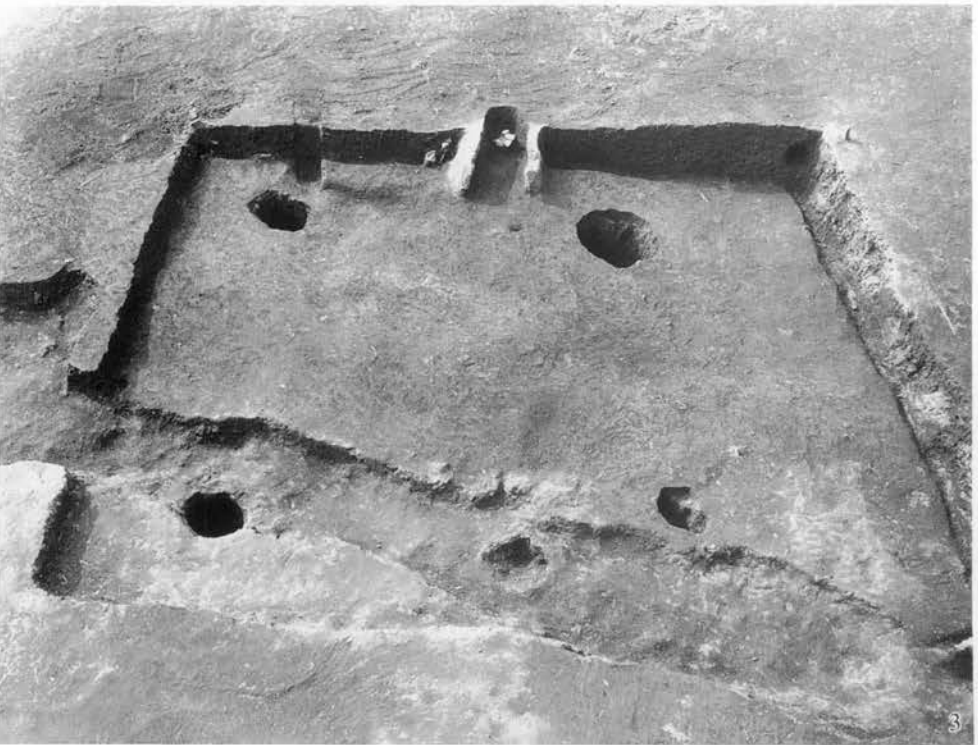
図版 28

1．SB154完掘（南東→）

カマド

2．SB155完掘（南東→）

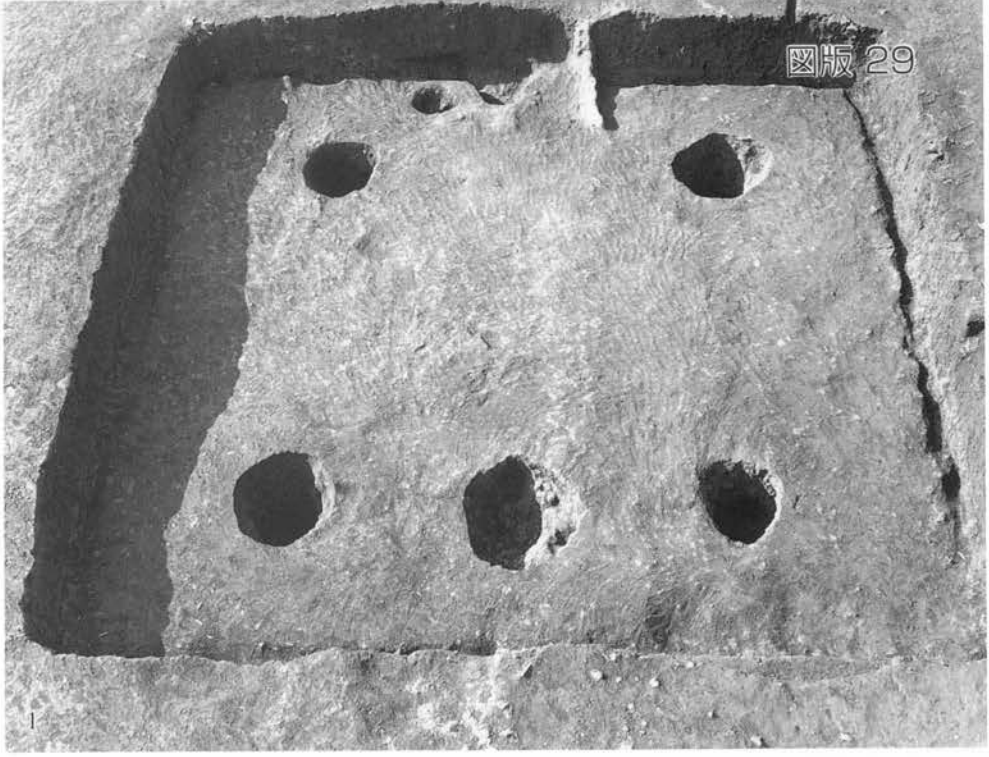
炭化材



3．SB157完掘（南東→）

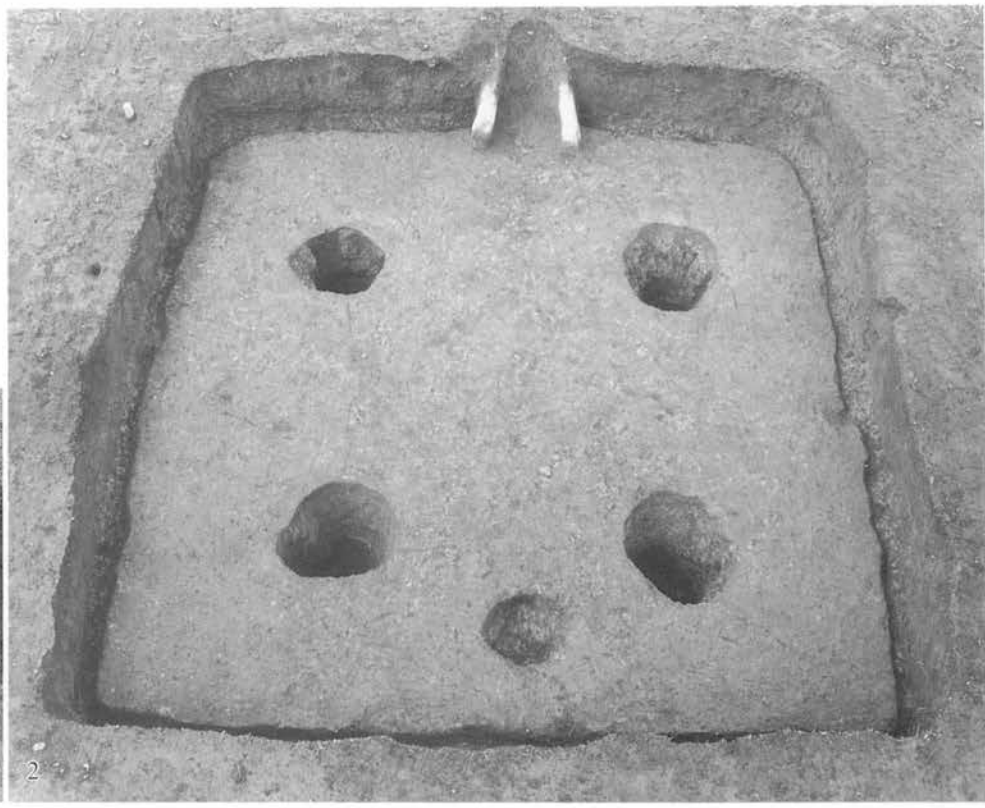
カマド

1．SB158完掘（南東→）



2．SB159完掘（南→）

カマド



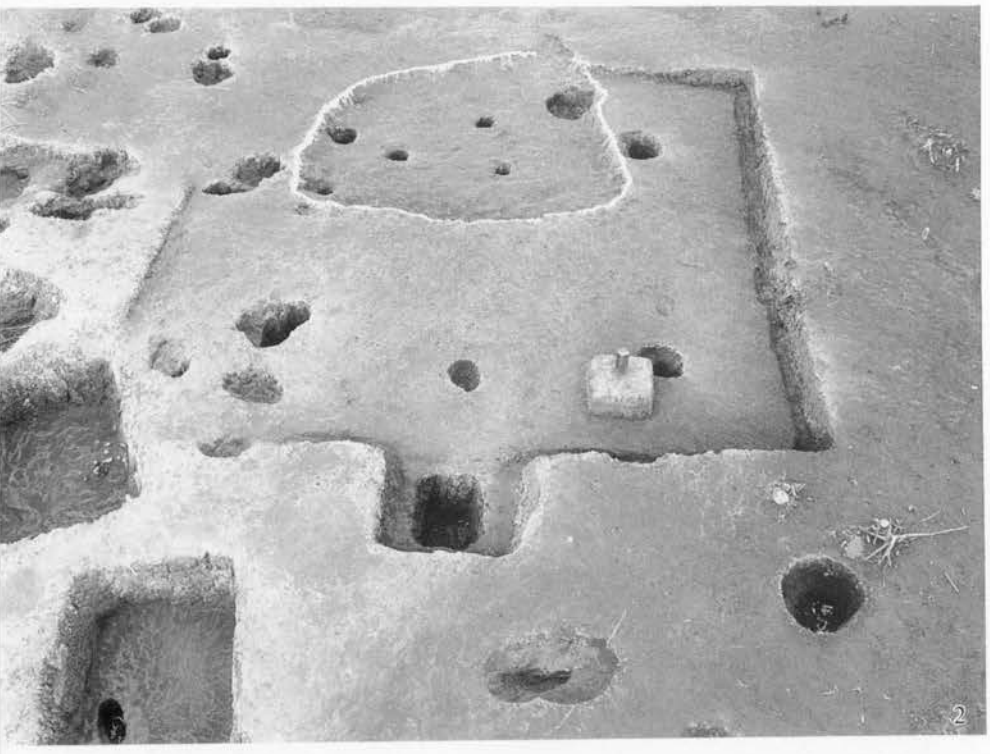
3．SB160完掘（南東→）

カマド

図版 30

1．SB161完掘（南東→）

カマド



2．SB162完掘（南東→）

3．SB163完掘（南東→）

カマド

1．SB164完掘（南東→）

カマド

梯子施設

2．SB165完掘（南東→）

カマド

梯子施設

図版 32

1．SB166遺物出土状況（南東→）

遺物拡大

2．SB168完掘（南東→）

3．SB168遺物出土状況（南東→）

1．SB169完掘（南東→）

カマド

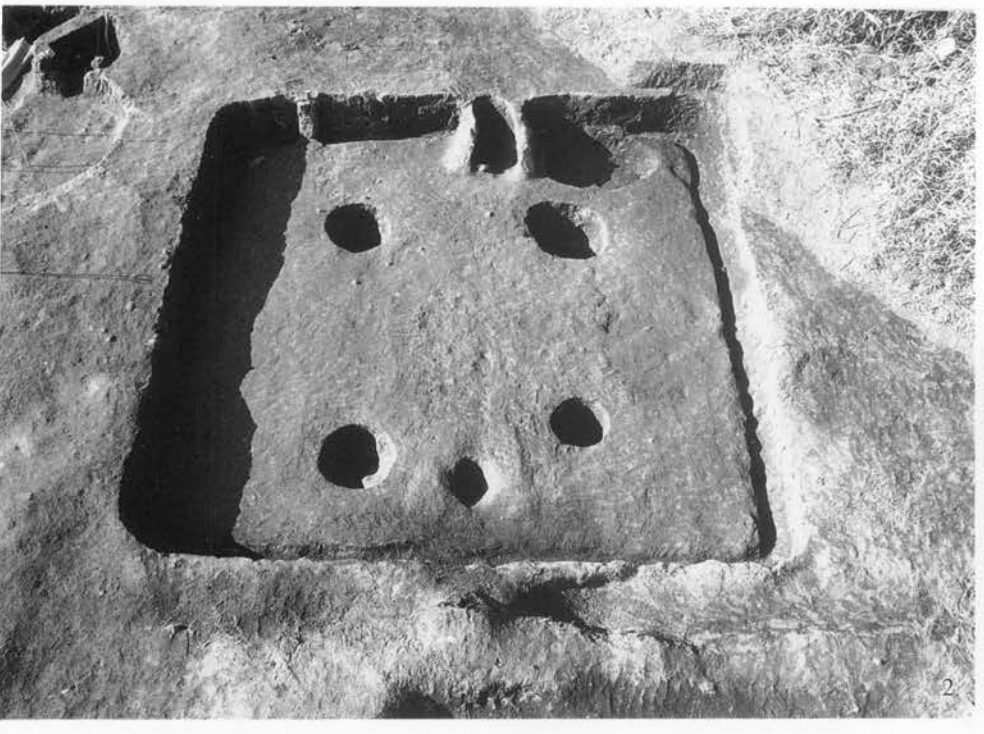
2．SB170完掘（南東→）

カマド

3．SB171完掘（南東→）

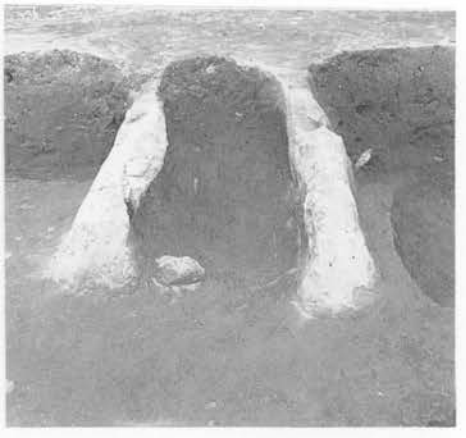
遺物拡大

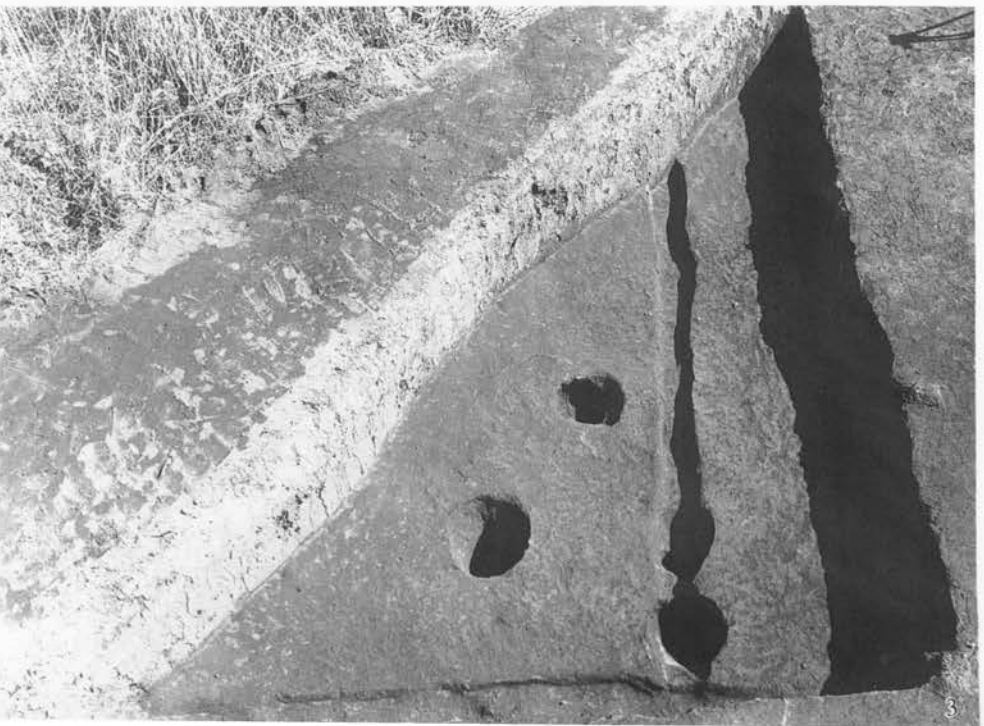
1．SB183遺物出土状況（北東→）



2．SB188完掘（南東→）

カマド





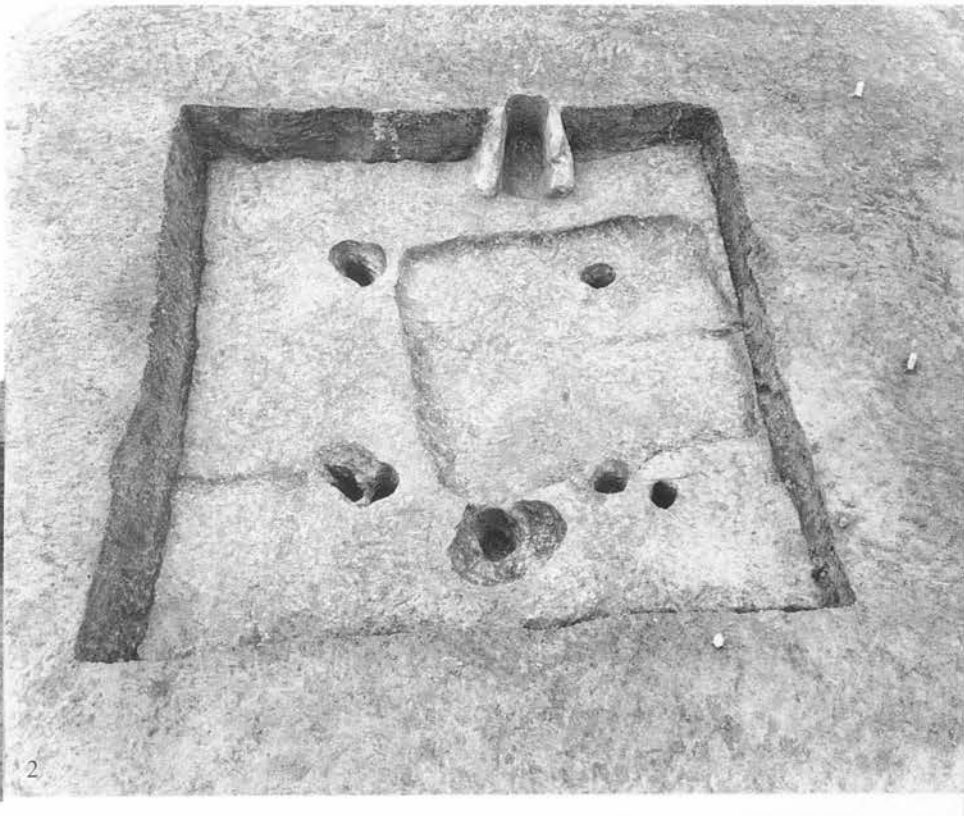
3．SB189完掘（西→）

1．SB201完掘（南東→）

カマド

2．SB202完掘（東→）

カマド

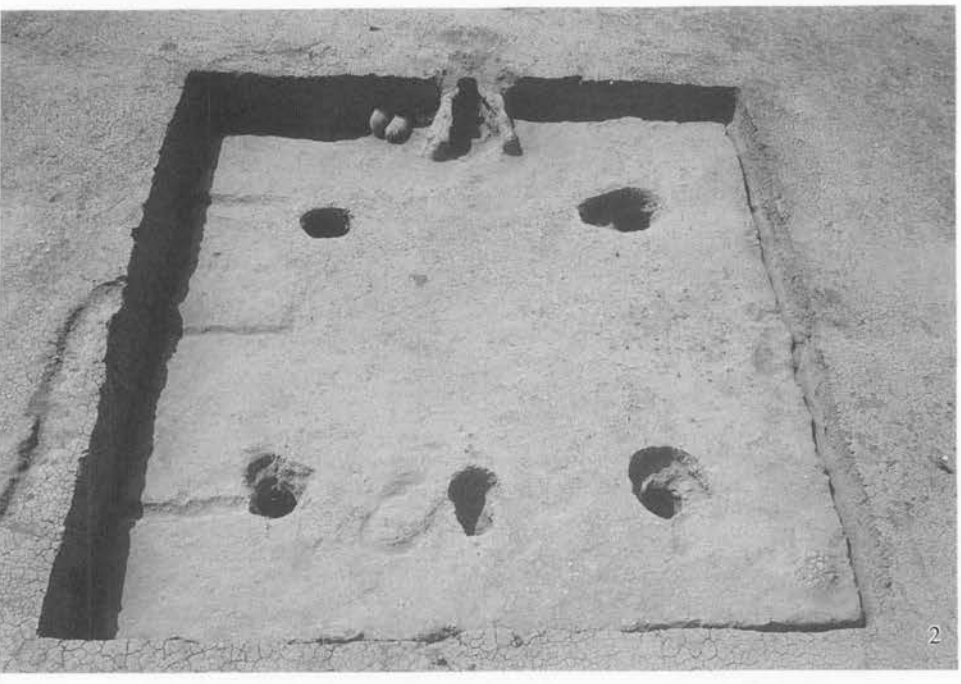


3．SB214完掘（南→）

図版 36

1．SB215完掘（南→）

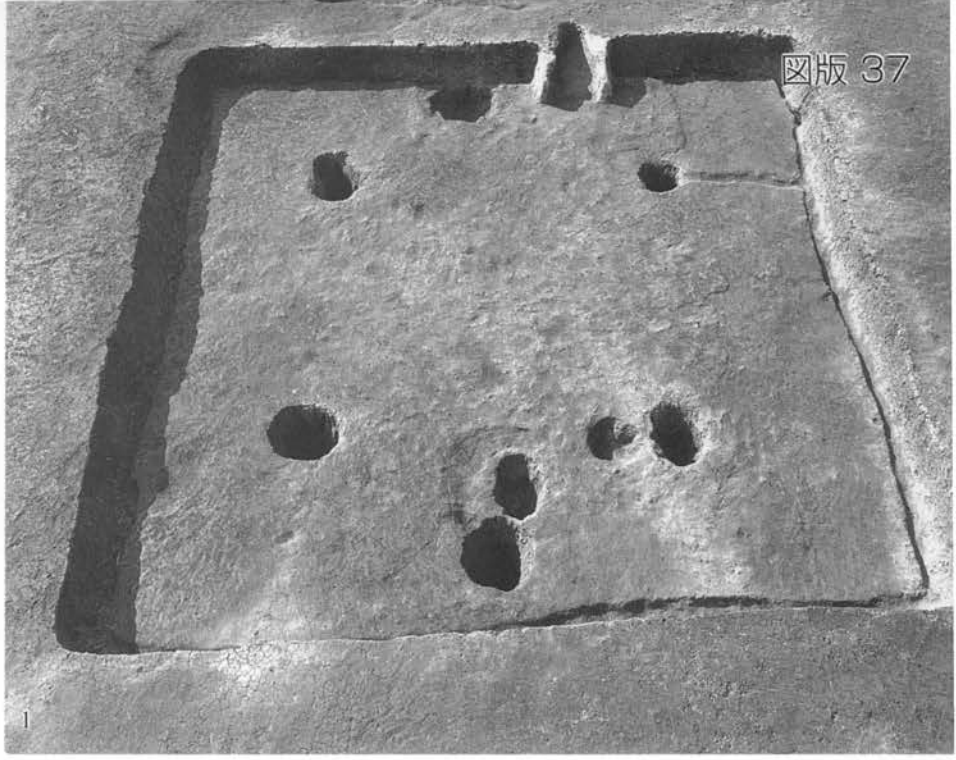
カマド



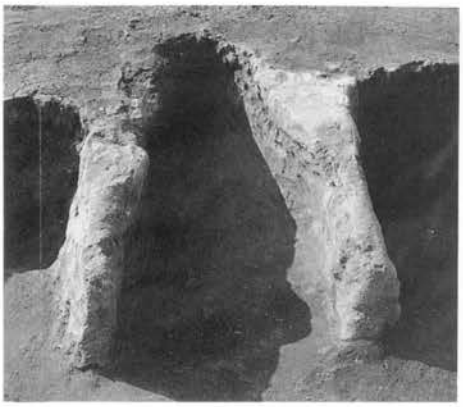
2．SB217完掘（東→）

3．SB217遺物出土状況（東→）

1．SB218完掘（南東→）



カマド



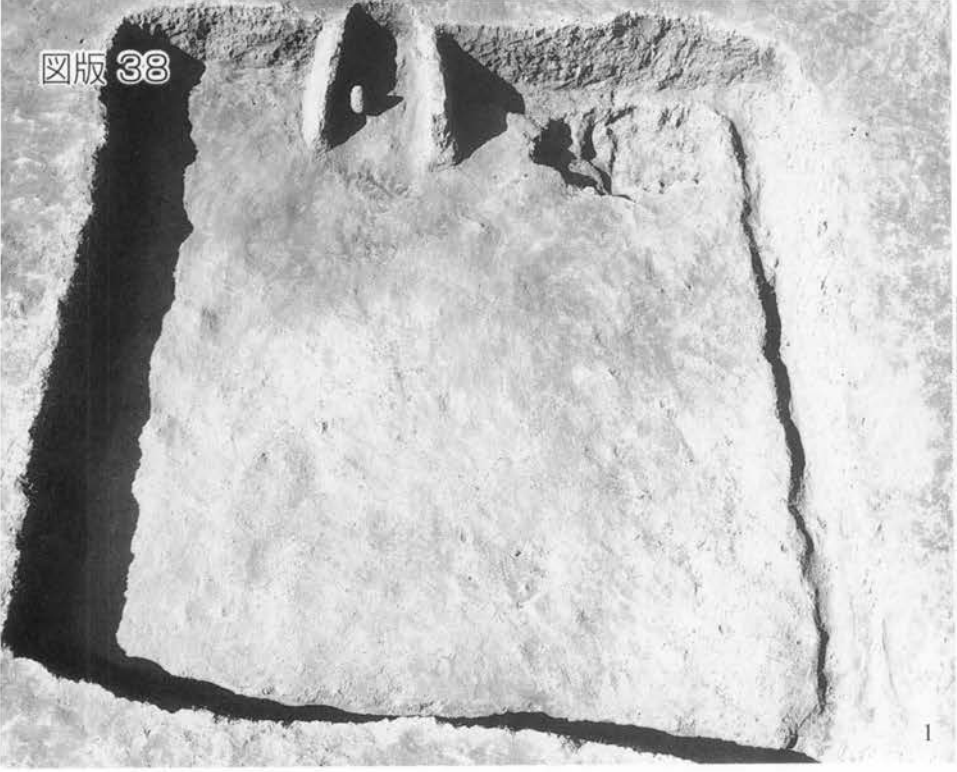
2．SB219完掘

粘土採掘坑全景（東→）

カマド

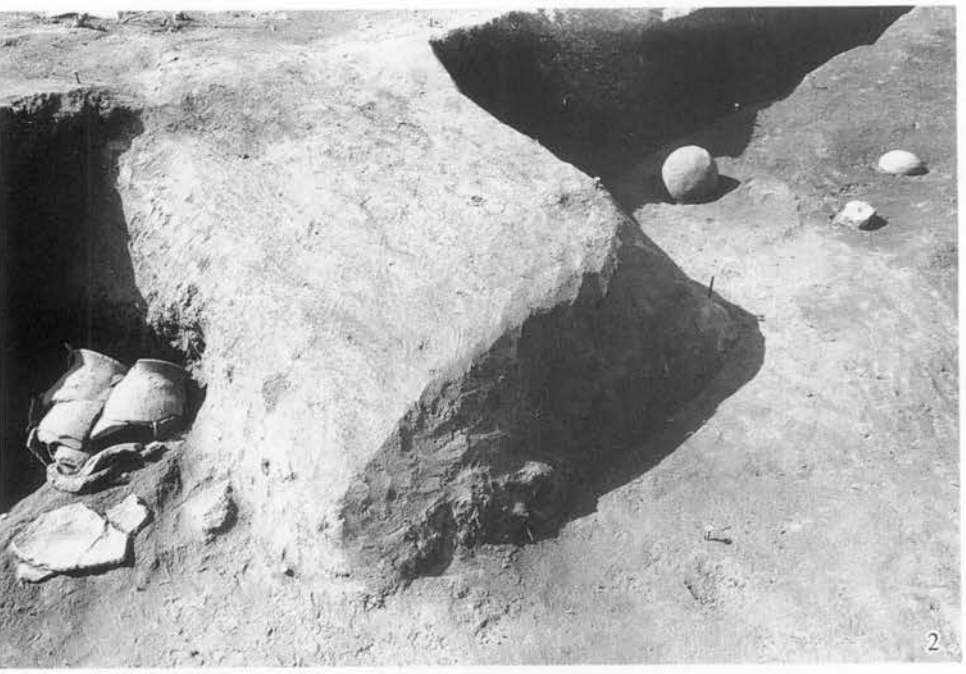
3．SB220遺物出土状況（東→）

図版 38

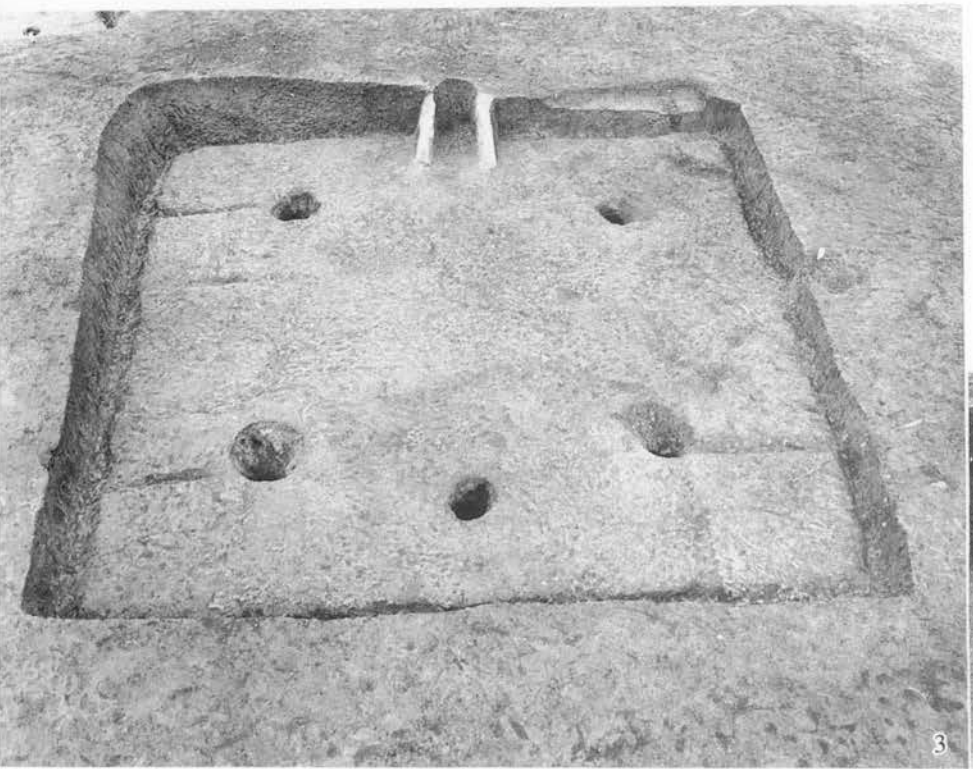


1．SB220完掘（南→）

カマド



2．SB221遺物出土状況（南→）



3．SB221完掘（南東→）

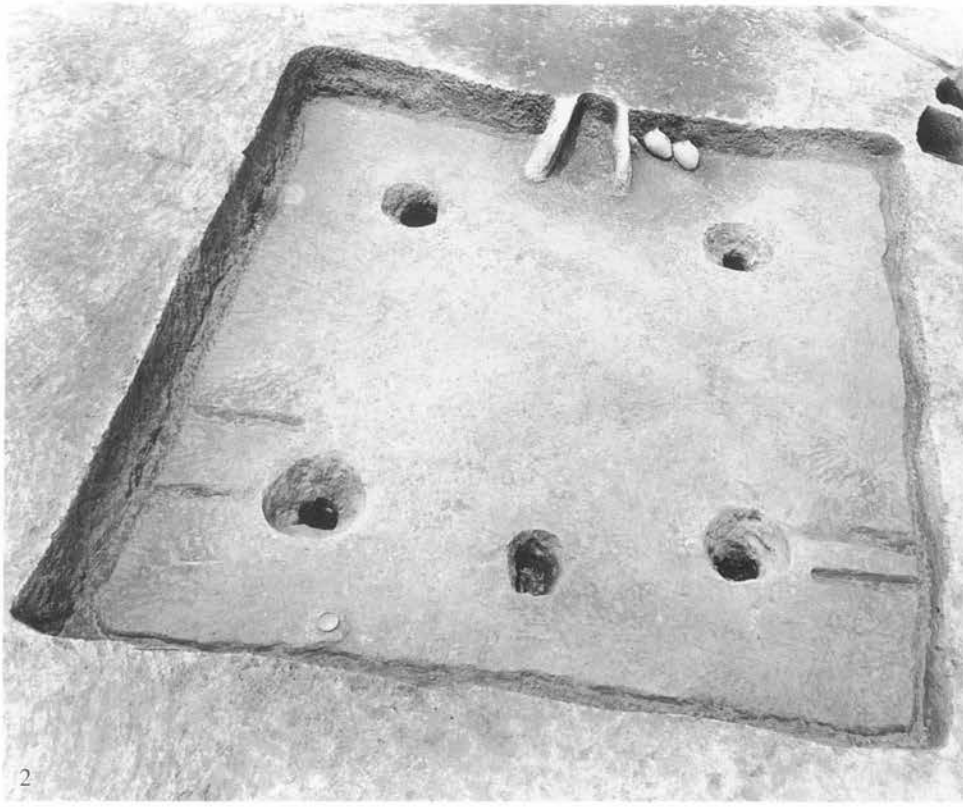
カマド

1．SB222完掘（南西→）

カマド

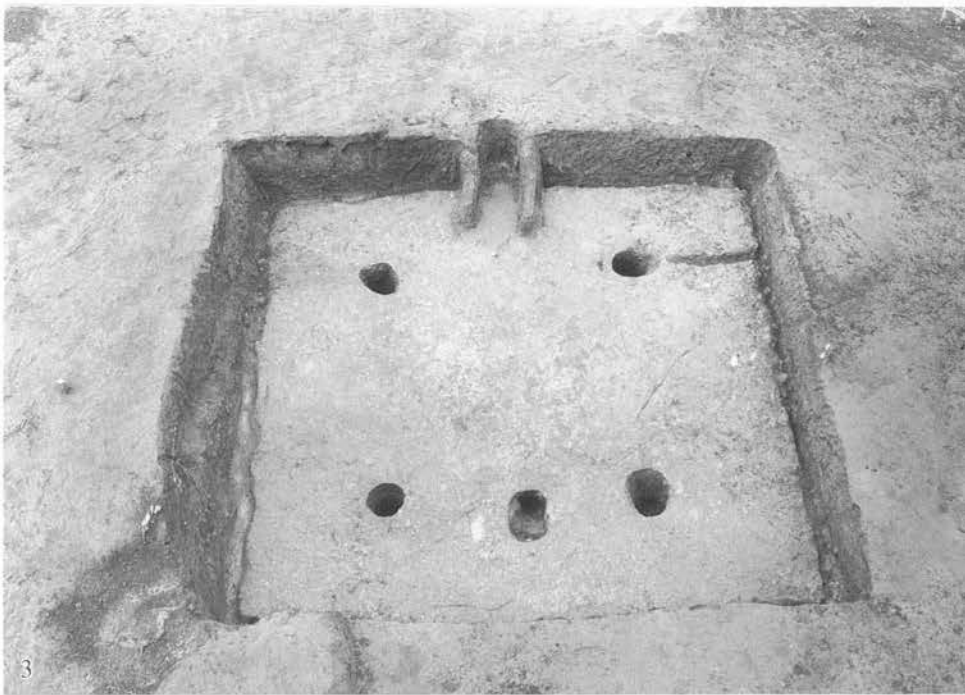
2．SB223遺物出土状況（東→）

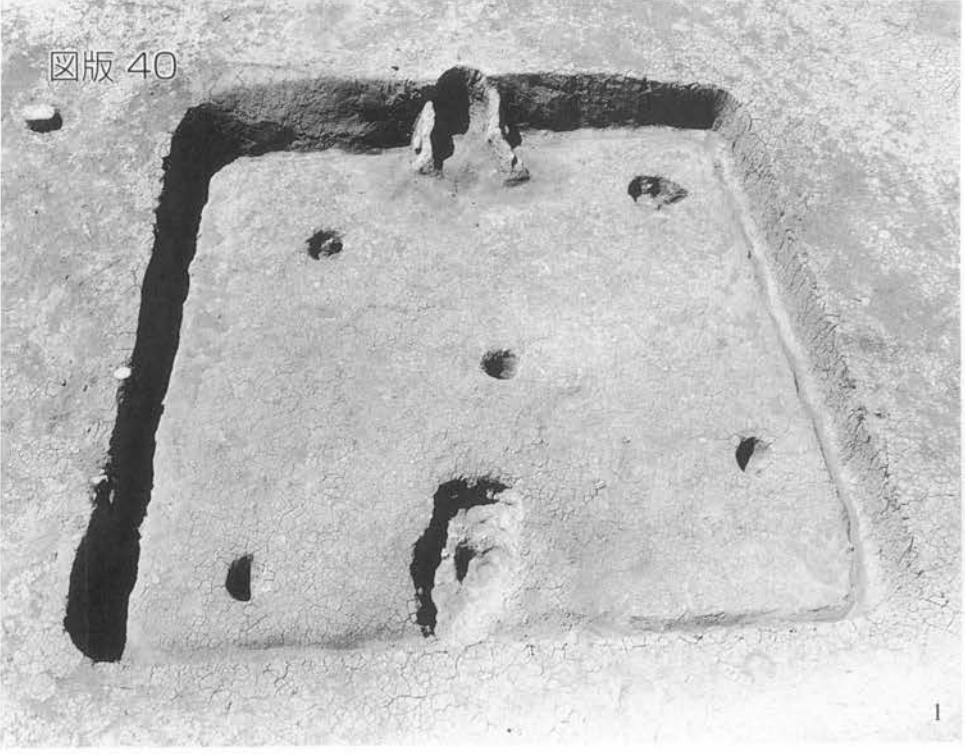
カマド



3．SB224完掘（南東→）

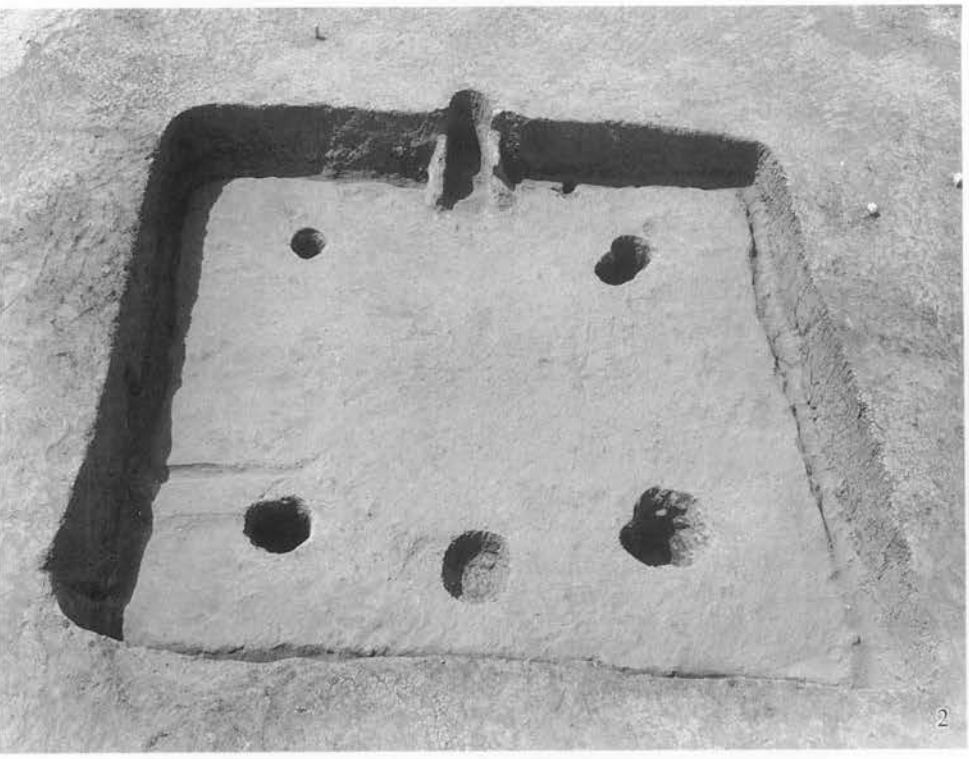
カマド





1．SB227完掘（南東→）

カマド



2．SB228完掘（南東→）

カマド

3．SB229遺物出土状況（南西→）

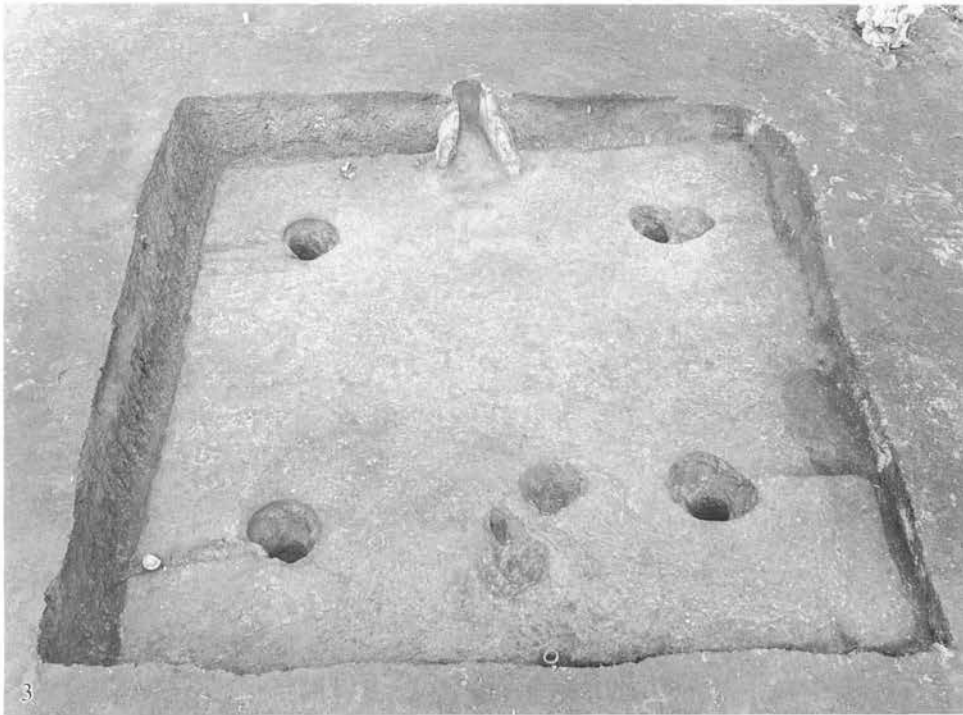
1．SB229完掘（南東→）

カマド

2．SB230遺物出土状況（北→）

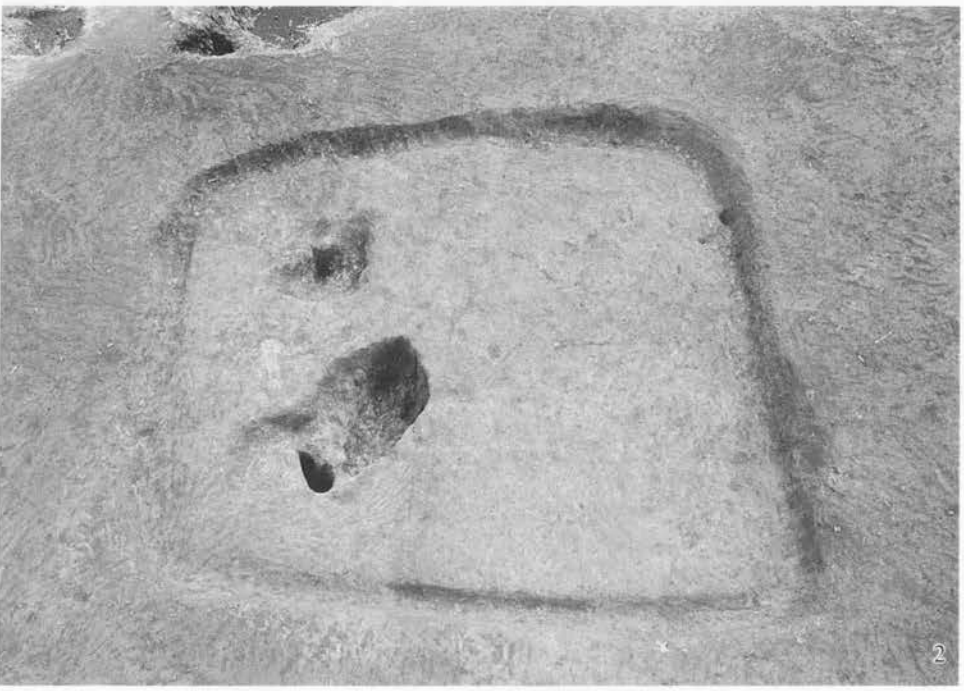
3．SB230完掘（東→）

カマド



1．SB232完掘（南東→）

カマド



2．SB233完掘（北東→）

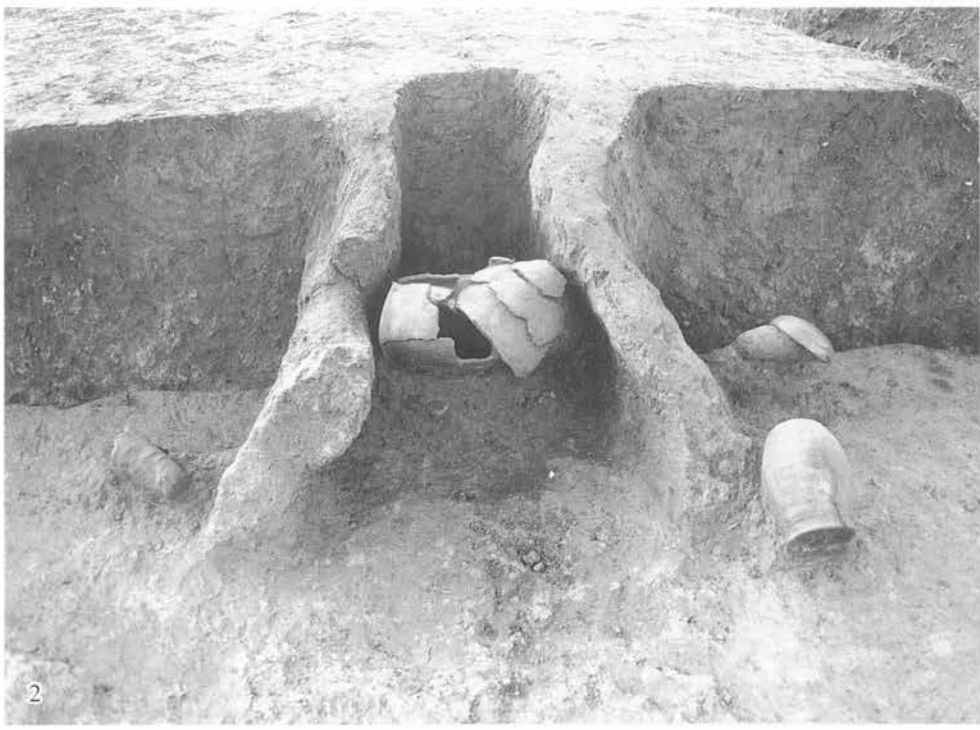
3．SB234完掘（南東→）

カマド

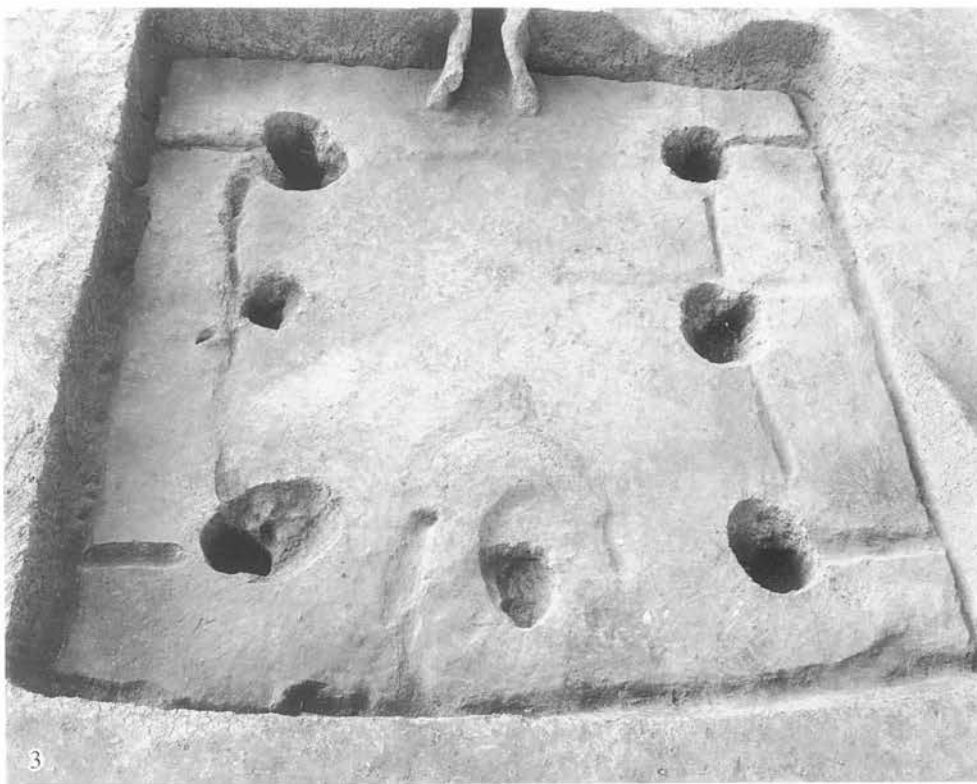
1．SB235完掘（南東→）

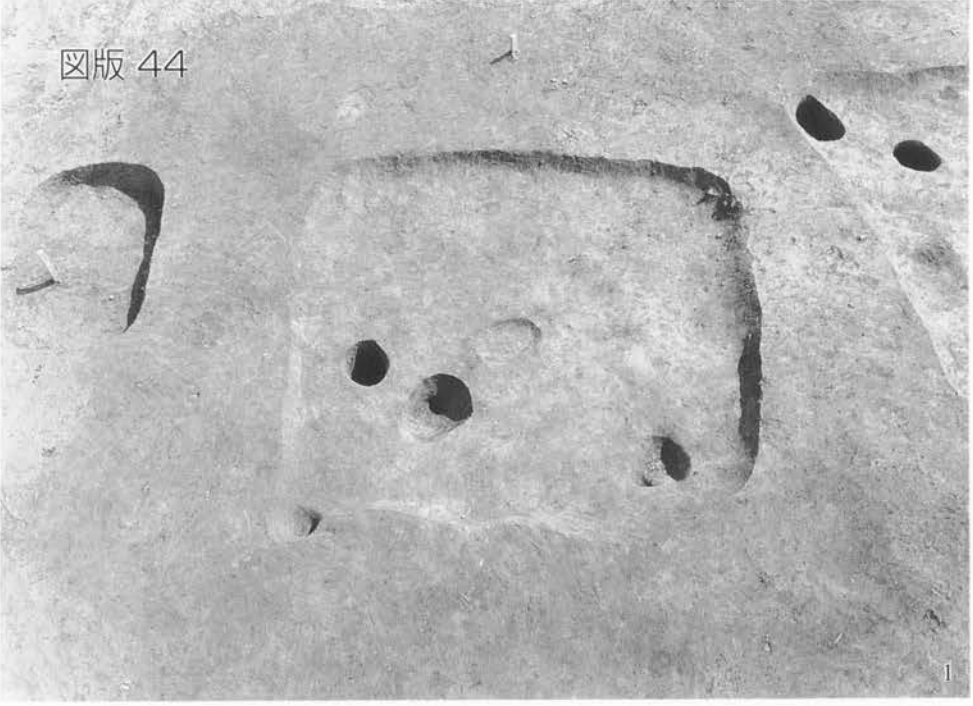
カマド

2．SB237遺物出土状況（南東→）

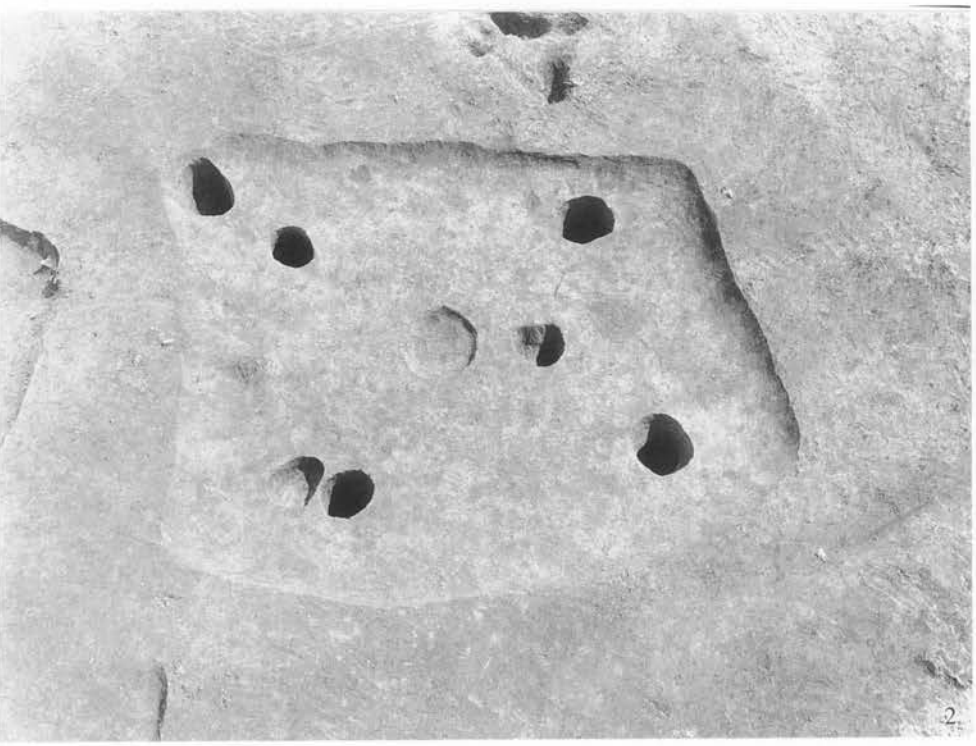


3．SB237完掘（南東→）





1．SB240完掘（北西→）

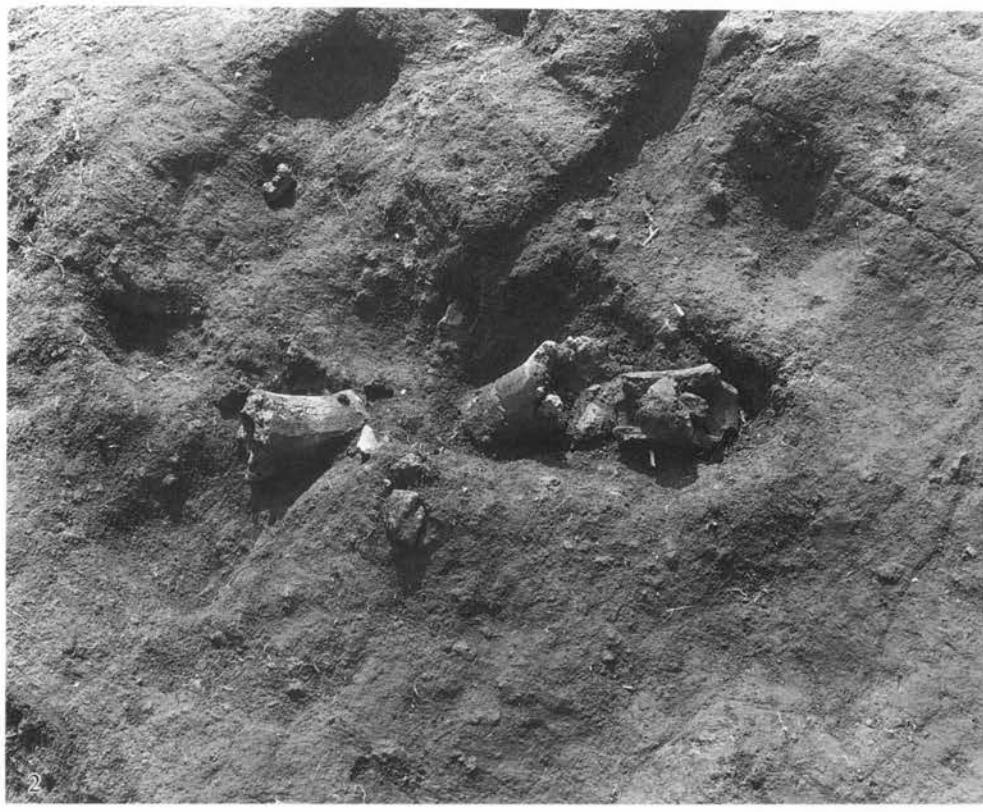


2．SB242完掘（西→）

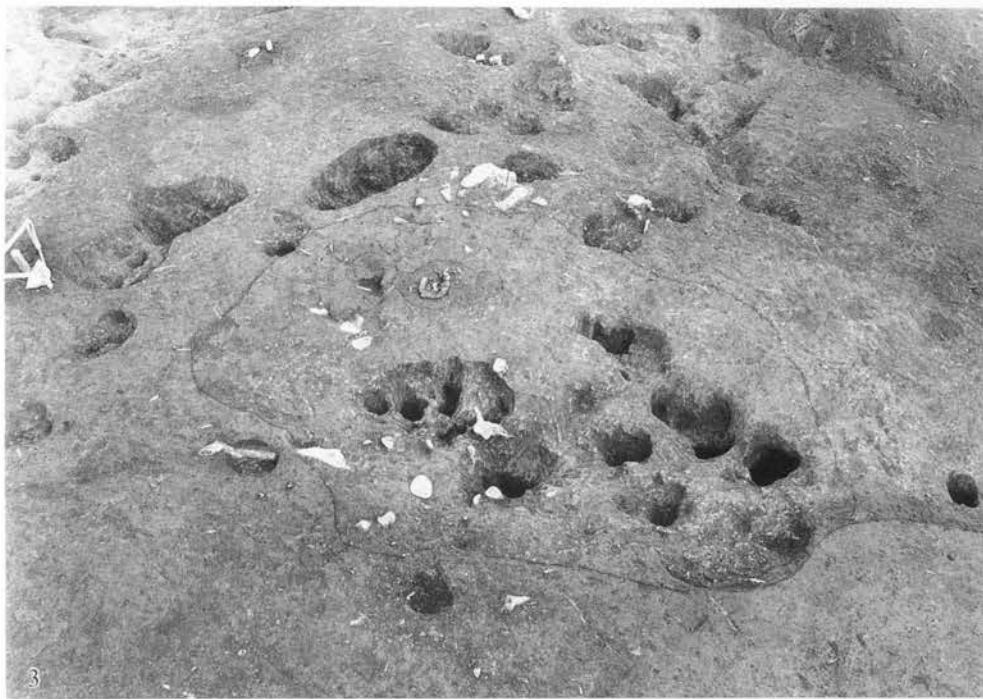
3．SK609遺物出土状況（西→）

1．SK609完掘（西→）

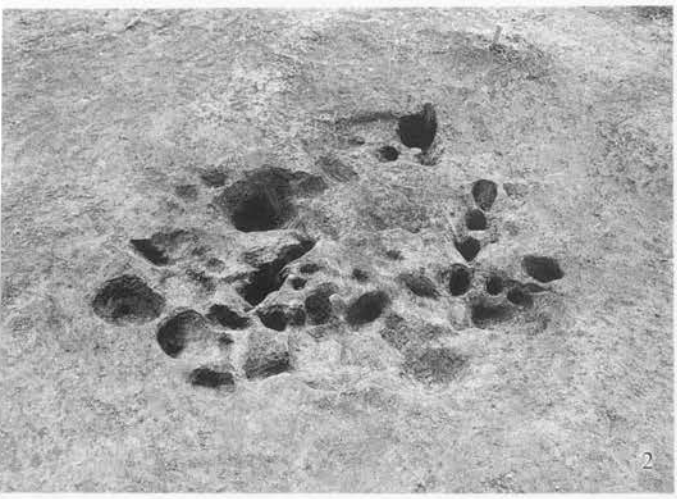
2．SK609炉内羽口出土状況（北→）

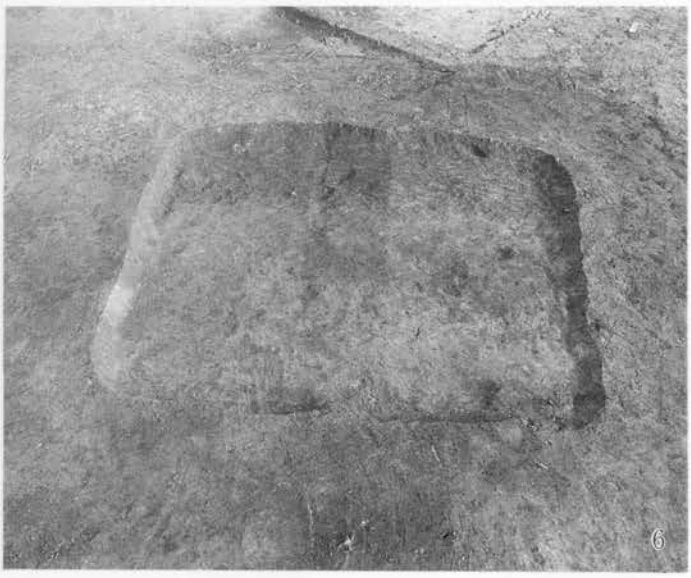


3．SX013完掘（南→）



1. SX013炉（南→）

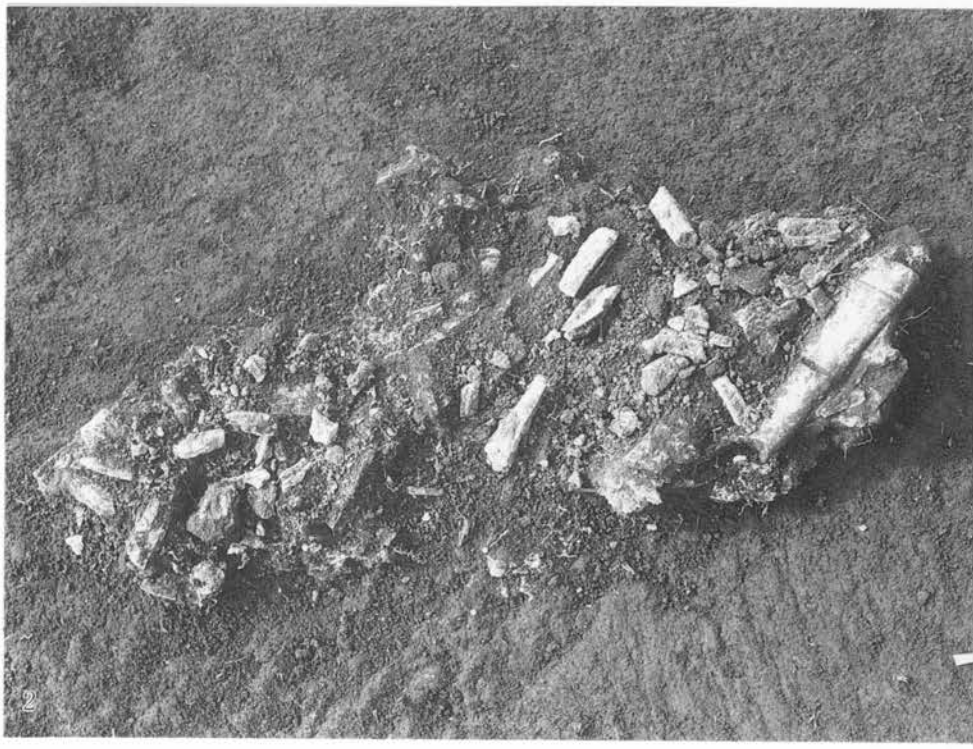




2. SX010完掘（東→）
3. SX011完掘（南→）
4. SX014完掘（南→）
5. SK870完掘（北→）
6. SK871完掘（南→）

1．SK181土壙墓
遺物出土状況（南東→）

2．SK604火葬墓
人骨検出状況（東→）



3．SK613火葬墓
人骨検出状況（南→）

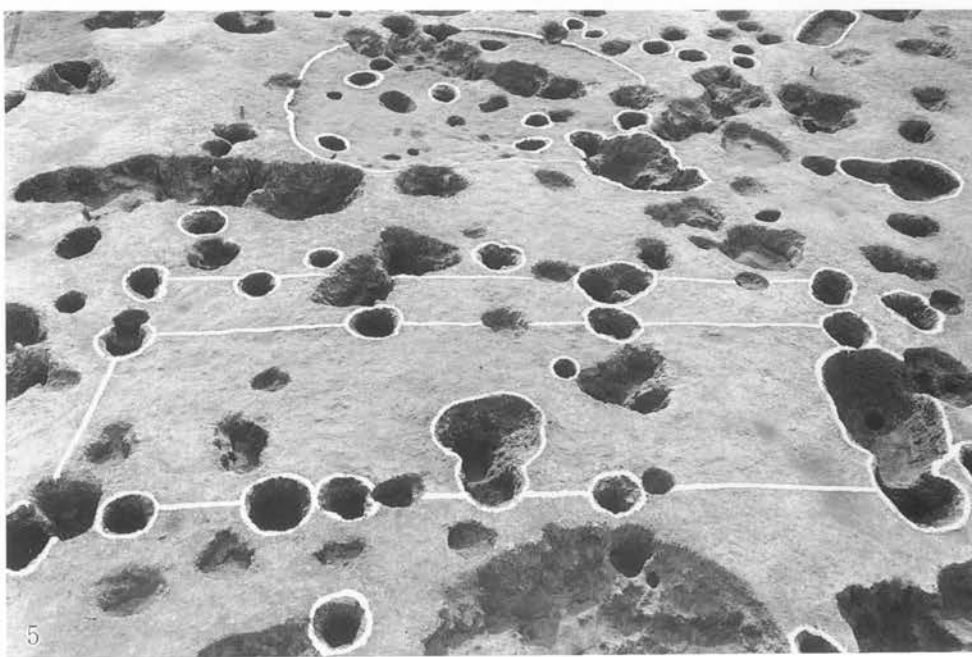
1．中世西側整地面（南西→）

2．中世中央整地面（西→）

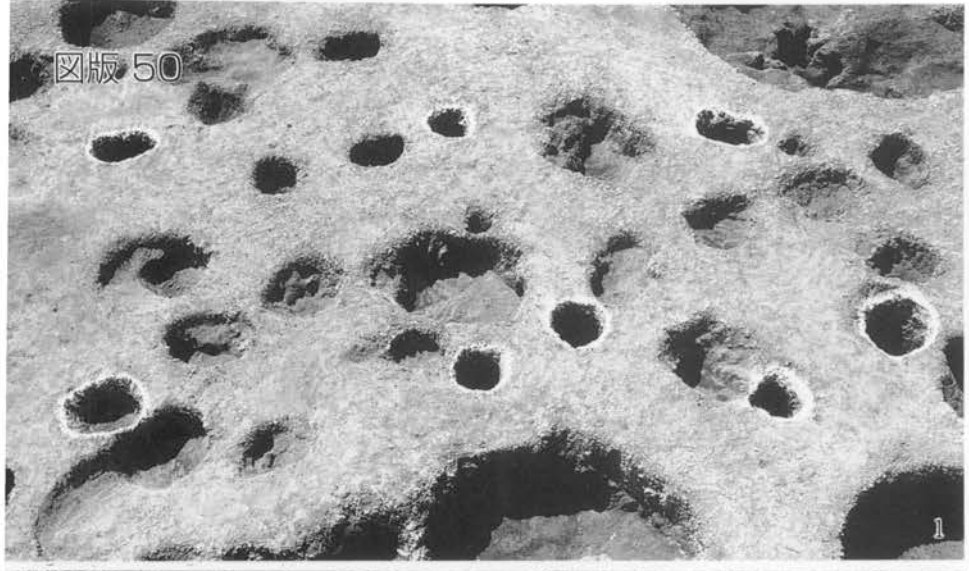
3．中世東側整地面（南西→）

1．SK622 火葬墓完掘　（北→）
2．SK619 地下式壙完掘（北→）
3．SK621 地下式壙完掘（西→）

4．中世ピット群全景（東→）



5．SI001掘立柱建物跡完掘（東→）



1．SI002掘立柱建物跡完掘（北→）

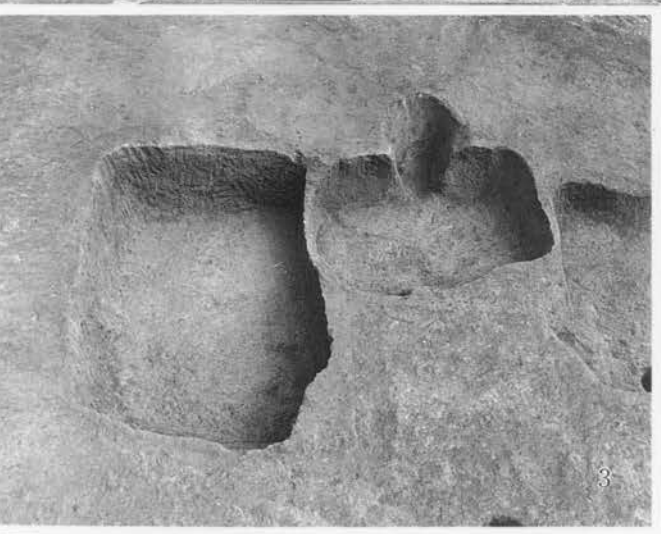
2．SI003柵列遺構完掘（北→）

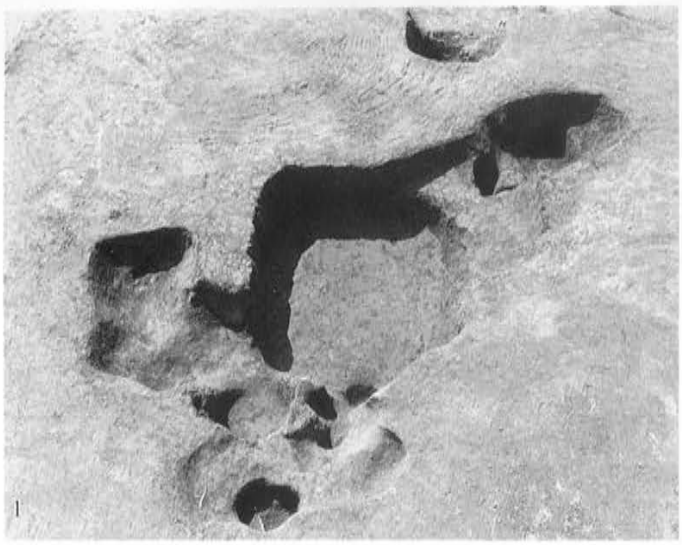
3．SK614・615完掘（南西→）

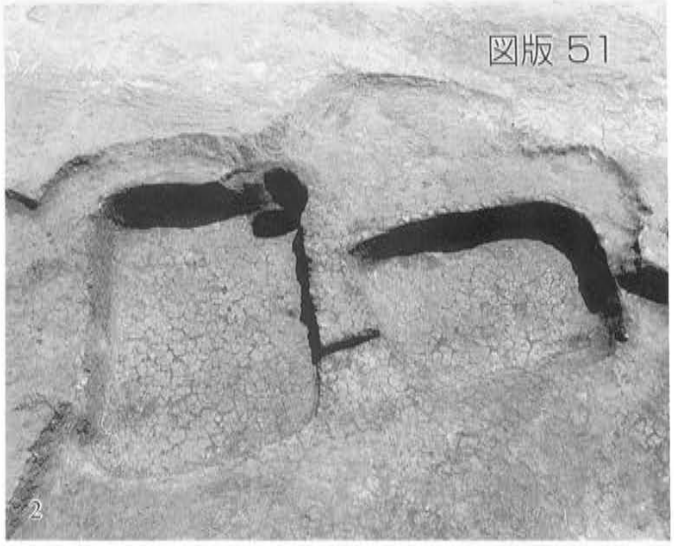
4．SK616 完掘（南西→）

5．SK620完掘（北→）

6．SK624完掘（北西→）



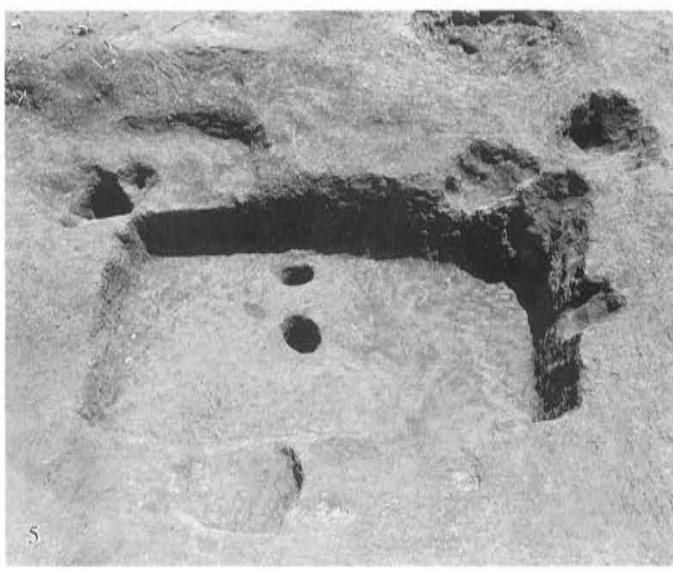




1．SK625完掘（南東→）

2．SK629・630完掘（北→）

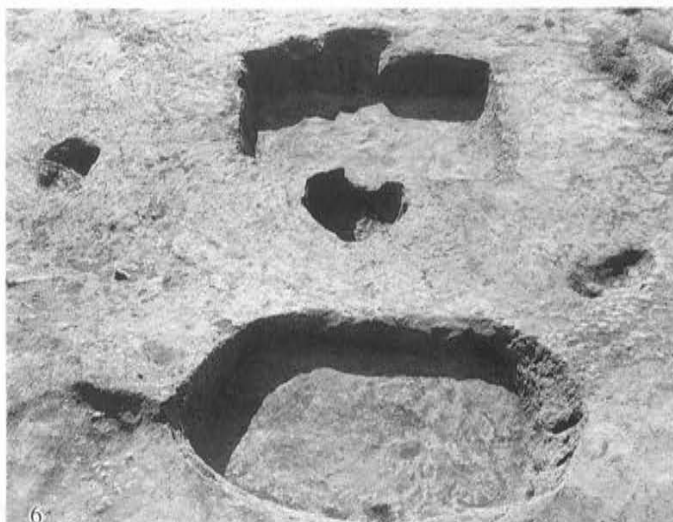
3．SK633完掘（北→）



4．SK634・635完掘（東→）

5．SK636完掘（西→）

6．SK637完掘（東→）



1．SK650完掘（北東→）
2．SX008完掘（東→）
3．SX009完掘（北→）
4．SX012完掘（北→）

5．近世陥穴状遺構完掘（北西→）

SB003　1

SB003　3

SB003　4

SB003　6

SB005　1

SB006　1

SB006　3

SB006　4

SB006　6

SB006　7

SB007　2

SB007　4

SB008　1

SB008　2

SB008　4

SB008　5

SB008　6

SB008　8

SB008　9

SB008　15

SB008　17

SB008　18

SB008　19

SB008　20

SB008　21

SB008　25

SB008　26

SB008　35

SB016　1

SB016　3

SB016　5

SB016　6

SB016　7

SB008～SB016　出土遺物

SB016　8

SB016　9

SB016　11

SB016　12

SB016　15

SB016　13

SB016　14

SB020　1

SB020　2

SB020　3

SB020　4

SB020　6

SB020　8

SB020　10

SB020　11

SB020　13

SB016～SB020　出土遺物

SB020　14

SB021B　1

SB022　4

SB023A　1

SB023B　2

SB023B　1

SB023B　5

SB023B　7

SB023B　8

SB023C　1

SB023C　2

SB023C　5

SB023C　7

SB023C　8

SB023C　10

SB020～SB023C　出土遺物

SB023D　2

SB024　10

SB024　1

SB024　11

SB024　2

SB027　2

SB027　5

SB024　3

SB028　3

SB027　4

SB028　6

SB024　9

SB029　2

SB024　16

SB028　7

SB029　3

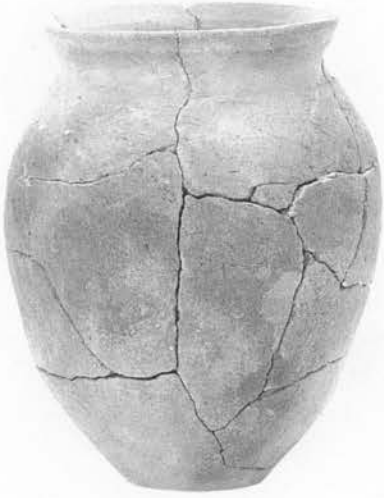
SB029　4

SB023D～SB029　出土遺物

SB029　5

SB029　6

SB029　8



SB029　9

SB029　10

SB029　11

SB030　1

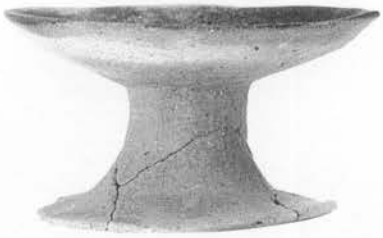
SB030　2

SB030　3

SB030　4

SB030　5

SB030　8



SB030　9

SB030　10

SB030　11

SB030　12

SB030　13

SB029～SB030　出土遺物

SB030　17

SB030　21

SB033　3

SB030　18

SB030　22

SB033　4

SB030　23

SB034　2

SB030　19

SB035　4

SB033　1

SB035　5

SB032　1

SB033　2

SB035　12

SB030～SB035　出土遺物

SB038　8

SB039　5

SB039　8

SB039　12

SB038　9

SB039　9

SB039　13

SB039　1

SB039　10

SB039　2

SB039　14

SB039　3

SB039　19

SB039　4

SB040　2

SB038～SB040　出土遺物

SB039　18

SB040　3

SB042　2

SB043　1

SB043　5

SB043　8

SB043　10

SB044　1

SB044　3

SB044　5

SB044　6

SB044　9

SB044　8

SB045　1

SB046　1

SB046　4

SB046　5

SB046　6

SB046　7

SB046　8

SB046　20

SB046　18

SB046　9

SB046　21

SB046　23

SB046　13

SB046　14

SB046　22

SB046　24

SB046　15

SB046　16

SB046　25

SB046　26

SB046　17

SB046　出土遺物

SB046　27

SB050　4

SB050　8

SB050　9

SB050　10

SB050　11

SB050　12

SB050　13

SB050　1

SB050　14

SB050　15

SB050　16

SB050　18

SB050　19

SB050　22

SB050　23

SB050　24

SB050　25

SB050　26

SB075　1

SB101　1

SB103　2

SB105　1

SB105　4

SB105　8

SB050～SB105　出土遺物

SB105　7

SB106　1

SB106　3

SB108　1

SB108　3

SB108　6

SB108　5

SB111　1

SB129　1

SB129　2

SB129　3

SB134　1

SB134　2

SB138　1

SB144　1

SB146　1

SB146　3

SB105～SB146　出土遺物

SB148

SB148　2

SB148　3

SB148　5

SB148　6

SB148　7

SB148　8

SB148　9

SB148　10

SB148　11

SB148　12

SB148　16

SB148　15

SB148　17

SB150　1

SB150　2

SB150　3

SB150　4

SB148～SB150　出土遺物

SB150　5

SB150　6

SB150　7

SB150　8

SB150　10

SB153　1

SB150　11

SB154　1

SB154　2

SB154　6

SB154　7

SB154　9

SB158　1

SB158　2

SB158　4

SB159　2

SB159　3

SB150～SB159　出土遺物

SB161　3

SB165　7

SB166　8

SB166　9

SB168　1

SB168　2

SB169　2

SB169　12

SB170　2

SB169　16

SB170　3

SB171　1

SB171　2

SB171　3

SB161～SB171　出土遺物

SB171　5

SB171　4

SB183　4

SB171　8

SB171　10

SB189　3

SB183　1

SB202　3

SB171　9

SB183　2

SB214　1

SB183　3

SB171　11

SB217　2

SB171～SB217　出土遺物

SB217　11

SB217　12

SB218　1

SB219　1

SB219　2

SB219　3

SB220　3

SB220　4

SB221　1

SB221　2

SB221　3

SB221　9

SB221　10

SB222　4

SB217～SB222　出土遺物

SB223　1

SB223　2

SB223　3

SB223　13

SB223　14

SB223　4

SB224　1

SB227　1

SB228　1

SB228　4

SB229　1

SB229　2

SB229　3

SB229　4

SB229　5

SB229　7

SB229　10

SB230　4

SB230　8

SB230　11

SB230　12

SB230　13

SB232　1

SB232　2

SB230　14

SB232　4

SB234　1

SB234　2

SB234　3

SB234　4

SB234　7

SB235　1

SB230～SB235　出土遺物

SB234　8

SB237　2

SB237　5

SB237　6

SB240　1

SB237　7

SB237　8

SB237　9

SD003　3

SB242　1

SX013　1

（遺構外出土遺物）

1

3

9

22

（手捏土器①）

21

1

13

23

2

14

3

17

29

6

7

18

44

8

21

（手捏土器②）

19

24

25

26

29

31

32

（羽　口）

SK609　1

SK609　2

SK609　3

H6-33　4

（その他の遺物①）

1

2

3

4

5

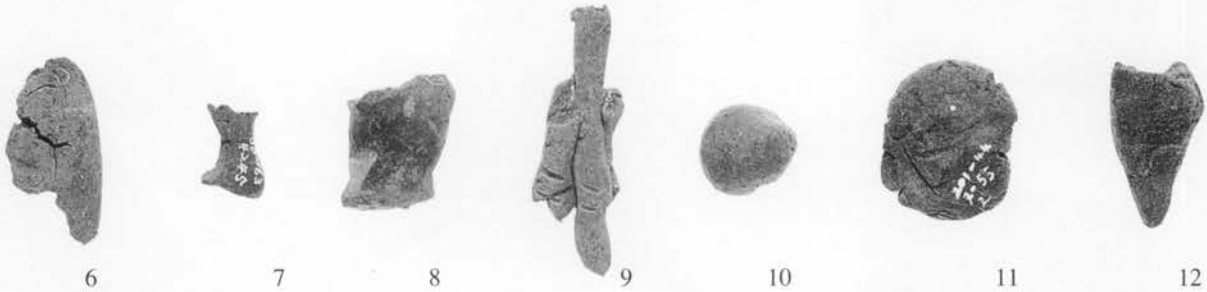
手捏土器②・羽口・その他の遺物①

（その他の遺物②）

6　7　8　9　10

（土製品）

1　2　3　4　5

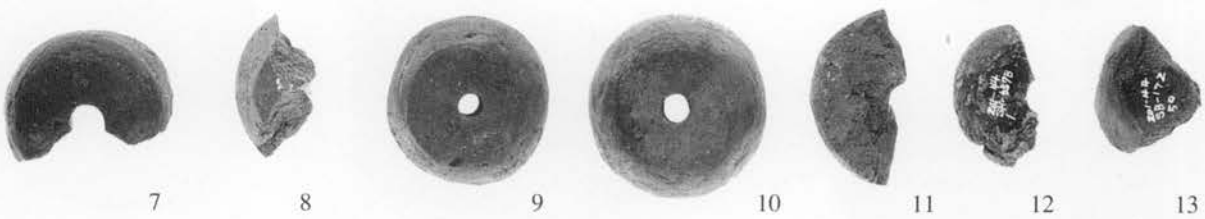


6　7　8　9　10　11　12

13　14　15　16

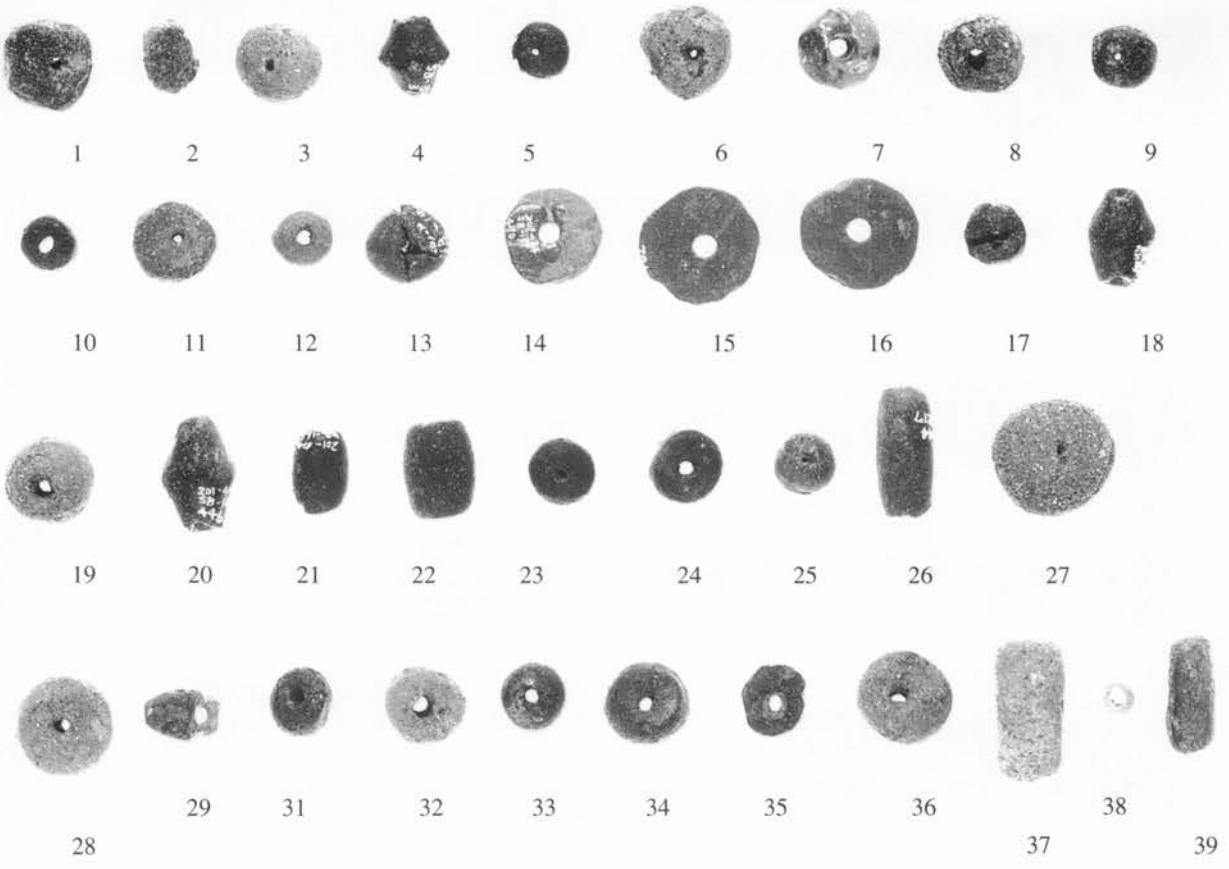
（紡錘車）

1　2　3　4　5　6



7　8　9　10　11　12　13

（玉　類）



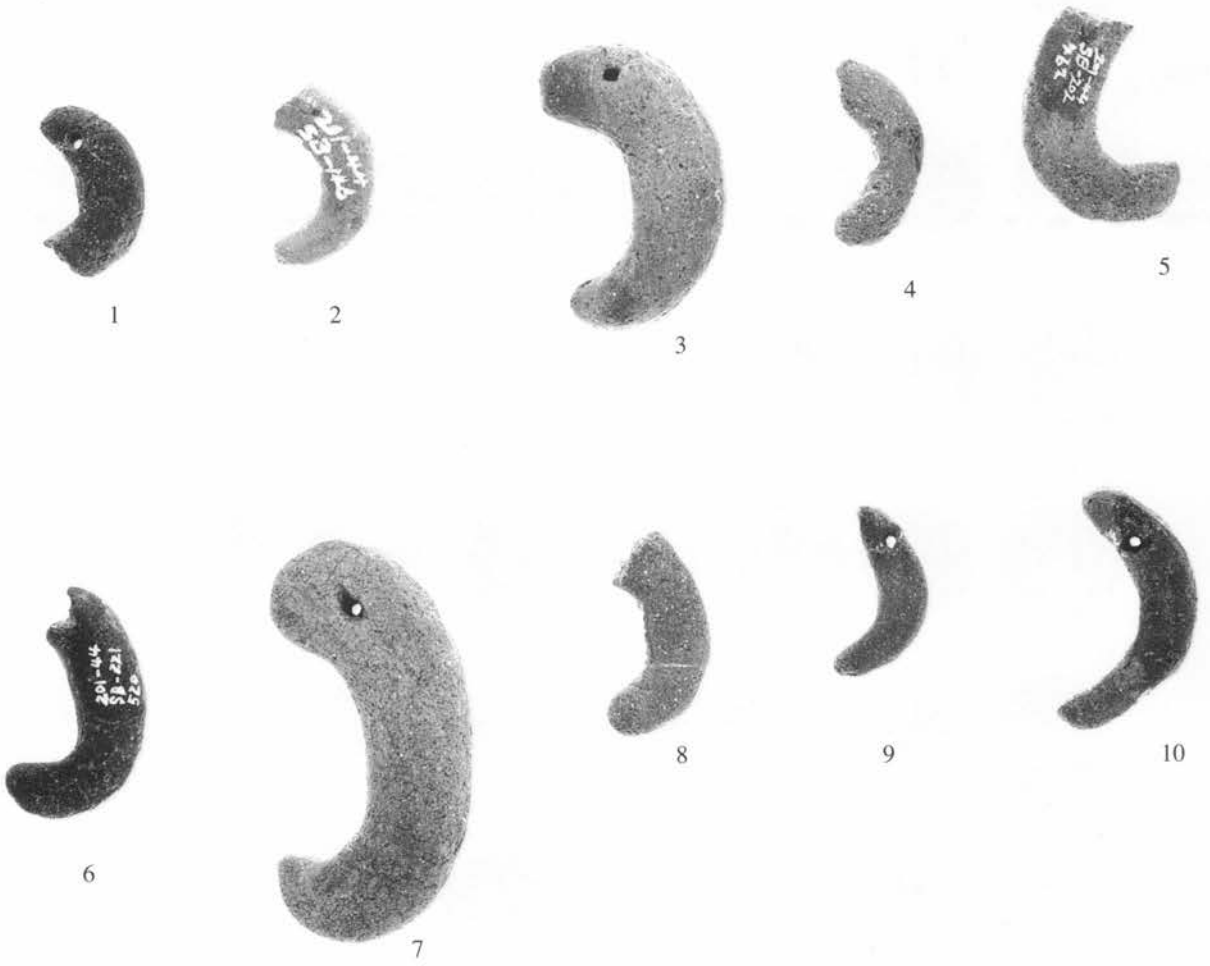
1　2　3　4　5　6　7　8　9

10　11　12　13　14　15　16　17　18

19　20　21　22　23　24　25　26　27

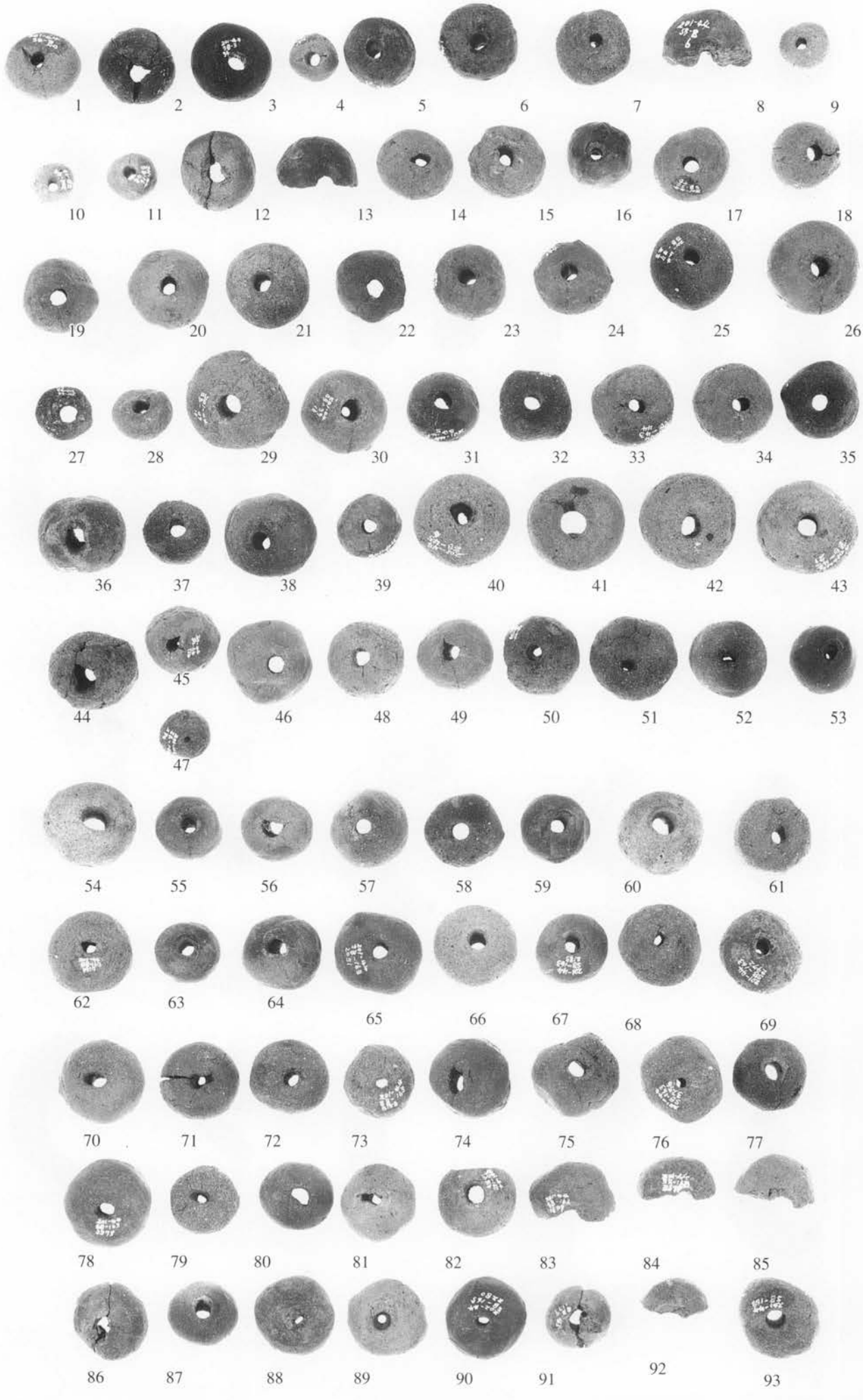
28　29　31　32　33　34　35　36　37　38　39

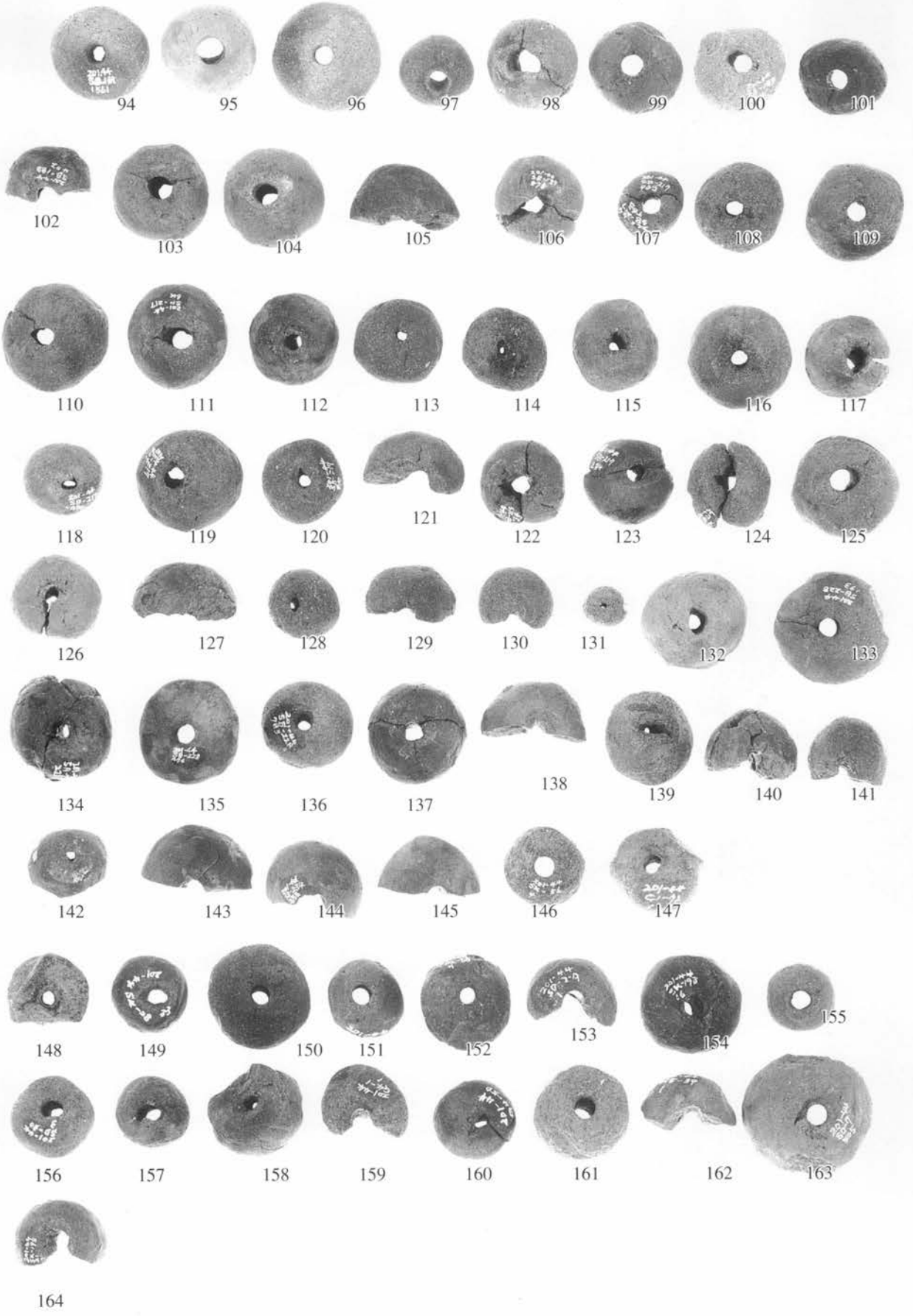
（勾　玉）



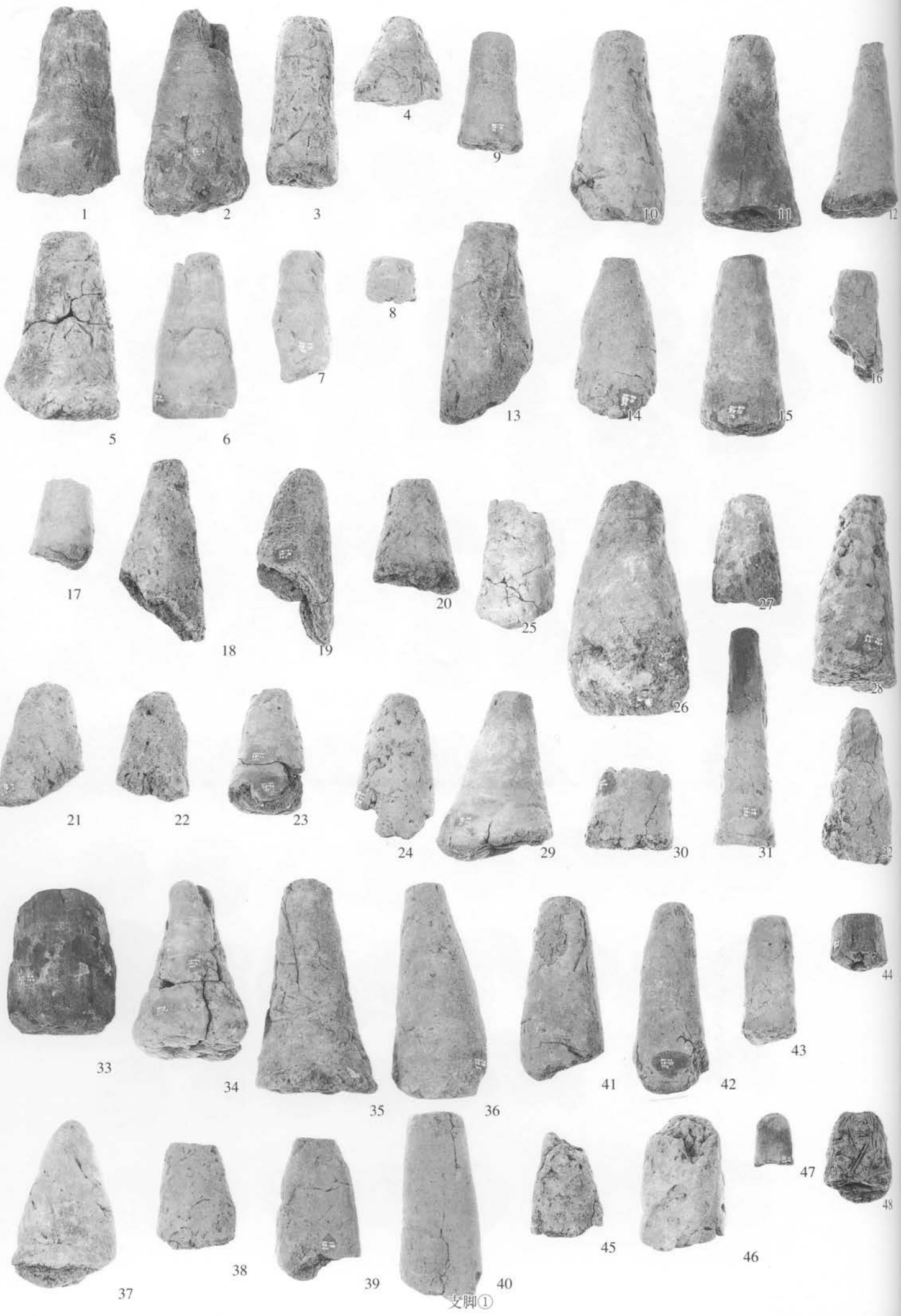
1　2　3　4　5

6　7　8　9　10

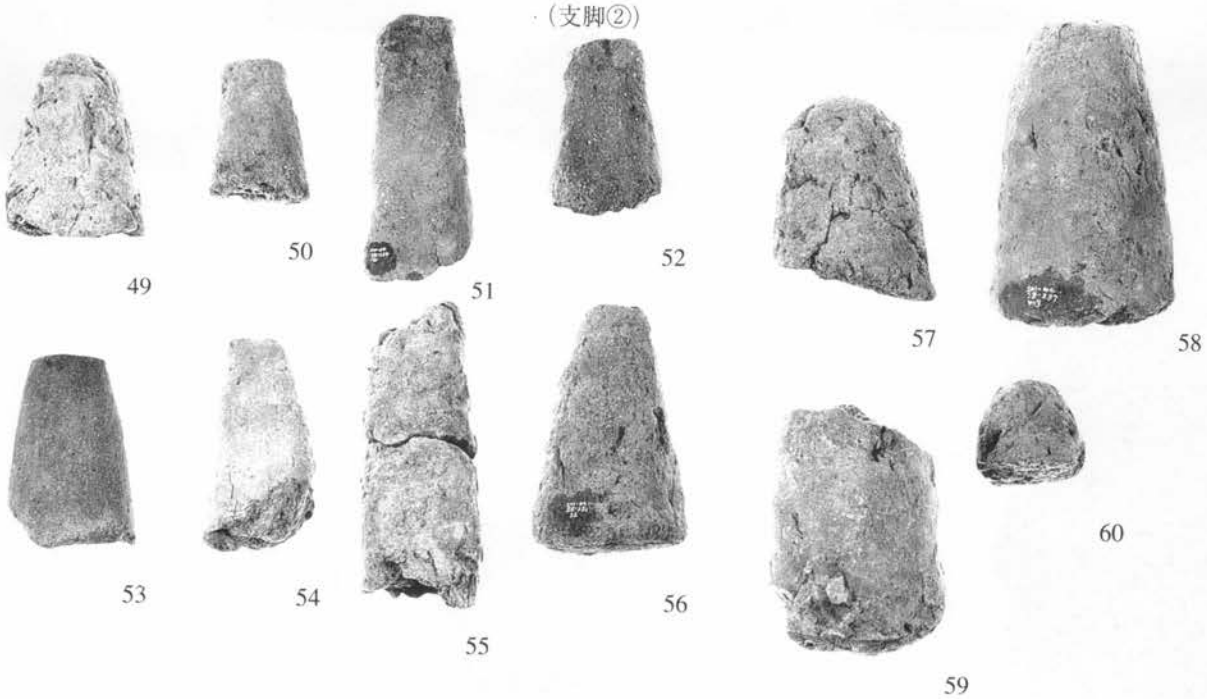

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93


94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164

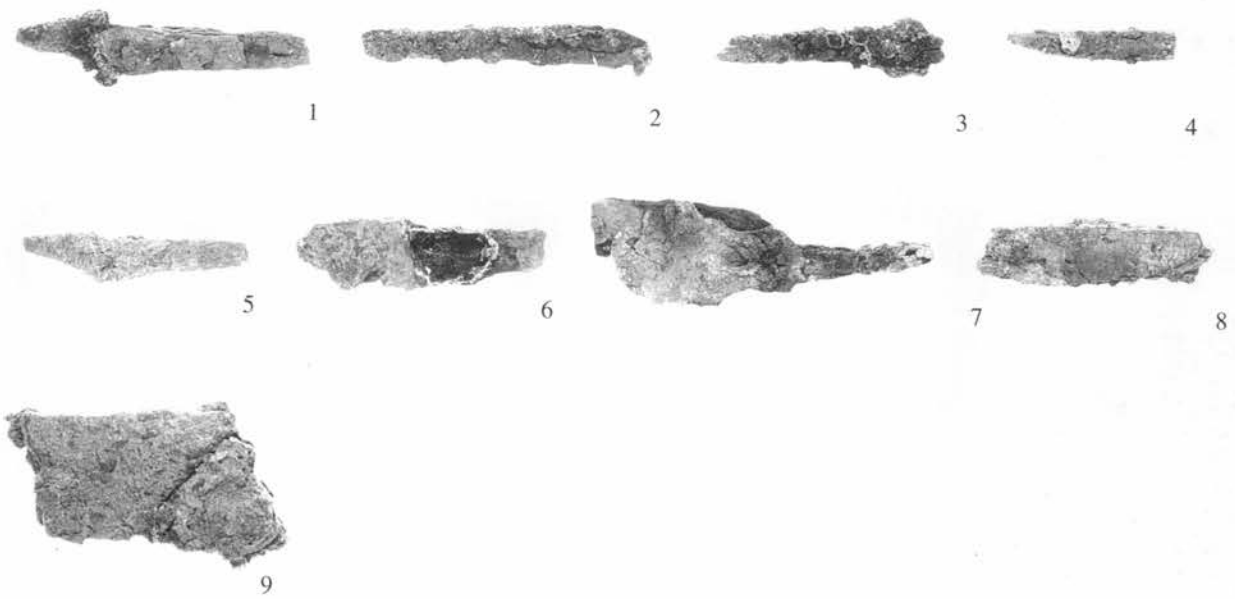
図版 80


1
2
3
4
9
10
11
12
5
6
7
8
13
14
15
16
17
18
19
20
25
26
27
28
21
22
23
24
29
30
31
32
33
34
35
36
41
42
43
44
37
38
39
40
45
46
47
48

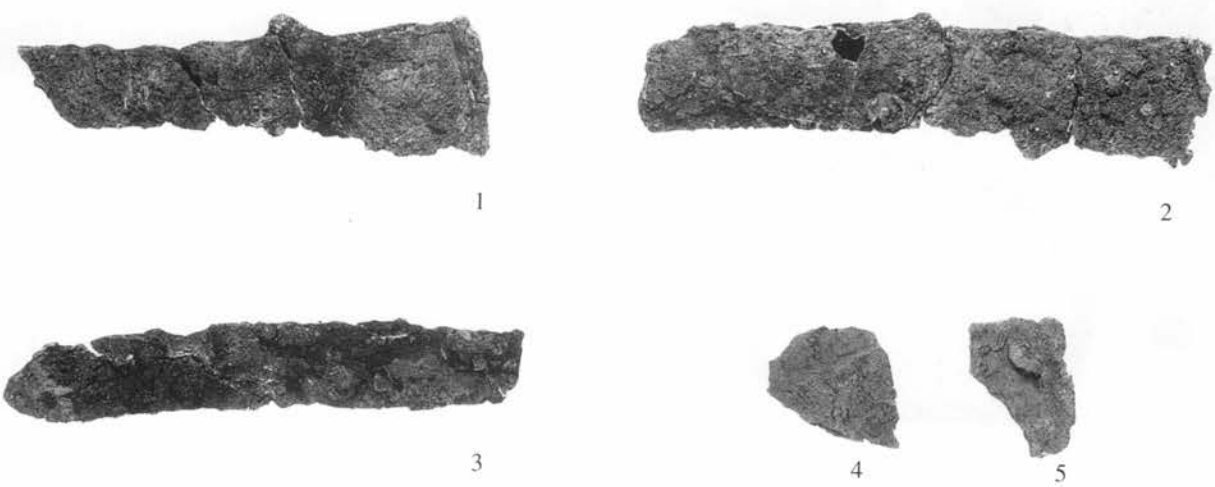
（支脚②）



（刀　子）



（鎌①）



支脚②・刀子・鎌①

(鎌②)

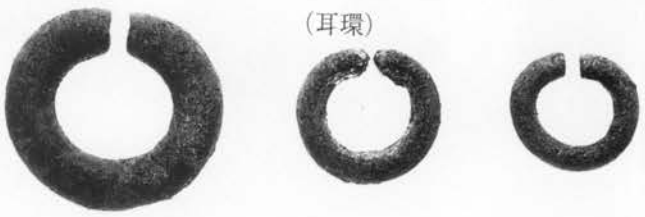
(手鎌)

小札

6

1

(耳環)



1

2

3

(鉄製品)

1

2

3

4

5

(銅製品①)

2

3

4

6

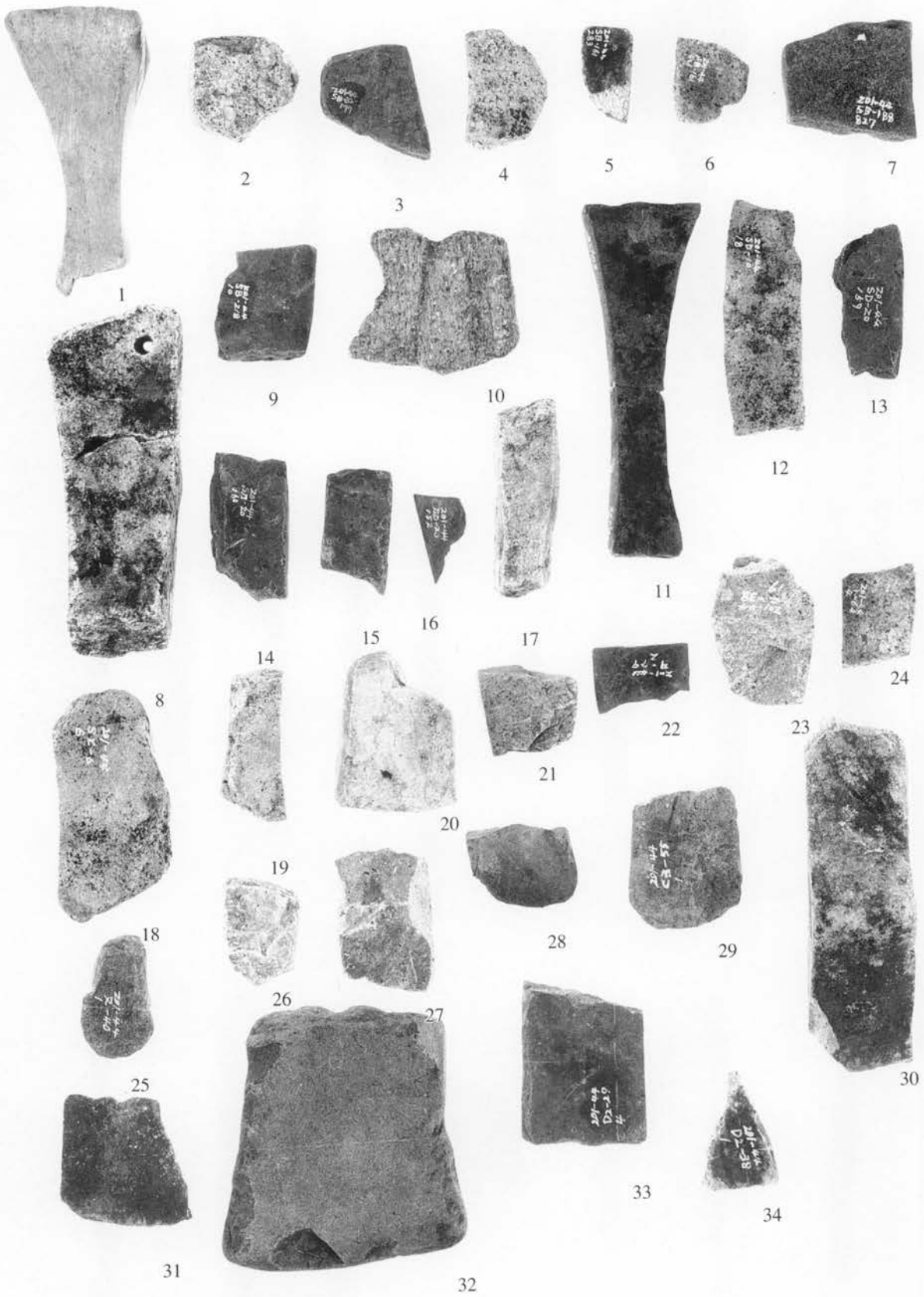
5

6

7

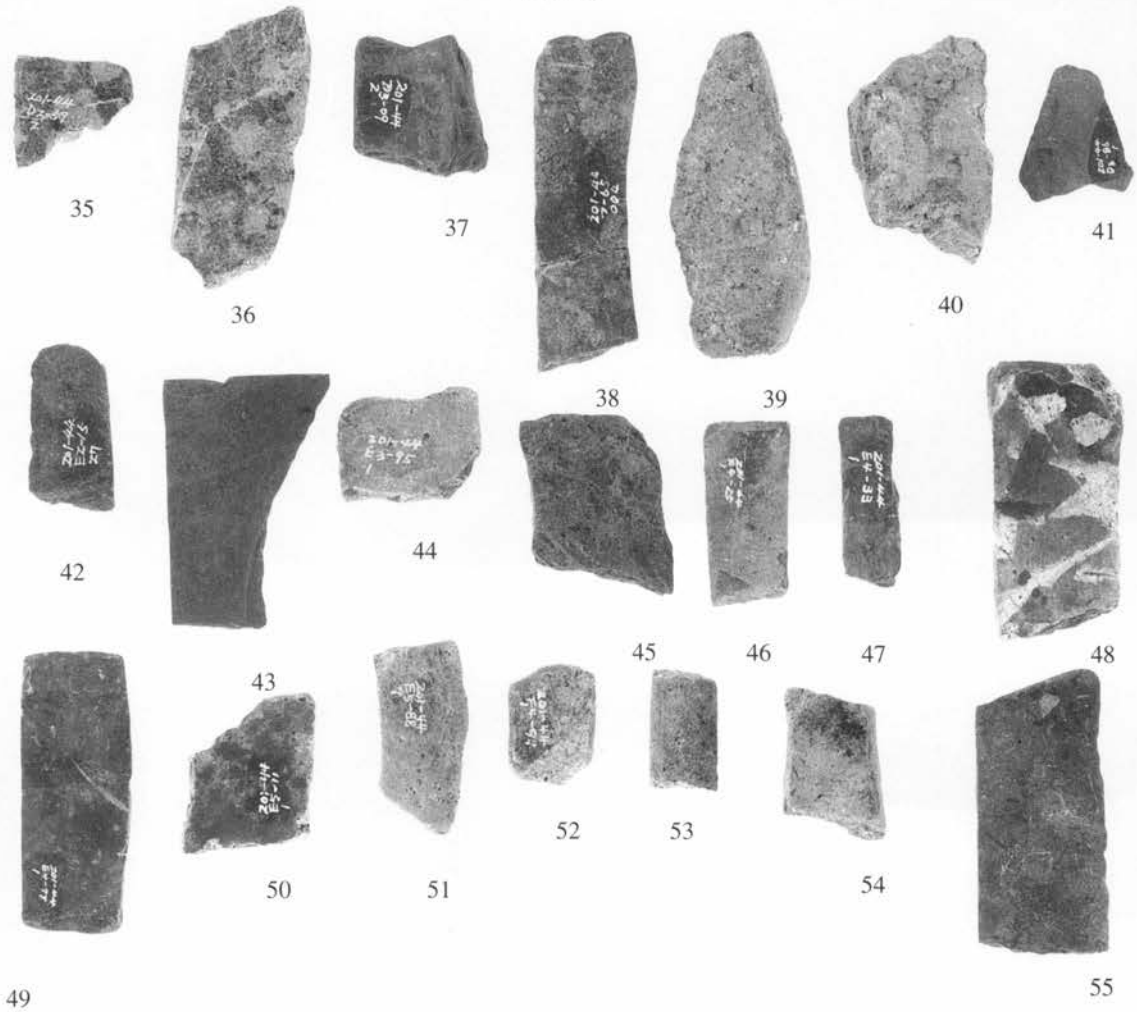
鎌②・手鎌・小札・耳環・鉄製品・銅製品①

鉄鏃


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34

砥石①

（砥石②）



（銅製品②）

砥石②・銅製品②

SK181　1

SK181　2

SK181　3

SK621　1

SK621　2

SK181　4

SK181　5

SD010　1

SD010　3

SK181　6

SD010　4

SD010　6

SD010　7

SD010　8

SK640　1

SX007　1

SX009　1

SX009　2

E1-40　1

E1-31　2

D3-81　3

D4-63　4

E4-17　5

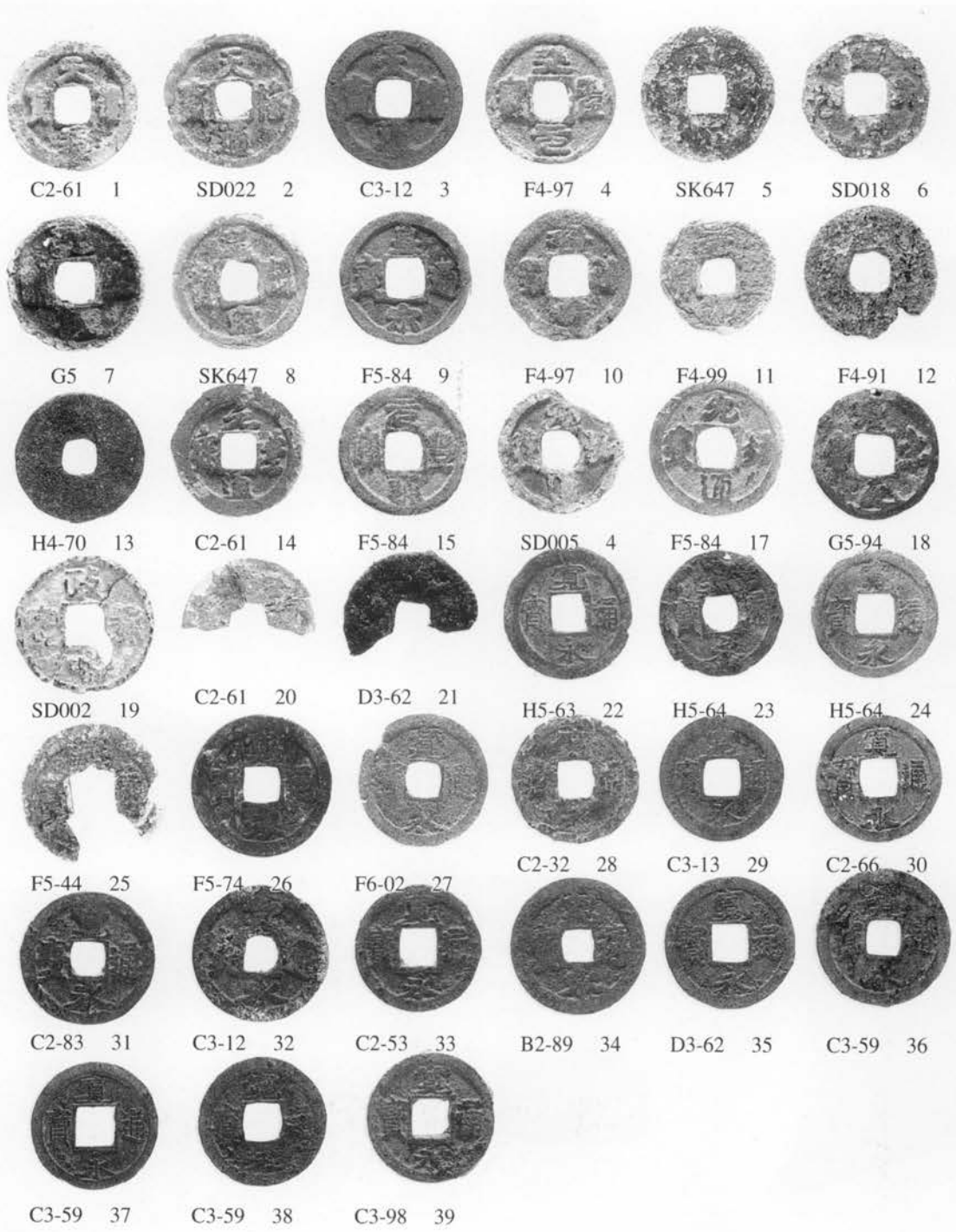
F4-35　6

F6-04　7

F6-04　8

F6-04　9

G6-11　10


C2-61 1
SD022 2
C3-12 3
F4-97 4
SK647 5
SD018 6
G5 7
SK647 8
F5-84 9
F4-97 10
F4-99 11
F4-91 12
H4-70 13
C2-61 14
F5-84 15
SD005 4
F5-84 17
G5-94 18
SD002 19
C2-61 20
D3-62 21
H5-63 22
H5-64 23
H5-64 24
F5-44 25
F5-74 26
F6-02 27
C2-32 28
C3-13 29
C2-66 30
C2-83 31
C3-12 32
C2-53 33
B2-89 34
D3-62 35
C3-59 36
C3-59 37
C3-59 38
C3-98 39

古銭

報告書抄録

ふりがな	ちばとうなんぶにゅーたうん20
書　名	千葉東南部ニュータウン20
副書名	有吉北貝塚２（古墳時代以降）
巻　次	20
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第325集
編著者名	岸本雅人
編集機関	財団法人　千葉県文化財センター
所在地	〒284　千葉県四街道市鹿渡809番地－２
発行年月日	西暦１９９８年３月３１日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
ありよしきたかいづか 有吉北貝塚	ちばけんちばし 千葉県千葉市 みどりくありよしちょう 緑区有吉町 730ほか	201	044	35度 33分 30秒	140度 10分 40秒	19830401～ 19871116	29030m^2	千葉東南部地区土地区画整理事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡		主な遺物	特記事項
有吉北貝塚 （古墳時代以降）	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡	97軒	土師器、須恵器 土製品、石製品 鉄製品、銅製品 羽口、鉄滓、 炭化種子	古墳時代後期の大規模な集落。
			小鍛冶遺構	2基		
			屋外炉跡	6基		
			土坑	2基		
			粘土採掘坑	1か所		
			竪穴遺構	1基		
			溝状遺構	1条		
		奈良・平安時代	竪穴住居跡	5軒		
			火葬墓	1基		
		中世	土壙群			中世の土壙墓から和鏡が出土。
			ピット群			
			竪穴遺構	5基		
			土壙墓	1基		
			火葬墓	3基		
			地下式壙	3基		
			掘立柱建物跡	2棟		
			柵列遺構	1か所		
			溝状遺構	2条		
		近世	陥穴状遺構	9基		
			溝状遺構	14条		
		時期不明	竪穴住居跡	6軒		

千葉県文化財センター調査報告第325集

千葉東南部ニュータウン　20

—有吉北貝塚2（古墳時代以降）—

平成10年3月31日発行

編　集　財団法人　千葉県文化財センター

発　行　住宅・都市整備公団
千葉地域支社
千葉市美浜区中瀬1－3
幕張テクノガーデンD棟19・20階

財団法人　千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809－2

印　刷　株式会社　集賛舎
千葉市中央区弁天町214-1